

IBM

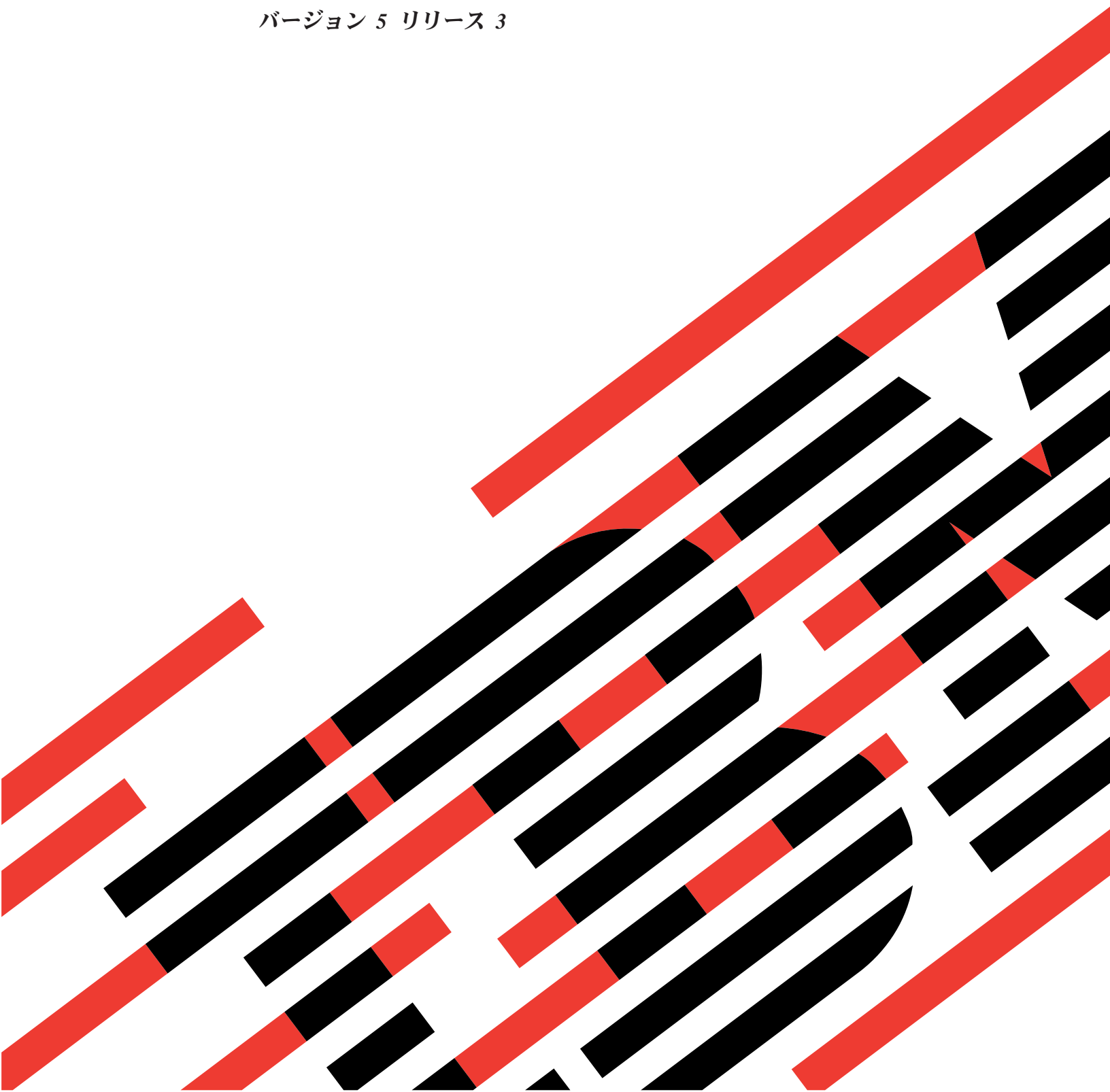
@server

iSeries

OS/400 コマンド

CRTMODD (モード記述作成) ~

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

OS/400 コマンド

CRTMODD (モード記述作成) ~

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、633 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、OS/400 (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
Operating System/400 Commands
Starting with CRTMODD (Create Mode Description)
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

モード記述作成 (CRTMODD) 1

パラメーター	1
モード記述 (MODD)	2
最大セッション (MAXSSN)	2
会話の最大数 (MAXCNV)	2
ローカル制御セッション数 (LCLCTLSSN)	2
事前結合セッション数 (PREESTSSN)	3
最大インバウンド・ペーシング値 (MAXINPAC)	3
インバウンド・ペーシング値 (INPACING)	3
アウトバウンド・ペーシング値 (OUTPACING)	3
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	4
データ圧縮 (DTACPR)	4
インバウンド・データの圧縮 (INDTACPR)	5
アウトバウンド・データの圧縮 (OUTDTACPR)	6
セッション・レベル暗号 (SLE)	6
テキスト記述 (TEXT)	7
サービス・クラス (COS)	7
権限 (AUT)	7
CRTMODDの例	8
エラー・メッセージ: CRTMODD	8

メッセージ・ファイル作成 (CRTMSGF) . . . 9

パラメーター	9
メッセージ・ファイル (MSGF)	9
テキスト記述 (TEXT)	10
ファイル・サイズ (SIZE)	10
権限 (AUT)	11
コード化文字セットID (CCSID)	11
CRTMSGFの例	12
エラー・メッセージ: CRTMSGF	12

MSG ファイルからのメニューの作成 (CRTMSGFMNU) 15

パラメーター	15
メニュー## コマンド・メッセージ・ファイル (CMDTXTMSGF)	16
オプション・テキスト・メッセージ・ファイル (OPTTXTMSGF)	16
メニューの置き換え (REPLACE)	17
自由形式メニュー (FREEFORM)	17
DDSリスト (DDSLLIST)	17
最大装置数 (MAXDEV)	18
権限 (AUT)	18
受取DDSソース・ファイル (TOFILE)	19
受取DDSソース・メンバー (TOMBR)	19
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	19
ターゲット・リリース (TGTRLS)	20
CRTMSGFMNUの例	20
エラー・メッセージ: CRTMSGFMNU	20

メッセージ待ち行列作成 (CRTMSGQ) . . . 23

パラメーター	23
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	24
テキスト記述 (TEXT)	24
補助記憶域への強制書き込み (FORCE)	24
待ち行列サイズ (SIZE)	24
権限 (AUT)	25
警報可能 (ALWALR)	26
コード化文字セットID (CCSID)	26
メッセージ待ち行列満杯時処置 (MSGQFULL)	26
CRTMSGQの例	27
エラー・メッセージ: CRTMSGQ	28

ノード・グループの作成 (CRTNODGRP) 29

パラメーター	29
ノード・グループ(NODGRP)	29
リレーショナル・データベース (RDB)	30
ファイルの区分化(PFNFILE)	30
メンバーの区分化(PFNMBR)	31
テキスト記述 (TEXT)	31
権限 (AUT)	31
CRTNODGRPの例	32
エラー・メッセージ: CRTNODGRP	32

ノード・リストの作成 (CRTNODL) . . . 33

パラメーター	33
ノード・リスト (NODL)	33
テキスト記述 (TEXT)	34
権限 (AUT)	34
CRTNODLの例	34
エラー・メッセージ: CRTNODL	35

NETBIOS記述の作成 (CRTNTBD) 37

パラメーター	37
NETBIOS記述 (NTBD)	38
テキスト記述 (TEXT)	38
フル・バッファ・データグラム (FULLBUFDTG)	38
最適ウィンドウ間隔 (ADPWDWITV)	38
最大ウィンドウ・エラー (MAXWDWERR)	39
最大受信データ・サイズ (MAXRCVDATA)	39
非活動タイマー (INACTTMR)	39
応答タイマー (RSPTMR)	39
肯定応答タイマー (ACKTMR)	40
最大未処理受信 (MAXIN)	40
最大未処理送信 (MAXOUT)	40
QUERYタイムアウト (QRYTMR)	40
NETBIOS再試行 (NTBRTY)	40
複数肯定応答可能 (ALWMULTACK)	41
メッセージ・パケット事前作成 (PREBLTPKT)	41
パケット再始動の確認 (PKTRESTART)	41
DLC再試行 (DLCRTY)	41

イーサネット標準 (ETHSTD)	42
権限 (AUT)	42
CRTNTBDの例	43
エラー・メッセージ: CRTNTBD	43

NETWAREボリュームの作成

(CRTNTWVOL)	45
パラメーター	45
ボリューム (VOL)	46
サーバー (SERVER)	46
ボリュームのサイズ (SIZE)	46
装置番号 (DEVNBR)	46
セグメント番号 (SEGNBR)	46
ブロック・サイズ (BLKSIZE)	47
データ圧縮 (DTACPR)	47
ブロックのサブ割り振り (BLKSUBALC)	47
取り付け (MOUNT)	47
テキスト (TEXT)	48
CRTNTWVOLの例	48
エラー・メッセージ: CRTNTWVOL	48

ネットワーク・インターフェースの作成

(FR) (CRTNWIFR)	49
パラメーター	49
ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)	50
資源名 (RSRCNAME)	50
IPL時のオンライン (ONLINE)	50
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	50
データ・リンク接続ID (DLCI)	51
NRZIデータ・エンコード (NRZI)	51
物理インターフェース (INTERFACE)	51
刻時 (CLOCK)	52
回線速度 (LINESPEED)	52
LMIモード (LMIMODE)	53
ポーリング間隔 (POLLITV)	53
全面照会間隔 (FULLINQITV)	54
テキスト記述 (TEXT)	54
回復限界 (CMNRCYLMT)	54
権限 (AUT)	55
CRTNWIFRの例	55
エラー・メッセージ: CRTNWIFR	56

ネットワーク・サーバー記述の作成

(CRTNWS)	57
パラメーター	57
ネットワーク・サーバー 記述 (NWS)	59
資源名 (RSRCNAME)	59
ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)	60
IPL時のオンライン (ONLINE)	60
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	60
シャットダウン・タイムアウト (SHUTDTIMO)	61
区画 (PARTITION)	61
区画番号 (PTNNBR)	61
ドメインの役割 (DMNROLE)	62
ドメイン・ユーザーの伝搬 (PRPDMNUSR)	62

言語バージョン (LNGVER)	62
コード・ページ (CODEPAGE)	64
サーバー・メッセージ待ち行列 (MSGQ)	65
事象ログ (EVTLOG)	66
構成ファイル (CFGFILE)	66
サーバー記憶スペースのサイズ (SVRSTGSIZE)	67
サーバー記憶スペースASP (SVRSTGASP)	67
サーバー記憶域ASP装置 (STGASPDEV)	68
TCP/IPポート構成 (TCPPORTCFG)	68
TCP/IP経路構成 (TCPROUTE)	70
TCP/IPローカル・ホスト名 (TCPHOSTNAM)	72
TCP/IPローカル・ドメイン名 (TCPDMNNAME)	72
TCP/IP ネーム・サーバー・システム (TCPNAMSVR)	73
ポート (PORTS)	74
制約された装置資源 (RSTDDEVRSRC)	75
日付および時刻の同期化 (SYNCTIME)	76
IPLソース (IPLSRC)	76
IPLストリーム・ファイル (IPLSTMF)	77
IPLパラメーター (IPLPARM)	77
電源制御 (PWRCTL)	77
権限 (AUT)	78
テキスト記述 (TEXT)	78
CRTNWSの例	79
エラー・メッセージ: CRTNWS	79

NWS記憶スペースの作成 (CRTNWSSTG) 81

パラメーター	81
ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)	81
サイズ (NWSSIZE)	82
開始記憶スペース (FROMNWSSTG)	82
形式 (FORMAT)	82
補助記憶域プールID (ASP)	83
ASP装置 (ASPDEV)	84
クラスター・ドメイン名 (CLUDMN)	84
クラスター・ポート構成 (CLUPORTCFG)	84
テキスト記述 (TEXT)	85
CRTNWSSTGの例	85
エラー・メッセージ: CRTNWSSTG	85

出力待ち行列作成 (CRTOUTQ) 87

パラメーター	87
出力待ち行列 (OUTQ)	89
スプール・ファイル最大サイズ (MAXPAGES)	89
待ち行列上のファイルの順序 (SEQ)	90
リモート・システム (RMTSYS)	90
リモート印刷装置待ち行列 (RMTPRQ)	91
自動開始する書出プログラム (AUTOSTRWTR)	91
書出プログラムMSG用待ち行列 (MSGQ)	92
接続タイプ (CNNTYPE)	92
宛先タイプ (DESTTYPE)	92
SCSからASCIIへの変換 (TRANSFORM)	93
データ変換プログラム (USRDTATFM)	93
製造タイプおよび型式 (MFRTYPMDL)	94
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	102
イメージ構成 (IMGCFG)	103

IPアドレス (INTNETADR)	106
VM/MVSクラス (CLASS)	107
用紙制御バッファ (FCB)	107
宛先オプション (DESTOPT)	107
区切りページの印刷 (SEPPAGE)	108
ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)	108
ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)	108
ユーザー定義ドライバ・プログラム (USRDRVPGM)	110
スプール・ファイルASP (SPLFASP)	110
テキスト'記述' (TEXT)	110
ファイルの表示 (DSPDTA)	111
ジョブ区切り (JOBSEP)	111
操作員制御 (OPRCTL)	111
データ待ち行列名 (DTAQ)	112
検査権限 (AUTCHK)	112
権限(AUT)	113
CRTOUTQの例	113
エラー・メッセージ: CRTOUTQ	114

オーバーレイの作成 (CRTOVL) 117

パラメーター	117
オーバーレイ (OVL)	117
ソース・ファイル (FILE)	118
ソース・ファイル・メンバー (MBR)	118
データ・タイプ (DATATYPE)	118
テキスト'記述' (TEXT)	119
オーバーレイの置き換え (REPLACE)	119
権限 (AUT)	119
CRTOVLの例	120
エラー・メッセージ: CRTOVL	120

ページ定義の作成 (CRTPAGDFN) 123

パラメーター	123
ページ定義 (PAGDFN)	123
ファイル (FILE)	124
メンバー (MBR)	124
テキスト'記述' (TEXT)	124
ページ定義の置き換え (REPLACE)	125
権限 (AUT)	125
CRTPAGDFNの例	126
エラー・メッセージ: CRTPAGDFN	126

**ページ・セグメントの作成
(CRTPAGSEG) 129**

パラメーター	129
ページ・セグメント (PAGSEG)	129
ソース・ファイル (FILE)	130
ソース・ファイル・メンバー (MBR)	130
テキスト'記述' (TEXT)	130
ページ・セグメントの置き換え (REPLACE)	131
権限 (AUT)	131
CRTPAGSEGの例	132
エラー・メッセージ: CRTPAGSEG	132

印刷記述子グループ作成 (CRTPDG) 135

パラメーター	135
記述子グループの印刷 (PDG)	135
テキスト'記述' (TEXT)	136
権限 (AUT)	136
CRTPDGの例	137
エラー・メッセージ: CRTPDG	137

PEXデータ作成 (CRTPEXDTA) 139

パラメーター	139
FROM収集 (FROMMGTCOL)	140
TOメンバー (TOMBR)	140
TOライブラリー (TOLIB)	140
スレッドの数 (NBRTHD)	141
データの置き換え (RPLDTA)	141
テキスト'記述' (TEXT)	141
CRTPEXDTAの例	141
エラー・メッセージ: CRTPEXDTA	142

物理ファイル作成 (CRTPF) 143

パラメーター	143
ファイル (FILE)	145
ソース・ファイル (SRCFILE)	145
ソース・メンバー(SRCMBR)	145
レコード長 (RCDLEN)	146
生成重大度レベル (GENLVL)	146
フラグづけ重大度レベル (FLAG)	147
ファイル・タイプ (FILETYPE)	147
メンバー (MBR)	147
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	147
テキスト'記述' (TEXT)	148
ソース・リスト・オプション (OPTION)	148
システム (SYSTEM)	149
メンバーの満了日 (EXPDATE)	150
メンバーの最大数 (MAXMBRS)	150
アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)	150
アクセス・パスの保守 (MAINT)	151
アクセス・パス回復 (RECOVER)	151
強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)	152
メンバー・サイズ (SIZE)	152
記憶域割り振り (ALLOCATE)	153
連続記憶域 (CONTIG)	154
入れたい記憶装置 (UNIT)	154
強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)	154
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	154
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	155
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	155
許される削除レコードの最大% (DLTPCT)	155
削除済みレコードの再使用 (REUSEDLT)	156
分類順序 (SRTSEQ)	156
言語識別コード (LANGID)	157
コード化文字セットID (CCSID)	157
更新操作可能 (ALWUPD)	157
削除操作可能 (ALWDLT)	158
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	158
ノード・グループ (NODGRP)	158
区画キー (PTNKEY)	159

権限 (AUT)	159
CRTPFの例	160
エラー・メッセージ: CRTPF	160

パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) 161

パラメーター	161
FROM収集 (FROMMGTCOL)	162
TOメンバー (TOMBR)	162
TOライブラリー (TOLIB)	162
テキスト'記述' (TEXT)	162
処理カテゴリー (CGY)	163
時間間隔 (分) (INTERVAL)	164
開始日および時刻 (FROMTIME)	164
終了日および時刻 (TOTIME)	165
CRTPFRTAの例	166
エラー・メッセージ: CRTPFRTA	166

プログラムの作成 (CRTPGM) 167

パラメーター	167
プログラム (PGM)	168
モジュール (MODULE)	168
テキスト'記述' (TEXT)	169
プログラム入口プロシージャ・モジュール (ENTMOD)	169
サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)	170
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	171
活動化グループ (ACTGRP)	171
作成オプション (OPTION)	172
明細のリスト (DETAIL)	173
更新可能 (ALWUPD)	173
*SRVPGMライブラリー更新可能 (ALWLIBUPD)	174
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	174
プログラムの置き換え (REPLACE)	174
権限 (AUT)	174
ターゲット・リリース (TGTRLS)	175
再初期設定可能 (ALWRINZ)	176
ストレージ・モデル (STGMDL)	176
プロシージャ間分析 (IPA)	176
IPA制御ファイル (IPACTLFILE)	176
CRTPGMの例	177
エラー・メッセージ: CRTPGM	177

パネル・グループの作成 (CRTPNLGRP) 179

パラメーター	179
パネル・グループ (PNLGRP)	180
ソース・ファイル (SRCFILE)	180
ソース・メンバー (SRCMBR)	180
テキスト'記述' (TEXT)	181
ソース・リスト・オプション (OPTION)	181
組み込みファイル (INCFIL)	182
文字識別コード (CHRID)	182
権限 (AUT)	183
置き換え (REPLACE)	184
CRTPNLGRPの例	184
エラー・メッセージ: CRTPNLGRP	184

印刷装置ファイル作成 (CRTPRTF) 185

パラメーター	185
ファイル (FILE)	190
ソース・ファイル (SRCFILE)	190
ソース・メンバー (SRCMBR)	191
生成重大度レベル (GENLVL)	191
フラグづけ重大度レベル (FLAG)	191
装置 (DEV)	192
印刷装置タイプ (DEVTYPE)	192
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	193
外字 (IGCEXNCHR)	193
テキスト'記述' (TEXT)	193
ソース・リスト・オプション (OPTION)	194
ページ・サイズ (PAGESIZE)	195
行/インチ (LPI)	195
1インチ当たりの文字数 (CPI)	196
フロント・マージン (FRONTMGN)	197
バック・マージン (BACKMGN)	197
オーバーフロー行番号 (OVRFLW)	198
レコードの折り返し (FOLD)	198
印刷不能文字の処置 (RPLUNPRT)	199
ページの位置合わせ (ALIGN)	199
制御文字 (CTLCHAR)	200
チャンネル値 (CHLVAL)	200
精度 (FIDELITY)	201
印刷品質 (PRTQLTY)	201
用紙送り (FORMFEED)	202
ソース用紙入れ (DRAWER)	203
出力ビン (OUTBIN)	203
フォント識別コード (FONT)	203
文字識別コード (CHRID)	204
10進数形式 (DECfmt)	205
フォント文字セット (FNTCHRSET)	205
コード化フォント (CDEFNT)	206
テーブル参照文字 (TBLREFCHR)	207
ページ定義 (PAGDFN)	207
用紙定義 (FORMDF)	208
AFP文字 (AFPCHARS)	209
ページ回転度数 (PAGRRT)	210
面当たりページ数 (MULTIUP)	211
出力の減少 (REDUCE)	211
印刷テキスト (PRTTXT)	211
ハードウェア位置調整 (JUSTIFY)	211
両面印刷 (DUPLEX)	212
単位 (UOM)	212
前面オーバーレイ (FRONTOVL)	212
背面オーバーレイ (BACKOVL)	213
行データ変換 (CVTLINDTA)	214
IPDSパススルー (IPDSPASTHR)	215
USER資源ライブラリー・リスト (USRRSCLIBL)	215
コーナー・ステープルとじ (CORNERSTPL)	216
平とじ (EDGEStITCH)	217
中とじ (SADLStITCH)	218
形式設定用フォント解像度 (RNTRSL)	219
書き出し据え置き (DFRWRT)	220
データのスパール (SPOOL)	220

スプール出力待ち行列 (OUTQ)	220
用紙タイプ (FORMTYPE)	221
コピー枚数 (COPIES)	221
印刷ページ範囲 (PAGERANGE)	221
スプール出力レコードの最大数 (MAXRCDS)	222
ファイル区切り (FILESEP)	222
スプール出力のスケジュール (SCHEDULE)	222
スプール・ファイルの保留 (HOLD)	222
スプール・ファイルの保管 (SAVE)	223
出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)	223
ユーザー・データ (USRDTA)	223
スプール・ファイル所有者 (SPLFOWN)	223
ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)	224
ユーザー定義データ (USRDFNDTA)	224
ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)	225
DBCSの回転 (IGCCHRRTT)	226
インチ当たりのDBCS数 (IGCCPI)	226
DBCSのSO/SIのスペース (IGCSOSI)	227
DBCSコード化フォント (IGCCDEFNT)	227
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	228
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	228
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	228
権限 (AUT)	229
ファイルの置き換え (REPLACE)	229
CRTPRTFの例	230
エラー・メッセージ: CRTPRTF	230
PSF構成の作成 (CRTPSFCFG)	231
パラメーター	231
PSF構成 (PSFCFG)	233
ユーザー資源ライブラリー・リスト (USRRSCLIBL)	233
装置資源ライブラリー・リスト (DEVRSCLIBL)	234
IPDSパススルー (IPDSPASTHR)	234
解放タイマーの活動化 (ACTRLSTMR)	235
解放タイマー (RLSTMR)	237
再始動タイマー (RESTRTMR)	237
APPCおよびTCP/IP再試行カウント (RETRY)	238
APPC再試行間の遅延 (RETRYDLY)	238
肯定応答頻度 (ACKFRQ)	238
印刷装置応答タイマー (PRTRSPTMR)	239
PDF出力の生成 (PDFGEN)	239
PDF装置エミュレーションのタイプ (PDFDEVTYPE)	240
PDF用紙サイズ用紙入れ1 (PDFPPRDWR1)	240
PDF用紙サイズ用紙入れ2 (PDFPPRDWR2)	240
複数のPDFファイル (PDFMULT)	241
PDFフォント・インライン (PDFINCFNT)	242
PDFデータ待ち行列 (PDFDTAQ)	242
PDFメール・サーバー名 (PDFMAILSVR)	242
電子メールの送信側 (PDFSENDER)	243
PDF管理者 (PDFADMIN)	244
PDFユーザー・プログラム (PDFMAPPGM)	244
PDFマッピング・オブジェクト (PDFMAP)	245
PDF出力待ち行列 (PDFOUTQ)	245
PDFディレクトリー (PDFDIR)	245
AFPデータの保管 (AFPSAVE)	246

AFP出力待ち行列 (AFPOUTQ)	247
テキスト'記述' (TEXT)	247
自動セッション回復 (AUTOSSNRCY)	247
ブランク・ページ (BLANKPAGE)	248
ページ・サイズの制御 (PAGSIZCTL)	249
常駐フォント (RESFONT)	249
資源保持期間 (RSCRET)	249
エッジの方向 (EDGEORIENT)	250
アウトライン・フォントの使用 (USEOUTLFNT)	250
PSF定義オプション (PSFDFNOPT)	250
フォント置き換えメッセージ (FNTPSUBMSG)	250
印刷装置でのホスト・フォント取込 (FNTCAPTURE)	250
形式設定のフォント解像度 (FNTRSL)	251
フォント・マッピング・テーブル (FNTTBL)	251
単票用紙エミュレーション・モード (CSEMODE)	252
DBCS シミュレーション・フォントの使用 (MAPIGCFNT)	252
置き換え (REPLACE)	253
権限 (AUT)	253
例	254
エラー・メッセージ	254

QUERY管理機能書式の作成

(CRTQMFORM) 255

パラメーター	255
QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)	255
ソース・ファイル (SRCFILE)	256
ソース・メンバー(SRCMBR)	256
テキスト'記述' (TEXT)	256
権限(AUT)	257
オブジェクトの置き換え (REPLACE)	258
CRTQMFORMの例	258
エラー・メッセージ: CRTQMFORM	258

QUERY管理機能プログラム作成

(CRTQMQR) 259

パラメーター	259
QUERY管理機能プログラム (QMQR)	259
ソース・ファイル (SRCFILE)	260
ソース・メンバー(SRCMBR)	260
テキスト'記述' (TEXT)	261
分類順序 (SRTSEQ)	261
言語識別コード (LANGID)	262
権限(AUT)	262
オブジェクトの置き換え (REPLACE)	263
CRTQMQRの例	263
エラー・メッセージ: CRTQMQR	263

Q&Aデータベース作成 (CRTQSTDB) 265

パラメーター	265
Q/Aデータベース (QSTDB)	265
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)	266
CRTQSTDBの例	266
エラー・メッセージ: CRTQSTDB	266

Q/A データベース・ロード作成 (CRTQSTLOD)	267
パラメーター	267
Q/Aデータベース (QSTDB)	267
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)	267
CRTQSTLODの例	268
エラー・メッセージ: CRTQSTLOD	268

S/36表示装置ファイルの作成 (CRTS36DSPF)	269
パラメーター	269
表示装置ファイル (DSPFILE)	270
オプション (OPTION)	270
S/36 SFGRソース・メンバー (SRCMBR)	271
S/36ソース・ファイル (SRCFILE)	271
表示装置ファイルの置き換え (REPLACE)	271
SFGRリストの印刷 (PRINT)	272
最大装置数 (MAXDEV)	272
権限 (AUT)	272
生成オプション (GENOPT)	273
SFGRソース構文の検査 (SYNTAX)	274
受取DDSソース・ファイル (TOFILE)	274
受取DDSソース・メンバー (TOMBR)	274
エラーが起こった時,MSGを出す (HALT)	275
書き出し据え置き (DFRWRT)	275
ターゲット・リリース (TGTRLS)	275
CRTS36DSPFの例	276
エラー・メッセージ: CRTS36DSPF	276

S/36メニューの作成 (CRTS36MNU)	279
パラメーター	279
コマンド・テキスト・ソース・メンバー## (CMDTXTMBR)	280
オプション・テキスト・ソース・ファイル (OPTTXTMBR)	280
コマンド・テキスト・ソース・ファイル (CMDTXTSRC)	280
オプション・テキスト・ソース・ファイル (OPTTXTSRC)	281
メニュー・ライブラリー (LOADLIB) (MNULIB)	281
メニューの置き換え (REPLACE)	282
自由形式メニュー (FREEFORM)	282
オプション・テキスト MSG ファイルの保管 (KEEP)	282
DDSリスト (DDSLIST)	282
最大装置数 (MAXDEV)	283
権限 (AUT)	283
受取DDSソース・ファイル (TOFILE)	284
受取DDSソース・メンバー (TOMBR)	284
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	285
ターゲット・リリース (TGTRLS)	285
CRTS36MNUの例	285
エラー・メッセージ: CRTS36MNU	286

S/36 メッセージ・ファイルの作成 (CRTS36MSGF)	289
パラメーター	290
S/36 メッセージ・ソース・メンバー (SRCMBR)	290
S/36ソース・ファイル (SRCFILE)	290
メッセージ・ファイル・ライブラリー (MSGLIB)	291
メッセージ・ファイルの置換 (REPLACE)	291
メッセージ識別コードの接頭部 (MSGPFX)	292
オプション (OPTION)	292
#置き換えフィールド使用可 (SUBST)	292
S/36の制約の強制 (RESTRICT)	293
権限 (AUT)	293
受け取りCLソース・ファイル (TOFILE)	294
受け取りCLソース・メンバー (TOMBR)	295
エラーが起こった時,MSGを出す (HALT)	295
例	295
エラー・メッセージ	296

保管ファイル作成 (CRTSAVF)	297
パラメーター	297
保管ファイル (FILE)	298
テキスト'記述' (TEXT)	298
最大レコード数 (MAXRCDS)	298
補助記憶域プールID (ASP)	299
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	299
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	299
権限 (AUT)	300
CRTSAVFの例	300
エラー・メッセージ: CRTSAVF	300

サブシステム記述作成 (CRTSBSD)	303
パラメーター	303
サブシステム記述 (SBSD)	304
記憶域プール (POOLS)	304
ジョブの最大数 (MAXJOBS)	306
テキスト'記述' (TEXT)	306
サインオン表示ファイル (SGNDSPF)	306
サブシステム・ライブラリー (SYSLIBL)	307
権限(AUT)	307
CRTSBSDの例	308
エラー・メッセージ: CRTSBSD	309

検索見出しの作成 (CRTSCHIDX)	311
パラメーター	311
検索見出し (SCHIDX)	312
画面タイトル (TITLE)	312
テキスト'記述' (TEXT)	312
文字識別コード (CHRID)	312
権限(AUT)	313
CRTSCHIDXの例	314
エラー・メッセージ: CRTSCHIDX	314

SQLパッケージの作成 (CRTSQLPKG)	315
パラメーター	315
プログラム (PGM)	316
リレーショナル・データベース (RDB)	316

RDBユーザー (USER)	316
RDBユーザー・パスワード (PASSWORD)	316
省略時のコレクション (DFTRDBCOL)	317
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	317
モジュール・リスト (MODULE)	317
テキスト'記述' (TEXT)	318
重大度レベル (GENLVL)	318
置き換え (REPLACE)	318
印刷ファイル (PRTFILE)	319
CRTSQPKGの例	319
エラー・メッセージ: CRTSQPKG	319

ソース物理ファイル作成 (CRTSRCPF) 321

パラメーター	321
ファイル (FILE)	322
レコード長 (RCDLEN)	322
メンバー (MBR)	323
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	323
テキスト'記述' (TEXT)	323
システム (SYSTEM)	324
メンバーの満了日 (EXPDATE)	324
メンバーの最大数 (MAXMBRS)	324
アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)	324
アクセス・パス・タイプ (ACCPH)	325
アクセス・パスの保守 (MAINT)	325
アクセス・パス回復 (RECOVER)	325
強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)	326
メンバー・サイズ (SIZE)	326
記憶域割り振り (ALLOCATE)	327
入れたい記憶装置 (UNIT)	328
強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)	328
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	328
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	329
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	329
許される削除レコードの最大% (DLTPCT)	329
コード化文字セットID (CCSID)	330
更新操作可能 (ALWUPD)	330
削除操作可能 (ALWDLT)	330
権限 (AUT)	330
CRTSRCPFの例	331
エラー・メッセージ: CRTSRCPF	332

サービス・プログラムの作成 (CRTSRVPGM) 333

パラメーター	333
サービス・プログラム (SRVPGM)	334
モジュール (MODULE)	335
エクスポート (EXPORT)	335
ソース・ファイル (SRCFILE)	336
ソース・メンバー (SRCMBR)	336
テキスト'記述' (TEXT)	336
サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)	337
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	337
活動化グループ (ACTGRP)	338
作成オプション (OPTION)	338
明細のリスト (DETAIL)	339

更新可能 (ALWUPD)	340
*SRVPGMライブラリー更新可能 (ALWLIBUPD)	340
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	340
プログラムの置き換え (REPLACE)	341
権限 (AUT)	341
ターゲット・リリース (TGTRLS)	342
再初期設定可能 (ALWRINZ)	342
ストレージ・モデル (STGMDL)	342
プロシージャー間分析 (IPA)	343
IPA制御ファイル (IPACTLFILE)	343
CRTSRVPGMの例	343
エラー・メッセージ: CRTSRVPGM	344

テープ・カテゴリーの作成 (CRTTAPCGY) 345

パラメーター	346
カテゴリー (CGY)	346
CRTTAPCGYの例	347
エラー・メッセージ: CRTTAPCGY	347

テープ・ファイル作成 (CRTTAPF) 349

パラメーター	349
ファイル (FILE)	350
装置 (DEV)	351
ボリューム識別コード (VOL)	351
テープ・リール仕様 (REELS)	352
順序番号 (SEQNBR)	354
テープ・ラベル (LABEL)	354
ファイル・タイプ (FILETYPE)	355
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	355
テキスト'記述' (TEXT)	355
レコード長 (RCDLEN)	355
ブロックの長さ (BLKLEN)	356
バッファー・オフセット (BUFOFSET)	357
レコードのブロック形式 (RCDBLKFMT)	358
ファイル拡張 (EXTEND)	359
テープ密度 (DENSITY)	360
データ短縮 (COMPACT)	364
コード (CODE)	364
作成日 (CRTDATE)	364
ファイル満了日 (EXPDATE)	364
テープ終了オプション (ENDOPT)	365
ユーザー・ラベル・プログラム (USRLBLPGM)	365
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	366
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	366
権限 (AUT)	366
ファイルの置き換え (REPLACE)	367
例	367
エラー・メッセージ	368

テーブル作成 (CRTTBL) 369

パラメーター	369
テーブル (TBL)	370
ソース・ファイル (SRCFILE)	370
ソース・メンバー (SRCMBR)	371
テーブル・タイプ (TBLTYPE)	371

基底テーブル (BASETBL)	372
基底ソート順序 (BASESRTSEQ)	372
基底言語ID (BASELANGID)	373
コード化文字セットID (CCSID)	373
テキスト'記述' (TEXT)	373
権限(AUT)	373
CRTTBLの例	374
エラー・メッセージ: CRTTBL	374

時間帯記述作成 (CRTTIMZON) 377

パラメーター	377
時間帯記述 (TIMZON)	378
オフセット (OFFSET)	378
標準時間 (STDNAME)	378
夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)	379
標準時間メッセージ (STDMMSG)	379
夏時間調整時間メッセージ (DSTMSG)	380
メッセージ・ファイル (MSGF)	380
夏時間調整時間開始 (DSTSTR)	380
夏時間調整時間終了 (DSTEND)	382
テキスト'記述' (TEXT)	383
権限(AUT)	383
CRTTIMZONの例	384
エラー・メッセージ: CRTTIMZON	384

ユーザー定義FSの作成 (CRTUDFS) 385

パラメーター	385
ユーザー定義ファイル・システム (UDFS)	386
データの共通認可 (DTAAUT)	386
オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)	387
オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)	388
オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)	388
制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)	389
大文字小文字の区別 (CASE)	389
省略時のファイル形式 (DFTFILEFMT)	390
テキスト'記述' (TEXT)	390
CRTUDFSの例	390
エラー・メッセージ: CRTUDFS	391

ユーザー・プロファイル作成 (CRTUSRPRF) 393

パラメーター	393
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	395
ユーザー・パスワード (PASSWORD)	395
パスワードを満了にセット (PWDEXP)	396
状況 (STATUS)	396
ユーザー・クラス (USRCLS)	397
援助レベル (ASTLVL)	398
現行ライブラリー (CURLIB)	398
呼び出す初期プログラム (INLPGM)	398
初期メニュー (INLMNU)	399
制限機能 (LMTCPB)	400
テキスト'記述' (TEXT)	400
特殊権限 (SPCAUT)	401
特殊環境 (SPCENV)	402

サインオン情報の表示 (DSPSGNINF)	402
パスワード満了間隔 (PWDEXPITV)	403
ローカル・パスワード管理 (LCLPWDMGT)	403
装置セッション限界 (LMTDEVSSN)	403
キーボード・バッファ方式 (KBDBUF)	404
最大許容記憶域 (MAXSTG)	404
最高スケジュール優先順位 (PTYLMT)	405
ジョブ記述 (JOBID)	405
グループ・プロファイル (GRPPRF)	406
所有者 (OWNER)	406
グループ権限 (GRPAUT)	406
グループ権限タイプ (GRPAUTTYP)	407
補足グループ (SUPGRPPRF)	407
会計コード (ACGCDE)	408
文書パスワード (DOCPWD)	408
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	408
配布 (DLVRY)	409
重大度コード・フィルター (SEV)	409
印刷装置 (PRTDEV)	410
出力待ち行列 (OUTQ)	410
アテンション・プログラム (ATNPGM)	411
分類順序 (SRTSEQ)	412
言語識別コード (LANGID)	412
国別または地域ID (CNTRYID)	412
コード化文字セットID (CCSID)	413
文字識別コードの制御 (CHRIDCTL)	413
ロケール・ジョブ属性 (SETJOBATR)	414
ロケール (LOCALE)	414
ユーザー・オプション (USROPT)	415
ユーザーID番号 (UID)	415
グループID番号 (GID)	416
ホーム・ディレクトリー (HOMEDIR)	416
EIM関連 (EIMASSOC)	416
権限(AUT)	418
CRTUSRPRFの例	418
エラー・メッセージ: CRTUSRPRF	419

妥当性検査リストの作成 (CRTVLDL) 421

パラメーター	421
妥当性検査リスト (VLDL)	421
テキスト'記述' (TEXT)	422
権限(AUT)	422
CRTVLDLの例	422
エラー・メッセージ	422

WSCSTの作成 (CRTWSCST) 423

パラメーター	423
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	423
ソース・メンバー(SRCMBR)	424
テキスト'記述' (TEXT)	424
ソース・ファイル (SRCFILE)	424
権限(AUT)	425
オブジェクトの置き換え (REPLACE)	425
CRTWSCSTの例	426
エラー・メッセージ: CRTWSCST	426

ソースCL変換 (CVTCLSRC)	427
パラメーター	427
FROMファイル (FROMFILE)	428
TOファイル (TOFILE)	428
メンバー (FROMMBR)	429
CVTCLSRCの例	429
エラー・メッセージ: CVTCLSRC	429
日付形式変換 (CVTDAT)	431
パラメーター	431
変換される日付 (DATE)	431
変換された日付のCL変数 (TOVAR)	432
開始日付形式 (FROMFMT)	433
終了日付形式 (TOFMT)	433
終了日付区切り文字 (TOSEP)	434
CVTDATの例	434
エラー・メッセージ: CVTDAT	435
ディレクトリー変換 (CVTDIR)	437
パラメーター	437
オプション (オプション)	437
ファイル・システム (FILESYS)	438
形式 (FORMAT)	439
詳細 (DETAIL)	439
補助記憶域プールID (ASP)	439
実行優先順位 (RUNPTY)	440
CVTDIRの例	440
エラー・メッセージ: CVTDIR	440
DLS名の変換 (CVTDLSNAM)	443
パラメーター	444
オブジェクト (OBJ)	444
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	444
処置 (ACTION)	445
結果の事前表示 (PREVIEW)	445
変換元CCSID (FROMCCSID)	445
変換先CCSID (TOCCSID)	446
CVTDLSNAMの例	446
エラー・メッセージ: CVTDLSNAM	447
研修の変換 (CVTEDU)	449
パラメーター	449
コースID (COURSE)	449
言語識別コード (LNG)	449
CVTEDUの例	450
エラー・メッセージ: CVTEDU	450
IPアドレスの変換 (CVTIPSIFC)	451
パラメーター	451
IPアドレス (INTNETADR)	451
出力 (OUTPUT)	452
CVTIPSIFCの例	452
エラー・メッセージ: CVTIPSIFC	452
ネットワーク ID/ロケーションの変換 (CVTIPSLOC)	453

パラメーター	453
ネットワーク識別コード (NETID)	453
ロケーション名 (LOC)	454
出力 (OUTPUT)	454
CVTIPSLOCの例	454
エラー・メッセージ: CVTIPSLOC	454
光ディスク・バックアップ変換 (CVTOPTBKU)	455
パラメーター	455
バックアップ・ボリュームID (BKUVOL)	455
1次ボリューム識別コード (PRIVOL)	455
CVTOPTBKUの例	456
エラー・メッセージ: CVTOPTBKU	456
パフォーマンス・データの変換 (CVTPFRDTA)	459
パラメーター	459
FROMライブラリー (FROMLIB)	459
TOライブラリー (TOLIB)	460
ジョブ記述 (JOBID)	460
CVTPFRDTAの例	460
エラー・メッセージ: CVTPFRDTA	461
PFRスレッド・データの変換 (CVTPFRTHD)	463
パラメーター	463
メンバー (MBR)	463
ライブラリー (LIB)	464
置き換え (REPLACE)	464
CVTPFRTHDの例	464
エラー・メッセージ: CVTPFRTHD	464
RPCソースの変換 (CVTRPCSRC)	467
パラメーター	467
FROMファイル (FROMFILE)	467
オプション (OPTION)	468
プロトコル (PROTOCOL)	468
TOファイル (TOFILE)	469
CVTRPCSRCの例	469
エラー・メッセージ: CVTRPCSRC	470
TCP/IP CLソースの変換 (CVTTCPCL)	471
パラメーター	472
FROMファイル (FROMFILE)	472
TOファイル (TOFILE)	473
FROMメンバー (FROMMBR)	473
CVTTCPCLの例	474
エラー・メッセージ: CVTTCPCL	474
フォルダーへの変換 (CVTTOFLR)	475
エラー・メッセージ: CVTTOFLR	475
パラメーター	475
取り出し仮想ディスク (FROMVDSK)	476
受け取りフォルダー (TOFLR)	476

文書置き換え (REPLACE)	476
例	476
エラー・メッセージ: CVTTOFLR	477
ユーザー証明書の変換 (CVTUSRCERT)	479
パラメーター	479
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	479
オプション (OPTION)	480
CVTUSRCERTの例	480
エラー・メッセージ: CVTUSRCERT	480
データ (DATA)	481
パラメーター	481
入力ファイル (FILE)	481
ファイル・タイプ (FILETYPE)	482
データの終わり文字 (ENDCHAR)	482
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	483
DATAの例	483
エラー・メッセージ: DATA	483
CL変数宣言 (DCL)	485
パラメーター	485
CL変数名 (VAR)	486
タイプ (TYPE)	486
変数の長さ (LEN)	486
初期値 (VALUE)	487
DCLの例	487
エラー・メッセージ: DCL	488
ファイル宣言 (DCLF)	489
パラメーター	491
ファイル (FILE)	491
レコード様式 (RCDFMT)	492
オープン・ファイル識別コード (OPNID)	492
可変長フィールド可能 (ALWVARLEN)	492
ヌルのフィールド値可能 (ALWNULL)	493
グラフィックス使用可能フィールド (ALWGRAPHIC)	493
DCLFの例	493
エラー・メッセージ: DCLF	494
オブジェクトの圧縮解除 (DCPOBJ)	495
パラメーター	495
オブジェクト (OBJ)	496
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	497
プログラム・オプション (PGMOPT)	498
DCPOBJの例	498
エラー・メッセージ: DCPOBJ	498
リンクの除去 (DEL)	501
パラメーター	502
オブジェクト・リンク (OBJLNK)	502
DELの例	503
エラー・メッセージ: DEL	503
従属定義 (DEP)	505

パラメーター	505
制御条件 (CTL)	506
従属パラメーター (PARM)	507
真の従属の数 (NBRTRUE)	507
メッセージ識別コード (MSGID)	508
DEPの例	508
エラー・メッセージ: DEP	509
オブジェクト割り振り解除 (DLCOBJ)	511
パラメーター	512
オブジェクトの仕様 (OBJ)	512
ロック有効範囲 (SCOPE)	515
例	516
エラー・メッセージ	517
警報の削除 (DLTALR)	519
パラメーター	519
削除オプション (DLTOPT)	519
日数 (DAYS)	520
警報タイプ (ALRTYPE)	520
資源警報 (ALRRSC)	521
警報資源タイプ (ALRRSCTYPE)	521
ユーザー割り当て (ASNUSER)	521
グループ (GROUP)	521
DLTALRの例	522
エラー・メッセージ: DLTALR	522
警報テーブルの削除 (DLTALRTBL)	525
パラメーター	525
警報テーブル (ALRTBL)	525
DLTALRTBLの例	526
エラー・メッセージ: DLTALRTBL	526
APARデータの削除 (DLTAPARDDTA)	529
パラメーター	529
問題識別コード (PRBID)	529
起点 (ORIGIN)	529
DLTAPARDDTAの例	530
エラー・メッセージ: DLTAPARDDTA	530
権限ホルダー削除 (DLTAUTHLR)	531
パラメーター	531
オブジェクト (OBJ)	531
DLTAUTHLRの例	531
エラー・メッセージ: DLTAUTHLR	531
権限リスト削除 (DLTAUTL)	533
パラメーター	533
権限リスト (AUTL)	533
DLTAUTLの例	534
エラー・メッセージ: DLTAUTL	534
バインド・ディレクトリーの削除 (DLTBNDDIR)	537
パラメーター	537
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	537

DLTBNDDIRの例	538	クラスター資源グループ (CRG)	561
エラー・メッセージ: DLTBNDDIR	538	DLTCRGの例	562
構成リスト削除 (DLTCFGL)	541	エラー・メッセージ: DLTCRG	562
パラメーター	541	CRGクラスターの削除 (DLTCRGCLU) 565	
構成リスト (CFGL)	541	パラメーター	565
DLTCFGLの例	541	クラスター (CLUSTER)	566
エラー・メッセージ: DLTCFGL	542	クラスター資源グループ (CRG)	566
C ロケール記述の削除 (DLTCLD)	543	DLTCRGCLUの例	566
エラー・メッセージ: DLTCLD	543	エラー・メッセージ: DLTCRGCLU	566
パラメーター	543	CRQ記述の削除 (DLTCRQD)	567
ロケール名 (CLD)	543	パラメーター	567
例	544	要求記述の変更 (CRQD)	567
エラー・メッセージ: DLTCLD	544	DLTCRQDの例	568
クラス削除 (DLTCLS)	545	エラー・メッセージ: DLTCRQD	569
パラメーター	545	通信サイド情報の削除 (DLTCSI)	571
クラス (CLS)	545	パラメーター	571
DLTCLSの例	547	サイド情報 (CSI)	571
エラー・メッセージ: DLTCLS	547	DLTCSIの例	572
クラスターの削除 (DLTCLU)	549	エラー・メッセージ: DLTCSI	572
パラメーター	549	制御装置記述の削除 (DLTCTLD)	575
クラスター (CLUSTER)	550	パラメーター	575
DLTCLUの例	550	制御装置記述 (CTLD)	575
エラー・メッセージ: DLTCLU	550	DLTCTLDの例	575
コマンド削除 (DLTCMD)	551	エラー・メッセージ: DLTCTLD	576
パラメーター	551	装置記述の削除 (DLTDEVD)	577
コマンド (CMD)	551	パラメーター	577
DLTCMDの例	552	装置記述 (DEVD)	577
エラー・メッセージ: DLTCMD	553	DLTDEVDの例	577
通信追跡の削除 (DLTCMNTRC)	555	エラー・メッセージ: DLTDEVD	577
パラメーター	555	装置媒体ライブラリーの削除	
構成オブジェクト (CFGOBJ)	555	(DLTDEVMLB)	579
タイプ (CFGTYPE)	555	パラメーター	579
DLTCMNTRCの例	556	装置記述 (DEVD)	579
エラー・メッセージ: DLTCMNTRC	556	エラー・メッセージ: DLTDEVMLB	579
接続リストの削除 (DLTCNNL)	557	DFUプログラムの削除 (DLTDFUPGM) 581	
パラメーター	557	エラー・メッセージ: DLTDFUPGM	581
接続リスト (CNNL)	557	パラメーター	581
DLTCNNLの例	557	DFUプログラム (DFUPGM)	581
エラー・メッセージ: DLTCNNL	558	例	581
サービス・クラス記述削除 (DLTCOSD) 559		エラー・メッセージ: DLTDFUPGM	581
パラメーター	559	ディスクレット・ラベル削除	
サービス・クラス記述 (COSD)	559	(DLTDKTLBL)	583
DLTCOSDの例	559	パラメーター	583
エラー・メッセージ: DLTCOSD	560	ディスクレット装置 (DEV)	583
クラスター・リソース・グループの削除		ディスクレット・ラベル (LABEL)	584
(DLTCRG)	561	ボリューム識別コード (VOL)	584
パラメーター	561	活動ファイルの検査 (CHECK)	584
		作成日 (CRTDATE)	584

オプション (OPTION)	585
DLTDKTLBLの例	585
エラー・メッセージ: DLTDKTLBL	585

文書ライブラリー・オブジェクト削除 (DLTDLO) 587

パラメーター	587
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	588
フォルダー中 (FLR)	589
作成期 (CRTDATE)	589
満了日 (CHKEXP)	590
文書クラス (DOCCLS)	590
所有者プロファイル (OWNER)	591
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	591
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	591
補助記憶域プールID (ASP)	592
DLTDLOの例	592
エラー・メッセージ: DLTDLO	593

文書リスト削除 (DLTDOCL) 595

パラメーター	595
文書リスト (DOCL)	595
文書リスト所有者 (OWNER)	596
DLTDOCLの例	596
エラー・メッセージ: DLTDOCL	596

配布削除 (DLTDST) 599

パラメーター	599
配布識別コード (DSTID)	600
着信または発信 (OPTION)	600
ユーザー識別コード (USRID)	600
配布IDエクステンション (DSTIDEXN)	601
オブジェクト (OBJ)	601
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	602
DLTDSTの例	602
エラー・メッセージ: DLTDST	603

配布リスト削除 (DLTDSTL) 605

パラメーター	605
リスト識別コード (LSTID)	605
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	606
DLTDSTLの例	606
エラー・メッセージ: DLTDSTL	607

データ域削除 (DLDTAARA) 609

パラメーター	609
データ域 (DTAARA)	609
DLDTAARAの例	610

エラー・メッセージ: DLDTAARA	611
-------------------------------	-----

データ・ディクショナリー削除 (DLTDTADCT) 613

パラメーター	613
データ・ディクショナリー (DTADCT)	613
DLTDTADCTの例	613
エラー・メッセージ: DLTDTADCT	613

データ待ち行列削除 (DLDTAQ) 615

パラメーター	615
データ待ち行列名 (DTAQ)	615
DLDTAQの例	616
エラー・メッセージ: DLDTAQ	616

編集記述削除 (DLTEDTD) 619

パラメーター	619
編集記述 (EDTD)	619
DLTEDTDの例	620
エラー・メッセージ: DLTEDTD	620

ファイル削除 (DLTF) 621

パラメーター	622
ファイル (FILE)	622
システム (SYSTEM)	623
制約の除去 (RMVCST)	624
DLTFの例	624
エラー・メッセージ: DLTF	624

フォント資源の削除 (DLTFNTRSC) . . . 627

パラメーター	627
フォント資源 (FNTRSC)	627
DLTFNTRSCの例	628
エラー・メッセージ: DLTFNTRSC	629

フォント・テーブルの削除 (DLTFNTTBL) 631

パラメーター	631
フォント・テーブル (FNTTBL)	631
DLTFNTTBLの例	632
エラー・メッセージ: DLTFNTTBL	632

付録. 特記事項 633

商標	634
資料に関するご使用条件	635
コードに関する特記事項	636

モード記述作成 (CRTMODD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード記述作成(CRTMODD)コマンドは、拡張プログラム間通信機能(APPC)装置のモード記述を作成します。モード記述は、ローカル・ロケーションとリモート・ロケーション間のセッション特性およびリンクのセッション数を定義します。モードの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)および[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報を参照してください。

APPCサポートには、システム・ネットワーク体系(SNA) が使用されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODD	モード記述	通信名	必須, 定位置 1
MAXSSN	最大セッション	1-512, <u>8</u>	オプション
MAXCNV	会話の最大数	1-512, <u>8</u>	オプション
LCLCTLSSN	ローカル制御セッション数	0-512, <u>4</u>	オプション
PREESTSSN	事前結合セッション数	0-512, <u>0</u>	オプション
MAXINPAC	最大インバウンド・ペーシング値	1-32767, * <u>CALC</u>	オプション
INPACING	インバウンド・ペーシング値	0-63, <u>7</u>	オプション
OUTPACING	アウトバウンド・ペーシング値	0-63, <u>7</u>	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	241-32767, * <u>CALC</u>	オプション
DTACPR	データ圧縮	1-2147483647, * <u>NETATR</u> , *NONE, *ALLOW, *REQUEST, *REQUIRE	オプション
INDTACPR	インバウンド・データの圧縮	* <u>RLE</u> , *LZ9, *LZ10, *LZ12, *NONE	オプション
OUTDTACPR	アウトバウンド・データの圧縮	* <u>RLE</u> , *LZ9, *LZ10, *LZ12, *NONE	オプション
SLE	セッション・レベル暗号	* <u>NONE</u> , *ALL	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, * <u>BLANK</u>	オプション
COS	サービス・クラス	通信名, # <u>CONNECT</u> , #BATCH, #INTER, #BATCHSC, #INTERSC	オプション
AUT	権限	名前, * <u>CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

モード記述 (MODD)

モード記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

最大セッション (MAXSSN)

このモードに対して確立される活動セッションの最大数を指定します。この数は、**ローカル制御セッション数プロンプト(LCLCTLSSN)**で指定されるローカル制御セッション数と、リモート・ロケーションで指定されるローカル制御セッション数との合計より大きいか等しくなければなりません。

セッションの最大数

セッションの最大数を指定してください。

有効な値の範囲は1-512です。

[トップ](#)

会話の最大数 (MAXCNV)

リモート・システムと同時に確立できる会話の最大数を指定します。会話の最大数は、同期会話と非同期会話の合計です。この値は、**最大セッションプロンプト (MAXSSNパラメーター)**で指定された値より大きいか等しくなければなりません。同期会話は、ソース・プログラムとターゲット・プログラムの両方が通信を行なっている会話です。非同期会話は、ソース・プログラムは会話から切り離されたが、ターゲット・プログラムがまだデータを読み取っている会話です。

会話の最大数

会話の最大数を指定してください。有効な値の範囲は1-512です。

[トップ](#)

ローカル制御セッション数 (LCLCTLSSN)

このモードを確立するために活動状態でなければならないローカル制御セッションの最小数を指定します。この値は、**最大セッションプロンプト (MAXSSN パラメーター)**に指定された値より小さいか等しくなければなりません。

ローカル制御セッション

ソース・セッションとして使用されるローカル制御セッションの数を指定してください。有効な値の範囲は0 - 512です。

[トップ](#)

事前結合セッション数 (PREESTSSN)

モードが開始された時に確立されるローカル制御セッションの最大数を指定します。追加のセッションは、必要に応じて、**最大セッションプロンプト** (MAXSSNパラメーター) に指定されたローカル制御セッションの最大数まで確立されます。この値は、**ローカル制御セッション数プロンプト** (LCLCTLSSNパラメーター) に指定された値より小さいか等しくなければなりません。

確立セッションの数

モードが開始された時に確立される並行ローカル制御セッションの最大数を指定してください。有効な値の範囲は0 - 512です。

[トップ](#)

最大インバウンド・ペーシング値 (MAXINPAC)

着信要求単位(RU)をスケジュールするために使用される最大SNAペーシング値を指定します。**ペーシング**は、送信システムの伝送速度を制御してデータの消失を防止するために、受信システムで設定されます。

注: 最適な速度が得られるように、*CALCの値をお奨めします。

*CALC

システムが使用する値を判別します。この値は、INPACINGパラメーターに指定された値の2倍である2*INPACINGとなるように計算されます。

最大インバウンド・ペーシング

最大インバウンド・ペーシング値として、1-32767 RUの範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

インバウンド・ペーシング値 (INPACING)

着信要求単位(RU)をスケジュールするために使用されるシステム・ネットワーク体系(SNA)ペーシング値を指定します。

7 RUペーシング値に7の値が使用されます。

インバウンド・ペーシング

限定値として使用される0-63の値を指定してください。

[トップ](#)

アウトバウンド・ペーシング値 (OUTPACING)

発信要求単位(RU)に使用されるSNAペーシング値を指定します。

7 RUペーシング値に7の値が使用されます。

アウトバウンド・ペーシング

限定値として使用される0-63の値を指定してください。

[トップ](#)

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

注: 最適な長さが得られるように、*CALCの値をお奨めします。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

要求単位の最大長

着信要求単位に、241-32767の範囲内の、最大長の値を指定してください。

その他の共通の値は、次の通りです。

- SDLC回線 : 256, 512, 1024, 2048
- トークンリング・ネットワーク回線: 256, 512, 1024, 1985
- X.25 (QLLC)回線 : 247, 503, 1015
- X.25 (ELLC)回線 : 241, 497, 1009

詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

[トップ](#)

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

*NETATR

DTACPRネットワーク属性からの値が使用されます。

*NONE

セッションで圧縮を使用することはできません。

*ALLOW

リモート・システムによって要求された場合には、データ圧縮をローカル・システムによるセッションで使用することができます。ローカル・システムは圧縮を要求しません。

リモート・システムによってデータ圧縮が要求された場合には、セッションによって使用されるデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト (INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されたレベルです。

*REQUEST

データ圧縮は、ローカル・システムによるセッションで要求されます。しかし、この要求は、リモート・システムによって拒否されるか、あるいはより低い圧縮レベルに変更される場合があります。データ圧縮は、それがリモート・システムによって要求された場合に、セッションで使用することができます。インバウンドおよびアウトバウンド・データ用に要求される圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト (INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター) に指定されたレベルです。

リモート・システムによってデータ圧縮が要求された場合には、セッションによって使用されるデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト (INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されたレベルです。

*REQUIRE

データ圧縮がセッションに必要です。リモート・システムがローカル・システムに必要な正確なレベルの圧縮を受け入れない場合には、セッションは確立されません。

ローカル・システムが必要とするデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト (INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター) に指定されているレベルです。

回線速度

データが圧縮される最高回線速度を指定してください。セッションで使用されるリンクの回線速度が指定したこの回線速度より小さいか等しい場合には、*REQUESTが指定されているかのように、データ圧縮がセッションで使用されます。そうでない場合には、*ALLOWが指定されているかのように、データ圧縮がセッションで使用されます。有効な値の範囲は1 - 2147483647ビット/秒(BPS)です。

トップ

インバウンド・データの圧縮 (INDTACPR)

インバウンド・データに所要の圧縮レベルを指定します。**データ圧縮**プロンプト (DTACPRパラメーター) に*NONEが指定されている場合には、データ圧縮は起こりません。

注: 最適のディクショナリー基本圧縮は動的圧縮アルゴリズムであり、LEMPERL-ZIVと類似して、前に表示されたストリングを9ビット、10ビット、および12ビット・コードに圧縮します。このアルゴリズムは次のパラメーターでLZとして参照されます。

***RLE** ラン・レングス・エンコード(RLE)アルゴリズムが使用されます。RLEはデータ・ストリーム中の同じ文字の繰り返しの代わりに1バイトまたは2バイトの文字列を使用します。このアルゴリズムは記憶域を必要とせず、また他のオプションより処理時間が少なく済みます。

***LZ9** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、9ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ9はLZアルゴリズムの最小記憶域と処理時間を必要としますが、LZ9が行なうデータ・ストリームの圧縮は最小になります。

***LZ10** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、10ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ10テーブル・アルゴリズムにはLZ9より多くの記憶域と処理時間が必要ですが、LZ12よりは少なく済みます。LZ10はLZ9より多くデータ・ストリームを圧縮しますが、LZ12よりは少なく圧縮します。

***LZ12** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、12ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ12はLZアルゴリズムの最大記憶域と処理時間を必要としますが、LZ12が行なうデータ・ストリームの圧縮は最大になります。

*NONE

圧縮は起こりません。

トップ

アウトバウンド・データの圧縮 (OUTDTACPR)

アウトバウンド・データに所要の圧縮レベルを指定します。データ圧縮プロンプト (DTACPRパラメータ一) に*NONEが指定されている場合には、データ圧縮は起こりません。

- *RLE** ラン・レングス・エンコード(RLE)アルゴリズムが使用されます。RLEはデータ・ストリーム中の同じ文字の繰り返しの代わりに1バイトまたは2バイトの文字列を使用します。このアルゴリズムは記憶域を必要とせず、また他のオプションより処理時間が少なく済みます。
- *LZ9** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、9ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ9はLZアルゴリズムの最小記憶域と処理時間を必要としますが、LZ9が行なうデータ・ストリームの圧縮は最小になります。
- *LZ10** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、10ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ10テーブル・アルゴリズムにはLZ9より多くの記憶域と処理時間が必要ですが、LZ12よりは少なく済みます。LZ10はLZ9より多くデータ・ストリームを圧縮しますが、LZ12よりは少なく圧縮します。
- *LZ12** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、12ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ12はLZアルゴリズムの最大記憶域と処理時間を必要としますが、LZ12が行なうデータ・ストリームの圧縮は最大になります。
- *NONE** 圧縮は起こりません。

[トップ](#)

セッション・レベル暗号 (SLE)

セッション暗号化の所要のレベルを指定します。

- *NONE** データの暗号化または暗号解読は行なわれません。
- *ALL** すべてのデータは、ネットワークに送信される前に暗号化され、ネットワークから受信された時に復号化されます。

注: セッション・レベルで暗号化を使用するためには、IBM共通のOS/400暗号化アーキテクチャ・サービスが、暗号化プロセッサ機構または暗号化プロセッサ商用機構とともに導入されていなければなりません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

サービス・クラス (COS)

拡張分散ネットワーク機能(APPN)によって使用される経路制御ネットワーク特性（サービス・クラス記述によって表される）を指定します。

- #CONNECT
- #BATCH
- #INTER
- #BATCHSC
- #INTERSC

サービス・クラス名

サービス・クラス名を指定します。

注: APPCのモードを使用している場合には、サービス・クラス名は無視されます。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

CRTMODDの例

```
CRTMODD  MODD(MODE1)  COS(COSD1)
          TEXT('MODE USING COSD1 CLASS-OF-SERVICE')
```

このコマンドは、サービス・クラス記述COSD1を指定するモードMODE1を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTMODD

*ESCAPEメッセージ

CPF261B

エラーのために、モード記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

メッセージ・ファイル作成 (CRTMSGF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・ファイル作成(CRTMSGF)コマンドは、メッセージ記述を記憶するためにユーザー定義のメッセージ・ファイルを作成します。メッセージ・ファイルは、定義済みメッセージを使用するすべてのユーザーが権限を持っているライブラリーに記憶されなければなりません。システムは、システム・ライブラリー QSYSに記憶された弊社提供のメッセージ・ファイル、すなわちCPFメッセージ・ファイルQCPFMSG (OS/400 システムおよびマシン・インターフェース・メッセージ用) およびQRPGMSG (RPGメッセージ用) などのライセンス・プログラム・メッセージ・ファイルとともに出荷されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
SIZE	ファイル・サイズ	要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 初期記憶域サイズ	整数, 10	
	要素 2: 記憶域増分サイズ	整数, 2	
	要素 3: 最大増分値	整数, *NOMAX	
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *HEX, *MSGD, *JOB	オプション

[トップ](#)

メッセージ・ファイル (MSGF)

作成するメッセージ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: メッセージ・ファイル

メッセージ・ファイル名

作成するメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***CURLIB**

メッセージ・ファイルを作成するために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ・ファイルが作成されるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字以下をアポストロフィで囲んで指定します。

[トップ](#)

ファイル・サイズ (SIZE)

メッセージ・ファイルの初期記憶域サイズ、その記憶域の各増分のサイズ、およびサイズの増分可能な回数を指定します。記憶域サイズは、Kバイト(KB)単位で表現されます。(1KBは1024バイトの記憶域と等しいものです。)

要素 1: 初期記憶域サイズ

10 メッセージ・ファイルは、10KBの記憶域を割り当てられています。

初期Kバイト

ファイルの初期サイズ(0より大であることが必要)を指定します。

要素 2: 記憶域増分サイズ

2 メッセージ・ファイルのサイズが増分されるたびに、2KBの記憶域がメッセージ・ファイルに追加されます。

増分値 メッセージ・ファイルのサイズが増分されるたびに追加するKバイト数を指定してください。

要素 3: 最大増分値

***NOMAX**

メッセージ・ファイルに追加されるサイズは、ユーザーによって制限されません。最大サイズはシステムによって決定されます。

増分回数

メッセージ・ファイルのサイズを増分することのできる最大回数を指定してください。ファイルの初期サイズに対する追加を行わないようにするためには、0を指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (**CRTAUT**) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUT パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

メッセージ・ファイルと関連付けられるコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDは、メッセージ記述と関連付けられているCCSIDを常に一時変更します。メッセージ記述と関連付けられているCCSIDを使用するためには、メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDを*MSGDに変更してください。メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」トピックを参照してください。

***HEX** メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDは65535に設定されます。65535というCCSIDは、メッセージ・ファイルにメッセージ記述を追加したりメッセージ・ファイル中のメッセージ記述を変更したりする時に変換が行われず、またメッセージ・ファイルからメッセージ記述を検索する時に変換が行われないことを意味します。メッセージ記述と関連付けられているCCSIDは、いつかメッセージ・ファイルが*MSGDに変更された場合に備えて保管されます。

*MSGD

メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDは65534に変更されます。65534というCCSIDは、メッセージ・ファイルからメッセージ・テキストを検索する時に、メッセージ記述と関連付けられているCCSIDを使用することを意味します。メッセージ・ファイルにメッセージ記述を追加したりメッセージ・ファイル中のメッセージ記述を変更したりする時には、変換が行われません。メッセージ記述にはADDMSGD またはCHGMSGDコマンドで指定されたCCSIDのタグが付けられます。

***JOB** メッセージ・ファイルと関連したCCSIDは、このコマンドを呼び出すジョブのCCSIDです。

コード化文字セット識別コード

メッセージ・ファイルの作成に使用するCCSIDを指定してください。このメッセージ・ファイルに追加されたどのメッセージ記述も、指定されたCCSIDからこのメッセージ・ファイルのCCSIDに変換されます。有効な値の範囲は1-65535です。有効なCCSIDの値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「グローバル化」情報を参照してください。受け入れられるのは、ジョブの変更先とすることができるCCSIDの値だけです。

トップ

CRTMSGFの例

```
CRTMSGF MSGF(INVLIB/INVMSGS)
        TEXT('INVENTORY APPLICATION MESSAGES')
```

このコマンドは、事前定義インベントリ適用業務メッセージが保管されるINVMSGSという名前のメッセージ・ファイルを作成します。このファイルはライブラリーINVLIBに保管され、そのファイルのすべてのユーザーには*USE権限が必要です。AUTパラメーターは省略時の値となるので、すべてのユーザーがファイルに対する*CHANGE権限を持ち、これは、すべてのユーザーがそのファイルからメッセージを検索できることを意味します。

トップ

エラー・メッセージ： CRTMSGF

*ESCAPEメッセージ

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2402

ライブラリー&1が見つからない。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF2497

&2の&1のサイズがマシンの限界を超えている。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

MSG ファイルからのメニューの作成 (CRTMSGFMNU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・ファイルからのメニュー作成(CRTMSGFMNU)コマンドは、指定したメッセージ・ファイルからメニュー（表示装置ファイル）を作成します。このメニューを固定形式で作成するか、2つの欄に1-24のオプションを配列して作成するか、または自由形式で作成するかを指定することができます。

ソース・メンバーからメニューを作成したい場合には、システム/36メニュー作成(CRTS36MNU)コマンドを使用してください。

制約事項: このコマンドを実行するには、OS/400のオプション5を導入する必要があります。このコマンドは、OS/400またはシステム/36環境内で固有に実行することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMDTXTMSGF	メニュー## コマンド・メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプションル、位置 1
	修飾子 1: メニュー## コマンド・メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
OPTTXTMSGF	オプション・テキスト・メッセージ・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションル、位置 2
	修飾子 1: オプション・テキスト・メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CMDLIB, *CURLIB	
REPLACE	メニューの置き換え	*NO, *YES	オプションル
FREEFORM	自由形式メニュー	*NO, *YES	オプションル
DDSLIST	DDSリスト	*PARTIAL, *FULL	オプションル
MAXDEV	最大装置数	1-256, 5	オプションル
AUT	権限	名前, *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプションル
TOFILE	受取DDSソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: 受取DDSソース・ファイル	名前, QDDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CMDLIB, *CURLIB	
TOMBR	受取DDSソース・メンバー	名前, *NONE	オプションル
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプションル
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT, *PRV	オプションル

トップ

メニュー## コマンド・メッセージ・ファイル (CMDTXTMSGF)

対応するオプションを選択した時に実行するコマンドのテキストが入っているコマンド・テキスト・メッセージ・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このパラメーターは、画面ファイル生成プログラム(SFGR)またはシステム/36メッセージ・ソース・メンバーでなく、既存のメッセージ・ファイルを識別しなければなりません。使用されるメッセージIDはUSRで始まっていなければなりません。CMDTXTMSGF名には後書き##記号が必要です。メニュー（表示装置ファイル）名は、##記号がないメッセージ・ファイル名です。実行時メニュー・プロセッサは、メッセージ・ファイル名を判別するために、メニュー名に後書き##記号を付加します。これが、入っているメッセージのテキストが選択された任意のオプションで実行されるコマンドになっている、メッセージ・ファイルの名前です。

これは必須パラメーターです。

メッセージ・ファイル名##

メニューの作成に使用するメッセージ・ファイル名を指定してください。後書き##記号が必要です。メニュー（表示装置ファイル）名は、##記号のないメッセージ・ファイル名と同じです。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ライブラリーをジョブの現行ライブラリーとして指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。CMDTXTMSGFライブラリーも、メニュー表示装置ファイルが作成されたライブラリーです。これは、実行時MENU処理プログラムの要件です。

[トップ](#)

オプション・テキスト・メッセージ・ファイル (OPTTXTMSGF)

選択できるオプションを記述するために、メニューに表示されるテキストが入っているオプション・テキスト・メッセージ・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。使用するメッセージIDは、**ユーザー指定のDBCSDデータ (IGCDTA)**パラメーターで*YESが指定されていない限り、USRで始めなければなりません。*YESを指定した場合には、USZで始めることができます。

*NONE

オプション・テキスト・メッセージ・ファイルは使用されません。オプション・テキストを指定するために、**メニュー## コマンド・メッセージ・ファイル (CMDTXTMSGF)**パラメーターが使用されます。

メッセージ・ファイル名

作成中のメニューのオプションの記述に使用するオプション・テキスト・メッセージ・ファイルの名前を指定してください。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

*CMDLIB

メニュー##コマンド・メッセージ・ファイル(CMDTXTMSGF)パラメーターで指定したライブラリーが、オプション・テキスト・メッセージ・ファイルを見つけるために使用されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、オプション・テキスト・メッセージ・ファイルを見つけます。ライブラリーをジョブの現行ライブラリーとして指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

オプション・テキスト・メッセージ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

メニューの置き換え (REPLACE)

元の表示装置ファイルが新しいファイルと置き換えられるかどうかを指定します。

***NO** 既存の表示装置ファイルは変更されません。

***YES** 既存の表示装置ファイルは、作成中のファイルと置き換えられます。その他のタイプのファイルは置き換えられません。

注: 既存のプログラムまたはメッセージ・ファイルと同じ名前およびライブラリーをもっている場合には、メニューは作成されません。

打ち切りエラーが見つかった場合には、既存の表示装置ファイルは置き換えられません。表示装置ファイルがすでに存在している場合には、**権限 (AUT)**パラメーターは無視されて、古い表示装置ファイルの権限はそれに置き換わる新しいメニュー表示装置ファイルにコピーされます。

[トップ](#)

自由形式メニュー (FREEFORM)

メニューを自由形式で作成するか、固定形式で作成するかを指定します。

***NO** 自由形式は使用されません。2つの欄をもつ固定形式メニューが作成されます。オプション・テキスト・メッセージ番号はオプション番号と対応します。

YES** 自由形式メニューが作成されます。YES**を指定した場合には、**オプション・テキスト・メッセージ・ファイル (OPTTXTMSGF)**パラメーターに値を指定しなければなりません。オプション・テキスト・メッセージ番号は画面の行番号と対応します。

[トップ](#)

DDSリスト (DDSLIST)

部分的または完全なDDSコンパイル・リストのどちらが提供されるかを指定します。

***PARTIAL**

部分リストが提供されます。

***FULL** 完全なDDSリストおよび相互参照表が提供されます。

[トップ](#)

最大装置数 (MAXDEV)

同時にメニューを使用できる装置の最大数を指定します。

5 装置の最大数は5です。

装置数 一度にメニューを使用できる装置の最大数を指定してください。有効な値の範囲は1-256です。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがこのオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

OPTION(*CREATE)およびREPLACE(*YES)が指定されていて、表示装置ファイルがすでに存在している場合には、AUTパラメーターは無視され、古い表示装置ファイルに対する権限はそれに置き換わる新しい表示装置ファイルにコピーされます。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じものです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限について使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれるユーザーは、そのリストに指定されたオブジェクトに対して権限が認可されます。オブジェクトの作成時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

受取DDSソース・ファイル (TOFILE)

メニュー画面を作成するために使用されるソースDDSを保管するソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このソース・ファイルは、事前に存在している必要はありません。OS/400 CRTSRCPFコマンドに対する権限がユーザーにあって、このファイルが存在していない場合には、新しいソース・ファイルが作成されます。TOMBR(*NONE)が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

QDDSSRC

ソース・ファイルQDDSSRCが使用されます。

ファイル名

DDSソースを保管するソース・ファイルの名前を指定してください。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

*CMDLIB

ソース・ファイルを見つけるために、メニュー##コマンド・メッセージ・ファイル (CMDTXTMSGF)パラメーターに指定されたライブラリーが使用されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

受取DDSソース・メンバー (TOMBR)

DDSソースを保管するソース・ファイル・メンバー名を指定します。このメンバーが存在していない場合には、これが作成されます。メンバー名が表示装置ファイル名のメンバー名と同じであり、TOファイルが作成される表示装置ファイルと同じライブラリー内のQS36DDSSRCであるときには、表示装置ファイルのコンパイル操作が正常に行なわれる場合にだけ、DDSがこのメンバーに保管されます。DDSの保管を保証するためには、その他のソース・ファイル、ライブラリー、またはメンバーの名前を指定してください。

*NONE

DDSソースは受取DDSソース・ファイル (TOFILE)パラメーターに指定されたソース・ファイルには保管されません。

メンバー名

DDSソースを保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していなければ追加され、存在していれば置き換えられます。

[トップ](#)

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

表示装置ファイルに2バイト文字データが入っているかどうかを指定します。

***NO** 表示装置ファイルに2バイト文字データは入っていません。オプション・テキスト・メッセージIDはUSRで始めなければなりません。

***YES** 表示装置ファイルまたはメッセージ・ファイルには2バイト文字データが入っています。オプション・テキスト・メッセージIDはUSZで始めることができます。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3, モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

トップ

CRTMSGFMNUの例

```
CRTMSGFMNU  CMDTXTMSGF(MYMENU##)  REPLACE(*YES)  FREEFORM(*NO)
```

このコマンドは、MYMENUという名前のメッセージ・ファイルを使用してメニューを作成します。メッセージ・ファイルはそのジョブの現行ライブラリー中に入っていて、各メニュー・オプションで実行するコマンドが含まれています。OPTTXTMSGFパラメーターが指定されていないので、オプション・テキストの代わりに、そのコマンドのテキストが画面に表示されます。REPLACE(*YES)は、既存の表示装置ファイルを置き換えることを指定します。作成される表示装置ファイルは固定形式であり、12個の要素のある2つの欄に1-24のオプションが配列されています。

トップ

エラー・メッセージ： CRTMSGFMNU

***ESCAPE** メッセージ

SSP4464

ファイル&1のメンバー&3が使用中であり共用することができない。

SSP5004

&1—このロード・メンバーは存在するが、¥SFGRメンバーでない。

SSP5005

&1表示装置ファイルはすでに存在している。

SSP5011

表示装置ファイル名に&1を使用することはできない。

SSP5017

TOFILEライブラリー&1が見つからない。

SSP5019

¥SFGR入力仕様中に打ち切りエラー。

SSP5027

変更でTGTRLS(*PRV)を使用できるのは、既存の表示装置ファイルが前のリリースで作成されている時だけである。

SSP5451

既存のファイル&1が表示装置ファイルでない。

SSP5750

コマンド・メッセージ・ファイルのメッセージ1-24にはブランク・テキストしか入っていない。

SSP5751

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイル名は##で終わらなければならない。

SSP5752

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイル・ライブラリー&1が見つからない。

SSP5753

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイル&1が見つからない。

SSP5754

オプション・テキスト・メッセージ・ファイル&1が見つからない。

SSP5755

¥BMENU作業ファイルを作成することができない

SSP5756

コマンド・メッセージ・ファイル名は2桁より長くなければならない。

SSP5757

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルが0001-0024の範囲内のMICをもっていない。

SSP5762

オプション・テキスト・メッセージ・ファイル名はメニュー名と同じであってはならない。

SSP5770

自由形式メニューにはオプション・テキスト・メッセージ・ファイルが必要である。

SSP5774

コマンドおよびオプション・メッセージ・ファイルは同じであってはならない。

SSP6124

予期しないエラーが起きました。

SSP7375

&2ユーティリティーがエラー&1を受け取った。

SSP8663

ユーザーには&1のアクセスが認可されていない。

SSP8679

メンバー&1のアクセスは認可されていない。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列作成 (CRTMSGQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ待ち行列作成(CRTMSGQ)コマンドは、ユーザー定義のメッセージ待ち行列を作成し、それを指定されたライブラリーに記憶します。メッセージ待ち行列は、その待ち行列との間でメッセージを送受信するすべてのユーザーが*USE権限を持っているライブラリーに入れなければなりません。送られるメッセージは、事前定義メッセージまたは即時メッセージのいずれかとすることができます。メッセージ待ち行列には、その作成時に次の属性が初期設定されます。すなわち、DLVRYパラメーターは*HOLD に設定され、PGMパラメーターの第1要素は*DSPMSGに設定され、PGMパラメーターの第2要素は*ALWRPYに設定され、SEVは00に設定され、RESETは*NOに設定されます。これらの初期設定された属性はCRTMSGQコマンドでは指定できず、待ち行列が作成された後で、CHGMSGQコマンドを使って変更しなければなりません。

注: メッセージ待ち行列QSYSOPRは、「メッセージ待ち行列満杯時の処置」が*WRAP として出荷されません。値を*SNDMSGに変更した後で、損傷したために待ち行列を再作成する必要がある場合には、その値は出荷時の値の*WRAPにリセットされます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
FORCE	補助記憶域への強制書き込み	*NO, *YES	オプション
SIZE	待ち行列サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 初期記憶域サイズ	整数, 3	
	要素 2: 記憶域増分サイズ	整数, 1	
	要素 3: 最大増分値	整数, *NOMAX	
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
ALWALR	警報可能	*NO, *YES	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *MSG, *HEX, *JOB	オプション
MSGQFULL	メッセージ待ち行列満杯時処置	*SNDMSG, *WRAP	オプション

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

作成するメッセージ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: メッセージ待ち行列

名前 作成するメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を作成するために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が作成されるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字以下をアポストロフィで囲んで入力します。

[トップ](#)

補助記憶域への強制書き込み (FORCE)

メッセージ待ち行列記述に施された変更、または待ち行列に追加または待ち行列から除去されたメッセージをただちに補助記憶装置に強制記憶するかどうかを指定します。これによって、たとえシステム障害が起っても、待ち行列に対する変更または送受したメッセージが失われないようにすることができます。

***NO** メッセージ待ち行列およびその中のメッセージに対して施された変更は、すぐには補助記憶装置に強制記憶されません。

***YES** メッセージ待ち行列記述および待ち行列の中のメッセージに対する変更は、すべてただちに補助記憶装置に強制記憶されます。

[トップ](#)

待ち行列サイズ (SIZE)

メッセージ待ち行列の初期記憶域サイズ、その記憶域に対する各追加時のサイズ、およびサイズを増分できる回数を指定します。記憶域サイズは、Kバイト(KB)単位で表現されます。

要素 1: 初期記憶域サイズ

3 最初、メッセージ待ち行列は3KBの記憶域を割り当てられています。(1KBは1024バイトの記憶域と等しいものです。)

初期Kバイト

待ち行列の初期サイズ（0より大であることが必要）を指定します。

要素 2：記憶域増分サイズ

次の1つを使用して、サイズを増分するたびにメッセージ待ち行列のサイズに追加される記憶域の量をキロバイトで指定します。

- 1 メッセージ待ち行列のサイズが増分されるたびに、1KBの記憶域がそのメッセージ待ち行列に追加されます。

増分値 メッセージ待ち行列のサイズが増分されるたびに追加されるKバイト数を指定してください。

要素 3：最大増分値

次の1つを使用して、メッセージ待ち行列のサイズを増分することができる最大回数を指定します。

***NOMAX**

メッセージ待ち行列に記憶域を追加できる回数は、ユーザーによって制限されません。最大サイズはシステムによって決定されます。

増分回数

記憶域を待ち行列に追加できる最大回数を指定してください。待ち行列の初期サイズに対して追加できないようにするためには、0を入力してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (**CRTAUT**) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUT パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。
*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

警報可能 (ALWALR)

作成する待ち行列がそこに送られる警報メッセージから警報が生成されることを許可するかどうかを指定します。

***NO** このメッセージ待ち行列から警報が生成されることを許可しません。

***YES** このメッセージ待ち行列から警報が生成されることを許可します。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

このメッセージ待ち行列と関連付けられているコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。このCCSIDは、即時メッセージと、変換可能な文字フィールド(*CCHAR)として定義されているメッセージ・データにのみ、適用されます。

***HEX** このメッセージ待ち行列に送られたり、このメッセージ待ち行列から受け取ったり、このメッセージ待ち行列から表示されるメッセージは、変換されません。このメッセージ待ち行列のCCSIDは65535です。

***MSG** このメッセージ待ち行列に送られたメッセージは変換されません。表示または受信機能で変換が必要になる場合に備えて、送信元ジョブによって指定されたCCSIDが保管されます。このメッセージ待ち行列のCCSIDは65534です。

***JOB** メッセージ待ち行列のCCSIDは、このコマンドを実行するジョブのCCSIDになります。

コード化文字セット識別コード

このメッセージ待ち行列と関連付けられたCCSIDを指定してください。このメッセージ待ち行列に送られたメッセージは、このCCSIDに変換されます。有効な値の範囲は1-65535です。有効なCCSIDの値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER

([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」情報を参照してください。

メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」トピックを参照してください。

トップ

メッセージ待ち行列満杯時処置 (MSGQFULL)

メッセージ待ち行列がいっぱいの時取る処置を指定してください。

*SNDMSG

メッセージ待ち行列が満杯の場合には、満杯のメッセージ待ち行列に対してメッセージを送信しているプログラムまたはユーザーにCPF2460（メッセージ待ち行列を拡張することはできません。）が**いっぱい**のメッセージ待ち行列にメッセージを送信しているプログラムまたはユーザーに対して送信されます。

*WRAP

メッセージ待ち行列が満杯の場合には、最も古い通知および回答済みメッセージから順にメッセージ待ち行列から除去され、新しいメッセージを追加するスペースが使用できるようになります。通知メッセージと応答済みメッセージを除去しても要求されたメッセージを追加する十分なスペースが得られない場合には、要求されたメッセージを追加するスペースができるまで、未応答の照会メッセージが除去されます。未回答の照会メッセージが除去される前に、省略時の応答が送られます。メッセージ待ち行列が折り返しされると、CPI2420またはCPI2421が**いっぱい**だった待ち行列に送られ、折り返されたことを示します。これらのメッセージを送るのに待ち行列に空きがない場合には、待ち行列にメッセージを送ったユーザーのジョブ・ログに送られ、待ち行列QSYSOPRが**いっぱい**の時にはQHSTに送られます。

注:

待ち行列が*WRAPを使用しており、ジョブがメッセージを送ると待ち行列が折り返される時には、折り返しを実行するために次の条件の場合にメッセージが除去されます。

- 待ち行列がジョブの中断モードまたは通知モードである。
- 待ち行列が待ち時間を指定された受け取り機能であったため、ジョブがメッセージ待機状態である。
- 待ち行列がALCOBJコマンドを経由してジョブにより割り振られる。

システム折り返し機能だけが、これらの条件の時に待ち行列からメッセージを除去できます。その他のジョブはまだ、これらの条件の時でも待ち行列からメッセージを除去することができません。*SNDMSGでは、これらの条件で他のジョブが待ち行列からメッセージを除去することはできません。

また、待ち行列が*WRAPを指定し、中断モードの時には、折り返し機能は中断処理プログラムが受け取ったメッセージだけを除去します。たとえば、中断処理プログラムが待ち行列からすべてのメッセージを受け取らないうちに**いっぱい**になるような場合には、折り返しを実行するためにメッセージを除去することができないので、CPF2460が出される場合があります。

トップ

CRTMSGQの例

```
CRTMSGQ  MSGQ(MYQ)  SIZE(3 3 *NOMAX)
          TEXT('MESSAGE QUEUE FOR INVENTORY TRANSACTIONS')
          AUT(*CHANGE)
```

このコマンドは、MYQという名前のメッセージ待ち行列を作成し、それを省略時の値によって現行ライブラリー(*CURLIB)に保管します。すべてのユーザーに、メッセージを待ち行列に送り、そのメッセージを読み取ることが許可されます。

メッセージ待ち行列は、3キロバイト(KB)の初期サイズで作成され、そのサイズは3 KBの増分で増加されます。その最大サイズに対する制限は、オブジェクトに対するシステムの限界であり、約16,000 KBとなります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTMSGQ

*ESCAPEメッセージ

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2402

ライブラリー&1が見つからない。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF2497

&2の&1のサイズがマシンの限界を超えている。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

ノード・グループの作成 (CRTNODGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・グループ作成(CRTNODGRP)コマンドは、分散データベース・ファイルの作成に使用されるノード・グループを作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NODGRP	ノード・グループ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
RDB	リレーショナル・データベース	値 (最大 32 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 2
PTNFILE	ファイルの区分化	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ファイルの区分化	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
PTNMBR	メンバーの区分化	名前, *FIRST	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *CHANGE , *ALL , *USE , *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

ノード・グループ(NODGRP)

作成されるノード・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ノード・グループ

名前 作成されるノード・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

ノード・グループがジョブの現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ノード・グループのライブラリーの名前を指定してください。

リレーショナル・データベース (RDB)

ノード・グループに入れるリレーショナル・データベースを指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 使用される各リレーショナル・データベースの名前を指定してください。リレーショナル・データベース名には最大18文字を指定することができます。これらは、RDBディレクトリー項目追加 (ADDRDBDIRE) コマンドを使用して前もってシステムのリレーショナル・データベース・ディレクトリーに定義しておかなければなりません。少なくとも2つのリレーショナル・データベース名を指定しなければなりません。その項目の1つはローカル・システムと対応していなければなりません。その他のすべての項目はリモートISERIESシステムと対応していなければなりません。最大32のリレーショナル・データベース名を指定することができます。

ノード・グループを作成する時には、指定された各リレーショナル・データベースにノード番号が割り当てられます。ノード番号は1から始めて、連続して割り当てられます。最初のリレーショナル・データベースにはノード番号1が割り当てられ、2番目のデータベースにはノード番号2が割り当てられます。ノード・グループが作成されると、DSPNODGRP(ノード・グループの表示) コマンドを使用して、ノード番号とリレーショナル・データベース名との対応を表示することができます。

トップ

ファイルの区分化(PTNFILE)

ノード・グループの区画属性の決定に使用されるファイルの名前を指定します。ノード・グループには、1024の区画をもつテーブルが入っています。各区画には、ノード番号が入っています。区画ファイルによって、1024の各区画のノード番号を設定することができます。区画ファイルの形式の詳細説明については、DB2マルチシステムOS/400用を参照してください。

修飾子1: ファイルの区分化

***NONE**

ノード・グループ・オブジェクトの区画属性の設定には、区画ファイルは使用されません。等しい数の区画に、有効なそれぞれのノード番号が割り当てられます。たとえば、2つのリレーショナル・データベースが指定された場合には、有効な2つのノード番号（1および2）が存在し、区画は等しく分割されるので、512の区画がノード番号1となり、他の512の区画がノード番号2となります。

名前 使用される区画ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

メンバーの区分化(PTNMBR)

ノード・グループの区画属性の決定に使用される区画ファイル中のメンバーを指定します。

*FIRST

区画ファイル内の最初のメンバーが使用されます。

名前 使用されるメンバーの名前を指定してください。

注: このパラメーターは、**ファイルの区分化(PTNFILE)**パラメーターに*NONEを指定した時には無効です。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

ノード・グループを簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を

実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

CRTNODGRPの例

例1:省略時の区分化のあるグループの作成

```
CRTNODGRP  NODGRP(LIB1/GROUP1)
           RDB(SYSTEMA SYSTEMB SYSTEMC SYSTEMD)
           TEXT('NODE GROUP FOR TEST FILES')
```

このコマンドは、4つのノードをもつノード・グループを作成します。区画属性の省略時の値では、各ノード番号に1/4の区画が割り当てられます。このノード・グループは、分散ファイルを作成するために物理ファイル作成(CRTPF) CLコマンドのNODGRPパラメーターで使用できます。作成され、このノード・グループを指定する分散ファイルは、4つのノード・システムにまたがるデータをもつこととなります。分散ファイル中のレコードに区画キーを構成するフィールドに一樣な値が配布されている場合には、レコードは、ノード・システム間で均等に広がります。

例2:特定の区分化をもつグループの作成

```
CRTNODGRP  NODGRP(LIB1/GROUP2) RDB(SYSTEMA SYSTEMB SYSTEMC)
           PTNFILE(LIB1/PTN1)
           TEXT('PARTITION MOST OF THE DATA TO SYSTEMA')
```

このコマンドは、3つのノードをもつノード・グループを作成します。区画属性は、PTN1という名前のファイルから取られます。このファイルは、特定のシステムに高いパーセンテージのレコード（または行）が必ず入れられるように設定できます。

トップ

エラー・メッセージ： CRTNODGRP

***ESCAPEメッセージ**

CPF3165

ライブラリー&2のノード・グループ&1を作成することができなかった。

トップ

ノード・リストの作成 (CRTNODL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・リスト作成(CRTNODL)コマンドによって、ユーザーはノード・リスト・オブジェクトを作成することができます。このオブジェクトは、ネットワーク内のシステムのセットを識別するノード名の記憶に使用されます。

注: ノード・リストは、システムのセットで実行したい操作を指示するために、システム機能で使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NODL	ノード・リスト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

ノード・リスト (NODL)

作成されるノード・リスト・オブジェクトの修飾名を指定します。

ノード・リスト名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

*CURLIB

ノード・リストはジョブの現行ライブラリー内に作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ノード・リストを作成したいライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ノード・リスト・オブジェクト名

作成したいノード・リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

ノード・リスト項目を簡単に記述するテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限がないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループにこのオブジェクトに対する特定の権限がないユーザーに認可する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトの共通認可は、ターゲット・ライブラリー（オブジェクトを入れるライブラリー）の CRTAUT値から取られます。この値はオブジェクトの作成時に決められます。オブジェクトの作成後にライブラリーのCRTAUT値が変更された場合に、新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるかまたはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御される操作を除くすべての操作を、ファイルに対して実行することができます。ユーザーはこのファイルに対して基本的な機能を実行することができ、またこのファイルを変更することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される以外のすべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの所有権を他に移すことができます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはオブジェクトにアクセスすることができません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

CRTNODLの例

例1:テキスト記述なしでのノード・リスト作成

```
CRTNODL  NODL(QGPL/NODL01)
```

このコマンドは、NODL01と呼ばれるライブラリーQGPLにノード・リストを作成します。ノード・リストにはQGPLに定義されたものと同じ共通認可があり、テキスト記述がありません。

例2:テキスト記述によるノード・リスト作成

```
CRTNODL  NODL(MYLIB/NODL02)  AUT(*EXCLUDE)
        TEXT('THIS IS MY NODE LIST NUMBER 2')
```

このコマンドは、共通*EXCLUDE権限を使用してライブラリーMYLIBにノード・リストNODL02を作成します。このノード・リストのテキスト記述は、「THIS IS MY NODE LIST NUMBER 2」です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTNODL

*ESCAPEメッセージ

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

NETBIOS記述の作成 (CRTNTBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NetBIOS記述作成(CRTNTBD)コマンドは、NetBIOS構成記述を作成します。この後、NetBIOSをサポートするIOPに対するネットワーク・サーバー記述などの構成オブジェクトで、このオブジェクトからNetBIOSパラメーターを参照することができます。

このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011) ブックにあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NTBD	NETBIOS記述	名前	必須, 定位置 1
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
FULLBUFDTG	フル・バッファ・データグラム	*YES, *NO	オプション
ADPWDWITV	最適ウィンドウ間隔	0-65535, 1000	オプション
MAXWDWERR	最大ウィンドウ・エラー	0-10, 0	オプション
MAXRCVDATA	最大受信データ・サイズ	512-16384, 4168	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1000-65535, 30000	オプション
RSPTMR	応答タイマー	50-65535, 500	オプション
ACKTMR	肯定応答タイマー	50-65535, 200	オプション
MAXIN	最大未処理受信	1-127, 1	オプション
MAXOUT	最大未処理送信	1-127, 1	オプション
QRYTMR	QUERYタイムアウト	500-10000, 500	オプション
NTBRTY	NETBIOS再試行	1-50, 8	オプション
ALWMULTACK	複数肯定応答可能	*YES , *NO	オプション
PREBLTPKT	メッセージ・パケット事前作成	1-200, 5	オプション
PKTRESTART	パケット再始動の確認	0-9999, 2	オプション
DLCRTY	DLC再試行	1-65535, 5	オプション
ETHSTD	イーサネット標準	*IEEE8023 , *ETHV2	オプション
AUT	権限	*CHANGE , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

NETBIOS記述 (NTBD)

作成中のNetBIOS構成オブジェクトの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

NetBIOS記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

フル・バッファ・データグラム (FULLBUFDTG)

データグラムの完全な送信バッファ・サイズを要求するかどうかを指定します。

***NO** 完全な送信バッファ・サイズは要求されません。データグラムの長さは、送信バッファのサイズからオーバーヘッドを引いた値に等しくなります (最大512バイト)。大きなメッセージは切り捨てられます。

注: オーバーヘッドのサイズは、NetBIOSヘッダー(44バイト)、LANヘッダー (最大36バイト)、およびバッファ保留オーバーヘッド (最大6バイト) のサイズの合計です。

***YES** 完全な送信バッファ・サイズが要求されます。

[トップ](#)

最適ウィンドウ間隔 (ADPWDWITV)

最適ウィンドウ・アルゴリズムの実行から実行までの間の時間 (ミリ秒) を指定します。それぞれのリンクで、このアルゴリズムはMAXINおよびMAXOUTパラメーターの値を変更して、NetBIOSプロトコルを使用しているリモート・ワークステーションに設定された値と一致するように変更されます。このアルゴリズムは、値を変更する時にアダプター受信バッファおよび送信ロードを含むリンクの条件を考慮します。

1000 最適ウィンドウ・アルゴリズムの実行相互間の時間は1000ミリ秒です。

最適ウィンドウ間隔

アルゴリズムの実行間の時間 (ミリ秒) を指定してください。有効な値の範囲は0 - 65535です。

注: 値0は、アルゴリズムを使用不能にします。

[トップ](#)

最大ウィンドウ・エラー (MAXWDWERR)

MAXOUTパラメーターの値を小さくする前に、最適ウィンドウ・アルゴリズムで許容される除去パケット数を指定します。

0 除去されるパケットの数は0です。

ウィンドウ・エラー

許容されるウィンドウ・エラーの数を指定してください。有効な値の範囲は0-10 です。

[トップ](#)

最大受信データ・サイズ (MAXRCVDATA)

セッションで受信できるフレームの最大データ・サイズを指定します。送信のパートナーは、この指定サイズまたはパートナーの送信バッファで利用可能なサイズの小さい方に制限します。NetBIOSは、パスのブリッジによって転送される最大サイズを考慮に入れます。

4168 受信できる最大データ・サイズは4168バイトです。

最大受信データ・サイズ

受信可能な最大データ・サイズ（バイト数）を指定してください。有効な値の範囲は512-16384です。

[トップ](#)

非活動タイマー (INACTTMR)

リンクが使用可能であることをNetBIOSプロトコル・ドライバーが確認する前に、リンクを非活動化できる時間の長さを指定します。

30000 リンクは30000ミリ秒の間非活動化することができます。

非活動タイマー

活動待機時間（ミリ秒）を指定してください。有効な値の範囲は1000-65535です。

[トップ](#)

応答タイマー (RSPTMR)

前の送信からの肯定応答が受信されない場合に、リンク・レベルのフレームを再送信するまでに待機する時間の長さを指定します。

500 NetBIOSプロトコル・ドライバーは500ミリ秒待機します。

応答タイマー

待機時間（ミリ秒）を指定してください。有効な値の範囲は50-65535です。

[トップ](#)

肯定応答タイマー (ACKTMR)

送信フレーム数がMAXINパラメーターに指定された最大値より小さい場合に、NetBIOSプロトコル・ドライバーが受信フレームの肯定応答を遅延する時間の長さを指定します。

200 ドライバーは200ミリ秒間遅延します。

肯定応答タイマー

遅延時間（ミリ秒）を指定してください。有効な値の範囲は50-65535です。

[トップ](#)

最大未処理受信 (MAXIN)

肯定応答を送信する前に受信できるNetBIOSメッセージ・パケットの最大数を指定します。

1 肯定応答は1パケットの受信語に送信されます。

最大受信数

受信するパケット数を指定してください。有効な値の範囲は1-127です。

[トップ](#)

最大未処理送信 (MAXOUT)

肯定応答を必要とする前に送信できるNetBIOSメッセージ・パケットの最大数を指定します。

注: このパラメーターはADPWDWITV(0)が指定された時にだけ使用されます。

1 肯定応答は1パケットの送信後に予定されます。

最大伝送数

送信するパケット数を指定してください。有効な値の範囲は1-127です。

[トップ](#)

QUERYタイムアウト (QRYTMR)

送信再試行間で待機する時間（ミリ秒）を指定します。

500 待機する時間は500ミリ秒です。

照会タイムアウト

500-10000ミリ秒の範囲内の値を指定してください。

[トップ](#)

NETBIOS再試行 (NTBRTY)

受信パーティーが存在しないと見なす前にNetBIOSレベルで試みられる送信再試行回数を指定します。

8 再試行回数は8です。

NetBIOS再試行回数

1-50回の試行の範囲内の値を指定してください。

[トップ](#)

複数肯定応答可能 (ALWMULTACK)

受信データの肯定応答をデータ要求と結合できるかどうかを指定します。

注: NetBIOSプロトコル・ドライバーが着信データと一緒に肯定応答を送信および受信すると、LANのパフォーマンスが改善されます。

***YES** 肯定応答をデータ要求と結合することができます。

注: 両方の送信パーティーが肯定応答とデータ要求の結合をサポートしていなければなりません。そうでなければこの値は無視されます。

***NO** 肯定応答をデータ要求と結合することはできません。

[トップ](#)

メッセージ・パケット事前作成 (PREBLTPKT)

それぞれのセッションに対して事前構築されるNetBIOSメッセージ・パケットの数を指定します。

5 NetBIOSメッセージ・パケットの数は5です。

事前構築パケット

1-200の範囲内のメッセージ・パケットの値を指定してください。

[トップ](#)

パケット再始動の確認 (PKTRESTART)

資源不足条件が起こった時に、追加のパケットを送信する前に受信しなければならない送信確認の数を指定します。NetBIOSプロトコル・ドライバーは、ポートから資源不足条件を受け取ると、パケットの送信を停止します。

2 送信確認の最大数は2です。

パケット再開始

送信確認の数を指定してください。有効な値の範囲は0 - 9999です。

[トップ](#)

DLC再試行 (DLCRTY)

受信データ・リンク制御(DLC)層が応答しないと見なすまでに行なわれる追加の送信の試行回数を指定します。

5 追加の送信試行回数は5です。

DLC再試行

1-65535の範囲内の値を指定してください。

イーサネット標準 (ETHSTD)

NetBIOS通信に使用されるETHERNET標準フレーム・タイプを指定します。

*IEEE8023

IEEE 802.3フレームが使用されます。

*ETHV2

ETHERNETバージョン2フレームが使用されます。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

CRTNTBDの例

CRTNTBD NTBD(MYNETBIOS) ADPWDWITV(6000)

このコマンドは、アダプター・ウィンドウ・アルゴリズムが6000ミリ秒（6秒）ごとに実行されることを指定するMYNETBIOSという名前のNETBIOS記述を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTNTBD

*ESCAPEメッセージ

CPF26C3

エラーが原因でIPX記述&1は作成されなかった。

CPF27A6

NETBIOS記述&1はエラーが原因で作成されなかった。

[トップ](#)

NETWAREボリュームの作成 (CRTNTWVOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWAREボリューム作成(CRTNTWVOL)コマンドは、指定されたネットワーク・サーバーのためのボリュームを作成します。このコマンドの実行時には、ネットワーク・サーバーが活動状態になっていなければなりません。スペースは装置番号から割り振られます。

このコマンドでは、次のことが行われます。

1. 指定された装置上に、物理ボリュームが作成されます。
2. NETWARE 4+の場合には、物理ボリュームを表すボリューム・オブジェクトがNDS (NETWAREディレクトリー・サービス) ツリーに自動的に入れられます。ボリューム・オブジェクトは、ネットワーク・サーバーを表すサーバー・オブジェクトと同じコンテナに入れられます。
3. 指定された場合には、ボリュームが取り付けられます。

NETWAREボリュームには、次の制約事項が適用されます。

- 装置当たり最大8セグメントを使用することができます。装置には、同じボリュームまたは異なるボリュームの組み合わせから最大8セグメントを含めることができます。
- ボリューム当たり最大32セグメント使用することができます。CRTNTWVOLは最初のセグメントを作成します。NETWAREボリューム変更(CHGNTWVOL)コマンドは、最大31回使用してセグメントを追加することができます。
- サーバー当たり最大64の取り付け済みボリュームを使用することができます。

制約事項:このコマンドを使用するためには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム	文字値	必須, 定位置 1
SERVER	サーバー	文字値	必須, 定位置 2
SIZE	ボリュームのサイズ	1-8000, <u>*MAXAVAIL</u>	オプション
DEVNBR	装置番号	文字値	オプション
SEGNBR	セグメント番号	0-14, <u>*ANY</u>	オプション
BLKSIZE	ブロック・サイズ	<u>*DFT</u> , 4, 8, 16, 32, 64	オプション
DTACPR	データ圧縮	<u>*YES</u> , *NO	オプション
BLKSUBALC	ブロックのサブ割り振り	<u>*YES</u> , *NO	オプション
MOUNT	取り付け	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TEXT	テキスト	文字値, <u>*VOL</u>	オプション

[トップ](#)

ボリューム (VOL)

作成する物理ボリュームを指定します。省略時の値では、NDSツリーに入れられたボリューム・オブジェクトの名前は**サーバー名_ボリューム名**になります。ボリューム名は、2-15桁の長さで、ディレクトリー・ツリーの中で固有のものでなければなりません。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

ボリュームが作成されるサーバーを指定します。このコマンドの実行時には、このネットワーク・サーバーが活動状態になっていなければなりません。

[トップ](#)

ボリュームのサイズ (SIZE)

作成するボリュームのサイズ（メガバイト数）を指定します。

***MAXAVAIL**

指定された装置上の隣接したフリー・スペースの最大区域のサイズを使用します。

1-8000

ボリュームのサイズ（メガバイト数）を指定してください。指定するサイズは、装置上の隣接したフリー・スペースの最大区域より大きくてはなりません。

[トップ](#)

装置番号 (DEVNBR)

そこから新しいボリュームのための記憶域が割り振られる装置番号を指定します。0-99の値を指定することができます。使用可能な装置番号を検索するには、NETWAREボリューム処理(WRKNTWVOL)コマンドを使用してください。

[トップ](#)

セグメント番号 (SEGNBR)

新しいボリュームを割り振るセグメントの数を指定します。

***ANY** 要求された使用可能なサイズがある最初のセグメントを使用します。

0-14 新しいボリュームの記憶域を割り振るセグメントの数を指定します。WRKNTWVOL (F10=セグメントの表示) を使用して、使用可能なセグメントを判別します。

[トップ](#)

ブロック・サイズ (BLKSIZE)

ボリューム内のデータのブロック・サイズを指定します。ブロックが作成された後は、この値を変更することはできません。ボリューム・ブロックは、サーバーがボリューム内でアクセスできるデータの最小部分です。ブロック・サイズが大きいほど、潜在的に無駄になるメモリーが多くなります。しかし、ファイルの大部分が非常に大きい場合には、大きなブロック・サイズほど効率的なことがあります。ブロックのサブ割り振りの調整が、無駄を最小限にするのに役立ちます。ブロックの2次割り振りは**ブロックのサブ割り振り (BLKSUBALC)**パラメーターによって制御されます。

***DFT** NETWAREが省略時の値によって指定されたボリュームのサイズと見なしたブロック・サイズを使用するように指定します。

ブロック・サイズ

データのブロック・サイズ（キロバイト数）を指定します。有効な値は4, 8, 16, 32, および64キロバイトです。

[トップ](#)

データ圧縮 (DTACPR)

このボリュームについてデータ圧縮を使用可能にするかどうかを指定します。ボリュームについてデータ圧縮が一度でもオンにされた場合には、それをオフに変えることはできないことに注意してください。

***YES** このボリュームについてデータ圧縮が使用可能にされます。

***NO** このボリュームについてデータ圧縮は使用可能にされません。

[トップ](#)

ブロックのサブ割り振り (BLKSUBALC)

このボリュームについてブロックのサブ割り振りを使用可能にするかどうかを指定します。ボリュームについてブロックのサブ割り振りが一度でもオンにされた場合には、それをオフに変えることはできないことに注意してください。

***YES** このボリュームについてブロックのサブ割り振りが使用可能にされます。

***NO** このボリュームについてブロックのサブ割り振りは使用可能にされません。

[トップ](#)

取り付け (MOUNT)

このボリュームが作成されると同時に取り付けるかどうか指定します。取り付け済みの各ボリュームはサーバー・メモリーの一部を使用するので、ほとんど使用されないボリュームは取り付けないようにしてください。ボリュームは、サーバーが活動状態である間に取り付けまたは取り外すことができます。

***YES** ボリュームが作成されて、取り付けられます。

***NO** ボリュームは作成されますが、取り付けられません。

[トップ](#)

テキスト (TEXT)

ボリュームを簡単に記述するテキストを指定します。

***VOL** ボリュームの記述にボリューム名が使用されます。

文字値 50桁を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定してください。

[トップ](#)

CRTNTWVOLの例

例1:物理ボリュームを作成します

```
CRTNTWVOL VOL(APPS) SERVER(SERVER1) NWSSTG(STGSPACE1)
```

このコマンドは、ネットワーク・サーバー記憶域スペース上で使用可能な最大の連続したフリー・スペースのサイズで、ネットワーク・サーバーSERVER1用に物理ボリュームAPPSを作成します。SERVER1はローカル・サーバー（ローカル・システム上に定義されたタイプ*NETWAREのNWSD)です。この記憶域は、記憶域スペースSTGSPACE1から割り振られます。SERVER1_APPSというボリューム・オブジェクトがNDSツリーに入れられます。省略時の値によってボリュームがマウントされます。

例2:特定のサイズでボリュームを作成します

```
CRTNTWVOL VOL(VOL1) SERVER(SERVER2) DEVNBR(9)
          SIZE(50) DTACPR(*YES) MOUNT(*NO)
```

このコマンドは、ネットワーク・サーバーSERVER2用に50メガバイトのサイズで物理ボリュームVOL1を作成します。このサーバーは、ローカルまたはリモートとすることができます。この記憶域は、装置番号9から割り振られます。SERVER2_VOL1というボリューム・オブジェクトがNDSツリーに入れられます。このボリュームについてデータ圧縮が使用可能になり、ボリュームはマウントされません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTNTWVOL

***ESCAPE** メッセージ

FPE0107

ボリューム&1が作成されなかった。

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェースの作成(FR) (CRTNWIFR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース (フレーム・リレー・ネットワーク) 作成(CRTNWIFR)コマンドは、フレーム・リレー(FR)ネットワークのネットワーク・インターフェースを作成します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWID	ネットワーク・インターフェース記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES , *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
DLCI	データ・リンク接続ID	単一値: *NONE その他の値 (最大 256 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: DLCI番号	1-1018	
	要素 2: 回線記述	名前	
NRZI	NRZIデータ・エンコード	*NO , *YES	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	*RS449V36 , *V35, *X21	オプション
CLOCK	刻時	*MODEM , *LOOP, *INVERT	オプション
LINESPEED	回線速度	56000-2048000, 56000, 64000, 128000, 192000, 256000, 320000, 384000, 448000, 512000, 1024000, 1536000 , 2048000	オプション
LMIMODE	LMIモード	*TE , *FH, *NONE, *ANNEXA	オプション
POLLITV	ポーリング間隔	5-30, 10	オプション
FULLINQITV	全面照会間隔	1-255, 6	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, 2	
	要素 2: 時間間隔	0-120, 5	
AUT	権限	名前, *CHANGE , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)

これは必須パラメーターです。

ネットワーク・インターフェース記述の名前を指定します。

ネットワーク・インターフェース記述名

ネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

これは必須パラメーターです。

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。通信ポートの資源名を指定してください。資源名は入出力アダプター(IOA)の資源名とIOAのポート番号から構成されています。たとえば、IOAの資源名がLIN01で、IOA上のポートが1である場合には、資源名はLIN011となります。

資源名 資源名を指定してください。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** ネットワーク・インターフェースは初期プログラム・ロード(IPL)時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** このネットワーク・インターフェースは、IPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

ネットワーク・インターフェースのオンへの構成変更が非同期で行われるか同期で行われるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。ネットワーク・インターフェースは非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15-180です。システムは、構成変更(VRYCFG)コマンドを完了する前に、ネットワーク・インターフェースがオンに構成変更されるまで、あるいは指定された時間が過ぎるまで、待機します。

注:

1. ネットワーク・インターフェース記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響し、ONLINE(*YES)が使用される場合には、ネットワーク・インターフェースを同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. ネットワーク・インターフェースをオンに構成変更するのに要する時間は、ネットワーク・インターフェースを管理するようにタスクを準備し、通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化し(IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードを含む)、データ回線終端装置(DCE)との通信を確立するのにかかる時間です。オンへの構成変更にかかる時間は通常5-45秒ですが、これより長くかかることもあり、システム、ネットワーク・インターフェース・プロトコル、およびその他の要因によって決まります。

トップ

データ・リンク接続ID (DLCI)

作成するフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェースの回線記述のデータ・リンク接続識別コードを指定します。

***NONE**

データ・リンク接続識別コードは指定されません。

要素1: DLCI番号

DLCI番号

回線のDLCI番号を指定してください。

要素2:回線記述

回線記述

DLCI回線記述を指定してください。

トップ

NRZIデータ・エンコード (NRZI)

データ・ストリームで特定のビット・パターンを感知可能なモデムで、非ゼロ復帰逆転記録方式(NRZI)データ・エンコードを使用するかどうかを指定します。これにより、信号が長時間同じ状態にとどまることはなくなります。

注: 回線上のすべてのデータ通信装置は同じ伝送方式を使用しなければなりません。

***NO** NRZIデータ・エンコードは使用されません。

***YES** NRZIデータ・エンコードが使用されます。

トップ

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

***RS449V36**

RS-499/V.36物理インターフェースが使用されます。この値はフレーム・リレーおよびSDLCリンクの場合にのみ有効です。

***V35** V.35物理インターフェースが使用されます。この値はフレーム・リレー、BSC,およびSDLCリンクの場合にのみ有効です。

***X21** X.21物理インターフェースが使用されます。この値はフレーム・リレー、X.25,およびSDLCリンクの場合にのみ有効です。

[トップ](#)

刻時 (CLOCK)

ネットワーク・インターフェースに刻時機能が提供される方式を指定します。

***MODEM**

モデムが刻時を提供します。

***LOOP**

システムがモデムからの刻時を逆転し、それを回線上で送信刻時として使用します。

***INVERT**

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供されている伝送クロックが使用前に逆転されます。高速データ伝送に問題があり、モデム(DCE)が折り返されたクロックをサポートしない場合には、このオプションを使用することができます。

[トップ](#)

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

1536000

回線速度は1536000 BPSです。

56000 回線速度は56000 BPSです。

64000 回線速度は64000 BPSです。

128000

回線速度は128000 BPSです。

192000

回線速度は192000 BPSです。

256000

回線速度は256000 BPSです。

320000

回線速度は320000 BPSです。

384000

回線速度は384000 BPSです。

448000

回線速度は448000 BPSです。

512000

回線速度は512000 BPSです。

1024000

回線速度は1024000 BPSです。

1536000

回線速度は1536000 BPSです。

2048000

回線速度は2048000 BPSです。

回線速度

回線速度を指定してください。有効な値の範囲は56000 BPSから2048000 BPSまでです。

[トップ](#)

LMIモード (LMIMODE)

このアダプターのローカル管理インターフェース(LMI)が端末装置として構成されるかあるいはフレーム・ハンドラーとして構成されるかを指定します。

***TE** ローカル・システムは、端末装置としてフレーム・リレー・ネットワークとインターフェースするように構成されます。フレーム・リレー・ネットワークは、AS/400リンク管理フレームとの互換性を持つために、ANSI T1.617 ANNEX Dで作動するように設定されていなければなりません。

***FH** ローカル・システムは、フレーム・ハンドラーとして別のシステムとインターフェースするように構成されます。この構成では、ローカル・システムはフレーム・リレー・ネットワークとして働くこととなります。

*ANNEXA

ローカル・システムは、端末装置としてフレーム・リレー・ネットワークとインターフェースするように構成されます。フレーム・リレー・ネットワークは、OS/400リンク管理フレームとの互換性を持つために、ITU (以前はCCITT) Q.933 ANNEX Aとして動作しなければなりません。

*NONE

ローカル・システムは、LMI機能を実行することなしにフレーム・リレー・ネットワークまたは別のシステムとインターフェースするように構成されます。

[トップ](#)

ポーリング間隔 (POLLITV)

ポーリング・サイクルの率を指定します。ポーリング・サイクルは状況照会メッセージと状況メッセージ交換から構成されます。状況メッセージはDLCIの状況を含みます。

10 10秒のポーリング間隔が使用されます。

ポーリング間隔

使用するポーリング間隔を指定してください。有効な値の範囲は5-30秒です。

[トップ](#)

全面照会間隔 (FULLINQITV)

満杯状況照会が要求される前に行なわれるポーリング・サイクルの数を指定します。

6 6 ポーリング・サイクルの満杯照会間隔が使用されます。

満杯照会間隔

要求する満杯状況サイクルのポーリング・サイクルの数を指定してください。有効な値の範囲は1-255です。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

ネットワーク・インターフェースを簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2 指定された間隔内に回復が2回試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は0-99です。

要素2:回復時間間隔

5 5秒のタイムアウト期間が使用されます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0-120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

その他の単一値

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値に指定された回復限界が使用されます。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

CRTNWIFRの例

```
CRTNWIFR  NWID(THISONE)  RSRcname(LINE031)
          ONLINE(*YES)  VRYWAIT(15)
          DLCI((32 LINEABC) (409 LINEDEF) (94 LINELAST))
          INTERFACE(*V35)  LMIMODE(*TE)
```

このコマンドは、フレーム・リレー・ネットワーク・インターフェースTHISONEを作成します。THISONEは、LINE031という名前の資源を表します。THISONEは、15秒というオンに構成変更待ち時間で初期プログラム・ロード(IPL)時にオンに構成変更されます。これは3つのDLCI (32, 409,および94)で作成されますが、それぞれ回線記述LINEABC, LINEDEF,およびLINELASTを示します。THISONEによって指定された入出力アダプター(IOA)ポートの物理インターフェースのタイプは*V35です。ローカル管理インターフェース・モードは、端末装置(TE)としてフレーム・リレー・ネットワークとのインターフェースとなるように構成されます。

エラー・メッセージ： CRTNWIFR

*ESCAPEメッセージ

CPF27A0

エラーのためにネットワーク・インターフェース記述&1は作成されなかった。

ネットワーク・サーバー記述の作成 (CRTNWS D)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記述作成(CRTNWS D)コマンドは、ネットワーク・サーバーの記述を作成します。この記述には、サーバー・ソフトウェア・パラメーター、ネットワーク・プロトコル記述、および接続された通信装置の定義（たとえば回線記述）が含まれます。

このコマンドは、初期サーバー構成の作成に必要なすべてのステップが組み込まれているネットワーク・サーバー構成(CFGNWS)メニューから実行しなければなりません。

このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011) ブックにあります。

ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*WINDOWSNTが指定されている時のこのコマンドの使用に関する詳細は、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるIBM ISERIES INTEGRATION FOR WINDOWS SERVER—SETUPの情報にあります。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWS D	ネットワーク・サーバー 記述	通信名	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NONE, *AUTO	必須, 定位置 2
TYPE	ネットワーク・サーバー・タイプ	*WINDOWSNT, *GUEST	オプション, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	1-15, *NOWAIT	オプション
SHUTDTIMO	シャットダウン・タイムアウト	2-45, 15	オプション
PARTITION	区画	文字値, *NONE	オプション
PTNNBR	区画番号	整数, *NONE	オプション
DMNROLE	ドメインの役割	*DMNCTL, *BKUCTL, *SERVER	オプション
PRPDMNUSR	ドメイン・ユーザーの伝搬	*YES, *NO	オプション
LNGVER	言語バージョン	整数, *PRIMARY	オプション
CODEPAGE	コード・ページ	整数, *LNGVER	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	サーバー・メッセージ待ち行列	単一値: *JOBLOG , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サーバー・メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
EVTLOG	事象ログ	単一値: *ALL , *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *SYS, *SEC, *APP	オプション
CFGFILE	構成ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 構成ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SVRSTGSIZE	サーバー記憶スペースのサイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: ソース導入サイズ	整数, *DFT	
	要素 2: システム・サイズ	整数, *DFT	
SVRSTGASP	サーバー記憶スペースASP	要素リスト	オプション
	要素 1: ソース導入ASP	1-255, 1	
	要素 2: システム ASP	1-255, 1	
STGASPDEV	サーバー記憶域ASP装置	要素リスト	オプション
	要素 1: ソースASPの導入	名前	
	要素 2: システムASP装置	名前	
TCPPOPCFG	TCP/IPポート構成	単一値: *NONE その他の値 (最大 9 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート	1, 2, 3, 4, *INTERNAL, *VRTETHPTP, *VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: インターネット・アドレス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値	
	要素 4: 最大伝送 単位	整数, 1500	
	要素 5: ゲートウェイ・アドレス	文字値	
TCP RTE	TCP/IP経路構成	単一値: *NONE その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 経路宛先	文字値, *DFTRROUTE	
	要素 2: サブネット・マスク	文字値, *NONE, *HOST	
	要素 3: 次のホップ	文字値	
TCPHOSTNAM	TCP/IPローカル・ホスト名	文字値, *NWSD	オプション
TCPDMNNAME	TCP/IPローカル・ドメイン名	文字値, *SYS	オプション
TCPNAMSVR	TCP/IP ネーム・サーバー・システム	単一値: *SYS , *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): 文字値	オプション
PORTS	ポート	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート番号	1-2, *INTERNAL, *VRTETHPTP, *VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: 回線記述	名前	

キーワード	記述	選択項目	注
RSTDDEVRSC	制約された装置資源	単一値: *NONE , *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 名前, *ALLTAPE, *ALLOPT	オプション
SYNCTIME	日付および時刻の同期化	*TYPE , *YES, *NO	オプション
IPLSRC	IPLソース	*NWSSTG , *PANEL, *STMF, A, B, D	オプション
IPLSTMF	IPLストリーム・ファイル	パス名, *NONE	オプション
IPLPARM	IPLパラメーター	文字値, *NONE	オプション
PWRCTL	電源制御	*YES , *NO	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

トップ

ネットワーク・サーバー 記述 (NWS D)

作成されるネットワーク・サーバー記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

通信名 ネットワーク・サーバー記述の名前を指定してください。名前は有効な通信名でなければなりません。名前をコード・ポイントX'5B'の文字で終わらせることはできません。その文字はASCII文字セットの円記号(¥)文字に変換されるので、ネットワーク・サーバーが円記号(¥)で終わる名前をもつことはできません。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立つために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。ファイル・サーバーの入出力プロセッサ(IOP)または入出力アダプター(IOA)の資源名を指定してください。

*NONE

ハードウェア資源はネットワーク・サーバーと関連していません。この値が有効となるのは、ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTが指定されている時だけです。

*AUTO

ハードウェア資源は、区画に基づいて決定されます。この値が有効となるのは、ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTのTYPEが指定されている時だけです。

名前 資源名を指定してください。

トップ

ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)

作成するネットワーク・サーバー記述のタイプを指定します。

*WINDOWSNT

WINDOWSネットワーク・サーバー記述を作成してください。

*GUEST

論理区画で実行中のゲスト・オペレーティング・システムのネットワーク・サーバー記述を作成します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

注:

1. ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*WINDOWSNTが指定されている時には、このパラメーターは無視されます。WINDOWSサーバーをオンに構成変更するには、TCP/IPインターフェース変更(CHGTCPIFC)コマンドを使用し、AUTOSTARTパラメーターを専用LAN回線記述用に*YESに設定してください。
2. ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTが指定されている時には、*NOの構成をお勧めします。これで、IPL処理が完了すると、サーバーをオンに構成変更するために、始動プログラムが呼び出されます。
3. 複数のネットワーク・サーバー記述がファイル・サーバー資源に作成されている場合には、ONLINE(*YES)を指定するネットワーク・サーバー記述は1つだけにしてください。複数のネットワーク・サーバー記述にONLINE(*YES)を指定すると、アルファベット順で最初の記述だけがIPL時にオンに構成変更されます。

***YES** ネットワーク・サーバーは、IPL時に自動的にオンに構成変更されます。ネットワーク・サーバーに接続されたすべての構成オブジェクトもオンに構成変更されることになります。

***NO** このネットワーク・サーバーは、IPL時に自動的にオンに構成変更されることはありません。

[トップ](#)

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

ネットワーク・サーバーを非同期と同期のどちらでオンに構成変更するかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

注: ネットワーク・サーバーをオンに構成変更するとIOPがリセットされます。オンに構成変更待機時間は、リセット時間に加える時間を指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。ネットワーク・サーバー記述は非同期でオンに構成変更されます。

- 1-15** 待機する分数を指定してください。構成変更(VRYCFG)コマンドの完成の前に、ネットワーク・サーバーをオンに構成変更するまで、あるいは指定された時間が経過するまで、システムは待機します。

[トップ](#)

シャットダウン・タイムアウト (SHUTDTIMO)

ネットワーク・サーバーのシャットダウン・タイムアウト値を分数で指定します。この値は、ネットワーク・サーバーがオフラインに変更されるまでに、ネットワーク・サーバーのオペレーティング・システムのシャットダウンに許される時間を制限するために使用されます。

- 15** 15分という遮断タイムアウト値が使用されます。
- 2-45** 待機する分数を指定してください。システムは、ネットワーク・サーバーのオペレーティング・システムが正常に遮断するか、ネットワーク・サーバーがオフラインに構成変更される前に指定時間が経過するまで待機します。

[トップ](#)

区画 (PARTITION)

このネットワーク・サーバーによって使用される論理区画の名前を指定します。最大48文字を指定することができます。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTを指定したときには、区画名(PARTITION)か区画番号(PTNNBR)のいずれかを指定できますが、両方のパラメーターを指定することはできません。 ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTを指定し、RSRCNAMEを指定したときには、区画名(PARTITION)および区画番号(PTNNBR)を*NONEに設定できます。

*NONE

区画名は、このネットワーク・サーバーによって使用されません。

名前 このネットワーク・サーバーによって使用される区画の名前を指定してください。区画名PRIMARYを指定することはできません。

[トップ](#)

区画番号 (PTNNBR)

このネットワーク・サーバーによって使用される論理区画の番号を指定します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTを指定したときには、区画名(PARTITION)か区画番号(PTNNBR)のいずれかを指定できますが、両方のパラメーターを指定することはできません。 ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTを指定し、RSRCNAMEを指定したときには、区画番号(PTNNBR)および区画名(PARTITION)を*NONEに設定できます。

*NONE

区画番号は、このネットワーク・サーバーによって使用されません。

整数 このネットワーク・サーバーによって使用される区画の番号を指定してください。

ドメインの役割 (DMNROLE)

このネットワーク・サーバーによって実行されるドメイン制御装置の役割を指定します。

注: このパラメーターは、ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTが指定されている時には無効です。

*DMNCTL

このネットワーク・サーバーは、そのドメイン内のドメイン制御装置です。

*BKUCTL

このネットワーク・サーバーは、そのドメイン内のバックアップ制御装置です。

*SERVER

このネットワーク・サーバーは、独立サーバーです。

トップ

ドメイン・ユーザーの伝搬 (PRPDMNUSR)

このネットワーク・サーバー記述でドメイン・ユーザー登録を許可するかどうかを指定します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTが指定されている時には、このパラメーターは無視されます。

***YES** ドメイン・ユーザー登録の伝搬が許可されます。

***NO** ドメイン・ユーザー登録の伝搬が許可されません。

トップ

言語バージョン (LNGVER)

ネットワーク・サーバー・プロダクトの言語バージョンを指定します。言語バージョンを変更するためには、所要の言語を指定した新しいネットワーク・サーバー記述を作成しなければなりません。

注: このパラメーターは、ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTが指定されている時には無効です。

*PRIMARY

現在導入済みの1次各国語の言語バージョンが使用されます。

整数 使用されるネットワーク・サーバー・プロダクトの言語バージョンを指定してください。この言語は、ネットワーク・サーバー・プロダクトの導入済みバージョンの1つでなければなりません。導入されている言語を判別するには、「ライセンス・プログラム(LICPGM)の処理」メニューを使用してください。言語バージョンは、コマンドに整数値として入力します。

サポートされる言語バージョン値には次のものがあります。

2902 エストニア語

2903 リトアニア語

- 2904 ラトビア語
- 2909 ベルギー英語
- 2911 スロベニア語
- 2912 クロアチア語
- 2914 セルビア語
- 2922 ポルトガル語
- 2923 オランダ語
- 2924 英大文字および小文字
- 2925 フィンランド語
- 2926 デンマーク語
- 2928 フランス語
- 2929 ドイツ語
- 2931 スペイン語
- 2932 イタリア語
- 2933 ノルウェー語
- 2937 スウェーデン語
- 2938 DBCSの英大文字サポート
- 2939 ドイツ語多国語文字セット
- 2940 フランス語多国語文字セット
- 2942 イタリア語多国語文字セット
- 2950 英語大文字
- 2954 アラビア語
- 2956 トルコ語
- 2957 ギリシャ語
- 2958 アイスランド語
- 2961 ヘブライ語
- 2962 日本語DBCS
- 2963 ベルギー・オランダ語各国間共通文字セット
- 2966 ベルギー・フランス語各国間共通文字セット
- 2972 タイ語
- 2974 ブルガリア語
- 2975 チェコ語
- 2976 ハンガリー語
- 2978 ポーランド語
- 2979 ロシア語
- 2980 ブラジル・ポルトガル語

- 2981 カナダ・フランス語各国間共通文字セット
- 2984 DBCS英大文字および小文字サポート
- 2986 韓国語DBCS
- 2987 中国語（繁体字）DBCS
- 2989 中国語（簡体字）DBCS
- 2992 ルーマニア語
- 2994 スロバキア語
- 2995 アルバニア語
- 2996 ポルトガル語多国語文字セット
- 2998 ペルシア語

詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER
([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「グローバリゼーション」トピックを参照してください。

トップ

コード・ページ (CODEPAGE)

このネットワーク・サーバーによって使用される文字セットを表すASCIIコード・ページを指定します。指定の国別または地域コードには、特定のコード・ページだけを使用することができます。

*LNGVER

選択した言語バージョン(LNGVER)と対応する省略時のコード・ページを使用することを指定します。ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTが指定されているときには、値437が使用されます。

整数 ネットワーク・サーバーによって使用される文字セットを表すASCIIコード・ページを指定してください。各国別または地域コードで使用できるコード・ページ値は、次の通りです。

- 437 米国
- 850 多国語
- 852 ラテン語2 (チェコスロバキア, ハンガリー, ポーランド, 旧ユーゴスラビアの各国)
- 857 トルコ語
- 860 ポルトガル語
- 861 アイスランド
- 862 ヘブライ語圏
- 863 カナダ (フランス語圏)
- 864 アラビア語圏
- 865 北欧ゲルマン系言語
- 866 ロシア語
- 932 日本語

934	韓国語
938	中国語
942	日本語SAA
944	韓国語SAA
948	中国語SAA
950	中国語（繁体字）(DBCS)
1381	中国語（簡体字）(DBCS)

トップ

サーバー・メッセージ待ち行列 (MSGQ)

サーバー・メッセージを受け取るメッセージ待ち行列を指定します。

このメッセージ待ち行列に送られるメッセージのタイプの詳細については、ネットワーク・サーバーのタイプと対応している該当のマニュアルを参照してください。

注: *NONE以外の値が指定されている場合には、すべてのNETWAREコンソール活動はモニター・ジョブ・ログまたは指定されたメッセージ待ち行列に記録されます。ここで重要なのは、NETWAREコンソール・ログにパスワード情報が入っている場合があるということです。適切な手順でISERIESシステムでこの情報を保護してください。

ISERIESでコンソール・ログ情報に対するアクセスを制限する1つの方法として、コンソール・ログ活動を収めるメッセージ待ち行列を作成できます。このメッセージ待ち行列をAUT(*EXCLUDE)で作成してください。その結果、NETWAREコンソール・ログ活動にアクセスすることができるユーザーにはすべて、GRTOBJAUTコマンドによってそのメッセージ待ち行列に対する明示権限を与えることができます。このパラメーターにはこのメッセージ待ち行列を指定してください。

単一値

***JOBLOG**

サーバーからのメッセージは、モニター・ジョブのジョブ・ログに入れられます。

***NONE**

メッセージはどのメッセージ待ち行列にも入れられません。

修飾子1: サーバー・メッセージ待ち行列

名前 サーバーによって出されたメッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

事象ログ (EVTLOG)

事象ログのメッセージがサーバーから受け取られるかどうかを指定します。

注:

1. 事象ログ・メッセージは、**サーバー・メッセージ待ち行列(MSGQ)**パラメーターで識別されるメッセージ待ち行列に入れられます。このパラメーターに*NONE以外の値を指定した場合には、MSGQ値を*NONEとすることはできません。詳細については、MSGQパラメーターの説明を参照してください。
2. このパラメーターは、**ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに*GUESTが指定されている時には無効です。

単一値

***ALL** すべての事象ログ・メッセージが受け取られます。

***NONE**

事象ログ・メッセージは受け取られません。

その他の値 (最大3の反復)

***SYS** システム事象ログ・メッセージが受け取られます。

***SEC** 機密保護事象ログ・メッセージが受け取られます。

***APP** 適用業務事象ログ・メッセージが受け取られます。

構成ファイル (CFGFILE)

サーバーの活動化または詳細定義に使用する構成データが入っているソース・ファイルを指定します。

注: このパラメーターは、**ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに*GUESTが指定されている時には無効です。

単一値

***NONE**

構成ファイルは指定されません。

修飾子1: 構成ファイル

名前 サーバーの構成データ・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。サーバーが活動化される時点で、ファイル内のすべてのメンバーが処理されます。このファイルは、サーバーが活動化される時点までにシステム上に存在していなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

サーバー記憶スペースのサイズ (SVRSTGSIZE)

記憶スペースのサイズをメガバイト単位で指定します。

注: このパラメーターは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに*GUESTが指定されている時には無効です。

要素1: ソース導入サイズ

サーバーを導入するために使用されるファイルを収めるドライブのサイズを指定します。

***DFT** 省略時のドライブ・サイズが使用されます。

整数 導入ソース・ドライブのサイズに使用するメガバイト数を指定します。有効な値の範囲は200 - 2047メガバイトです。

要素2: システム・サイズ

WINDOWSサーバーが導入されているドライブのサイズを指定します。

***DFT** 省略時のドライブ・サイズが使用されます。

整数 システム・ドライブ・サイズに使用するメガバイト数を指定します。有効な値の範囲は500から1024000メガバイトです。

[トップ](#)

サーバー記憶スペースASP (SVRSTGASP)

WINDOWSサーバーを導入するために使用されるファイルが入れられることになる記憶域スペースおよびWINDOWSサーバーのオペレーティング・システムが入れられることになる記憶域スペースの補助記憶域プール(ASP)識別コードを指定します。

注: このパラメーターは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに*GUESTが指定されている時には無効です。

注: 同じ要素にSVRSTGASPとSTGASPDEVの両方のパラメーター値を指定することはできません。

要素1: ソース導入ASP

WINDOWSサーバーを導入するために使用されるファイルを収める記憶域スペース・オブジェクトの補助記憶域プールを指定します。

1 記憶域スペースは補助記憶域プール1（システム補助記憶域プール）に作成されます。

2-255 使用されるASPの番号を指定してください。有効な値は、システム定義されているASPによります。

要素2: システム ASP

WINDOWSサーバーのオペレーティング・システムが入っている記憶域スペース・オブジェクトの補助記憶域プールを指定します。

1 記憶域スペースは補助記憶域プール1（システム補助記憶域プール）に作成されます。

2-255 使用されるASPの番号を指定してください。有効な値は、システム定義されているASPによります。

[トップ](#)

サーバー記憶域ASP装置 (STGASPDEV)

WINDOWSサーバーを導入するために使用されるファイルが入れられることになる記憶域スペースおよびWINDOWSサーバーのオペレーティング・システムが入れられることになる記憶域スペースの補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: このパラメーターは、ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTが指定されている時には無効です。

注: ASPは(ASP装置をオンに構成変更することによって)活動化されていなければならず、状況が「使用可能」になっていなければなりません。

注: 同じ要素にSVRSTGASPとSTGASPDEVの両方のパラメーター値を指定することはできません。

要素1: ソースASPの導入

WINDOWSサーバーを導入するために使用されるファイルを取める記憶域スペース・オブジェクトの補助記憶域プール装置名を指定します。

名前 ネットワーク・サーバーの記憶域スペースとして使用するASPの装置名を指定してください。

要素2: システムASP装置

WINDOWSサーバーのオペレーティング・システムが入っている記憶域スペース・オブジェクトの補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

名前 ネットワーク・サーバーの記憶域スペースとして使用するASPの装置名を指定してください。

[トップ](#)

TCP/IPポート構成 (TCPPOORTCFG)

ネットワーク・サーバーのポートに固有のTCP/IP構成値を指定します。この情報は、ネットワーク・サーバー・ポートの識別、そのポートに割り当てられているIPアドレス、およびポートのサブネット・マスクを含む4つの部分から成っています。このパラメーターには最大9つの値を入力できます。

単一値

*NONE

TCP/IPポート構成がありません。ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*WINDOWSNTが指定されているときには、*NONEは指定できません。

要素1: ポート

- 1 ネットワーク・サーバーのポート番号1が構成されます。
- 2 ネットワーク・サーバーのポート番号2が構成されます。
- 3 ネットワーク・サーバーのポート番号3が構成されます。
- 4 ネットワーク・サーバーのポート番号4が構成されます。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTが指定されている時には、次の値は無効です。

*INTERNAL

ネットワーク・サーバー内部トークンリング・ポートが構成されます。

*VRTETHPTP

ネットワーク・サーバー仮想イーサネットの2地点間ポートが構成されます。

*VRTETH0

仮想イーサネット・ポート0が構成されます。

*VRTETH1

仮想イーサネット・ポート1が構成されます。

*VRTETH2

仮想イーサネット・ポート2が構成されます。

*VRTETH3

仮想イーサネット・ポート3が構成されます。

*VRTETH4

仮想イーサネット・ポート4が構成されます。

*VRTETH5

仮想イーサネット・ポート5が構成されます。

*VRTETH6

仮想イーサネット・ポート6が構成されます。

*VRTETH7

仮想イーサネット・ポート7が構成されます。

*VRTETH8

仮想イーサネット・ポート8が構成されます。

*VRTETH9

仮想イーサネット・ポート9が構成されます。

要素2: インターネット・アドレス

文字値 ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*WINDOWSNTを指定したときに、ネットワーク・サーバーが応答する先のローカルIPアドレスを指定してください。IPアドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定します。この場合、NNNは0から255の範囲の10進数です。ネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分がすべて1またはすべて0の2進数値であるIPアドレスは無効です。選択するIPアドレスは、すべてのネットワーク・サーバー記述およびOS/400 TCP/IP構成に渡って固有でなければなりません。

要素3: サブネット・マスク

文字値 ネットワーク・サーバー・ポートと関連したサブネット・マスクを指定してください。サブネットの概要については、*TCP/IP FASTPATH SETUP*ブックを参照してください。

サブネット化は、インターネット・ドメインを区分する機能を提供します。サブネットを定義するIPアドレスのネットワーク・サブネット・フィールドおよびホスト・アドレス・フィールドのマスクを指定してください。サブネット・マスクは $NNN.NNN.NNN.NNN$ という形式です。ここで、 NNN は、0から255の範囲の10進数です。サブネット・マスクはIPアドレスのネットワーク・クラス・ネットワークID部分のすべてのビットをオフでマスクしなければなりません。たとえば、サブネット・マスク255.255.255.0は、IPアドレス（これは指定されます）のネットワーク部分の全ビットおよびIPアドレスの3バイト目の全ビットから構成される、クラスBサブネットを定義します。

要素4: 最大伝送単位

1500 最大伝送単位(MTU)値は1500バイトです。

整数 インターフェースのMTU値を指定します。

要素5: ゲートウェイ・アドレス

文字値 IPアドレスの省略時ゲートウェイ・アドレスを $NNN.NNN.NNN.NNN$ 形式で指定してください。ここで、 NNN は0から255の範囲の10進数です。

トップ

TCP/IP経路構成 (TCPROUTE)

ネットワーク・サーバーの伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)構成に対してリモート宛先システムまたはネットワークへの経路を指定します。経路指定は3つの要素（経路宛先、サブネット・マスク、およびネクスト・ホップIPアドレス）から成っています。最大24個の経路指定を指定することができます。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*WINDOWSNTが指定されている時には、このパラメーターは無視されます。

2つの値で経路が固有なものとして識別されます。これらは経路宛先フィールドとサブネット・マスクです。*DFTRROUTEの場合には、ネクスト・ホップ要素で経路が固有なものとして識別されます。

単一値

*NONE

ネットワーク・サーバーに必要な経路指定がありません。TCPROUTECFG(*NONE)が指定されているときは、*NONEを指定する必要があります。*NONEを指定することができるのは、経路の指定の必要がない場合です。

要素1: 経路宛先

追加されるリモート・ネットワークまたはホストを指定します。IPアドレスを構成する4つのバイトはすべて指定しなければなりません、一部は0にできます。たとえば、9.5.11サブネット上のすべてのホストへの経路は、経路宛先に9.5.11.0を入力することによって識別されます。サブネット・マスクと組み合わせて使用すると、経路宛先はネットワークまたはシステムへの経路を識別します。

*DFTRROUTE

TCP/IPの省略時の経路が使用されます。省略時の経路項目は、未定義のネットワークまたはシステムに送られるデータを経路指定するためにシステムによって使用されます。複数の*DFTRROUTE項

目を指定することができます。各*DFTRROUTE項目は指定された順序で使用されます。

*DFTRROUTE項目上の一定のネクスト・ホップ・ゲートウェイが使用可能でない場合には、指定された後続の*DFTRROUTE項目のネクスト・ホップ・ゲートウェイが使用されます。これは、活動状態の*DFTRROUTE項目のゲートウェイが見つかるか、あるいはネクスト・ホップ・ゲートウェイ値のリストが使い果たされるまで続きます。

文字値 追加する経路宛先を指定してください。経路宛先は次のように指定できます。クラスAの場合 *NNN.0.0.0*、クラスBの場合 *NNN.NNN.0.0*、クラスCの場合 *NNN.NNN.NNN.0*、組み合わせの場合 *NNN.NNN.NNN.NNN*。NNNは0から255の範囲の10進数です。

注: その組み合わせとは、すべての9.5.X.XアドレスはクラスAネットワーク・アドレスですが、9.5サブネット上のホストへの9.5.0.0といった経路を指定できることを意味します。

例外:

- 最初のバイト（8進数）は0より大きく、255より小さくなければなりません。
- 最後のバイト（8進数）は255であってはなりません。
- SUBNETMASK値に*HOSTが指定されている場合には、最後のバイト（8進数）は0であってはなりません。
- ブロードキャスト・アドレスへの経路は使用できません。

要素2: サブネット・マスク

経路宛先要素に*DFTRROUTEまたは経路宛先を入力した場合には、サブネット・マスク値を指定しなければなりません。サブネット・マスクは、TCP/IP に対して経路宛先に指定された値のどのビットがIPアドレスのネットワーク部分およびサブネット部分を構成するかを識別するビット・マスクを指定します。サブネットは、経路宛先IPアドレスとサブネット・マスクを結合することによって識別されます。

*NONE

サブネット・マスクはありません。経路宛先要素に*DFTRROUTEを指定した場合には、*NONEを指定しなければなりません。*NONEは*DFTRROUTEの経路宛先値にしか有効ではありません。

*HOST

経路宛先フィールドに指定されたIPアドレス値はホスト・アドレスです。サブネット・マスクの値は、255.255.255.255となるように計算されます。

文字値 サブネット・フィールドのマスクを指定してください。IPアドレスは*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式です。この場合、NNNは0から255の範囲の10進数です。たとえば、129.35.11.0という宛先経路のIPアドレス値はクラスBのサブネットです。そのアドレスのネットワークID部分は129.35です。サブネット・マスクの始め2バイトは255を示さなければなりません。たとえばサブネット・マスクは、255.255.X.Xのようにないなければなりません。Xはユーザーが決定します。特定のクラスのアドレスのネットワーク部分に関連するサブネット・マスクの部分は255になっていなければなりません。

要素3: 次のホップ

ネクスト・ホップ値は、経路上の次のシステム（ゲートウェイ）のIPアドレスを指定します。ネクスト・ホップ要素で指定されたIPアドレスがネットワーク・サーバー・ポートの1つに関連したネットワークを経由して直接に到達できないかぎり、経路を追加することはできません。

IPアドレスの概要については、*FASTPATH FOR TCP/IP*ブックを参照してください。

文字値 経路上の次のシステムのIPアドレスを*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定してください。ここで、NNNは0-255の範囲の10進数です。ただし、IPアドレスのホストID部分およびネットワークID部分は

全桁0または全桁1とすることはできません。IPアドレスのネットワークID 部分およびホストID 部分がすべて2進0または1となっているIPアドレスは正しくありません。

[トップ](#)

TCP/IPローカル・ホスト名 (TCPHOSTNAM)

ネットワーク・サーバーと関連付けるホスト名を短い形式で指定します。

ホスト名は2 - 63文字のテキスト・ストリングにすることができます。

ホスト名には次の文字を使用できます。

- 英字A - Z
- 数字0 - 9
- マイナス符号(-)

*NWSD

ネットワーク・サーバーのホスト名がネットワーク・サーバー記述の名前と同じであることを指定します。 **TCP/IPポート構成(TCPPORTCFG)**パラメーターに*NONEを指定した場合には、*NWSDを指定しなければなりません。

名前 ネットワーク・サーバーと関連付けるホスト名を指定してください。

[トップ](#)

TCP/IPローカル・ドメイン名 (TCPDMNNAME)

ネットワーク・サーバーと関連したローカル・ドメイン名を指定します。

ドメイン名は、2文字から255文字までのテキスト・ストリングとすることができます。ドメイン名はピリオドで区切られた1つまたは複数のラベルから構成されます。各ラベルには、最大63文字まで入れることができます。ドメイン名では、次の文字を使用できます。

- 英字A - Z
- 数字0 - 9
- マイナス符号(-)
- ピリオド(.)。ピリオドは、ドメイン・スタイル名のラベルを区切る場合にのみ使用することができます (RFC 1034を参照)。

ドメイン名のその他の規則は次の通りです。

- 大文字と小文字を使用することができますが、その区別は重要ではありません。大文字と小文字は入力されたそのままになります。ホスト名の最初と最後の文字は英字または数字でなければなりません。
- 短いラベルのほうが覚えやすいですから、ドメイン名のラベルは12文字以下に制限してください。
- 変更および拡張を予測したエクステンションを使用できるようにする階層的な名前を使用したほうが一般的には実際的です。ドメイン名は、通常、それらを割り当てるために使用される権限または階層の代行を反映します。

たとえば、名前SYS1.MFG.ABC.COMは次のものに分割することができます。

COM すべての商用ネットワーク。

ABC.COM

ABCという会社の商用ネットワーク中のすべてのシステム。

MFG.ABC.COM

ABCという会社の商用ネットワーク中のすべての生産システム。

SYS1.MFG.ABC.COM

会社の商用ネットワーク中の生産分野のSYS1という名前のホスト。

上記の例では、MFG.ABC.COMはドメイン名で、SYS1は簡略形式のホスト名です。

COMの指定は、インターネットに接続する時に使用されるいくつかのドメイン名の1つです。他のドメイン名の一部は次の通りです。

COM 営利団体

EDU 教育団体

GOV 公共団体

MIL 軍関係

NET メジャー・ネットワーク・サポート・センター

ORG 上記にリストされた以外の団体

国別コード

米国以外の国または地域

***SYS** ネットワーク・サーバーのローカル・ドメイン名は、ISERIESシステム用に構成されているのと同じ値であることを指定します。TCPPOPTCFG(*NONE)が指定されている場合には、*SYSを指定する必要があります。また、TCPPOPTCFGパラメーターで*INTERNALポートしか指定しない場合には、*SYSも指定する必要があります。

文字値 ネットワーク・サーバーと関連付けるホスト名を指定してください。

トップ

TCP/IP ネーム・サーバー・システム (TCPNAMSVR)

ネットワーク・サーバーによって使用されるネーム・サーバー・システムのIPアドレスを指定します。一般に、これはISERIESシステムの場合と同じ値です。

単一値

***SYS** ネットワーク・サーバーによって使用されるネーム・サーバー・システムは、ISERIESの場合と同じにする必要があります。TCPPOPTCFG(*NONE)が指定されている場合には、*SYSを指定する必要があります。

*NONE

ネットワーク・サーバーによって使用されるネーム・サーバーがありません。

その他の値 (最大3の反復)

文字値 ネットワーク・サーバーによって使用されるネーム・サーバー・システムのIPアドレスを指定してください。リモート・ネーム・サーバー・システムは3個まで指定することができます。ネーム・サーバー・システムは指定されている順序にしたがって使用されます。

ポート (PORTS)

ネットワーク・サーバーで、*INTERNALポートまたは2回線ポートに接続された回線の名前を指定します。

注: このパラメーターは、ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに*GUESTが指定されている時には無効です。

*NONE

このサーバーに回線は接続されません。回線は、回線記述の作成時に、その中にこのサーバー記述を指定することによって、後で接続することができます。

要素1: ポート番号

*INTERNAL

*INTERNALを指定した場合には、回線記述はトークンリング・ネットワーク(TRN)の名前でなければなりません。また*INTERNALは、1つのトークンリング回線記述にしか指定することはできません。

*VRTETHPTP

ネットワーク・サーバー仮想イーサネットの2地点間ポートが構成されます。

*VRTETH0

仮想イーサネット・ポート0が構成されます。

*VRTETH1

仮想イーサネット・ポート1が構成されます。

*VRTETH2

仮想イーサネット・ポート2が構成されます。

*VRTETH3

仮想イーサネット・ポート3が構成されます。

*VRTETH4

仮想イーサネット・ポート4が構成されます。

*VRTETH5

仮想イーサネット・ポート5が構成されます。

*VRTETH6

仮想イーサネット・ポート6が構成されます。

*VRTETH7

仮想イーサネット・ポート7が構成されます。

*VRTETH8

仮想イーサネット・ポート8が構成されます。

*VRTETH9

仮想イーサネット・ポート9が構成されます。

1 ネットワーク・サーバーのポート番号1が構成されます。

2 ネットワーク・サーバーのポート番号2が構成されます。

要素2: 回線記述

名前 既存の回線記述の名前を指定してください。トークンリング・ネットワーク(TRN)またはイーサネット(ETH)回線記述の名前を指定することができます。この回線は、RSRCNAME(*NWS)を指定して作成されていなければならない、また、現在別のサーバーに接続されているものであってはなりません。

[トップ](#)

制約された装置資源 (RSTDDEVRSC)

制限されていて、ネットワーク・サーバーによって使用できないISERIESテープおよび光ディスク装置の資源名を指定します。

資源は、ネットワーク・サーバーが活動状態であり、そのネットワーク・サーバーで実行中のクライアント適用業務から要求が出されると使用されます。適用業務とOS/400が同時にこの装置資源を使用することはできません。装置資源がOS/400によって使用中である場合には、ネットワーク・サーバー適用業務はこの資源を使用しません。装置資源をネットワーク・サーバー適用業務によって使用する予定の場合には、ネットワーク・サーバー適用業務が使用準備のできている時に使用可能にする必要があります。

注:

1. テープ装置資源および光ディスク装置資源だけが制約できます。
2. 有効でないかまたは検出されないその他の装置資源を指定する場合には、ネットワーク・サーバーをオンに構成変更できません。

単一値

*NONE

装置資源はネットワーク・サーバーから制約されません。したがって、システムに存在するテープ装置資源または光ディスク装置資源を使用できます。

***ALL** すべてのテープ装置および光ディスク装置資源がネットワーク・サーバーによる使用から制約されます。

その他の値 (最大10の反復)

***ALLOPT**

すべての光ディスク装置資源がネットワーク・サーバーによる使用から制約されます。

注: この値は、一度しか指定することができません。

***ALLTAPE**

すべてのテープ資源が、ネットワーク・サーバーによる使用から制約されます。

注: この値は、一度しか指定することができません。

名前 ネットワーク・サーバーによって使用できない制限された装置の資源名を指定してください。最大10個の制限された装置資源名を指定することができます。

[トップ](#)

日付および時刻の同期化 (SYNCTIME)

ISERIESがネットワーク・サーバーの日付および時刻をISERIESシステムの日付および時刻と同期するかどうかが指定します。

***TYPE** ISERIESはネットワーク・サーバー・タイプに基づいて同期を実行します。 **ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに*WINDOWSNTが指定された場合には、同期はSYNCTIME(*YES)が指定されていたものとして実行されることとなります。

***YES** ISERIESシステムは、ネットワーク・サーバーの日付および時刻をISERIESシステムの日付および時刻と同期します。

ネットワーク・サーバー・タイプが*WINDOWSNTの場合には、次が起こります。

- ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更された場合には、このリセットがただちに実行され、それ以降は少なくとも30分ごとに実行されます。
- ネットワーク・サーバー記述がオフに構成変更されている場合には、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更された時にこのリセットが実行され、それ以降は少なくとも30分ごとに実行されます。

正しく作業するためには、QUTCOFFSETシステム値を時刻同期のための正しい値に設定する必要があります。

***NO** ISERIESは、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されると、ネットワーク・サーバーの日付および時刻をISERIESシステムの日付および時刻と同期しますが、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されている間は、同期された日付および時刻を保持しないこととなります。このパラメーターがこの値に設定されている時に、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更された場合には、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されている間は、日付および時刻がもはや同期しないこととなります。

トップ

IPLソース (IPLSRC)

区画を開始するロード・イメージのソースを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに*GUESTが指定されている時だけです。

***NWSSTG**

この区画は、このネットワーク・サーバー記述に接続された最初のネットワーク・サーバー記憶スペースのロード・イメージを使用して開始されます。

***STMF**

この区画は、IPLストリーム・ファイル(IPLSTMF)パラメーターによって指定されたストリーム・ファイルのロード・イメージを使用して開始されます。

***PANEL**

この区画は、操作員パネルで指示されたソースから開始されます。

- A** この区画はAソースから開始されます。
- B** この区画はBソースから開始されます。
- D** この区画はDソースから開始されます。

IPLストリーム・ファイル (IPLSTMF)

この区画をロードするイメージが入っているストリーム・ファイルのパスを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに *GUESTが指定され、 **IPLソース(IPLSRC)**パラメーターに*STMFが指定されている時だけです。

*NONE

ストリーム・ファイルは指定されません。

パス名 ロード・イメージが入っているストリーム・ファイルのパスを指定します。最大5000文字を指定することができます。

トップ

IPLパラメーター (IPLPARM)

IPL時にロード・イメージに渡す文字のストリングを指定します。これはゲスト・オペレーティング・システムのコマンドおよび構成情報から構成されます。

注: このパラメーターが有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに *GUESTが指定されている時だけです。

*NONE

IPLパラメーターはロード・イメージへ渡されません。

文字値 ロード・イメージに渡すための、IPLパラメーターを含む最大256文字のストリングを指定します。

トップ

電源制御 (PWRCTL)

ネットワーク・サーバー記述と関連した区画が、ネットワーク・サーバー記述がオフラインに変更されたときに、電源遮断されるかどうか、ネットワーク・サーバー記述がオンラインに変更されたときに、電源を投入されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、 **ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに *GUESTが指定されている時だけです。

***YES** ネットワーク・サーバー記述と関連した区画は、ネットワーク・サーバー記述がオフラインに変更されたときに、電源遮断され、ネットワーク・サーバー記述がオンラインに変更されたときに、電源を投入されます。

***NO** ネットワーク・サーバー記述と関連した区画は、ネットワーク・サーバー記述がオフラインに変更されたときに、電源遮断されず、ネットワーク・サーバー記述がオンラインに変更されたときに、電源を投入されません。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

ネットワーク・サーバー記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

CRTNWS Dの例

例1: *GUEST NWS Dの作成

```
CRTNWS D  NWS D(LINUX1)  RSR CNAME(*NONE)  TYPE(*GUEST)
          PARTITION(TEST)
          VRYWAIT(*NOWAIT)  CODEPAGE(437)
          TCPPORTCFG((1 '9.5.3.2' '255.255.255.0' 2048))
          TCPHOSTNAME(*NWS D)  TCPDMNNAME(*SYS)  TCPNAMSVR(*SYS)
```

このコマンドは、LINUX1という名前のサーバー記述を作成します。LINUX1 には関連した資源名がありません。LINUX1は、TESTという名前の論理区画で稼働中のゲスト・オペレーティング・システムと関連したネットワーク・サーバー記述です。LINUX1がオンに構成変更されると、TCP/IPプロトコル・スタックが活性化されます。コード・ページ437 (米国) が使用されます。ポート1にはTCP/IPのIPアドレスが割り当てられます。TCP/IPローカル・ホスト名は、サーバー記述名と同じです。TCP/IPローカル・ドメイン名は、OS/400システムと同じで、同じネーム・サーバーが使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CRTNWS D

*ESCAPEメッセージ

CPF26AC

ネットワーク・サーバー記述&1はエラーが原因で作成されなかった。

[トップ](#)

NWS記憶スペースの作成 (CRTNWSSTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記憶スペース作成(CRTNWSSTG)コマンドは、ネットワーク・サーバーによって使用される記憶スペースを作成します。ネットワーク記憶スペースは、ネットワーク・サーバー記述にリンクされていないと使用することができません。詳細については、ネットワーク・サーバー記憶リンク追加(ADDNWSSTGL)コマンドを参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSSTG	ネットワーク・サーバー記憶スペース	名前	必須, 定位置 1
NWSSIZE	サイズ	整数, <u>*CALC</u>	オプション, 定位置 2
FROMNWSSTG	開始記憶スペース	名前, <u>*NONE</u>	オプション
FORMAT	形式	<u>*NTFS</u> , *FAT, *FAT32, *OPEN, *NTFSQR	オプション
ASP	補助記憶域プールID	1-255, <u>1</u>	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前	オプション
CLUDMN	クラスター・ドメイン名	文字値	オプション
CLUPORTCFG	クラスター・ポート構成	要素リスト	オプション
	要素 1: 接続ポート	*VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: クラスター・インターネット・アドレス	文字値	
	要素 3: クラスター・サブネットワーク・マスク	文字値	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション

トップ

ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)

作成するネットワーク・サーバー記憶スペースの名前を指定してください。

トップ

サイズ (NWSSIZE)

作成するネットワーク・サーバー記憶スペースのサイズを指定します。

*CALC

FROMNWSSTGパラメーターが*NONEで、*NTFS形式を指定した場合には、記憶スペースのサイズは'2' MBに設定されます。*FAT32を指定した場合には、記憶スペースのサイズは'512' MBに設定されます。*FATまたは*OPENを指定した場合には、サイズは'1' MBに設定されます。*NTFSQRを指定したときには、記憶域スペース・サイズは'500' MBに設定されます。

FROMNWSSTGパラメーターに有効なネットワーク・サーバー記憶スペース名が指定されている場合には、FROMNWSSTGパラメーターに指定された記憶スペースと同じサイズで新しい記憶スペースが作成されます。

1から1024000

- FORMAT(*NTFS)の範囲は2から1024000 MBです。
- FORMAT(*FAT)の範囲は1から2048 MBです。
- FORMAT(*FAT32)の範囲は512から32000 MBです。
- FORMAT(*OPEN)の範囲は1から1024000 MBです。
- FORMAT(*NTFSQR)の範囲は500から1024000 MBです。

FROMNWSSTGネットワーク・サーバー記憶スペースが指定されている場合には、NWSSIZEパラメーターが、FROMNWSSTGパラメーターに指定されたネットワーク・サーバー記憶スペースのサイズ以上になっていなければなりません。

[トップ](#)

開始記憶スペース (FROMNWSSTG)

新しいネットワーク・サーバー記憶スペースにコピーされる既存のネットワーク・サーバー記憶スペースの名前を指定します。

*NONE

既存のネットワーク・サーバー記憶スペースからのコピー操作は実行されません。

名前 作成される新しいネットワーク・サーバー記憶スペースにコピーするために使用される既存のネットワーク・サーバー記憶スペース名。

[トップ](#)

形式 (FORMAT)

ネットワーク・サーバー記憶スペースのために使用される形式を指定します。

*NTFS 作成時に、記憶スペースはシステムによってフォーマットされません。その代わりに、記憶域スペースはWINDOWSオペレーティング・システムによってフォーマットされます。この形式で作成された記憶スペースは、TYPE(*WINDOWSNT)またはTYPE(*GUEST)のネットワーク・サーバー記述にリンクすることができます。

良好なパフォーマンスおよび長いファイル名の統合サポート、より大容量のディスク、拡張ファイル属性、ファイル機密保護、ならびに回復可能性機能が原因で、このオプションはWINDOWS環境で最大の利点を発揮します。NTFS記憶スペースのためのサイズ (NWSSIZE)パラメーターは、少なくとも2 MBでなければなりません。

***FAT** 記憶スペースはファイル割り振りテーブル・ファイル・システムを使用してフォーマットする必要があります。この値が指定された時は、NWSSIZEパラメーターは2048 より小さいか等しくしなければなりません。この形式で作成された記憶スペースは、TYPE(*WINDOWSNT)またはTYPE(*GUEST)のネットワーク・サーバー記述にリンクすることができます。

統合NETFINITYサーバー環境におけるこのファイル・システムの主な利点は、このタイプで作成された記憶スペースはTYPE(*WINDOWSNT)のネットワーク・サーバー記述にリンクできることです。

しかし、多くの場合はTYPE(*WINDOWSNT)にNTFSファイル・システムを使用することによって、さらに大きな効率とスペース使用効率が達成されます。

注: 記憶スペースが最初にTYPE(*WINDOWSNT)用に作成された場合には、システムによってフォーマットされるわけではなく、WINDOWSオペレーティング・システムによって構成されていなければなりません。

***FAT32**

作成時に、記憶スペースはシステムによってフォーマットされません。その代わりに、記憶域スペースはWINDOWSオペレーティング・システムによってフォーマットされます。この形式で作成された記憶スペースは、TYPE(*WINDOWSNT)またはTYPE(*GUEST)のネットワーク・サーバー記述にリンクすることができます。

これには、長いファイル名およびより大容量のディスク・サイズのサポートが含まれます。FAT32記憶スペースのためのサイズ(NWSSIZE)パラメーターは、少なくとも512 MBでなければなりません。

***OPEN**

作成時に、記憶スペースはシステムによってフォーマットされません。その代わりに、記憶スペースは、*GUESTサーバー上に導入されたオペレーティング・システムによってフォーマットされることとなります。この形式の記憶スペースは、TYPE(*GUEST)のネットワーク・サーバー記述にしかリンクすることができません。

***NTFSQR**

記憶域スペースはシステムによってフォーマットされません。その代わりに、記憶域スペースはWINDOWSオペレーティング・システムによってフォーマットされます。この形式で作成された記憶域スペースには、この記憶域スペースがWINDOWSクラスター化に使用されるクォーラム資源ディスクとしてだけリンクできるようにさせる特殊な属性が入ります。

[トップ](#)

補助記憶域プールID (ASP)

新しいネットワーク・サーバー記憶スペースが入れられる補助記憶域プール(ASP)を指定します。

注: 値はASPパラメーターとASPDEVパラメーターの両方には指定できません。

'1' ネットワーク・サーバー記憶スペースは、システム補助記憶域プールASP 1に作成されます。

ASP番号

ネットワーク・サーバー記憶スペースは、ユーザー補助記憶域プール2から32または独立補助記憶域プール33から255に作成されます。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

ネットワーク・サーバー記憶スペースに記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。

注: ASPは(ASP装置をオンに変更することによって) 活動化されていて、状況が「使用可能」になっていなければなりません。

注: 値はASPパラメーターとASPDEVパラメーターの両方には指定できません。

ASP装置名

ネットワーク・サーバー記憶スペースに使用するASPの装置名。

[トップ](#)

クラスター・ドメイン名(CLU DMN)

クラスターのドメイン名を指定します。これは、クラスター・サービス・アカウントが作成されるドメインです。

注:このパラメーターは、FORMAT(*NTFSQR)を指定するときには必須です。

[トップ](#)

クラスター・ポート構成(CLU PORTCFG)

クラスター・サービスに特定のTCP/IP構成値を指定します。この情報は、クラスター接続ポート、クラスターIPアドレス、およびクラスター・サブネット・マスクの3つの識別部分で構成されています。

注:このパラメーターは、FORMAT(*NTFSQR)を指定するときには必須です。

要素1:クラスター接続ポート

このクラスター用に構成する仮想イーサネット・ポートを指定します。この接続は、各クラスター・ノード間の専用クラスター接続として使用されます。

要素2:クラスター・インターネット・アドレス

このクラスターのインターネット・アドレスを指定します。インターネット・アドレスは、*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定します。ここで、*NNN*は0から255の範囲の10進数です。ネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分がすべて1またはすべて0の2進数値であるIPアドレスは無効です。

要素3:クラスター・サブネット・マスク

クラスター・インターネット・アドレスと関連したサブネット・マスクを指定します。サブネット化は、インターネット・ドメインを区分する機能を提供します。サブネットを定義するIPアドレスのネットワーク・サブネット・フィールドおよびホスト・アドレス・フィールドのマスクを指定してください。サブネット・マスクはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定します。ここでNNNは、0から255の範囲の10進数です。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

記憶スペースを説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CRTNWSSTGの例

例1: NTFS形式記憶スペースの作成

```
CRTNWSSTG NWSSTG(STGSPACE3) NWSSIZE(200) FORMAT(*NTFS)
```

このコマンドは、200 MBのサイズをもつSTGSPACE3と呼ばれるネットワーク・サーバー記憶スペースを作成します。記憶スペースはフォーマット設定されず、TYPE(*WINDOWSNT)のNWSDにリンクする必要があります。

例2: 既存する記憶域スペースのコピー

```
CRTNWSSTG NWSSTG(STGSPACE4) NWSSIZE(*CALC)
          FROMNWSSTG(FROMSTG) ASP(3)
```

このコマンドは、FROMSTGと同じサイズと形式をもつSTGSPACE4と呼ばれるネットワーク・サーバー記憶スペースを作成し、内容をSTGSPACE4にコピーします。これは、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 3に作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CRTNWSSTG

***ESCAPE**メッセージ

CPFA42D

記憶域スペース&1が作成されなかった。

[トップ](#)

出力待ち行列作成 (CRTOUTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出力待ち行列作成(CRTOUTQ)コマンドは、スプール・ファイルのための新しい出力待ち行列を作成します。各スプール・ファイルごとに1つの項目が出力待ち行列に入れます。ファイルが出力装置に書き出される順序は、スプール・ファイルの出力優先順位および待ち行列上のファイルの順序プロンプト(SEQパラメーター)に指定された値によって決定されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
MAXPAGES	スプール・ファイル最大サイズ	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ページ数	整数	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
	要素 3: 終了時刻	時刻	
SEQ	待ち行列上のファイルの順序	*FIFO, *JOBNBR	オプション
RMTSYS	リモート・システム	文字値, *INTNETADR, *NONE, *PASTHR, *NWSA	オプション
RMTprtQ	リモート印刷装置待ち行列	文字値, *USER, *SYSTEM	オプション
AUTOSTRWTR	自動開始する書出プログラム	1-10, *NONE	オプション
MSGQ	書出プログラムMSG用待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 書出プログラムMSG用待ち行列	名前, QSYSOPR	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CNNTYPE	接続タイプ	文字値, *SNA, *IP, *USRDFN	オプション
DESTTYPE	宛先タイプ	文字値, *OS400, *OS400V2, *PSF2, *S390, *NDS, *OTHER	オプション
TRANSFORM	ホスト印刷の変換	*YES, *NO	オプション
USRDTATFM	ユーザー・データ変換	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・データ変換	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MFRTPMDL	製造タイプおよび型式	文字値, *WSCST	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
IMGCFG	イメージ構成	文字値, *NONE	オプション
INTNETADR	IPアドレス	文字値	オプション
CLASS	VM/MVSクラス	A , B, C, D, E, F, G, H, I, J, K, L, M, N, O, P, Q, R, S, T, U, V, W, X, Y, Z, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	オプション
FCB	用紙制御バッファ	文字値, *NONE , *USRDTA, *PRTF	オプション
DESTOPT	宛先オプション	文字値, *NONE , *USRDFNTXT, *NOWAIT	オプション
SEPPAGE	区切りページの印刷	*YES , *NO	オプション
USRDFNOPT	ユーザー定義オプション	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
USRDFNOBJ	ユーザー定義オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*DTAARA, *DTAQ, *FILE, *PSFCFG, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC	
USRDRVPGM	ユーザー・ドライバ・プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・ドライバ・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SPLFASP	スプール・ファイルASP	*SYSTEM , *OUTQASP	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DSPDTA	ファイルの表示	*NO , *YES, *OWNER	オプション, 位置 2
JOBSEP	ジョブ区切り	0-9, 0 , *MSG	オプション, 位置 3
OPRCTL	操作員制御	*YES , *NO	オプション, 位置 4
DTAQ	データ待ち行列名	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
AUTCHK	検査権限	*OWNER , *DTAAUT	オプション
AUT	権限	名前, *USE , *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

これは必須パラメーターです。

出力待ち行列(*OUTQ)オブジェクトを指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

注: 一時ライブラリーQTEMPは有効なライブラリー名ではありません。出力待ち行列は永続ライブラリーになければなりません。

出力待ち行列名

作成したい出力待ち行列の名前を指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル最大サイズ (MAXPAGES)

開始時刻と終了時刻の間で印刷が許可されるスプール・ファイルの最大サイズをページ数で指定します。スプール・ファイルがページの制限を超える場合には、終了時刻になるまで印刷が据え置かれます (DFR状況)。正確なページ数が不明のファイルの場合には、見積ページ数が使用されます。(見積ページ数を見つけるためには、スプール・ファイル属性処理(WRKSPLFA)コマンドを使用することができます。) 時刻は24時間時計でHHMMSSの形式で指定しなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

この出力待ち行列から印刷可能なスプール・ファイルのサイズに制限はありません。

要素1：ページ数

ページ数

印刷可能な最大スプール・ファイルをページ数で指定してください。

要素2：開始時刻

開始時刻

スプール・ファイルの最大サイズの制限が始まる時刻を指定してください。

要素3：終了時刻

終了時刻

最大スプール・ファイル・サイズの制限が終る時刻を指定してください。

[トップ](#)

待ち行列上のファイルの順序 (SEQ)

出力待ち行列上のスプール・ファイルの順序を指定します。

***FIFO** 待ち行列は、各ファイルの優先順位内で先入れ先出しになっています。これは、同じ優先順位の他のすべての項目の後に、新しいスプール・ファイルが待ち行列に入れられることを意味します。

*JOBNBR

スプール・ファイルの待ち行列項目は、スプール・ファイルを作成したジョブのジョブ番号（実際には、ジョブを入力したシステムが使用した日付および時刻）を使用して、優先順位にしたがって分類されます。

[トップ](#)

リモート・システム (RMTSYS)

出力待ち行列に対して（STRRMTWTRコマンドを使用して）リモート書き出しプログラムが開始された時にファイルが送られるリモート・システムを指定します。これは、SNADSによって「アドレス」として、またTCP/IPによって「ホスト」として参照されます。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

出力待ち行列はローカル印刷にのみ使用されます。OUTQパラメーターにこの出力待ち行列が指定されている時には、STRRMTWTRコマンドを使用することはできません。

*PASTHR

ユーザー・ジョブによって作成されたスプール・ファイルを送る時に、ユーザーが（STRPASTHRコマンドを使用して）パススルーを行ったシステムが使用されます。別のシステムからパススルーされたジョブによって作成されたスプール・ファイルでなかった場合には、そのスプール・ファイルは保留されます（HLD状況）。

*INTNETADR

INTNETADRパラメーターは、リモート書き出しプログラムが出力待ち行列に対して開始される時にシステムを識別するために使用されます。ホスト・テーブルまたはドメイン・ネーム・サーバーがTCP/IPネットワークにある場合には、このパラメーターの代わりにリモート・システム名を使用できます。

注: この値はCNNTYPEパラメーターに*IPが指定されている場合にのみ有効です。

*NWSA

RMTprtQパラメーターは、出力待ち行列へのリモート書き出しプログラムが開始される時に、システムを識別するために使用されます。この値が正しいのは、*NDSがDESTTYPEパラメーターに指定されている場合だけです。

リモート・システム名

リモート・システムの名前を指定してください。接続タイプ（CNNTYPEパラメーター）が*SNAとして指定されている時には最初の8文字だけが使用されます。リモート・システムの名前を小文字にする必要がある場合には、その名前をアポストロフィで囲まなければなりません。アポストロフィを使用しなければ、オペレーティング・システムはその名前を大文字に変更します。

[トップ](#)

リモート印刷装置待ち行列 (RMTPRQTQ)

リモート書き出しプログラムがスプール・ファイルを送るリモート・システム(RMTSYSパラメーター) の印刷装置待ち行列を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***USER**

スプール・ファイルを作成したユーザー・プロファイルによって、リモート・システムでのユーザーIDが決定されます。この値が有効なのは、接続タイプ(CNNTYPE パラメーター) が*SNAとして指定された場合だけです。

***SYSTEM**

リモート・システムの省略時のシステム印刷装置を使用して、印刷装置待ち行列が決定されます。リモートISERIES 400システムの場合には、QPRTDEVシステム値に指定された印刷装置と関連する出力待ち行列が印刷装置待ち行列として使用されます。

注: この値が有効なのは、接続タイプ(CNNTYPEパラメーター) が*SNAまたは*USRDFNとして指定され、DESTTYPEが*OS400または*S390の場合だけです。

印刷装置待ち行列名

リモート・システムの印刷装置待ち行列の名前を指定します。リモート・システムがISERIES 400システムの場合には、これはスプール・ファイルが作成される出力待ち行列の名前となります。

リモート・システムの名前を小文字にする必要がある場合には、その名前をアポストロフィで囲まなければなりません。アポストロフィを使用しなければ、オペレーティング・システムはその名前を大文字に変更します。

ISERIES 400システムではない宛先システムの場合には、この名前はシステムに依存し、装置の実際の名前とするか、あるいは印刷待ち行列の名前とすることができます。

この出力待ち行列は、通常、ライブラリー名/出力待ち行列名として指定されます。ライブラリー名修飾子が指定されていない場合には、省略時の値として*LIBLが使用されます。

[トップ](#)

自動開始する書出プログラム (AUTOSTRWTR)

システムによって自動始動されるリモート書き出しプログラムの数を指定します。リモート・システムが*NONEとして指定されているユーザー作成の出力待ち行列の場合には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

この出力待ち行列に対してシステムによって自動始動される書き出しプログラムはありません。

書き出しプログラムの数

システムによってこの出力待ち行列に対して自動始動される書き出しプログラムの数を指定してください。有効な値の範囲は1 - 10です。

[トップ](#)

書出プログラムMSG用待ち行列 (MSGQ)

この出力待ち行列に開始されたリモート書き出しプログラムによってメッセージが作成された時にメッセージが送られるメッセージ待ち行列の修飾名を指定します。

次のライブラリー値の1つによってメッセージ待ち行列の名前を修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QSYSOPR

メッセージがQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

リモート書き出しプログラムによって作成されたメッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

[トップ](#)

接続タイプ (CNNTYPE)

リモート・システムとの接続のタイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SNA** スプール・ファイルはSNADSを使用して送られます。これは、ネットワーク・スプール・ファイル送信(SNDNETSPLF)コマンドと類似しており、SNADSの構成を必要とします。

***IP** スプール・ファイルはTCP/IPを使用して送られます。これは、TCP/IPスプール・ファイル送信(SNDTCPSPLF)コマンドと類似しており、TCP/IPプロダクトの導入を必要とします。

*USRDFN

スプール・ファイルはユーザー定義の接続を使用して送信されます。

[トップ](#)

宛先タイプ (DESTTYPE)

リモート・システム(RMTSYSパラメーター)のタイプを指定します。このパラメーターは、スプール・ファイルを送るために使用される形式を決定するために、スプール・ファイルに入っているデータのタイプ(CRTPRTFコマンドのDEVTYPEパラメーター)とともにリモート書き出しプログラムによって使用されます。スプール・ファイル中のデータのタイプがシステムによってサポートされていない場合には、スプール・ファイルはリモート書き出しプログラムによって保留されます。

考えられる値は、次の通りです。

***OS400**

接続タイプ(CNNTYPE)が*SNAとして指定されている時には、スプール・ファイルはOS/400 V3R1M0以降を実行しているISERIES 400システムに送られます。CNNTYPEが*IPである時には、この値はTCP/IP (V2R3以降) をサポートするすべてのリリースで指定することができます。

注: 他のパラメーター値を選択する時に最大の柔軟性を許可する場合には、この値を指定してください (可能な場合)。

***OS400V2**

スプール・ファイルは、V3R1M0以前のOS/400バージョンを実行中のISERIES 400システムに送信されます。この値が有効であるのは、CNNTYPEが*SNAの場合だけです。

***S390** スプール・ファイルはシステム/390システムに送られます。この値が有効であるのは、CNNTYPEが*SNAの場合、またはCNNTYPEが*USRDFNの場合だけです。

***PSF2** スプール・ファイルはPSF/2プロダクトを実行しているパーソナル・コンピューターに送られます。この値が有効なのは、CNNTYPEが*IPである場合だけです。

***NDS** スプール・ファイルはNETWARE4に送信するためのものです。この値が有効であるのは、CNNTYPEが*IPまたは*USRDFNである場合だけです。

***OTHER**

スプール・ファイルは他のどの特殊値とも対応しないシステムに送られます。これには、システム/36やシステム/38とともに、OS/400バージョン1を実行しているISERIES 400システムが含まれます。

トップ

SCSからASCIIへの変換 (TRANSFORM)

ファイルがリモート印刷装置待ち行列に送られる時に、装置タイプ*SCSのスプール・ファイルをASCIIデータに変換するためにホスト印刷変換機能を使用するかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、CNNTYPEが*SNAまたは*NONEとして指定されている時には無効です。

考えられる値は、次の通りです。

***YES** SCSデータ・ストリームが変換されます。

***NO** SCSデータ・ストリームは変換されません。

トップ

データ変換プログラム (USRDTATFM)

スプール・ファイル・データの変換に使用されるユーザー定義データ・プログラムを指定します。

注: このパラメーターは、RMTSYSが*NONEでない時にだけ有効です。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

ユーザー定義データ変換プログラム名は指定されません。

データ変換プログラム名

ドライバ・プログラムによって使用されるデータ変換プログラムの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

製造タイプおよび型式 (MFRTYPMDL)

ホスト印刷変換機能またはユーザー・データ変換プログラムを使用している印刷装置のメーカー、タイプ、および型式を指定します。このパラメーターのプロンプトが出されるのは、TRANSFORM(*YES)が指定された場合、またはユーザー・データ変換プログラムを使用した場合だけです。

MFRTYPMDLに*WSCSTXXXが指定された場合には、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定しなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

*IBM42011

IBM 4201-1 PROPRINTERが使用されます。

*WSCST

WSCSTパラメーターの値が使用されます。

メーカー-タイプ-型式

ホスト印刷変換機能を使用している印刷装置のメーカー、タイプ、および型式を指定してください。

メーカー、タイプ、および型式テーブル

*IBM2380	IBM 2380パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2380プラス・プリンター
*IBM2381	IBM 2381パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2381プラス・プリンター
*IBM2390	IBM 2390パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2390プラス・プリンター
*IBM2391	IBM 2391パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2391プラス・プリンター
*IBM3112	IBM 3112ページ印刷装置
*IBM3116	IBM 3116ページ印刷装置
*IBM3130	IBM 3130拡張印刷装置
*IBM3812	IBM 3812ページ印刷装置
*IBM3816	IBM 3816ページ印刷装置

*IBM3912HP	IBM 3912ページ印刷装置(HPモード)
*IBM3916HP	IBM 3916ページ印刷装置(HPモード)
*IBM39302	IBM 39302 IBM 3930-02Sページ印刷装置 IBM 39302 IBM 3930-02Dページ印刷装置
*IBM39303	IBM 39303 IBM 3930-03Sページ印刷装置 IBM 39303 IBM 3930-03Dページ印刷装置
*IBM4019	IBM 4019レーザー・プリンター IBM 4019Eレーザー・プリンターE
*IBM4019HP	IBM 4019レーザー・プリンター(HPモード) IBM 4019Eレーザー・プリンターE (HPモード)
*IBM4029	IBM 4029-010レーザー・プリンター5E IBM 4029-020レーザー・プリンター6 IBM 4029-030レーザー・プリンター10 IBM 4029-040レーザー・プリンター10L
*IBM4029HP	IBM 4029-010レーザー・プリンター5E (HPモード) IBM 4029-020レーザー・プリンター6 (HPモード) IBM 4029-030レーザー・プリンター10 (HPモード) IBM 4029-040レーザー・プリンター10L (HPモード)
*IBM4037	IBM 4037 5E印刷装置
*IBM4039HP	IBM 4039レーザー・プリンター10D (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10Dプラス(HPプラス) IBM 4039レーザー・プリンター10R (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10Rプラス(HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12R (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12Rプラス(HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12L (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12Lプラス(HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター16L (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター16Lプラス(HPモード)
*IBM4070	IBM 4070 IJ (IBMモード)
*IBM4070EP	IBM 4070 IJ (EPSONモード)
*IBM4072	IBM 4072 EXECJET
*IBM4076	IBM 4076 EXECJET II印刷装置(HPモード)
*IBM42011	IBM 4201-1 PROPRINTER
*IBM42012	IBM 4201-2 PROPRINTER II
*IBM42013	IBM 4201-3 PROPRINTER III
*IBM42021	IBM 4202-1 PROPRINTER XL
*IBM42022	IBM 4202-2 PROPRINTER II XL
*IBM42023	IBM 4202-3 PROPRINTER III XL
*IBM42071	IBM 4207-1 PROPRINTER X24
*IBM42072	IBM 4207-2 PROPRINTER X24E
*IBM42081	IBM 4208-1 PROPRINTER XL24

*IBM42082	IBM 4208-2 PROPRINTER XL24E
*IBM4212	IBM 4212 PROPRINTER 24P
*IBM4216	IBM 4216-10パーソナル・ページ・プリンター
*IBM4226	IBM 4226-302印刷装置
*IBM4230	IBM 4230-4S3印刷装置(IBMモード) IBM 4230-4I3印刷装置(IBMモード)
*IBM4232	IBM 4232-302印刷装置(IBMモード)
*IBM4244ASF	IBM 4244印刷装置 (単一連続用紙送りおよびASF)
*IBM4244DUAL	IBM 4244印刷装置 (複式連続用紙送り)
*IBM4244MAN	IBM 4244印刷装置 (単一連続用紙送りまたは手動 用紙送り選択)
*IBM4247ASF	IBM 4247印刷装置 (単一連続用紙送りおよびASF)
*IBM4247DUAL	IBM 4247印刷装置 (複式連続用紙送り)
*IBM4247MAN	IBM 4247印刷装置 (単一用紙送りまたは 手動選択)
*IBM4308	IBM INFOPRINTカラー8
*IBM4312	IBMネットワーク印刷装置12
*IBM4317	IBMネットワーク印刷装置17
*IBM4320	IBM INFOPRINT 20
*IBM4322	IBM INFOPRINT 21
*IBM4324	IBM ネットワーク印刷装置24
*IBM4332	IBM INFOPRINT 32
*IBM4340	IBM INFOPRINT 40
*IBM47121	IBM 4712-1トランザクション印刷装置
*IBM47122	IBM 4712-2トランザクション印刷装置
*IBM47221	IBM 4722-1文書印刷装置
*IBM47222	IBM 4722-2文書印刷装置
*IBM4770	IBM 4770インクジェット・トランザクション印刷装置
*IBM4912	IBM INFOPRINT 12
*IBM5152	IBM 5152グラフィック印刷装置
*IBM5201	IBM 5201-2 QUIETWRITER
*IBM5202	IBM 5202-1 QUIETWRITER III
*IBM5204	IBM 5204-1 QUICKWRITER
*IBM5216	IBM 5216 WHEELPRINTER
*IBM5575	IBM 5579-H02型印刷装置 IBM 5579-K02型印刷装置 IBM 5577-T02型印刷装置 IBM 5579-S02型印刷装置 IBM 5577-K02型印刷装置 IBM 5577-J02型印刷装置 IBM 5577-G02型印刷装置 IBM 5577-H02型印刷装置

IBM 5577-F02型印刷装置
 IBM 5577-B02型印刷装置
 IBM 5575-H02型印刷装置
 IBM 5575-F02型印刷装置(SBCSカートリッジ付き)
 IBM 5575-B02型印刷装置(SBCSカートリッジ付き)
 IBM 5573-K02型印刷装置
 IBM 5573-J02型印刷装置
 IBM 5573-H02型印刷装置
 IBM 5573-G02型印刷装置
 IBM 5572-B02型印刷装置
 IBM 5417-011型印刷装置
 IBM 5407-011型印刷装置
 IBM 5327-011型印刷装置
 IBM 4208-502型印刷装置
 *IBM6400 IBM 6400印刷装置(IBMモード)
 *IBM6400EP IBM 6400印刷装置(EPSONモード)
 *IBM6404 IBM 6404印刷装置(IBMモード)
 *IBM6404EP IBM 6404印刷装置(EPSONモード)
 *IBM6408 IBM 6408-A00印刷装置(IBMモード)
 IBM 6408-CTA印刷装置(IBMモード)
 *IBM6408EP IBM 6408-A00印刷装置(EPSONモード)
 IBM 6408-CTA印刷装置(EPSONモード)
 *IBM6412 IBM 6412-A00印刷装置(IBMモード)
 IBM 6412-CTA印刷装置(IBMモード)
 *IBM6412EP IBM 6412-A00印刷装置(EPSONモード)
 IBM 6412-CTA印刷装置(EPSONモード)
 *IBMPAGES IBM 5589-H01印刷装置
 IBM 5588-H02印刷装置
 IBM 5587-H01印刷装置
 IBM 5586-H02印刷装置
 IBM 5585-H01印刷装置
 IBM 5584-K02型印刷装置
 IBM 5584-H02印刷装置
 IBM 5584-G02印刷装置
 *IBMPAGESNPB *IBMPAGESと同じですが、非印刷枠の
 テキスト位置調整はありません。
 *IBMPAGES300 IBMネットワーク・プリンター12 (PAGES機構付き)
 IBMネットワーク・プリンター17 (PAGES機構付き)
 IBMネットワーク・プリンター24 (PAGES機構付き)
 IBM INFOPRINT 20 (PAGESフィーチャーなし)
 IBM INFOPRINT 32 (PAGESフィーチャーあり)
 IBM INFOPRINT 40 (PAGESフィーチャーあり)

*IBMPAGES300NPB *IBMPAGES300と同じですが、非印刷枠の
テキスト位置調整はありません。

*INFOPRINT8C IBM INFOPRINTカラー8

*INFOPRINT12 IBM INFOPRINT 12

*INFOPRINT20 IBM INFOPRINT 20

*INFOPRINT21 IBM INFOPRINT 21

*INFOPRINT32 IBM INFOPRINT 32

*INFOPRINT40 IBM INFOPRINT 40

*INFOPRINT70 IBM INFOPRINT 70

*INFOPRINT85 IBM INFOPRINT 2085

*INFOPRINT105 IBM INFOPRINT 2105

*INFOPRINT1116 IBM INFOPRINT 1116

*INFOPRINT1120 IBM INFOPRINT 1120

*INFOPRINT1125 IBM INFOPRINT 1125

*INFOPRINT1130 IBM INFOPRINT 1130

*INFOPRINT1140 IBM INFOPRINT 1140

*INFOPRINT1145 IBM INFOPRINT 1145

*INFOPRINT1220C IBM INFOPRINT 1220C

*INFOPRINT1222 IBM INFOPRINT 1222

*INFOPRINT1226 IBM INFOPRINT 1226

*INFOPRINT1228C IBM INFOPRINT 1228C

*INFOPRINT1312 IBM INFOPRINT 1312

*INFOPRINT1332 IBM INFOPRINT 1332

*INFOPRINT1352 IBM INFOPRINT 1352

*INFOPRINT1357C IBM INFOPRINT 1357C

*INFOPRINT1372 IBM INFOPRINT 1372

*INFOPRINT2000 IBM INFOPRINT 2000

*INFOPRINT2085 IBM INFOPRINT 2085

*INFOPRINT2105 IBM INFOPRINT 2105

*CANLIPS3 CANON LIPS3 DBCS印刷装置

*CANLIPS3NPB *CANLIPS3と同じですが、非印刷枠の
テキスト位置調整はありません。

*CPQPM15 COMPAQ** PAGEMARK 15 (HPモード)

*CPQPM20 COMPAQ PAGEMARK 20 (HPモード)

*EPAP2250 EPSON ACTIONPRINTER 2250

*EPAP3250 EPSON ACTIONPRINTER 3250

*EPAP5000 EPSON ACTIONPRINTER 5000

*EPAP5500 EPSON ACTIONPRINTER 5500

*EPDFX5000 EPSON DFX-5000

*EPDFX8000 EPSON DFX-8000

*EPEPL7000 EPSON EPL-7000

*EPEPL8000 EPSON EPL-8000

*EPFX850	EPSON FX-850
*EPFX870	EPSON FX-870
*EPFX1170	EPSON FX-1170
*EPLQ510	EPSON LQ-510
*EPLQ570	EPSON LQ-570
*EPLQ860	EPSON LQ-860
*EPLQ870	EPSON LQ-870
*EPLQ1070	EPSON LQ-1070
*EPLQ1170	EPSON LQ-1170
*EPLQ2550	EPSON LQ-2550
*EPLX810	EPSON LX-810
*EPSQ870	EPSON SQ-870
*EPSQ1170	EPSON SQ-1170
*ESCPDBCS	EPSON ESC/P DBCS印刷装置
*HP11	HP LASERJET**シリーズII
*HP11D	HP LASERJET IID
*HP11P	HP LASERJET IIP
*HP11I	HP LASERJET III
*HP11ID	HP LASERJET IIID
*HP11IP	HP LASERJET IIIP
*HP11ISI	HP LASERJET IIISI
*HP4	HP LASERJET 4
*HP5	HP LASERJET 5シリーズ
*HP5SI	HP LASERJET 5SI
*HP6	HP LASERJET 6シリーズ
*HP310	HP DESKJET 310
*HP320	HP DESKJET 320
*HP500	HP DESKJET 500
*HP520	HP DESKJET 520
*HP540	HP DESKJET 540
*HP550C	HP DESKJET 550C
*HP560C	HP DESKJET 560C
*HP1100	HP LASERJET 1100シリーズ
*HP1200C	HP DESKJET 1200C
*HP1600C	HP DESKJET 1600C
*HP4000	HP LASERJET 4000シリーズ
*HP5000	HP LASERJET 5000シリーズ
*HP8000	HP LASERJET 8000シリーズ
*HPCOLORLJ	HP COLOR LASERJET 5
*HPDBCS	HP LASERJET互換印刷装置 (2バイト文字セット(DBCS)入力データ用)
*HPPAINT	HP PAINTJET

HP PAINTJET XL
HP PAINTJET XL300

*LEX2380 LEXMARK用紙印刷装置2380プラス
*LEX2381 LEXMARK用紙印刷装置2381プラス
*LEX2390 LEXMARK用紙印刷装置2390プラス
*LEX2391 LEXMARK用紙印刷装置2391プラス
*LEX4227 LEXMARK 4227用紙印刷装置
*LEXMARKC750 LEXMARK C750カラー印刷装置
*LEXMARKC910 LEXMARK C910カラー印刷装置
*LEXMARKC912 LEXMARK C912カラー印刷装置
*LEXMARKE322 LEXMARK E322印刷装置
*LEXMARKE323 LEXMARK E323印刷装置
*LEXMARKT420 LEXMARK T420印刷装置
*LEXMARKT520 LEXMARK T520印刷装置
*LEXMARKT522 LEXMARK T522印刷装置
*LEXMARKT620 LEXMARK T620印刷装置
*LEXMARKT622 LEXMARK T622印刷装置
*LEXMARKT630 LEXMARK T630印刷装置
*LEXMARKT632 LEXMARK T632印刷装置
*LEXMARKT634 LEXMARK T634印刷装置
*LEXMARKW812 LEXMARK W812印刷装置
*LEXMARKW820 LEXMARK W820印刷装置
*LEXOPTRA LEXMARK OPTRA FAMILY (HPモード)
*LEXOPTRAC LEXMARK OPTRA Cカラー印刷装置
*LEXOPTRAN LEXMARK OPTRA N印刷装置
*LEXOPTRAS LEXMARK OPTRA S印刷装置ファミリー
*LEXOPTRASC LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置
LEXMARK OPTRAカラー1200印刷装置
*LEXOPTRAT LEXMARK OPTRA T印刷装置シリーズ
*LEXOPTRAW LEXMARK OPTRA W印刷装置シリーズ
*NECP2 NEC P2 PINWRITER
*NECP2200 NEC P2200 PINWRITER
*NECP2200XE NEC P2200 XE PINWRITER
*NECP5200 NEC P5200 PINWRITER
*NECP5300 NEC P5300 PINWRITER
*NECP6200 NEC P6200 PINWRITER
*NECP6300 NEC P6300 PINWRITER
*NECPCPR201 NEC PC-PR101 DBCS印刷装置
NEC PC-PR201 DBCS印刷装置
*NONE 印刷装置は、CVTIMG APIによって生成された
ページ記述子言語をサポートします。
注:装置タイプが*SCSまたは*AFPDSのスプール・

ファイルは、これらの印刷装置のホスト印刷
変換機能で処理することができません。

*OKI184IBM	OKIDATA MICROLINE 184 TURBO (IBMモード)
*OKI320IBM	OKIDATA MICROLINE 320 (IBMモード)
*OKI321IBM	OKIDATA MICROLINE 321 (IBMモード)
*OKI390IBM	OKIDATA MICROLINE 390 PLUS (IBMモード)
*OKI391IBM	OKIDATA MICROLINE 391 PLUS (IBMモード)
*OKI393IBM	OKIDATA MICROLINE 393 PLUS (IBMモード)
*OKI590IBM	OKIDATA MICROLINE 590 (IBMモード)
*OKI591IBM	OKIDATA MICROLINE 591 (IBMモード)
*OKI400	OKIDATA OL400 LEDページ印刷装置
*OKI800	OKIDATA OL800 LEDページ印刷装置
*OKI810	OKIDATA OL810 LEDページ印刷装置
*OKI820	OKIDATA OL820 LEDページ印刷装置
*OKI3410	OKIDATA PACEMARK 3410
*PAN1123EP	PANASONIC KX-P1123 (EPSONモード)
*PAN1124EP	PANASONIC KX-P1124 (EPSONモード)
*PAN1124IEP	PANASONIC KX-P1124I (EPSONモード)
*PAN1180EP	PANASONIC KX-P1180 (EPSONモード)
*PAN1180IEP	PANASONIC KX-P1180I (EPSONモード)
*PAN1191EP	PANASONIC KX-P1191 (EPSONモード)
*PAN1624EP	PANASONIC KX-P1624 (EPSONモード)
*PAN1654EP	PANASONIC KX-P1654 (EPSONモード)
*PAN1695EP	PANASONIC KX-P1695 (EPSONモード)
*PAN2123EP	PANASONIC KX-P2123 (EPSONモード)
*PAN2124EP	PANASONIC KX-P2124 (EPSONモード)
*PAN2180EP	PANASONIC KX-P2180 (EPSONモード)
*PAN2624EP	PANASONIC KX-P2624 (EPSONモード)
*PAN4410HP	PANASONIC KX-P4410 (HPモード)
*PAN4420HP	PANASONIC KX-P4420 (HPモード)
*PAN4430HP	PANASONIC KX-P4430 (HPモード)
*PAN4450IHP	PANASONIC KX-P4450I (HPモード)
*PAN4451HP	PANASONIC KX-P4451 (HPモード)
*PANASONIC3510	PANASONIC DP-3510印刷装置(HPモード)
*PANASONIC4510	PANASONIC DP-4510印刷装置(HPモード)
*PANASONIC6010	PANASONIC DP-6010印刷装置(HPモード)
*XR4215MRP	XEROX 4215/MRP (HPモード)
*XR4219MRP	XEROX 4219/MRP (HPモード)
*XR4220MRP	XEROX 4220/MRP (HPモード)
*XR4230MRP	XEROX 4230/MRP (HPモード)
*XR4235	XEROX 4235 LASERPRINTING (HPモード)
*XR4700II	XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置(HPモード)

*WSCSTA3	印刷装置はリストされていない(A3サイズ用紙)
*WSCSTA4	印刷装置はリストされていない(A4サイズ用紙)
*WSCSTA5	印刷装置はリストされていない(A5サイズ用紙)
*WSCSTB4	印刷装置はリストされていない(B4サイズ用紙)
*WSCSTB5	印刷装置はリストされていない(B5サイズ用紙)
*WSCSTCONT80	印刷装置はリストされていない(8インチ連続用紙)
*WSCSTCONT132	印刷装置はリストされていない(13.2インチ連続用紙)
*WSCSTEXECUTIVE	印刷装置はリストされていない(エグゼクティブ・サイズ用紙)
*WSCSTLEDGER	印刷装置はリストされていない(レジャー・サイズ用紙)
*WSCSTLEGAL	印刷装置はリストされていない(リーガル・サイズ用紙)
*WSCSTLETTER	印刷装置はリストされていない(レター・サイズ用紙)
*WSCSTNONE	印刷装置はリストされていない(用紙サイズ未指定)
*WSCST	印刷装置はリストされていない

トップ

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

ワークステーションや印刷装置などの指定のASCII装置をカスタマイズするために使用される属性テーブルからなるオブジェクトを指定します。カスタマイズできる特性の例は文字表示、フォント仕様、および制御キー順序などです。

このパラメーターのプロンプトが出されるのは、TRANSFORM(*YES)が指定された場合、またはユーザー・データ変換プログラムを使用した場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定されません。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの名前は、次のライブラリーの値のいずれかによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト作成(CRTWSCST)コマンドによって作成された有効なワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定してください。

トップ

イメージ構成 (IMGCFG)

この出力待ち行列のイメージ構成を指定します。イメージ構成オブジェクトは、さまざまなイメージおよび印刷データ・ストリーム形式の変換サービスを提供します。このパラメーターが使用されるのは、リモート書き出しプログラムの場合だけです。

提供されるイメージ構成オブジェクトのリストについては、以下のイメージ構成オブジェクト(IMGCFG パラメーター) テーブルを参照してください。

普及している多くの印刷装置について推奨されるIMGCFGについては、以下の印刷装置別推奨イメージ構成オブジェクト・テーブルを参照してください。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

イメージ構成は指定されません。

イメージ構成

出力待ち行列のイメージ構成を指定してください。

イメージ構成オブジェクト・テーブル

----- HP PCLデータ・ストリーム-----

- *IMGA01 PCL 300-DPI印刷装置
- *IMGA02 PCL 600-DPI印刷装置
- *IMGA03 PCL 1200-DPI印刷装置
- *IMGA04 PCL 300-DPIカラー印刷装置
- *IMGA05 PCL 600-DPIカラー印刷装置
- *IMGA06 PCL 1200-DPIカラー印刷装置
- *IMGA07 PCL 75-DPI印刷装置 (圧縮なし)
- *IMGA08 PCL 600-DPI カラー印刷装置
(より大きな印刷余白付き)
- *IMGA09 PCL 300-DPI印刷装置 (圧縮なし)

-----ポストスクリプト・データ・ストリーム-----

- *IMGB01 ポストスクリプト300-DPI印刷装置
- *IMGB02 ポストスクリプト600-DPI印刷装置
- *IMGB03 ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
- *IMGB04 ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
- *IMGB05 ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
- *IMGB06 ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
- *IMGB07 ポストスクリプト600X300-DPIカラー印刷装置
- *IMGB08 ポストスクリプト1200X300-DPIカラー印刷装置
- *IMGB09 ポストスクリプト360-DPIカラー印刷装置
- *IMGB10 ポストスクリプト720-DPIカラー印刷装置
- *IMGB11 ポストスクリプト1440X720-DPIカラー印刷装置
- *IMGB12 ポストスクリプト400-DPI印刷装置
- *IMGB13 ポストスクリプト800-DPIカラー印刷装置
- *IMGB14 ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置

(より大きな印刷余白付き)

*IMGB15 ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置

(より大きな印刷余白付き)

----- IPDSデータ・ストリーム-----

- *IMGC01 IPDS 240-DPI印刷装置
- *IMGC02 IPDS 300-DPI印刷装置
- *IMGC03 IPDS 600-DPI印刷装置
- *IMGC04 IPDS 1200-DPI印刷装置
- *IMGC05 IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
- *IMGC06 IPDS 300-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
- *IMGC07 IPDS 600-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
- *IMGC08 IPDS 1200-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
- *IMGC09 IPDS 240-DPI印刷装置(IM/1イメージのみ)
- *IMGC10 IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
(IM/1イメージのみ)
- *IMGC11 IPDS 240-DPI印刷装置(CCITT G4圧縮)

----- PCLおよびポストスクリプト・データ・ストリーム-----

- *IMGD01 PCL/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
- *IMGD02 PCL/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
- *IMGD03 PCL/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
- *IMGD04 PCL/ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
- *IMGD05 PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
- *IMGD06 PCL/ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
- *IMGD07 PCL 300-DPI/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
- *IMGD08 PCL 300-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
- *IMGD09 PCL 600-DPI/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
- *IMGD10 PCL 600-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
- *IMGD11 PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
(より大きな印刷余白付き)

印刷装置テーブルによる、推奨されるイメージ構成オブジェクト

COMPAQ PAGEMARC 20	*IMGD01
EPSON EPCL-4印刷装置	*IMGA01
EPSON EPCL-5印刷装置	*IMGA02
EPSON STYLUS PHOTO (ポストスクリプト付き)	*IMGB10
EPSON STYLUS COLOR 600, 800 (ポストスクリプト付き)	*IMGB11
HP COLOR LASERJET 5	*IMGA04
HP COLOR LASERJET 5M	*IMGD04
HP DESKJET 560C, 820C, 1200C	*IMGA04
HP DESKJET 500, 600, 1200	*IMGA01
HP DESKJET 1600C, 1600CN	*IMGA04
HP DESKJET 1600CM	*IMGD04
HP LASERJET II, IID, IIP	*IMGA09

HP LASERJET II, IID, IIP (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L	*IMGA01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
HP LASERJET 4, 4P, 4V, 4SI, 4 PLUS	*IMGA02
HP LASERJET 4M, 4MP, 4MV, 4SI MX, 4M PLUS	*IMGD02
HP LASERJET 5, 5P, 5SI	*IMGA02
HP LASERJET 5M, 5MP, 5SI MX	*IMGD02
HP LASERJET 6, 6P, 6L	*IMGA02
HP LASERJET 6M, 6MP	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置(IPDS機構付き)	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 3130, 3160-1 AF印刷装置(240画素モード)	*IMGC01
IBM 3130 AF印刷装置(300画素モード)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 32 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 32 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 60	*IMGC03
IBM INFOPRINT 62モデル2	*IMGC05
IBM INFOPRINT 62モデル3	*IMGC06
IBM INFOCOLOR 70	*IMGB05
IBM INFOPRINT 4000	*IMGC05
IBM INFOPRINT 4000 (高解像度)	*IMGC06
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置	*IMGC09
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC01
IBM 3829 AF印刷装置	*IMGC01
IBM 3835-001 AF印刷装置	*IMGC10
IBM 3835-001 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC05
IBM 3835-002, 3900 AF印刷装置	*IMGC05
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGA01
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 3930-02ページ印刷装置(IPDSディスク)	*IMGC01
IBM 3930-03ページ印刷装置	*IMGA01
IBM 3930-03ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
IBM 3935 AF印刷装置	*IMGC02
IBM 4019レーザー・プリンター(HPモード)	*IMGA09
IBM 4019レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
IBM 4028レーザー・プリンター	*IMGC06
IBM 4029レーザー・プリンター	*IMGA01
IBM 4029レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB02
IBM 4039レーザー・プリンター	*IMGA01

IBM 4039レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD07
IBM 4049レーザー・プリンター	*IMGA02
IBM 4049レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 4079カラー・ジェット・プリンターPS	*IMGB09
IBM 4303ネットワーク・カラー・プリンター	*IMGB05
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (LAN)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ポストスクリプト付き) (ASCII/LAN)	*IMGD02
LEXMARK 4039PLUS	*IMGB02
LEXMARK OPTRA Cカラー・プリンター	*IMGD11
LEXMARK OPTRA E, E+	*IMGA02
LEXMARK OPTRA N	*IMGD02
LEXMARK OPTRA R+, RX+, LX+, LXN+	*IMGD02
LEXMARK OPTRA S印刷装置	*IMGD02
LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置	*IMGD05
OKIDATA OL400 LEDページ印刷装置	*IMGA01
OKIDATA OL800, OL810 LEDページ印刷装置	*IMGA02
QMS 2025, 3225	*IMGB12
QMS MAGICOLOR CX	*IMGD04
TEKTRONIX PHASER 140	*IMGB09
TEKTRONIX PHASER 300	*IMGB04
TEKTRONIX PHASER 400	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 540, 550	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 560	*IMGB06
XEROX 4219/MRP	*IMGA01
XEROX 4220/MRP	*IMGA02
XEROX 4230 DOCUPRINTER	*IMGA02
XEROX 4512, 4517ネットワーク・プリンター	*IMGA02
XEROX 4520MP印刷装置	*IMGB13
XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置	*IMGD04
XEROX 4915カラー・レーザー・プリンター	*IMGB08
XEROX 4920, 4925カラー・レーザー・プリンター	*IMGB05

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

印刷要求が送られる先のリモート・システムのIPアドレスを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、RMTSYS(*INTNETADR)およびCNNTYPE(*IP)またはCNNTYPE(*USRDFN)が指定された場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

IPアドレス

インターネット・アドレスは**NNN.NNN.NNN.NNN**の形式で指定されます。ここで**NNN**は0-255の範囲の10進数です。そのアドレスのネットワーク識別コード部分またはホスト識別コード部分のビットがすべて2進数の1または0であるIPアドレスは無効です。

コマンド入力行から入力する場合には、値をアポストロフィ(')で囲まなければなりません。

[トップ](#)

VM/MVSクラス (CLASS)

VM/MVSホスト・システムに送られるファイルのVM/MVS SYSOUTクラスを指定します。

注: このパラメーターは、CNNTYPE(*SNA)およびDESTTYPE(*S390)が指定された時にのみ有効です。

考えられる値は、次の通りです。

A クラスはAです。

クラス値

配布クラス値を指定してください。有効な値の範囲は、A - Zおよび0 - 9です。

[トップ](#)

用紙制御バッファ (FCB)

VM/MVSホスト・システムに送られるファイルの用紙制御バッファを指定します。

注: このパラメーターは、CNNTYPE(*SNA)およびDESTTYPE(*S390)が指定された時にのみ有効です。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

用紙制御バッファは使用されません。

*USRDTA

ユーザー・データ(USRDTA)スプール・ファイル属性の最初の8文字が用紙制御バッファの名前になります。ユーザー・データがブランクの場合には、用紙制御バッファは使用されません。

***PRTF** ファイルをスプールするために使用される印刷装置ファイルの最初の8文字が用紙制御バッファの名前になります。

用紙制御バッファ名

使用される用紙制御バッファの名前を指定してください。

[トップ](#)

宛先オプション (DESTOPT)

宛先従属オプションを指定します。CNNTYPE(*IP)が指定された場合には、宛先従属オプションが制御ファイル(LPDサーバーに送信される)に追加されます。CNNTYPE(*IP)およびDESTTYPE(*NDS)またはCNNTYPE(*SNA)が指定されると、スプール・ファイルがリモート・システムに送信された後の処理方法を判別するのにこのフィールドが使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

宛先オプションは指定されません。

***USRDFNTXT**

スプール・ファイルが作成された時点のユーザー・プロファイルのユーザー定義テキストが使用されます。CNNTYPE(*IP)およびDESTTYPE(*NDS)またはCNNTYPE(*SNA)を指定した場合には、この値は無視されます。

***NOWAIT**

CNNTYPE(*IP)およびDESTTYPE(*NDS)またはCNNTYPE(*SNA)が指定された場合には、オペレーティング・システムがスプール・ファイルを送信した後はそれを記録しないことを、*NOWAITの値は示します。

'宛先オプション'

アポストロフィで囲まれた128文字を超えない文字を指定してください。

トップ

区切りページの印刷 (SEPPAGE)

リモート・システムで印刷する時に、分離ページを要求するかしないかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***YES** 分離ページが要求されます。

***NO** 分離ページは要求されません。

トップ

ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルを処理するユーザー適用業務またはユーザー指定プログラムによって使用される1つまたは複数のユーザー定義オプションを指定します。最大4つのユーザー定義オプションを指定することができます。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

ユーザー定義のオプションは指定しません。

ユーザー定義オプション

スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションで使用されるユーザー定義のオプションを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

トップ

ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義オブジェクトを指定します。

***NONE**

ユーザー定義オブジェクト名は指定されません。

ユーザー定義オブジェクト名

スプール・ファイルを処理する、ユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定のプログラムで使用されるユーザー定義のオブジェクトの名前を指定してください。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

名前 ユーザー定義オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプ

ユーザー・オブジェクト・タイプは次のいずれかとすることができます。

***DTAARA**

データ域

***DTAQ**

データ待ち行列

***FILE** ファイル

***PSFCFG**

PSF構成

***USRIDX**

ユーザー索引

***USRQ**

ユーザー待ち行列

***USRSPC**

ユーザー空間

トップ

ユーザー定義ドライバー・プログラム (USRDRVPGM)

ユーザー定義のドライバー・プログラムを指定します。

注: このパラメーターは、RMTSYSが*NONEでない時にだけ有効です。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

ユーザー定義のドライバー・プログラムは指定しません。

ユーザー・ドライバー・プログラム名

スプール・ファイルを処理するためのユーザー指定のドライバー・プログラムの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイルASP (SPLFASP)

スプール・ファイルが物理的に存在する補助記憶域プール(ASP)を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***OUTQASP**

スプール・ファイルは出力待ち行列が入っているのと同じASPにあります。

***SYSTEM**

スプール・ファイルはシステムASPにあります。出力待ち行列が1次または2次ASP上のライブラリーにある場合には、この値は許可されません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ファイルの表示 (DSPDTA)

出力待ち行列の読み取り権限を持っているユーザーが、待ち行列上のすべてのスプール・ファイルのデータを表示することができるか、あるいはユーザー自身のファイルのデータしか表示することができないかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 待ち行列の使用を認可されたユーザーは、ある種の特殊権限を持っていない限り、ユーザー自身のファイルのデータしか表示、コピー、または送信することができません。

***YES** 待ち行列の読み取り権限を持つユーザーは、待ち行列上のすべてのファイルのデータを表示、コピー、または送信することができます。

***OWNER**

ファイルの所有者または*SPLCTL特殊権限を持つユーザーは、待ち行列上のスプール・ファイルを表示、コピー、または送信することができます。

トップ

ジョブ区切り (JOBSEP)

出力待ち行列上のファイルを使用する各ジョブについて、ジョブの出力の先頭に置く区切りの数を指定します。それぞれの区切りには、ジョブの名前、ジョブ・ユーザー名、ジョブ番号、ジョブ実行の時刻と日付、などのジョブを識別する情報が含まれています。

このパラメーターは、印刷装置書き出しプログラムによってのみ使用されます。他のすべてのタイプの書き出しプログラムは、このパラメーターに指定された値を無視します。

考えられる値は、次の通りです。

0 各ジョブの出力の前にジョブ区切りを印刷しません。

***MSG** 各ジョブの終了を操作員に通知するメッセージがメッセージ待ち行列に送られます。このメッセージ待ち行列は、印刷装置書き出しプログラム開始(STRPRTWTR)コマンドのメッセージ待ち行列プロンプト(MSGQパラメーター)によって識別されます。

ジョブ区切りの数

各ジョブの出力の前に置く区切りの数 (0から9まで) を指定します。

トップ

操作員制御 (OPRCTL)

ジョブ制御権限を持つユーザーに、この出力待ち行列上のファイルの管理または制御を許可するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***YES** ジョブ制御権限を持つユーザーは、待ち行列を制御し、待ち行列上のファイルを変更することができます。

***NO** ジョブ制御権限を持つユーザーは、他の特殊権限を持っている場合を除いて、この待ち行列および待ち行列上の項目を制御または変更することはできません。

データ待ち行列名 (DTAQ)

出力待ち行列に関連したデータ待ち行列の名前を指定します。スプール・ファイルが出力待ち行列で印刷可能(RDY)状況になっている時には、データ待ち行列に項目が記録されます。ユーザー・プログラムは、データ待ち行列受け取りAPI (QRCVDTAQ)を使用してデータ待ち行列から情報を受け取ることによって、出力待ち行列でスプール・ファイルが使用可能になる時点を判別することができます。

出力待ち行列でスプール・ファイルがRDY状況になるたびに、項目がデータ待ち行列に送られます。スプール・ファイルは、出力待ち行列から取り出されるまでに、いくつかの状況変更があることがあります（たとえば、RDY-保留(HLD)-解放(RLS) -RDYと状況が変わることがあります）。こうした状況の変化によって、スプール・ファイルがRDY状況になるたびに、データ待ち行列にそのスプール・ファイルの項目が入れられます。

データ待ち行列作成(CRTDTAQ)コマンドを使用してデータ待ち行列が作成される時には、メッセージの最大長 (MAXLENパラメーター) 値は少なくとも128にし、順序 (SEQパラメーター) 値は*FIFOまたは*LIFOにしてください。出力待ち行列上のデータ待ち行列の詳細は、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)にあります。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

出力待ち行列に関連したデータ待ち行列はありません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

データ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

データ待ち行列名

出力待ち行列と関連したデータ待ち行列の名前を指定してください。

検査権限 (AUTCHK)

出力待ち行列に対してどのタイプの権限を持っているユーザーが待ち行列上のすべてのファイルを制御することができるかを指定します。ある種の特殊権限を持つユーザーもスプール・ファイルを制御できる場合があります。

考えられる値は、次の通りです。

*OWNER

出力待ち行列権限テストを通過するためには、要求元は出力待ち行列に対する所有権限を必要とし

ます。要求元は、出力待ち行列の所有者となるか、グループ・プロファイルを待ち行列の所有者と共用するか、あるいは所有者の権限に合うプログラムを実行することで所有権を持つことができます。

*DTAAUT

出力待ち行列に対して追加、読み取り、および削除の権限を持っているユーザーが、待ち行列上のすべてのスプール・ファイルを制御することができます。

トップ

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***USE** 使用権限によって、ユーザーは、待ち行列上にスプール・ファイルを入れるなど、出力待ち行列に対して基本的な操作を実行することができます。*USE権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

*CHANGE

検査権限プロンプト(AUTCHKパラメーター)に*DTAAUTを指定して待ち行列を作成した場合には、変更権限によって、ユーザーは出力待ち行列記述を変更し、他のユーザーが作成したファイルを制御することができます。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限**プロンプト(CRTAUTパラメーター)に指定された値と同じです。**作成権限**プロンプト(CRTAUTパラメーター)で指定された値を変更しても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

トップ

CRTOUTQの例

```
CRTOUTQ  OUTQ(DEPTAPRT)  AUT(*EXCLUDE)  SEQ(*FIFO)
          TEXT('SPECIAL PRINTER FILES FOR DEPTA')
```

このコマンドは、DEPTAPRTという名前の出力待ち行列を作成し、それを現行ライブラリーに書き込みます。AUT(*EXCLUDE)が指定され、OPRCTL(*YES)とみなされているので、この出力待ち行列は、待ち行列を作成したユーザーおよびジョブ制御権限またはスプール制御権限を持っているユーザーによってのみ使用および制御することができます。SEQ(*FIFO)が指定されているので、スプール・ファイルは先入れ先出し法の順序で待ち行列に入れられます。部門Aのユーザーにこの出力待ち行列の使用が許可されている場合には、オブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドを使用して、それらのユーザーに必要な権限を認可する必要があります。この待ち行列上のファイルに入っているデータは、そのファイルを所有するユーザー、待ち行列の所有者、ジョブ制御権限を持っているユーザー、およびスプール制御権限を持っているユーザーだけが表示することができます。省略時の値では、それぞれのジョブの出力の先頭にジョブ分離ページは印刷されません。

トップ

エラー・メッセージ： CRTOUTQ

*ESCAPE メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2192

オブジェクト&1をライブラリー&3に作成することはできない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2212

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2402

ライブラリー&1が見つからない。

CPF2799

ライブラリー&2にメッセージ待ち行列&1が見つかりませんでした。

CPF33F1

ライブラリー&2のデータ待ち行列&1が見つからない。

CPF3352

一時ライブラリー&1は出力待ち行列&2に対して正しくない。

CPF3353

&2に出力待ち行列&1はすでに存在している。

CPF3354

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3356

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF3371

スプール・ユーザー・プロファイルQSPLに損傷があるか、または見つからない。

CPF34D6

エラーのために&2中の出力待ち行列&1が作成されなかった。

CPF9818

オブジェクト&2はライブラリー&3に作成されなかった。

[トップ](#)

オーバーレイの作成 (CRTOVL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オーバーレイ作成(CRTOVL)コマンドは、物理ファイルからオーバーレイ資源を作成します。物理ファイルには、オーバーレイ資源情報が入っています。たとえば、オーバーレイ資源情報は、S/370ホスト・システムから受け取ることができ、システム・アプリケーション体系(SAA)形式になっていてかまいません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OVL	オーバーレイ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オーバーレイ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *OVL	オプション, 定位置 3
DATATYPE	データ・タイプ	*AFPDS, *AFPU	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション
REPLACE	オーバーレイの置き換え	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

オーバーレイ (OVL)

作成中のオーバーレイの名前およびライブラリーを指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

オーバーレイを記憶するためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

オーバーレイを記憶したいライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (FILE)

このシステムに送られたオーバーレイ・レコードが入っているファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ソース・ファイル・メンバー (MBR)

オーバーレイ・レコードが入っているファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***OVL** ファイル・メンバーの名前は、このコマンドのオーバーレイプロンプト (OVLパラメーター) に指定されています。

ファイル・メンバー名

ソース・ファイルプロンプト (FILEパラメーター) によって指定されたファイルのメンバーを指定してください。

[トップ](#)

データ・タイプ (DATATYPE)

入力ファイルのソース仕様タイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*AFPDS

入力は、事前に作成された高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)が入っているデータベース・ファイルです。

*AFPU

入力は、ADVANCED FUNCTION PRINTING UTILITIES FOR OS/400 (AFPユーティリティー) で作成されたソース・ファイルです。

注: この値は、AFPユーティリティーがシステムに導入されている場合にだけ有効です。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***MBRTXT**

テキストは、オーバーレイ資源を作成するために使用するファイル・メンバーから取り出されます。ソース・ステートメント入力ユーティリティ(StrSEU)コマンドを使用して、あるいは物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(CHGPFM)コマンドのいずれかを使用して、データベースソース・メンバーに対してテキストを追加または変更することができます。ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

オーバーレイの置き換え (REPLACE)

作成中のオーバーレイと同じ名前をもつ既存のオーバーレイを置き換えるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** 既存のオーバーレイは置き換えられます。

***NO** 同じ名前のオーバーレイがシステムに存在している場合には、作成操作は正常に実行されません。既存のオーバーレイは置き換えられません。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LIBCRTAUT**

作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTL)で作成権限プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限をシステムが決定します。作成権限プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

トップ

CRTOVLの例

```
CRTOVL  OVL(MYLIB/MYSIGNTR)
        FILE(MYLIB/MYSIGNTR) MBR(MYSIGNTR)
        AUT(*EXCLUDE) TEXT('REPRESENTATION OF MY SIGNATURE')
```

このコマンドは、オーバーレイMYSIGNTRをMYLIBに作成します。ライブラリーMYLIBのファイル名MYSIGNTRがメンバーMYSIGNTRと共に入力データとして使用されます。*EXCLUDEを指定することにより、他のユーザーは署名にアクセスできません。テキストはオーバーレイを記述しています。

トップ

エラー・メッセージ： CRTOVL

***ESCAPEメッセージ**

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

CPF88C1

印刷装置資源タイプ&1 &2がライブラリー&3に作成されなかった。

CPF88C2

&1コマンドの場合には、データ・タイプ・パラメーター値*AFPUは正しくない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

[トップ](#)

ページ定義の作成 (CRTPAGDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ページ定義作成(CRTPAGDFN)コマンドは、ユーザー提供のAS/400データベース・ファイルを内部空間オブジェクトにコピーすることによってページ定義を作成します。ユーザーは、リモート・システム（システム/370など）または外部媒体（通常、テープ）からデータベースにソース・データをロードし、OS/400オペレーティング・システムで処理できるシステム・アプリケーション体系の形式にしなければなりません。

制約事項：スプール・ファイルをシステム/370システムにネットワークする場合には、ページ定義名の最初の2文字は'P1'でなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PAGDFN	ページ定義	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ページ定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *PAGDFN	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション
REPLACE	ページ定義の置き換え	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

トップ

ページ定義 (PAGDFN)

作成されるページ定義の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

ページ定義を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ページ定義が入っているライブラリーの名前を指定してください。

ページ定義名

ページ定義の名前に最大8文字を指定してください。

[トップ](#)

ファイル (FILE)

このシステムに送られたページ定義レコードが入っているデータ・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

データ・ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

ファイル名

データ・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

ページ定義レコードが入っているデータ・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*PAGDFN

データ・ファイル・メンバーの名前は、このコマンドのページ定義プロンプト (PAGDFNパラメーター) で指定された名前と同じです。

データ・ファイル・メンバー名

データ・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***MBRTXT**

テキストは、ページ定義を作成するために使用されるデータ・ファイル・メンバーから取り出されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

記述 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ページ定義の置き換え (REPLACE)

作成中のページ定義と同じ名前をもつ既存のページ定義を置き換えるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** 既存のページ定義は置き換えられます。

***NO** 同じ名前のページ定義がシステムに存在している場合には、作成操作は正常に実行されません。既存のページ定義は置き換えられません。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LIBCRTAUT**

作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で**作成権限**プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限をシステムが決定します。**作成権限**プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を

実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

[トップ](#)

CRTPAGDFNの例

```
CRTPAGDFN  PAGDFN(*CURLIB/P1DFLT)  FILE(*CURLIB/PAGDFNS)
           MBR(*PAGDFN)  AUT(*EXCLUDE)
           TEXT('DEFAULT PAGE DEFINITION')
```

このコマンドは、ページ定義P1DFLTを現行ライブラリーまたはライブラリーQGPL（現行ライブラリーがない場合）に作成します。入力データは、現行ライブラリーのメンバーP1DFLTと共にソース・ファイルPAGDFNSから取られます。権限に*EXCLUDEを指定すると、所有者に対するオブジェクトの使用が制限されます。テキストはページ定義を記述しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTPAGDFN

***ESCAPEメッセージ**

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

CPF88C1

印刷装置資源タイプ&1 &2がライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

[トップ](#)

ページ・セグメントの作成 (CRTPAGSEG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ページ・セグメント作成(CRTPAGSEG)コマンドは、ユーザー提供のAS/400データベース・ファイルを内部空間オブジェクトにコピーすることによって、ページ・セグメント空間オブジェクトを作成します。ユーザーは、ページ・セグメント資源をリモート・システム（システム/370など）または外部媒体（テープなど）からデータベースにロードし、その資源をOS/400オペレーティング・システムによって処理できるシステム・アプリケーション体系の形式にしなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PAGSEG	ページ・セグメント	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ページ・セグメント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *PAGSEG	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション
REPLACE	ページ・セグメントの置き換え	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

トップ

ページ・セグメント (PAGSEG)

作成中のページ・セグメントの名前およびライブラリーを指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

ページ・セグメントを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ページ・セグメントを見つけるために使用されるライブラリー名を指定してください。

ソース・ファイル (FILE)

このシステムに送られたページ・セグメント・レコードが入っているファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

トップ

ソース・ファイル・メンバー (MBR)

ページ・セグメント・レコードが入っているファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***PAGSEG**

ファイル・メンバーの名前はページ・セグメントプロンプト（このコマンドのPAGSEGパラメーター）で指定されます。

メンバー名

ソース・ファイルプロンプト（FILEパラメーター）によって指定されたファイルのメンバーを指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***MBRTXT**

テキストは、ページ・セグメントを作成するために使用するファイル・メンバーから取り出されます。ソース・ステートメント入力キューティリティー(STRSEU)コマンドを使用して、あるいは物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(CHGPFM)コマンドのいずれかを使用して、データベースソース・メンバーに対してテキストを追加または変更することができます。ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

*BLANK

テキストは指定されません。

記述 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ページ・セグメントの置き換え (REPLACE)

作成中のページ・セグメントと同じ名前をもつ既存のページ・セグメントを置き換えるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** 既存のページ・セグメントは置き換えられます。

***NO** 同じ名前のページ・セグメントがシステムに存在している場合には、作成操作は正常に実行されません。既存のページ・セグメントは置き換えられません。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で作成権限プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限をシステムが決定します。作成権限プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

[トップ](#)

CRTPAGSEGの例

```
CRTPAGSEG  PAGSEG(MYLIB/PAGSEG1) FILE(*LIBL/PAGSGMTS)
           MBR(*PAGSEG)
           AUT(*ALL) TEXT('CANNED PARAGRAPH 1')
```

このコマンドは、ページ・セグメントPAGSEG1をMYLIBに作成し、PAGSGMTSメンバーPAGSEG1をコマンドに対する入力データとして使用します。AUTパラメーターに*ALLを指定することにより、任意のユーザーがそれに対して最もオブジェクト指向の高いコマンドを実行できます。テキストには、オブジェクトの記述が入っています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTPAGSEG

*ESCAPEメッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

CPF88C1

印刷装置資源タイプ&1 &2がライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

[トップ](#)

印刷記述子グループ作成 (CRTPDG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷記述子グループ作成(CRTPDG)コマンドは、印刷記述子グループに関する情報およびそのグループと関連した印刷記述子名を記憶できるタイプ*PDGのオブジェクトをAS/400システム上に作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PDG	記述子グループの印刷	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 記述子グループの印刷	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK, X''	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

記述子グループの印刷 (PDG)

作成する印刷記述子グループの名前およびライブラリーを指定します。

印刷記述子グループ名

作成するPDGの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

PDGを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

作成されたPDGが記憶されるライブラリー名を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BLANK

テキスト記述はブランクのままにされます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (**CRTAUT**) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUT パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE 権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

CRTPDGの例

CRTPDG PDG(LETTERS)

このコマンドは、印刷記述子グループLETTERSを作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTPDG

*ESCAPEメッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF6D81

印刷記述子グループ&1はライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

PEXデータ作成 (CRTPEXDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・データ作成(CRTPEXDTA)コマンドは、PERFORMANCE EXPLORER 管理収集オブジェクト (オブジェクト・タイプ*MGTCOL)中のデータに基づいて、PERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルを作成します。

PERFORMANCE EXPLORERツールの詳細については、「パフォーマンス管理」情報 (HTTP://WWW.IBM.COM/SERVERS/ESERVER/ISERIES/PERFMGMT/RESOURCE.HTM)を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. 指定されたTOLIBライブラリーに対する*ADDおよび*EXECUTE権限と、FROMLIBライブラリーに対する*READおよび*EXECUTE権限が必要です。
3. 管理収集オブジェクトに対する*READ権限が必要です。
4. このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システム/400のサービス追跡機能に許可されていないならばなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法情報の変更 (QSYCHFUI) APIも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
5. 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用認可を受けています。
 - QPGMR
 - QSRV

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMMGTCOL	FROM収集	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROM収集	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPEXDATA</u>	
TOMBR	TOメンバー	名前, <u>*FROMMGTCOL</u>	オプション, 定位置 2
TOLIB	TOライブラリー	名前, <u>*FROMMGTCOL</u>	オプション, 定位置 3
NBRTHD	スレッドの数	1-256, <u>*CALC</u>	オプション
RPLDTA	データの置き換え	<u>*YES</u> , <u>*NO</u>	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション

トップ

FROM収集 (FROMMGTCOL)

PERFORMANCE EXPLORER管理収集オブジェクトの名前を指定します。このオブジェクトのデータは、指定されたメンバーのPERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルに保管されます。

これは必須パラメーターです。

MANAGEMENT_COLLECTION_OBJECT名

管理収集オブジェクトの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

QPEXDATA

QPEXDATAライブラリーは、PERFORMANCE EXPLORERツールで収集されたデータを保管するために推奨されるライブラリーです。初めてPERFORMANCE EXPLORERツールを使用するときに、このライブラリーがユーザー用に作成されます。

データ・ライブラリー名

管理収集オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

TOメンバー (TOMBR)

PERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルにデータを保管するために使用するメンバー名を指定します。

***FROMMGTCOL**

管理収集オブジェクトの名前がメンバー名として使用されます。

メンバー名

PERFORMANCE EXPLORERデータの保管に使用されるデータベースのメンバー名を指定してください。

[トップ](#)

TOライブラリー (TOLIB)

PERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルにデータを保管するために使用されるライブラリーを指定します。

***FROMMGTCOL**

管理収集オブジェクトに指定されたライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

PERFORMANCE EXPLORERデータの保管に使用されるデータベースのライブラリー名を指定してください。

[トップ](#)

スレッドの数 (NBRTHD)

データを処理するためにCRTPEXDТАコマンドで使用する同時スレッド数を指定します。1以上の数値を指定することによって、マルチプロセッサ・システムでは特に、CRTPEXDТАコマンドで使用可能なCPUサイクルを利用することができます。また、これによってコマンドの処理速度は高くなりますが、システム上の他のジョブのパフォーマンスを低下させることもあります。CRTPEXDТАコマンドを実行するジョブの優先順位を高いものに変更することによって、この影響を最小限にすることができます。また、ディスク・サブシステムが追加スレッドを処理できることを検査する必要もあります。通常、CRTPEXDТАコマンドでは、活動状態のそれぞれのスレッドに1つのディスク・アームが必要です。

***CALC**

システムは、CPUまたはディスク資源を過剰に使用しないCRTPEXDТА処理を行なうためにスレッドの適切な数を計算します。通常、これは、使用可能な各プロセッサで1または2個のスレッドです。

スレッド数

収集されたデータの処理に使用するために、CRTPEXDТАのスレッド数を指定します。

[トップ](#)

データの置き換え (RPLDTA)

既存セットのファイル・メンバーのデータを新しいパフォーマンス・データで置き換えるかどうかを指定します。

***NO** 同じ名前のメンバーがすでに存在している場合には、エラー・メッセージがユーザーに送られます。これにより、ユーザーが不用意に既存のデータを上書きすることがなくなります。

***YES** 同じ名前のメンバーがすでに存在している場合には、古いデータは失われ、新しいデータで置き換えられます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

収集されるデータのタイプを簡単に記述するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CRTPEXDТАの例

例1: PEXデータの作成

```
CRTPEXDТА FROMMGTCOL(QAPEXDТА/MYCOL) TOMBR(TEST)
          TOLIB(QAPEXDТА) NBRTHD(2)
```

このコマンドは、ライブラリーQAPEXDATAのメンバー名TESTにPERFORMANCE EXPLORER (PEX)データを作成します。収集されたデータは、ライブラリーQAPEXDTAの管理収集オブジェクトMYCOL内にあります。データの処理には2つのスレッドが使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTPEXDTA

なし

[トップ](#)

物理ファイル作成 (CRTPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル作成(CRTPF)コマンドは、このコマンドに指定した情報および（任意選択で）ソース・ファイルに入っているデータ記述仕様(DDS)から物理ファイルを作成します。

物理ファイルは、データ・レコードが入っているデータベース・ファイルです。データ・レコードは物理ファイル・メンバーにまとめられ、各メンバーにはそのデータに対する独自のアクセス・パスがあります。通常、データベース・ファイルには1つのメンバーしかなく、そのメンバーはファイルの作成時に省略時の値によってファイルに追加されます。所要の物理ファイルに到着順の1つの文字フィールドのみをもつレコード様式がある場合、あるいはファイルがソース・ファイルである場合には、DDSソース・ファイルは必要ありません。ファイルの作成後にその属性を一時変更するためには、データベース・ファイル一時変更(OVRDBF)コマンドを使用してからファイルをオープンしてください。ファイルの作成後にその属性を変更するためには、物理ファイル変更(CHGPF)コマンドを使用してください。

制約事項:

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FILE	オプション, 定位置 3
RCDLEN	DDSがない場合のレコード長	整数	オプション, 定位置 4
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, 20	オプション
FLAG	フラグづけ重大度レベル	0-30, 0	オプション
FILETYPE	ファイル・タイプ	*DATA, *SRC	オプション
MBR	必要な場合にはメンバー	名前, *FILE, *NONE	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 4 回の繰り返し): *SRC, *NOSRC, *SOURCE, *NOSOURCE, *LIST, *NOLIST, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション, 位置 5
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *FILETYPE	オプション
EXPDATE	メンバーの満了日	日付, *NONE	オプション
MAXMBRS	メンバーの最大数	整数, 1, *NOMAX	オプション
ACCPHSIZ	アクセス・パス・サイズ	*MAX1TB, *MAX4GB	オプション
MAINT	アクセス・パスの保守	*IMMED, *DLY, *REBLD	オプション
RECOVER	アクセス・パス回復	*NO, *AFTIPL, *IPL	オプション
FRCACCPH	強制キー順アクセス・パス	*NO, *YES	オプション
SIZE	メンバー・サイズ	単一値: *NOMAX その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 初期レコード数	1-2147483646, 10000	
	要素 2: 増分レコード数	整数, 1000	
	要素 3: 最大増分値	整数, 3	
ALLOCATE	記憶域割り振り	*NO, *YES	オプション
CONTIG	連続記憶域	*NO, *YES	オプション
UNIT	入れたい記憶装置	1-255, *ANY	オプション
FRCRATIO	強制書き出しレコード数	整数, *NONE	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, 60, *IMMED, *NOMAX	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO, *YES	オプション
DLTPCT	許される削除レコードの最大 %	1-100, *NONE	オプション
REUSEDLT	削除済みレコードの再使用	*YES, *NO	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: *SRC, *JOB, *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ, *HEX その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOB	オプション
CCSID	コード化文字セットID	整数, *JOB, *HEX	オプション
ALWUPD	更新操作可能	*YES, *NO	オプション
ALWDLT	削除操作可能	*YES, *NO	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*YES, *NO	オプション
NODGRP	ノード・グループ	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ノード・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PTNKEY	区画キー	値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション

トップ

ファイル (FILE)

作成する物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 作成する物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

ファイルが入れられる場所は、ジョブの現行ライブラリーです。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルを入れるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

レコード様式とそのフィールド、およびファイルとそのメンバーのアクセス・パスを記述するデータ記述仕様(DDS)が入っているソース・ファイルを指定します。DDSで作成される仕様について、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報およびISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「DDS解説書」情報で説明しています。

注: このパラメーターに値が指定されている場合には、**レコード長 (RCDLEN)**パラメーターに値を指定することはできません。

修飾子1: ソース・ファイル

QDDSSRC

名前QDDSSRCのDDSソース・ファイルには、物理ファイルの作成に使用されるソース記述が入っています。

名前 物理ファイルの作成に使用するDDSが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

ファイルが入れられるのはジョブの現行ライブラリーです。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成される物理ファイルのDDSが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーはSRCFILEパラメーター（その省略時の値のQDDSSRC）に指定されたソース・ファイルに入っています。SRCMBRを指定した場合には、RCDLENを指定することはできません。

***FILE** ソース・ファイルのメンバー名は、**ファイル (FILE)**パラメーターに指定された物理ファイルのメンバー名と同じです。

名前 ソース・ファイル中のメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

レコード長 (RCDLEN)

物理ファイルに記憶されているレコードの長さ (バイト数) を指定します。RCDLEN および FILETYPE(*DATA)を指定した場合には、フィールドが1つだけのレコード様式をもつ物理ファイルが作成されます。その結果、このファイルは到着順アクセス・パスに制限されます。レコード様式もフィールドも FILEパラメーターに指定されたファイルの名前と同じ名前を割り当てられます。レコード長には1-32766バイトの範囲の値を指定することができます。

RCDLENおよびFILETYPE(*SRC)を指定した場合には、レコード様式はソース順序番号、日付、およびソース・ステートメントという3つのフィールドをもちます。RCDLENパラメーターでソース順序番号のための6桁、日付フィールドのための6桁、およびソースの開始のための1桁を提供しなければなりません。これらは各レコードで必要です。これらのフィールドは、固定した属性および名前によって定義されます。レコードが CPYFコマンドでファイルにコピーされ、レコードが指定された長さより長い場合には、レコードは右端で切り捨てられます。

RCDLENを指定した場合には、SRCFILEおよびSRCMBRを指定することはできません。RCDLENは、ソース・ファイルを必要としない時 (各レコードに1つのフィールドしか存在しない時、あるいは作成されるファイルがソース・ファイルである時) にレコード様式の固定レコード長を指定するために使用されます。このファイルを処理する高水準言語プログラムでプログラム中にレコードのフィールドを記述しなければなりません。

2 バイト文字セットに関する考慮事項

IGCDTA(*NO)を指定した場合には、フィールドは文字のデータ・タイプを割り当てられ、その長さは指定されたレコード長と同じになります。レコード長には1-32766バイトの範囲の値を指定することができます。IGCDTA(*YES)を指定した場合には、フィールド漢字混用のデータ・タイプを割り当てられ、4-32766の範囲の値を指定することができます。

FILETYPE(*SRC)およびIGCDTA(*YES)を指定した時には、RCDLENパラメーターでソース順序番号のための6桁、日付フィールドのための6桁、およびソースの開始のための4桁を提供しなければなりません。

整数 各レコードのバイト数を指定してください。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

作成操作が正常に実行されない重大度レベルを指定します。重大度レベルがこの値に等しいかまたはそれより大きいエラーが起これると、操作は終了します。

このパラメーターが適用されるのは、ソースDDSファイルの処理中に作成されたメッセージに対してだけです。

- 20** DDSソース・ファイルの処理中に重大度レベルが20より大きいか等しいエラーが起こった場合には、ファイルは作成されません。
- 0-30** 所要の重大度レベル値を指定してください。0を指定した場合には、ファイルは作成されません。指定する値は、**フラグづけ重大度レベル (FLAG)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

トップ

フラグづけ重大度レベル (FLAG)

リストするメッセージの最小重大度レベルを指定します。

- 0** すべてのメッセージがリストされます。
- 0-30** リストするメッセージの最小重大度を示す数値を指定してください。指定する値は、**生成重大度レベル (GENLVL)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

トップ

ファイル・タイプ (FILETYPE)

作成中の物理ファイルの各メンバーにデータ・レコードが入るのか、あるいはプログラムまたは別のファイルのソース・レコード（ステートメント）が入るのかを指定します。たとえば、ファイルにはRPGプログラムのRPGソース・ステートメントまたは別の物理ファイル、論理ファイル、または装置ファイルのDDSソース・ステートメントを入れることができます。

***DATA**

物理ファイルにはデータ・レコードが入ります。

***SRC** 物理ファイルにはソース・レコードが入ります。

トップ

メンバー (MBR)

物理ファイルの作成時に追加される物理ファイル・メンバーの名前を指定します。

***FILE** メンバーの名前は、作成する物理ファイルと同じになります。

***NONE**

ファイルの作成時に物理ファイル・メンバーは追加されません。

名前 新規ファイルに追加する物理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

トップ

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

プログラム記述ファイルの場合には、ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。外部記述ファイルの場合には、ファイルのDBCS 属性を指定します。

注: DBCSデータの使用はDDSで指定されているので、このパラメーターは、DDSを使用して作成された物理ファイルには意味がありません。

***NO** ファイルに2バイト文字セット(DBCS)データが入っていません。

***YES** ファイルにDBCSデータが入っています。

2バイト文字セットに関する考慮事項

ユーザーが物理ファイルを作成し、RCDLENパラメーターを指定した場合には、システムは省略時のレコード様式を作成します。

- IGCDDTA(*YES)を指定した場合には、省略時のレコード様式はDBCSデータを含むことができます（レコードが漢字混用（DDS仕様の35桁目のO）データ・タイプで指定された場合と同様です）。
- IGCDDTA(*NO)を指定した場合には、省略時のレコード様式はDBCSデータを含むことができません（レコードが文字（DDS仕様の35桁目のAまたはブランク）データ・タイプで指定された場合と同様です）。

RCDLENパラメーターに値が指定されていない場合には、システムはIGCDDTAパラメーターの値を無視します。

ユーザーは、物理ファイルのIGCDDTA値を一時変更することはできません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

テキストは物理ファイルを作成するために使用されているソース・ファイル・メンバーから取られます。ソース・ファイルがデータベース・ファイルである場合には、テキストはそのソース・ファイル・メンバーから取られます。データベース・ソース・メンバーのテキストは、原始ステートメント入力ユーティリティーを使用するか、あるいは物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(CHGPFM)コマンドを使用して、追加または変更できます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ファイルの作成時に生成される出力のタイプを指定します。このパラメーターには、以下の値を4つまで任意の順序に指定できます。オプションに両方の値を指定した場合、あるいはいずれの値も指定しなかった場合には、最初の値が使用されます。

注: 各オプションの最初の値は似ていますが、実際には省略時の値ではなく、したがってCHGCMDDFT（コマンド省略時値変更）コマンドによって変更することはできません。

ソース・リスト・オプション

SRC**またはSOURCE**

ソース・ステートメントの印刷出力（エラーのリストを含む）が作成されます。

NOSRC**またはNOSOURCE**

エラーが検出されない限り、ソース・ステートメントの印刷出力は作成されません。エラーが検出されると、エラーがそのエラーの原因となったキーワードまたはレコード様式と一緒にリストされます。

プログラム・リスト・オプション

***LIST** ファイル仕様および他のファイル記述への参照の明細リストを示す拡張ソース印刷出力が作成されます。

***NOLIST**

展開ソース印刷出力は作成されません。

第2レベルのメッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

データ記述仕様(DDS)印刷出力のメッセージ・セクションには、DDSの処理中に出されたメッセージのオンライン・ヘルプ情報は入っていません。

***SECLVL**

オンライン・ヘルプ情報がDDS印刷出力に現れます。

事象ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーはCOOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE FOR OS/400)の事象ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE FOR OS/400プロダクトで使用できる事象ファイルを作成します。事象ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE FOR OS/400プロダクトは、このファイルを使用して、CODE FOR OS/400エディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。この値は、通常、ユーザーのためにCODE FOR OS/400プロダクトによって指定されます。

トップ

システム (SYSTEM)

物理ファイルがローカル・システムで作成されるかリモート・システムで作成されるかを指定します。

***LCL** 物理ファイルはローカル・システムに作成されます。

***RMT** 物理ファイルはリモート・システムで作成されます。**ファイル (FILE)**パラメーターに指定されたファイルは、リモート・システムおよび作成される物理ファイルの名前を識別する分散データ管理機能(DDM) ファイルの名前でなければなりません。

***FILETYPE**

FILEパラメーターに指定されたファイルがシステムに存在しない場合には、物理ファイルはローカ

ル・システムで作成されます。そうでない場合には、ファイルはDDMファイルでなければならず、物理ファイルはリモート・システムで作成されます。DDMファイルはリモート・システムおよび作成される物理ファイルの名前を識別します。

[トップ](#)

メンバーの満了日 (EXPDATE)

物理ファイルのメンバーの有効期限を指定します。

***NONE**

満了日が指定されていません。

日付 ファイル・メンバーを使用できなくなる日付を指定してください。値に日付区切り文字を使用する場合には、日付をアポストロフィで囲む必要があります。

[トップ](#)

メンバーの最大数 (MAXMBRS)

物理ファイルに入れることのできるメンバーの最大数を指定します。

1 物理ファイルにはメンバーを1つしか入れることができません。

***NOMAX**

ファイルに入れることのできるメンバーの数は、システム最大値32,767個のメンバーです。

1-32767

物理ファイルに入れることのできるメンバーの最大数を指定してください。

[トップ](#)

アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)

次の種類のアクセス・パスで占有できる補助記憶域の最大サイズを指定します。

- キー順アクセス・パスをもつ物理ファイルと関連づけられるアクセス・パス。
- 参照制約または固有制約のために作成され、物理ファイル制約追加(ADDPFCST)コマンドによってこのファイルに追加できるアクセス・パス。

このパラメーターは、論理ファイル用に作成されるアクセス・パスや、物理ファイル中のデータを参照するQUERYのために作成されるアクセス・パスには適用されません。

***MAX1TB**

このファイルと関連づけられるアクセス・パスは、最大1テラバイト(1,099,511,627,776バイト)の補助記憶域を占有することができます。

***MAX4GB**

このファイルと関連づけられるアクセス・パスは、最大4ギガバイト(4,294,966,272バイト)の補助記憶域を占有することができます。

[トップ](#)

アクセス・パスの保守 (MAINT)

キー・フィールドのあるファイルの場合には、物理ファイルのすべてのメンバーに使用されるアクセス・パスの保守のタイプを指定します。

***IMMED**

アクセス・パスは、メンバー中のレコードの変更、メンバーへのレコードの追加、またはメンバーからのレコードの削除が行なわれるたびに更新されます。固有キーが必要なファイルの場合には、*IMMEDを指定しなければなりません。

***REBLD**

ファイル・メンバーがオープンされるたびにアクセス・パスは完全に再作成されます。アクセス・パスはメンバーがクローズされるまで維持され、メンバーがクローズされると削除されます。固有キーが必要なファイルの場合には、*REBLDを指定することはできません。

***DLY** アクセス・パスの保守は、物理ファイル・メンバーが使用のためにオープンされるまでは延期されます。この結果、ファイルが最後にオープンされてから追加、削除、または変更されたレコードに対してのみアクセス・パスが変更されます。ファイルがオープンされている場合には、MAINTに何が指定されているかに関係なく、そのメンバーに行われた変更は即時にメンバーのアクセス・パスに反映されます。ファイルがオープンされる時に再作成に時間がかからないようにするためには、後続のオープンとオープンの間アクセス・パスに対する変更の数が少ない時、すなわちファイルが頻繁にオープンされる時あるいはこのアクセス・パス変更でレコードのキー・フィールドがあまり変更されない時のみ、*DLYを指定してください。*DLYは固有のキー値が必要なアクセス・パスには正しくありません。

クローズと次のオープンの間の変更の数がほぼアクセス・パスのサイズの10パーセントに達すると、システムは変更の保管を停止し、次にファイルがオープンされる時にアクセス・パス全体が再作成されます。

トップ

アクセス・パス回復 (RECOVER)

アクセス・パスのメンテナンスが即時または遅延であるファイルについて、システム障害が起こった時にアクセス・パスを変更する場合にファイルの回復処理をどの時点で実行するかを指定します。このパラメーターは、キー順アクセス・パスをもつファイルにのみ有効です。

アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターに*IMMEDが指定されている場合には、初期プログラム・ロード(IPL)中(ユーザーがジョブを実行する前)、またはIPLの終了後(同時にジョブが実行中)、あるいは次のファイル・オープン時に、アクセス・パスを再作成することができます。アクセス・パスの再作成中は、ファイルをジョブで使用することはできません。

IPL時に、アクセス・パス回復一時変更画面には回復しなければならないアクセス・パスおよび各アクセス・パスのRECOVERパラメーター値がリストされます。ユーザーは、この画面でRECOVERパラメーター値を一時変更することができます。アクセス・パスの詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

MAINTパラメーターに*REBLDを指定すると、アクセス・パスは次にファイルがオープンされるときに再作成されます。

NO** ファイルのアクセス・パスはファイルのオープン時に再作成されます。NO**は固有キーが必要でないすべてのファイルの省略時の値です。ファイルのアクセス・パスが有効でない場合には、ファイルが次にオープンされる時に再作成されます。

注: ***NO**は固有キーが必要でないすべてのファイルの省略時の値です。

***AFTIPL**

初期プログラム・ロード(IPL)操作が完了した後で、ファイルのアクセス・パスが再作成されます。このオプションによって、このファイルを使用しない他のジョブがIPLの完了直後に処理を開始できるようになります。ジョブがアクセス・パスの再作成中にファイルを割り振ろうとすると、ファイル・オープン例外が起こります。

注: ***AFTIPL**は、固有キーが必要なすべてのファイルの省略時の値です。

IPL** ファイルのアクセス・パスは、IPL操作時に再作成されます。これにより、最初のユーザー・プログラムがファイルを使用しようとする前に、ファイルのアクセス・パスが再作成されるようになります。しかし、RECOVER(IPL**)を指定するすべてのファイルのアクセス・パスが再作成されるまでは、ジョブは実行を開始することはできません。

トップ

強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)

キー・フィールドのあるファイルの場合に、アクセス・パスの変更をファイルの関連レコードと一緒に補助記憶装置に強制書き出しするかどうかを指定します。FRCACCPH(***YES**)は、再作成が必要となるようなアクセス・パスの損傷のために異常なジョブ終了が起こる可能性を最小限にします（取り除くわけではありません）。

***NO** アクセス・パスが変更されても、アクセス・パスおよび関連レコードは補助記憶装置に強制書き出しされません。

YES** アクセス・パスが変更されると、アクセス・パスおよび関連レコードは補助記憶装置に強制書き出しされます。アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターでREBLD**が指定されている場合には、***YES**を指定することはできません。

対話式ジョブでアクセス・パスが変更される場合には、FRCACCPH(***YES**)ではシステムの応答時間が遅くなります。アクセス・パスが頻繁に変更される場合には、システムの全般的なパフォーマンスが低下します。

トップ

メンバー・サイズ (SIZE)

ファイルの各メンバーの初期レコード数、メンバー・サイズに追加される各部分のレコード数、および追加された部分が自動的に適用される回数を指定します。各ファイル・メンバーのレコード数は、メンバーに入ることができるレコード数として指定します（この数には削除済みレコードが含まれます）。

レコードの最大数に達すると、（メンバーがいっぱいであることを告げる）メッセージがシステム操作員に送られ、要求を終了するのか、あるいはメンバー・サイズを拡張するのかが選択できるようにします。メッセージが受け取られるたびに、操作員は、メンバーを10%、あるいは増分値で指定されたレコード数のいずれか大きい方だけ拡張することができます。

単一値

***NOMAX**

ファイルの各メンバーに追加できるレコード数は、ユーザーによって制限されません。各メンバーの最大サイズは、システムによって決定されます。***NOMAX**が指定されている場合には、**記憶域割り振り (ALLOCATE)**パラメーターに***NO**を指定しなければなりません。

要素1: 初期レコード数

各メンバーの初期レコード数を指定してください。

10000 最初に、最大10,000のレコードをファイルの各メンバーに書き出すことができます。

1-2147483646

メンバー・サイズが自動的に拡張される前に、ファイルの各メンバーに書き込むことのできるレコード数を指定してください。

要素2: 増分レコード数

メンバーのレコード数が初期メンバー・サイズより大きい場合にメンバーに自動的に追加されるレコードの数を指定します。増分値の最小サイズはレコードの最大数に達した時点のメンバーのサイズの10%です。

1000 ファイル・サイズは、10%または1000レコードのどちらか大きい方で増やされます。

整数 レコードの最大数に達した時に追加するレコード数がメンバーのサイズの10%より大きい場合に、自動的にメンバーに追加する追加のレコード数を指定してください。

指定された数がメンバー・サイズの10%より大きくなく、ゼロと等しくない場合には、メンバー・サイズが10%ずつ増加されます。

指定された増分値が0の場合には、メンバーは自動的に拡張されません。増分の数の値が0の場合には、この値も0でなければなりません。

要素3: 最大増分値

メンバーに自動的に追加することのできる最大増分回数を指定します。

3 最高3回の増分がメンバー・サイズに自動的に追加されます。

整数 メンバー・サイズに自動的に追加される最大増分回数を指定してください。有効な値の範囲は0-32767です。0を指定した場合には、メンバーは自動的に拡張されません。

[トップ](#)

記憶域割り振り (ALLOCATE)

ファイルに追加された各物理ファイル・メンバーに初期記憶スペースが割り振られるかどうかを指定します。この割り振りでは、**メンバー・サイズ (SIZE)**パラメーターに指定されたレコード数を保持するだけの十分なスペースが提供されます。その容量を超えないでメンバーにレコードを追加できない時に起こる割り振りは、システムおよび**SIZE**パラメーター値によって決定されます。

***NO** ファイルに追加された各メンバーに割り振る記憶スペースの容量は、システムによって決定されず。

YES** 新しいメンバーが追加されるたびに、**SIZE**パラメーターの最初の値に指定された容量の記憶スペースが割り振られます。YES**が指定された場合には、**SIZE**パラメーターに***NOMAX**を指定してはいけません。

連続記憶域 (CONTIG)

ファイルに追加する各物理ファイル・メンバーに対して、初期記憶域割り振りのすべてのレコードを相互に隣り合わせて保管する必要があるかどうかを指定します。

***NO** レコードを連続して記憶する必要はありません。

***YES** レコードを含む空間では、レコードを連続して記憶することができます。レコードを分離しなければならぬ場合には、メンバーが追加され、レコードを連続して記憶できないことを示すメッセージがユーザーに送られます。

トップ

入れたい記憶装置 (UNIT)

このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、OS/400オペレーティング・システムのバージョン3リリース6 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。補助記憶域プール(ASP)の使用法については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

このパラメーターには値*ANYまたは1-255の値を指定することができます。

トップ

強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)

補助記憶域に強制的に書き出される前に処理される挿入または更新済みレコードの数を指定します。この物理ファイルがジャーナル処理されている場合には、大きい数または*NONEを使用してください。*NONEの場合には、ジャーナルと物理ファイルの同期に時間がかかることがあります。

***NONE**

強制書き込み率を指定しません。どの時点でレコードが補助記憶域に書き出されるかは、システムによって決定されます。

整数 補助記憶域に書き出される前に処理される挿入または更新済みレコードの数を指定してください。

トップ

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1-32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

プログラムがレコードの変更または削除を待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にレコードを割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

60 プログラムはレコードの変更または削除を60秒間待機します。

***IMMED**

プログラムは待機しません。レコードがロックされた時には、レコードの即時割り振りが必要です。

***NOMAX**

待機時間は、システムによって許容された最大値（32,767秒）です。

1-32767

プログラムがレコードの変更または削除を待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

注: メンバー (MBR)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルを開くたびに使用されます。

このパラメーターに*NOを指定したファイルを開くたびに、そのファイルの新しいODPが作成されて使用されます。

***YES** ファイルを開く時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

許される削除レコードの最大% (DLTPCT)

物理ファイル内の各メンバーに対する削除済みレコードの最大許容比率を指定します。比率の検査はメンバーのクローズ時に行なわれます。削除済みレコードの比率がこのパラメーターで指定した値より大きかった場合には、ユーザーに通知するためにシステム活動記録ログ(QHST)にメッセージが送られます。

***NONE**

ファイル・メンバー中の削除レコードの比率は検査されません。

1-100 ファイル内の任意のメンバーに対する削除済みレコードの最大許容比率を指定してください。

トップ

削除済みレコードの再使用 (REUSEDLT)

削除したデータ項目が使用していたスペースを将来の挿入要求で再利用するかどうかを指定します。

注:

- このパラメーターで*YESを指定した場合には、データ記述仕様(DDS)ソース中の物理ファイルのキー順序属性を"FIFO"または"LIFO"とすることはできません。
- このパラメーターに*YESの値を指定した場合には、削除されたレコード・スペースを再利用するファイルの場合に到着順序は無意味となります。レコードはファイルの終わりに追加されない可能性があります。

***NO** ファイルは、削除したデータ項目が使用していたスペースを再利用しません。

***YES** ファイルは、削除したデータ項目が使用していたスペースを再利用します。

トップ

分類順序 (SRTSEQ)

このファイルに使用する分類順序を指定します。この分類順序とLANGIDパラメーターと一緒に使用されて、使用される分類順序テーブルが決められます。

単一値

***SRC** データ記述仕様(DDS)の中でALTSEQキーワードに指定されたテーブルが使用されます。DDSの中でALTSEQが使用されない場合には、このパラメーターで*JOBに指定された値を使用してください。

***JOB** 使用される分類順序の値は、物理ファイルを作成するためにこのコマンドを出しているジョブの値です。

***LANGIDSHR**

分類順序テーブルは複数の文字について同じ重みを含むことができるもので、LANGIDパラメーターで指定された言語と関連した共用重み付きテーブルです。

***LANGIDUNQ**

分類順序テーブルには、コード・ページのそれぞれの文字に対して固有の重みが入っていません。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されず、分類順序を決定するために文字の16進数値が使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 ソート・シーケンス・テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQパラメーターに*LANGIDSHRまたは*LANGIDUNQが指定された時に使用される言語識別コードを指定します。この言語識別コードとSRTSEQおよびCCSIDパラメーターと一緒に使用されて、ファイルが使用する分類順序テーブルが決められます。

***JOB** ジョブに指定された言語識別コードが使用されます。

文字値 言語識別コードを指定してください。このコマンドについてプロンプトを出す時に識別コードの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

ファイルのフィールドの文字データを記述するために使用するコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。

このパラメーターが適用されるのは、**ソース・ファイル (SRCFILE)**パラメーターに値が指定されていない場合、および**レコード長 (RCDLEN)**パラメーターに値が指定されている場合だけです。このパラメーターに省略時の値(*JOB)以外の値を指定した場合には、SRCFILEパラメーターは使用されず、RCDLENパラメーターに値を指定する必要があります。

注: FILETYPE(*DATA)を指定した時にDDSなしで作成されるファイルは、そのジョブのCCSIDの値と関係なく、65535のCCSIDをもちます。

***JOB** 現行ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、フィールドの文字データがビット・データとして扱われ、変換されないことを示します。

整数 使用するCCSIDを指定してください。CCSIDの詳細はISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」トピックにあります。

トップ

更新操作可能 (ALWUPD)

この物理ファイルのレコードを更新できるかどうかを指定します。

***YES** この物理ファイル中のレコードを更新することができます。

***NO** この物理ファイル内のレコード，またはこの物理ファイルのレコードにアクセスする論理ファイル内のレコードは，更新することができません。

[トップ](#)

削除操作可能 (ALWDLT)

この物理ファイルのレコードが削除できるかどうかを指定します。論理ファイルのレコードは，論理ファイルの基礎となる各物理ファイルのレコードが削除できる場合にのみ削除することができます。

***YES** この物理ファイル中のレコードを削除することができます。

***NO** この物理ファイル内のレコード，またはこの物理ファイル内のレコードにアクセスする論理ファイル内のレコードは，削除することができません。

[トップ](#)

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムが物理ファイルをオープンする時に，そのファイル中のレコード様式のレベル識別コードを検査するかどうかを指定します。

***YES** レコード様式のレベル識別コードが検査されます。レベル識別コードがすべて一致しない場合には，オープン・エラー・メッセージがオープン操作の要求元のプログラムに送られます。

***NO** ファイルのオープン時にレベル識別コードは検査されません。

[トップ](#)

ノード・グループ (NODGRP)

ファイルが配布されるノード・グループを指定します。

単一値

***NONE**

ファイルは分散ファイルではありません。ファイルと関連したすべてのデータは，ローカル・システムにあります。

修飾子1: ノード・グループ

名前 このファイルに関連したノード・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで，現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には，QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

区画キー (PTNKEY)

データ配布のための区分キーとして使用されるフィールドまたはフィールドのセットを指定します。最大300のフィールド名を指定することができます。

注: ノード・グループ (NODGRP)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターは無効です。NODGRPパラメーターにノード・グループ名が指定されている場合には、1つ以上のフィールド名を指定しなければなりません。

名前 区画キーに含めるフィールドの名前を指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。***CHANGE**権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

CRTPFの例

例1: 物理ファイルの作成

```
CRTPF FILE(PAYLIB/PAYTXS) SRCFILE(SRCLIB/PAYTXS)
      MBR(*NONE) MAXMBRS(5)
```

このコマンドは、PAYLIBライブラリーにPAYTXSという名前の物理ファイルを作成します。物理ファイルの作成には、SRCLIBライブラリーのソース・ファイルPAYTXSのメンバーPAYTXSのソース記述が使用されます。このファイルはメンバーなし(*NONEが指定されている)で作成されるので、後でメンバーが追加されるまでデータをファイルに入れることはできません。このファイルには5つまでのメンバーを入れることができます。

省略時値では、後で追加される各ファイル・メンバーにデータ・レコードが入れられます。各メンバーのアクセス・パスは引き続き保持されます。メンバーの容量に1000レコードを追加する自動拡張（最大増分3）が行われるまで、それぞれのメンバーは最大10,000レコードを持つことができます。各メンバーの記憶スペースは必要に応じて割り振られるだけで、スペースが連続しているかどうかの制約はなく、初期記憶域割り振りは行われません。ユーザーは、このファイルに対するオブジェクト操作、読み取り、追加、削除、および更新権限を持ちます。

例2: 物理ファイルおよびメンバーの作成

```
CRTPF FILE(ORDERCTL/ORDERS) SRCFILE(ORDERCTL/ORDERSRC)
      SRCMBR(MFGORD) MAXMBRS(50) SIZE(1000 100 5)
      ALLOCATE(*YES)
```

このコマンドは、ORDERCTLライブラリーにどちらもORDERSという名前の物理ファイルと物理ファイル・メンバーを作成します。ファイルとそのメンバーは、同じライブラリーにあるORDERSRC ソース・ファイルのMFGORDソース・メンバーから作成されます。ファイルに入れられるレコードの記憶スペースが連続している必要はありません。このファイルには、最大50のメンバーを入れることができます。記憶域の初期割り振りでは最大1000レコード分が提供され、100レコードごとに最大5つの追加増分スペースを自動的に追加することができます。これらの割り振り値は、後で追加されるこの物理ファイルの各メンバーにも適用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CRTPF

*ESCAPEメッセージ

CPF3204

&2のファイル&1に必要なオブジェクトを見つけることができない。

CPF323C

QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTDA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・データ作成(CRTPFRTDA)コマンドは、管理収集(*MGTCOL)オブジェクトに保管されているパフォーマンス情報から、一組のパフォーマンス・データベース・ファイルを作成します。データベース・ファイルの詳細については、WEBサイト: [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)にあるISERIES INFORMATION CENTERの「パフォーマンス」トピックを参照してください。

パフォーマンス・データベース・ファイルおよびファイル・メンバーは、管理収集オブジェクトに入っているデータと、このコマンドで要求する情報とに基づいて、必要に応じて作成されます。データベース・ファイルがすでに存在していて、要求したメンバーがそのいずれかのデータベース・ファイルに存在している場合には、収集が生成される前に、メンバーが消去されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMMGTCOL	FROM収集	単一値: *ACTIVE その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROM収集	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	
TOMBR	TOメンバー	名前, * <u>FROMMGTCOL</u>	オプション
TOLIB	TOライブラリー	名前, * <u>FROMMGTCOL</u>	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, * <u>SAME</u> , *FROMMGTCOL, *GEN, *BLANK	オプション
CGY	処理カテゴリー	単一値: * <u>FROMMGTCOL</u> その他の値 (最大 26 回の繰り返し): 名前, *APPN, *CMNBASE, *CMNSAP, *CMNSTN, *DISK, *DOMINO, *DPS, *HDWCFG, *HTTP, *IOPBASE, *IPCS, *JOBMI, *JOBOS, *LCLRSP, *LPAR, *POOL, *POOLTUNE, *SNA, *SNADS, *SUBSYSTEM, *SYSBUS, *SYSCPU, *SYSLVL, *TCPBASE, *TCPIFC, *USRTNS	オプション
INTERVAL	時間間隔 (分)	* <u>FROMMGTCOL</u> , 0.25, 0.5, 1.0, 5.0, 15.0, 30.0, 60.0	オプション
FROMTIME	開始日および時刻	単一値: * <u>FROMMGTCOL</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
TOTIME	終了日および時刻	単一値: * <u>FROMMGTCOL</u> , *ACTIVE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 終了日付	日付	
	要素 2: 終了時刻	時刻	

トップ

FROM収集 (FROMMGTCOL)

一組のパフォーマンス・データベース・ファイルの作成に使用される管理収集を指定します。

単一値

*ACTIVE

現在活動中の収集オブジェクトが使用されます。

修飾子1: FROM収集

名前 使用する管理収集オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

QPFRDATA

IBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、管理収集を入れるのに使用されます。

名前 管理収集のライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

TOメンバー (TOMBR)

出力データが書き込まれるデータベース・ファイル・メンバーを指定します。この名前のメンバーが各パフォーマンス・データベース・ファイルに存在していなければ、指定された名前のメンバーが作成されます。

*FROMMGTCOL

管理収集オブジェクトの名前がパフォーマンス・データベース・ファイル・メンバー名として使用されます。

名前 出力を書き込むメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

TOライブラリー (TOLIB)

パフォーマンス・データのデータベース・ファイルが存在するライブラリーを指定します。指定されたライブラリーに見つからないファイルは、それぞれそのライブラリーに自動的に作成されます。

*FROMMGTCOL

パフォーマンス・データベース・ファイルは、管理収集オブジェクト (FROMMGTCOLパラメーター) と同じライブラリーに入れられるか、または作成されます。

名前 パフォーマンス・データベース・ファイルがあるか、またはそれを作成するライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

収集と関連したパフォーマンス・データベース・ファイルの組内の各メンバーに対して使用されるテキストを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***FROMMGTCOL**

管理収集オブジェクトと関連したテキストがメンバー・テキストとして使用されます。

***GEN** 「ライブラリー<ライブラリー名>の<収集名>から作成」というテキストが生成されます。そのメンバーがすでに存在している場合には、変更は行われません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

処理カテゴリー (CGY)

管理収集オブジェクト内のカテゴリーのうち、データベース・ファイルに処理されるものを指定します。

単一値

***FROMMGTCOL**

管理収集オブジェクト内に存在するすべてのカテゴリーがデータベース・ファイルに処理されます。

その他の値（繰り返し25回まで）

カテゴリー名

管理収集オブジェクトから処理するパフォーマンス情報のカテゴリーの名前を指定してください。複数のカテゴリー名を指定することができます。有効なカテゴリー名は次の通りです。

名前	記述
-----	-----
*APPN	APPN
*CMNBASE	通信（基本）
*CMNSAP	通信(SAP)
*CMNSTN	通信（端末）
*DISK	ディスク
*DOMINO	LOTUS DOMINO (ISERIES版)
*DPS	データ・ポート・サービス
*HDWCFG	ハードウェア
*HTTP	HTTPサーバー (APACHEにより強化)
*IOPBASE	入出力プロセッサ（基本）
*IPCS	ネットワーク・サーバー
*JOBMI	ジョブ (MIタスクおよびスレッド)
*JOBOS	ジョブ (OS/400)
*LCLRSP	ローカル応答時間
*LPAR	論理区画
*POOL	プール
*POOLTUNE	プール調整

*SNA	SNA
*SNADS	SNADS
*SUBSYSTEM	サブシステム
*SYSBUS	システム・バス
*SYSCPU	システムCPU
*SYSLVL	システム・レベル・データ
*TCPBASE	TCP/IP (基本)
*TCPIFC	TCP/IP (インターフェース)
*USRTNS	ユーザー定義トランザクション・データ

トップ

時間間隔 (分) (INTERVAL)

データベース・ファイルへの連続入力間の時間間隔 (分数) を指定します。データベース内では、これらの収集間隔は間隔番号と間隔時間で識別されます。

間隔番号は 1 で始まり、各間隔ごとに増加します。間隔時間は、クロック時刻に同期された間隔の終わりの時刻に基づいて決められます (たとえば、INTERVAL(15)が指定されている場合には、間隔は01:00:00, 01:15:00, 01:30:00,および01:45:00として生成されます)。

*FROMMGTCOL

管理収集オブジェクトからの省略時の間隔が使用されます。

分数 0.25分(15秒) から60分の範囲内の間隔値を指定してください。

トップ

開始日および時刻 (FROMTIME)

パフォーマンス・データベース・ファイルを作成するために使用される、管理収集オブジェクト内のパフォーマンス・データの開始日および時刻を指定します。この時刻が間隔値と組み合わせられて、各データベース間隔の日付および時刻が決定されます。

単一値

*FROMMGTCOL

開始日および時刻は、管理収集オブジェクトが作成された日付および時刻です。

要素1: 開始日付

日付 収集データが生成される開始の日付を指定してください。この日付は、システム値QDATFMT (区切り記号を使用する場合にはQDATSEP)で指定された形式で入力しなければなりません。

要素2: 開始時刻

時刻 データベース間隔を生成するため指定された開始日の開始時刻を指定してください。

開始日が指定されて、開始時刻が指定されないと、開始時刻には次のように省略時の値が使用されます。

- 開始日が収集の最初の日付を指定している場合には、開始時刻は収集の開始時刻に設定されます。
- 開始日が収集の最初の日付を指定していない場合には、開始時刻は真夜中(00:00:00) に設定されます。

トップ

終了日および時刻 (TOTIME)

パフォーマンス・データベース・ファイルを作成するために使用される、管理収集オブジェクト内の最後のパフォーマンス・データの終了日および時刻を指定します。

単一値

***FROMMGTCOL**

管理収集オブジェクト内の収集の終わりの日付および時刻が、データベース生成の終了日および時刻になります。

***ACTIVE**

データベースの生成は、現在活動中の収集が終了するまで続きます。

このオプションにより、データベースの生成は活動中の収集と並行して行われます。データベースは、管理収集オブジェクトに現在あるデータに指定された開始時刻に基づいて生成されます。収集オブジェクトにデータが追加されると、そのつどその追加データが処理されます。これは、現在の収集が終了するまで続きます。

このオプションでは処理が極めて長時間にわたる場合があるので、CRTPFRDTAをバッチ・ジョブで実行する時だけTOTIME(*ACTIVE)を指定することをお奨めします。

要素1: 終了日付

日付 データベース・ファイルを作成するために収集オブジェクトからのデータが使用される終了日を指定してください。この日付は、システム値QDATFMT（区切り記号を使用する場合にはQDATSEP）で指定された形式で入力しなければなりません。

要素2: 終了時刻

時刻 データベース・ファイルを作成するために収集オブジェクトからのデータが使用される、指定された終了日の時刻を指定してください。

時刻の値を指定する方法の詳細については、**開始日および時刻 (FROMTIME)**パラメーターの**開始時刻要素**の記述を参照してください。

終了日が指定されて、終了時刻が指定されないと、終了時刻には次のように省略時の値が使用されます。

- 終了日が収集の最後の日付を指定している場合には、終了時刻は収集の終了時刻に設定されます。
- 終了日が収集の最後の日付を指定していない場合には、終了時刻は23:59:59に設定されます。

トップ

CRTPFDRDTAの例

例1:すべてのデータの生成

```
CRTPFDRDTA FROMMGTCOL(Q099365001) TOMBR(JAN1) TOLIB(MYLIB)
```

この例では、ライブラリーQPFRDATA中の管理収集オブジェクトQ099365001内に含まれるすべてのカテゴリでデータベースが生成されます。パフォーマンス・データベース・ファイルがライブラリーMYLIB中に作成され、この収集メンバー名はJAN1となります。

この管理収集オブジェクト内のオブジェクトの始めからその収集の終わりまで、データが生成されます。データベース間隔は、収集が開始された時に指定された省略時の収集間隔です。

例2:特定データの選択

```
CRTPFDRDTA FROMMGTCOL(Q099364002) TOMBR(JAN1J) TOLIB(MYLIB)
          CGY(*JOBMI) INTERVAL(15)
          FROMTIME(('01/01/98' '14:00:00'))
          TOTIME(('01/01/98' '16:00:00'))
```

この例では、ライブラリーQPFRDATA中の管理収集Q099364002の*JOBMIカテゴリ情報を使用して、データベース・ファイルQAPMJOBMIだけが生成されます。データがより頻繁に収集される（たとえば、管理収集オブジェクトに5分ごとに収集されたデータが入れられる）場合でも、データベース間隔は15分となります。生成されたファイルには、収集オブジェクトにより大きな時間間隔のデータが含まれる場合でも、2:00 PMから4:00 PMの間に収集されたデータしか含まれていません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTPFDRDTA

*ESCAPEメッセージ

CPF0A0E

CRTPFDRDTAが終了しました。ファイルは変更されていません。

CPF0A1A

活動状態の収集はありません。

CPF0A2B

ライブラリー&2の管理収集オブジェクト&1を処理できません。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

[トップ](#)

プログラムの作成 (CRTPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラムの作成(CRTPGM)コマンドは、1セットのモジュールとバインド・ディレクトリーからバインドされた1つのプログラムを作成します。

制約事項:

- プログラムを作成するライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限が必要です。
- 指定されたモジュール、サービス・プログラム、およびバインド・ディレクトリーに対して使用(*USE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
MODULE	モジュール	単一値: *PGM その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
TEXT	テキスト記述	文字値, *ENTMODTXT, *BLANK	オプション
ENTMOD	プログラム入口プロシージャ・モジュール	単一値: *FIRST, *ONLY, *PGM その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プログラム入口プロシージャ・モジュール	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
BNSRVPGM	サービス・プログラムのバインド	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サービス・プログラムのバインド	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
ACTGRP	活動化グループ	名前, *ENTMOD, *NEW, *CALLER	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	作成オプション	値 (最大 5 回の繰り返し): *GEN, *NOGEN, *NODUPPROC, *DUPPROC, *NODUPVAR, *DUPVAR, *WARN, *NOWARN, *RSLVREF, *UNRSLVREF	オプション
DETAIL	明細のリスト	*NONE , *BASIC, *EXTENDED, *FULL	オプション
ALWUPD	更新可能	*YES , *NO	オプション
ALWLIBUPD	*SRVPGMライブラリー更新可能	*YES, *NO	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER , *OWNER	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*YES , *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT , *PRV	オプション
ALWRINZ	再初期設定可能	*NO , *YES	オプション
STGMDL	ストレージ・モデル	*SINGLVL , *TERASPACE	オプション
IPA	プロシージャ間分析	*YES, *NO	オプション
IPACTLFILE	IPA制御ファイル	パス名, *NONE	オプション

トップ

プログラム (PGM)

作成するプログラム・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 作成するプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

プログラム・オブジェクトはジョブの現行ライブラリー内に作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラム・オブジェクトが作成されるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

モジュール (MODULE)

プログラム・オブジェクトを作成するために複写されてバインドされるモジュールのリストを指定します。重複するモジュールおよびライブラリーの指定が見つかった場合には、重複するモジュールおよびライブラリーの最初に見つかったものだけが使用されます。このリストのモジュールは、最終プログラム・オブジェクトに複写されます。最大300の名前を指定することができます。

単一値

***PGM** **プログラム (PGM)**パラメーターに指定された名前がモジュール・オブジェクト名として使用されます。

修飾子1: モジュール

***ALL** 指定した1つまたは複数のライブラリーで、すべてのモジュール・オブジェクトを検索します。

総称名 指定した1つまたは複数のライブラリーで、前に*がある文字で始まるすべてのモジュール・オブジェクトを指定します。

名前 プログラム・オブジェクトを作成するために複写されるモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

プログラム・オブジェクトを簡単に説明するテキストを指定します。

***ENTMODTXT**

プログラム入口プロシージャ・モジュール (ENTMOD)パラメーターに指定されたモジュールのテキスト記述が使用されます。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

プログラム入口プロシージャ・モジュール (ENTMOD)

このプログラムで使用されるプログラム入りロプロシージャ仕様が入っているモジュール名を指定します。

単一値

***FIRST**

プログラム入りロプロシージャ仕様をもつ、モジュールのリストから最初に見つかったモジュールがプログラム入りロプロシージャとして選択されます。

***ONLY**

モジュールのリストからの、1つのモジュールだけがプログラム入りロプロシージャとして仕様をもつことができます。プログラム入りロプロシージャ仕様をもつモジュールが複数検出された場合には、エラーが出されます。

***PGM** プログラム (PGM)パラメーターに指定された名前およびライブラリーが、プログラム入りロプロシージャー仕様があるモジュールの名前およびライブラリーとなります。

修飾子1: プログラム入りロプロシージャー・モジュール

名前 プログラム入りロプロシージャー仕様が入っているモジュールの名前を指定してください。このプログラムに入れるモジュールのリスト中にこのモジュールない場合には、それがモジュールのリストに追加されます。このモジュールにプログラム入りロプロシージャー仕様がない場合には、そのプログラムは作成されません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)

モジュールのインポート要求が満たされているかどうかを確認するために、バインド時に調べるサービス・プログラムのエクスポートのリストを指定します。サービス・プログラムのエクスポートが検査されるのは、一連のモジュールのエクスポートによって満たされない未解析のモジュールのインポート要求がある場合だけです。BNDSRVPGM パラメーターに指定したモジュールのインポート要求を満たしているサービス・プログラムは、作成されたプログラムにバインドされます。BNDSRVPGMパラメーターに指定したサービス・プログラム名およびライブラリーは、実行時に使用するために保管されます。最大300の名前を指定することができます。

単一値

***NONE**

サービス・プログラムは指定されません。

修飾子1: サービス・プログラムのバインド

***ALL** 指定した1つまたは複数のライブラリーですべてのサービス・プログラム・オブジェクトを検索します。

注: この値をユーザー制御環境で指定する必要があるのは、何がユーザー・プログラムにバインドされるか正確に分かっている場合だけです。*ALLと一緒に*LIBLを指定すると、プログラムの実行時に予測できない結果になることがあります。何がユーザー・プログラムにバインドされるかうまく制御されるように、総称サービス・プログラム名または特定のライブラリーを指定してください。

総称名 指定した1つまたは複数のライブラリーで、前に*がある文字で始まるすべてのサービス・プログラム・オブジェクトを指定します。

名前 記号の分析解決時に検査されるサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: QTEMPは、このパラメーターで有効なライブラリー名ではありません。

[トップ](#)

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

記号の分析解決に使用されるバインド・ディレクトリーのリストを指定します。バインド・ディレクトリーのモジュールおよびサービス・プログラムのエクスポートが検査されるのは、モジュールおよびサービス・プログラムからのエクスポート (MODULEまたはBNDSRVPGMパラメーターに指定された) で満たせない未解決のモジュール・インポート要求がある場合だけです。最大300の名前を指定することができます。

単一値

***NONE**

バインド・ディレクトリーは指定されません。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 記号の分析解決に使用されるバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

活動化グループ (ACTGRP)

活動化グループを呼び出す時に、このプログラムと関連している活動化グループを指定します。活動化グループは次を提供します。

- プログラムの実行をサポートするための実行時データ構造
- アドレッシング保護
- メッセージを作成するための論理境界
- 適用業務のクリーンアップを処理するための論理境界

***ENTMOD**

ACTGRP(*ENTMOD)を指定する場合は、プログラム入りロプロシージャー・モジュール(ENTMODパラメーター)が調べられます。モジュール属性がRPGLE, CBLLE,またはCLLEである場合は、ACTGRP(QILE)またはACTGRP(QILETS)が使用されます。STGMDL(*SNGVLV)を指定するとQILEが使用され、STGMDL(*TERASPACE)を指定するとQILETSが使用されます。モジュール属性がRPGLE, CBLLE,またはCLLEでない場合は、ACTGRP(*NEW)が使用されます。

***NEW** このプログラムが呼び出される時に、新しい活動化グループが作成されます。この後、呼び出されたこのプログラムは、新しく作成された活動化グループと関連付けられます。

***CALLER**

このプログラムが呼び出される時に、プログラムは呼び出し元の活動化グループ内で活動化されません。

名前 このプログラムが呼び出された時に使用される活動化グループの名前を指定してください。

トップ

作成オプション (OPTION)

プログラム・オブジェクトの作成時に使用されるオプションを指定します。

このパラメーターには最大5個までの値を指定することができます。

プログラム・オブジェクト

***GEN** プログラム・オブジェクトが生成されます。

***NOGEN**

プログラム・オブジェクトは生成されません。

重複プロシージャー名

***NODUPPROC**

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびプログラムからエクスポートされる各プロシージャー名は固有としなければなりません。

***DUPPROC**

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされるプロシージャー名が固有である必要はありません。複数の重複プロシージャーが許される場合には、インポート要求を満たす、指定されたモジュールおよびサービス・プログラムのリスト中の最初のエクスポート・プロシージャーが選択されるプロシージャーとなります。

重複変数名

***NODUPVAR**

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる各変数名は固有でなければなりません。

***DUPVAR**

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる変数名が固有である必要はありません。複数の重複変数が許される場合には、インポート要求を満たす、指定されたモジュールおよび要求サービス・プログラムのリスト中の最初のエクスポート変数が選択される変数となります。

診断メッセージの表示

***WARN**

重複している変数またはプロシージャが見つかった場合には、重複が見つかったことを示す診断メッセージが出されます。

***NOWARN**

重複している変数またはプロシージャが見つかった場合には、診断メッセージが出されません。

参照の解決 (インポート)

***RSLVREF**

プログラムを作成するためのエクスポートには、すべてのインポートが分析解決されていなければなりません。

***UNRSLVREF**

プログラムを作成するためのエクスポートには、すべてのインポートが分析解決されている必要はありません。実行時にプログラムがこれら未解決の1つのインポートを使用しようとした場合には、MCH4439実行時例外が出されます。

トップ

明細のリスト (DETAIL)

印刷する詳細のレベルを指定します。

***NONE**

リストは生成されません。

***BASIC**

CRTPGMに渡すオプションのリスト、および処理統計が入っています。また、このリストには、簡単な要約表も入っています。

***EXTENDED**

*BASICリストで提供される情報の他に、このリストには、拡張要約表およびバインド情報リストも入っています。

***FULL** このリストには、*EXTENDEDリストおよび相互参照表が入っています。

注: 印刷リストが要求された場合には、印刷装置ファイル*LIBL/QSYSPRTを使用してリストが生成されます。

トップ

更新可能 (ALWUPD)

プログラム更新(UPDPGM)コマンドを使用した作成中のプログラムの更新が可能かどうかを指定します。

***YES** プログラムはUPDPGMコマンドを使用して更新することができます。

***NO** UPDPGMコマンドでは、作成中のプログラムを更新できません。

トップ

*SRVPGMライブラリー更新可能 (ALWLIBUPD)

プログラム更新(UPDPGM)コマンドを使用して更新する時に、作成中プログラムのバインドされたサービス・プログラム・ライブラリー名を変更できるかどうかを指定します。

***NO** *YESが更新可能 (ALWUPD)に指定されている場合であっても、UPDPGMコマンドで作成中プログラムのバインドされたサービス・プログラム・ライブラリー名を更新することはできません。

***YES** ALWUPD(*YES)が指定されている時に、UPDPGMコマンドで作成中プログラムのバインドされたサービス・プログラム・ライブラリー名を更新することができます。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

このプログラムの実行中に実行される権限検査に、プログラムを実行中のユーザー(*USER)だけを含めるか、あるいはプログラムを実行中のユーザーとプログラム所有者(*OWNER)の両方を含めるかどうかを指定します。プログラム・ユーザーのプロファイルまたはプログラム・ユーザーとプログラム所有者の両方のプロファイルは、各オブジェクトについてプログラムがもつ権限を含め、プログラムで使用できるオブジェクトを制御するために使用されます。

***USER**

プログラムはプログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

***OWNER**

プログラムの実行時に、プログラム所有者とプログラム・ユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。

トップ

プログラムの置き換え (REPLACE)

指定したライブラリーに同じ名前のプログラムがすでに存在している場合に、既存のプログラムを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のプログラムをQRPLOBJライブラリーに移動して、これを置き換えます。プログラムの現在の活動化は、QRPLOBJライブラリー内のプログラムのバージョンを使用して実行し続けます。

注: 処理のために置き換える両方のプログラムは、同じユーザーが所有していなければなりません。

***NO** 置き換えは行われません。プログラム (PGM)パラメーターに指定された名前とライブラリーをもつプログラムがすでに存在している場合は、エラー・メッセージが出されます。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (**CRTAUT**) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUT パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。
*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトの使用を計画しているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5、リリース3、モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムで使用することができます。

再初期設定可能 (ALWRINZ)

プログラムがまだ活動状態である間に、そのプログラムの静的記憶域を再初期設定できるかどうかを指定します。

***NO** プログラムがまだ活動状態である間は、そのプログラムの静的記憶域を再初期設定することはできません。

***YES** プログラムがまだ活動状態である間に、そのプログラムの静的記憶域の再初期設定が可能です。

トップ

ストレージ・モデル (STGMDL)

プログラムの記憶域モデル属性を指定します。

***SINGLVL**

プログラムは単一レベル記憶域モデルで作成されます。単一レベル記憶域モデル・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用の単一レベル記憶域が提供されます。単一レベル記憶域プログラムは単一レベル記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。

***TERASPACE**

プログラムはテラスペース記憶域モデルで作成されます。テラスペース記憶域モデル・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用のテラスペース記憶域が提供されます。テラスペース記憶域プログラムはテラスペース記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。

トップ

プロシージャ間分析 (IPA)

プログラムの作成時にプロシージャ間分析(IPA)を使用するかどうかを指定します。IPAの詳細については、ILE概念 (SD88-5033)を参照してください。

***NO** プロシージャ間分析は実行されません。

***YES** プロシージャ間分析が実行されます。結果のプログラムはプログラム更新(UPDPGM)コマンドでは更新できないので、注意してください。

トップ

IPA制御ファイル (IPACTLFILE)

プロシージャ間分析(IPA)サブオプション情報が入っているファイルのパス名を提供します。このパラメーターは、IPA(*YES)が指定された時にだけ有効です。

***NONE**

IPA(*YES)が指定されている時には、IPA制御ファイル情報は使用されません。

パス名 IPA(*YES)が指定された時に使用するIPA制御ファイルのパス名を指定します。名前が修飾名の場合

には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾IPA制御ファイル名の例は '/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYIPACTLFNAME' などです。

[トップ](#)

CRTPGMの例

CRTPGM PGM(STAR)

このコマンドは、ジョブの現行ライブラリー内に、あるいは現行ライブラリーがない場合はQGPLライブラリー内に、STARという名前のプログラム・オブジェクトを作成します。このプログラムは、これもSTARという名前で、ジョブの現行ライブラリーを使用して見つけられる1つのモジュール・オブジェクトから作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTPGM

*ESCAPEメッセージ

CPF223E

借用権限の使用属性の権限チェックが正常に実行されなかった。

CPF3C50

プログラム&1は作成されていない。

CPF5D12

プログラムまたはサービス・プログラムの準備中にエラーが起こった。

[トップ](#)

パネル・グループの作成 (CRTPNLGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パネル・グループ作成(CRTPNLGRP)コマンドは、データ記述仕様(DDS)画面、CLコマンド、または検索見出しと関連して表示することのできるオンライン・ヘルプ情報を入れるパネル・グループを作成します。

制約事項:

- パネル・グループを作成するライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限が必要です。
- パネル・グループがすでに存在している場合には、パネル・グループに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PNLGRP	パネル・グループ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: パネル・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QPNLSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PNLGRP	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *NOSECLVL, *SECLVL, *NOEVENTF, *EVENTF	オプション, 定位置 4
INCFILE	組み込みファイル	単一値: *SRCFILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 組み込みファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CHRID	文字識別コード	単一値: *DEVD, *SYSVAL, *JOBCCSID, *CHRIDCTL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
REPLACE	パネル・グループの置き換え	*YES, *NO	オプション

パネル・グループ (PNLGRP)

作成するパネル・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: パネル・グループ

名前 作成するパネル・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

パネル・グループを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 パネル・グループが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

パネル・グループ記述のソース・ステートメントが入っているソース・ファイルを指定します。正しいソース・ファイルのレコード長の値は13-92です。

修飾子1: ソース・ファイル

QPNSRC

パネル・グループ記述のソース・ステートメントはソース・ファイルQPNSRCに入っています。

名前 パネル・グループ記述のソース・ステートメントが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ソース・メンバー(SRCMBR)

パネル・グループ記述が入っているソース・ファイルのメンバーを指定します。

***PNLGRP**

パネル・グループ記述が入っているメンバーは、**パネル・グループ (PNLGRP)**パラメーターで指定された名前と同じ名前です。

名前 パネル・グループ記述が入っているメンバーの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

パネル・グループを簡単に説明するテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

指定したソース・ファイル・メンバーに対応したテキストが使用されます。

***BLANK**

テキストは使用されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

ソース・リスト・オプション (OPTION)

コンパイル時に作成される出力のオプションを指定します。このパラメーターには、複数のオプション値を任意の順序で指定できます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線で示した値は、省略時の値と類似していますが、実際には省略時の値ではないので、コマンドの省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドでは変更できません。

ソース・リスト・オプション

***SRCまたは*SOURCE**

ソース・リストが作成されます。

***NOSRCまたは*NOSOURCE**

エラーが検出されないかぎり、ソース・リストは作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

メッセージをリストの終りに印刷する時に、第2レベルのテキストは第1レベル・テキストとともに提供されません。

***SECLVL**

メッセージをリストの終りに印刷する時に、第2レベルのテキストは第1レベル・テキストとともに提供されます。

事象ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーはCOOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE FOR OS/400)の事象ファイルを作成しません。

*EVENTF

コンパイラーは、CODE FOR OS/400プロダクトが使用できる事象ファイルを作成します。事象ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE FOR OS/400プロダクトは、このファイルを使用して、CODE FOR OS/400エディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。この値は通常、ユーザーに代わりCODE FOR OS/400プロダクトによって指定されます。

トップ

組み込みファイル (INCFILE)

組み込むメンバーが入っているソース・ファイルを指定します。

注: ソース・ファイルのコード化文字セット識別コード(CCSID)がソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターに指定された基本ソース・ファイルのCCSIDと異なっている場合には、そのCCSIDが基本ソース・ファイルのCCSIDに変更されます。CCSIDは、オブジェクトの作成に使用するすべてのソース・メンバーで同一でなければなりません。

単一値

*SRCFILE

組み込みファイルは、SRCFILEパラメーターに指定したファイルと同じファイルです。

修飾子1: 組み込みファイル

名前 組み込むメンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

文字識別コード (CHRID)

パネル・グループが表示される時にパネル・グループの対話変数の文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）が変更されるかどうかを指定します。

単一値

*DEVD

変更は行なわれません。対話変数およびパネル・グループの文字識別コードは、装置の文字識別コードと同じです。

*SYSVAL

対話変数の文字識別コードは、装置に対する省略時のQCHRIDシステム値に変更されます。パネル・グループの文字識別コードは、装置の文字識別コードと同じです。

*JOBCCSID

対話変数の文字識別コードは、ジョブのCCSIDから装置の文字識別コードに変更されます。パネル・グループの文字識別コードは、SRCFILEパラメーターのソース・ファイルのCCSIDから装置の文字識別コードに変更されます。

*CHRIDCTL

システムは、CHRIDCTLジョブ属性を検査して、このパネル・グループのCHRIDパラメーターで*JOBCCSIDと*DEVのどちらを使用するかを決定します。

要素1: グラフィック文字セット

整数 使用したい図形文字セットを指定します。有効な値の範囲は1-32767です。

要素2: コード・ページ

整数 使用するコード・ページを指定してください。有効な値の範囲は1-32767です。

注: ワークステーションまたは印刷装置の文字識別コードによっては、変換が必要な場合があります。

トップ

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で作成権限(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

置き換え (REPLACE)

指定したライブラリー中の同じ名前の既存のパネル・グループを置き換えるかどうかを指定します。

注: パネル・グループは、このジョブまたは別のジョブによって使用中の場合には、置き換えることはできません。

***YES** 既存のパネル・グループは、これをシステム・ライブラリーQRPLOBJに移動することによって置き換えられます。

***NO** 既存のパネル・グループは置き換えられません。そのようなパネル・グループが存在している場合には、作成操作が正常に行なわれません。

トップ

CRTPNLGRPの例

```
CRTPNLGRP  PNLGRP(PAYLIB/PAYROLL)
           SRCFILE(QPNLSRC)  OPTION(*SECLVL)
```

このコマンドは、名前PAYROLLのパネル・グループをライブラリーPAYLIB中に作成し、ライブラリー・リストのソース・ファイルQPNLSRCを使用し、第2レベル・メッセージ・テキストをリストに印刷します。

トップ

エラー・メッセージ： CRTPNLGRP

***ESCAPE** メッセージ

CPF5A02

パネル・グループ&1はライブラリー&2に作成されなかった。

トップ

印刷装置ファイル作成 (CRTPRTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)コマンドは、このコマンドに指定された情報および（任意指定として）ソース・ファイルに入っているデータ記述仕様(DDS)から印刷装置ファイルを作成します。

印刷装置ファイルは印刷装置にレコードを送るために使用されます。印刷装置ファイルは使用される印刷装置およびスプーリング要件を識別します。印刷装置ファイルにはデータは入っていません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FILE	オプション, 定位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, 20	オプション
FLAG	フラグづけ重大度レベル	0-30, 0	オプション
DEV	装置	要素リスト	オプション
	要素 1: 印刷装置	名前, *JOB, *SYSVAL	
DEVTYPE	印刷装置タイプ	*SCS, *IPDS, *LINE, *AFPDSLIN, *USERASCII, *AFPD	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
IGCEXNCHR	外字	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 4 回の繰り返し): *SRC, *NOSRC, *SOURCE, *NOSOURCE, *LIST, *NOLIST, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション, 定位置 4
PAGESIZE	ページ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 長さ—1ページ当たりの行数	0.001-255.0, 66	
	要素 2: 幅—1行当たりの文字数	0.001-378.0, 132	
	要素 3: 測定方法	*ROWCOL, *UOM	
LPI	行/インチ	6 , 6.0, 3.0, 4.0, 7.5, 7.5, 8.0, 9.0, 12.0	オプション
CPI	1インチ当たりの文字数	10 , 10.0, 5.0, 12.0, 13.3, 13.3, 15.0, 16.7, 16.7, 18.0, 20.0	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
FRONTMGN	フロント・マージン	単一値: *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 下方向オフセット	0.0-57.79	
	要素 2: 横方向オフセット	0.0-57.79	
BACKMGN	バック・マージン	単一値: *FRONTMGN , *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 下方向オフセット	0.0-57.79	
	要素 2: 横方向オフセット	0.0-57.79	
OVRFLW	オーバーフロー行番号	1-255, 60	オプション
FOLD	レコードの折り返し	*NO , *YES	オプション
RPLUNPRT	印刷不能文字の処置	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 文字の置き換え	*YES	
	要素 2: 置き換え文字	X'40'-X'FE', X'40'	
ALIGN	ページの位置合わせ	*NO , *YES	オプション
CTLCHAR	制御文字	*NONE , *FCFC , *MACHINE	オプション
CHLVAL	チャンネル値	単一値: *NORMAL その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: チャンネル	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12	
	要素 2: チャンネルの行番号	要素リスト	
	要素 1: 行	1-255	
FIDELITY	精度	*CONTENT , *ABSOLUTE	オプション
PRTQLTY	印刷品質	*STD , *DEVD , *DRAFT , *NLQ , *FASTDRAFT	オプション
FORMFEED	用紙送り	*DEVD , *AUTOCUT , *CONT , *CUT , *CONT2	オプション
DRAWER	ソース用紙入れ	1-255, 1 , *E1 , *FORMDF	オプション
OUTBIN	出力ビン	1-65535, *DEVD	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
FONT	フォント	単一値: *CPI , *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 識別コード	文字値, 2, 002, 3, 003, 5, 005, 8, 008, 10, 010, 11, 011, 12, 012, 13, 013, 18, 018, 19, 019, 20, 020, 21, 021, 25, 025, 26, 026, 30, 030, 31, 031, 36, 036, 38, 038, 39, 039, 40, 040, 41, 041, 42, 042, 43, 043, 44, 044, 46, 046, 49, 049, 50, 050, 51, 051, 52, 052, 55, 055, 61, 061, 62, 062, 63, 063, 64, 064, 66, 066, 68, 068, 69, 069, 70, 070, 71, 071, 72, 072, 74, 074, 75, 075, 76, 076, 78, 078, 80, 080, 84, 084, 85, 085, 86, 086, 87, 087, 91, 091, 92, 092, 95, 095, 96, 096, 98, 098, 99, 099, 101, 102, 103, 109, 110, 111, 112, 154, 155, 157, 158, 159, 160, 162, 163, 164, 167, 168, 173, 174, 175, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 194, 195, 204, 205, 211, 212, 221, 222, 223, 225, 226, 229, 230, 232, 233, 234, 244, 245, 247, 248, 249, 252, 253, 254, 255, 256, 258, 259, 279, 281, 282, 285, 290, 300, 304, 305, 306, 307, 318, 319, 400, 404, 416, 420, 424, 428, 432, 434, 435, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 1051, 1053, 1056, 1351, 1653, 1803, 2103, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 4407, 4427, 4535, 4919, 4939, 5047, 5067, 5687, 5707, 5815, 5835, 5943, 6199, 6219, 6327, 6347, 8503, 8523, 8631, 8651, 8759, 8779, 8887, 8907, 12855, 12875, 16951, 16971, 17079, 17099, 33335, 33355, 33463, 33483, 33591, 33601, 33719, 33729, 34103, 34123, 34231, 34251, 37431, 41783, 41803	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, *NONE	
CHRID	文字識別コード	単一値: *DEVD , *SYSVAL, *JOBCCSID, *CHRIDCTL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DECfmt	10進数形式	*FILE, *JOB	オプション
FNTCHRSET	フォント文字セット	単一値: *FONT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 文字セット	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 文字セット	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: コード・ページ	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: コード・ページ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
要素 3: ポイント・サイズ	0.1-999.9, *NONE		
CDEFNT	コード化フォント	単一値: *FNTCHRSET その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: コード化フォント	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: コード化フォント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, *NONE	
TBLREFCHR	テーブル参照文字	*YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PAGDFN	ページ定義	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ページ定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FORMDF	用紙定義	単一値: *NONE , *DEVVD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 用紙定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
AFPCHARS	AFP文字	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
PAGRRT	ページ回転度数	*AUTO , *DEVVD, *COR, 0, 90, 180, 270	オプション
MULTIUP	面当たりページ数	1-4, 1	オプション
REDUCE	出力の減少	*TEXT , *NONE	オプション
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *JOB , *BLANK, X''	オプション
JUSTIFY	ハードウェア位置調整	0 , 50, 100	オプション
DUPLEX	両面印刷	*NO , *YES, *TUMBLE, *FORMMDF	オプション
UOM	単位	*INCH , *CM	オプション
FRONTOVL	前面オーバーレイ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オーバーレイ	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オーバーレイ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: 下方向オフセット	0.0-57.79, 0	
	要素 3: 横方向オフセット	0.0-57.79, 0	
BACKOVL	背面オーバーレイ	単一値: *FRONTOVL , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オーバーレイ	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オーバーレイ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: 下方向オフセット	0.0-57.79, 0	
	要素 3: 横方向オフセット	0.0-57.79, 0	
要素 4: コンスタント・バック	*NOCONSTANT , *CONSTANT		
CVTLINDTA	行データ変換	*NO , *YES	オプション
IPDSPASTHR	IPDSパススルー	*DEVVD , *NO, *YES	オプション
USRRSCLIBL	USER資源ライブラリー・リスト	単一値: *DEVVD , *NONE, *JOB LIBL, *CURLIB その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション
CORNERSTPL	コーナー・ステーブルとじ	*NONE , *BOTRIGHT, *TOPRIGHT, *TOPLEFT, *BOTLEFT, *DEVVD	オプション
EDGESTITCH	平とじ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 基準線	*BOT, *RIGHT, *TOP, *LEFT, *DEVVD	
	要素 2: 基準線オフセット	0.0-57.79, *DEVVD	
	要素 3: ステーブルの数	1-122, *DEVVD	
	要素 4: ステーブル・オフセット	単一値: *DEVVD その他の値 (最大 122 回の繰り返し): 0.0-57.79	

キーワード	記述	選択項目	注
SADLSTITCH	中とじ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 基準線	*TOP , *LEFT , *DEVD	
	要素 2: ステープルの数	1-122, *DEVD	
	要素 3: ステープル・オフセット	単一値: *DEVD その他の値 (最大 122 回の繰り返し): 0.0-57.79	
FNTRSL	形式設定用フォント解像度	*DEVD , *SEARCH , 240, 300	オプション
DFRWRT	書き出し据え置き	*YES , *NO	オプション
SPOOL	データのスパール	*YES , *NO	オプション
OUTQ	スパール出力待ち行列	単一値: *JOB , *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: スパール出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
FORMTYPE	用紙タイプ	文字値, *STD	オプション
COPIES	コピー枚数	1-255, 1	オプション
PAGERANGE	印刷ページ範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ページ	整数, 1 , *ENDPAGE	
	要素 2: 終了ページ	整数, *END	
MAXRCDS	スパール出力レコードの最大数	1-999999, 100000 , *NOMAX	オプション
FILESEP	ファイル区切り	0-9, 0	オプション
SCHEDULE	スパール出力のスケジュール	*FILEEND , *IMMED , *JOBEND	オプション
HOLD	スパール・ファイルの保留	*NO , *YES	オプション
SAVE	スパール・ファイルの保管	*NO , *YES	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQでの)	*JOB , 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	オプション
USRDTA	ユーザー・データ	文字値, *SOURCE	オプション
SPLFOWN	スパール・ファイル所有者	*CURUSRPRF , *JOB , *CURGRPPRF , *JOBGRPPRF	オプション
USRDFNOPT	ユーザー定義オプション	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
USRDFNDDTA	ユーザー定義データ	文字値, *NONE	オプション
USRDFNOBJ	ユーザー定義オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*DTAARA , *DTAQ , *FILE , *PSFCFG , *USRIDX , *USRQ , *USRSPC	
IGCCHRTT	DBCSの回転	*NO , *YES	オプション
IGCCPI	インチ当たりのDBCS数	*CPI , *CONDENSED , 5, 6, 10	オプション
IGCSOSI	DBCSのSO/SIのスペース	*YES , *NO , *RIGHT	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
IGCCDEFNT	DBCSコード化フォント	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: DBCSコード化フォント	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: DBCSコード化フォント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, *NONE	
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *IMMED , *CLS	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO , *YES	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*YES , *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *ALL , *CHANGE , *EXCLUDE , *USE	オプション
REPLACE	ファイルの置き換え	*YES , *NO	オプション

トップ

ファイル (FILE)

作成する印刷装置ファイルを指定します。

ファイルが高水準言語プログラムで使用される場合には、ファイル名はその言語の命名規則と合っていないかもしれません。そうでない場合には、ファイルはプログラム自体の中で名前変更されなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 印刷装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

印刷装置ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

印刷装置ファイルの作成に使用されるデータ記述仕様(DDS) ソースが入っているソース・ファイル (指定されている場合) を指定します。DDS中で指定できる仕様の詳細については、印刷装置 プログラミング (SD88-5073)およびISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「DDS解説書」情報を参照してください。

単一値

190 iSeries: OS/400 コマンド CRTMODD (モード記述作成) ~

***NONE**

この印刷装置ファイル用のDDSソース・ファイルはありません。

修飾子1: ソース・ファイル

名前 この印刷装置ファイルのDDSが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成される印刷装置ファイルのデータ記述仕様(DDS) ソースが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

***FILE** ソース・ファイルのメンバー名は、**ファイル (FILE)**パラメーターに指定された名前と同じです。

名前 ソース・ファイル中のメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

ファイルが作成されない原因となるデータ記述仕様(DDS)メッセージの重大度レベルを指定します。このパラメーターが適用されるのは、ソースDDSファイルの処理中に作成されたメッセージに対してだけです。

20 DDSソース・ファイルの処理中に重大度レベルが20より大きいか等しいエラーが起こった場合には、ファイルは作成されません。

0-30 所要の重大度レベル値を指定してください。0を指定した場合には、ファイルは作成されません。指定する値は、**フラグづけ重大度レベル (FLAG)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

[トップ](#)

フラグづけ重大度レベル (FLAG)

リストするメッセージの最小重大度レベルを指定します。

0 すべてのメッセージがリストされます。

0-30 リストするメッセージの最小重大度を示す数値を指定してください。指定する値は、**生成重大度レベル (GENLVL)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

[トップ](#)

装置 (DEV)

印刷装置記述の名前を指定します。非スプール出力の場合には、これは印刷出力を作成するために使用される印刷装置を識別します。スプール出力の場合には、ファイルはOUTQパラメーターによって決まる出力待ち行列に入れられます。OUTQ(*DEV)が使用された場合には、ファイルは装置と同じ名前をもつ出力待ち行列に入れられます。

***JOB** 印刷装置はジョブと対応した印刷装置です。

*SYSVAL

ジョブの開始時にシステム値QPRTDEVによって指定された印刷装置が印刷装置として使用されます。

名前 印刷装置ファイルと一緒に使用する印刷装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

印刷装置タイプ (DEVTYPE)

印刷装置ファイル用に作成されるデータ・ストリームのタイプを指定します。

***SCS** SNA文字ストリーム(SCS)が作成されます。3287, 3812 SCS, 3816 SCS, 4214, 4234 SCS, 4245, 5219, 5224, 5225, 5256, 5262, 6252,または6262ワークステーション印刷装置を使用する時には、このパラメーターを指定しなければなりません。

- *SCSを指定していて、スプール印刷装置ファイルがIPDS*印刷装置に送られる場合には、IPDS印刷装置ファイルのエミュレーションするために、SCS印刷装置ファイルが変換されます。詳細は、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)にあります。

2バイト文字セットに関する考慮事項

5553および5583の漢字使用可能印刷装置を使用する時には、DEVTYPE(*SCS)を指定しなければなりません。SNA文字ストリーム(SCS)のデータ・ストリームが作成されます。

***IPDS** 高機能印刷装置データ・ストリーム(IPDS)が作成されます。このパラメーターは、IPDS印刷装置を使用する時に指定することができます。

*USERASCII

ASCIIデータ・ストリームはスプール出力待ち行列に入れられます。ISERIESシステムでは渡された値を変更したりその妥当性の検査は行われないので、16進データ・ストリーム全体をバッファーに入れるのはユーザーの責任で行うことになります。

*AFPDS

高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)が作成されます。システムの中にはこのデータ・ストリームをMODCA-Pとして参照するものもあります。

*AFPDSLNE

混合データ（行データとAFPDSデータ）が作成されます。この値を指定することができるのは、PSF/400によってサポートされる印刷装置のどれかを使用する場合です。印刷装置はAFP(*YES)を指定して構成されていなければなりません。

***LINE** 行データが作成されます。この値を指定することができるのは、PSF/400によってサポートされる印刷装置のどれかを使用する場合です。印刷装置はAFP(*YES)を指定して構成されていなければなりません。

トップ

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

プログラム記述ファイルの場合には、ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。外部記述ファイルの場合には、ファイルのDBCS属性を指定します。

プログラム記述ファイルの場合

***NO** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理しません。

***YES** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理します。

外部記述ファイルの場合

***NO** ファイルの2バイト文字セット(DBCS)属性はフィールド記述に指定されています。

***YES** DBCS属性には、フィールド記述に指定されたものほかに、(1)代替データ・タイプ(IGCALTTYP)のデータ記述仕様(DDS)キーワードを有効にするものと、(2)フィールド、値、またはメッセージのDBCS属性を識別するものがあります。

トップ

外字 (IGCEXNCHR)

システムが2バイト文字セット(DBCS)の外字を処理するかどうかを指定します。DBCS外字を処理するときには、装置にはシステムの援助が必要です。システムが文字の外観を装置に指示しなければ、装置は文字を表示または印刷できません。外字は、DBCS装置ではなくDBCSフォント・テーブルに記憶されます。外字処理は、DBCS装置に使用可能なDBCSフォント・テーブルに記憶される文字を作成するために必要なオペレーティング・システムの機能です。

***YES** システムはDBCS外字を処理します。

***NO** システムは外字を処理しません。外字は未定義文字として印刷されます。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SRCMBRTXT

ソース・ファイルがデータベース・ファイルの場合には、テキストはファイルの作成に使用されたソース・ファイル・メンバーから取られます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ファイルの作成時に生成される出力のタイプを指定します。このパラメーターには、以下の値を4つまで任意の順序に指定できます。オプションに両方の値を指定した場合、あるいはいずれの値も指定しなかった場合には、そのオプションにリストされている最初の値が使用されます。

注: 各オプションの最初の値は似ていますが、実際には省略時の値ではなく、したがってCHGCMDDFT (コマンド省略時値変更) コマンドによって変更することはできません。

ソース・リスト・オプション

SRC**またはSOURCE**

ソース・ステートメントの印刷出力 (エラーのリストを含む) が作成されます。

NOSRC**またはNOSOURCE**

エラーが検出されない限り、ソース・ステートメントの印刷出力は作成されません。エラーが検出されると、エラーがそのエラーの原因となったキーワードまたはレコード様式と一緒にリストされます。

プログラム・リスト・オプション

***LIST** ファイル仕様および他のファイル記述への参照の明細リストを示す拡張ソース印刷出力が作成されます。

***NOLIST**

展開ソース印刷出力は作成されません。

第2レベルのメッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

データ記述仕様(DDS)印刷出力のメッセージ・セクションには、DDSの処理中に出されたメッセージのオンライン・ヘルプ情報は入っていません。

***SECLVL**

オンライン・ヘルプ情報がDDS印刷出力に現れます。

事象ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーは、COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE FOR OS/400)プロダクトの事象ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE FOR OS/400プロダクトで使用できる事象ファイルを作成します。事象ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE FOR OS/400プロダクトは、このファイルを使用して、CODE FOR OS/400エディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。この値は、通常、ユーザーのためにCODE FOR OS/400プロダクトによって指定されます。

ページ・サイズ (PAGESIZE)

この装置ファイルによって使用される印刷装置用紙の長さおよび幅を指定します。長さは、1ページ当たりの行数またはUOMパラメーターに指定した単位によって指定されます。幅は、1行当たりの印刷桁（文字数）か、または単位 (UOM)パラメーターに指定した単位によって指定されます。

ページ・サイズは、データがページ上に印刷される方法を参考にして指定しなければなりません。たとえば、8.5インチ幅で11.0インチの長さの用紙を使用し、10ピッチ・フォントで1インチ当たり6行で印刷する場合には、PAGESIZE(66 85) PAGRTT(0)を指定してください。しかし、ページを回転するためには、11.0幅で8.5インチの長さのページのページ・サイズを指定し、PAGESIZE(51 110) PAGRTT(90)を入力してください。

注: データが用紙に入りきらない場合に自動縮小または自動回転を実行できるようにするためには、このコマンドにPAGRTT(*AUTO)またはPAGRTT(*DEVD)とPRTQLTY(*DRAFT)を指定してください。

データが用紙に入りきるがどうかに関係なく自動縮小を実行できるようにするためには、このコマンドにPAGRTT(*COR)を指定してください。

要素1: 長さ—1ページ当たりの行数

66 ページの長さは66印刷行／ページです。

0.001-255.0

この印刷装置ファイルによって使用されるページの長さを指定してください。指定する値は、使用する用紙の実際の長さを超えるものであってはなりません。

要素2: 幅—1行当たりの文字数

132 ページ幅は132印刷文字／行です。

0.001-378.0

この印刷装置ファイルによって使用されるページの幅を指定してください。指定する値は使用する用紙の実際の幅を超えるものであってはなりません。

要素3: 測定方法

***ROWCOL**

ページの長さおよびページ幅は、行数と桁数で測定されます。

***UOM** ページの長さおよびページ幅は、UOMパラメーターに指定して単位で測定されます。

トップ

行／インチ (LPI)

この装置ファイルで使用される印刷装置の行間隔の設定値（行／インチ）を指定します。

5256印刷装置の行の間隔は手操作で設定しなければなりません。このパラメーターの1インチ当たりの行数(LPI)の値が（前の印刷装置ファイルの値から）変わると、LPI値の変更を要求する照会メッセージが印刷装置に関連したメッセージ待ち行列に送られます。

4214, 4224, 4230, 4234, 4245,および5262印刷装置の行間隔は、印刷コマンドで設定します。これらの印刷装置の場合には、印刷装置のコントロール・パネルで1インチ当たりの行数による行間隔を設定することも

できます。1インチ当たりの行数の値は、印刷装置で設定しないでください。LPI値がコントロール・パネルで一時変更された場合には、システムは、次に受け取る印刷装置ファイルのLPI値で設定された値を一時変更します。

- 6** 印刷装置の行送りは、1インチ当たり6行です。
- 3** 印刷装置の行送りは1インチ当たり3行です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。
- 4** 印刷装置の行送りは1インチ当たり4行です。
- 7.5** 印刷装置の行送りは1インチ当たり7.5行です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。
- 8** 印刷装置の行送りは1インチ当たり8行です。
注: LPI(8)で指定されたファイルで2バイト文字セット(DBCS)データを印刷する時には、2行間隔を使用してください。そうでない場合には、漢字データが正しく印刷されません。しかし、英数字データはLPI(8)が指定されていても、1行間隔で正しく印刷されます。
- 9** 印刷装置の行送りは1インチ当たり9行です。
- 12** 印刷装置の行送りは1インチ当たり12行です。

[トップ](#)

1インチ当たりの文字数 (CPI)

印刷装置の文字密度（1インチ当たりの文字数）を指定します。

複数フォントをサポートする印刷装置の場合には、フォント特有値に指定する値がCPIを暗黙に示します。FONT(*CPI)を指定した場合には、使用されるフォントはCPI値に基づいて決定されます。次の図は各CPI値の省略時のフォントIDを記述したものです。

CPI	フォントIDの省略時値
5	245
10	011
12	087
13.3	204
15	222
16.7	400
18	252
20	281

- 10** 文字密度は1インチ当たり10文字です。
- 5** 文字密度は1インチ当たり5文字です。
- 12** 文字密度は1インチ当たり12文字です。
- 13.3** 文字密度は1インチ当たり13.3文字です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。
- 15** 文字密度は1インチ当たり15文字です。
- 16.7** 文字密度は1インチ当たり16.7文字です。

- 18 文字密度は1インチ当たり18文字です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。
- 20 文字密度は1インチ当たり20文字です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。

トップ

フロント・マージン (FRONTMGN)

用紙の表側の端からの起点の下方および横方向のオフセットを指定します。このオフセットは、UOMパラメーターに指定された測定の単位です。このパラメーターを使用できるのは、DEVTYPE(*AFPDS)が指定された印刷装置ファイルの場合だけです。

単一値

*DEVD

印刷装置からの非印刷ボーダーは、AFP(*YES)で構成された印刷装置への印刷時にページ上にテキストを入れるために使用されます。印刷しない余白部分がないIPDS印刷装置、あるいはAFP(*NO)で構成されたIPDS印刷装置には0のマージンが使用されます。

要素1: 下方向オフセット

0.0-57.79

ページの最上部からの起点のオフセットを指定してください。単位 (UOM)パラメーターに*CMが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から57.79です。UOMパラメーターに*INCHが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から22.75です。

要素2: 横方向オフセット

0.0-57.79

ページの左側からの起点のオフセットを指定してください。単位 (UOM)パラメーターに*CMが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から57.79です。UOMパラメーターに*INCHが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から22.75です。

トップ

バック・マージン (BACKMGN)

用紙の裏側の端からの起点の下方および横方向のオフセットを指定します。このオフセットは、UOMパラメーターに指定された測定の単位です。このパラメーターを使用できるのは、DEVTYPE(*AFPDS)が指定された印刷装置ファイルの場合だけです。

単一値

*FRONTMGN

フロント・マージン (FRONTMGN)パラメーターに指定されたオフセットが使用されます。

*DEVD

印刷装置からの非印刷ボーダーは、AFP(*YES)で構成された印刷装置への印刷時にページ上にテキストを入れるために使用されます。印刷しない余白部分がないIPDS印刷装置、あるいはAFP(*NO)で構成されたIPDS印刷装置には0のマージンが使用されます。

要素1: 下方向オフセット

0.0-57.79

ページの最上部からの起点のオフセットを指定してください。単位 (UOM)パラメーターに*CMが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から57.79です。UOMパラメーターに*INCHが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から22.75です。

要素2: 横方向オフセット

0.0-57.79

ページの左側からの起点のオフセットを指定してください。単位 (UOM)パラメーターに*CMが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から57.79です。UOMパラメーターに*INCHが指定されている場合には、有効な値の範囲は0から22.75です。

[トップ](#)

オーバフロー行番号 (OVRFLW)

印刷装置で新しいページへのオーバフローが起こるページ上の行番号を指定します。指定した行番号が現在行になると、その行で印刷が行なわれたかどうかに関係なく、オーバフローが通知されます。

60 60行目に達するかあるいは60行目が印刷された後で、印刷装置は新しいページにオーバフローします。

1-255 オーバフロー行番号を指定してください。指定する値は、ページ・サイズ (PAGESIZE)パラメーターで指定されたページの長さを超えてはなりません。オーバフローを判別する時には、印刷装置ファイルに指定されたマージンは無視されます。

[トップ](#)

レコードの折り返し (FOLD)

レコード長がページ幅より大きい時にレコードのすべての桁を印刷するかどうかを指定します。印刷装置タイプ (DEVTYPE)パラメーターで*IPDSが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

折り返しが指定されていて、レコードがページ幅を超える場合には、最初の行に印刷できないレコードの部分は、レコード全体が印刷されるまで、次の行（1行または複数行）に続けられ（折り返され）ます。

次の条件の下ではFOLDパラメーターは無視されます。

- DEVTYPE(*SCS)が指定されていない場合。
- OFFICEVISIONによって印刷する場合。
- S/36実行環境の時。

2バイト文字セットに関する考慮事項

2バイト文字セット(DBCS)ファイルを印刷する時には、システムはこのパラメーターを無視します。システムは、DBCSレコードが1行の印刷行に収まるものと想定します。レコードがページ幅を超える場合には、システムは次の行にレコードの印刷を続行します。

***NO** レコードは折り返されません。レコードがページ幅より長い場合には、最初の1行に収まるレコードの部分だけが印刷されます。

***YES** レコードの長さがページ幅より大きいものは、次の行に折り返されます。

トップ

印刷不能文字の処置 (RPLUNPRT)

印刷不能文字を置き換えるかどうかと、印刷不能文字にどの置き換え文字（もしあれば）を使用するかを指定します。印刷不能文字は、印刷装置で印刷できない文字です。

2 バイト文字セットに関する考慮事項

2バイト文字セット(DBCS)の場合に、印刷不能文字とは処理不能な文字のことです。DBCS使用可能印刷装置を使用する時には、次の点を考慮してください。

- IGCEXNCHR(*YES)も指定されている場合には、システムは印刷不能な外字をDBCS（漢字）の下線文字で置き換えます。場合によっては、システムが印刷不能文字をDBCSの下線文字で置き換えることができないことがあります。この場合には、未定義の文字が印刷されます。
- IGCEXNCHR(*NO)も指定されている場合には、装置がすべての外字を未定義文字で置き換えます。英数字の場合に置き換え文字としてブランクを選択すると、システム・パフォーマンスが向上することがあります。

詳細は、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)にあります。

単一値

***NO** 印刷不能文字は置き換えられません。印刷不能文字が検出されると、プログラムにメッセージが送られます。

要素1: 文字の置き換え

***YES** 印刷不能文字は置き換えられます。印刷不能文字が検出されても、プログラムには通知されません。

要素2: 置き換え文字

' ' 印刷不能文字が検出された場合には、置き換え文字としてブランク(X'40')が使用されます。

X'40'-X'FE'

印刷不能文字が検出されるたびに使用する置換文字を指定してください。この文字は、このパラメーターにも*YESを指定した場合にだけ使用されます。有効な値の範囲は40-99およびA1-FEです。

トップ

ページの位置合わせ (ALIGN)

印刷を開始する前に、各ページを印刷装置内で位置合わせする必要があるかどうかを指定します。ALIGN(*YES)およびSPOOL(*NO)が指定されていて、用紙の位置合わせが必要な場合には、システムは印刷装置記述に指定されたメッセージ待ち行列にメッセージを送り、そのメッセージに対する応答を待ちます。CRTPRTFコマンドにSPOOL(*YES)が指定されていて、STRPRTWTRコマンドにALIGN(*FILE)が指定されている場合には、このパラメーターを使用して、システムが位置合わせメッセージを送信するかどうかを判別します。

このパラメーターは単票用紙を使用する時には無視されます（スプールおよび直接出力）。ページ位置合わせはテキスト専用ファイルの場合にのみ行なうことができます。図形またはバー・コードを含む印刷ジョブの場合には、ページ位置合わせを行なうことはできません。

***NO** ページの位置合わせは必要ありません。

***YES** 出力を印刷する前にページの位置合わせが必要です。

トップ

制御文字 (CTLCHAR)

印刷装置ファイルが印刷制御文字を含む入力をサポートするかどうかを指定します。

***NONE**

印刷制御文字は印刷データでは渡されません。

***FCFC**

すべてのレコードの先頭文字に米国規格協会(ANSI)用紙制御文字が含まれています。*FCFCを指定した場合には、レコード長に、1桁目の文字による用紙制御コード用の1桁が含まれていなければなりません。これは、印刷されるデータに渡されます。

***MACHINE**

どのレコードでも先頭の文字にはマシン・コード制御文字が入っています。*MACHINEを指定する場合には、先頭文字用紙制御コード用の余分な1桁をレコード長に含める必要があります。この値は、外部記述の印刷装置ファイルには無効です。

合わせてTBLREFCHR(*YES)も指定した場合には、レコード長は制御文字とテーブル参照文字のための余分の2桁を加えたものでなければなりません。

トップ

チャンネル値 (CHLVAL)

行番号が割り当てられたチャンネル番号のリストを指定します。このパラメーターは制御文字 (CTLCHAR) パラメーターに*FCFCが指定されている場合にのみ使用してください。

単一値

***NORMAL**

チャンネル識別コードへのスキップの省略時の値が使用されます。省略時の値は次のテーブルを参照してください。

コード	行を印刷する前の処置
-----	-----
' '	1行の行送り（ブランク・コード）
0	2行の行送り
-	3行の行送り
+	行送りを抑制
1	1行目へのスキップ
2-11	1行の行送り
12	オーバフロー行へのスキップ(OVRFLWパラメーター)

要素1: チャンネル

1-12 対応する「スキップ先」行番号と関連付けられる米国標準規格チャンネル番号を指定してください。このパラメーターに有効な値の範囲は1-12で、それぞれチャンネル1-12に対応しています。CHLVALパラメーターは、チャンネル番号をページ行番号と関連付けます。たとえば、CHLVAL(2 20)を指定した場合には、チャンネル識別コード2は行番号20と関連付けられます。したがって、レコードの最初の桁に用紙制御2を入れた場合には、印刷装置は行印刷の前に20行目にスキップします。

注: 印刷装置が停止し、次に処理されるレコードに、印刷装置が現在ある行番号と同じ値のチャンネル値用紙制御番号がある場合には、印刷装置は次のページのもその値（行番号）に進みます。しかし、印刷装置がページの最上部（行番号1）に位置設定され、チャンネル値用紙制御値が行番号1と対応している場合には、印刷装置は新しいページに進みません。

チャンネル識別コードに行番号が指定されておらず、そのチャンネル識別コードがデータに見つかった場合には、印刷前に省略時の「1行間隔」が使用されます。各チャンネル番号は、1回だけ指定することができます。

要素2: チャンネルの行番号

1-255 同じリストのチャンネル番号に割り当てられた行番号を指定してください。有効な行番号の範囲は1-255です。チャンネル番号に割り当てられた行番号がなく、データにそのチャンネル番号が見つかった場合には、印刷前に省略時の「1行間隔」が使用されます。

トップ

精度 (FIDELITY)

AFP(*YES)で構成された印刷装置で印刷エラーが見つかった時に、印刷を続行するかどうかを指定します。

*CONTENT

エラーが見つかった時に、印刷は続行されます。

*ABSOLUTE

エラーが見つかった時に、印刷は停止します。

トップ

印刷品質 (PRTQLTY)

3812 SCS, 3816 SCS, 4214, 4224, 4230, 4234, および5219印刷装置の場合に、作成される印刷品質を指定します。

一部の非衝撃式のIPDS印刷装置は、トナー節約機能をサポートします。この機能は装置に依存します。PRTQLTY値に*DRAFTを指定すると、トナー節約機能をサポートしている印刷装置でその機能が活性化されます。

5219印刷装置の場合には、印刷リボンが進む速度を変えることによって各種の印刷品質が作成されます。高品質モード(*STDまたは*NLQ)では通常の印刷リボン速度になります。ドラフト・モード(*DRAFT)では、高品質モードで進む1/3の長さでリボンが進みます。5219印刷装置には、このパラメーターで指定された*DRAFTの値を一時変更するリボン保護スイッチがあります。

3812 SCSおよび3816 SCS印刷装置の場合には、PRTQLTYに*DRAFTが指定されていて、PAGRTTが*DEVDである時のみ、印刷装置のソフト・スイッチで選択した自動ハードウェア選択（コンピューター出力の減少印刷）が行なわれます。PAGRTT(*COR)が指定されている場合には、PRTQLTYパラメーターは印刷出力に影響を与えません。

4224, 4230,および4234印刷装置の場合には、印刷可能文字を作成するために使用されるドット・マトリックス・パターンの密度を変えることによって標準印刷品質が作成されます。標準モード(*STD)は通常モードです。高品質モード(*NLQ)では、1行のデータを作成するために印刷装置によって複数回通過することが要求されます。ドラフト・モード(*DRAFT)は、高速印刷になります。

4214印刷装置の場合には、ドラフト(*DRAFT)、高品質(*NLQ),および装置の省略時の値(*DEVD)の各モードだけがサポートされます。その他の値は高品質(*NLQ)モードに設定されます。

4214, 4224, 4230, 4234,および5219印刷装置に有効な値の詳細については、PRINTER DEVICE PROGRAMMINGを参照してください。

注:

- 4214印刷装置の場合には、品質モード(*STDまたは*NLQ)は、1インチ当たりの10文字および12文字の場合にのみサポートされています。PRTQLTY(*STDまたは*NLQ)と1インチ当たり5, 15,または16.7文字が指定されている場合には、データはドラフト・モードで印刷されます。
- 4234印刷装置の場合には、PRTQLTY(*DRAFT)が指定されている時には、制限された文字セット（62文字）だけサポートされています。ドラフト印刷品質でサポートされている文字セットの説明は、4234印刷装置操作員の手引きにあります。
- 4224印刷装置および4230印刷装置の場合には、サポートされるフォントが3つすべての印刷品質で使用可能であるとはかぎりません。OCR-AおよびOCR-Bフォントは、PRTQLTY(*NLQ)でのみサポートされません。COURIERフォントおよびESSAYフォントは、PRTQLTY(*NLQ)およびPRTQLTY(*STD)でのみ使用可能です。GOTHICフォントは、PRTQLTY(*DRAFT)またはPRTQLTY(*FASTDRAFT)でのみ使用可能です。印刷品質と選択したフォントとの間に不一致がある場合には、フォントは印刷品質に合うように変更されます。
- データが用紙に収まらない場合に自動回転を実行できるようにするためには、このコマンドにPAGRTT(*DEVD)およびPRTQLTY(*DRAFT)を指定してください。

[トップ](#)

用紙送り (FORMFEED)

この印刷装置ファイルによって使用される用紙送り機構を指定します。

***DEVD**

用紙は印刷装置記述に指定されている方法で印刷装置に送られます。

***CONT**

印刷装置で連続用紙が使用されます。連続用紙送り接続機構が印刷装置になければなりません。

***CONT2**

印刷装置で連続用紙が使用されます。用紙は2次連続用紙送り機構から送られます。印刷装置に2次連続用紙送り機構がなければなりません。

***CUT** 印刷装置で単票用紙が使用されます。用紙は1枚1枚手動で送らなければなりません。

*AUTOCUT

単票用紙が半自動的に印刷装置に送られます。用紙送り接続機構が印刷装置になればなりません。

[トップ](#)

ソース用紙入れ (DRAWER)

単票用紙が印刷装置 (FORMFEED(*AUTOCUT)で指定) に送られる時に、使用されるソース用紙入れを指定します。

1 用紙は最初の給紙トレイから単票送り機構へ送られます。

***E1** 封筒はカット用紙送り機構の封筒用紙入れから送られます。

*FORMDF

用紙は、用紙定義に指定された用紙入れから用紙送りされます。用紙定義が指定されていない場合には、用紙入れ1が使用されます。

1-255 用紙を供給する用紙入れを指定してください。

[トップ](#)

出力ビン (OUTBIN)

複数の出力ビンが可能な印刷装置上の出力の宛先を指定します。

*DEVD

出力の宛先は、その装置の省略時の出力ビンです。

1-65535

出力の宛先の出力ビンを指定してください。

[トップ](#)

フォント識別コード (FONT)

この印刷装置ファイルで使用するフォント識別コードおよびポイント・サイズを指定します。

有効なフォント識別コード、表示装置の値、各フォント・スタイルに関連した1インチ当たりの文字数、各フォント・スタイルの記述、および特定の印刷装置でフォントがサポートされているかどうかの詳細については、PRINTER DEVICE PROGRAMMINGを参照してください。

注: 一部のフォントは印刷装置によって置き換えられることがあります。詳細については、各印刷装置の手引き書を参照してください。

単一値

***CPI** 指定されたピッチ (1インチ当たりの文字数(CPI))のフォントの識別コードが使用されます。

*DEVD

装置記述に指定されたフォント識別コードおよびポイント・サイズが使用されます。

要素1: 識別コード

識別コード

この印刷装置ファイルで使用するフォント識別コード（数字）を指定してください。

要素2: ポイント・サイズ

*NONE

ポイント・サイズは指定されません。使用される印刷装置のタイプに基づいてシステムが選択します。

0.1-999.9

ポイント・サイズを指定してください。

トップ

文字識別コード (CHRID)

印刷出力ファイルの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。このパラメーターによって、異なる文字識別コードをもつテキストを印刷することができます。このパラメーターに指定された値は、印刷装置に、16進バイト・ストリングを変換して、テキスト作成時に予定された同じ文字を印刷するように指示するために使用されます。文字識別コードの詳細は印刷装置 プログラミング (SD88-5073)にあります。

単一値

*DEV

装置が処理するように設計されている**文字識別コード (CHRID)**パラメーターからの省略時の値が使用されます。***DEV**値は、ファイルが印刷装置の省略時の値と同じ文字識別コードをもつので、文字の選択が正常に行なわれることを意味します。

*SYSVAL

適用業務が実行するシステムに対して指定された**文字識別コード (CHRID)**パラメーターの値が使用されます。

*JOBCCSID

印刷装置ファイルの文字識別コードはジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID)から取られます。

注: CHRIDコマンド・パラメーターに***CHRIDCTL**特殊値が指定されているときにCHRIDコマンド・パラメーターまたはCHRIDCTLジョブ属性のいずれかで直接指定された***JOBCCSID**特殊値は、ファイルがV2R3M0より前のリリース・レベルのシステムで作成されている場合には使用できません。V2R3M0より前に作成されたファイルにはCCSIDのタグは付けられないので、***JOBCCSID**サポートと組み合わせて使用することはできません。

*CHRIDCTL

システムは、このファイルに対するCHRIDコマンド・パラメーターで***JOBCCSID**を使用するか***DEV**を使用するかを判別するために、CHRIDCTLジョブ定義属性を検査します。

要素1: グラフィック文字セット

整数 印刷装置に合った図形文字セットの値を指定してください。

要素2: コード・ページ

整数 印刷装置に合ったコード・ページの値を指定してください。有効な値の範囲は1 - 32767です。

10進数形式 (DECFMT)

EDTCDE DDSキーワードで数字フィールドを編集する時に使用する10進数形式を指定します。10進数形式の値は、小数点としてのコンマおよびピリオドの使用、および編集済みフィールドにおける3桁の定位置区切り記号を決定します。

***JOB** ファイルのオープン時にDECFMTジョブ属性からの10進数形式の値を使用します。

***FILE** ファイルの作成時にそのファイルと一緒に記憶された10進数形式の値を使用します。

トップ

フォント文字セット (FNTCHRSET)

文字セットとコード・ページからなるダウンロード・フォントを指定します。このパラメーターを使用できるのは、DEVTYPE(*AFPDS) が指定された印刷装置ファイルの場合だけです。

単一値

***FONT**

フォント識別コード (**FONT**)パラメーターに指定された値が使用されます。

要素1: 文字セット

修飾子1: 文字セット

名前 フォント文字セットの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フォント文字セットを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント文字セットが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: コード・ページ

修飾子1: コード・ページ

名前 コード・ページの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

コード・ページ名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 コード・ページ・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素3: ポイント・サイズ

*NONE

ポイント・サイズはシステムによって指定され、指定されたフォント文字セットによって決定されます。

0.1-999.9

使用するポイント・サイズを指定してください。

注: ポイント・サイズ・パラメーターが使用されるのは、アウトライン・フォントが指定されている場合だけで、その他の場合にはこれは無視されます。

[トップ](#)

コード化フォント (CDEFNT)

1バイト文字セット(SBCS)の印刷にシステムが使用するコード化フォントを指定します。このパラメーターを使用できるのは、DEVTYPE(*AFPDS) が指定された印刷装置ファイルの場合だけです。

単一値

*FNTCHRSET

フォント文字セット (FNTCHRSET)パラメーターに指定された値が使用されます。

要素1: コード化フォント

修飾子1: コード化フォント

名前 コード化フォントの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

コード化フォント・オブジェクトを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 コード化フォント・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: ポイント・サイズ

*NONE

ポイント・サイズはシステムによって指定され、指定されたフォント文字セットによって決定されます。

0.1-999.9

使用するポイント・サイズを指定してください。

注: ポイント・サイズ・パラメーターが使用されるのは、アウトライン・フォントが指定されている場合だけで、その他の場合にはこれは無視されます。

[トップ](#)

テーブル参照文字 (TBLREFCHR)

行データにテーブル参照文字が存在するかどうかを指定します。

***NO** 行データにテーブル参照文字はありません。

***YES** 行データにテーブル参照文字があります。

データとともに用紙制御文字が使用される場合には、テーブル参照文字は用紙制御文字の後に続きますが、データ・バイトの前にあります。用紙制御文字が使用されない場合には、テーブル参照文字はデータ・レコードの最初のバイトとなります。用紙制御文字と同様に、テーブル参照文字が使用される場合には、すべてのデータ・レコードにTRCバイトが含まれていなければなりません。

[トップ](#)

ページ定義 (PAGDFN)

行データを形式設定するために使用されるページ定義を指定します。

*LINE, *AFPDSLIN,または*USERASCIIデータを使用してページ定義を指定できます。PSF/400は、行データおよびページ定義をIPDSに変換します。

印刷装置ファイルにページ定義を指定し、PSF/400によってスプール・ファイルが印刷される場合には、一部の印刷装置ファイル・パラメーターは無視されます。次の印刷ファイル・パラメーターが無視されます。

- CDEFNT
- CHRID
- CPI
- FNTCHRSET
- FOLD

- FONT
- LPI
- MULTIUP
- PAGESIZE
- PAGRTT
- REDUCE

単一値

*NONE

ページ定義は指定されません。

*LINEまたは*AFPSDLINEが指定されている時には、PSF/400はページ定義を必要とするので、*NONEが指定されていると、印刷ファイル・パラメーターからインライン・ページ定義が作成され、PSF/400に渡されます。

修飾子1: ページ定義

名前 指定されたライブラリーに存在していなければならないページ定義の名前を指定してください。有効な値の範囲は1-8文字です。ページ定義を使用するときには、装置タイプ*AFPSDLINE、*LINE、または*USERASCIIを指定しなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

用紙定義 (FORMDF)

ファイルを印刷する時に使用する用紙定義を指定します。用紙定義は、オーバーレイ、用紙上のページ・データの位置、およびページのコピー数と修正を含む用紙の特性を定義する資源オブジェクトです。用紙定義は印刷しているファイルとともにインラインにあるか、あるいはライブラリー中にあります。

印刷装置ファイルに用紙定義(*DEVDFまたは用紙定義名)を指定し、PSF/400によってスプール・ファイルが印刷される場合には、一部の印刷装置ファイル・パラメーターは無視されます。次の印刷ファイル・パラメーターが無視されます。

- DUPLEX (*FORMDFを指定した場合)
- DRAWER (*FORMDFを指定した場合)
- PAGRTT
- PRTQLTY
- FORMFEED
- FRONTMGN

- BACKMGN
- MULTIUP
- REDUCE
- CORNERSTPL
- EDGESTITCH
- SADLSTITCH

単一値

***NONE**

用紙定義は使用されません。

PSF/400には用紙定義が必要になるので、*NONEを指定した時には、印刷ファイル・パラメーターからインライン用紙定義が作成され、PSF/400に渡されます。

***DEV D**

用紙定義の名前は印刷装置定義に指定されています。

修飾子1: 用紙定義

名前 指定されたライブラリーに存在しなければならない用紙定義の名前を指定してください。有効な値の範囲は1-8文字です。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

AFP文字 (AFPCHARS)

行データおよびページ定義で使用される1つまたは複数のAFP文字（コード化フォント）を指定します。

単一値

***NONE**

AFP文字（コード化フォント）は指定されません。

その他の値（最大4回の繰り返し）

文字値 行データおよびページ定義で指定するコード化フォントの4バイトの名前を4つまで指定してください。データ内でTBLREFCHRが使用されている時に使用する最大4つまでのコード化フォントを識別するために、4バイトの名前がX0に連結されます。

[トップ](#)

ページ回転度数 (PAGRTT)

印刷装置への用紙のロードの方法に関連して、ページ上のテキストの回転の角度を指定します。ページを回転する時のページ・サイズの指定の指示については、PAGESIZEパラメーターの下の注を参照してください。

データが用紙に収まらない場合に自動回転を使用可能にするためには、このコマンドのこのパラメーターおよびPRTQLTY(*DRAFT)に*AUTOまたは*DEVDを指定してください。

***AUTO**

用紙に印刷データを収まるようにするために出力の自動回転が実行されることを指示します。回転しても収まらない場合には、使用される印刷品質に関係なく、自動的にコンピューター出力の縮小が行なわれます。このパラメーターは、回転をサポートする印刷装置の場合にだけ有効です。

***COR** コンピューター出力の縮小(COR)が使用されます。CORによって、13.2インチ幅、11.0インチの長さのページで予定していた印刷出力を、11.0インチ幅、8.5インチの長さのページまたは8.5インチ幅、11.0インチの長さのページで印刷することができます。

コンピューター出力縮小印刷の場合には、カット・シートIPDS印刷装置で次の操作が実行されます。

- ファイルに図形、バー・コード、可変LPI、可変フォント、可変ページ回転、または可変用紙入れが含まれている場合には、*CORへの自動回転は行なわれません。
- テキストは、0度の回転位置（印刷装置にロードした最初の端の左下隅）から右回りに90度回転されます。

注: 非衝撃式連続用紙印刷装置の横長用紙の場合には、回転は0度の回転位置（印刷装置にロードした最初の端の左下隅）から左回りになります。

- 印刷出力には0.5インチの上および左マージンが追加されます。
- 12ピッチ・フォントは15ピッチ・フォントに変更され、15ピッチ・フォントは20ピッチ・フォントに変更されます。その他のすべてのフォント幅は13.3ピッチ・フォントに変更されますが、ただし4028印刷装置の場合には、15ピッチ・フォントに変更されます。
- 垂直スペーシング（LPIパラメーターで指定）は、通常のスペーシングの70パーセントです。
- ページ・サイズは、幅8.5インチ、長さ11インチに設定されます。

***DEVD**

オペレーティング・システムは、装置の省略時の回転値を印刷装置に送ります。ページ回転は、印刷装置の仕様次第です。ページ回転の影響については、印刷装置または印刷装置エミュレーションの解説書を参照してください。

- 0** 回転は行なわれません。
- 90** テキストは90度右回りに回転されます。
- 180** テキストは180度右回りに回転されます。
- 270** テキストは270度右回りに回転されます。

トップ

面当たりページ数 (MULTIUP)

スプール出力の場合にだけ、複数ページの出力を1ページの物理ページに印刷するかどうかを指定します。

注: 1面に複数のページを印刷すると、オーバーレイは縮小されません。

詳細および例については、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

- 1** 1ページの出力が用紙の1物理ページに印刷されます。
- 2** 2ページの出力が用紙の1物理ページに印刷されます。
- 3** 3ページの出力が用紙の1物理ページに印刷されます。
- 4** 4ページの出力が用紙の1物理ページに印刷されます。

[トップ](#)

出力の減少 (REDUCE)

マルチプル・アップ印刷を行なう時に、出力を減らすかどうかを指定します。

詳細および例については、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

***TEXT** マルチプル・アップ印刷を行なう時に、テキスト出力が減らされます。

***NONE**

マルチプル・アップ印刷を行なう時に、出力は減らされません。

[トップ](#)

印刷テキスト (PRTTXT)

印刷出力の各ページの下部および分離ページに印刷されるテキストを指定します。

***JOB** 現行ジョブからの値が使用されます。

***BLANK**

テキストを印刷しません。

文字値 30文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ハードウェア位置調整 (JUSTIFY)

右マージンの印刷位置合わせの度合いを制御するために、ページ上の文字の印刷位置を指定します。調整は、オープンされている印刷装置ファイルのレコード長に合わせて行なわれます。

注: JUSTIFYパラメーターは、3812 SCS, 3816 SCS,および5219印刷装置でのみサポートされます。

0 行末調整は行なわれません。

50 テキスト中のブランクにスペースを追加して、右マージンをある程度そろえます。

100 右マージンの位置が揃うまで、テキストのスペースを拡張します (ブランクがすでに存在している位置に追加されます)。

両面印刷 (DUPLEX)

出力が用紙の片面または両面に印刷するかどうかを指定します。

***NO** 出力は用紙の片面に印刷されます。

***YES** 出力は、各印刷ページの上部が用紙の同じ側にくるように、用紙の両面に印刷されます。これは通常、用紙の側部でとじられる出力に対して行なわれます。

***TUMBLE**

出力が用紙の両面に印刷され、印刷されたページの片面の上部が、その裏の印刷されたページの上部とは反対側になります。これは通常、用紙の上部でとじられる出力に対して行なわれます。

***FORMDF**

用紙定義に両面値が指定されている場合には、出力は用紙の両面に印刷されます。用紙定義が指定されていない場合には、出力は用紙の片面に印刷されます。

単位 (UOM)

使用する単位を指定します。

***INCH** 単位としてインチが使用されます。

***CM** 単位としてセンチメートルが使用されます。

前面オーバーレイ (FRONTOVL)

ページの表側に印刷するオーバーレイとオーバーレイが印刷されるときに使用される起点から下および横方向のオフセットの両方が入っているオブジェクトを指定します。

単一値

***NONE**

オーバーレイは使用されません。

要素1: オーバーレイ

修飾子1: オーバーレイ

名前 オーバーレイの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オーバーレイを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 オーバーレイが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: 下方向オフセット

0 起点からの下方向オフセットは使用されません。

0.0-57.79

オーバーレイの印刷を始める起点からの下方向オフセットを指定してください。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。

要素3: 横方向オフセット

0 起点からの横方向オフセットは使用されません。

0.0-57.79

オーバーレイの印刷が開始される起点からの横方向のオフセットを指定してください。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。

トップ

背面オーバーレイ (BACKOVL)

ページの裏側に印刷するオーバーレイとオーバーレイが印刷されるときに使用される起点から下および横方向のオフセットの両方が入っているオブジェクトを指定します。

コンスタント・バック機能によって、印刷適用業務にブランク・ページを追加することなくブランク・ページでオーバーレイを印刷することができます。コンスタント・バック機能を指定すると、適用業務プログラムによって生成された各ページに対してブランク・ページが生成され、指定されたバック・オーバーレイを印刷できるようになります。生成されたブランク・ページは、ユーザー・プログラムからの変数データがページに印刷されないために定数形式と呼ばれます。コンスタント・バック機能は両面印刷だけにサポートされています。これは印刷装置ファイルにDUPLEX(*NO)が指定されていると無視されます。

コンスタント・バックに*CONSTANTが指定されていると、下方向オフセットおよび横方向オフセットの値は無視されることに注意してください。これらの値はオフセット0.0と見なされます。

単一値

***FRONTOVL**

前面オーバーレイ (FRONTOVL)パラメーターに指定された値が使用されます。

***NONE**

オーバーレイは使用されません。

要素1: オーバーレイ

修飾子1: オーバーレイ

名前 オーバーレイの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オーバーレイを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 オーバーレイが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: 下方向オフセット

0 起点からの下方向オフセットは使用されません。

0.0-57.79

オーバーレイの印刷を始める起点からの下方向オフセットを指定してください。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。

要素3: 横方向オフセット

0 起点からの横方向オフセットは使用されません。

0.0-57.79

オーバーレイの印刷が開始される起点からの横方向のオフセットを指定してください。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。

要素4: コンスタント・バック

***NOCONSTANT**

コンスタント・バックは指定されません。

***CONSTANT**

コンスタント・バックが指定されます。

[トップ](#)

行データ変換 (CVTLINDTA)

データがスプールされる前に回線データおよびページ定義をAFPDSに変換するかどうかを指定します。

***NO** AFPDS変換は行われません。

***YES** データがスプールされる前に回線データおよびページ定義でAFPDS変換が行われることを指定します。

IPDSパススルー (IPDSPASTHR)

スプール・ファイルに対してIPDS（高機能プリンター・データ・ストリーム）パススルーを実行するかどうかを指定します。

***DEVD**

印刷装置記述に指定されたPSF構成オブジェクトでIPDSPASTHRに指定される値が使用されます。装置用のPSF構成オブジェクトが指定されていない場合には、値*NOが使用されます。

***NO** IPDSパススルーは実行されません。

***YES** スプール・ファイルがIPDSパススルーに適格である場合に、IPDSパススルーを実行することを指定します。

注: すべてのSCSまたはIPDSスプール・ファイルがIPDSパススルーに適格なわけではありません。正しく印刷するためにAFPDSに変換する必要がある特殊機能が含まれていることがあります。印刷装置ファイルに対してIPDSパススルーを指定すると、IPDSパススルーに適格なスプール・ファイルだけが余分な変換を迂回することができます。IPDSパススルーに適格でないスプール・ファイルは、その場合であってもAFPDSに変換されてから、IPDSに変換し戻されます。

IPDSパススルーはすべてのPSF/400サポートのある印刷装置に有効というわけではありません。常駐フォントをサポートしていない印刷装置（または接続機構）では、IPDSパススルーをサポートすることはできません。これは、データ・ストリーム内で参照される常駐フォントはその印刷装置にダウンロードされるホスト・フォントにマップされなければならないからです。以下を除くすべてのIBM IPDS印刷装置は、IPDSパススルーによってサポートできます。3820, 3825, 3827, 3828, 3829, 3831, 3835, 3900-001 および INFOPRINT MANAGERまたはPRINT SERVICES FACILITY FOR OS/2のいずれかによって提供された分散印刷機能を使用してシステムに接続された印刷装置。

V3R7, V4R1およびV4R2では、IPDSPASTHRは印刷装置ファイルのUSRDFNDTAパラメーターで指定できます。印刷装置ファイルでIPDSPASTHR(*DEVD)を指定することにより、既存の印刷装置ファイルおよびPSF構成オブジェクトでのこのサポートの使用を続行できます。IPDSPASTHRパラメーターに*DEVD以外の値を指定すると、USRDFNDTAパラメーターのIPDSパススルー値は無視されます。

トップ

USER資源ライブラリー・リスト (USRRSCLIBL)

スプール・ファイル用のAFP資源を検索するために使用するユーザー資源ライブラリーのリストを指定します。AFP資源がユーザー資源ライブラリー内で見つからない場合には、PSF構成オブジェクトのDEVRSCLIBLパラメーターに指定されたライブラリー・リストが検索されます。装置のPSF構成オブジェクトが指定されていない場合には、ライブラリーQFNTCPL, QFNT01-QFNT19, およびQFNT61-69が検索されます。

単一値

***DEVD**

印刷装置記述に指定されたPSF構成オブジェクトで、USRRSCLIBLに指定された値が使用されます。装置に対してPSF構成オブジェクトが指定されない場合には、値*JOBLIBLが使用されます。

***NONE**

ユーザー・ライブラリーは指定されません。

***JOBLIBL**

スプール・ファイルを作成したジョブのライブラリー・リストがAFP資源の検索で使用されることを指定します。このライブラリー・リストは、スプール・ファイルの作成時にそのスプール・ファイルと一緒に保管されます。

***CURLIB**

スプール・ファイルを作成したジョブの現行ライブラリーがAFP資源の検索に使用されることを指定します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

その他の値（最大4回の繰り返し）

名前 AFP資源を検索するために使用するライブラリーの名前を指定してください。最高4個までのライブラリー名を指定することができます。

V3R7, V4R1,およびV4R2の場合には、USRRSCLIBLは印刷装置ファイルのUSRDFNDTAパラメーターで指定できます。PSF/400は、印刷装置記述に指定されるPSF構成オブジェクトにUSRRSCLIBL(*PRTF)が指定された場合にその値を使用します。印刷装置ファイルにUSRRSCLIBL(*DEV D)を指定することによって、既存の印刷装置ファイルおよびPSF構成オブジェクトでこのサポートの使用を続行することができます。USRRSCLIBLパラメーターに*DEV D以外の値を指定する場合には、USRDFNDTAパラメーターのユーザー資源ライブラリー値はすべて無視されます。

トップ

コーナー・ステープルとじ (CORNERSTPL)

コーナー・ステープルに使用する参照コーナーを指定します。ステープルは参照コーナー位置で媒体に打ち込まれます。どの参照コーナーがサポートされているかについては、印刷装置に関する文書を参照してください。ページ回転はコーナー・ステープルの配置には影響しません。

***NONE**

コーナー・ステープルは指定されません。

***DEV D**

参照コーナーは、装置によって使用される省略時の参照コーナーです。

***BOTRIGHT**

参照コーナーは、媒体の右下隅です。

***TOPRIGHT**

参照コーナーは、媒体の右上隅です。

***TOPLEFT**

参照コーナーは、媒体の左上隅です。

***BOTLEFT**

参照コーナーは、媒体の左下隅です。

トップ

平とじ (EDGESTITCH)

仕上げ操作軸に沿って1つまたは複数のステープルを媒体に入れる位置を指定します。このパラメーターのどの要素がサポートされているか、および各要素のどの値がサポートされているかについては、印刷装置の解説書を参照してください。要素に対する値の仕様が印刷装置によってサポートされない場合には、その要素に*DEVDの値を指定してください。ページ回転は平とじの配置には影響しません。

単一値

***NONE**

平とじは指定されません。

要素1: 基準線

平とじに使用する基準線を指定します。仕上げ操作軸に沿って媒体に1つまたは複数のステープルを入れることで平とじになります。

***DEVD**

基準線は、装置によって使用される省略時の基準線です。

***BOTTOM**

基準線は、媒体の下端です。

***RIGHT**

基準線は、媒体の右端です。

***TOP** 基準線は、媒体の上端です。

***LEFT** 基準線は、媒体の左端です。

要素2: 基準線オフセット

基準線から媒体の中央に向かう平とじのオフセットを指定します。

***DEVD**

基準線オフセットは、装置によって使用される省略時の基準線オフセットです。

0.0-57.79

基準線からの平とじのオフセットを指定してください。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。この値は印刷装置の場合はミリメートルに変換されます。小数点以下のミリメートルはサポートされていないので、ミリメートルへの変換が実行されるときに切り捨てられます。

要素3: ステープルの数

仕上げ操作軸に沿って適用されるステープルの数を指定します。

***DEVD**

ステープルの数は、このパラメーターのステープル・オフセット要素の値によって異なります。ステープル・オフセット要素の値でも*DEVDが指定されているか省略時値になっている場合には、ステープルの数は装置で使用されている省略時のステープルの数になります。「ステープル・オフセット」に1つまたは複数のオフセットを指定した場合には、ステープルの数は指定されたステープル・オフセットの数と同じになります。

1-122 平とじに使用するステープルの数を指定してください。ステープルの数を指定する場合には、ステープル・オフセットに*DEVDを指定しなければなりません。各ステープルのスペーシングには装置の省略時値が使用されます。

要素4: ステープル・オフセット

仕上げ操作軸に沿ったステープルのオフセットを指定します。オフセットは、仕上げ操作軸が媒体の下端か左端のいずれかと交差する点から媒体の中央に向かって測定されます。各連続値は、仕上げ操作軸上の指定された点を中心とした単一の仕上げ操作を位置決めするために使用されます。

単一値

*DEVD

ステープル・オフセットは、装置によって使用される省略時のステープル位置です。「ステープル数」要素に値が指定されていた場合には、各ステープルのステープル位置が印刷装置によって自動的に計算されます。

その他の値 (最大122回の繰り返し)

0.0-57.79

平とじでのステープルごとのステープル・オフセットを指定してください。最大122までのステープル・オフセットを指定することができます。1つまたは複数のステープル・オフセット値を指定する場合には、ステープル数に*DEVDを指定しなければなりません。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。この値は印刷装置の場合はミリメートルに変換されます。小数点以下のミリメートルはサポートされていないので、ミリメートルへの変換が実行されるときに切り捨てられます。

トップ

中とじ (SADLSTITCH)

基準線と並行して媒体の中央に位置する仕上げ操作軸に沿って、1つまたは複数のステープルを媒体に入れる位置を指定します。このパラメーターのどの要素がサポートされているか、および各要素のどの値がサポートされているかについては、印刷装置の解説書を参照してください。要素に対する値の仕様が印刷装置によってサポートされない場合には、その要素に*DEVDの値を指定してください。ページ回転は平とじの配置には影響しません。

単一値

*NONE

中とじは指定されません。

要素1: 基準線

中とじに使用する基準線を指定します。基準線と並行して媒体の中央に位置する仕上げ操作軸にそって、1つまたは複数のステープルを媒体に入れることで中とじになります。

*DEVD

基準線は、装置によって使用される省略時の基準線です。

***TOP** 基準線は、媒体の上端です。

***LEFT** 基準線は、媒体の左端です。

要素2: ステープルの数

仕上げ操作軸に沿って適用されるステープルの数を指定します。

***DEVD**

ステープルの数は、このパラメーターのステープル・オフセット要素の値によって異なります。ステープル・オフセット要素の値でも*DEVDが指定されているか省略時値になっている場合には、ステープルの数は装置で使用されている省略時のステープルの数になります。「ステープル・オフセット」に1つまたは複数のオフセットを指定した場合には、ステープルの数は指定されたステープル・オフセットの数と同じになります。

1-122 中とじに使用されるステープルの数を指定してください。ステープルの数を指定する場合には、ステープル・オフセットに*DEVDを指定しなければなりません。各ステープルのスペーシングには装置の省略時値が使用されます。

要素3: ステープル・オフセット

仕上げ操作軸に沿ったステープルのオフセットを指定します。オフセットは、仕上げ操作軸が媒体の下端か左端のいずれかと交差する点から媒体の中央に向かって測定されます。各連続値は、仕上げ操作軸上の指定された点を中心とした単一の仕上げ操作を位置決めするために使用されます。

単一値

***DEVD**

ステープル・オフセットは、装置によって使用される省略時のステープル位置です。「ステープル数」要素に値が指定されていた場合には、各ステープルのステープル位置が印刷装置によって自動的に計算されます。

その他の値（最大122回の繰り返し）

0.0-57.79

中とじの各ステープルにステープル・オフセットを指定してください。最大122までのステープル・オフセットを指定することができます。1つまたは複数のステープル・オフセット値を指定する場合には、ステープル数に*DEVDを指定しなければなりません。UOM(*CM)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から57.79で、UOM(*INCH)が指定されている場合に有効な値の範囲は0から22.75です。この値は印刷装置の場合はミリメートルに変換されます。小数点以下のミリメートルはサポートされていないので、ミリメートルへの変換が実行されるときに切り捨てられます。

トップ

形式設定用フォント解像度 (RNTRSL)

複数の解像度を報告するために構成された複数解像度印刷装置に印刷しているが、スプール・ファイルでフォント・メトリックが指定されないか、あるいはスプール・ファイルに含まれている解像度ではフォントを使用することができない場合にPSF/400が使用する解像度を指定します。

フォント資源用のライブラリー・リストの検索に使用されるアルゴリズムに関する詳細については、印刷装置プログラミングの「PSF構成オブジェクトの処理」という章の「ユーザーおよび装置資源ライブラリー・リスト」の項を参照してください。

***DEVD**

装置のPSF構成オブジェクトのFNTRSLパラメーターに指定された値が使用されます。PSF構成オブジェクトが装置に指定されていない場合には、*SEARCHの値が使用されます。

***SEARCH**

ライブラリー・リストから、名前が一致するホスト・フォントの最初のオカレンスを検索すること

を指定します。そのフォントの解像度がスプール・ファイルの印刷のために使用されます。選択されたフォントの解像度を指定するためにメッセージPQT3546が送られます。

240 フォント解像度はインチ当たり240ペルです。

300 フォント解像度はインチ当たり300ペルです。

[トップ](#)

書き出し据え置き (DFRWRT)

出力を印刷装置に送る前にシステム・バッファに保持するかどうかを指定します。

***YES** システムは、印刷装置に送る前にバッファに保持する出力の大きさを制御します。

***NO** このパラメーターに*NOが指定され、**データのスプール (SPOOL)**パラメーターに*NOが指定されている場合には、出力はバッファに保持されません。その代わりに、プログラムが書き出し操作を実行すると、ただちに出力が印刷装置に送られます。

このパラメーターに*NOが指定され、SPOOLパラメーターに*YESが指定されている場合、および**スプール出力のスケジュール (SCHEDULE)**パラメーターに*IMMEDが指定されている場合には、出力のページが使用可能になるか、あるいはシステム・バッファがいっぱいになるまで、出力はバッファに保持されます。

SCHEDULEパラメーターに*IMMEDが指定されていない場合には、このパラメーターに*NOを指定しても影響はありません。

[トップ](#)

データのスプール (SPOOL)

印刷装置ファイルの出力データをスプールするかどうかを指定します。*NOが指定されている場合には、スプーリングに関連のあるこのコマンドの他のパラメーターは無視されます。

***YES** データはスプールされます。

***NO** データはスプールされません。出力が使用可能になると印刷装置に送られて印刷されます。

[トップ](#)

スプール出力待ち行列 (OUTQ)

スプール出力ファイルの場合にだけ、印刷装置ファイルの出力待ち行列の名前を指定します。

単一値

***JOB** ジョブ記述に指定されている出力待ち行列が使用されます。

***DEV** DEVパラメーターに指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。出力待ち行列は印刷装置と同じ名前をもちます。

修飾子1: スプール出力待ち行列

名前 出力データがスプールされる出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

220 iSeries: OS/400 コマンド CRTMODD (モード記述作成) ~

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

出力待ち行列を見つけるために現行ジョブ・ライブラリー・リストが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

用紙タイプ (FORMTYPE)

出力を印刷する用紙のタイプを指定します。用紙のタイプを指示するために使用される識別コードはユーザ一定義のもので、最大10桁の長さとすることができます。

***STD** コンピューター・システムの標準印刷装置用紙が使用されます。

文字値 印刷出力のためにこの印刷装置ファイルで使用される用紙タイプの識別コードを指定してください。

[トップ](#)

コピー枚数 (COPIES)

スプール出力専用の場合には、印刷中の出力のコピー数を指定します。

1 出力は1部だけ印刷されます。

1-255 印刷するコピー枚数を指定してください。

[トップ](#)

印刷ページ範囲 (PAGERANGE)

スプール出力ファイルの場合にだけ、印刷する開始ページおよび終了ページを指定します。

要素1: 開始ページ

1 印刷はページ1から開始されます。

***ENDPAGE**

終了ページの値を開始ページとして使用してください。

整数 開始ページ番号を指定してください。

要素2: 終了ページ

***END** 印刷は、スプール・ファイルの終わりまで続行されます。

整数 終了ページ番号を指定してください。

[トップ](#)

スプール出力レコードの最大数 (MAXRCDS)

スプール出力の場合だけ、この印刷装置ファイルを使用してジョブのスプール・ファイルに入れることができるレコードの最大数を指定します。この最大数に達した場合には、照会メッセージがプログラム・メッセージ待ち行列に送られます。

100000

この印刷装置ファイルを使用する各ジョブのスプール出力ファイルには、最大100000のレコードを入れることができます。

***NOMAX**

スプール・ファイルに入れることができるレコードの最大数に制限はありません。

1-999999

許容されるレコードの最大数を指定してください。

[トップ](#)

ファイル区切り (FILESEP)

スプール出力ファイルの場合にだけ、各印刷ファイルの始めに置かれる分離ページの数（同じ出力の複数のコピーの間に置かれるものを含む）を指定します。

0 分離ページを使用しません。

0-9 印刷ファイルの間に入れる分離ページの数指定してください。0を指定した場合には、このファイルに分離ページは印刷されません。この場合には、各ファイルの印刷出力（またはファイルのコピー）は、新しいページの最上部から始まります。

[トップ](#)

スプール出力のスケジュール (SCHEDULE)

スプール出力ファイルの場合にだけ、スプール出力ファイルがいつ書き出しプログラムで使用可能となるかを指定します。

***FILEEND**

スプール出力ファイルは、ファイルがクローズされると同時に書き出しプログラムで使用可能となります。

***JOBEND**

スプール出力ファイルは、ジョブが完了した後で書き出しプログラムで使用可能となります。

***IMMED**

ファイルがプログラムでオープンされると同時に、スプール出力ファイルが書き出し機能に対して使用可能となります。

[トップ](#)

スプール・ファイルの保留 (HOLD)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルが保留されるかどうかを指定します。スプール・ファイルの解放は、スプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドによって行なうことができます。

***NO** スプール出力ファイルは出力待ち行列に保持されません。

***YES** スプール出力ファイルは、スプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドによって解放されるまで保持されます。

トップ

スプール・ファイルの保管 (SAVE)

スプール出力ファイルの場合にだけ、出力が作成された後でスプール・ファイルを保管するかどうかを指定します。

***NO** スプール・ファイル・データは出力待ち行列に保管されません。

***YES** スプール・ファイル・データは、スプール・ファイルが削除されるまで出力待ち行列に保管されません。

トップ

出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)

このジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

***JOB** スプール・ファイルを作成したジョブと対応した出力優先順位が使用されます。

1-9 1（最高値）から9（最低値）までの数字を指定してください。

トップ

ユーザー・データ (USRDTA)

スプール・ファイルの場合にかぎり、ファイルを識別する特定のユーザー指定データを指定します。

***SOURCE**

スプール・ファイルが適用業務プログラムによって作成されたものである場合には、そのプログラムの名前が使用されます。そうでない場合には、ブランクが使用されます。

文字値 10桁を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定します。

トップ

スプール・ファイル所有者 (SPLFOWN)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルの所有者を指定します。

***CURUSRPRF**

スプール・ファイルは、現行ジョブまたはスレッドの現在有効なユーザーによって所有されます。次のAPIのどれかを使用すると、SPLFOWNパラメーターがどのように影響されるかの詳細については、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

- QWTSETP -プロファイルの設定

- QSYSETUID() -ユーザーIDの設定
- QSYSETEUID() -有効ユーザーIDの設定
- QSYSETREUID() -実ユーザーIDおよび有効ユーザーIDの設定

***JOB** スプール・ファイルは、ジョブの元のユーザー・プロファイルによって所有されます。ジョブで新しいユーザー・プロファイルに切り替わっても、元のユーザー・プロファイルが依然としてスプール・ファイルの所有者です。

***CURGRPPRF**

スプール・ファイルは、現行ジョブまたはスレッドの現在有効なグループ・プロファイルによって所有されます。現在有効なグループ・プロファイルが存在しない場合には、スプール・ファイルの所有権は、*CURUSRPRFと同様に決定されます。次のAPIのどれかを使用すると、SPLFOWNパラメーターがどのように影響されるかの詳細については、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

- QWTSETP -プロファイルの設定
- QSYSETGID() -グループIDの設定
- QSYSETEGID() -有効グループIDの設定
- QSYSETREGID() -実グループIDおよび有効グループIDの設定

***JOBGRPPRF**

スプール・ファイルは、ジョブの元のユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルによって所有されます。ジョブで新しいユーザー・プロファイルに切り替わっても、元のユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルが依然としてスプール・ファイルの所有者です。グループ・プロファイルが存在しない場合には、スプール・ファイルの所有権は*JOBと同様に決定されます。

トップ

ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルを処理するユーザー適用業務またはユーザー指定プログラムによって使用される1つまたは複数のユーザー定義オプションを指定します。最大4つのユーザー定義オプションを指定することができます。

単一値

***NONE**

ユーザー定義オプションは指定されません。

その他の値 (最大4回の繰り返し)

文字値 スプール・ファイルを処理する、ユーザー適用業務またはユーザー指定のプログラムで使用されるユーザー定義のオプションを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

トップ

ユーザー定義データ (USRDFNDTA)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイルを処理するユーザー適用業務またはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義データを指定します。

***NONE**

ユーザー定義データは指定されません。

文字値 スプール・ファイルを処理するユーザー適用業務またはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義データを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

トップ

ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)

単一値

***NONE**

ユーザー定義オブジェクトは指定されません。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

名前 ユーザー適用業務で使用するユーザー定義オブジェクトまたはスプール・ファイルを処理するユーザー指定のプログラムを指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプ

ユーザー・オブジェクト・タイプは次のいずれかとすることができます。

***DTAARA**

データ域

***DTAQ**

データ待ち行列

***FILE** ファイル

***PSFCFG**

PSF構成オブジェクト

***USRIDX**

ユーザー索引

***USRQ**

ユーザー待ち行列

***USRSPC**

ユーザー空間

[トップ](#)

DBCSの回転 (IGCCHRRTT)

印刷時に印刷装置が2バイト文字セット(DBCS)文字を左回りに90度回転させるかどうかを指定します。システムは、回転されたDBCS文字を縦書きになるように印刷します。英数字は回転しません。

***NO** システムは、印刷時にDBCS文字を回転しません。

***YES** システムは印刷時にDBCS文字を90度左回りに回転します。印刷装置は各文字を個別に回転させます。

[トップ](#)

インチ当たりのDBCS数 (IGCCPI)

インチ当たりの文字数(CPI)で2バイト文字セット(DBCS)文字の印刷文字密度を指定します。

注: このパラメーターは、英数字の印刷文字の密度を指定するものではありません。英数字は、CPIパラメーターに指定された値で印刷されます。

***CPI** DBCS文字の密度は、**1インチ当たりの文字数 (CPI)**パラメーターに指定された値に基づきます。システムは、英数字2桁分に2バイト文字を1字印刷します。

- CPI(10)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり5文字で印刷されます。
- CPI(12)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり6文字で印刷されます。
- CPI(13.3)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり6.7文字で印刷されます (IGCCPI(*CONDENSED)と同じ)。
- CPI(15)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり7.5文字で印刷されます。
- CPI(18)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり9文字で印刷されます。
- CPI(20)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり10文字で印刷されます。

5 DBCS文字密度は5文字/インチです。

6 DBCS文字密度は6文字/インチです。

10 DBCS文字密度は10文字/インチです。

***CONDENSED**

システムが3インチごとに20個のDBCS文字を印刷する、圧縮印刷が使用されます。この値は5553または5583印刷装置の場合にのみ有効です。

[トップ](#)

DBCSのSO/SIのスペース (IGCSOSI)

システムがどのようにシフト制御文字を印刷するかを指定します。

***YES** システムはシフト制御文字をブランクとして印刷します。

***NO** システムはシフト制御文字を印刷しません。シフト制御文字は印刷装置出力上で位置を占めません。

***RIGHT**

システムはシフト・イン文字を印刷する時には2つのブランクを印刷しますが、シフト・アウト文字は印刷しません。

[トップ](#)

DBCSコード化フォント (IGCCDEFNT)

2バイト文字セット(DBCS)の印刷にシステムが使用するコード化フォントを指定します。

単一値

***SYSVAL**

システム値QIGCCDEFNTに指定されたDBCSコード化フォントが使用されます。

要素1: DBCSコード化フォント

修飾子1: DBCSコード化フォント

名前 使用するDBCSコード化フォントの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

コード化フォント名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 コード化フォント名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: ポイント・サイズ

***NONE**

ポイント・サイズはシステムによって指定され、指定されたフォント文字セットによって決定されます。

0.1-999.9

ポイント・サイズを指定してください。

注: ポイント・サイズ・パラメーターが使用されるのは、アウトライン・フォントが指定されている場合だけで、その他の場合にはこれは無視されます。

[トップ](#)

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1-32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムによるファイルのオープン時に、印刷装置ファイルのレコード様式のレベル識別コードが検査されるかどうかを指定します。検査する場合には、プログラム中のレコード様式識別コードは装置ファイル中のものと一致していなければなりません。複数のファイルに同じレコード様式名が存在できるため、各レコード様式にはその作成時に内部システム識別コードが指定されます。

***YES** レコード様式のレベル識別コードが検査されます。レベル識別コードがすべて一致しない場合には、オープン・エラー・メッセージがオープン操作の要求元のプログラムに送られます。

***NO** レコード様式のレベル識別コードは検査されません。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUT パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE 権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

ファイルの置き換え (REPLACE)

保管またはデータベース・ファイル以外の既存のファイルを置き換えるかどうかを指定します。

注: ファイルに対する権限値はユーザーのユーザー・プロファイルによって決められます。既存のファイルが置き換えられる場合には、新しいファイルに対する権限値は置き換えられたファイルからコピーされます。

***YES** 新しい印刷装置ファイルが正常に作成された場合には、同じ名前およびライブラリーの既存のファイルが置き換えられます。

***NO** 同じ名前およびライブラリーの既存のファイルがある場合には、新しい印刷装置ファイルを作成することはできません。

トップ

CRTPRTFの例

例1: 印刷装置ファイルの作成

```
CRTPRTF FILE(DSPHIST) SRCFILE(PRSNNL/JOBHIST) FILESEP(3)
```

このコマンドは、PRSNLライブラリーに保管されているJOBHISTという名前のDDSソース・ファイルを使用して、DSPHIST という名前の印刷装置ファイルを作成します。FILESEPを除く他のパラメーターは省略時値が使用されます。

この印刷装置は、66行の長さで印刷幅が132桁の標準用紙を使用します。SCSデータ・ストリームが使用されます。1インチ当たり6行を印刷して、60行を印刷した後で新しいページにオーバーフローします。印刷イメージは、装置記述で指定されたものが使用されます。出力はジョブに対して指定された出力待ち行列にスプールされ、ファイルがクローズされるまで印刷できません。印刷後にスプール・ファイルは保持または保管されません。出力の1コピーが印刷され、その前にそれぞれファイル名、スプール番号、およびジョブ名と番号が入っている分離ページが印刷されます。印刷テキストは現行ジョブで指定されたものが使用されません。

例2: DBCSデータが入っている印刷装置ファイルの作成

```
CRTPRTF FILE(IGCLIB/IGCPRT) IGCSTA(*YES)
        FORMFEED(*AUTOCUT) IGCCHRRTT(*YES)
```

このコマンドは、DBCSデータが入っている印刷装置ファイルIGCPRT（ライブラリーIGCLIBに保管されている）を作成します。カット・シートが自動的に給紙され、印刷時には2バイト文字が回転されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CRTPRTF

*ESCAPEメッセージ

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

PSF構成の作成 (CRTPSFCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PSF構成の作成 (CRTPSFCFG)コマンドは、このコマンドで指定した情報から印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを作成するために使用します。

PSF構成オブジェクトによって、装置記述作成 (印刷装置) CRTDEVPRTコマンドでサポートされていない装置解放タイマー設定などのAFP印刷装置用の追加パラメーターを指定することができます。PSF構成オブジェクトのオブジェクト・タイプは*PSFCFGです。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、PSF機能が必要です。
- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PSFCFG	PSF構成	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: PSF構成	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
USRRSCLIBL	ユーザー資源ライブラリー・リスト	*JOBLIBL, *CURLIB, *NONE	オプション
DEVRSCLIBL	装置資源ライブラリー・リスト	単一値: *DFT その他の値 (最大 30 回の繰り返し): 名前	オプション
IPDSPASTHR	IPDSパススルー	*NO, *YES	オプション
ACTRLSTMR	解放タイマーの活動化	*NORDYF, *IMMED, *PRTNORDYF, *PRTIMMED	オプション
RLSTMR	解放タイマー	1-1440, *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
RESTRTMR	再始動タイマー	1-1440, *IMMED	オプション
RETRY	APPCおよびTCP/IP再試行カウント	1-99, <u>15</u> , *NOMAX	オプション
RETRYDLY	APPC再試行間の遅延	0-999, <u>90</u>	オプション
ACKFRQ	肯定応答頻度	1-32767, <u>100</u>	オプション
PRTRSPTMR	印刷装置応答タイマー	5-3600, *NOMAX	オプション
PDFGEN	PDF出力の生成	単一値: *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *SPLF, *STMF, *MAIL	オプション
PDFDEVTYPE	PDF装置エミュレーションのタイプ	*IP40240, *IP40300, *P4028, *P3812	オプション
PDFPPRDWR1	PDF用紙サイズ用紙入れ1	*LETTER, *LEGAL, *STATEMENT, *EXECUTIVE, *LEDGER, *A5, *A4, *A3, *B5, *B4	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PDFPPRDWR2	PDF用紙サイズ用紙入れ2	<u>*LETTER</u> , *LEGAL, *STATEMENT, *EXECUTIVE, *LEDGER, *A5, *A4, *A3, *B5, *B4	オプション
PDFMULT	複数のPDFファイル	単一値: <u>*NO</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 複数のグループ確認	<u>*YES</u>	
	要素 2: 処理オプション	<u>*SPLIT</u> , *INDEX	
PDFINCFNT	PDFフォント・インライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
PDFDTAQ	PDFデータ待ち行列	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: PDFデータ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
PDFMAILSVR	PDFメール・サーバー名	単一値: <u>*SNDDST</u> その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値, *LOCAL	オプション
PDFSENDER	電子メールの送信側	名前, <u>*SPLFOWN</u> , QSPLJOB	オプション
PDFADMIN	PDF管理者	文字値, *NONE	オプション
PDFMAPPGM	PDFユーザー・プログラム	単一値: <u>*NONE</u> , *IBMPGM その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: PDFユーザー・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
PDFMAP	PDFマッピング・オブジェクト	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: PDFマッピング・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
PDFOUTQ	PDF出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: PDF出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
PDFDIR	PDFディレクトリー	文字値	オプション
AFPSAVE	AFPデータの保管	<u>*NO</u> , *YES	オプション
AFPOUTQ	AFP出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: AFP出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
AUTOSSNRCY	自動セッション回復	単一値: <u>*NO</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 使用可能	<u>*YES</u>	
	要素 2: メッセージ・オプション	<u>*INFO</u> , *INQ	
BLANKPAGE	ブランク・ページ	<u>*YES</u> , *NO	オプション
PAGSIZCTL	ページ・サイズの制御	<u>*NO</u> , *YES	オプション
RESFONT	常駐フォント	<u>*YES</u> , *NO	オプション
RSCRET	資源保持期間	<u>*YES</u> , *NO	オプション
EDGEORIENT	エッジの方向	*YES, <u>*NO</u>	オプション
USEOUTLFNT	アウトライン・フォントの使用	*YES, <u>*NO</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PSDFNOPT	PSF定義オプション	単一値: *NONE その他の値 (最大 6 回の繰り返し): 文字値, *NONE	オプション
FNTSUBMSG	フォント置き換えメッセージ	*YES , *NO	オプション
FNTCAPTURE	印刷装置でのホスト・フォント取込	*NO , *YES	オプション
FNTRSL	形式設定のフォント解像度	*SEARCH , 240, 300	オプション
FNTTBL	フォント・マッピング・テーブル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: フォント・マッピング・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
CSEMODE	単票用紙エミュレーション・モード	*NONE , *CHKFIRST, *CHKALL	オプション
MAPIGCFNT	DBCS シミュレーション・フォントの使用	*YES, *NO	オプション
REPLACE	置き換え	*YES , *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

トップ

PSF構成 (PSFCFG)

作成する印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: PSF構成

名前 作成するPSF構成オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

現行ライブラリー中にPSF構成オブジェクトを保管します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 PSF構成オブジェクトを保管したいライブラリーの名前を指定します。

トップ

ユーザー資源ライブラリー・リスト (USRRSCLIBL)

AFP資源の検索時に使用するユーザー資源ライブラリー・リストを指定します。スプール・ファイルで指定されたAFP資源を検索する時には、印刷サービス機能(PSF)は最初にユーザー資源ライブラリー・リスト内のライブラリーを検索してから装置資源ライブラリー・リスト内のライブラリーを検索します。

*PRTFは、USRRSCLIBLパラメーターの有効な値から取り除かれました。USRRSCLIBL(*PRTF)で作成され、他のリリースから移行されたPSF構成オブジェクトは、印刷装置ファイルの新しいUSRRSCLIBLパラメ

ーターに値*DEVDDが指定されているかぎり、前のリリースと同じように正常にサポートされます。この環境でCHGPSFCFG コマンドを実行すると、前のリリースで値*PRTFが表示されていた位置に値*SAMEが表示されることとなります。

***JOBLIBL**

AFP資源の検索時に、スプール・ファイルを作成したジョブのライブラリー・リストを使用します。ユーザーが新しいスプール・ファイルを作成するたびに、その時点のジョブのライブラリー・リストが保管されます。

***CURLIB**

AFP資源の検索時に、スプール・ファイルを作成したジョブの現行ライブラリーを使用します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***NONE**

AFP資源の検索にユーザー資源ライブラリー・リストは使用されません。装置資源ライブラリー・リストだけが使用されます。

[トップ](#)

装置資源ライブラリー・リスト (DEVRSCLIBL)

AFP資源の検索時に使用する装置資源ライブラリー・リストを指定します。スプール・ファイルで指定されたAFP資源を検索する時には、印刷サービス機能(PSF)は最初にユーザー資源ライブラリー・リスト内のライブラリーを検索してから装置資源ライブラリー・リスト内のライブラリーを検索します。

単一値

***DFT** AFP資源の検索時に、これらのライブラリーが存在する場合にはPSFはこれを検索します。

- QFNTCPL
- QFNT01 - QFNT19
- QFNT61 - QFNT69

注: 上記のリストのすべてのシステム・ライブラリーが作成されたわけではない場合には、欠落しているシステム・ライブラリーの名前を使用してライブラリーを作成することができます。このようなことが起こり、DEVRSCLIBLパラメーターに*DFTを指定している場合には、そのユーザー作成ライブラリーの中の資源が別のユーザーに誤って検出される可能性があります。これを避けるには、システム管理担当者は、欠落しているすべてのシステム・ライブラリーをPUBLIC *USE権限で作成しなければなりません。

その他の値

名前 PSFがAFP資源の検索に使用するライブラリーの名前を30個まで指定します。

[トップ](#)

IPDSパススルー (IPDSPASTHR)

装置に対してIPDSパススルーが行われるかどうかを指定します。IPDSパススルーは、不必要なデータ・ストリーム変換を除去し、スルーットを改良してCPU使用率を軽減することができるメカニズムです。全ページ・レベルのエラー回復がサポートされています。

IPDSパススルーは、印刷装置ファイル上の前方または後方オーバーレイなどのAFP処理機能を指定していないSCSおよびIPDSファイルで使用することができます。SCSデータは、総称IPDSに変換されます。装置構成または印刷装置ファイルにIPDSパススルーを指定することによって、IPDSパススルーに適切なスプール・ファイルだけについて、余分な変換を行わないようにすることができます。IPDSパススルーに適格でないスプール・ファイルは、AFPDSへの変換およびIPDSへの戻しの対象にまだなっています。

***NO** IPDSパススルーは行われません。

***YES** IPDSパススルーで適格なすべてのスプール・ファイルの装置に対してIPDSパススルーが実行されません。

すべての印刷サービス機能(PSF)サポート印刷装置では、IPDSパススルーは無効です。IPDSパススルーで使用できるのは、常駐フォントをサポートしている印刷装置だけです。印刷装置が常駐フォントをサポートしていない場合には、データ・ストリームのフォント参照は、印刷装置にダウンロードされるホスト・フォントにマップしなければなりません。これには、AFPDSへの変換およびIPDSへの逆変換が必要です。

次のIPDS印刷装置はIPDSパススルーをサポートすることができません。

- 3820, 3825, 3827, 3828, 3829, 3831, 3835, 3900-001
- 分散印刷機能(DPF)接続印刷装置。DPFは、INFOPRINT MANAGER FOR WINDOWS NTおよびWINDOWS 2000によってサポートされている、印刷装置常駐フォントの使用をブロックする機能です。

トップ

解放タイマーの活動化 (ACTRLSTMR)

解放タイマーが活動化される時点を指定します。解放タイマー (RLSTMR)に指定された値は、セッションを解放する前に、書き出しプログラムが印刷装置を「保持」することになる時間の長さを判別します。

*NORDYF

印刷装置の出力待ち行列に使用可能(RDY)なスプール・ファイルがなく、処理された最後のスプール・ファイルの最後のページが印刷されると、解放タイマーが活動化されます。解放タイマーが満了している場合には、印刷装置に対するセッションは解放されますが、書き出しプログラムは終了されません。そのセッションが解放されると、別の印刷サービス機能(PSF)がその印刷装置に対するセッションを開始することができます。

セッションを解放する前にすべての使用可能なスプール・ファイルを書き出しプログラムで印刷したい時に、この値を使用します。

*NORDYFがサポートされるのは、APPCまたはTCP/IPを使用してシステムに接続されている印刷装置および装置の場合だけです。APPC接続でこの値が使用されるのは、INFOPRINT MANAGER FOR AIXまたはINFOPRINT MANAGER FOR WINDOWS NTおよびWINDOWS 2000によって提供されるPSF直接サポートの場合だけです。TCP/IP接続では、この値は任意の印刷装置に使用することができます。この値は平衡型接続の印刷装置にはサポートされていません。

*IMMED

PSFが印刷装置に正常にリンクされた直後に、解放タイマーが活動化されることとなります。解放タイマーが満了している場合には、印刷装置に対するセッションは解放されますが、書き出しプログラムは終了されません。解放タイマーが満了した時にファイルを印刷していた場合には、書き出しプログラムは、スプール・ファイルのすべてのページが印刷された後でセッションを解放します。そのセッションが解放されると、別のPSFがその印刷装置に対するセッションを開始することができます。

書き出しプログラムで印刷装置を別の印刷装置書き出しプログラムと共用したい時には、この値を使用してください。

*IMMEDがサポートされるのは、APPCまたはTCP/IPを使用してシステムに接続されている印刷装置および装置の場合だけです。APPC接続でこの値が使用されるのは、INFOPRINT MANAGER FOR AIXまたはINFOPRINT MANAGER FOR WINDOWS NTおよびWINDOWS 2000によって提供されるPSF直接サポートの場合だけです。TCP/IP接続では、この値は任意の印刷装置に使用することができます。この値は平衡型接続の印刷装置にはサポートされていません。

*PRTNORDYF

この値は、IPDSデータ (IPDSダイアログ) の交換を制御できる印刷装置を使用している場合に指定することができます。印刷装置がこの機能をサポートしているかどうか判別するには、PRINTER INFORMATION(S544-5750)を参照してください。

この値は、以下のすべての条件と一致すると解放タイマーが活動化されることを指定します。

- 書き出しプログラムがIPDSダイアログを解放する指示を印刷装置から受信する。
- 使用可能なスプール・ファイルが印刷装置の出力待ち行列にない。
- 最後に処理されるスプール・ファイルの最後のページが印刷された時

解放タイマーが満了した場合には、書き出しプログラムは印刷装置とのIPDSダイアログを解放しません。セッションは解放されず、書き出しプログラムが使用中のポートは別のPSFに対して使用可能になりません。別の印刷装置ドライバーは、異なった印刷装置ポート上にある印刷装置とのダイアログを開始することができます。

印刷装置がIPDSダイアログを制御できないことを書き出しプログラムが検出した場合には、この値は無視され、PSFはRLSTMR(*NOMAX)が指定されているかのように作動します。

IPDSダイアログを解放する前にすべての使用可能なスプール・ファイルを書き出しプログラムで印刷したい時に、この値を使用します。

*PRTNORDYFは、平衡型、TCP/IP,またはAPPC接続でサポートされます。

*PRTIMMED

この値は、IPDSデータ (IPDSダイアログ) の交換を制御できる印刷装置を使用している場合に指定することができます。印刷装置がこの機能をサポートしているかどうか判別するには、PRINTER INFORMATION(S544-5750)を参照してください。

この値は、書き出しプログラムがIPDSダイアログを解放する指示を印刷装置から受信した直後に解放タイマーが活動化されることを指定します。解放タイマーが満了した場合には、書き出しプログラムは印刷装置とのIPDSダイアログを解放しますが、セッションは解放されません。書き出しプログラムが使用中のポートは別のPSFに対して使用可能になりませんが、別の印刷装置ドライバーは、異なった印刷装置ポート上にある印刷装置とのダイアログを開始することができます。解放タイマーが満了した時にファイルを印刷していた場合には、書き出しプログラムは、スプール・ファイルのすべてのページが印刷された後でダイアログを解放します。

別の印刷装置ポートで印刷装置ドライバーによって印刷装置が必要とされていることを指示された後に、書き出しプログラムがその印刷装置を制御する時間の長さを指定したい時には、この値を使用してください。

データのフローを停止するよう書き出しプログラムに印刷装置が知らせることができないことを書き出しプログラムが検出した場合には、この値は無視され、PSFはRLSTMR(*NOMAX)が指定されているかのように作動します。

*PRTIMMEDは、平衡型、TCP/IP,またはAPPC接続でサポートされます。

解放タイマー (RLSTMR)

解放タイマーが活動化されて、使用可能な最後のスプール・ファイルの最後のページが印刷された後で、印刷装置を解放する前に待機する時間の長さを指定します。印刷サービス機能(PSF)は終了されませんが、印刷装置との接続またはIPDSダイアログを解放します。解放タイマーの追加情報については、**解放タイマーの活動化 (ACTRLSTMR)**のパラメーター記述を参照してください。

スプール・ファイルが使用可能になると、PSFは印刷装置とセッションを確立しようとします。追加情報については、**再始動タイマー (RESTRTMR)**のパラメーター記述を参照してください。

***NOMAX**

印刷装置は、書き出しプログラム終了(ENDWTR)コマンドが実行されるまで解放されません。

***SEC15**

PSFは、印刷装置を解放する前に15秒間待機します。

***SEC30**

PSFは、印刷装置を解放する前に30秒間待機します。

1-1440

印刷装置またはIPDSダイアログを解放する前に、印刷装置書き出しプログラムが待機する分数を指定します。

トップ

再始動タイマー (RESTRTMR)

印刷装置書き出しプログラムがセッションまたはダイアログのいずれかを再確立しようとする前に、待機する時間を指定します。セッションまたはダイアログを再確立するかどうかを判別するには、印刷装置書き出しプログラムは次を考慮します。

- ACTRLSTMRに指定された値。
- 印刷装置がIPDSダイアログ管理をサポートするかどうか。
- リンクのタイプ：平衡型、APPC,またはTCP/IP。

ACTRLSTMR(*NORDYF)またはACTRLSTMR(*IMMED)を指定すると、印刷装置がAPPCまたはTCP/IPを使用して接続されている場合には、セッションが再開されます。

ACTRLSTMR(*PRTNORDYF)またはACTRLSTMR(*PRTIMMED)を指定すると、印刷装置がダイアログ管理をサポートしている場合には、ダイアログが再開されます。

セッションおよびダイアログ管理制御の追加情報については、**解放タイマーの活動化 (ACTRLSTMR)**のパラメーター記述を参照してください。

***IMMED**

印刷装置書き出しプログラムは、スプール・ファイルがRDYの状況になると同時に、セッションまたはダイアログを再確立しようとします。

1-1440

セッションまたはダイアログが解放されてスプール・ファイルがRDYの状態になった後で、接続を試みる前に印刷装置書き出しプログラムが待機する分数を指定します。

APPCおよびTCP/IP再試行カウント (RETRY)

印刷装置でセッションを確立しようとする時にセッション開始要求を再試行する回数を指定します。このパラメーターは、TCP/IPかAPPCのいずれかで構成された印刷装置および装置に適用されます。

15 セッションの確立に15回の再試行が試みられます。15回の再試行の後、印刷サービス機能(PSF)がまだセッションを確立できない場合には、印刷装置書き出しプログラムが終了します。

*NOMAX

再試行回数に制限はありません。セッションが確立されるか、またはENDWTR OPTION(*IMMED)を使用して印刷装置書き出しプログラムを終了するまで、PSFはセッション開始要求を出し続けます。

1-99 セッションを確立するための再試行回数を指定します。

APPC再試行間の遅延 (RETRYDLY)

セッション開始要求が正常に実行されなかったという通知を受け取った後に、印刷サービス機能(PSF)が待機する秒数を指定します。指定された時間が経過すると、別のセッション開始要求が出されます。PSFによって実行される再試行回数は、パラメーターRETRYによって制御されます。このパラメーターは、APPCで構成された印刷装置および装置に適用されます。

90 再試行間に90秒の遅延が使用されます。

0-999 セッション確立の再試行間に一時停止する秒数を指定します。

肯定応答頻度 (ACKFRQ)

印刷サービス機能(PSF)がIPDS肯定応答要求を印刷装置に送る頻度（ページ数）を指定します。印刷装置からの肯定応答要求の応答には、印刷装置に送られたページ状況についての情報が入っています。

スプール・ファイルに入っているページがACKFRQに指定されているより少ない場合には、スプール・ファイルの最後のページが送られた後で、肯定応答が要求されます。

AUTOSSNRCY(*YES)を指定する時に、この値の調整を考慮してください。印刷装置は印刷されたページの状況を戻すことができないので、印刷装置との接続が異常終了した時に、PSFがページを再印刷する場合があります。肯定応答を送る頻度を増すことによって、重大な接続が復元された時に再印刷されるページ数が減ります。しかし、肯定応答が1ページ当たり1回というように頻繁に要求されると、パフォーマンスが低下する場合があります。

肯定応答頻度は、平衡型、APPC、およびTCP/IPのすべての接続機構でサポートされています。

AUTOSSNRCYは、APPCおよびTCP/IP接続機構だけにサポートされていることに注意してください。

100 肯定応答要求を100ページおきに印刷装置に送ることを指定します。

1-32767

何ページごとにPSFが印刷装置に肯定応答要求を送るかを指定します。

[トップ](#)

印刷装置応答タイマー (PRTSPTMR)

TCP/IPに接続された印刷装置からの応答を待機する時間 (秒) を指定します。

*NOMAX

印刷装置書き出しプログラムは、印刷装置から1つの応答を受け取るまで待機します。書き出しプログラムがメッセージを受け取らなければ、それは終了されません。

5-3600

印刷装置書き出しプログラムが印刷装置からの応答を待機する時間 (秒) を指定します。書き出しプログラムは、印刷装置がこの指定された時間の範囲内に応答しなかった場合に終了されます。これが起こった場合には、書き出しプログラムが終了して、メッセージがメッセージ待ち行列へ送られます。

[トップ](#)

PDF出力の生成 (PDFGEN)

スプール・ファイルの処理時にIPDSからPDFへの変換を通じてPDF出力ファイルを生成するかどうかを指定します。生成したPDFファイルをスプールする、これをストリーム・ファイルとして保管する、これを電子メールとして送信する、あるいはこれらの任意の組み合わせを実行することができます。この機能をサポートするには、INFOPRINT SERVERを導入しなければなりません。

PDFを生成するには、印刷装置記述のリモート・ロケーション名が有効なループバック・アドレスであるかまたは有効なループバック・アドレスと関連した名前であることが必要です。有効なループバック・アドレスを表すIPアドレスは、その最初のオクテットとして127を持っていないければなりません。

単一値

*NONE

PDF出力ファイルは生成しません。

その他の値(3回までの反復)

***SPLF** 生成されたPDF出力ファイルをスプール・ファイル中に入れます。**PDF出力待ち行列 (PDFOUTQ)** パラメーターに指定した値は、使用される出力待ち行列を示します。

*STMF

生成されたPDF出力ファイルをストリーム・ファイル中に入れます。**PDFディレクトリー (PDFDIR)** パラメーターに指定した値は、使用される統合ファイル・システム(IFS)ディレクトリーを示します。

***MAIL** PDF出力ファイルを電子メールとして送信します。

[トップ](#)

PDF装置エミュレーションのタイプ (PDFDEVTYPE)

IPDSからPDFへの変換の仮想印刷装置がエミュレートする必要がある装置のタイプを指定します。

***IP40240**

240ピクセルの解像度で構成されたIP40印刷装置をエミュレートします。

***IP40300**

300ピクセルの解像度で構成されたIP40印刷装置をエミュレートします。

***4028** 4028印刷装置をエミュレートします。

***3812** 3812印刷装置をエミュレートします。

[トップ](#)

PDF用紙サイズ用紙入れ1 (PDFPPRDWR1)

IPDSからPDFへの変換と関連した装置の用紙入れ1の用紙のサイズを指定します。この情報は、生成したPDFページ・サイズを判別するのに使用されます。

***LETTER**

北米レターサイズの媒体(8.5 X 11インチ)

***LEGAL**

北米リーガル・サイズの媒体(8.5 X 14インチ)

***STATEMENT**

北米ステートメント・サイズの媒体(5.5 X 8.5インチ)

***EXECUTIVE**

北米エグゼクティブ・サイズの媒体(7.5 X 10.5インチ)

***LEDGER**

北米レジャー・サイズの媒体(11 X 17インチ)

***A5** ISO A5サイズの媒体(148.5 X 210 MM)

***A4** ISO A4サイズの媒体(210 X 297 MM)

***A3** ISO A3サイズの媒体(297 X 420 MM)

***B5** ISO B5サイズの媒体(176 X 250 MM)

***B4** ISO B4サイズの媒体(257 X 364 MM)

[トップ](#)

PDF用紙サイズ用紙入れ2 (PDFPPRDWR2)

IPDSからPDFへの変換と関連した装置の用紙入れ2の用紙のサイズを指定します。この情報は、生成したPDFページ・サイズを判別するのに使用されます。

***LETTER**

北米レターサイズの媒体(8.5 X 11インチ)

***LEGAL**

北米リーガル・サイズの媒体(8.5 X 14インチ)

***STATEMENT**

北米ステートメント・サイズの媒体(5.5 X 8.5インチ)

***EXECUTIVE**

北米エグゼクティブ・サイズの媒体(7.5 X 10.5インチ)

***LEDGER**

北米レジャー・サイズの媒体(11 X 17インチ)

***A5** ISO A5サイズの媒体(148.5 X 210 MM)

***A4** ISO A4サイズの媒体(210 X 297 MM)

***A3** ISO A3サイズの媒体(297 X 420 MM)

***B5** ISO B5サイズの媒体(176 X 250 MM)

***B4** ISO B4サイズの媒体(257 X 364 MM)

トップ

複数のPDFファイル (PDFMULT)

入力データ内で複数グループを見つけた時に、IPDSからPDFへの変換処置が取られることを指定します。

単一値

***NO** グループ境界を無視して、単一出力ファイルを作成します。

要素1: 複数のグループ確認

***YES** このパラメーターの要素2に指定された値に基づいて、IPDSからPDFへの変換を使用して複数グループを処理します。

要素2: 処理オプション***SPLIT**

複数のPDF出力ファイルが生成されます。ファイルは、グループ境界で分割されることとなります。

***INDEX**

索引タグまたはブックマークが、単一出力ファイルのグループ境界に置かれます。

*INDEXが要求された場合には、以下に従ってブックマークがラベル付けされます。

- DDS STRPAGGRPキーワードでのグループ名、または
- CRTAFPDTAによって生成された索引項目、または
- ツールボックスによって挿入されたBNGタグ

グループ名中の文字が標準PDFエンコードで使用できない場合には、これらはスペースで表示されます。

トップ

PDFフォント・インライン (PDFINCFNT)

IPDSからPDFへの変換によって生成されるPDF出力が必要なフォント・インラインを含むかどうかを指定します。フォント・インラインの組み込みではフォント精度が保証されますが、PDFファイル・サイズは増加します。

フォントを組み込まないよう選択した場合には、IPDSタイプ1フォント名文字ストリングは、PDFフォント制御に移動されます。文書が表示される時、ACROBAT READERがIBMのコア・フォント名を、同等のADOBEまたはクライアント環境のコア・フォントのセットにマップします。ADOBE ACROBATに同等のものがないフォント名文字ストリングの場合、ADOBE ACROBATは、ADOBE MULTI-MASTER フォント置換プログラムを使用して、「最適」となる使用可能なフォントを選択します。

***YES** PDF出力でインラインにフォントが含まれます。

***NO** PDF出力でインラインにフォントが含まれません。

[トップ](#)

PDFデータ待ち行列 (PDFDTAQ)

印刷サービス機能(PSF)がIPDSからPDFへの変換の完了通知をログに記録するデータ待ち行列の名前を指定します。

このパラメーターは任意選択ですが、データ待ち行列を指定する場合には、このコマンドを実行する時にデータ待ち行列が存在していなければなりません。

単一値

***NONE**

IPDSからPDFへの変換の完了通知は、どのデータ待ち行列でもログに記録されません。

修飾子1: PDFデータ待ち行列

名前 使用するデータ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 データ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

PDFメール・サーバー名 (PDFMAILSVR)

IPDSからPDFへの変換からの結果PDFファイルを電子メールとして送信するために使用するメール・サーバーを指定します。このパラメーターが有効なのは、PDFGEN(*MAIL)が指定されている場合のみです。

単一値

***SNDDST**

配布の送信(SNDDST)コマンドを使用して、PDF出力を電子メールとして送信します。

その他の値(4回までの反復)

*LOCAL

メール・サーバーとしてローカル・マシンを使用します。SMTPプロトコルが電子メールの送信に使用されます。メール・サーバーのリストの任意の位置に*LOCALを指定することができます。

文字値 PDF出力を電子メールとして送信するために使用するメール・サーバーのドメイン名またはIPアドレスを指定します。

メール・サーバーを4つまで指定することができます。書き込み機能は、リストされた順序でメール・サーバーを使用します。書き込み機能で、最初のメール・サーバーが使用できないことがわかった場合には、リストに指定された追加サーバーを使用しようとします。印刷サービス機能(PSF)は、サーバーのリストを内部で再編成し、作動していた最後のサーバーの使用を常に最初に試行することを確実にします。

使用可能なサーバーがリストにない場合には、実行される処置は、印刷装置記述のPRTERMSGパラメーターに指定された値によって決定されます。PRTERMSG(*INFO)が指定されている場合には、書き込み機能は終了されます。PRTERMSG(*INQ)が指定されている場合には、照会メッセージが出されます。

[トップ](#)

電子メールの送信側 (PDFSENDER)

電子メールで送信されるPDFファイルの送信側として使用する名前を指定します。

*SPLFOWN

印刷サービス機能(PSF)は、電子メールの送信側を取得するのにスプール・ファイルの所有者のユーザー・プロファイルを使用します。

QSPLJOB

電子メールはPSFから送信されています。

名前 有効なユーザー・プロファイルを指定します。PSFは、このユーザー・プロファイルを使用して電子メールの送信側を取得します。

PSFがユーザー・プロファイルを使用して電子メールの送信側を判別する時には、このユーザー・プロファイルがシステムに存在し、またユーザー識別コードを指定したシステム配布ディレクトリー中に項目がなければなりません。SMTPメール・サーバーを使用してメールを送信しようとしている場合には、ディレクトリー項目にSMTPユーザー識別コードもなければなりません。プロファイルにSMTPユーザー識別コードがある場合には、SNDDSTを使用してメールを送信する場合でも、そのユーザー識別コードが送信側として使用されます。そうではなく、SNDDSTを使用してメールを送信し、SMTPユーザー識別コードがない場合には、プロファイルのユーザー識別コードが使用されます。

たとえば、ユーザー・プロファイルMY_PROFILEがJIMのユーザー識別コードをもち、JIMJのSMTPユーザー識別コードをもつ場合には、使用されるメール・サーバーにかかわらず電子メールの送信側はJIMJとなります。ユーザー・プロファイルがSMTPユーザー識別コードをもたず、SNDDSTを使用してメールを送信する場合には、電子メールの送信側はJIMとなります。

[トップ](#)

PDF管理者 (PDFADMIN)

指定したPDF管理者の電子メール・アドレスを指定します。ファイルを指定した宛先に配信できない時に、この管理者に通知されます。システムの別のコンポーネントに配信の制御が渡された後にエラーが起こることがあるので、すべての障害が回復可能なわけではありません。たとえば、PDF管理者は配信不能な電子メールが通知されません。

*NONE

PDF管理者は指定されません。電子メールの通知がPDF管理者に送信されることになっていた場合には、通知は送信されないことになります。

'文字値'

アポストロフィに囲まれた有効な電子メール・アドレスを構成するテキストを80文字以下で指定します。

[トップ](#)

PDFユーザー・プログラム (PDFMAPPGM)

暗号化の指定など、PDF変換をカスタマイズするため、あるいはPDFが電子メールとして送信され、スプール・ファイル中で1つまたは複数のメール・タグを解決している時に印刷サービス機能(PSF)が呼び出すマッピング・プログラムの名前を指定します。マッピング・プログラムが指定されない場合には、PSFはメール・タグを有効な電子メール・アドレスと見なして、そのメール・タグの情報を使用してファイルを送信しようとしています。

指定されたマッピング・プログラムが存在しない場合には、PSF構成オブジェクトは作成されません。スプール・ファイルを処理する前にマッピング・プログラムが削除された場合には、PDF出力ファイルは削除され、印刷装置書き出しプログラムと関連したメッセージ待ち行列にエラー・メッセージが出されて、元のスプール・ファイルは保留されます。

単一値

*NONE

PDF変換をカスタマイズするのに、マッピング・プログラムは使用されません。

*IBMPGM

PDF変換をカスタマイズするのに、IBM提供の省略時マッピング・プログラムが使用されます。

*IBMPGMの値が指定されている場合には、PDFMAPパラメーターの値も指定しなければなりません。

修飾子1: PDFユーザー・プログラム

名前 使用するユーザー・マッピング・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 ユーザー・マッピング・プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

PDFマッピング・オブジェクト (PDFMAP)

印刷サービス機能(PSF)がPDFマッピング・プログラムに渡すマッピング・オブジェクトの名前を指定します。マッピング・オブジェクトを指定しない場合には、PSFはマッピング・プログラムにこれが必要ないと見なします。PDFMAPPGMパラメーターにマッピング・プログラムとして*IBMPGMを指定する場合には、マッピング・オブジェクトが必要です。またマッピング・オブジェクトを指定した場合には、PDFMAPPGMパラメーターに*IBMPGMを指定しなければなりません。

指定されたマッピング・オブジェクトが存在しない場合には、PSF構成オブジェクトは作成されません。スプール・ファイルを処理する前にマッピング・オブジェクトが削除された場合には、PDF出力ファイルは削除され、印刷装置書き出しプログラムと関連したメッセージ待ち行列にエラー・メッセージが出されて、元のスプール・ファイルは保留されます。

単一値

*NONE

マッピング・オブジェクトは、ファイル宛先を解決するのに指定されたマッピング・プログラムに渡されません。

修飾子1: PDFマッピング・オブジェクト

名前 ユーザー・マッピング・オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 ユーザー・マッピング・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

PDF出力待ち行列 (PDFOUTQ)

PDF出力の生成 (PDFGEN)パラメーターに*SPLFが指定されている時に使用する出力待ち行列を指定します。*SPLFがPDFGENパラメーターに指定されている時には、このパラメーターに値が必要となります。

修飾子1: PDF出力待ち行列

名前 使用する出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

PDFディレクトリー (PDFDIR)

PDFファイルを保管する必要があるパスを指定します。PDFGENパラメーターに*STMFが指定された場合には、統合ファイル・システム・ディレクトリーを指定する必要があります。この名前は/で始まっていないければなりません。このパス内のディレクトリー名には、次の文字を含めることはできません。\$ (半角)、< > " ? : * |

変換によって作成されたサブディレクトリーおよびファイルは、オリジナルのスプール・ファイルの所有者によって所有され、*EXCLUDEの共通権限を持つことになります。

このファイルを後で電子メールにしたい場合には、PDFディレクトリーに**QDLS/ディレクトリー名**を指定します。これにより、ユーザー・ファイルは次の位置に保管されることになります。

/QDLS/ディレクトリー名/ジョブ名/ジョブ番号/ジョブ・ユーザー名/ファイル番号/日付/順序番号/

ルート・ファイル・システム内の記憶域の場合には、そのファイルを保管する必要があるサブディレクトリー（ディレクトリー名）を指定するだけです。これにより、ユーザー・ファイルは次の位置に保管されることになります。

/ディレクトリー名/ジョブ名/ジョブ番号/ジョブ・ユーザー名/ジョブ番号_ファイル番号_日付_順序番号/

注: 最後のサブディレクトリーは、固有ファイル名を保証する多数の値の連結です。

ファイル名の構成要素は次のように説明されます。

- **ジョブ名**元のスプール・ファイルの10文字のジョブ名
- **ジョブ番号**元のスプール・ファイルに割り当てられたジョブ番号（ジョブ名の最後の2文字が接頭部に付く）
- **ジョブ・ユーザー名**元のスプール・ファイル所有者の10文字の名前
- **ファイル番号**元のスプール・ファイルのファイル番号（ジョブ・ユーザー名の最後の2文字が接頭部に付く）
- **日付** PDFへの変換が完了した時点の4桁の年が付加された2桁の月と2桁の日
- **順序番号** 6文字の順序番号。PDFMULTが*NOの場合には、これが000001に設定されます。PDFMULTが*YESの場合には、そのジョブ用に生成された各PDFファイルの固有の識別のために順序番号が増分されます。

'文字値'

使用する統合ファイル・システム(IFS)ディレクトリーの名前を指定します。

トップ

AFPデータの保管 (AFPSAVE)

印刷サービス機能(PSF)プロダクトが処理の完了時の出力待ち行列で、生成したAFPDSファイルを保存する機能を活動化するかどうかを指定します。このパラメーターは、PSFがSCS, AFPDS, IPDS, ポストスクリプト, PCL, またはPDF入力データ・ストリームからAFPDSファイルを生成し、出力待ち行列にAFPDSを置くことを指定します。この出力待ち行列は、セグメント印刷要求の場合にはユーザー出口プログラムによって、あるいはPSF構成オブジェクト中のAFPOUTQパラメーターに提供された値によって決定されます。AFPSAVEが*YESに設定されている場合には、AFPOUTQパラメーターが必要です。

この設定は、回線の入力データ・ストリームおよび混合モード・データで、IPDSパススルーが活動状態の時に無視されます。ポストスクリプト, PCL, およびPDF入力データ・ストリームをサポートするには、INFOPRINT SERVERを導入しなければなりません。

注: PDFマッピング・プログラムを使用してセグメント印刷要求を処理していない場合には、この機能を実行する印刷要求の投入時にUSRDFNDTAパラメーターにAFPRESPOOL引き数の値も指定しなければなりません。USRDFNDTAパラメーターの使用の詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

***NO** 処理が完了した後、ファイルは保管されません。

***YES** 処理が完了した後、生成したAFPDSファイルが保管されます。AFPDSファイルが保管される場合、入力データ・ストリームはAFPDSデータの保管をサポートしていなければならず、また以下の条件の1つと一致しなければなりません。

- 印刷要求がセグメントされていて、セグメントが再スプールされるようPDFマッピング・プログラムが要求している。
- 印刷要求がセグメントされておらず、印刷要求でUSRDFNDDTAパラメーター中にAFPRESPOOL引き数が指定してある。

トップ

AFP出力待ち行列 (AFPOUTQ)

AFPデータの保管 (AFPSAVE)パラメーターに*YESが指定されている時に使用する出力待ち行列を指定します。*YESがAFPSAVEパラメーターに指定されている時には、このパラメーターに値が必要となります。PDFマッピング・プログラムを使用したセグメント印刷要求で、この値を指定変更することができます。

修飾子1: PDF出力待ち行列

名前 使用する出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを簡単に記述するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'テキスト記述'

50桁を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定します。

トップ

自動セッション回復 (AUTOSSNRCY)

セッションが予期せずに装置によって終了された時に、印刷サービス機能(PSF)が自動的に印刷を再開するかどうかを指定します。このパラメーターは、APPCまたはTCP/IP接続の印刷装置記述で構成される装置に適用されます。

単一値

***NO** セッションが予期せずに装置によって終了された時に、PSFを終了することを指定します。

要素1: 使用可能

***YES** 予期せずに装置によって終了されたセッションの再確立を、PSFが試みることを指定します。

APPC接続を指定する印刷装置記述を使用している場合には、次に注意してください。

- PSFがセッションを再確立しようとする時には、PSF構成オブジェクト・パラメーターRETRYおよびRETRYDLYが使用されます。
- APPN(*YES)を指定するAPPC制御装置記述およびAPPC装置記述を使用しなければなりません。さらに、APPC制御装置記述には、MINSWTSTS(*VRYONPND)が指定されていなければなりません。

TCP/IP接続を指定する印刷装置記述を使用している場合には、PSFがセッションを再確立しようとしている時に、PSF構成オブジェクト・パラメーターRETRYが使用されます。

TCP/IP接続を指定する印刷装置記述を使用している場合には、PSFがセッションを再確立しようとしている時に、PSF構成オブジェクト・パラメーターRETRYが使用されます。

ページの再印刷を避けるには、このパラメーターの2番目の要素に*INQを指定する、あるいは**肯定応答頻度 (ACKFRQ)**パラメーターに指定した値を減らしたい場合があります。

肯定応答頻度を減らす場合には、PSFは印刷したページをより詳細に追跡することができます。ただし、パフォーマンスがいくらか低下する可能性があります。これは、パフォーマンスのネットワークおよび知覚によって異なります。

照会メッセージ通知(*INQ)を選択した場合には、印刷が再開されるページが明確になります。

要素2: メッセージ・オプション

- *INFO** PSFが自動セッション回復を実行する時に、書き出しプログラムと関連したメッセージ待ち行列に通知メッセージが送られます。
- *INQ** PSFが自動セッション回復を実行する時に、書き出しプログラムと関連したメッセージ待ち行列に照会メッセージが送られます。このメッセージによって、書き出しプログラムが、処理されている最後のスプール・ファイルの印刷を開始するページ番号を指定することができます。

トップ

ブランク・ページ (BLANKPAGE)

印刷サービス機能(PSF)が、すべての分離ページおよび奇数ページを含むスプール・ファイル・コピーの後にブランク・ページを入れるかどうかを指定します。ブランク・ページによって、切り離しに適した方法で印刷装置出力を出力スタッカーに入れることができます。このパラメーターが適用されるのは、次の連続用紙の印刷装置に対してだけです。

- 3831
- 3835
- 3900-001
- すべてのAFCCU連続用紙印刷装置。

***YES** PSFは、すべての分離ページおよび奇数ページを含むスプール・ファイル・コピーの後にブランク・ページを入れます。

***NO** PSFは、すべての分離ページおよび奇数ページを含むスプール・ファイル・コピーの後にブランク・ページを入れません。

トップ

ページ・サイズの制御 (PAGSIZCTL)

印刷装置のページ・サイズ（用紙）を印刷サービス機能(PSF)によって設定するかどうかを指定します。このパラメーターは、媒体サイズ(SMS)操作をサポートするIPDS印刷装置にのみ適用されます。新規装置サポートについては、PRINTER INFORMATION(S544-5750)を参照してください。ただし、リストには以下が含まれています。

- インパクト印刷装置: 4224, 4230, 4234, 4247, 6400, 6408, 6412
- ワークグループ印刷装置: 3112, 3116, 3812, 3816, 3912, 3916, 3930, 4028, ネットワーク印刷装置 12/17/24, INFOPRINT 20/21/32/40/70/70+/2085/2105
- LEXMARK印刷装置: INFOPRINT 1120/1125/1130/1140/1145/1226, INFOPRINT COLOR 1220/1228 4224, 4230, 4234, 4247, 4028, 6404, 6408, 6412, およびIBMネットワーク印刷装置
- 熱転写印刷装置: 4400

***NO** 印刷装置のページ・サイズ（用紙）はPSFによって設定されません。

***YES** 印刷装置のページ・サイズ（用紙）はPSFによって設定されます。

[トップ](#)

常駐フォント (RESFONT)

印刷サービス機能(PSF)が常駐フォントをもつ印刷装置で常駐フォントをサポートするかどうかを指定します。常駐フォントをサポートしないとすることによって、PSFは常駐フォント参照をそれと等価のホスト・フォントにマップしてから、ホスト・フォントを印刷装置にダウンロードすることになります。

***YES** 印刷装置の常駐フォントがPSFによってサポートされます。

***NO** 印刷装置の常駐フォントがPSFによってサポートされません。PSFは、スプール・ファイルの常駐フォント参照を、それと等価のホスト・フォントにマップしてから、ホスト・フォントを印刷装置にダウンロードします。

[トップ](#)

資源保持期間 (RSCRET)

複数のスプール・ファイルに渡る資源保存が印刷サービス機能(PSF)によってサポートされるかどうかを指定します。

***YES** PSFは、印刷装置内のページ・セグメントとオーバーレイをスプール・ファイルの境界を超えて保管します。これは、同じ資源を参照する複数のスプール・ファイルを印刷する時には特に、データ転送を最小なものにします。

***NO** 印刷サービス機能(PSF)は、印刷装置内のページ・セグメントとオーバーレイをスプール・ファイルの境界を超えて保管しません。これは、各スプール・ファイルの後で削除されます。

注: ページ・セグメントおよびオーバーレイは、印刷装置書き出しプログラムが終了した時に印刷装置内で削除されます。

[トップ](#)

エッジの方向 (EDGEORIENT)

追加ページの回転が実行されるかどうかを指定します。スプール・ファイルのページ回転値が*CORまたは*AUTOであり、システムが出力を回転する場合には、通常90度の回転が使用されます。

***NO** 出力は元の方向のままとなります。

***YES** 90度の*CORおよび*AUTOの出力は、印刷の前にさらに180度回転されます。

[トップ](#)

アウトライン・フォントの使用 (USEOUTLFNT)

要求したダウンロード可能なAFPラスター・フォントを同等なダウンロード可能なアウトライン・フォントと置き換えるかどうかを指定します。

***NO** ラスター・フォントが使用されます。

***YES** 同等なダウンロード可能なアウトライン・フォントが存在する場合には、ラスター・フォントの代わりにそれが使用されます。

[トップ](#)

PSF定義オプション (PSFDFNOPT)

IBMによって定義された値を指定します。

***NONE**

印刷サービス機能(PSF)定義オプションは指定されません。

文字値 IBMによって定義された値を指定します。OS/400のそれぞれのリリースで1つまたは複数の値が使用可能となることがあります。値が使用可能になった場合には、PTF カバー・レターに必要な構文が入っています。

[トップ](#)

フォント置き換えメッセージ (FNTSUBMSG)

フォント置き換えが正常に実行されたことを示すメッセージを、印刷サービス機能(PSF)が出すかどうかを指定します。

***YES** フォント置き換えが正常に実行されたことを示すメッセージが出されます。

***NO** フォント置き換えが正常に実行されたことを示すメッセージは出されません。フォント置き換えが異常終了したことを示すメッセージは出されます。

[トップ](#)

印刷装置でのホスト・フォント取込 (FNTCAPTURE)

印刷装置がホスト・ダウンロード・フォントを取り込むかどうかを指定します。

***NO** 印刷装置はホスト・フォントを取り込みません。

***YES** フォント文字セットまたはコード・ページが、印刷装置にダウンロードした後で取り込みに適合されます。印刷装置がフォント取り込みをサポートしていない場合には、この情報は無視されてフォントがダウンロードされます。

トップ

形式設定のフォント解像度 (FNTRSL)

印刷サービス機能(PSF)が以下の条件で使用する解像度を指定します。

- 複数解像度の印刷装置に印刷しようとしている
- 印刷装置が複数解像度のサポートを報告するよう構成されている
- スプール・ファイルがスプール・ファイル印刷用のフォント・メトリックおよび解像度を指定していないか、あるいはその解像度のフォントが使用可能でない

印刷装置が240ペル／インチまたは300ペル／インチのいずれかだけのサポートを報告するように構成されている場合には、PSFは、単一解像度印刷装置で実行するのと同じ結果を作成します。

ライブラリー・リストでのフォント資源の検索に使用するアルゴリズムの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

*SEARCH

名前が一致する最初のホスト・フォントをライブラリー・リストで検索します。そのフォントの解像度を使用して、スプール・ファイルを印刷します。この値が選択された時には、最終的に選択されたフォントの解像度をユーザーに指示するためにメッセージPQT3546が出されます。

240 スプール・ファイルの印刷に使用するフォント解像度は240ペル／インチとなります。

300 スプール・ファイルの印刷に使用するフォント解像度は300ペル／インチとなります。

トップ

フォント・マッピング・テーブル (FNMTBL)

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント・マッピング・テーブルの名前を指定します。印刷サービス機能(PSF)は、印刷装置常駐フォントをサポートしている印刷装置に印刷しようとしているのに、スプール・ファイルがサポートしていない印刷装置常駐フォントを指定している時にこのフォント・マッピング・テーブルを使用します。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルの場合には、システムによって次の処理が実行されます。

- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントがその印刷装置によってサポートされている場合には、それが使用されます。印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルは検索されません。
- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルが検索されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つかり、その項目が印刷装置によってサポートされている場合には、印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで指定された置き換えフォントが使用されます。

- 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つからない場合、または指定された置き換えフォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、システムはその内部フォント置き換えテーブルを使用してフォント置き換えを実行します。

サポートされている印刷装置常駐フォントの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。ユーザー・フォント・テーブルの詳細については、CRTFNNTBL, DSPFNNTBL, ADDFNNTBLE, CHGFNNTBLE,およびRMVFNNTBLEコマンドを参照してください。

単一値

***NONE**

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント・テーブルは指定されません。印刷装置常駐フォントを参照する印刷ジョブでは、フォントが印刷装置によってサポートされていない場合にはシステムが別の常駐フォントを置き換えます。

修飾子1: フォント・マッピング・テーブル

名前 印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 フォント・テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

単票用紙エミュレーション・モード (CSEMODE)

単票用紙エミュレーションを使用する時に、印刷サービス機能(PSF)が文書のサイズ検査を行う程度を指定します。

***NONE**

文書ページが連続用紙物理ページの半面に収まることを確認するための検査は行われません。

***CHKFIRST**

ページが連続用紙ページの半面に収まるかどうかを判別するために、各コピー・グループの1ページ目が検査されます。

***CHKALL**

ページが連続用紙ページの半面に収まるかどうかを判別するために、表側ページを検査します。

[トップ](#)

DBCS シミュレーション・フォントの使用 (MAPIGCFNT)

スプール・ファイルの印刷時には、データ・ストリームに指定されたDBCSラスター・フォントではなく、DBCSシミュレーション・フォントを使用することを指定します。

DBCSシミュレーション・フォントは、ラスター・フォントと同様に位置決めされるアウトライン・フォントです。これにより、適用業務または印刷出力の外観が変更されることなしに、DBCSラスター・フォントを使用する適用業務の印刷にアウトライン・フォントを使用することができます。アウトライン・フォントはスケラブルであるため、各ポイント・サイズごとにフォント文字セットをシステムで保管したり、あるいはポイント・サイズの変更のたびに別のフォントを印刷装置にダウンロードする必要はありません。これによってシステムの記憶スペースが増加し、印刷のパフォーマンスが向上します。

***NO** DBCSシミュレーション・フォントをDBCSラスター・フォントの代替にしません。

***YES** DBCSシミュレーション・フォントをDBCSラスター・フォントの代替にします。

トップ

置き換え (REPLACE)

作成中のものと同じ名前の既存の印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のPSF構成オブジェクトが置き換えられます。

***NO** 同じ名前のPSF構成オブジェクトが指定されたライブラリー内に存在している場合には、作成操作は正常に実行されません。既存のPSF構成オブジェクトは置き換えられません。

トップ

権限 (AUT)

オブジェクトに対して特定権限をもたないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのグループ・プロファイルがオブジェクトに対して特定権限をもたないユーザーに与える権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーのライブラリー作成(CRTLIB)コマンドの**権限作成(CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、そのオブジェクトの権限を判別します。ライブラリー変更(CHGLIB)コマンドの実行によって、ライブラリーのCRTAUT値が変更された場合には、新規のCRTAUT値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***CHANGE**

変更権限によって、ユーザーはオブジェクトに対して基本的な機能を変更し実行することができます。変更権限は、オブジェクト処理権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される操作を除いて、すべての操作を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトの存在を制御、オブジェクトの機密保護を指定、オブジェクトを変更、オブジェクトに対して基本的な機能を実行、またオブジェクトの所有権を変更することができます。

***USE** 使用権限は、オブジェクト処理権、読み取り権、および実行権を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはオブジェクトをアクセスすることはできません。

名前 オブジェクトに対する権限について使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれるユーザーは、そのリストに指定されたオブジェクトに対して権限が認可されます。オブジェクトの作成時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTPSFCFG PSFCFG(QGPL/P5001) PDFGEN(*MAIL)
           PDFDEVTYPE(*4028) PDFPPRDWR1(*LETTER)
           PDFPPRDWR2(*LEGAL) PDFMULT(*YES *INDEX)
           PDFDTAQ(*NONE) PDFINCFNT(*YES)
           PDFMAILSVR(*SNDDST)
           PDFSENDER(QSPLJOB) PDFMAPPGM(*NONE)
```

このコマンドは、QGPLライブラリーでP5001という名前をもつ印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを作成します。PDFGENパラメーターは、スプール・ファイルがPDFに変換され、SNDDSTコマンドによって電子メールとして送信されるよう指定しています。ドロワー1および2でそれぞれレターとリーガルの用紙サイズで4028印刷装置をエミュレートするように変換が指示されています。

要求した出力はグループ境界にPDF索引タグをもち、必要なフォントは出力ファイルのあるインラインに置かれ、送信側はPSFです。マッピング・プログラムがないので、ファイルと関連したメール・タグ情報は有効な電子メール・アドレスと見なされます。

完了メッセージは、このパラメーターが*NONEの値をもつのでデータ待ち行列のログに記録されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF88C1

印刷装置資源タイプ&1 &2がライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

[トップ](#)

QUERY管理機能書式の作成 (CRTQMFORM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能書式作成(CRTQMFORM)コマンドによって、指定されたソース・ファイル・メンバーからQUERY管理機能書式を作成することができます。QUERY管理機能書式は、QUERYを実行して得られたデータを表示または印刷する時の報告書の外観を定義します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QMFORM	QUERY管理機能報告書書式	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能報告書書式	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QQMFORMSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, <u>QMFORM</u>	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>SRCMBRTXT</u> , *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *USE, *CHANGE, *ALL, *EXCLUDE, <u>*LIBCRTAUT</u>	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*YES, *NO	オプション

[トップ](#)

QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)

作成されるQUERY管理機能書式の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

書式を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

書式が入っているライブラリーの名前を指定してください。

書式名 作成される書式の名前を指定します。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

作成する書式のソース・レコードが入っているソース・ファイルの修飾名を指定します。書式はQMFORMパラメーターに指定された名前によって識別されます。

可能なファイルの値は次の通りです。

QQMFORMSRC

IBM提供のソース・ファイル名QQMFORMSRCを持つファイルに、作成する書式のソース・レコードが入っています。

ソース・ファイル名

作成する書式のソースが入っているファイルの名前を指定してください。

ソース・ファイルの名前は、次のライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成する書式のソース・レコードが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***QMFORM**

メンバー名は、QMFORMパラメーターに指定された書式名と同じです。

ソース・ファイル・メンバー名

書式ソースが入っているメンバーの名前を指定します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

QUERY管理機能書式を簡単に記述するテキストを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SRCMBRTXT**

作成するオブジェクトの記述テキストは、ソース・メンバーのテキスト記述と同じです。ソース・

メンバーに記述テキストがないか、あるいはそれがブランクの場合には、外部化された書式が存在する場合はその中の注釈が使用され、存在しない場合は*BLANKと見なされます。

***BLANK**

テキストは指定されません。このコマンドによってオブジェクトが置き換えられる場合には、オブジェクトの既存のテキストがブランクのテキストと置き換えられます。

記述 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。アポストロフィは、50文字のストリングの一部にはなりません。

トップ

権限(AUT)

QUERY管理機能書式に対する特定の権限を持っていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがQUERY管理機能書式に対する特定の権限を持っていないユーザーに与えられる権限を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

LIBCRTAUT

QUERY管理機能書式の共通認可は、ターゲット・ライブラリー(QUERY管理機能書式を入れるライブラリー)のCRTAUTパラメーターの値から取り出されます。共通認可は、QUERY管理機能書式の作成時に決定されます。QUERY管理機能書式の作成後にライブラリーのCRTAUT値が変更された場合には、その新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるかあるいはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御されるものを除くオブジェクトに対してすべての操作を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトに対して基本的な機能を変更および実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるかあるいは権限リスト管理権限によって制御されるものを除くすべての操作を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。また、QUERY管理機能書式の所有権を変更することもできます。オブジェクトが権限リストの一部である場合には、ユーザーは他のユーザーを追加、変更、または除去することができます。

***USE** ユーザーは、オブジェクトに対して（たとえば、プログラムを実行したりファイルを読み取るなどの）基本的な操作を実行することができます。ユーザーは、どのような方法でもオブジェクトを変更することはできません。この権限は、オブジェクト操作権限および読み取り権限を提供します。

権限リスト名

使用された権限リストの名前を指定してください。

トップ

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

ライブラリー中の同じ名前およびタイプの既存のオブジェクトを、このコマンドの出力と置き換えるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***YES** 既存のオブジェクトがこのコマンドの出力と置き換えられます。

***NO** 既存のオブジェクトはこのコマンドの出力と置き換えられません。

[トップ](#)

CRTQMFORMの例

```
CRTQMFORM QMFORM(FORMEMP) SRCFILE(RPTLIB/FORMSRC)
```

このコマンドは、現行ライブラリー中に名前FORMEMPの書式を作成します。この書式のソースは、メンバーFORMEMPにあります。このメンバーはライブラリーRPTLIBのソース・ファイルFORMSRCに入っています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTQMFORM

***ESCAPE** [メッセージ](#)

QWM2701

&1コマンドが正しく実行されなかった。

QWM2703

&1コマンドは終了した。

QWM2705

&2のソース・ファイル&1が使用不能である。

QWM2706

&2の&1は置き換えられない。

[トップ](#)

QUERY管理機能プログラム作成 (CRTQMQR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能プログラム作成(CRTQMQR)コマンドによって、指定されたソース・ファイル・メンバーからQUERY管理機能プログラムを作成することができます。QUERYのソース・レコードは、変数置換値を入れることができる1つの構造化照会言語(SQL)ステートメントです。これは、ソース・ファイル・メンバーの複数レコードに広げることができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QMQR	QUERY管理機能プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QMQRYSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *QMQR	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
SRTSEQ	分類順序	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前, *SRC, *JOB RUN, *JOB, *HEX, *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *SRC, *JOB RUN, *JOB	オプション
AUT	権限	名前, *USE, *CHANGE, *ALL, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*YES, *NO	オプション

[トップ](#)

QUERY管理機能プログラム (QMQR)

作成されるQUERY管理機能プログラムの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***CURLIB**

QUERYを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

QUERYが入っているライブラリーの名前を指定します。

QUERY名

作成されるQUERYの名前を指定します。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

作成するQUERYのソース・レコードが入っているソース・ファイルの修飾名を指定します。QUERYは、QMQRYPARAMETERに指定された名前によって識別されます。

可能なファイルの値は次の通りです。

QMQRYSRC

IBM提供のソース・ファイル名QMQRYSRCを持つファイルに、作成するQUERYのソース・レコードが入っています。

ソース・ファイル名

作成するQUERYのソース・レコードが入っているファイルの名前を指定してください。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成するQUERYのソース・レコードが入っているソース・ファイル・メンバーのメンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***QMQRYP**

メンバー名は、QMQRYPARAMETERに指定されたQUERY名と同じです。

ソース・ファイル・メンバー名

QUERYソースが入っているメンバーの名前を指定します。

テキスト'記述' (TEXT)

QUERY管理機能プログラムを簡単に記述するテキストを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SRCMBRTXT**

作成するオブジェクトの記述テキストは、ソース・メンバーのテキスト記述と同じです。ソース・メンバーにテキスト記述がないか、またはそれがブランクの場合には、TEXT(*BLANK)と見なされます。

***BLANK**

テキストは指定されません。このコマンドによってオブジェクトが置き換えられる場合には、オブジェクトの既存のテキストがブランクのテキストと置き換えられます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。アポストロフィは、50文字のストリングの一部にはなりません。

トップ

分類順序 (SRTSEQ)

このQUERYでストリング比較に使用される分類順序テーブルを指定します。

注: このパラメーターは、QUERYを作成する場合にのみ有効です。FORMを作成する場合には、このパラメーターは正しくありません。

考えられる値は、次の通りです。

***SRC** ソース・ファイル・メンバーにQUERYを作成する時に使用される分類順序が入っています。

***JOBRUN**

QUERY実行時のジョブのSRTSEQ値が使用されます。

***JOB** QUERY作成時のジョブのSRTSEQ値が使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されず、分類順序を決定するために文字の16進数値が使用されます。

***LANGIDUNQ**

LANGIDパラメーターに指定された言語の固有の重みづけ分類テーブルが使用されます。

***LANGIDSHR**

LANGIDパラメーターに指定された言語の共用重みづけ分類テーブルが使用されます。

テーブル名

このQUERYの作成時に使用される分類順序テーブルの名前を指定してください。

分類順序テーブル名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQ(*LANGIDUNQ)またはSRTSEQ(*LANGIDSHR)が指定されている時に使用される言語識別コードを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SRC** ソース・ファイル・メンバーにQUERYの作成時に使用される言語IDが入っています。

*JOBRUN

ジョブのLANGID値は、QUERYの実行時に決定されます。

***JOB** ジョブのLANGID値は、QUERYの作成時に決定されます。

言語ID QUERYで使用される言語識別コードを指定してください。

[トップ](#)

権限(AUT)

QUERY管理機能プログラムに対する特定の権限を持っていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがQUERY管理機能プログラムに対する特定の権限を持っていないユーザーに与えられる権限を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

LIBCRTAUT

QUERY管理機能書式の共通認可は、ターゲット・ライブラリー(QUERY管理機能プログラムを入れるライブラリー)のCRTAUTパラメーターの値から取り出されます。共通認可は、QUERY管理機能プログラムの作成時に決定されます。QUERY管理機能プログラムの作成後にライブラリーのCRTAUT値が変更された場合には、その新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるかあるいはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御されるものを除くオブジェクトに対してすべての操作を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトに対して基本的な機能を変更および実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるかあるいは権限リスト管理権限によって制御されるものを除くすべての操作を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。また、QUERY管理機能プログラムの所有権を変更することもできます。オブジェクトが権限リストの一部である場合には、ユーザーは他のユーザーを追加、変更、または除去することができます。

***USE** ユーザーは、オブジェクトに対して（たとえば、プログラムを実行したりファイルを読み取るなどの）基本的な操作を実行することができます。ユーザーは、どのような方法でもオブジェクトを変更することはできません。この権限は、オブジェクト操作権限および読み取り権限を提供します。

権限リスト名

使用された権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

出力を受け取るためのライブラリー中の同じ名前および同じタイプのオブジェクトを、このコマンドの出力で置き換えるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***YES** 既存のオブジェクトがこのコマンドの出力と置き換えられます。

***NO** 既存のオブジェクトはこのコマンドの出力と置き換えられません。

[トップ](#)

CRTQMQRVの例

```
CRTQMQRV QMQRV(NEWQRY) SRCFILE(RPTLIB/QRYSRC)
```

このコマンドは、現行ライブラリー中に名前NEWQRYのQUERYを作成します。このQUERYのソースは、メンバーNEWQRYにありますが、このメンバーはライブラリーRPTLIBのソース・ファイルQRYSRCに入っています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTQMQRV

***ESCAPE** メッセージ

QWM2701

&1コマンドが正しく実行されなかった。

QWM2703

&1コマンドは終了した。

QWM2705

&2のソース・ファイル&1が使用不能である。

QWM2706

&2の&1は置き換えられない。

[トップ](#)

Q&Aデータベース作成 (CRTQSTDB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問・回答データベース作成(CRTQSTDB)コマンドによって、新しい質問・回答(Q&A)データベースを作成することができます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報で入手することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. このコマンドのユーザーは、データベース・ファイルが入っているライブラリーに対する*ADD権限をもっていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, * <u>SELECT</u>	オプション, 位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, <u>QUSRSYS</u>	オプション, 位置 2

トップ

Q/Aデータベース (QSTDB)

作成するQ&Aデータベースを指定します。Q&Aデータベース名を選択する場合には、名前は10文字以内で、英字で始まっていなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

Q&Aデータベースを作成する名前を指定してください。

トップ

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

新しいQ&Aデータベースを入れる既存のライブラリーの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

QUSRSYS

Q&AデータベースはQUSRSYSライブラリーの中に作成されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: このライブラリーはシステムに存在しているものでなければなりません。

[トップ](#)

CRTQSTDBの例

CRTQSTDB

このコマンドは、Q&Aデータベース作成画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CRTQSTDB

なし

[トップ](#)

Q/A データベース・ロード作成 (CRTQSTLOD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問・回答データベース・ロード作成(CRTQSTLOD)コマンドによって、テープなどの代替媒体上に配布用のQ&Aデータベース・ロードを作成することができます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報で入手することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ユーザーには、このコマンドによって参照されるQ&Aデータベース・ファイルに対する*READ権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, * <u>SELECT</u>	オプション, 位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, * <u>QSTLIB</u>	オプション, 位置 2

[トップ](#)

Q/Aデータベース (QSTDB)

配布するQ&Aデータベースを指定します。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

配布したいQ&Aデータベースの名前を指定してください。

[トップ](#)

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

ロードを作成するために使用されるQ&Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

***QSTLIB**

指定されたQ&Aデータベースが入っているライブラリーが検索されます。QSTDB パラメーターに *SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたすべてのライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。QSTDBパラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

[トップ](#)

CRTQSTLODの例

CRTQSTLOD

このコマンドは、データベース・ロード作成画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTQSTLOD

なし

[トップ](#)

S/36表示装置ファイルの作成 (CRTS36DSPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36表示装置ファイル作成(CRTS36DSPF)コマンドは、システム/36ソース・ファイルから表示装置ファイルを作成し、既存の表示装置ファイルの様式を追加、削除、または更新します。TOFILEおよびTOMBRパラメーターを使用して、システム/36 SFGRソースをOS/400データ記述仕様の(DDS)ソースに変換することができます。

注: データ記述仕様(DDS)のソースは、表示装置ファイルと同じライブラリーの中のDDSソース・ファイルQS36DDSSRCに保管されます。QS36DDSSRCソース・ファイルが存在していない場合には、このソース・ファイルは92のレコード長で作成されます。

制約事項: このコマンドを実行するには、OS/400のオプション5を導入する必要があります。このコマンドは、OS/400またはシステム/36環境内で固有に実行することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSPFILE	表示装置ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: 表示装置ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
OPTION	オプション	単一値: *CREATE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): *UPDATE, *ADD, *DELETE	オプション, 位置 2
SRCMBR	S/36 SFGRソース・メンバー	単一値: *DSPFILE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 名前	オプション, 位置 3
SRCFILE	S/36ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 4
	修飾子 1: S/36ソース・ファイル	名前, QS36SRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
REPLACE	表示装置ファイルの置き換え	*NO, *YES	オプション
PRINT	SFGRリストの印刷	*YES, *NO, *PARTIAL	オプション
MAXDEV	最大装置数	1-256, *SRCATR	オプション
AUT	権限	名前, *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション
GENOPT	生成オプション	*GEN, *NOGEN, *CONVERT	オプション
SYNTAX	SFGRソース構文の検査	*YES, *NO	オプション
TOFILE	受取DDSソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受取DDSソース・ファイル	名前, QDDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
TOMBR	受取DDSソース・メンバー	名前, *NONE , *SRCMBR, *DSPFILE	オプション
HALT	エラーが起こった時,MSGを出す	*YES , *NO	オプション
DFRWRT	書き出し据え置き	*SRCATR , *YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT , *PRV	オプション

トップ

表示装置ファイル (DSPFILE)

作成された表示装置ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

表示装置ファイル名

表示装置ファイル名を指定してください。

注: ファイルが既存のプログラム、メッセージ・ファイル、またはその他のタイプのファイルと同じ名前およびライブラリーをもっている場合には、表示装置ファイルは作成されません。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ライブラリーをジョブの現行ライブラリーとして指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

表示装置ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オプション (OPTION)

指定された表示装置ファイルで何を実行するかを指定します。最大32のオプションを指定することができます。指定されたオプションは、**S/36 SFGR**ソース・メンバー (**SRCMBR**)パラメーターの対応する名前に適用されます。

*CREATE

表示装置ファイルは、指定された表示装置ファイル名を使用して、指定されたソース・メンバーによって定義された通りに作成されます。***CREATE**を指定した場合には、他のオプションを指定することはできません。

***ADD S/36 SFGR**ソース・メンバー (**SRCMBR**)パラメーターに指定された対応する名前によって定義された通り、1つ以上の画面様式が指定された表示装置ファイルに追加されます。

*UPDATE

SRCMBRパラメーターに指定された対応する名前によって定義された通り、1つ以上の画面様式が指定された表示装置ファイルで更新されます。

*DELETE

指定された表示装置ファイルから画面様式が削除されます。削除される様式は、**SRCMBR**パラメー

ターに指定された対応する名前によって定義されています。表示装置ファイルのすべての様式を削除した場合には、表示装置ファイル全体が削除され、ソース・ファイル・メンバーは作成されません。

[トップ](#)

S/36 SFGRソース・メンバー (SRCMBR)

作成、追加、または更新オプションの実行時にソース・ファイルで使用されるメンバーを指定します。削除オプションの場合には、削除される様式の名前を指定してください。

***DSPFILE**

表示装置ファイルと同じ名前のメンバーが指定されます。

ソース・メンバー名

ソース・メンバー名を指定してください。最大32のソース・メンバー名を指定することができます。

[トップ](#)

S/36ソース・ファイル (SRCFILE)

画面様式生成プログラム(SFGR)のソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

QS36SRC

ソース・ファイルQS36SRCが使用されます。

ファイル名

ソース・ファイルの名前を指定してください。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ライブラリーをジョブの現行ライブラリーとして指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

表示装置ファイルの置き換え (REPLACE)

既存の表示装置ファイルを置き換えるかどうかを指定します。OPTION(*CREATE)が指定されていない場合には、このパラメーターは無視されます。

***NO** 既存の表示装置ファイルは置き換えられません。

***YES** 既存の表示装置ファイルが置き換えられます。その他のタイプのファイルは置き換えられません。

注: ファイルがプログラムまたはメッセージ・ファイルと同じ名前およびライブラリーをもっている場合には、表示装置ファイルは作成されません。

打ち切りエラーが見つかった場合には、既存の表示装置ファイルは置き換えられません。表示装置ファイルがすでに存在している場合には、**権限 (AUT)**パラメーターは無視されて、古い表示装置ファイルの権限はそれに置き換わる新しい表示装置ファイルにコピーされます。OPTION(*ADD), (*UPDATE),または(*DELETE)が指定された場合には、REPLACE(YES)とみなされます。

トップ

SFGRリストの印刷 (PRINT)

コンパイル・リストを印刷するかどうかを指定します。

***YES** SFGRソース構文検査とDDSコンパイル・ステップのために、リスト全部が印刷されます。

***NO** SFGRソース・メンバーの構文検査ステップで、リストは印刷されません。DDSコンパイル・ステップでは、*PARTIALとみなされます。

***PARTIAL**

ステップでエラーが見つかった場合には、エラー・メッセージまたは警告メッセージと一緒にそのステップに対するコンパイル・リストが印刷されます。メッセージが出されない場合には、リストは印刷されません。

トップ

最大装置数 (MAXDEV)

表示装置ファイルを同時に使用できる装置数を指定します。

***SRCATR**

ソース・メンバーの最初の属性から装置の最大数がとられます。ソース・メンバーでこの値をセットするためには、システム/36ソース属性変更(CHGS36SRCA)コマンドおよびシステム/36ソース属性編集(EDTS36SRCA)コマンドを使用することができます。

装置数 装置の最大数を指定してください。有効な値の範囲は1-256です。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがこのオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

REPLACE(*YES)が指定されていて、表示装置ファイルがすでに存在している場合には、AUTパラメーターは無視され、古い表示装置ファイルに対する権限はそれに置き換わる新しい表示装置ファイルにコピーされます。OPTION *ADD,*UPDATE,または*DELETE が指定されている時は、REPLACE(*YES)とみなされません。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じものです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限について使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれるユーザーは、そのリストに指定されたオブジェクトに対して権限が認可されます。オブジェクトの作成時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

生成オプション (GENOPT)

使用されるコンパイル・オプションを指定します。

***GEN SFGRソース構文の検査 (SYNTAX)**パラメーターに*YESを指定した場合には、SFGRソース構文が検査され、表示装置ファイルがデータ記述仕様(DDS)に変換されて、OS/400表示装置ファイルが作成されます。SYNTAXパラメーターに*NOを指定した場合には、SFGRソース構文は検査されません。

***NOGEN**

SYNTAXパラメーターに*YESを指定した場合には、SFGRソース構文は検査されます。

***CONVERT**

表示装置ファイルはデータ記述仕様(DDS)に変換されますが、表示装置ファイルは作成されません。DDSの結果を保管するには、**受取DDSソース・メンバー (TOMBR)**パラメーターにメンバー名を指定します。SFGRソースの構文検査時に打ち切りエラーが見つかった場合には、DDSへの変換は実行されません。SYNTAXパラメーターに*YESを指定した場合には、SFGR構文が検査されません。

SFGRソース構文の検査 (SYNTAX)

SFGRソース構文をチェックするかどうかを指定します。

***YES** ソース・メンバーの構文がチェックされます。

***NO** ソース・メンバーの構文はチェックされません。

トップ

受取DDSソース・ファイル (TOFILE)

表示装置ファイルを作成するために使用されるソースDDSを保管するソース・ファイルの名前を指定します。このファイルは、事前に存在している必要はありません。OS/400 CRTSRCPFコマンドに対する権限がユーザーにあって、このファイルが存在していない場合には、新しいソース・ファイルが作成されます。

QDDSSRC

ソース・ファイルQDDSSRCが使用されます。

ファイル名

ソース・ファイルの名前を指定してください。このファイルは、レコード長が92 バイトでなければなりません。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ライブラリーをジョブの現行ライブラリーとして指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

受取DDSソース・メンバー (TOMBR)

DDSソースを保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。ソース・ファイル・メンバーが存在していなければ追加され、存在していれば置き換えられます。メンバー名が表示装置ファイル名のメンバー名と同じであり、TOファイルが作成される表示装置ファイルと同じライブラリー内のQS36DDSSRCであるときには、表示装置ファイルのコンパイル操作が正常に行なわれる場合にだけ、DDSがこのメンバーに保管されます。DDSの保管を保証するためには、その他のソース・ファイル、ライブラリー、またはメンバーの名前を指定してください。

***NONE**

DDSソースは受取DDSソース・ファイル (TOFILE)パラメーターに指定されたソース・ファイルには保管されません。このソースはQ36DDSSRCソース・ファイルに保管されています。

*SRCMBR

S/36 SFGRソース・メンバー (SRCMBR)パラメーターに指定された名前はメンバー名として使用されます。

*DSPFILE

表示装置ファイル名がメンバー名として使用されます。

メンバー名

DDSソースを保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していなければ追加され、それがすでに存在していれば置き換えられます。打ち切りエラーが見つかった場合には、メンバーは追加または変更されません。

トップ

エラーが起こった時,MSGを出す (HALT)

SFGR構文エラーが検出された時にエラー・メッセージを出すかどうかを指定します。

***YES** エラー・メッセージが出されて、要求が終了します。

***NO** 診断メッセージが出されて要求が終了し、戻りコード1008がセットされます。

トップ

書き出し据え置き (DFRWRT)

読み取り要求が出されるまで、表示装置ファイルにデータが書き出されないことを指定します。出力用のデータを受け取った直後に、制御権は要求元プログラムに戻されます。この結果としてパフォーマンスが改良される場合があります。

*SRCATR

最初のソース・メンバーのDFRWRT属性から書き出し据え置きオプションがとられます。ソース・メンバーがないか、あるいはDFRWRTソース属性がセットされていない場合には、*YESが使用されます。

***YES** 表示装置ファイルに書き出し要求が出された時には、バッファの処理後に制御権が戻されます。読み取り操作または書き出し／読み取りの組み合わせ操作が実行された後で、データの実際の表示を行なうことができます。プログラム・バッファは、ただちに次の読み取り操作または書き出し／読み取りの組み合わせ操作に使用可能となります。

***NO** 表示装置ファイルに書き出し要求が出された時には、制御権は、データの表示および入出力情報を使用可能にすることを含めて、入出力要求が完了するまで要求元プログラムには戻されません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

トップ

CRTS36DSPFの例

```
CRTS36DSPF  DSPFILE(MYLIB/MYDISPLAY)  OPTION(*CREATE)
            SRCMBR(SFGRMBR1 SFGRMBR2)
            SRCFILE(MYLIB/QS36SRC)  GENOPT(*NOGEN)
```

このコマンドはSFGRソースを検査します(QPUTSFGRの名前の印刷装置リストの生成)。DDSは構築されないし、表示装置ファイルは作成されません。

トップ

エラー・メッセージ： CRTS36DSPF

***ESCAPE** メッセージ

SSP4464

ファイル&1のメンバー&3が使用中であり共用することができない。

SSP5003

ソース・メンバー&1が見つからなかった。

SSP5004

&1—このロード・メンバーは存在するが、¥SFGRメンバーでない。

SSP5005

&1表示装置ファイルはすでに存在している。

SSP5007

ソース・メンバー&1はすでに指定されている。

SSP5009

表示装置ファイル&1がライブラリー&2が見つからなかった。

SSP5010

&1はシステム/36表示装置ファイルでない。

SSP5011

表示装置ファイル名に&1を使用することはできない。

SSP5012

様式&1が表示装置ファイルに見つからない。

SSP5015

ソース・ファイル・ライブラリー&1が見つからない。

SSP5016

表示装置ファイル・ライブラリー&1が見つからない。

SSP5017

TOFILEライブラリー&1が見つからない。

SSP5019

¥SFGR入力仕様中に打ち切りエラー。

SSP5027

変更でTGTRLS(*PRV)を使用できるのは、既存の表示装置ファイルが前のリリースで作成されている時だけである。

SSP5451

既存のファイル&1が表示装置ファイルでない。

SSP6124

予期しないエラーが起きました。

SSP7375

&2ユーティリティーがエラー&1を受け取った。

SSP8663

ユーザーには&1のアクセスが認可されていない。

SSP8679

メンバー&1のアクセスは認可されていない。

SSP9080

オブジェクト&1が使用中である-共用することはできない。

[トップ](#)

S/36メニューの作成 (CRTS36MNU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36メニュー作成(CRTS36MNU)コマンドは、ソース・メンバーからメニュー（表示装置ファイルおよびコマンド・メッセージ・ファイル）を作成します。このメニューは、固定形式で作成するか、2つの欄にオプション1-24を配列して作成するか、あるいは自由形式で作成することができます。

制約事項: このコマンドを実行するには、OS/400のオプション5を導入する必要があります。このコマンドは、OS/400またはシステム/36環境内で固有に実行することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMDTXTMBR	コマンド・テキスト・ソース・メンバー##	名前	必須, 定位置 1
OPTTXTMBR	オプション・テキスト・ソース・メンバー	名前, <u>*NONE</u>	オプション, 定位置 2
CMDTXTSRC	コマンド・テキスト・ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: コマンド・テキスト・ソース・ファイル	名前, <u>QS36SRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
OPTTXTSRC	オプション・テキスト・ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 4
	修飾子 1: オプション・テキスト・ソース・ファイル	名前, <u>QS36SRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CMDLIB</u> , <u>*CURLIB</u>	
MNULIB	メニュー・ライブラリー (LOADLIB)	名前, <u>*CMDLIB</u> , <u>*CURLIB</u>	オプション, 定位置 5
REPLACE	メニューの置き換え	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FREEFORM	自由形式メニュー	<u>*NO</u> , *YES	オプション
KEEP	オプション・テキスト MSG ファイルの保管	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DDSLIST	DDSリスト	<u>*PARTIAL</u> , *FULL	オプション
MAXDEV	最大装置数	1-256, <u>5</u>	オプション
AUT	権限	名前, *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, <u>*LIBCRTAUT</u>	オプション
TOFILE	受取DDSソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受取DDSソース・ファイル	名前, <u>QDDSSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*MNULIB</u> , *CMDLIB, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
TOMBR	受取DDSソース・メンバー	名前, *NONE	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO , *YES	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT , *PRV	オプション

トップ

コマンド・テキスト・ソース・メンバー## (CMDTXTMBR)

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルを作成するために使用するシステム/36メッセージ・ソース・メンバーが入れられるソース・メンバーを指定します。このメッセージ・ファイルは、オプションを選択した時に使用されるコマンドを定義します。メッセージIDはUSRで始められなければなりません。

これは必須パラメーターです。

メンバー名-##

作成するコマンド・テキスト・メッセージ・ファイルに使用するソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。後書き##記号が必要です。メニュー（表示装置ファイル）名は、##記号のないメンバー名と同じです。

注: ソース・メンバー内に指定したメッセージ・ファイル名は、ソース・メンバー名と同じでなければなりません。

トップ

オプション・テキスト・ソース・ファイル (OPTTXTMBR)

オプション・テキスト・メッセージ・ファイルの作成に使用されるソース・メンバー、またはメニュー表示装置ファイルを作成するために使用される画面様式生成プログラム(SFGR)のソース・メンバーを指定します。

*NONE

オプション・テキストは、コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルからとられます。OPTTXTMBR(*NONE)を指定する場合には、FREEFORM(*NO)も指定しなければなりません。

メンバー名

作成するメニューでオプションの記述に使用するソース・メンバーの名前を指定してください。このメンバーには、SFGRまたはシステム/36メッセージ・ソース・メンバーを入れることができます。**自由形式メニュー (FREEFORM)**パラメーターに*YESを指定する時には、ソース・メンバーを指定しなければなりません。

トップ

コマンド・テキスト・ソース・ファイル (CMDTXTSRC)

コマンド・テキスト・メンバーが入っているソース・ファイルを指定します。

QS36SRC

ソース・ファイルQS36SRCが使用されます。

ファイル名

コマンド・テキスト・ソース・メンバー## (CMDTXTMBR)パラメーターに指定されたメンバーが入っているソース・ファイル名を指定します。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ライブラリーをジョブの現行ライブラリーとして指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オプション・テキスト・ソース・ファイル (OPTTXTSRC)

オプション・テキスト・メンバーが入っているソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

QS36SRC

ソース・ファイルQS36SRCが使用されます。

ファイル名

オプション・テキスト・ソース・メンバー (OPTTXTMBR)パラメーターに指定されたメンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***CMDLIB**

コマンド・テキスト・ソース・ファイル (CMDTXTSRC)パラメーターに指定されたライブラリーが、ファイルの検出に使用されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ライブラリーをジョブの現行ライブラリーとして指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

メニュー・ライブラリー (LOADLIB) (MNULIB)

作成されたメニューを保管するために使用するメニュー・ライブラリーを指定します。

***CMDLIB**

コマンド・テキスト・ソース・ファイル (CMDTXTSRC)パラメーターに指定されたライブラリーが、ファイルの保管に使用されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが保管されます。ライブラリーをジョブの現行ライブラリーとして指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

メニューが入れられるライブラリーの名前を指定してください。

メニューの置き換え (REPLACE)

既存の表示装置ファイルを置き換えるかどうかを指定します。

***NO** 既存の表示装置ファイルは置き換えられません。

***YES** 既存の表示装置ファイルは、作成された新しいものに置き換えられます。

注: 既存のプログラムまたはメッセージ・ファイルと同じ名前およびライブラリーをもっている場合には、メニューは作成されません。

打ち切りエラーが見つかった場合には、既存の表示装置ファイルは置き換えられません。表示装置ファイルがすでに存在している場合には、AUTパラメーターは無視され、古い表示装置ファイルに対する権限はそれに置き換わる新しい表示装置ファイルにコピーされます。

トップ

自由形式メニュー (FREEFORM)

メニューを自由形式で作成するか、固定形式で作成するかを指定します。

***NO** 自由形式は使用されません。メニューは、2つの欄をもつ固定形式で作成されます。メッセージ番号はオプション番号と対応します。

YES** メニューは自由形式を使用して作成されます。YES**を指定した場合には、**オプション・テキスト・ソース・メンバー (OPTTXTMBR)**パラメーターに値を指定しなければなりません。オプション・テキスト・メッセージ番号は画面の行番号と対応します。

トップ

オプション・テキスト MSG ファイルの保管 (KEEP)

コンパイルの完了時にオプション・テキスト・メッセージ・ファイルを保管するかどうかを指定します。

***NO** オプション・テキスト・メッセージ・ファイルは保管されません。

***YES** オプション・テキスト・メッセージ・ファイルが保管されます。オプション・テキスト・ソース・メンバーに画面様式生成プログラム(SFGR)ソース仕様が入っていて、このオプション・テキスト・ソース・メンバーがメニューと同じ名前である場合には、KEEP(*YES)を指定しなければなりません。

トップ

DDSリスト (DDSLIST)

部分的または完全なDDSコンパイル・リストのどちらが提供されるかを指定します。

***PARTIAL**

部分リストが提供されます。

***FULL** 完全なDDSリストおよび相互参照表が提供されます。

最大装置数 (MAXDEV)

同時にメニューを使用できる装置の最大数を指定します。

5 装置の最大数は5です。

装置数 装置の最大数を指定してください。有効な値の範囲は1-256です。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがこのオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

REPLACE(*YES)が指定され、表示装置ファイルがすでに存在している場合には、**権限 (AUT)**パラメーターは無視されて、古い表示装置ファイルの権限はそれに置き換わる新しいメニュー表示装置ファイルにコピーされます。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じものです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限について使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに

含まれるユーザーは、そのリストに指定されたオブジェクトに対して権限が認可されます。オブジェクトの作成時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

受取DDSソース・ファイル (TOFILE)

メニューを作成するために使用されるソースDDSを保管するソース・ファイルの名前を指定します。このファイルは、事前に存在している必要はありません。OS/400 CRTSRCPFコマンドに対する権限がユーザーにあって、このファイルが存在していない場合には、新しいソース・ファイルが作成されます。

QDDSSRC

ソース・ファイルQDDSSRCが使用されます。

ファイル名

DDSソースを保管するソース・ファイルの名前を指定してください。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

*MNULIB

ソース・ファイルを見つけるために、メニュー・ライブラリーが使用されます。

*CMDLIB

ソース・ファイルを見つけるために、コマンド・ライブラリーが使用されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ソース・ファイルが見つけられます。ライブラリーをジョブの現行ライブラリーとして指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

受取DDSソース・メンバー (TOMBR)

DDSソースを保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバー名が表示装置ファイル名のメンバー名と同じであり、TOファイルが作成される表示装置ファイルと同じライブラリー内のQS36DDSSRCであるときには、表示装置ファイルのコンパイル操作が正常に行なわれる場合にだけ、DDSがこのメンバーに保管されます。DDSの保管を保証するためには、その他のソース・ファイル、ライブラリー、またはメンバーの名前を指定してください。

*NONE

DDSソースは受取DDSソース・ファイル (TOFILE)パラメーターに指定されたソース・ファイルには保管されません。

メンバー名

DDSソースを保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していなければ追加され、それがすでに存在していれば置き換えられます。

トップ

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

表示装置ファイルに2バイト文字データが入っているかどうかを指定します。

- *NO** 表示装置ファイルに2バイト文字データは入っていません。オプション・テキスト・メッセージIDはUSRで始めなければなりません。
- *YES** 表示装置ファイルまたはメッセージ・ファイルには2バイト文字データが入っています。オプション・テキスト・メッセージIDはUSZで始めることができます。この機能の効果を完全に引き出すには、IGCバージョンのオペレーティング・システムが導入されていなければなりません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5、リリース3、モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

- *PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

トップ

CRTS36MNUの例

```
CRTS36MNU  CMDTXTMBR(MENU##)  OPTTXTMBR(SFGRMBR)
           CMDTXSRC(MYLIB/QS36SRC)  OPTTXSRC(MYLIB/QS36SRC)
           MNULIB(WORKLIB)  REPLACE(*YES)
           FREEFORM(*YES)  KEEP(*YES)
```

このコマンドは指定されたSFGRソース・メンバーから自由形式のメニュー画面を作成して、結果のメニューをライブラリーWORKLIBに入れます。SFGRソースが使用されている場合には、FREEFORM(*YES)およびKEEP(*YES)が必要です。メニュー画面のレイアウトは、SFGRソース・メンバー中にある書式定義によって制御されます。このソースで定義される表示装置ファイルがメニューとしてシステムで使用される時に、それが有効であることを確認するための特別な検査は実行されません。

エラー・メッセージ： CRTS36MNU

*ESCAPE メッセージ

SSP4464

ファイル&1のメンバー&3が使用中であり共用することができない。

SSP5004

&1—このロード・メンバーは存在するが、¥SFGRメンバーでない。

SSP5005

&1表示装置ファイルはすでに存在している。

SSP5011

表示装置ファイル名に&1を使用することはできない。

SSP5017

TOFILEライブラリー&1が見つからない。

SSP5019

¥SFGR入力仕様中に打ち切りエラー。

SSP5027

変更でTGTRLS(*PRV)を使用できるのは、既存の表示装置ファイルが前のリリースで作成されている時だけである。

SSP5451

既存のファイル&1が表示装置ファイルでない。

SSP5750

コマンド・メッセージ・ファイルのメッセージ1-24にはブランク・テキストしか入っていない。

SSP5751

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイル名は##で終わらなければならない。

SSP5755

¥BMENU作業ファイルを作成することができない

SSP5756

コマンド・メッセージ・ファイル名は2桁より長くなければならない。

SSP5758

コマンド・テキスト・ソース・メンバー&1が見つからない。

SSP5759

オプション・テキスト・ソース・メンバー&1が見つからない。

SSP5760

コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルの名前が間違っている。

SSP5761

オプション・テキスト・メッセージ・ファイルの名前が間違っている。

SSP5763

オプション・テキスト・メンバー名はメニュー名と同じであってはならない。

SSP5766

オプション・テキスト・ソース・ライブラリー&1が見つからない。

SSP5767

メニュー・ライブラリー&1が見つからない。

SSP5768

コマンド・テキスト・ソース・ライブラリー&1が見つからない。

SSP5772

自由形式メニューにはオプション・テキスト・ソース・メンバーが必要である。

SSP5773

コマンドとオプション・テキスト・メンバー名は同じであってはならない。

SSP6124

予期しないエラーが起きました。

SSP7375

&2ユーティリティーがエラー&1を受け取った。

SSP8663

ユーザーには&1のアクセスが認可されていない。

SSP8679

メンバー&1のアクセスは認可されていない。

SSP9080

オブジェクト&1が使用中である-共用することはできない。

[トップ](#)

S/36 メッセージ・ファイルの作成 (CRTS36MSGF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36メッセージ・ファイル作成(CRTS36MSGF)コマンドは、ユーザーのシステム/36メッセージ・ソース・メンバーからメッセージ・ファイルを作成するので、システム/36メッセージ・ソース・メンバーをこのシステムのメッセージ・ソース・メンバーに変換することができます。

システム/36のメッセージ・ソースは、次の3つのタイプのステートメントで構成されます。

1. メッセージ制御ステートメントはソースの最初のレコードでなければなりません。使用できる制御ステートメントは1つだけです。制御ステートメントの構文は次の通りです。

```
NAME<,LEVEL> <COMMENT>
```

この場合: **NAME**は作成または変更しているメッセージ・ファイルの名前です。この名前はソース・レコードの1桁目で開始していなければなりません。レベルは1, 2またはブランクでなければならず、名前をコンマで区切る必要があります。レベル1は、そのソースがメッセージ・テキスト (第1レベル・メッセージ) 用であることを示し、レベル2は、そのソースがオンライン・ヘルプ情報 (第2レベル・メッセージ) 用であることを示します。このレベルが省略されたか、ブランクである場合には、第1レベル・メッセージと見なされます。制御ステートメントの最初のブランクの後にあるものはコメントであると見なされて、無視されます。

2. 1桁目のアスタリスク(*)で始まるコメント・レコード。コメント・レコードはすべて無視されます。
3. 1つ以上のメッセージ・テキスト・ステートメントを定義することができます。メッセージ・テキスト・ステートメントの構文は次の通りです。

```
MMMM テキスト
```

この場合: **MMMM**はシステム/36メッセージ識別コード(MIC)であり、1桁目で始まり、4桁(0-9)で構成されていなければなりません。4桁のすべてが必要で、7文字のメッセージIDは、MSGPFXパラメーターで指定したメッセージ接頭語をMICの前に追加して作成されます。5桁目は無視され、ブランクのままにしなければなりません。テキストは定義しているメッセージのテキストであり、6桁目で開始していなければなりません。MICが降順にならないように、メッセージ・テキスト・ステートメントを配置する必要があります。単一レコードにメッセージ全体を定義する十分な余裕がない場合には、MICは次のレコードの1桁目で反復することができ、テキストは6桁目で開始して続行することができます。

第1レベル・メッセージは最大75文字に制限され、第2レベル・メッセージは、RESTRICT(*NO)が指定されないかぎり、最大225文字に制限されます。各MICの最終レコードの末尾ブランクはカウントされません。SRCMBRの処理時に使用されるレコード長は、そのメンバーのRCDLENソース属性です。この属性はソース・ファイルのレコード長の省略時値ですが、CHGS36SRCA, EDTS36SRCA,またはRSTS36LIBMコマンドの使用時に設定または変更することができます。RCDLENソース属性はメンバーの論理レコード長です。RCDLENソース属性がソース・ファイルのレコード長より小さい場合は、論理レコード長の後のすべての文字は無視されます。レコードで、論理レコード長の後に非ブランク文字が含まれている場合は、警告として診断メッセージが出されます。

制約事項: このコマンドを実行するには、OS/400のオプション5を導入する必要があります。このコマンドは、OS/400またはシステム/36環境内で固有に実行することができます。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRCMBR	S/36 メッセージ・ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 1
SRCFILE	S/36ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: S/36ソース・ファイル	名前, <u>QS36SRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
MSGLIB	メッセージ・ファイル・ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	オプション, 定位置 3
REPLACE	メッセージ・ファイルの置換	<u>*NO</u> , *YES	オプション
MSGPFX	メッセージ識別コードの接頭部	名前, <u>USR</u>	オプション
OPTION	オプション	<u>*CREATE</u> , *ADD, *CHANGE	オプション
SUBST	#置き換えフィールド使用可	<u>*YES</u> , *NO	オプション
RESTRICT	S/36の制約の強制	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUT	権限	名前, *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, <u>*LIBCRTAUT</u>	オプション
TOFILE	受け取りCLソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受け取りCLソース・ファイル	名前, <u>QCLSRC</u> , *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
TOMBR	受け取りCLソース・メンバー	名前, <u>*NONE</u> , *SRCMBR	オプション
HALT	エラーが起こった時,MSGを出す	<u>*YES</u> , *NO, *IGNORE	オプション

S/36 メッセージ・ソース・メンバー (SRCMBR)

メッセージ・ファイルの作成に使用するソース・メンバーを指定します。ソース・メンバー中のコメント・レコードでない最初のレコードは、作成または変更されるメッセージ・ファイルの名前を指定します。また、コメント・レコードでない最初のレコードは、このソース・メンバーのテキストが第1レベル・メッセージ・テキストであるか第2レベル・メッセージ・テキストであるかを指定します。

これは必須パラメーターです。

S/36ソース・ファイル (SRCFILE)

メッセージ・ファイルの作成に使用するソース・ファイルを指定します。

QS36SRC

ソース・ファイルQS36SRCが使用されます。

ファイル名

S/36 メッセージ・ソース・メンバー (SRCMBR)パラメーターに指定されたメンバーが入っている、ソース・ファイルの名前を指定します。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ライブラリーをジョブの現行ライブラリーとして指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

メッセージ・ファイル・ライブラリー (MSGLIB)

作成されるメッセージ・ファイルを保管するために使用されるライブラリーを指定します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、メッセージ・ファイルが保管されます。ライブラリーをジョブの現行ライブラリーとして指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***SRCLIB**

メッセージ・ファイルを保管するために、ソース・ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

作成されたメッセージ・ファイルが保管されるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

メッセージ・ファイルの置換 (REPLACE)

既存のメッセージ・ファイルが置き換えられるかどうかを指定します。OPTION(*CREATE)が指定されていない場合には、このパラメーターは無視されます。

***NO** 既存のメッセージ・ファイルは置き換えられません。

***YES** 既存のファイルは作成されたものと置き換えられます。

注: 既存のプログラムまたは表示装置ファイルと同じ名前およびライブラリーをもっている場合には、メッセージ・ファイルは作成されません。

打ち切りエラーが見つかった場合には、既存のメッセージ・ファイルは置き換えられません。メッセージ・ファイルがすでに存在している場合には、**権限 (AUT)**パラメーターは無視されて、古いメッセージ・ファイルのすべての権限はそれに置き換わる新しいメッセージ・ファイルにコピーされます。

[トップ](#)

メッセージ識別コードの接頭部 (MSGPFX)

メッセージを作成するために使用されるメッセージ接頭部を指定します。メッセージがメニューを構築するために使用される場合には、USRの省略時の接頭部を使用しなければなりません。

USR メッセージ接頭部USRが使用されます。

メッセージ接頭部

メッセージ識別コードで使用する3桁のメッセージ接頭部を指定してください。

トップ

オプション (OPTION)

ソース・メンバーに指定したメッセージ・ファイルで何を実行するかを指定します。

*CREATE

指定した名前で、メッセージ・ファイルが作成されます。

***ADD** 指定したメッセージ・ファイルにメッセージが追加されます。

*UPDATE

指定されたメッセージ・ファイルのメッセージが変更されます。メッセージが存在していない場合には、それが作成されてメッセージ・ファイルに追加されます。

トップ

#置き換えフィールド使用可 (SUBST)

システム/36テキスト置き換えフィールドが、OS/400システム・メッセージ・ファイルのテキスト置き換えフィールドを表わす表記法に変換されることを指定します。*YESが省略時の値になっていますが、すべてのユーザーがテキスト置き換えフィールドを使用するわけではないので、フィールドが誤って変換されないようにするための方法が*NOです。置き換えフィールドは、S/36ソースで対の後書き##記号によって表示されます。

***YES** 置き換えテキスト・フィールドが変換されます。メッセージ・テキスト・ソース・メンバーの#記号のストリングが置き換えテキスト・ストリングに変換されるのは、ストリングがメッセージ・テキストの先頭または最後に現われた時、あるいはストリングの前と後に次の区切り文字の1つがある時だけです。

' '	ブランク
.	ピリオド
<	より小
(左括弧
+	プラス
&	アンパーサンド
*	アスタリスク
)	右括弧
;	セミコロン

- マイナス
- , コンマ
- > より大
- ? 疑問符
- : コロン
- ' アポストロフィ
- = 等号
- " 2重引用符

***NO** 置き換えテキスト・フィールドは変換されません。

[トップ](#)

S/36の制約の強制 (RESTRICT)

システム/36の制約事項がメッセージ・テキストの長さに適用されるかどうかを指定します。

***YES** システム/36の制約事項が適用されます。メッセージ・テキストは75桁に制限され、メッセージのオンライン・ヘルプは225桁に制限されます。

***NO** システム/36の制約事項は適用されません。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがこのオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

OPTION(*CREATE)およびREPLACE(*YES)が指定されていて、メッセージ・ファイルがすでに存在している場合には、**権限 (AUT)**パラメーターは無視され、古いメッセージ・ファイルに対するすべての権限はそれに置き換わる新しいメッセージ・ファイルにコピーされます。OPTION(*ADD)または(*UPDATE)が指定された時には、AUTパラメーターは常に無視されます。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じものです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限について使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれるユーザーは、そのリストに指定されたオブジェクトに対して権限が認可されます。オブジェクトの作成時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

受け取りCLソース・ファイル (TOFILE)

メッセージ・ファイルを作成するために使用されたCLソースを保管するためのソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルがまだ存在していない場合には、ユーザーがOS/400のCRTSRCPFコマンドを認可している場合は、新しいソース・ファイルが作成されます。

QCLSRC

ソース・ファイルQCLSRCが使用されます。

ファイル名

ソース・メンバーが保管されるソース・ファイルの名前を指定します。

指定できるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ファイルが見つけられます。ライブラリーをジョブの現行ライブラリーとして指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

受け取りCLソース・メンバー (TOMBR)

データ記述仕様(DDS)ソースを保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このメンバーが存在していない場合には、これが作成されます。メンバー名が表示装置ファイル名のメンバー名と同じであり、TOファイルが作成される表示装置ファイルと同じライブラリー内のQS36DDSSRCであるときには、表示装置ファイルのコンパイル操作が正常に行なわれる場合にだけ、DDSがこのメンバーに保管されます。DDSの保管を保証するためには、その他のソース・ファイル、ライブラリー、またはメンバーの名前を指定してください。

*NONE

CLソースは受け取りCLソース・ファイル (TOFILE)に指定されたソース・ファイルには保管されません。

*SRCMBR

メンバー名を指定しない場合には、**S/36 メッセージ・ソース・メンバー (SRCMBR)**パラメーターに指定されたメンバー名が使用されます。これにより元のシステム/36メッセージ・ソースが壊されることになるために、TOFILEパラメーターとSRCFILEパラメーターの両方に同じ名前およびライブラリーを指定してはいけません。

メンバー名

CLソース仕様を保管するソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。指定されたメンバーが存在していれば置き換えられます。それが存在していない場合には、作成されます。打ち切りエラーが見つかった場合には、メンバーは追加または変更されません。

トップ

エラーが起こった時,MSGを出す (HALT)

エラーが検出された時に処理を停止するかどうかを指定します。

***YES** エラー・メッセージが出されて、要求が終了します。

***NO** 診断メッセージが出されて要求が終了し、戻りコード2034がセットされます。

*IGNORE

ソース仕様の中で無視できるエラーが検出された場合には、診断メッセージが出されて、現行のソース・ステートメントは無視されます。次のソース・ステートメントから処理が続行されます。無視できないエラーの場合には、処理が停止し、エラー・メッセージが出されます。

トップ

例

```
CRTS36MSGF SRCMBR(MYMSGSRC) SRCFILE(MYLIB/QS36SRC)
           MSGLIB(WORKLIB) REPLACE(*YES)
```

このコマンドは、MYMSGSRCの名前のメッセージ・ファイルをライブラリーWORKLIBに作成します。同じ名前のメッセージ・ファイルがすでに存在する場合は、新しいこのメッセージ・ファイルが既存のファイルを置き換えます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

SSP1727

メッセージ・ファイル&1がライブラリー&2に見つからなかった。

SSP5017

TOFILEライブラリー&1が見つからない。

SSP6124

予期しないエラーが起きました。

SSP7375

&2ユーティリティーがエラー&1を受け取った。

SSP8663

ユーザーには&1のアクセスが認可されていない。

[トップ](#)

保管ファイル作成 (CRTSAVF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保管ファイル作成(CRTSAVF)コマンドは、保管ファイルを作成します。

保管ファイルを保管および復元コマンドで使用して、他の方法ではテープまたは光ディスク媒体に書き出されるデータを入れることができます。また、保管ファイルをデータベース・ファイルのように使用して、保管または復元情報を含むレコードの読み取りまたは書き出しを行なうことができます。また、保管ファイルを使用して、システム・ネットワーク体系配布サービス(SNADS)ネットワークの別のユーザーにオブジェクトを送ることができます。

制約事項:

- オンライン保管ファイルは保管／復元データ用にのみ使用しなければなりません。保管ファイルからオブジェクトを復元する時には、ファイル中のデータは保管コマンドで作成されたものでなければなりません。高水準言語プログラムを使用してレコードを保管ファイルに書き込む時には、そのレコードには、オブジェクトを保管ファイルに保管することによって作成されたデータが入っていないなければなりません。
- 保管ファイルから検索されたレコードには、保管ファイルにレコードが挿入される時にシステムによって妥当性検査される順序づけチェックサム情報が入っています。順序が違っているか、保管ファイルからの検索以降に変更されたレコードを挿入しようとすると、拒否されます。
- 保管ファイルには1回の保管操作による出力および1つのライブラリーの出力を入れることができ、保管ファイル中のすべてのオブジェクトは同じライブラリーから保管されたものでなければなりません。保管ファイルの送信にネットワーク・ファイル送信(SNDNETF)コマンドを使用する場合には、保管ファイルの最大サイズは約20億バイトです。保管ファイルに保管されるオブジェクトの数は、ファイルの最大サイズを超えない限り、テープまたは光ディスク媒体への保管時に保管されるオブジェクトの数と同じです。保管ファイルに保管されるオブジェクトの正確な数は、オブジェクト・タイプおよびオブジェクトの内容によって異なります。
- 重複した保管ファイル・オブジェクトを作成したり、保管ファイル・オブジェクトを復元するには、CRTSAVFコマンドに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)権限が必要です。
- 保管ファイルを作成するライブラリーに対する追加(*ADD)および読み取り(*READ)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	保管ファイル	修飾オブジェクト名	必須、定位置 1
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
MAXRCDS	最大レコード数	1-2146762800, *NOMAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ASP	ASP番号	1-32, * <u>LIBASP</u>	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, * <u>IMMED</u> , *CLS	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	* <u>NO</u> , *YES	オプション
AUT	権限	名前, * <u>EXCLUDE</u> , *ALL, *CHANGE, *LIBCRTAUT, *USE	オプション

トップ

保管ファイル (FILE)

作成する保管ファイルを指定します。

ファイルが高水準言語プログラムで使用される場合には、ファイル名はその言語の命名規則に従うものでなければなりません。そうでない場合には、プログラムの中でファイル名を変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 保管ファイル

名前 作成する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

最大レコード数 (MAXRCDS)

保管ファイルに入れることができるレコードの最大数を指定します。保管ファイルのスペースのバイト数は、 $8192 + (512 \times \text{保管ファイルのレコード数})$ で推定されます。1メガバイトのスペースには、およそ2000の512バイトのレコードを入れることができます。保管ファイルが約20メガバイトを超えないようにしたい場合には、40000レコード(20メガバイト \times 2000レコード/メガバイト)を指定します。

注: 保管ファイルに入れることができるデータの最大量はおよそ1テラバイトです。ファイルがいっぱいになると、メッセージが現れます。

***NOMAX**

最大値である2146762800レコードが使用されます。

1-2146762800

保管ファイルに入れることができるレコードの最大数を指定してください。

[トップ](#)

補助記憶域プールID (ASP)

システムが保管ファイル用の記憶域を割り振る補助記憶域プール(ASP)を指定します。

***LIBASP**

保管ファイルの記憶域空間は、保管ファイルのライブラリーが割り振られるのと同じ補助記憶域プールから割り振られます。

1-32 補助記憶域プールの識別コードを指定してください。

[トップ](#)

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1-32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、オブジェクトの権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、その新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

[トップ](#)

CRTSAVFの例

```
CRTSAVF FILE(ONLINE) TEXT('ONLINE SAVE FILE')
```

このコマンドは、現行ライブラリーにONLINEという名前のオンライン保管ファイルを作成します。この保管ファイルは最大レコード数なしでシステムASPに入っています。ユーザーはこのファイルに対する権限を持たず、オブジェクト所有者とグループ・プロファイルとしてオブジェクト所有者ユーザー・プロファイルを持つユーザーだけがこの保管ファイルを使用できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTSAVF

*ESCAPEメッセージ

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

サブシステム記述作成 (CRTSBSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サブシステム記述作成 (CRTSBSD)サブシステムの操作属性を定義するサブシステム記述を作成します。作成したサブシステム記述は、サブシステム記述内のワークステーション項目および経路指定項目を追加、変更、および除去するための各種コマンドを使用することにより、さらに細密な要件に合わせるができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - サブシステム記述を作成するライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限。
 - システム・ライブラリー・リスト項目に*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理(*SECADM)特殊権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSB	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
POOLS	記憶域プール	値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: プール識別コード	1-10	
	要素 2: 記憶域サイズ	整数, *BASE, *NOSTG, *INTERACT, *SPOOL, *SHRPOOL1, *SHRPOOL2, *SHRPOOL3, *SHRPOOL4, *SHRPOOL5, *SHRPOOL6, *SHRPOOL7, *SHRPOOL8, *SHRPOOL9, *SHRPOOL10, *SHRPOOL11, *SHRPOOL12, *SHRPOOL13, *SHRPOOL14, *SHRPOOL15, *SHRPOOL16, *SHRPOOL17, *SHRPOOL18, *SHRPOOL19, *SHRPOOL20, *SHRPOOL21, *SHRPOOL22, *SHRPOOL23, *SHRPOOL24, *SHRPOOL25, *SHRPOOL26, *SHRPOOL27, *SHRPOOL28, *SHRPOOL29, *SHRPOOL30, *SHRPOOL31, *SHRPOOL32, *SHRPOOL33, *SHRPOOL34, *SHRPOOL35, *SHRPOOL36, *SHRPOOL37, *SHRPOOL38, *SHRPOOL39, *SHRPOOL40, *SHRPOOL41, *SHRPOOL42, *SHRPOOL43, *SHRPOOL44, *SHRPOOL45, *SHRPOOL46, *SHRPOOL47, *SHRPOOL48, *SHRPOOL49, *SHRPOOL50, *SHRPOOL51, *SHRPOOL52, *SHRPOOL53, *SHRPOOL54, *SHRPOOL55, *SHRPOOL56, *SHRPOOL57, *SHRPOOL58, *SHRPOOL59, *SHRPOOL60	
	要素 3: 活動レベル	整数	

キーワード	記述	選択項目	注
MAXJOBS	ジョブの最大数	0-1000, *NOMAX	オプション、位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
SGNDSPF	サインオン表示ファイル	単一値: *QDSIGNON その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サインオン表示ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SYSLIBLE	サブシステム・ライブラリー	名前, *NONE	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *CHANGE , *ALL , *USE , *EXCLUDE	オプション

トップ

サブシステム記述 (SBSD)

作成するサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。サブシステム記述は、指定したライブラリーに保管されます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 作成するサブシステム記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーが存在していない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

名前 サブシステム記述が作成されるライブラリーを指定します。

サブシステム記述の詳細については、実行管理機能の手引きを参照してください。

トップ

記憶域プール (POOLS)

このサブシステム記述の中にある1つまたは複数の記憶域プール定義を指定します。1つの記憶域プールに対して、次の各定義を指定します。

- **プール定義識別コード**: 記憶域プール定義の、サブシステム記述内の識別コード。異なるサブシステム記述内のプール定義で、同じ識別コード(1-10)を使用することができます。
- **サイズ**: キロバイト(1K = 1024バイト) の倍数で表した記憶域プールのサイズ。これは、プールで使用できる主記憶域の容量です。
- **活動レベル**: プール内で同時に実行できるスレッドの最大数。

作成するサブシステム記述に対して、最大10個の記憶域プール定義を指定することができます。各サブシステム記述には10個まで記憶域プール定義を指定することができますが、システム内において活動状態にでき

る記憶域プールの数には操作上の制限があります。システムでは、基本記憶域プールおよびマシン記憶域プールを含めて、同時に活動状態にできる記憶域プールは64個までです>(*NOSTGが指定されている記憶域プールは活動状態とは見なされず、これはどのサブシステムにも割り振られません。)

サブシステムのすべての記憶域プールを割り振ると、システムの最大プール数の64個を超えてしまうサブシステムを開始した場合には、割り振ることができるプール(制限数に達するまで)を割り振って、残りの割り振りは行われません。その場合に、割り振られなかったプールの1つに通常は経路指定されるそのサブシステムが開始した各経路指定ステップについては、基本プールが代わりに使用されます。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには10個の値を指定することができます。

要素1: プール識別コード

1-10 このサブシステムに含める記憶域プール定義のプール識別コードを指定します。次の値の1つによって、プールの属性も指定しなければなりません。ここでは最高10組の値を指定して、サブシステム内に10個の記憶域プールを定義することができます。

要素2: 記憶域サイズ

*BASE

指定されたプール定義は、他のサブシステムと共用できる基本システム・プールとして定義されます。基本プールの最小サイズおよび活動レベルは、システム値QBASPOOLおよびQBASACTLVLに指定します。

*NOSTG

最初は、記憶域も活動レベルもプールに割り当てられません(非活動状態)。

*INTERACT

指定されたプール定義は、対話式作業で使用される共用プールとして定義されます。共用プールのサイズおよび活動レベルは、共用記憶域プールの変更(CHGSHRPOOL)コマンドを使用して指定されます。

*SPOOL

指定されたプール定義は、スプール書き出しプログラムで使用される共用プールとして定義されます。共用プールのサイズおよび活動レベルはCHGSHRPOOLコマンドを使用して指定します。

*SHRPOOLNN

指定されたプール定義は汎用共用プールとして定義されます。60個の汎用共用プールがあり、特殊値*SHRPOOL1 - *SHRPOOL60によって識別されます。共用プールのサイズおよび活動レベルは、CHGSHRPOOLコマンドを使用して指定されます。

整数 指定された記憶域プールの記憶域サイズ(キロバイト数)を指定します。少なくとも256(すなわち256K)を指定しなければなりません。

要素3: 活動レベル

整数 プール内で同時に実行できるスレッドの最大数を指定します。

トップ

ジョブの最大数 (MAXJOBS)

このサブシステム記述によって制御されるサブシステムで同時に活動状態にできるジョブの最大数を指定します。この最大数は、開始され、待機または実行中であるすべてのジョブに適用されますが、ジョブ待ち行列にあるジョブまたは実行を終了したジョブには適用されません。

***NOMAX**

このサブシステムにはジョブの最大数の制限はありません。

0-1000

このサブシステムで実行可能なジョブの最大数を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

サインオン表示ファイル (SGNDSPF)

サブシステムに割り振られたワークステーションでサインオン画面を表示する時に使用するサインオン表示ファイルの名前およびライブラリーを指定します。指定したサインオン表示ファイルが、サブシステム記述の作成または変更時に存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません（修飾されたサインオン表示ファイルの名前がシステムによって保管されるため）。サインオン表示ファイルには、SIGNONというレコード様式が入っていないなければなりません。

注: サブシステムが活動状態である時には、サインオン表示ファイルを変更することができます。しかし新しいサインオン表示ファイルは、次回にサブシステムが開始されるまで、使用されません。

注: このコマンドを呼び出しているユーザーが表示ファイルに対する使用(*USE)権限およびそのライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限を持っている場合には、表示ファイルの形式検査を行うことができます。これは、サブシステムの開始時に表示が正しく機能するであろうことを予測するのに役立ちます。それ以外の場合には、形式検査は行われません。

単一値

***QDSIGNON**

サブシステムに割り振られたワークステーションにサインオン画面を表示する際に、QSYSの中のサインオン画面ファイル値QDSIGNONが使用されます。

修飾子1: サインオン表示ファイル

名前 使用されるサインオン画面ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サインオン表示ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

サブシステム・ライブラリー (SYSLIBL)

ライブラリー・リストのシステム部分の、他のライブラリーの前に入れられるライブラリーを指定します。このパラメーターによって、2次言語ライブラリーを使用することができます。

制約事項:

1. QSYSLIBLまたはQUSRLIBLシステム値に2次言語ライブラリーを指定してはなりません。ライブラリー・リストのシステム部分に2次言語ライブラリーを追加できるように、QSYSLIBLに含まれるライブラリーは15個より少なくなければなりません。
2. システム・ライブラリー・リスト項目に*NONE以外の値を指定するには、*ALLOBJおよび*SECADM特殊権限が必要です。

***NONE**

システム・ライブラリー・リストは変更されません。

名前 システム・ライブラリー・リストに追加するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、そのオブジェクトが作成されているライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。***CHANGE**権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

USE** ユーザーはオブジェクトに対して基本的な操作（たとえば内容の表示など）を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。USE**権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

[トップ](#)

CRTSBSDの例

例1:サインオン画面ファイルによる記述の作成

```
CRTSBSD  SBSD(BAKER)  POOLS((1 *BASE)(2 2000 4))
          SGNDSPF(*LIBL/NEWSGNON)
          TEXT ('SUBSYSTEM FOR RUNNING BAKER DEPARTMENT JOBS')
```

このコマンドは、BAKERという名前のサブシステム記述を作成し、それを現行ライブラリーに保管します。現行ライブラリーがない場合には、それは汎用ライブラリー(QGPL)に保管されます。記憶域プール定義1は、プール1が基本システム・プールを共用することを指定します。記憶域プール2の定義は、2000Kの記憶域と4の活動レベルを持つことです。このサブシステム記述には、同時に活動状態にできるジョブの数に制限はありません。ただし、このサブシステムの活動レベルは、サブシステム内にあるワークステーション項目、ジョブ待ち行列項目、および経路指定項目に指定されたMAXACTパラメーターによって制御される場合があります。サインオン画面ファイルはNEWSGNONであり、BAKERサブシステムに割り振られたワークステーションでサインオン画面を表示する時に使用されます。NEWSGNON画面ファイルはユーザーのライブラリー・リストから検索されます。

例2:3つの記憶域プール定義を含む記述の作成

```
CRTSBSD  SBSD(MEDLIB/MEDICAL)
          POOLS((1 1500 2) (2 *BASE) (3 *NOSTG))
          MAXJOBS(5)  TEXT('MEDICAL FILES INQUIRY AND UPDATE')
```

このコマンドは、MEDICALという名前のサブシステム記述を作成し、それをMEDLIBライブラリーに保管します。サブシステム記述には3つの記憶域プール定義が含まれます: 記憶域プール1は1500Kの記憶域および2の活動レベルを持つように定義され、プール2は基本システム・プールを共用するように定義され、また、プール3は、最初に他のプールが活動状態である時は非活動状態であるように—記憶域および活動レベルは持たないように定義されます。このサブシステムでは、最大5個のジョブを同時に活動状態とすることができます。テキスト記述がこのサブシステムを簡単に説明しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTSBSD

*ESCAPE メッセージ

CPF1696

サブシステム記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

検索見出しの作成 (CRTSCHIDX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

検索見出し作成(CRTSCHIDX)コマンドは、検索見出しを作成します。検索見出しは、1つまたは複数のパネル・グループに入っているヘルプ情報を参照するために使用されます。

見出し検索は、ヘルプ・キーを押すことによってデータ記述仕様(DDS)を介して、あるいは検索見出し開始(STRSCHIDX)コマンドを使用することによって見出し検索機能を介してアクセスすることができます。

CRTSCHIDXコマンドによって作成される検索見出しにはデータが入っていません。検索見出し項目追加(ADDSCHIDX)コマンドを使用してデータを追加してください。

制約事項:

- 検索見出しが入っているライブラリーに対する追加(*ADD)権限を持っていない限りなりません。
- IBM提供のパネル・グループを、CRTSCHIDXコマンドによって作成された検索見出しに追加することはできません。CRTSCHIDXコマンドによって作成された検索見出しに追加することができるのは、パネル・グループの作成(CRTPNLGRP)コマンドによって作成されたパネル・グループだけです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SCHIDX	検索見出し	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 検索見出し	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TITLE	画面タイトル	文字値	必須, 定位置 2
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *TITLE, *BLANK	オプション
CHRID	文字識別コード	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

検索見出し (SCHIDX)

作成する検索見出しを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 検索見出し

名前 検索見出しの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

検索見出しを作成するためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索見出しを作成したいライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

画面タイトル (TITLE)

検索情報が表示される時に選択したトピック画面の最上部に示したいタイトルを指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 55文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***TITLE**

タイトルの最初の50文字がテキストとして使用されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

文字識別コード (CHRID)

検索見出しに使用する図形文字セットおよびコード・ページの値を指定します。このパラメーターに指定する値は、この検索見出しに追加されたパネル・グループのTXTCHRIDパラメーター値と一致しなければなりません。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

要素1: グラフィック文字セット

整数 検索見出しで使用される同義語の文字セットと一致する図形文字セットの値を指定してください。

要素2: コード・ページ

整数 検索見出しで使用される同義語のコード・ページと一致するコード・ページ値を指定してください。

トップ

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で作成権限(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

CRTSCHIDXの例

```
CRTSCHIDX  SCHIDX(ACCOUNTING)  TITLE('ACCOUNTING HELP INDEX')  
          TEXT('ACCOUNTING HELP INDEX')
```

このコマンドは、名前ACCOUNTINGの検索見出しを現行ライブラリー中に作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTSCHIDX

*ESCAPE メッセージ

CPF6E11

検索見出し&2はライブラリー&3に作成されていない。

[トップ](#)

SQLパッケージの作成 (CRTSQLPKG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SQLパッケージ作成(CRTSQLPKG)コマンドによって、既存の配布SQLプログラムからリレーショナル・データベースに関するSQLパッケージを作成（または再作成）することができます。分散SQLプログラムは、CRTSQLXXXコマンド（ここで、XXX = CBL, CBLI, CI, CPPI, PLI, RPG,またはRPGI)コマンドにリレーショナル・データベース (RDB)パラメーターを指定することによって作成されたプログラムです。

詳細な説明はISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「SQLプログラミング」情報にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RDB	リレーショナル・データベース	単純名, *PGM	オプション, 定位置 2
USER	RDBユーザー	名前, *CURRENT	オプション
PASSWORD	RDBユーザー・パスワード	文字値, *NONE, X'40'	オプション
DFTRBCOL	省略時のコレクション	名前, *PGM, *NONE	オプション
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*PGM, *SRVPGM	オプション
MODULE	モジュール・リスト	単一値: *ALL その他の値 (最大 256 回の繰り返し): 名前	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *PGMTXT, *BLANK	オプション
GENLVL	重大度レベル	0-40, 10	オプション
REPLACE	置き換え	*YES, *NO	オプション
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, QSYSPT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

プログラム (PGM)

SQLパッケージが作成されるプログラムの名前を指定します。このプログラムは、CRTSQLXXX（ここで、XXX = CBL, CBLI, CI, CPPI, PLI, RPG,またはRPGI)コマンドの1つを使用した作成された分散SQLプログラムでなければなりません。

修飾子1: プログラム

名前 SQLパッケージが作成されるプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして現行ライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

リレーショナル・データベース (RDB)

SQLパッケージが作成されるリレーショナル・データベースの名前を指定してください。

***PGM** 最初にプログラムを作成したCRTSQLXXX（ここで、XXX = CBL, CBLI, CI, CPPI, PLI, RPG,またはRPGI)コマンドのリレーショナル・データベース (RDB)パラメーターに指定されたリレーショナル・データベース名が使用されます。

名前 SQLパッケージが作成されるリレーショナル・データベースの名前を指定します。リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目処理(WRKRDBDIRE)コマンドを使用して、このパラメーターに有効なリレーショナル・データベース名を表示してください。

[トップ](#)

RDBユーザー (USER)

会話を開始した時にリモート・システムに送られるユーザー名を指定します。

*CURRENT

現行ジョブと関連したユーザー名が使用されます。

名前 アプリケーション・リクエスター・ジョブに使用されるユーザー名を指定してください。

[トップ](#)

RDBユーザー・パスワード (PASSWORD)

リモート・システムで使用されるパスワードを指定します。

***NONE**

パスワードは送られません。この値が指定された場合には、**RDBユーザー (USER)**パラメーターに指定されたユーザー名は無効です。

文字値 USERパラメーターに指定されたユーザー名のパスワードを指定します。ブランクのパスワードは、*NONEの指定と同じに扱われます。

トップ

省略時のコレクション (DFTRDBCOL)

テーブル、ビュー、索引、SQLパッケージ、別名、制約、外部プログラム、ノード・グループ、およびトリガーの修飾されていない名前に使用されるスキーマ名を指定します。このパラメーターが適用されるのは、パッケージ内の静的SQLステートメントに対してだけです。

***PGM** SQLパッケージが作成されるプログラムを作成するために使用されるCRTSQLXXX（ここで、XXX = CBL, CBLI, CI, CPPI, PLI, RPG,またはRPGI)コマンドの**省略時のコレクション**パラメーターに指定されたスキーマ名が使用されます。

***NONE**

プログラムをプリコンパイルするために使用されるCRTSQLXXX（ここで、XXX = CBL, CBLI, CI, CPPI, PLI, RPG,またはRPGI)コマンドの**プリコンパイラ・オプション (OPTION)**パラメーターに指定された**命名規則**を使用して、スキーマ名が決定されます。

名前 修飾されていないテーブル、ビュー、索引、SQLパッケージ、別名、制約、外部プログラム、ノード・グループ、およびトリガーに使用されるスキーマ名を指定します。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

作成されるSQLパッケージが関係するプログラムのタイプを指定します。

***PGM** **プログラム (PGM)**パラメーターに指定されたプログラムからSQLパッケージを作成します。

***SRVPGM**

PGMパラメーターに指定されたサービス・プログラムからSQLパッケージを作成します。

トップ

モジュール・リスト (MODULE)

結合済みプログラムのモジュールのリストを指定します。

単一値

***ALL** プログラム中のすべてのモジュールにSQLパッケージが作成されます。プログラム中のどのモジュールにもSQLステートメントが含まれていない場合、あるいはモジュールのどれも配布プログラムでない場合には、エラー・メッセージが送られます。

その他の値 (最大256回の反復)

名前 SQLパッケージが作成されるプログラム内のモジュールを指定します。パッケージ化を必要とする

モジュールが256より多く存在する場合には、複数のCRTSQLPKGコマンドを使用しなければなりません。SQLステートメントを含む少なくとも1つのモジュールを持つプログラムには最大1024個のモジュールを入れることができます。

同じプログラムで重複モジュール名を使用することができます。このコマンドは、プログラム中の各モジュールを検索し、MODULEパラメーターに*ALLまたはモジュール名が指定されている場合には、処理が実行され、SQLパッケージを作成する必要があるかどうか判断されます。モジュールがSQLを使用して作成され、プリコンパイル・コマンドにリレーショナル・データベース (RDB) パラメーターが指定されている場合には、そのモジュールにSQLパッケージが作成されます。そのSQLパッケージは結合済みプログラムのモジュールと関連付けられます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

SQLパッケージおよびその機能を簡単に記述するテキストを指定します。

***PGMTXT**

SQLパッケージが作成されるプログラムのテキストが使用されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

重大度レベル (GENLVL)

SQLパッケージの作成時に検出されたエラーに使用可能な最大の重大度レベルを指定します。指定したレベルを超えるレベルでエラーが起こった場合には、SQLパッケージは作成されません。

10 最大の重大度レベルは10です。

0-40 最大の重大度レベルを指定してください。

[トップ](#)

置き換え (REPLACE)

指定したライブラリー中の同じ名前の既存のSQLパッケージを新しいSQLパッケージで置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 同じ名前の既存のSQLパッケージは、新しいSQLパッケージで置き換えられます。

***NO** 同じ名前の既存のSQLパッケージは置き換えられません。すでに存在している場合には、新しいSQLパッケージは作成されません。

[トップ](#)

印刷ファイル (PRTFILE)

SQLパッケージの作成のエラー・リストが送られる印刷装置ファイルを指定します。SQLパッケージの作成中にエラーが検出されなかった場合には、リストは作成されません。

修飾子1: 印刷ファイル

QSYSPRT

SQLパッケージの作成のエラー・リストは、IBM提供の印刷装置ファイルQSYSPRTに送られます。

名前 SQLパッケージの作成のエラー・リストが送られる印刷装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

印刷装置ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 印刷装置ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

CRTSQLPKGの例

```
CRTSQLPKG PGM(PAYROLL) RDB(SYSTEMA) TEXT('PAYROLL PROGRAM')
```

このコマンドは、リレーショナル・データベースSYSTEMA上の分散SQLプログラムPAYROLLからSQLパッケージを作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CRTSQLPKG

***ESCAPE** メッセージ

SQL9004

SQLパッケージの作成が正常に実行されなかった。

SQL9006

DB2 UDB QUERY MANAGER AND SQL DEVELOPMENT KIT FOR ISERIESがOS/400と同じ導入レベルにありません。

[トップ](#)

ソース物理ファイル作成 (CRTSRCPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ソース物理ファイル作成(CRTSRCPF)コマンドは、ソース物理ファイルを作成します。

ソース物理ファイルには、制御言語(CL)ソース・ステートメントなどのオブジェクトの作成に必要なソース・データが入っていて、これはCLプログラムの作成、あるいはデータベースまたは装置ファイルの作成に順次使用されるデータ記述仕様(DDS)の作成に使用されます。

ソース物理ファイルは1つまたは複数のメンバーを持つことができます。ファイルに追加できるメンバーの最大数は、**メンバーの最大数 (MAXMBRS)**パラメーターで指定します。

制約事項:

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、SYSTEM(*RMT)またはSYSTEM(*FILETYPE)が指定されている場合には、このコマンドはタイプ*SNAの分散データ管理機能 (DDM)ファイルに対してスレッド・セーフではなく失敗します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
RCDLEN	レコード長	整数, <u>92</u>	オプション, 定位置 2
MBR	必要な場合にはメンバー	名前, *NONE, *FILE	オプション, 定位置 3
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *FILETYPE	オプション
EXPDATE	メンバーの満了日	日付, *NONE	オプション
MAXMBRS	メンバーの最大数	整数, *NOMAX	オプション
ACCPHSIZ	アクセス・パス・サイズ	*MAX1TB, *MAX4GB	オプション
ACCPH	アクセス・パス・タイプ	*ARRIVAL, *KEYED	オプション
MAINT	アクセス・パスの保守	*IMMED, *DLY, *REBLD	オプション
RECOVER	アクセス・パス回復	*NO, *AFTIPL, *IPL	オプション
FRACCPH	強制キー順アクセス・パス	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SIZE	メンバー・サイズ	単一値: *NOMAX その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 初期レコード数	1-2147483646, <u>10000</u>	
	要素 2: 増分レコード数	整数, <u>1000</u>	
	要素 3: 最大増分値	整数, <u>499</u>	
ALLOCATE	記憶域割り振り	*NO, *YES	オプション
CONTIG	連続記憶域	*NO, *YES	オプション
UNIT	入れたい記憶装置	1-255, *ANY	オプション
FRCRATIO	強制書き出しレコード数	整数, *NONE	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, <u>60</u> , *IMMED, *NOMAX	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO, *YES	オプション
DLTPCT	許される削除レコードの最大%	1-100, *NONE	オプション
CCSID	コード化文字セットID	整数, *JOB, *HEX	オプション
ALWUPD	更新操作可能	*YES, *NO	オプション
ALWDLT	削除操作可能	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション

トップ

ファイル (FILE)

作成するソース物理ファイルを指定します。

ファイルが高水準言語プログラムで使用される場合には、ファイル名はその言語の命名規則に従うものでなければなりません。そうでない場合には、プログラムの中でファイル名を変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 ソース物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

トップ

レコード長 (RCDLEN)

ソース物理ファイルに記憶されるレコードの長さ（バイト数）を指定します。レコード様式には、ソース順序番号、日付、およびソース・ステートメントの3つのフィールドが入っています。

このパラメーターは、各レコードに必要なソース順序番号フィールドおよび日付フィールドのために12桁を提供します。これらのフィールドは固定属性および名前で定義され、順序番号に対してキー順アクセス・パスをもっています。

92 レコード長は92バイトです。ソース順序番号が6バイト、日付が6バイト、およびソース・ステートメントが80バイトです。

整数 ファイル内の各ソース・レコードのレコード長を指定してください。この値には、ソース順序番号のための6バイトと日付のための6バイトを含めなければなりません。有効な値の範囲は13-32766バイトです。

2バイト文字セットに関する考慮事項

IGCDTA(*YES)を指定した場合には、RCDLENパラメーターはソース順序番号に6桁、日付フィールドに6桁、そしてソースの開始に少なくとも4桁を指定しなければなりません。2バイト文字セット(DBCS)の有効な値の範囲は16 - 32766です。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

ファイルの作成時に追加するソース・ファイル・メンバーを指定します。

***NONE**

ファイルの作成時にメンバーを追加しません。

***FILE** 追加するメンバーの名前は、**ファイル (FILE)**パラメーターに指定された名前と同じです。

名前 追加するメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

ファイルに2バイト文字セット(DBCS)データが入っているかどうかを指定します。

***NO** ファイルにはDBCSデータは使用できません。

***YES** ファイルにDBCSデータが入っています。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

システム (SYSTEM)

ソース物理ファイルがローカル・システムで作成されるかリモート・システムで作成されるかを指定します。

***LCL** ソース物理ファイルはローカル・システム上に作成されます。**ファイル (FILE)**パラメーターに指定されたファイルは、まだシステム上に存在してはいけません。

***RMT** ソース物理ファイルはリモート・システムで作成されます。**FILE**パラメーターに指定されたファイルは、リモート・システムを識別するDDMファイルの名前および作成されるソース物理ファイルの名前でなければなりません。

***FILETYPE**

FILEパラメーターに指定されたファイルがシステムに存在しない場合には、ソース物理ファイルはローカル・システムで作成されます。そうでない場合には、**FILE**パラメーターのファイルはDDMファイルでなければならず、ソース物理ファイルはリモート・システムで作成されます。DDMファイルはリモート・システムおよび作成するソース物理ファイルの名前を識別します。

[トップ](#)

メンバーの満了日 (EXPDATE)

ソース物理ファイルの作成時にソース・ファイル・メンバーを追加する場合には、そのソース・ファイル・メンバーの満了日を指定します。

***NONE**

ファイルに追加されるメンバーには満了日がありません。

日付 追加されるメンバーが次の日から使用できなくなる日付を指定します。

[トップ](#)

メンバーの最大数 (MAXMBRS)

ソース物理ファイルに入れることのできるメンバーの最大数を指定します。

***NOMAX**

ファイルに入れることのできるメンバーの数は、システム最大値32,767個のメンバーです。

整数 ファイルに入れることができるメンバーの最大数を指定してください。有効な値の範囲は1-32767メンバーです。

[トップ](#)

アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)

キー順ソース物理ファイルと関連づけられるアクセス・パスが占有できる補助記憶域の最大サイズを指定します。このパラメーターは、論理ファイル用に作成されるアクセス・パスや、ソース物理ファイル中のデータを参照するQUERYのために作成されるアクセス・パスには適用されません。

***MAX1TB**

このファイルと関連づけられるアクセス・パスは、最大1テラバイト(1,099,511,627,776バイト)の補助記憶域を占有することができます。

***MAX4GB**

このファイルと関連づけられるアクセス・パスは、最大4ギガバイト(4,294,966,272バイト)の補助記憶域を占有することができます。

[トップ](#)

アクセス・パス・タイプ (ACCPH)

ソース物理ファイル内のすべてのメンバーが使用するアクセス・パスのタイプを指定します。

***ARRIVAL**

アクセス・パスは到着順アクセス・パスです。

***KEYED**

アクセス・パスはキー順アクセス・パスです。

[トップ](#)

アクセス・パスの保守 (MAINT)

ソース物理ファイルのすべてのメンバーに対して使用されるアクセス・パスのメンテナンスのタイプを指定します。

***IMMED**

アクセス・パスは、メンバー中のレコードの変更、メンバーへのレコードの追加、またはメンバーからのレコードの削除が行なわれるたびに更新されます。

***REBLD**

ファイル・メンバーがオープンされるたびにアクセス・パスは完全に再作成されます。アクセス・パスは、メンバーがクローズされるまで維持され、メンバーがクローズされると削除されます。

***DLY** アクセス・パスの保守は、物理ファイル・メンバーが使用のためにオープンされるまでは延期されます。アクセス・パスは、ファイルが最後にオープンされた以降に追加、削除、または変更されたレコードについてのみ変更されます。ファイルがオープンされている間は、そのメンバーに対して行なわれたすべての変更は、MAINTパラメーターに何が指定されていても、直ちにそれらのメンバーのアクセス・パスに反映されます。ファイルをオープンする時に再作成時間が長くなるのを防ぐには、アクセス・パスに対する変更数が少ない時にだけ*DLYを指定する必要があります。

クローズと次のオープンの間の変更の数がほぼアクセス・パスのサイズの10パーセントに達すると、システムは変更の保管を停止し、次にファイルがオープンされる時にアクセス・パス全体が再作成されます。

[トップ](#)

アクセス・パス回復 (RECOVER)

アクセス・パス上に即時または遅延保守を備えているファイルの場合に、アクセス・パスの変更中にシステム障害が起こった後で、ファイルの回復処理がいつ実行されるかを指定します。このパラメーターが有効なのは、キー順アクセス・パスを持つファイルの場合だけです。

アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターに*IMMED または*DLYが指定されている場合には、アクセス・パスは初期プログラム・ロード(IPL) (ユーザーがジョブを実行する前)、IPLの終了後 (並行ジョブの

実行中)、または次回のファイル・オープン時に再作成することができます。アクセス・パスの再作成中は、ファイルをジョブで使用することはできません。

IPL中は、アクセス・パス回復一時変更画面に、回復すべきパス、および各パスに対するRECOVERパラメーター値がリストされます。ユーザーは、この画面でRECOVERパラメーター値を一時変更することができます。詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

MAINTパラメーターに*REBLDを指定すると、アクセス・パスは次にファイルがオープンされるときに再作成されます。

***NO** ファイルのアクセス・パスはファイルのオープン時に再作成されます。*NOは固有キーが必要でないすべてのファイルの省略時の値です。

***AFTIPL**

初期プログラム・ロード(IPL)操作が完了した後で、ファイルのアクセス・パスが再作成されます。このオプションによって、このファイルを使用しない他のジョブはIPLの完了直後に処理を開始することができます。ジョブがアクセス・パスの再作成中にファイルを割り振ろうとすると、ファイル・オープン例外が起こります。固有キーが必要なファイルの場合の省略時の値は*AFTIPLです。

***IPL** ファイルのアクセス・パスは、IPL操作時に再作成されます。これにより、最初のユーザー・プログラムがファイルを使用しようとする前に、ファイルのアクセス・パスが再作成されるようになります。しかし、RECOVER(*IPL)を指定するすべてのファイルのアクセス・パスが再作成されるまでは、ジョブは実行を開始することはできません。

トップ

強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)

アクセス・パスの変更をソース物理ファイルの関連レコードと一緒に補助記憶装置に強制書き出しするかどうかを指定します。

***NO** アクセス・パスが変更されても、アクセス・パスおよび関連レコードは補助記憶装置に書き出されません。

***YES** アクセス・パスが変更されると、アクセス・パスおよび関連レコードが補助記憶装置に書き出されます。アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターに*REBLDが指定されている場合には、*YESを指定することはできません。

トップ

メンバー・サイズ (SIZE)

ファイルの各メンバーの初期レコード数、メンバー・サイズに追加される各部分のレコード数、および追加された部分が自動的に適用される回数を指定します。各ファイル・メンバーのレコード数は、メンバーに入ることができるレコード数として指定します (この数には削除済みレコードが含まれます)。

レコードの最大数に達すると、(メンバーがいっぱいであることを告げる)メッセージがシステム操作員に送られ、要求を終了するのか、あるいはメンバー・サイズを拡張するのかが選択できるようにします。メッセージが受け取られるたびに、操作員は、メンバーを10%、あるいは増分値で指定されたレコード数のいずれか大きい方だけ拡張することができます。

単一値

***NOMAX**

ファイルの各メンバーに追加できるレコード数は、ユーザーによって制限されません。各メンバーの最大サイズは、システムによって決定されます。***NOMAX**が指定されている場合には、**記憶域割り振り (ALLOCATE)**パラメーターに***NO**を指定しなければなりません。

要素1: 初期レコード数

各メンバーの初期レコード数を指定してください。

10000 最初に、最大10,000のレコードをファイルの各メンバーに書き出すことができます。

1-2147483646

メンバー・サイズが自動的に拡張される前に、ファイルの各メンバーに書き込むことのできるレコード数を指定してください。

要素2: 増分レコード数

メンバーのレコード数が初期メンバー・サイズより大きい場合にメンバーに自動的に追加されるレコードの数を指定します。増分値の最小サイズはレコードの最大数に達した時点のメンバーのサイズの10%です。

1000 ファイル・サイズは、10%または1000レコードのどちらか大きい方で増やされます。

整数 レコードの最大数に達した時に追加するレコード数がメンバーのサイズの10%より大きい場合に、自動的にメンバーに追加する追加のレコード数を指定してください。

指定された数がメンバー・サイズの10%より大きくなり、ゼロと等しくない場合には、メンバー・サイズが10%ずつ増加されます。

指定された増分値が0の場合には、メンバーは自動的に拡張されません。増分の数の値が0の場合には、この値も0でなければなりません。

要素3: 最大増分値

メンバーに自動的に追加することのできる最大増分回数を指定します。

499 最大499回の増分がメンバー・サイズに自動的に追加されます。

整数 メンバー・サイズに自動的に追加される最大増分回数を指定してください。有効な値の範囲は0-32767です。0を指定した場合には、メンバーは自動的に拡張されません。

[トップ](#)

記憶域割り振り (ALLOCATE)

ファイルに追加された各物理ファイル・メンバーに初期記憶スペースが割り振られるかどうかを指定します。この割り振りでは、**メンバー・サイズ (SIZE)**パラメーターに指定されたレコード数を保持するだけの十分なスペースが提供されます。その容量を超えないでメンバーにレコードを追加できない時に起こる割り振りは、システムおよび**SIZE**パラメーター値によって決定されます。

***NO** ファイルに追加された各メンバーに割り振る記憶スペースの容量は、システムによって決定されず。

YES** 新しいメンバーが追加されるたびに、**SIZE**パラメーターの最初の値に指定された容量の記憶スペースが割り振られます。YES**が指定された場合には、**SIZE**パラメーターに***NOMAX**を指定してはいけません。

入れたい記憶装置 (UNIT)

このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、OS/400オペレーティング・システムのバージョン3リリース6 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。補助記憶域プール(ASP)の使用法については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

このパラメーターには値*ANYまたは1-255の値を指定することができます。

強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)

補助記憶域に強制的に書き出される前に処理される挿入または更新済みレコードの数を指定します。

論理ファイルに対して指定する強制書き出し率を、その基礎となるファイルの最小強制書き出し率より小さいか等しくすることはできません。より大きい強制書き出し率を指定した場合には、それは無視され、ユーザーに処置を指示するメッセージが出されます。

たとえば、3つの物理ファイルの強制書き出し率が2, 6,および8,である場合には、これらの3つの物理ファイルに基づく論理ファイルの強制書き出し率はそれらの最小のものに限定しなければなりません。すなわち、この場合は2です。FRCRATIOパラメーターが指定されていない場合でも2が使用されます。このように、プログラムが論理ファイルに2つのレコードを挿入、更新、または削除するたびに（基礎となるどの物理ファイルが影響を受けるかに係わらず）、これらのレコードは強制的に永続記憶域に入られます。

この論理ファイルに関連する物理ファイルをジャーナル処理する場合には、大きい強制書き出し率または*NONEを指定します。ジャーナル管理の詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

*NONE

強制書き込み率を指定しません。どの時点でレコードが補助記憶域に書き出されるかは、システムによって決定されます。

整数 補助記憶域に書き出される前に処理される挿入または更新済みレコードの数を指定してください。

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

*IMMED

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1-32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

プログラムがレコードの変更または削除を待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にレコードを割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

60 プログラムはレコードの変更または削除を60秒間待機します。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***NOMAX**

待機時間は、システムで使用可能な最大で、32767秒です。

整数 プログラムがレコードの変更または削除を待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1-32767秒です。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

注: メンバー (MBR)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

許される削除レコードの最大% (DLTPCT)

ソース物理ファイル内の各メンバーに対する削除済みレコードの最大比率を指定します。比率の検査はメンバーのクローズ時に行なわれます。削除済みレコードの比率がこのパラメーターで指定した値より大きい場合には、ジョブ・ログにメッセージが送られます。

***NONE**

ファイル・メンバー中の削除レコードの比率は検査されません。

1-100 ファイル内の任意のメンバーに対する削除済みレコードの最大許容比率を指定してください。

[トップ](#)

コード化文字セットID (CCSID)

ソース・ファイルのフィールドの文字データを記述するために使用されるコード化文字セット識別コード (CCSID)を指定します。

***JOB** 現行ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、フィールドの文字データがビット・データとして扱われ、変換されないことを示します。

整数 使用するCCSIDを指定してください。

[トップ](#)

更新操作可能 (ALWUPD)

このソース物理ファイルのレコードを更新できるかどうかを指定します。

***YES** このソース・ファイル中のレコードを更新することができます。

***NO** このソース・ファイルのレコードを更新することはできません。

[トップ](#)

削除操作可能 (ALWDLT)

このソース物理ファイルのレコードを削除できるかどうかを指定します。

***YES** このソース・ファイル中のレコードを削除することができます。

***NO** このソース・ファイルのレコードは削除することができません。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

CRTSRCPFの例

例1: メンバーなしのファイルの作成

```
CRTSRCPF FILE(SRCLIB/PAYTXS)
```

このコマンドは、SRCLIBライブラリーにPAYTXSという名前のソース・ファイルを作成します。このファイルはメンバーなしで作成されるので、後でメンバーが追加されるまでデータをファイルに入れることはできません。このファイルには、32,767個までのメンバー(*NOMAX)を追加できます。

メンバーの容量に1000レコードを追加する自動拡張(最大増分499)が行われるまで、それぞれのメンバーは最大10000レコードを持つことができます。各メンバーには最小初期記憶域だけが割り振られ、スペースが接続されるかどうかの制限はありません。ユーザーはこのファイルに対するオブジェクト操作、読み取り、追加、削除、および更新権限を持っていますが、オブジェクト管理またはオブジェクト存在権限はありません。

例2: メンバーを持つファイルの作成

```
CRTSRCPF FILE(ORDERCTL/ORDERS) MBR(*FILE) SIZE(100 50 5)
```

このコマンドは、ORDERCTLライブラリーにORDERSという名前のソース物理ファイルを作成します。ファイルに入れられるレコードの記憶スペースが連続している必要はありません。記憶域の初期割り振りでは最大100レコード分が提供され、50レコードごとに最大5つの追加増分スペースを自動的に追加することができます。これらの割り振り値は、後で追加されるこのソース・ファイルの各メンバーにも適用されます。

例3: DBCSデータが入っているファイルの追加

```
CRTSRCPF FILE(IGCLIB/IGCSRC) IGCDTA(*YES)
```

このコマンドは、IGCSRCという名前のソース物理ファイルを作成します。これは、ライブラリーIGCLIBに保管され、DBCSデータを入れることができます。

トップ

エラー・メッセージ： CRTSRCPF

*ESCAPEメッセージ

CPF323C

QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

サービス・プログラムの作成 (CRTSRVPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・プログラム作成(CRTSRVPGM)コマンドは、1つのセットのモジュールとバインド・ディレクトリーからバインドされたサービス・プログラムを作成します。

制約事項:

- サービス・プログラムを作成するライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限が必要です。
- 指定されたモジュール、サービス・プログラム、およびバインド・ディレクトリーに対して使用(*USE)権限が必要です。
- ソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターに指定されたファイルに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および*READ権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRVPGM	サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サービス・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
MODULE	モジュール	単一値: *SRVPGM その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
EXPORT	エクスポート	*SRCFILE, *ALL	オプション
SRCFILE	ソース・ファイルのエクスポート	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソース・ファイルのエクスポート	名前, QSRVSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバーのエクスポート	名前, *SRVPGM	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
BDSRVPGM	サービス・プログラムのバインド	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サービス・プログラムのバインド	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	

キーワード	記述	選択項目	注
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB, *USRLIBL	
ACTGRP	活動化グループ	名前, *CALLER	オプション
OPTION	作成オプション	値 (最大 5 回の繰り返し): *GEN, *NOGEN, *NODUPPROC, *DUPPROC, *NODUPVAR, *DUPVAR, *WARN, *NOWARN, *RSLVREF, *UNRSLVREF	オプション
DETAIL	明細のリスト	*NONE , *BASIC, *EXTENDED, *FULL	オプション
ALWUPD	更新可能	*YES , *NO	オプション
ALWLIBUPD	*SRVPGMライブラリー更新可能	*YES, *NO	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER , *OWNER	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*YES , *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT , *PRV	オプション
ALWRINZ	再初期設定可能	*NO , *YES	オプション
STGMDL	ストレージ・モデル	*SINGLVL , *TERASPACE, *INHERIT	オプション
IPA	プロシージャ間分析	*YES, *NO	オプション
IPACTLFILE	IPA制御ファイル	パス名, *NONE	オプション

トップ

サービス・プログラム (SRVPGM)

作成するサービス・プログラム・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サービス・プログラム

名前 作成するサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

サービス・プログラムはジョブの現行ライブラリー内に作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サービス・プログラムが作成されるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

モジュール (MODULE)

サービス・プログラム・オブジェクトを作成するために複製されてバインドされるモジュールのリストを指定します。重複するモジュールおよびライブラリーの指定が見つかった場合には、重複するモジュールおよびライブラリーの最初に見つかったものだけが使用されます。このリストのモジュールは、最終サービス・プログラム・オブジェクトに複製されます。最大300の名前を指定することができます。

単一値

***SRVPGM**

サービス・プログラム (**SRVPGM**)パラメーターに指定されたモジュールおよびライブラリー名が使用されます。

修飾子1: モジュール

***ALL** 指定した1つまたは複数のライブラリーで、すべてのモジュール・オブジェクトを検索します。

総称名 指定した1つまたは複数のライブラリーで、前に*がある文字で始まるすべてのモジュール・オブジェクトを指定してください。

名前 サービス・プログラム・オブジェクトの作成のために複製されるモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

エクスポート (EXPORT)

このサービス・プログラムがエクスポートするデータおよびプロシージャの名前を指定します。

***SRCFILE**

ソース・ファイル (**SRCFILE**)およびソース・メンバー (**SRCMBR**)パラメーターで識別されたソース・ファイル・メンバーには、サービス・プログラムからエクスポートするデータおよびプロシージャを識別するEXPORTステートメントが入っています。

***ALL** また、指定されたモジュールからエクスポートされるすべてのデータおよびプロシージャも、このサービス・プログラムからエクスポートされます。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

このサービス・プログラムからデータおよびプロシージャをエクスポートするための仕様が入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイルのエクスポート

QSRVSRC

データおよびプロシージャをエクスポートするための仕様が入っているソース・ファイルは QSRVSRC という名前です。

名前 データおよびプロシージャのエクスポートのための仕様が入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

このサービス・プログラムからデータおよびプロシージャをエクスポートするための仕様が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

*SRVPGM

ソース・ファイル・メンバーの名前は、サービス・プログラム (SRVPGM) パラメーターに指定されたサービス・プログラム名と同じです。

名前 データおよびプロシージャをエクスポートするための仕様が入っているソース・ファイルのメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

サービス・プログラム・オブジェクトを簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)

モジュールのインポート要求が満たされているかどうかを確認するために、バインド時に調べるサービス・プログラムのエクスポートのリストを指定します。サービス・プログラムのエクスポートが検査されるのは、一連のモジュールのエクスポートによって満たされない未解析のモジュールのインポート要求がある場合だけです。BNDSRVPGM パラメーターに指定したモジュールのインポート要求を満たしているサービス・プログラムは、作成されるサービス・プログラムにバインドされます。BNDSRVPGMパラメーターに指定したサービス・プログラム名およびライブラリーは、実行時に使用するために保管されます。最大300の名前を指定することができます。

単一値

*NONE

記号の分析解決のためにサービス・プログラムは提供されません。

修飾子1: サービス・プログラムのバインド

***ALL** 指定した1つまたは複数のライブラリーですべてのサービス・プログラム・オブジェクトを検索します。

注: この値をユーザー制御環境で指定する必要があるのは、何がサービス・プログラムにバインドされるのか正確に分かっている場合だけです。*ALLと一緒に*LIBL を指定すると、サービス・プログラムの実行時に予測できない結果が起こる場合があります。何がサービス・プログラムにバインドされるのかをより正確に制御するには、総称サービス・プログラム名または特定のライブラリーを指定してください。

総称名 指定した1つまたは複数のライブラリーで、前に*がある文字で始まるすべてのサービス・プログラム・オブジェクトを指定してください。

名前 記号の分析解決時に検査されるサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 指定されたサービス・プログラムのジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。サービス・プログラムの1つに、モジュール・インポートを満たすエクスポートがある場合には、このサービス・プログラムを見つけるために、実行時にライブラリー・リストが検索されます。

名前 サービス・プログラムを見つけるライブラリーの名前を指定してください。サービス・プログラムの1つに、モジュール・インポートを満たすエクスポートがあり、特定のライブラリーが指定された場合には、実行時に指定されたライブラリーを検索して、このサービス・プログラムを見つけます。

注: QTEMPは、このパラメーターで有効なライブラリー名ではありません。

[トップ](#)

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

記号の分析解決に使用されるバインド・ディレクトリーのリストを指定します。最大300の名前を指定することができます。

単一値

***NONE**

バインド・ディレクトリーは指定されません。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 記号の分析解決に使用されるバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

活動化グループ (ACTGRP)

活動化グループを呼び出す時に、このサービス・プログラムと関連している活動化グループを指定します。活動化グループは次を提供します。

- プログラムの実行をサポートするための実行時データ構造
- アドレッシング保護
- メッセージを作成するための論理境界
- 適用業務のクリーンアップを処理するための論理境界

***CALLER**

このサービス・プログラムが呼び出される時に、サービス・プログラムは呼び出し元の活動化グループで活動化されます。

名前 呼び出されるこのサービス・プログラムと関連したグループの名前を指定してください。サービス・プログラムが呼び出される時に、活動化グループが指定された名前で現在存在している場合には、サービス・プログラムはすでに存在している既存の活動化グループと関連付けられます。サービス・プログラムが呼び出される時に、活動化グループが指定された名前で現在存在しない場合には、新しい活動化グループが作成されて、サービス・プログラムは新しく作成された活動化グループと関連付けられます。

[トップ](#)

作成オプション (OPTION)

サービス・プログラム・オブジェクトを作成する時に使用されるオプションを指定します。

このパラメーターには最大5個までの値を指定することができます。

サービス・プログラム・オブジェクト

***GEN** サービス・プログラム・オブジェクトが生成されます。

***NOGEN**

サービス・プログラム・オブジェクトは生成されません。

重複プロシージャ名

***NODUPPROC**

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる各プロシージャ名は固有でなければなりません。

***DUPPROC**

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされるプロシージャ名が固有である必要はありません。複数の重複プロシージャが許される場合には、インポート要求を満たす、指定されたモジュールおよびサービス・プログラムのリストで最初のエクスポート・プロシージャが、選択されるプロシージャとなります。

重複変数名

***NODUPVAR**

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる各変数名は固有でなければなりません。

***DUPVAR**

バインド・プロセスの記号の分析解決段階では、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる変数名が固有である必要はありません。複数の重複変数が許される場合には、インポート要求を満たす、指定されたモジュールおよび要求サービス・プログラムのリスト中の最初のエクスポート変数が選択される変数となります。

診断メッセージの表示

***WARN**

重複している変数またはプロシージャが見つかった場合には、重複が見つかったことを示す診断メッセージが出されます。

***NOWARN**

重複している変数またはプロシージャが見つかった場合には、診断メッセージが出されません。

参照の解決 (インポート)

***RSLVREF**

サービス・プログラムを作成するためのエクスポートには、すべてのインポートが分析解決されていなければなりません。

***UNRSLVREF**

サービス・プログラムを作成するためのエクスポートには、すべてのインポートが分析解決されている必要はありません。実行時にサービス・プログラムがこれら未解決の1つのインポートを使用しようとした場合には、MCH4439実行時例外が出されます。

トップ

明細のリスト (DETAIL)

印刷する詳細のレベルを指定します。

***NONE**

リストは生成されません。

***BASIC**

CRTPGMに渡すオプションのリスト，および処理統計が入っています。また，このリストには，簡単な要約表も入っています。

***EXTENDED**

*BASICリストに提供される情報の他に，このリストには，拡張要約表およびバインド情報リストも入っています。

***FULL** このリストには，*EXTENDEDリストおよび相互参照表が入っています。

注：印刷リストが要求された場合には，印刷装置ファイル*LIBL/QSYSPRTを使用してリストが生成されます。

トップ

更新可能 (ALWUPD)

サービス・プログラム更新(UPDSRVPGM)コマンドを使用した作成中のサービス・プログラムの更新が可能かどうかを指定します。

***YES** サービス・プログラムはUPDSRVPGMコマンドを使用して更新することができます。

***NO** 作成中のサービス・プログラムを更新するために，UPDSRVPGMコマンドは使用することができません。

トップ

*SRVPGMライブラリー更新可能 (ALWLIBUPD)

UPDSRVPGMコマンドを使用して更新する時に，作成中プログラムのバインドされたサービス・プログラム・ライブラリー名を変更できるかどうかを指定します。

***NO** 更新可能 (ALWUPD)パラメーターに*YESが指定されている場合であっても，UPDSRVPGMコマンドで作成中サービス・プログラムのバインドされたサービス・プログラム・ライブラリー名を更新することはできません。

***YES** ALWUPD(*YES)が指定されている時に，UPDSRVPGMコマンドで作成中プログラムのバインドされたサービス・プログラム・ライブラリー名を更新することができます。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

権限の検査はこのサービス・プログラムを実行しているユーザーについてだけ行うか，あるいはサービス・プログラムを実行しているユーザーとサービス・プログラムの所有者の両方について行うかを指定します。

***USER**

サービス・プログラムの実行時に，サービス・プログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルが使用されます。

*OWNER

サービス・プログラムの実行時に、サービス・プログラム所有者とサービス・プログラム・ユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。

[トップ](#)

プログラムの置き換え (REPLACE)

指定したライブラリーに同じ名前のサービス・プログラムがすでに存在している場合に、既存のサービス・プログラムを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のサービス・プログラムをQRPLIBライブラリーに移動して、これを置き換えます。サービス・プログラムの現在の活動化は、QRPLIBライブラリー内のサービス・プログラムのバージョンを使用して実行し続けます。

注: 処理のために置き換えられる両方のサービス・プログラムは、同じユーザーが所有していなければなりません。

***NO** 置き換えは行なわれません。サービス・プログラム (SRVPGM) パラメーターに指定された名前とライブラリーをもつサービス・プログラムがすでに存在している場合は、エラー・メッセージが出されます。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUT パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限 (*OBJEXIST) およびオブジェクト管理権限 (*OBJMGT) によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE 権限は、オブジェクト操作 (*OBJOPR) 権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理 (*AUTLMGT) 権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用 (*USE) 権限は、オブジェクト操作 (*OBJOPR)、読み取り (*READ)、および実行 (*EXECUTE) 権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトの使用を計画しているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムで使用することができます。

[トップ](#)

再初期設定可能 (ALWRINZ)

サービス・プログラムがまだ活動状態である間に、そのサービス・プログラムの静的記憶域を再初期設定できるかどうかを指定します。

***NO** サービス・プログラムがまだ活動状態である間は、そのサービス・プログラムの静的記憶域を再初期設定することはできません。

***YES** サービス・プログラムがまだ活動状態である間に、そのサービス・プログラムの静的記憶域の再初期設定が可能です。

[トップ](#)

ストレージ・モデル (STGMDL)

サービス・プログラムの記憶域モデル属性を指定します。

***SNGLVL**

サービス・プログラムは単一レベル記憶域モデルで作成されます。単一レベル記憶域モデル・サービス・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用の単一レベル記憶域が提供されます。単一レベル記憶域サービス・プログラムは単一レベル記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。

***TERASPACE**

サービス・プログラムはテラスペース記憶域モデルで作成されます。テラスペース記憶域モデル・サービス・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用のテラスペース記憶域が提供されます。テラスペース記憶域サービス・プログラムはテラスペース記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。

***INHERIT**

サービス・プログラムは継承記憶域モデルで作成されます。サービス・プログラムは、活動化されると、それが活動化されて入れられる活動化グループの記憶域モデルを採用します。言い換えれば、呼び出し元の記憶域モデルを継承します。*INHERIT記憶域モデルを選択する場合は、*CALLERを活動化グループ (ACTGRP)パラメーターに指定する必要があります。

トップ

プロシージャ間分析 (IPA)

サービス・プログラムの作成時にプロシージャ間分析(IPA)を使用するかどうかを指定します。IPAの詳細については、ILE概念 (SD88-5033)を参照してください。

***NO** プロシージャ間分析は実行されません。

***YES** プロシージャ間分析が実行されます。結果のサービス・プログラムはサービス・プログラム更新 (UPDSRVPGM)コマンドでは更新できないので、注意してください。

トップ

IPA制御ファイル (IPACTLFILE)

プロシージャ間分析(IPA)サブオプション情報が入っているファイルのパス名を提供します。このパラメーターは、IPA(*YES)が指定された時にだけ有効です。

***NONE**

IPA(*YES)が指定されている時には、IPA制御ファイル情報は使用されません。

パス名 IPA(*YES)が指定された時に使用するIPA制御ファイルのパス名を指定してください。名前が修飾名の場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾IPA制御ファイル名の例は '/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYIPACTLFILENAME' などです。

トップ

CRTSRVPGMの例

CRTSRVPGM SRVPGM(WORKDOC)

このコマンドは、WORKDOCという名前のサービス・プログラム・オブジェクトを現行ライブラリーに作成します。このサービス・プログラムは、これもWORKDOCという名前で、ジョブの現行ライブラリーを使用して見つけれられる1つのモジュール・オブジェクトから作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTSRVPGM

*ESCAPEメッセージ

CPF223E

借用権限の使用属性の権限チェックが正常に実行されなかった。

CPF5D05

サービス・プログラム&1は作成されなかった。

CPF5D07

搬出ソース・ファイル・レコード長が240より大きい。

CPF5D12

プログラムまたはサービス・プログラムの準備中にエラーが起こった。

[トップ](#)

テープ・カテゴリの作成 (CRTTAPCGY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・カテゴリ作成(CRTTAPCGY)コマンドは、ユーザー定義カテゴリ名を作成し、それをシステム名に割り当てます。カテゴリは、ボリューム識別コードをまとめて「グループ化」するために使用することができます。次の特殊なカテゴリ値はOS/400システムで使用するように提供されていて、すでにすべてのライブラリー装置のために定義されています。

- *NOSHARE

ボリューム識別コードは、*NOSHAREの権限を所有するシステムによってのみ使用することができます。ランダム・アクセス・カートリッジ・ローダー(RACL)モードのRACL装置は、*NOSHAREカテゴリにカートリッジ識別コードを持つことができますが、*NOSHAREの機密保護はOS/400システムでは扱われないことに注意してください。

- *SHARE400

カートリッジ識別コードは、ライブラリー装置に接続されたすべてのシステムで共用することができます。

- *IPL

このカテゴリは、代替IPLで使用されるカートリッジ識別コードに使用しなければなりません。このカテゴリのカートリッジの管理は、ユーザーが行わなければなりません。

- *NL

このカテゴリのカートリッジ識別コードは、それを使用するための論理ボリューム識別コードを持ってはなりません。論理ボリューム識別コードを持っていた場合には、それを使用できるようにするには、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを実行して、テープ・ボリュームをラベルなしテープに初期設定しなければなりません。

- *INSERT

カートリッジ識別コードはライブラリー装置に入れられていますが、まだシステムに追加されていません。テープ・ボリュームに入出力を行うには、その前にテープ・カートリッジ追加(ADDTAPCTG)コマンドを実行しなければなりません。

- *EJECT

ボリューム識別コードはテープ・カートリッジ除去(RMVTAPCTG)コマンドによってシステムから除去されていて、ライブラリー装置で使用できなくなっています。

- *CNV

このカテゴリのテープがENDOPT(*UNLOAD)を指定してアンロードされると、OS/400は自動的にテープを通常端末にエクスポートします。

- *SYSGEN

カートリッジIDは*SYSGENカテゴリに存在しています。ライブラリー装置記述が*SYSGENモードになっていると、*SYSGENカテゴリはすべてのカートリッジに使用されます。装置記述のGENCTGIDパラメーターが*SYSGENである場合には、ライブラリー装置記述は*SYSGENモードになっています。*SYSGENモードは、すべての論理ボリューム識別コードのテープからの直接のロードおよび読み取りの代わりに、非バーコード・ライブラリーの識別コードを生成するために使用されます。ライブラリー装置が*SYSGENモードになっている場合には、カートリッジは*SYSGENカテゴリから移動できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CGY	カテゴリ	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: カテゴリ名	文字値	
	要素 2: カテゴリ・システム	文字値, *CURRENT	

トップ

カテゴリ (CGY)

作成するカテゴリを指定します。

カテゴリ名値として指定できる値は次の通りです。

カテゴリ名

作成するカテゴリの名前を指定してください。

可能なカテゴリ・システムの値は次の通りです。

カテゴリが属するシステムを識別します。システム名は、ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドの現行システム名フィールドから取られます。

***CURRENT**

現在コマンドを実行中のシステム。

システム名

カテゴリが所属するシステムの名前を指定してください。カテゴリが指定のシステムですでに定義されていない限り、カテゴリを作成する時に、*CURRENT以外の所有システムを指定しないでください。たとえば、システムAとシステムBがライブラリー装置LIB01に接続されている場合には、カテゴリCAT1を作成し、その所有者としてシステムAを割り当てるCRTTAPCGY CGY(CAT1 A)をシステムBで実行する前に、カテゴリCAT1を作成し、その所有者としてシステムAを割り当てるCRTTAPCGY CGY(CAT1 A)をシステムAで実行しなければなりません。これらの作成コマンドの両方が正常に実行された場合には、システムAによって所有されるCAT1は、論理的に同じカテゴリと見なされ、ライブラリーLIB01のカートリッジに使用することができます。

トップ

CRTTAPCGYの例

CRTTAPCGY CGY(CAT1 RCHAS215)

このコマンドは、ユーザー定義のCAT1という名前のカテゴリを作成し、その基本所有者システムとしてRCHAS215を割り当てます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTTAPCGY

*ESCAPE メッセージ

CPF67DD

カテゴリが作成されなかった。

CPF67E2

カテゴリがすでに存在している。

[トップ](#)

テープ・ファイル作成 (CRTTAPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ装置ファイル作成(CRTTAPF)コマンドはテープ装置ファイルを作成します。この装置ファイルには、使用される装置を識別するファイル記述が入っており、データは入っていません。テープ装置ファイルはテープ上のレコードを読み書きするために使用されます。入力および出力操作の両方に同じ装置ファイルを使用することができます。

注: このコマンドは、保管または復元操作に使用する装置ファイルの作成には使用されません。保管または復元操作には、ユーザー作成の装置ファイルは必要ありません。

テープ・ファイルにはデータ記述仕様(DDS)は入っていません。テープ・ファイル記述の中の情報は、それを作成したコマンドから得られます。テープ・ファイルは入出力操作に対する1つのレコード様式をもっています。レコード様式は、装置から検索された入力データまたは装置に書き出される出力データが入っている1桁のフィールドから成っています。装置ファイルを使用するプログラムは、テープ・ファイル記述によって指定された方法で装置との間で送受信されたデータを調整できるように、レコード様式にフィールドを記述しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
DEV	テープ装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
REELS	テープ・リール仕様	要素リスト	オプション
	要素 1: ラベル処理タイプ	*SL, *NL, *NS, *BLP, *LTM	
	要素 2: リールの数	1-255, 1	
SEQNBR	順序番号	1-16777215, 1, *END, *NEXT	オプション
LABEL	テープ・ラベル	文字値, *NONE	オプション
FILETYPE	ファイル・タイプ	*DATA, *SRC	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
RCDLEN	レコード長	整数, *CALC	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-524288, *CALC	オプション
BUFOFSET	バッファー・オフセット	整数, 0, *BLKDSC	オプション
RCDBLKfmt	レコードのブロック形式	*FB, *F, *V, *VB, *D, *DB, *VS, *VBS, *U	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
EXTEND	拡張	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル拡張	*YES	
	要素 2: ファイル検査	*NOCHECK , *CHECK	
DENSITY	テープ密度	文字値, *DEVTYPE , *CTGTYPE , *FMT3480 , *FMT3490E , *FMT3570 , *FMT3570E , *FMT3590 , *FMT3590E , *QIC120 , *QIC525 , *QIC1000 , *QIC2GB , *QIC2DC , *QIC4GB , *QIC4DC , *QIC3040 , *QIC5010 , *MLR3 , *SLR60 , *SLR100 , *FMT2GB , *FMT5GB , *FMT7GB , *FMT20GB , *FMT60GB , *ULTRIUM1 , 1600, 3200, 6250	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV , *NO	オプション
CODE	コード	*EBCDIC , *ASCII	オプション
CRTDATE	作成日	日付, *NONE	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *NONE , *PERM	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND , *LEAVE , *UNLOAD	オプション
USRLBLPGM	ユーザー・ラベル・プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・ラベル・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *IMMED , *CLS	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO , *YES	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *ALL , *CHANGE , *EXCLUDE , *USE	オプション
REPLACE	ファイルの置き換え	*YES , *NO	オプション

トップ

ファイル (FILE)

作成するテープ装置ファイルを指定します。

ファイルを高水準言語プログラムで使用する場合には、ファイル名はその言語の命名規則に従うものでなければなりません。そうでない場合には、プログラム自体の中でファイル名を変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 作成するテープ装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

テープ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 テープ・ファイルを入れるライブラリーを指定してください。

トップ

装置 (DEV)

データの読み取りおよび書き出し操作を実行するためにこのテープ装置ファイルで使用される1つまたは複数のテープ装置あるいは1つの媒体ライブラリー装置の名前を指定します。媒体ライブラリー装置は、1つ以上のテープ駆動機構、テープ・カートリッジ、およびカートリッジ保管スロットとテープ駆動機構間でテープ媒体を移動するための部分（キャリアッジとピッカーの組み立て品）から成るテープ記憶装置です。

単一値

*NONE

装置名は指定されません。装置名は後からテープ・ファイル変更(CHGTAPF)またはテープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンドで指定するか、あるいはファイルをオープンする高水準言語プログラムで指定しなければなりません。

その他の値

名前 このテープ装置ファイルで使用される最大4つの装置の名前または1つの媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。ここで指定される装置名の順序は、装置上のテープが処理される順序です。処理されるボリュームの数がこのパラメーターにリストされた装置の数を超えている時には、指定された順に装置が使用され、必要に応じて最初の装置に循環します。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルによって使用される1つまたは複数のボリューム識別コードを指定します。ボリュームは、ここで指定される（またDEVパラメーターに指定される）識別コードと同じ順序で導入されなければなりません。ファイルが逆方向読み取りのためにオープンされている場合には、リスト中のボリューム識別コードは最後から最初に処理されます（しかし、装置リストの装置は最初から最後の順に使用されます）。ファイルにボリューム識別コードのリストが提供されている場合には、操作員メッセージで必要なボリュームの名前が示されます。

単一値

*NONE

このファイルにはテープ・ボリューム識別コードは指定されません。これらは、装置ファイルをオープンする前に、CHGTAPFまたはOVRTAPFコマンド、あるいは高水準言語プログラムのいずれかで提供されます。装置ファイルをオープンする前にボリューム識別コードが指定されない場合には、正しいラベル・タイプ・ボリュームが装置上にあること、およびボリューム名が操作員メッセージの中に入っていないことを確認した後のボリューム検査が実行されません。VOL(*NONE)が指定されている時に、*NL、*NS、*BLP、または*LTM入力ファイルについて処理される最大リール数は、REELS(リールの数)パラメーター値によって決まります。

その他の値（最大50個指定可能）

文字値 1つまたは複数のボリュームの識別コードを、それらが装置に入れられている順序で指定してください。各ボリューム識別コードには、最大6個の英数字が入っています。複数の識別コードをリストする時には、区切り文字としてブランクを使用してください。最大50個までのボリューム識別コードを指定することができます。これらの識別コードは、処理中に操作員に送られるメッセージで使用されます。*NL、*NS、*BLP、または*LTMの入力ファイルで処理されるリールの最大数は、リスト中のボリューム識別コードの数によって決定されます。

注: ファイルに使用されるVOLパラメーターの値がVOL(*NONE)ではなく、識別コードのリストを指定している場合には、REELSパラメーターの「リールの数」の部分は、指定される位置に関係なく無視されます。一時変更が使用された時にファイルのパラメーター値がどのように決定されるかについての説明、高水準言語インターフェースの説明、およびファイルをオープンした時の装置ファイルについての説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックにあります。テープ装置ファイルによって処理されるボリュームを制御するために (VOL識別コードのリストではなく) REELSパラメーターのリール数部分が使用されるようにするためには、REELSパラメーターを指定したのと同じコマンドにVOL(*NONE)を指定してください。

トップ

テープ・リール仕様 (REELS)

ボリューム識別コードのリストが指定されていないで (VOLパラメーター)、この装置ファイルが*NL, *NS, *LTM,または*BLP入力ファイルのいずれかで使用されている場合に、テープ・リールで使用されるラベル付けのタイプ、および処理される最大リール数を指定します。リール数がこのパラメーターの2番目の要素として指定されている時に、ラベル付きテープを処理する場合には、ボリューム上のボリューム識別コードは無視されます。その代りに、装置にリールを入れる順序を操作員がチェックしなければなりません。

「リールの数」の値は標準ラベルまたは出力ファイルに対する限定値ではありません。標準ラベルの入力ファイルの場合には、データ・ファイルのラベルは、ファイルの終わりを示すことによって処理されるボリュームの数を制限します。出力ファイルの場合には、リールの数の値は無視されます。システムは、ファイルがクローズされるまで追加のボリュームを装置上に保持するように要求します。

システムは、テープ上のロード・ポイントの後の最初のレコードを検査して、(1) EBCDICの場合に80バイトちょうど、ASCIIの場合に少なくとも80バイト入っているかどうか、(2)最初の4バイトに値のVOLと1が入っているか確認します。その場合には、リールに標準ラベルが入っています。*SLおよび*BLPファイルには標準ラベルのテープ・ボリュームが必要です。*NL, *NS,および*LTMのテープ・ファイルは、標準ラベル・ボリュームを処理することはできません。

注: 値*SL, *NL,および*LTMは、装置ファイルがテープ上での読み取りまたは書き出しに使用される場合に指定することができます。値*NSおよび*BLPは、装置ファイルがテープの読み取りに使用される場合にだけ有効です。

要素1: ラベル処理タイプ

***SL** ボリュームは標準のラベルをもっています。ボリューム識別コードのリストが (VOLパラメーターで) 指定されている場合には、システムは、正しいテープ・ボリュームが指定された順序で装置上にあるかどうかを検査します。

- ボリューム識別コードのリストが指定されていないで、ファイルが出力用にオープンされている場合には、標準ラベルのボリュームを装置に導入することができます。
- ボリューム識別コード・リストが指定されていないで、ファイルが入力用にオープンされている場合には、最初のボリュームにどのようなボリューム識別コードがあってもかまいませんが、ファイルが続く場合には、システムは (データ・ファイルのラベルをチェックして確認し) 正しい継続ボリュームが処理されるように要求します。入力ファイルの場合には、処理される最後のボリューム上のラベルがデータ・ファイルの最後のボリュームであることを示している時に、使用中のプログラムにファイルの終わりメッセージが送られます。

- *NL** ボリュームにはラベルがありません。ラベルのないボリュームでは、各データ・ファイルの終わりおよびボリュームの終わりを示すために、テープ・マークが使用されます。入力ファイルの場合には、ボリューム・リストで指定されたボリューム数が処理されるか、あるいはボリューム識別コードのリストがない場合にはREELSパラメーターで指定されたリール数が処理されたときに、ファイルの終わりメッセージがプログラムに送られます。
- *NS** ボリュームには非標準ラベルがあります。各ボリュームはある種のラベル情報で始まらなければなりません。この前には任意にテープ・マーカがつき、また常にその後テープ・マーカが続きます。この標準外ラベル情報は無視されます。システムは標準外ラベルの後のテープ・マーカを超えた地点まで正方向に進み、テープをファイルのデータに位置づけます。各リールは、ファイルのデータの終わりにテープ・マーカが必要です。この終わりのテープ・マーカより後の情報は無視されます。非標準ラベルのテープに存在できるデータ・ファイルは1つだけです。標準ラベルのボリュームは、*NSラベル処理を使用して処理することはできません。
- 入力ファイルの場合には、ボリューム・リストで指定されたボリューム数が処理されるか、あるいはボリューム識別コードのリストがない場合にはREELSパラメーターで指定されたリール数が処理されたときに、ファイルの終わりメッセージがプログラムに送られます。
- *BLP.** 標準ラベル処理は迂回されます。各リールには標準ラベルがなければなりません。各リールは標準ボリューム・ラベルの有無を検査され、各ファイルには少なくとも1つの標準見出しラベル(HDR1)と1つの標準後書きラベル(EOV1またはEOF1)がなければなりません。他の大部分のラベル情報（データ・ファイルのレコード長やブロック長など）は無視されます。ボリューム上の各ファイルの順序番号は、ボリュームとテープの始まりの間のテープ・マーカの数によってのみ決定されます（データ・ファイルを見つけるために、各ファイルの見出しラベルと後書きラベルに記憶されているファイル順序番号が使用される*SL処理と対比）。
- データ・ファイルの後書きラベルのほとんどの情報は無視されますが、ファイルの終わり(EOF)後書きラベルが見つかり、ファイルの終わりメッセージがテープ・ファイルを使用するプログラムに送られます。指定された数のボリュームまたはリールが処理された時点で（ボリューム識別コード・リストおよびREELSパラメーター）、ファイルの終わり後書きラベルが見つからなかった場合には、テープ・ファイルを使用するプログラムにただちにファイルの終わりメッセージが送られます。ユーザーが使用するファイルの名前を知らない場合、あるいは一部のファイル・ラベル情報が間違っている場合には、ラベル迂回処理を使用することができます。
- *LTM** ボリュームにはラベルがありませんが、最初のデータ・ファイルの前に1つの先行テープ・マーカがあります。テープに最初のデータ・ファイルを作成するために出力ファイルに対してSEQNBR(1)が指定されている時は、最初のデータ・ブロックの前のテープの開始位置に先行テープ・マーカが書き込まれることを除いて、REELS(*LTM) はREELS(*NL)と同様に処理されます。

要素2: リールの数

- 1** ボリューム識別コードのリストが指定されていない（VOLパラメーター）場合には、*NL、*LTM、*NS、または*BLPテープ・ファイル入力操作では、1つのテープ・リールしか処理されません。
- 1-255** ボリューム識別コードのリストが指定されていない（VOLパラメーター）時に、*NL、*LTM、*NS、または*BLP入力テープ操作で処理されるリールの最大数を指定してください。現在処理中のテープの終わりに達した時に、次のリールが装置上にない場合には、次のテープ装置に次のテープを入れるように要求するメッセージが操作員に対して出されます。標準ラベル(*SL)ファイルまたはすべての出力ファイルの場合には、「リールの数」の値は無視されます。

トップ

順序番号 (SEQNBR)

処理されるテープ上のデータ・ファイルの順序番号を指定します。

- 標準ラベル・テープが使用される時には、データ・ファイルの最初の見出しラベルから4桁のファイル順序番号が読み取られます。
- ラベル迂回処理が使用される時、あるいは標準ラベル・テープを使用しない時には、処理する正しい順序番号のデータ・ファイルを見つけるために、システムはテープの始めからテープ・マーカをカウントします。
- 複数ファイル、複数ボリュームのテープをREELS(*SL)を使用して処理する時には、ファイル順序番号は複数のボリュームに渡って連続して継続します。したがって、新しい各データ・ファイルは、そのボリュームの位置に関係なく、前のファイルより1つ大きい順序番号をもつことになります。

1 標準ラベル・テープ（ラベル迂回処理を使用しない）の場合には、順序番号1のデータ・ファイルが処理されます。ラベルなしテープの場合および標準ラベル・テープのラベル迂回処理の場合には、テープ上の最初のデータ・ファイルが処理されます。

***END** ファイルはテープの終わりに書き出されます。この値はテープに書き出されるファイルの場合にだけ使用されます。

テープから読み取るためにテープ装置ファイルが使用された時、およびテープ装置ファイルに***END**特殊値が指定された時には、画面上にエラー・メッセージが表示されます。

***NEXT**

次の順序のファイルが処理されます。この値はテープから読み取られたファイルに対してのみ使用されます。テープが現在、最初のファイルより前の位置にある場合には、テープ上の最初のファイルが処理されます。

テープに書き出すためにテープ・ファイルを使用した時、およびテープ・ファイルに***NEXT**特殊値が指定された時には、画面上にエラー・メッセージが表示されます。

1-16777215

ファイルの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

テープ・ラベル (LABEL)

このテープ装置ファイルによって処理されるデータ・ファイルのデータ・ファイル識別コードを指定します。識別コードは標準ラベルのテープに対してのみ定義され、データ・ファイルのすぐ前のヘッダー・ラベルに記憶されます。

***SL**以外のラベル処理タイプにデータ・ファイル識別コードが指定されている場合には、無視されます。

標準ラベルの出力ファイルには識別コードが必要ですが、処理するデータ・ファイルは順序番号が固有に識別するので、入力ファイルの場合は任意指定です。

EXTEND(*YES)が指定された入力ファイルまたは出力ファイルの場合には、このパラメーターは、テープ上のデータ・ファイルの識別コードを指定します。指定する識別コードは、**SEQNBR**パラメーターが指定するデータ・ファイルのラベルの中にあるものと一致しなければなりません。そうでない場合には、この装置ファイルを使用するプログラムに対してエラー・メッセージが出されます。**EXTEND(*NO)**が指定された出力ファイルの場合には、このパラメーターはテープ上に作成されるデータ・ファイルの識別コードを指定します。

***NONE**

データ・ファイル識別コードを指定しません。

文字値 このテープ装置ファイルで使用するデータ・ファイルの識別コード（最大17桁の英数字）を指定してください。この識別コードが基本交換形式で書かれたテープ用のもので、ISERIESシステム以外のシステムで使用される場合には、最大8文字または修飾子当たりで8文字を超えない修飾識別コードを使用しなければなりません。

トップ

ファイル・タイプ (FILETYPE)

作成するテープ・ファイルがプログラムまたは別のファイルのデータ・レコードを記述するかあるいはソース・レコード（ステートメント）を記述するかを指定します。

***DATA**

テープ・ファイルはデータ・レコードを記述します。

***SRC** テープ・ファイルはソース・レコードを記述します。

注: *SRCが指定された場合には、システムはすべてのレコードの始めに12バイトを追加して、ソース順序番号および日付フィールドを置き換えます。

トップ

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

プログラム記述ファイルの場合には、ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。外部記述ファイルの場合には、ファイルのDBCS 属性を指定します。

***NO** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理しません。

***YES** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理します。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

レコード長 (RCDLEN)

この装置ファイルで処理されるデータ・ファイルの中に入っているレコードの長さをバイト数で指定します。システムは常に、EXTEND(*YES)が指定されている任意の標準ラベルの入力ファイルまたは出力ファイルのデータ・ファイル・ラベルに指定されているレコード長およびブロック長を使用します（2番目のヘッダー・ラベル(HDR2)がテープ上にあり、*BLPラベル処理が指定されていない場合）。

*CALC

処理されるデータ・ファイルにレコード長は指定されません。*CALCを指定した場合には、システムはファイルのオープン時に適切なレコード長の計算を試みます。ファイルに対して*CALC以外のBLKLEN値が指定されていて、RCDLKFMTが測定またはブロックされたレコードを指定していない場合には、ラベルなしテープの場合またはHDR2 ラベルがない場合にRCDLEN(*CALC)を使用することができます。この場合には、システムは、ファイルに指定されたブロックの長さ、レコードのブロック形式、およびバッファ・オフセット（ASCIIファイルの場合）から適切なレコード長を計算します。その他の場合には、CHGTAPFコマンドまたはOVRTAPFコマンドによって、あるいは装置ファイルをオープンする高水準言語プログラムの中で、実際のレコード長を指定しなければなりません。システムはファイルのオープン時に、適切なレコード長の計算を試みます。

整数 データ・ファイルの各レコードの長さを指定してください。有効な値の範囲は1-32767バイトです。

表 1. 図: EBCDIC RCDLENの範囲

RCDLKFMT	FILETYPE(*DATA)	FILETYPE(*SRC)
*F *FB *U	18 - 32767	30 - 32767
*V *VB	1 - 32759	13 - 32767
*VS *VBS	1 - 32759	13 - 32767

表 2. 図: ASCII RCDLENの範囲

RCDLKFMT	FILETYPE(*DATA)	FILETYPE(*SRC)
*F *FB *U	18 - 32767	30 - 32767
*D *DB	1 - 9995	13 - 10007
*VS *VBS	1 - 32759	13 - 32767

[トップ](#)

ブロックの長さ (BLKLEN)

読み取りまたは書き出し操作のためにテープに転送またはテープから転送するデータ・ブロックの最大長（バイト数）を指定します。

*CALC

処理中のデータ・ファイルのブロック長は指定されません。ファイルのオープン時に、システムは適切なブロック長の計算を試みます。

1-524288

処理するデータ・ファイルの各ブロックの最大長を指定してください。正常に処理できるブロックの最小長は、テープ装置のハードウェアおよびISERIESシステムのマシン・サポート機能によって決定されます。

入力ファイルの最大ブロック長は常に524288バイトですが、ASCII出力ファイルのブロック記述子を作成する必要がある場合は、9999バイトに制限されます。

次の表は、出力ファイルに認められる最小および最大のブロック長値を示しています。

表 3. 図: **BLKLEN**の最小値と最大値

コード	BUFOFSET	MIN BLKLEN	MAX BLKLEN
*EBCDIC	無視	18	524288
*ASCII	0	18	524288
*ASCII	*BLKDSC	18	9999

トップ

バッファー・オフセット (BUFOFSET)

テープ・データ・ファイルの各ブロックの最初のレコードの始めを示すバッファー・オフセットの値を指定します。バッファー・オフセット値は、任意のレコード・ブロック形式のASCIIファイルに使用できますが、EBCDIC テープ・ファイルの場合は無視されます。テープ上の2番目のヘッダー・ラベル(HDR2)の値が入っていて、*BLPラベル処理が指定されていない場合には、システムは、EXTEND(*YES)が指定されている任意の標準ラベル入力ファイルまたは出力ファイルに対して、データ・ファイル・ラベルに指定されているバッファー・オフセットを使用します。

バッファー・オフセット・パラメーターは、ブロック中の最初のレコードより前にあるすべての情報の長さを指定します。*D, *DB, *VS,および*VBSのレコード・ブロック様式の場合には、各レコードまたはレコード・セグメントより前に、レコードまたはセグメントの長さが入っている記述子があります。バッファー・オフセット値は、各ブロックの最初のレコードの記述子の前または各ブロックの最初の固定長レコードまたは未定義様式レコードの前に情報があることを示すために使用されます。

テープに、バッファー・オフセット値が入っている2番目のファイルのヘッダー・ラベル(HDR2)が含まれている場合には、このパラメーターは、入力用に処理される標準ラベル・ファイルには不必要です。バッファー・オフセット値は、テープ・ファイル作成(CRTTAPF)コマンド、テープ・ファイル変更(CHGTAPF)コマンド、またはテープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンドによって指定するか、あるいは各ブロック中の最初のレコードより前にあるすべての情報（ブロック記述子など）が入っている入力ファイルのファイル・ラベルによって、指定しなければなりません。テープ・ファイルの作成時にユーザーがバッファー・オフセット値を指定しなかった場合には、ファイルの読み取り時にオフセット値を指定する必要はありません。

出力ファイルにだけ使用できるバッファー・オフセット値はゼロおよび*BLKDSCです。HDR2ラベルの中にバッファー・オフセット値のある既存の標準ラベル・データ・ファイルは、バッファー・オフセット値が0または4である場合にのみ拡張することができます。HDR2ラベルのバッファー・オフセット値0は、バッファー・オフセットのないデータ・ブロックを追加します。HDR2ラベルの中にオフセット値4が入っている既存のテープ・データ・ファイルを拡張するためには、BUFOFSET(*BLKDSC)を指定しなければなりません。

0 バッファー・オフセット情報が各データ・ブロックの最初のレコードの前にありません。

*BLKDSC

この装置ファイルを使用して作成されたテープ・ファイルには、4バイトのブロック記述子が作成されます。この装置ファイルを使用して読み取られる入力ファイルは、各データ・ブロックの最初のレコードの前に4バイトのバッファー・オフセット情報があるものと仮定します。この値が有効なのは、レコードのブロック形式 (RCDBLKFMT)パラメーターに*Dまたは*DBが指定されている場合だけです。

整数 各データ・ブロックの最初のレコードの前にあるバッファ・オフセット情報の長さ（バイト数）を指定します。有効な値は0-99の範囲です。

トップ

レコードのブロック形式 (RCDBLKFM)

処理されるテープ・データ・ファイルのレコードのタイプおよびブロック化属性を指定します。

レコード・ブロック形式*Vおよび*VBのレコードは、EBCDICファイルの場合にのみ処理することができます。*Dおよび*DBのレコードは、ASCIIファイルの場合のみ処理することができます。標準ラベル・テープ（ラベル・タイプ*SLまたは*BLP）が処理されていて、ボリューム・コードに矛盾のあるレコード・ブロック形式が指定されている場合には、レコード・タイプは正しいボリューム・コード（VまたはD）と見なされ、ファイルをオープンしたプログラムに警告メッセージが送られます。レコード・タイプおよびコードがラベルのないボリューム（ラベル・タイプが*NL、*LTM、または*NS）に対応していない場合には、正しいボリューム・コードを確認するラベルがないので、エラー・メッセージが送られてファイルはオープンされません。

固定長レコードに有効なレコード長、ブロック長、およびバッファ・オフセット値（ASCIIファイルの場合）が指定されているが、ブロック属性が正しくない場合には、正しいブロック属性であると見なされ（レコード・ブロック形式を*Fから*FBに変更するか、レコード・ブロック形式を*FBから*Fに変更）、ファイルをオープンしたプログラムに警告メッセージが送られます。

最大長のレコードを処理するために必要以上に大きいブロック長を指定した場合には、レコード・ブロック形式が*V、*D、または*VSから*VB、*DB、または*VBSに変更され、ファイルをオープンしたプログラムに警告メッセージが送られます。

注: ファイルにBUFOFSET(*BLKDSC)が指定されている時には、テープ上の既存のファイル・ラベルが異なる値を指定していない限り、BLKLEN演算のBUFOFSET部分には値の4を使用してください。

- *FB** EBCDICまたはASCIIいずれかのコードの固定長、ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。
- *F** EBCDICまたはASCIIコードの固定長、非ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。
- *V** EBCDICタイプV形式の可変長、非ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。
- *VB** EBCDICタイプV形式の可変長、ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。
- *D** ASCIIタイプD形式の可変長、非ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。
- *DB** ASCIIタイプD形式の可変長、ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。
- *VS** EBCDICまたはASCIIコードの可変長、非ブロック化、スパン・レコードが処理されます。
- *VBS** EBCDICまたはASCIIいずれかのコードの可変長、ブロック化、スパン・レコードが処理されます。テープ上のスパン・レコードの表し方は、EBCDICファイルとASCIIファイルとで異なっていますが、システムはファイル・コードに基づいて正しい形式を選択します。
- *U** EBCDICまたはASCIIいずれかのコードの未定義（不定）形式レコードが処理されます。

表 4. 図: 必要なRCDLEN/BLKLEN/BUFOFSETの関係

コード	RCDLKFMT	BLKLEN1
=====	=====	=====
*EBCDIC	*F *U	= RCDLEN
*ASCII	*F *U	= RCDLEN + BUFOFSET
-----	-----	-----
*EBCDIC	*FB	= RCDLEN * N
*ASCII	*FB	= (RCDLEN * N) + BUFOFSET (Nは最大長 ブロックの レコード数)
-----	-----	-----
*EBCDIC	*V	= RCDLEN * 8
*ASCII	*D	= RCDLEN * 4 + BUFOFSET
-----	-----	-----
*EBCDIC	*VB	>= RCDLEN + 8
*ASCII	*DB	>= RCDLEN + 4 + BUFOFSET
-----	-----	-----
*EBCDIC	*VS *VBS	>= 18
*ASCII	*BS *VBS	>= 6 + BUFOFSET (最小18)
-----	-----	-----
注: ブロック長(BLKLEN)は, レコード長(RCDLEN)と バッファ・オフセット(BUFOFSET)の関数です。		

トップ

ファイル拡張 (EXTEND)

テープへの出力操作の場合に、現在テープ上にあるデータ・ファイルの終わりに新しいレコードを追加するかどうかを指定します。データ・ファイルが拡張される場合には、テープ・ボリューム上の最終ファイルになります。

注: このパラメーターは1/4インチ・カートリッジ・テープ装置の場合は正しくありません。

単一値

***NO** レコードは、指定のデータ・ファイルの終わりに追加されません。

要素1: ファイル拡張

***YES** このデータ・ファイルの使用時に、テープ上の指定したデータ・ファイルの終わりにレコードが追加されます。

要素2: ファイル検査

***NOCHECK**

ファイルは、活動状態であるかどうかの検査を受けずに拡張されます。

***CHECK**

ファイルが拡張される前に、活動状態であるかどうかを検査されます。

トップ

テープ密度 (DENSITY)

この装置ファイルの作成時にテープ・ボリューム上に書き出されるデータの密度を指定します。このパラメーターは、テープに書き出されるテープ・ファイルの場合にのみ使用されます。テープから読み取られるテープ・ファイルの場合には無視されます（テープから読み取られるファイルの場合には、そのテープの密度が使用されます）。

標準ラベル・ボリュームの密度は、INZTAPコマンドに指定します（このコマンドは、テープにボリューム・ラベルを書き込むことによってテープを標準ラベル・ボリュームとして初期設定します）。このパラメーターに指定された密度が標準ラベルのテープの密度と異なる場合には、テープを指定された密度に合わせて再初期化しなければなりません。

*DEVTYPE

テープ装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。

装置 **最大容量密度または形式**

3480 *FMT3480

3490E *FMT3490E

3570-BXX
 *FMT3570

3570-CXX
 *FMT3570E

3580-001
 *ULTRIUM1

3580-002
 *ULTRIUM2

3590 *FMT3590

3590-EXX
 *FMT3590E

3590-HXX
 *FMT3590H

4685-001
 *VXA2

6335 *QIC3040

6343 *QIC1000

6344 *QIC2GB

6348 *QIC1000

6349 *QIC2GB

6368 *QIC1000

6369 *QIC2GB

6379 *QIC1000

6380 *QIC2GB

6381 *QIC2DC

360 iSeries: OS/400 コマンド CRTMODD (モード記述作成) ~

6382 *QIC4DC
6383 *QIC5010
6384 *SLR60
6385 *QIC5010
6386 *MLR3
6387 *SLR100
6390 *FMT7GB
7207-122
 *QIC4DC
7208-002
 *FMT2GB
7208-012
 *FMT5GB
7208-222
 *FMT7GB
7208-342
 *FMT20GB
7208-345
 *FMT60GB
9348 6250

*CTGTYPE

取り付けられたカートリッジ・タイプの装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。装置が特殊なカートリッジ・タイプ情報をサポートしない場合には、*DEVTYPEが使用されます。

テープ密度

使用する密度または形式を指定します。

1600 このテープ・ボリュームのデータ密度は1,600ビット/インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

3200 このテープ・ボリュームのデータ密度は3,200ビット/インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

6250 このテープ・ボリュームのデータ密度は6,250ビット/インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

*FMT3480

このテープの形式はFMT3480です。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3480装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

*FMT3490E

このテープの形式はFMT3490Eです。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3490E装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3570**

このテープの形式はFMT3570です。このデータ形式は3570装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

***FMT3570E**

このテープの形式はFMT3570Eです。このデータ形式は3570E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

***FMT3590**

このテープの形式はFMT3590です。このデータ形式は3590装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3590E**

このテープの形式はFMT3590Eです。このデータ形式は3590E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3590H**

このテープの形式はFMT3590Hです。このデータ形式は3590H装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC120**

このテープの形式はQIC120で、120メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC525**

このテープの形式はQIC525で、525メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC1000**

このテープの形式はQIC1000で、1200メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC2GB**

このテープの形式はQIC2GBです。これは、標準長のQIC2GBカートリッジに2.5ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC2DC**

このテープの形式はQIC2DCです。これは、QIC2GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC4GB**

このテープの形式はQIC4GBです。これは、標準長のQIC4GBカートリッジに4ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC4DC**

このテープの形式はQIC4DCです。これは、QIC4GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC3040**

このテープの形式はQIC3040で、これは840メガバイトのデータを取めることができる1/4インチ・ミニカートリッジ・テープに使用されます。

***QIC5010**

このテープの形式はQIC5010で、これは13.5ギガバイトのデータを取めることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***MLR3**

このテープの形式はMLR3です。これは、標準長のMLR3カートリッジに25ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR60**

このテープの形式はSLR60です。これは、標準長のSLR60カートリッジに一般的に60ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR100**

このテープの形式はSLR100です。これは、標準長のSLR100カートリッジに一般的に100ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***FMT2GB**

このテープの形式はFMT2GBです。これは2ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT5GB**

このテープの形式はFMT5GBで、5ギガバイトのデータを収めることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT7GB**

このテープの形式はFMT7GBです。これは7ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT20GB**

このテープの形式はFMT20GBです。これは、標準長のカートリッジに20ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***FMT60GB**

このテープの形式はFMT60GBです。これは、標準長のカートリッジに60ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM1**

このテープの形式はULTRIUM1です。これは、標準長のカートリッジに100ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM2**

このテープの形式はULTRIUM2です。これは、標準長のカートリッジに200ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VXA1** このテープの形式はVXA1です。これは、標準長のカートリッジに33ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VXA2** このテープの形式はVXA2です。これは、標準長のカートリッジに80ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

注: セルフ構成テープ装置は、密度パラメーターに有効な追加の値を定義することがあります。特定の装置に有効な追加の密度値を見つけるには、ISERIESナビゲーター（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（テープ・ライブラリー）（テープ資源）（特性）または（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（独立型装置）（特性）を使用するか、あるいは接続されたテープ装置に有効なすべての密度値のリストを参照するには、CLコマンドの「テープ密度」フィールドのF4=プロンプト・キーを使用してください。

トップ

データ短縮 (COMPACT)

装置データの短縮が実行されるかどうかを指定します。使用中のテープ装置がデータ短縮をサポートしていない場合には、このパラメーターはファイルのオープン時に無視されます。

***DEVD**

使用中の装置がデータ短縮をサポートしている場合に、装置データの短縮が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

[トップ](#)

コード (CODE)

このテープ・ファイルを使用するジョブによるテープ・データの読み取りまたは書き出し時に使用される文字コードのタイプを指定します。

***EBCDIC**

このテープ・ファイルでは、EBCDIC文字コードが使用されます。

***ASCII**

ASCII文字コードが使用されます。

[トップ](#)

作成日 (CRTDATE)

データ・ファイルがテープに作成された（書き出された）日付を指定します。データ・ファイルの作成日はテープのファイル・ラベルに記憶されます。***SL**以外のラベル処理タイプに作成日を指定した場合には、作成日は無視されます。

***NONE**

作成日は指定されません。

日付 このテープ・ファイルによって使用されるデータ・ファイルの作成日を指定してください。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

テープ出力データ・ファイルの場合にだけ、この装置ファイルによって使用されるデータ・ファイルの満了日を指定します。データ・ファイルの満了日は、テープ上のファイル・ラベルに記憶されます。***SL**以外のラベル処理のタイプに対して満了日を指定した場合には、それが無視されます。データ・ファイルは、指定した満了日まで保護され、重ね書きすることができません。

***NONE**

データ・ファイルの満了日は指定されません。データ・ファイルは保護されません。

***PERM**

データ・ファイルは永続的に保護されます。テープに書き込まれる日付は999999です。

日付 その日以降はデータ・ファイルが保護されなくなる日付を指定してください。

[トップ](#)

テープ終了オプション (ENDOPT)

テープ・ファイルのクローズ時にテープ・ボリウムに対して自動的に実行される位置決め操作を指定します。マルチボリウム・データ・ファイルの場合には、このパラメーターは最後のリールに適用されるだけです。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

注: ENDOPTパラメーターに*LEAVEが指定されていても、このリールに対してオープンされる次のテープ・ファイルは、オープン時にデータ・ファイルの開始位置または終了位置に置かれます。

[トップ](#)

ユーザー・ラベル・プログラム (USRLBLPGM)

ユーザー定義テープ・ラベルを処理するユーザー・プログラムを指定します。出力ファイルの場合には、ユーザー・ラベル・プログラムがテープに書き出されるユーザー・ラベルを渡します。入力ファイルの場合には、ユーザー・ラベルはユーザー・ラベル・プログラムに渡されます。

単一値

***NONE**

この装置ファイル用のユーザー・ラベル・プログラムはありません。

修飾子1: ユーザー・ラベル・プログラム

名前 ユーザー・テープ・ラベルを処理するユーザー・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1-32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

トップ

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

YES** ファイルをオープンする時にYES**も指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で作成権限(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

***CHANGE**権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

ファイルの置き換え (REPLACE)

保管またはデータベース・ファイル以外の既存のファイルを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 同じ名前およびライブラリーの新しいテープ装置ファイルが正常に作成された場合には、既存のファイルが置き換えられます。

***NO** 同じ名前およびライブラリーの既存のファイルがある場合には、新しいテープ装置ファイルを作成することはできません。

[トップ](#)

例

例1: テープ装置ファイルの記述の作成

```
CRRTAPF FILE(BACKHST) DEV(QTAPE1 QTAPE2 QTAPE3)
REELS(*BLP 10) RCDLEN(256) BLKLEN(1024)
RCDBLKFM(*FB) EXTEND(*YES)
ENDOPT(*UNLOAD) WAITFILE(60)
```

このコマンドは、テープ装置QTAPE1、QTAPE2、およびQTAPE3で使用されるBACKHSTという名前のテープ装置ファイルの記述を現行ライブラリーに作成します。この装置ファイルでこれらの装置で処理されるボリュームはすべて標準ラベルを持っていなければなりません。テープ・ボリュームの各データ・ブロック (EBCDIC文字コード) には、それぞれ256バイトの4つのレコードが入っています。レコードがテープに書き出されると、それらはデータ・ファイルの最後に追加されます。このテープには作成日や有効期限は指定されておらず、アンロードと巻き戻しの両方の操作は最後のテープ・ボリュームが処理されて装置ファイルがクローズされたときに行われます。このテープ装置ファイルを使用するプログラムは、このファイルのオープン時にファイル資源が割り振られる間60秒待機し、この装置ファイルは現行プログラムの実行時だけ使用されます。

例2: DBCSデータが入っているテープ・ファイルの作成

```
CRRTAPF FILE(IGCLIB/IGCTAP) LABEL(GENINF) IGCDA(*YES)
```

このコマンドは、GENINFというラベルでライブラリーIGCLIBに保管される、DBCSデータが入るテープ・ファイルIGCTAPを作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

テーブル作成 (CRTTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テーブル作成(CRTTBL)コマンドは、指定のテーブルを作成します。テーブルを使用して、システムと装置との間で移動するデータの変換を行うことができます。また、テーブルを使用して、代替照合順序またはフィールド変換機能を指定することもできます。

テーブルは、ソース情報のプロンプトによるか、またはソース・メンバーを指定することによって作成することができます。

プロンプト・サポートを使用してテーブルを作成するためには、SRCFILEパラメーターに*PROMPTを指定してください。テーブル値を表示しあるいは変更することができる画面が表示され、この画面で選択した値に基づいて新しいテーブルが作成されます。

ソース・メンバーを使用して*CVTテーブルを作成するためには、8レコードが入っているソース・メンバーを指定しなければなりません。このメンバーのそれぞれのレコードには64文字の16進数が入っていなければなりません(64桁目より後の文字は使用されません)。この入力(512文字の16進数)は、CRTTBLコマンドによって256バイトとして内部的に変換および保管されます。

ソース・メンバー内の桁に指定する値は、その桁が見つかった時にはつねにQDCXLATE（またはその他のシステム・プログラム）によって戻されるのと同じ値です。

たとえば、ソースのレコード1の最初の部分として"C0C1C2C3C4C5C6..."を指定した場合には、16進数"00"を指定した場合には16進数"C0"が戻され、16進数"01"を指定した場合には16進数"C1"が戻されます。

ソース・メンバーを使用して*UCSSRTSEQテーブルを作成するためには、次のレイアウトの情報が入っているソース・メンバーを指定しなければなりません。

- 1-4桁目=記憶される16進コード点
- 6-10桁目=10進数としてこのコード点の重み
- 11-80桁目=使用されません。注記などを入れることができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TBL	テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	単一値: *PROMPT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QTBLSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *TBL	オプション、位置 3
TBLTYPE	テーブル・タイプ	*CVT , *SRTSEQ, *UCSSRTSEQ	オプション
BASETBL	基底テーブル	単一値: *HEX その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 基底テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
BASESRTSEQ	基底ソート順序	単一値: *LANGIDSHR, *HEX, *JOB , *LANGIDUNQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 基底ソート順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
BASELANGID	基底言語ID	文字値, *JOB	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, *JOB , *HEX, 65535	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

トップ

テーブル (TBL)

作成されるテーブルのライブラリー名およびテーブル名を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

ジョブのライブラリーを使用して、テーブルを見つけます。ジョブのライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

テーブル名

作成されるテーブルの名前を指定してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

作成しようとするか、あるいはプロンプト・サポートを使用するテーブルの記述が入っているソース・ファイルの修飾名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***PROMPT**

ユーザーは、ソース情報をアクセスして使用することができます。

QTBLSRC

テーブルを作成するためにこのコマンドで使用されるソース・レコードは、QTBLSRCという名前のシステムソース・ファイルに入っています。

ソース・ファイル名

テーブルを作成するためにこのコマンドで使用されるソース・レコードが入っているソース・ファイルの名前（ライブラリー名/ソース・ファイル名）を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして現行ライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成されるテーブルの記述が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***TBL** ソース・ファイル・メンバー名はテーブルの名前と同じです。

ソース・ファイル・メンバー名

テーブルを作成するためには、ソース・ファイルプロンプト（SRCFILEパラメーター）で指定したソース・ファイルの、メンバーの名前を指定してください。

総称*テーブル名テーブルの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング（たとえば、ABC*）です。総称名を指定した場合には、名前がその総称名で始まり、ユーザーが権限を持っているすべてのテーブルが表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なテーブル名とみなします。

[トップ](#)

テーブル・タイプ (TBLTYPE)

作成されるテーブル・オブジェクトのタイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***CVT** 変換タイプのテーブルが作成されます。

***SRTSEQ**

分類順序タイプのテーブルが作成されます。

***UCSSRTSEQ**

ISO-10646 UCS-2分類順序タイプのテーブルが作成されます。

基底テーブル (BASETBL)

変換テーブルの作成時に、プロンプト・サポートで使用される基本テーブルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***HEX** 1対1のマッピング・テーブルが使用されます。

テーブルの名前は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

テーブル名

基本として使用するテーブル・オブジェクトを指定してください。

トップ

基底ソート順序 (BASESRTSEQ)

分類順序テーブルの作成時に、プロンプト・サポートで使用される基本テーブルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***JOB** オブジェクトの作成時に、分類順序を分析解決する必要があります。

***LANGIDSHR**

共用の重み付け分類テーブルが使用されます。

***LANGIDUNQ**

固有の重み付け分類テーブルが使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序の決定には、その文字の16進数値が使用されます。16進数データのCCSIDは65535です。

テーブルの名前は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

テーブル名

基本として使用するテーブル・オブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

基底言語ID (BASELANGID)

分類順序テーブルの作成時に、プロンプト・サポートで使用される基本言語を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***JOB** オブジェクトの作成時に、分類順序を分析解決する必要があります。

言語ID 作成中の分類順序テーブルに使用する有効な言語IDを指定してください。

[トップ](#)

コード化文字セットID (CCSID)

分類順序テーブル情報を記憶するコード化文字セットID(CCSID)を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***JOB** オブジェクトの作成時に、分類順序を分析解決する必要があります。

コード化文字セットID

分類順序テーブル情報に使用するCCSIDを指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限**プロンプト

(CRTAUTパラメーター)に指定された値と同じです。**作成権限**プロンプト(CRTAUTパラメーター)で指定された値を変更しても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

[トップ](#)

CRTTBLの例

```
CRTTBL  TBL(SCRAMTBL) SRCFILE(USERTABLES) SRCMBR(SCRAMBLE)
        TEXT('TRANSLATE TABLE FOR SCRAMBLING TEXT CHARACTERS')
```

このコマンドは、SCRAMTBLという名前のテーブルを作成し、それを(省略時の値)によって現行ライブラリーに保管します。USERTABLESという名前のソース・ファイルに、テーブルの作成時に使用されるソース・レコードが入っています。ソース・ファイル・メンバーの名前はSCRAMBLEです。TEXTパラメーターは、このテーブルが混合テキスト文字のための変換テーブル(TRANSLATE TABLE FOR SCRAMBLING TEXT CHARACTERS)として使用されることを記述しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTTBL

***ESCAPE** メッセージ

CPF2614

テーブル&1はすでに&2に存在している。

CPF2623

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2678

&2のソース・ファイル&1のデータが正しくない。

CPF3BF7

ソース・ファイルの中の行&1のデータが正しくない。

CPF3FC9

CCSIDに対する値&1は正しくない。

[トップ](#)

時間帯記述作成 (CRTTIMZON)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

時間帯記述作成 (CRTTIMZON)コマンドは、時間帯のプロパティを定義する時間帯記述オブジェクトを作成します。時間帯記述オブジェクトはQSYSライブラリーに作成されます。これらのプロパティは、時間値を協定世界時(UTC)形式とローカル形式の間で変換するために使用されます。これらのプロパティは、また、時間値をローカル形式で表すために使用されます。

制約事項:

- QSYSライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TIMZON	時間帯記述	名前	必須, 定位置 1
OFFSET	オフセット	-779-779	必須, 定位置 2
STDNAME	標準時間	単一値: *GEN, *MSG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 省略名	文字値	
	要素 2: 完全な名前	文字値	
DSTNAME	夏時間調整時間(DST)	単一値: *NONE, *GEN, *MSG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 省略名	文字値	
	要素 2: 完全な名前	文字値	
STDMSG	標準時間メッセージ	名前	オプション
DSTMSG	夏時間調整時間メッセージ	名前	オプション
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
DSTSTR	夏時間調整時間開始	要素リスト	オプション
	要素 1: 月	*JAN, *FEB, *MAR, *APR, *MAY, *JUN, *JUL, *AUG, *SEP, *OCT, *NOV, *DEC	
	要素 2: 日	*MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	
	要素 3: 月の相対日	*LAST, 1, 2, 3, 4	
	要素 4: 時刻	時刻	

キーワード	記述	選択項目	注
DSTEND	夏時間調整時間終了	要素リスト	オプション
	要素 1: 月	*JAN, *FEB, *MAR, *APR, *MAY, *JUN, *JUL, *AUG, *SEP, *OCT, *NOV, *DEC	
	要素 2: 日	*MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	
	要素 3: 月の相対日	*LAST, 1, 2, 3, 4	
	要素 4: 時刻	時刻	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *USE , *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *EXCLUDE	オプション

トップ

時間帯記述 (TIMZON)

作成する時間帯記述を指定します。時間帯記述はQSYSに作成されます。

これは必須パラメーターです。

名前 時間帯記述の名前を指定します。

トップ

オフセット (OFFSET)

この時間帯と協定世界時(UTC)の間の時差(分数)を指定します。この値をローカル時間から減算すると、UTC時間が得られます。負の時差は、時間帯がUTCより西側であることを示し、正の時差は、その時間帯がUTCより東側であることを示します。

これは必須パラメーターです。

-779-779

時差(分数)を指定します。有効な値の範囲は-779分から779分です。

トップ

標準時間 (STDNAME)

夏時間調整時が守られていない場合の時間帯の省略名とフルネームを指定します。

単一値

***GEN** システムは省略名とフルネームを生成します。省略名の形式は、文字「UTC」とそれに続くオフセットおよび文字「S」です。オフセットは、定様式の時間および分の値として表示されます。時間帯記述のフルネームは省略名と同じになります。たとえば、オフセットが-360分の時間帯は、「UTC-06:00S」という省略名およびフルネームを持つことになります。

***MSG** 省略名とフルネームは、**標準時間メッセージ (STDMSG)**パラメーターに指定されたメッセージの2次レベル・メッセージ・テキストから検索されます。この値を指定した場合には、**STDMSG**パラメーターおよび**メッセージ・ファイル (MSGF)**パラメーターにも値を指定する必要があります。

要素1: 省略名

文字値 この時間帯の省略名, すなわち短い名前, を指定します。省略名の最大長は10文字です。

要素2: 完全な名前

文字値 この時間帯のフルネーム, すなわち長い名前, を指定します。フルネームの最大長は50文字です。

[トップ](#)

夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)

夏時間調整時が守られている場合の時間帯の省略名とフルネームを指定します。

単一値***NONE**

この時間帯では夏時間調整時は守られません。

***GEN** システムは省略名とフルネームを生成します。省略名の形式は, 文字「UTC」とそれに続くオフセットおよび文字「D」です。オフセットは, 定様式の時間および分の値として表示されます。時間帯記述のフルネームは省略名と同じになります。たとえば, オフセットが-360分の時間帯は, 「UTC-06:00D」という省略名およびフルネームを持つこととなります。

***MSG** 省略名とフルネームは, **夏時間調整時間メッセージ (DSTMSG)**パラメーターに指定されたメッセージの2次レベル・メッセージ・テキストから検索されます。この値を指定した場合には, DSTMSGパラメーターおよび**メッセージ・ファイル (MSGF)**パラメーターにも値を指定する必要があります。

要素1: 省略名

文字値 この時間帯の省略名, すなわち短い名前, を指定します。省略名の最大長は10文字です。

要素2: 完全な名前

文字値 この時間帯のフルネーム, すなわち長い名前, を指定します。フルネームの最大長は50文字です。

[トップ](#)

標準時間メッセージ (STDMSG)

夏時間調整時が守られていない場合に使用される時間帯の省略名とフルネームを含む事前定義メッセージを指定します。メッセージの最初の10文字に省略名が入れられ, 次の50文字にフルネームが入れられます。**標準時間 (STDNAME)**パラメーターに***MSG**が指定されている場合には, このパラメーターを指定しなければなりません。

名前 メッセージ識別コードを指定してください。

[トップ](#)

夏時間調整時間メッセージ (DSTMSG)

夏時間調整時が守られている場合に使用される時間帯の省略名とフルネームを含む事前定義メッセージを指定します。メッセージの最初の10文字に省略名が入れられ、次の50文字にフルネームが入れられます。**夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)**パラメーターに*MSGが指定されている場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

名前 メッセージ識別コードを指定してください。

[トップ](#)

メッセージ・ファイル (MSGF)

標準時メッセージおよび夏時間調整時メッセージが検索されるメッセージ・ファイルを指定します。指定されたメッセージ・ファイル名およびライブラリー名は、時間帯記述に保管されます。メッセージが省略名とフルネームの指定に使用される場合には、その省略名とフルネームが検索されるたびにメッセージが検索されます。メッセージをメッセージ・ファイルから検索できない場合には、名前は*Nとして戻されます。**標準時間 (STDNAME)**パラメーターまたは**夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)**パラメーターに*MSGが指定されている場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

修飾子1: メッセージ・ファイル

名前 メッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** メッセージが検索される時には、スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーからメッセージ・ファイルが検索されます。値*LIBLは時間帯記述に保管され、このコマンドによってライブラリー名に解決されることはありません。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

夏時間調整時間開始 (DSTSTR)

夏時間調整時(DST)を開始する時点を指定します。このパラメーターには、次の4つの要素が入れられます。DSTを開始する月、DSTを開始する日付、DSTを開始する月の相対日、およびDSTを開始する時刻です。このパラメーターを指定する場合には、4つの要素をすべて指定しなければなりません。**夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)**パラメーターに*NONE以外の値が指定されている場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。このパラメーターに指定する値を**夏時間調整時間終了 (DSTEND)**パラメーターに指定された値と同一にすることはできません。

要素1: 月

***JAN** 夏時間調整時は1月に始まります。

***FEB** 夏時間調整時は2月に始まります。

***MAR** 夏時間調整時は3月に始まります。

***APR** 夏時間調整時は4月に始まります。

***MAY** 夏時間調整時は5月に始まります。

- ***JUN** 夏時間調整時は6月に始まります。
- ***JUL** 夏時間調整時は7月に始まります。
- ***AUG** 夏時間調整時は8月に始まります。
- ***SEP** 夏時間調整時は9月に始まります。
- ***OCT** 夏時間調整時は10月に始まります。
- ***NOV** 夏時間調整時は11月に始まります。
- ***DEC** 夏時間調整時は12月に始まります。

要素2: 日

- ***MON** 夏時間調整時は月曜日に始まります。
- ***TUE** 夏時間調整時は火曜日に始まります。
- ***WED** 夏時間調整時は水曜日に始まります。
- ***THU** 夏時間調整時は木曜日に始まります。
- ***FRI** 夏時間調整時は金曜日に始まります。
- ***SAT** 夏時間調整時は土曜日に始まります。
- ***SUN** 夏時間調整時は日曜日に始まります。

要素3: 月の相対日

- ***LAST** 夏時間調整時は指定された曜日の最後のオカレンスで始まります。
- 1** 夏時間調整時は指定された曜日の最初のオカレンスで始まります。
- 2** 夏時間調整時は指定された曜日の2番目のオカレンスで始まります。
- 3** 夏時間調整時は指定された曜日の3番目のオカレンスで始まります。
- 4** 夏時間調整時は指定された曜日の4番目のオカレンスで始まります。

要素4: 時刻

時刻 夏時間調整時を開始する時刻を指定します。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きたまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)の字符串を指定してください。ここで、**HH** =時間、**MM** =分、および**SS** =秒です。**HH**の有効な値の範囲は00-23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00-59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るような5文字または8文字の字符串を指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、この字符串をアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

夏時間調整時間終了 (DSTEND)

夏時間調整時(DST)を終了する時点を指定します。このパラメーターには、次の4つの要素が入れられます。DSTを終了する月、DSTを開始する日、DSTを終了するの相対日付、およびDSTを終了する時刻です。このパラメーターを指定する場合には、4つの要素をすべて指定しなければなりません。**夏時間調整時間 (DST) (DSTNAME)**パラメーターに*NONE以外の値が指定されている場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。このパラメーターに指定する値を**夏時間調整時間開始 (DSTSTR)**パラメーターに指定された値と同一にすることはできません。

要素1: 月

- *JAN 夏時間調整時は1月に終わります。
- *FEB 夏時間調整時は2月に終わります。
- *MAR 夏時間調整時は3月に終わります。
- *APR 夏時間調整時は4月に終わります。
- *MAY 夏時間調整時は5月に終わります。
- *JUN 夏時間調整時は6月に終わります。
- *JUL 夏時間調整時は7月に終わります。
- *AUG 夏時間調整時は8月に終わります。
- *SEP 夏時間調整時は9月に終わります。
- *OCT 夏時間調整時は10月に終わります。
- *NOV 夏時間調整時は11月に終わります。
- *DEC 夏時間調整時は12月に終わります。

要素2: 日

- *MON 夏時間調整時は月曜日に終わります。
- *TUE 夏時間調整時は火曜日に終わります。
- *WED 夏時間調整時は水曜日に終わります。
- *THU 夏時間調整時は木曜日に終わります。
- *FRI 夏時間調整時は金曜日に終わります。
- *SAT 夏時間調整時は土曜日に終わります。
- *SUN 夏時間調整時は日曜日に終わります。

要素3: 月の相対日

- *LAST 夏時間調整時は指定された曜日の最後のオカレンスで終わります。
- 1 夏時間調整時は指定された曜日の最初のオカレンスで終わります。
- 2 夏時間調整時は指定された曜日の2番目のオカレンスで終わります。
- 3 夏時間調整時は指定された曜日の3番目のオカレンスで終わります。
- 4 夏時間調整時は指定された曜日の4番目のオカレンスで終わります。

要素4: 時刻

時刻 夏時間調整時を終了する時刻を指定します。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)のSTRINGを指定してください。ここで、**HH** =時間、**MM** =分、および**SS** =秒です。**HH**の有効な値の範囲は00-23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00-59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るような5文字または8文字のSTRINGを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、このSTRINGをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限を持っておらず、権限リスト上に存在せず、そのグループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定権限を持っていないユーザーに認可する権限を指定します。

USE** ユーザーは、時間帯記述に対して基本的な操作（たとえば内容の検索など）を実行することができます。ユーザーは時間帯記述を変更することはできません。USE**権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値から取られます。**CRTAUT**パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

***CHANGE**

変更権限によってユーザーは、オブジェクトの基本的な機能を変更および実行することができます。ユーザーは、所有者に限定された操作またはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御される操作以外のすべての操作をオブジェクトに対して実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるものを除く、オブジェクトに対するすべての操作を実行します。

***EXCLUDE**

ユーザーはオブジェクトにアクセスすることはできません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

CRTTIMZONの例

例1:時間帯記述の作成

```
CRTTIMZON  TIMZON(CENTRAL) OFFSET(-360)
           STDNAME(CTZ 'CENTRAL TIME ZONE')
           TEXT('CENTRAL TIME ZONE WITH STANDARD TIME ONLY')
```

このコマンドは、CENTRAL時間帯記述を作成します。この時間帯のオフセットは負の6時間(-360分)です。この時間帯の標準時省略名は「CTZ」であり、標準時フルネームは「CENTRAL TIME ZONE」です。時間帯記述オブジェクトと関連したテキスト記述は「CENTRAL TIME ZONE WITH STANDARD TIME ONLY」です。この時間帯記述では夏時間調整時は守られません。

例2:夏時間調整時をサポートする時間帯記述の作成

```
CRTTIMZON  TIMZON(CENTRALDST) OFFSET(-360)
           STDNAME(CTZ 'CENTRAL TIME ZONE')
           DSTNAME(CDTZ 'CENTRAL DAYLIGHT TIME ZONE')
           TEXT('CENTRAL TIME ZONE WITH DAYLIGHT SAVING TIME')
           DSTSTR(*APR *SUN 1 '02:00:00')
           DSTEND(*OCT *SUN *LAST '02:00:00')
```

このコマンドは、CENTRALDST時間帯記述を作成します。この時間帯のオフセットは負の6時間(-360分)です。この時間帯の標準時省略名は「CTZ」であり、標準時フルネームは「CENTRAL TIME ZONE」です。この時間帯の夏時間調整時省略名は「CDTZ」であり、夏時間調整時フルネームは「CENTRAL DAYLIGHT TIME ZONE」です。時間帯記述オブジェクトと関連したテキスト記述は「CENTRAL TIME ZONE WITH DAYLIGHT SAVING TIME」です。この時間帯記述では夏時間調整時が守られます。夏時間調整時は4月の最初の日曜日の2:00 AMに始まり、10月の最後の日曜日の2:00 AMに終わります。

トップ

エラー・メッセージ: CRTTIMZON

*ESCAPE メッセージ

CPF09A1

時間帯記述&1は作成されていません。

トップ

ユーザー定義FSの作成 (CRTUDFS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー定義ファイル・システム作成(CRTUDFS)コマンドは、マウント・ファイル・システム追加(ADDMFS)またはMOUNTコマンドを介して残りの統合ファイル・システム名スペースを見えるようにできるファイル・システムを作成します。

UDFSはオブジェクト・タイプ*BLKSFまたはブロック特殊ファイルによって表されます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG) 特殊権限が必要です。
2. オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)パラメーターで*SYSVAL以外の値を指定する場合には、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。
3. オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)パラメーターに*PARENT以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
UDFS	ユーザー定義ファイル・システム	パス名	必須, 定位置 1
DTAAUT	データの共通認可	名前, *INDIR, *RWX, *RW, *RX, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE, *NONE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通認可	単一値: *INDIR, *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション
CRTOBJAUD	オブジェクトの値の監査	*SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション
CRTOBJSCAN	オブジェクトのオプションをスキャン中	*PARENT, *YES, *NO, *CHGONLY	オプション
RSTDNRMUNL	制限付き名前変更とリンク解除	*NO, *YES	オプション
CASE	大文字小文字の区別	*MIXED, *MONO	オプション
DFTFILEFMT	省略時のファイル形式	*TYPE1, *TYPE2	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

トップ

ユーザー定義ファイル・システム (UDFS)

作成するファイル・システムのパス名を指定します。これは、次の2つの形式のうちの1つでなければなりません。

- `/DEV/QASPXX/UDFSNAME.UDFS`, ここで、`XX`は有効なシステムまたは基本ユーザー補助記憶域プール (ASP)番号の1つで、`UDFSNAME`はユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。
- `/DEV/ASPNAME/UDFSNAME.UDFS`, ここで`ASPNAME`はシステムの有効なASP名の1つで、`UDFSNAME`はユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。

パスの名前部分は、指定された`QASPXX`または`ASPNAME`ディレクトリー内で固有でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

トップ

データの共通認可 (DTAAUT)

新しいユーザー定義ファイル・システム(UDFS)に対してユーザーに与えられる共通データ権限を指定するか、あるいはそれが作成されるディレクトリーからすべての権限が継承されるように指定します。

*INDIR

作成するUDFSの権限は、それが作成されるディレクトリーによって決定されます。このことは、新しいUDFSがその1次グループ、権限リスト、およびその共通、専用、および1次グループ権限を`/DEV/QASPXX`または`/DEV/ASPNAME`ディレクトリーから継承することを意味します。値***INDIR**が**オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)**パラメーターまたは**DTAAUT**パラメーターのいずれかに指定されている場合には、両方のパラメーターに***INDIR**を指定する必要があります。

- *RWX** 所有者に限定されているか、オブジェクト存在(***OBJEXIST**)、オブジェクト管理(***OBJMGT**)、オブジェクト変更(***OBJALTER**)、およびオブジェクト参照(***OBJREF**) 権限によって制御されている場合を除き、オブジェクトを変更し、オブジェクトに基本的な機能を実行することができます。読み取り、書き込み、実行(***RWX**)権限は、オブジェクト操作(***OBJOPR**)および全データ権限を提供します。
- *RW** オブジェクトの内容を表示および変更することができます。読み取り、書き込み(***RW**)権限は、***OBJOPR**およびデータ読み取り(***READ**)、追加(***ADD**)、更新(***UPD**)、削除(***DLT**)権限を提供します。
- *RX** プログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトに対して基本的な操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。読み取り、実行(***RX**)権限は、***OBJOPR**およびデータ***READ**、***EXECUTE**権限を提供します。
- *WX** オブジェクトの内容を変更してプログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。書き込み、実行(***WX**)権限は、***OBJOPR**およびデータ***READ**、***UPD**、***DLT**、***EXECUTE**権限を提供します。
- *R** オブジェクトの内容を検討することができます。読み取り(***R**)権限は、***OBJOPR**およびデータ***READ**権限を提供します。
- *W** ユーザーはオブジェクトの内容を変更することができます。書き込み(***W**) 権限は、***OBJOPR**およびデータ***READ**、***UPD**、***DLT**権限を提供します。

***X** プログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。実行(*X)権限は、*OBJOPRおよびデータ*EXECUTE権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

***NONE**

ユーザーはオブジェクトに対してデータ権限を与えられていません。この値は、OBJAUT値が*NONEの場合には使用できません。

権限リスト名

権限リスト名の形式は、現行の10文字形式のままです。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

トップ

オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)

ユーザー定義ファイル・システムのユーザーに与えられる共通オブジェクト認可を指定するか、あるいはそれが作成されるディレクトリーからすべての権限が継承されるように指定します。

***INDIR**

作成するUDFSのオブジェクト権限は、それが作成されるディレクトリーによって決定されます。このことは、新しいUDFSがその1次グループ、権限リスト、およびその共通、専用、および1次グループ権限を/DEV/QASPXXまたは/DEV/ASPNAMEディレクトリーから継承することを意味します。OBJAUTパラメーターまたはデータの共通認可 (DTAAUT)パラメーターのいずれかに値*INDIRを指定した場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定しなければなりません。

***NONE**

その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, または*OBJREF)は、いずれもユーザーに与えられません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リストを指定した場合には、*NONEを指定しなければなりません。この値を*NONEのDTAAUT値と一緒に使用することはできません。

***ALL** その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, または*OBJREF)は、すべてユーザーに与えられます。

次の値の最大4つまでを指定できます。

***OBJEXIST**

オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が与えられます。ユーザーはオブジェクトの削除、オブジェクトの記憶域の解放、オブジェクトの保管および復元操作の実行、およびオブジェクトの所有権の転送が行えます。

***OBJMGT**

オブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が与えられます。この権限により、オブジェクトの機密保護、オブジェクトの移動または名前変更を指定し、データベース・ファイルにメンバーを追加することができます。

***OBJALTER**

オブジェクトに対するオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が与えられます。オブジェクトの属性を変更することができます。データベース・ファイルについて、トリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去して、データベース・ファイルの属性を変更することができます。

す。SQLパッケージについてこの権限があれば、SQLパッケージの属性を変更することができます。現在、この権限が使用されるのはデータベース・ファイルおよびSQLパッケージの場合だけです。

*OBJREF

オブジェクトに対するオブジェクト参照(*OBJREF)権限が与えられます。データベース・ファイルについてのみ使用されるもので、そのオブジェクトに対する操作が他のオブジェクトによって制約される可能性がある別のオブジェクトから、そのオブジェクトを参照することができます。物理ファイルの場合には、その物理ファイルの親へ参照の制約を追加することができます。

トップ

オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)

このユーザー定義ファイル・システム内に作成されたオブジェクトの監査値を指定します。

*SYSVAL

UDFS内のオブジェクトのオブジェクト監査値は、システム監査値(QCRTOBJAUD)によって決定されます。

*NONE

このオブジェクトを使用しあるいは変更しても、監査項目は機密保護ジャーナルに送られません。

*USRPRF

このオブジェクトにアクセスするユーザーのユーザー・プロファイルを使用して、このアクセスについての監査レコードを送るかどうかを決定します。ユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD)コマンドのOBJAUDパラメーターは、特定のユーザーに対する監査をオンにするために使用されます。

*CHANGE

すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更アクセスが記録されます。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更または読み取りアクセスが記録されます。

トップ

オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかで登録されるときに、ユーザー定義ファイル・システムに作成されたオブジェクトがスキャンされるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムのスキャン関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システムスキャン
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システムスキャン

これらの出口点の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説（英文）を参照してください。

この属性はユーザー定義ファイル・システムに設定できますが、この属性に設定されている値に関係なく、実際には*TYPE2ディレクトリーにあるそのユーザー定義ファイル・システムだけがスキャンされます。

***PARENT**

このユーザー定義ファイル・システムの作成オブジェクト・スキャン属性の値は、親ディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値からコピーされます。

***YES** ユーザー定義ファイル・システムにオブジェクトが作成された後で、オブジェクトが変更されているかあるいは最後にオブジェクトがスキャンされた後でスキャン・ソフトウェアが更新されている場合には、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムに記述されている規則に従ってスキャンされます。

***NO** ユーザー定義ファイル・システムにオブジェクトが作成された後で、オブジェクトはスキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL) 値 *NOPOSTRST が指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも 1 回スキャンされます。

***CHGONLY**

ユーザー定義ファイル・システムにオブジェクトが作成された後で、最後のオブジェクトのスキャン以降にオブジェクトが変更されている場合に限り、オブジェクトはスキャン関連出口プログラムに記述された規則に従ってスキャンされます。スキャン・ソフトウェアが更新されていれば、オブジェクトはスキャンされません。この属性が有効となるのは、スキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL) システム値に *USEOCOATR が指定されている場合だけです。そうでない場合には、属性が *YES の場合と同様に処理されます。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL) 値 *NOPOSTRST が指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも 1 回スキャンされます。

トップ

制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)

ユーザー定義ファイル・システムのルート・ディレクトリー内のオブジェクトに対して実行される名前変更およびリンク解除操作に、特別な制約が適用されるかどうかを指定します。この属性は、このディレクトリーの S_ISVTX モード・ビットと同じです。

***NO** ユーザー定義ファイル・システムのルート・ディレクトリーからのオブジェクトの名前変更またはリンク解除についての追加の制約はありません。

***YES** ユーザー定義ファイル・システムのルート・ディレクトリー内のオブジェクトを名前変更またはリンク解除できるのは、操作を実行するユーザーに対して次の 1 つ以上が真である場合だけです。

1. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
2. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
3. ユーザーが全オブジェクト (*ALLOBJ) 特殊権限を持っている。

トップ

大文字小文字の区別 (CASE)

このファイル・システムの大文字小文字の区別を指定します。

***MONO**

ファイル・システムの大文字・小文字は区別されません。たとえば、名前FILEA（大文字と小文字）では同じオブジェクトが参照されます。

***MIXED**

ファイル・システムの大文字・小文字は区別されます。たとえば、名前FILEA（大文字と小文字）では同じオブジェクトは参照されません。

[トップ](#)

省略時のファイル形式 (DFTFILEFMT)

ユーザー定義ファイル・システムに作成されるストリーム・ファイル(*STMF)の形式を指定します。

***TYPE2**

*TYPE2 *STMFは、ハイパフォーマンス・ファイル・アクセスが可能であり、OS/400のバージョン4リリース4の新しい*STMFオブジェクト形式です。最小のオブジェクト・サイズは4096バイトで、最大オブジェクト・サイズは約1テラバイトです。*TYPE2ストリーム・ファイルは、メモリー・マッピングに使用できます。

***TYPE1**

*TYPE1 *STMFは、OS/400のバージョン4リリース4より前のリリースで作成された*STMFオブジェクトと同じ形式です。最小サイズは4096バイトで、最大オブジェクト・サイズは約256 ギガバイトです。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

ユーザー定義ファイル・システムのテキスト記述。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50桁以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CRTUDFSの例

例1: システムASPへのUDFSの作成

```
CRTUDFS  UDFS('/DEV/QASP01/JOE.UDFS)  TEXT('JOE SMITH')
```

このコマンドは、システム補助記憶域プール(ASP 1)にJOE.UDFSという名前のユーザー定義ファイル・システム(UDFS)を作成します。

例2: ASP 3へのUDFSの作成

```
CRTUDFS  UDFS('/DEV/QASP03/HARRY.UDFS')  CASE(*MIXED)
```

このコマンドは、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 3にHARRY.UDFSという名前の大文字と小文字が区別されるユーザー定義ファイル・システムを作成します。

エラー・メッセージ： CRTUDFS

*ESCAPEメッセージ

CPFA0A2

この操作に渡された情報が正しくない。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

ユーザー・プロファイル作成 (CRTUSRPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドは、システムに対してユーザーを識別し、これによって、ユーザーはシステムでの表示方法をカスタマイズすることができます。プロファイルが作成されると、プロファイルにそのプロファイル自体の*CHANGEおよび*OBJMGT権限が与えられます。システムはプロファイル自体にこれらの権限を持つプロファイルに依存しているので、除去してはいけません。

制約事項: このコマンドのユーザーには、以下が必要です。

- ・ 機密保護管理者(*SECADM)特殊権限
- ・ 現行ライブラリー、プログラム、メニュー、ジョブ記述、メッセージ待ち行列、印刷装置、出力待ち行列、およびATTNキー処理プログラムに対する使用(*USE)権限 (指定された場合)
- ・ グループ・プロファイルおよび補足グループ・プロファイルに対する変更(*CHANGE)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限 (指定された場合)。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名	必須, 定位置 1
PASSWORD	ユーザー・パスワード	文字値, *USRPRF, *NONE	オプション, 定位置 2
PWDEXP	パスワードを満了にセット	*NO, *YES	オプション
STATUS	状況	*ENABLED, *DISABLED	オプション
USRCLS	ユーザー・クラス	*USER, *SYSOPR, *PGMR, *SECADM, *SECOFR	オプション
ASTLVL	援助レベル	*SYSVAL, *BASIC, *INTERMED, *ADVANCED	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *CRTDFT	オプション
INLPGM	呼び出す初期プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 呼び出す初期プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
INLMNU	初期メニュー	単一値: *SIGNOFF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期メニュー	名前, MAIN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LMTCPB	制限機能	*NO, *PARTIAL, *YES	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SPCAUT	特殊権限	単一値: *USRCLS , *NONE その他の値 (最大 8 回の繰り返し): *ALLOBJ, *AUDIT, *IOSYSCFG, *JOBCTL, *SAVSYS, *SECADM, *SERVICE, *SPLCTL	オプション, 定位置 3
SPCENV	特殊環境	*SYSVAL , *NONE, *S36	オプション
DSPSGNINF	サインオン情報の表示	*SYSVAL , *NO, *YES	オプション
PWDEXPITV	パスワード満了間隔	1-366, *SYSVAL , *NOMAX	オプション
LCLPWDMGMT	ローカル・パスワード管理	*YES , *NO	オプション
LMTDEVSSN	装置セッション限界	*SYSVAL , *YES, *NO	オプション
KBDBUF	キーボード・バッファ方式	*SYSVAL , *NO, *TYPEAHEAD, *YES	オプション
MAXSTG	最大許容記憶域	整数, *NOMAX	オプション
PTYLMT	最高スケジュール優先順位	0-9, 3	オプション
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QDFTJOB	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
GRPPRF	グループ・プロファイル	名前, *NONE	オプション
OWNER	所有者	*USRPRF , *GRPPRF	オプション
GRPAUT	グループ権限	*NONE , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
GRPAUTYP	グループ権限タイプ	*PRIVATE , *PGP	オプション
SUPGRPPRF	補足グループ	単一値: *NONE その他の値 (最大 15 回の繰り返し): 名前	オプション
ACGCDE	会計コード	文字値, *BLANK	オプション
DOCPWD	文書パスワード	名前, *NONE	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
DLVRY	配布	*NOTIFY , *BREAK, *HOLD, *DFT	オプション
SEV	重大度コード・フィルター	0-99, 0	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *WRKSTN , *SYSVAL	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *WRKSTN , *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
ATNPGM	アテンション・プログラム	単一値: *NONE, *SYSVAL , *ASSIST その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: アテンション・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SRTSEQ	分類順序	単一値: *SYSVAL , *HEX, *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *SYSVAL	オプション
CNTRYID	国別または地域ID	文字値, *SYSVAL	オプション
CCSID	コード化文字セットID	整数, *SYSVAL , *HEX	オプション
CHRIDCTL	文字識別コードの制御	*SYSVAL , *DEVD, *JOBCCSID	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SETJOBATR	ロケール・ジョブ属性	単一値: *SYSVAL , *NONE その他の値 (最大 6 回の繰り返し): *CCSID, *DATFMT, *DATSEP, *DECFMT, *SRTSEQ, *TIMSEP	オプション
LOCALE	ロケール	パス名, *SYSVAL , *NONE, *C, *POSIX	オプション
USROPT	ユーザー・オプション	単一値: *NONE その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *CLKWD, *EXPERT, *ROLLKEY, *NOSTMSG, *STMSG, *HLPFULL, *PRTMSG	オプション
UID	ユーザーID番号	1-4294967294, *GEN	オプション
GID	グループID番号	1-4294967294, *NONE , *GEN	オプション
HOMEDIR	ホーム・ディレクトリー	パス名, *USRPRF	オプション
EIMASSOC	EIM関連	単一値: *NOCHG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: EIM ID	文字値, *USRPRF	
	要素 2: 関連タイプ	*TARGET, *SOURCE, *TGTSRC, *ADMIN, *ALL	
	要素 3: 関連アクション	*REPLACE , *ADD, *REMOVE	
	要素 4: EIM IDの作成	*NOCRTEIMID , *CRTEIMID	
AUT	権限	*ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

作成するユーザー・プロファイルを指定します。数字のユーザー・プロファイルを指定することができません。ユーザー・プロファイルが数字の場合には、**Q**で始めなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 作成するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

トップ

ユーザー・パスワード (PASSWORD)

ユーザーがシステムにサインオンできるパスワードを指定します。このパスワードはユーザー・プロファイルと関連付けられて、システム内のユーザーを表わすためにシステムによって使用されます。このパスワードは、個々のユーザーのみが知っている必要があります。数字のパスワードを指定することができます。

このシステムがパスワード・レベル0または1で作動中であり、パスワードが数字である場合は、そのパスワードは**Q**で始めなければなりません。たとえば、**Q1234**。ここで、**1234**はシステムにサインオンするためのパスワードです。

注: パスワード・レベルは、パスワード・レベル(QPWDLV)システム値によって制御されます。

注: 新しいパスワードはパスワードの妥当性検査規則に対して検査されません。パスワード妥当性検査規則は、OS/400システム値によって定義されます。パスワードの妥当性検査規則については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

***USRPRF**

このユーザーのパスワードは、USRPRFパラメーターで指定されたユーザー名と同じです。システムがパスワード・レベル2または3で作動していて、ユーザー・プロファイル・パスワードに*USRPRF値が指定された場合には、そのパスワードは大文字を使用して入力する必要があります。

***NONE**

このユーザー・プロファイルに対応するパスワードはありません。ユーザーは、PASSWORD(*NONE)を指定したプロファイルでシステムをサインオンすることはできません。

ユーザー・パスワード

システムがパスワード・レベル0または1で作動している場合には、10文字またはそれ以下の英数字ストリングを指定してください。最初の文字は英字で、その他の文字は英数字でなければなりません。

システムがパスワード・レベル2または3で作動している場合には、128文字またはそれ以下の文字ストリングを指定してください。パスワード・レベル2または3では、大文字小文字の区別が行われます。

ローカル・パスワード管理(LCLPDMGT)パラメーターが*NOである場合は、ローカルOS/400パスワードは*NONEに設定されるので、ユーザーはパスワードに*NONEを指定することと同じ制限を受けます。指定されるパスワード値が、パスワード同期を実行する他のIBM製品（たとえば、WINDOWS SERVERのISERIES統合）に送られます。ユーザー・プロファイルに対してLCLPDMGT(*NO)が指定されている場合に、製品のパスワードの管理については、その製品の資料を参照してください。

[トップ](#)

パスワードを満了にセット (PWDEXP)

このユーザーのパスワードが満了にセットされるかどうかを指定します。パスワードが満了にセットされている場合には、ユーザーはシステムにサインオンするパスワードを変更する必要があります。ユーザーがシステムのサインオンを試みると、サインオン情報画面が表示され、パスワードを変更するオプションを選択することができます。

***NO** パスワードは満了にセットされません。

***YES** パスワードは満了にセットされます。

[トップ](#)

状況 (STATUS)

ユーザー・プロファイルの状況を指定します。

サインオンが正常に行われなかった回数がQMAXSIGNシステム値に指定された限界に達し、QMAXSGNACNシステム値にオプション2または3が指定されている場合には、システムはユーザー・プロファイルを非活動化します。

***ENABLED**

ユーザー・プロファイルはサインオンに対して有効です。

*DISABLED

ユーザー・プロファイルは、許可ユーザーが再び使用可能にするまで、サインオンには無効です。非活動化されたユーザー・プロファイルのバッチ・ジョブは投入することができます。

[トップ](#)

ユーザー・クラス (USRCLS)

このユーザー・プロファイルと関連したユーザーのタイプを指定します。すなわち、機密保護担当者、機密保護管理者、プログラマー、システム操作員、またはユーザーなどです。ユーザー・クラスは、メニューに示されるオプションを制御します。特殊権限が付与されるのは、*USRCLSが**特殊権限 (SPCAUT)**パラメーターに指定されている場合だけです。SPCAUT(*USRCLS)が指定された場合には、認可される特殊権限はQSECURITY値によって異なります。

*USER

QSECURITYレベル10または20では、ユーザーは*ALLOBJおよび*SAVSYS権限をもちます。

QSECURITYレベル30以上では、そのユーザーは特殊権限を持ちません。

*SECOFR

機密保護のすべてのレベルで、機密保護担当者には次の特殊権限が認可されます。

- *ALLOBJ
- *SAVSYS
- *JOBCTL
- *SERVICE
- *SPLCTL
- *SECADM
- *AUDIT
- *IOSYSCFG

*SECADM

QSECURITYレベル10または20では、機密保護管理者は*ALLOBJ, *SAVSYS, *SECADM, および *JOBCTL特殊権限を持ちます。

QSECURITYレベル30以上では、そのユーザーは*SECADM特殊権限を持ちます。

*PGMR

QSECURITYレベル10または20では、プログラマーは*ALLOBJ, *SAVSYS, および *JOBCTL特殊権限を持ちます。

QSECURITYレベル30以上では、そのユーザーは特殊権限を持ちません。

*SYSOPR

QSECURITYレベル10または20では、システム操作員は*ALLOBJ, *SAVSYS, および *JOBCTL特殊権限を持ちます。

QSECURITYレベル30以上では、そのユーザーは*SAVSYSおよび*JOBCTL特殊権限を持ちます。

[トップ](#)

援助レベル (ASTLVL)

使用するユーザー・インターフェースを指定します。

***SYSVAL**

システム値QASTLVLに定義された援助レベルが使用されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

***INTERMED**

システム・インターフェースが使用されます。

***ADVANCED**

EXPERTシステム・インターフェースが使用されます。さらにリスト項目を表示できるようにするために、オプション・キーと機能キーは表示されません。コマンドに拡張(*ADVANCED)レベルがない場合には、中間(*INTERMED)レベルが使用されます。

トップ

現行ライブラリー (CURLIB)

実行中のジョブと関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

このユーザーに対して現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定します。ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドまたはユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドの**制限機能 (LMTCPB)**パラメーターに*PARTIALまたは*YESが指定された場合には、ユーザーは、サインオンまたはプロファイル変更(CHGPRF)コマンドで現行ライブラリーを変更することはできません。

***CRTDFT**

このユーザーには現行ライブラリーがありません。省略時の現行ライブラリーとしてQGPLが使用されます。

名前 このユーザーに対して現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

呼び出す初期プログラム (INLPGM)

対話式ジョブの場合は、要求処理プログラムとしてQCMDを持つ新しい経路指定ステップが開始されると常に呼び出されるプログラムの名前を指定します。*PARTIALまたは*YESが**制限機能 (LMTCPB)**パラメーターに指定されている場合は、プログラム値はサインオン時に、あるいはプロファイル変更(CHGPRF)コマンドによって変更することができません。このプログラムにはパラメーターを渡すことができません。

システム/36環境プロシージャー名は、そのプロシージャーが（ライブラリー・リスト中または指定されたライブラリー内の）ファイルQS36PRCのメンバーである場合および次の条件のいずれかが真である場合は初期プログラムとして指定することができます。

- *S36がSPCENVパラメーターに指定されている。
- *SYSVALがSPCENVパラメーターに指定され、システム値SPCENVが*S36である。

単一値

***NONE**

ユーザーのサインオン時に呼び出されるプログラムはありません。初期メニュー (INLMNU)パラメーターにメニュー名を指定すると、そのメニューが表示されます。

修飾子1: 呼び出す初期プログラム

名前 ユーザーのサインオン時に呼び出されるプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 初期プログラムがあるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

初期メニュー (INLMNU)

ユーザーの経路指定プログラムがコマンド・プロセッサQCMDである場合は、ユーザーがシステムにサインオンすると表示される初期メニューを指定します。*YESが制限機能 (LMTCPB)パラメーターに指定されている場合は、ユーザーはサインオン時に、あるいはプロファイル変更(CHGPRF)コマンドを使用してメニューを変更することができません。

システム/36環境メニューは、次の条件のいずれかが真である場合には、初期メニューとして指定することができます。

- *S36が特殊環境 (SPCENV)パラメーターに指定されている。
- *SYSVALがSPCENVパラメーターに指定され、システム値SPCENVが*S36である。

単一値

MAIN MAINという名前のメニューが探し出されて表示されます。

***SIGNOFF**

システムはプログラムが完了した時点でユーザーをサインオフします。これは、プログラムを実行するためだけのために認可されたユーザーを対象としています。

修飾子1: 初期メニュー

名前 ユーザーがシステムにサインオンした後に呼び出される初期メニューの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メニューを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 初期メニューがあるライブラリーの名前を指定してください。

制限機能 (LMTCPB)

ユーザーがプログラム、メニュー、現行ライブラリー、およびATTNキー処理プログラムの値を制御できる限界を指定します。それはユーザーがコマンド入力行からコマンドを実行することができるかどうかも決定します。機密保護レベルが10の時には、このパラメーターは無視されます。

注: 他のユーザーのユーザー・プロファイルを作成または変更する時には、ユーザー自身のユーザー・プロファイルがユーザーに認可する以上の能力を他のユーザーに認可する値をこのパラメーターで指定することはできません。たとえば、ユーザーのユーザー・プロファイルにおいて**制限機能 (LMTCPB)**パラメーターで*PARTIALが指定されている場合には、他のユーザーに対して*PARTIALまたは*YESを指定することができます。他のユーザーに対して*NOを指定することはできません。

***NO** ユーザーがシステムにサインオンする時に、プログラム、メニュー、および現行ライブラリーの値を変更することができます。ユーザーは、プロファイル変更(CHGPRF)コマンドで、自分のユーザー・プロファイル中のプログラム、メニュー、現行ライブラリー、またはATTNキー処理プログラムの値を変更することができます。コマンドはコマンド入力行から実行することができます。

***PARTIAL**

プログラムおよび現行ライブラリーをサインオン画面で変更することはできません。メニューを変更することができ、またコマンド入力行からコマンドを実行することができます。ユーザーはプロファイル変更(CHGPRF)コマンドによってメニューの値を変更することができます。プログラム、現行ライブラリー、およびATTNキー処理プログラムは、CHGPRFコマンドを使用して変更することができません。

***YES** プログラム、メニュー、および現行ライブラリーの値をサインオン画面で変更することはできません。コマンドをコマンド入力行からかまたはCMDADDのようなコマンド・グループ化メニューからオプションを選択することによって出した場合には、コマンドを実行することはできませんが、コマンド入力画面からであれば実行することができます。CHGPRFコマンドを使用して、プログラム、メニュー、現行ライブラリー、またはATTNキーのプログラム処理値を変更することはできません。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

特殊権限 (SPCAUT)

ユーザーに付与される特殊権限を指定します。システム上のある種の機能を実行するためには、特殊権限が必要です。特殊権限は、多くのシステム提供のユーザー・プロファイル(QSECOFRまたはQSYSを含む) から除去することができません。

通常、次の特殊権限が認可されます。

- システムの操作が必要なユーザーに対して、システム保管(*SAVSYS)特殊権限。
- システム入出力構成を変更する必要があるユーザーに対して、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限。
- ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限がユーザーに付与されます。ユーザーは、システム上で実行中のすべてのジョブ、またはジョブ待ち行列上にあるジョブ、あるいはOPRCTL (*YES)が指定された出力待ち行列上にあるジョブを変更、表示、保留、解放、取り消し、およびすべての消去を行なう権限が与えられます。また、ユーザーはシステムをロードし、書き出しプログラムを開始し、活動サブシステムを停止する権限も持っています。
- ユーザー・プロファイルの作成、変更、または削除が必要なユーザーに対して、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限。
- システム資源の処理が必要なユーザーに対して、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限。
- 保守機能を実行する必要があるユーザーに対して、保守(*SERVICE)特殊権限。
- すべてのスプール関連機能を実行する必要があるユーザーに対して、スプール制御(*SPLCTL)特殊権限。
- 監査機能を実行する必要があるユーザーに対して、監査(*AUDIT)特殊権限。

制約事項:

- 別のユーザー・プロファイルを作成または変更しようとするユーザー・プロファイルには、付与しようとする特殊権限のすべてが必要です。すべての特殊権限を別のユーザー・プロファイルに付与するには、すべての特殊権限が必要です。
- CHGUSRPRFコマンドの使用時に、ユーザーに*SECADM特殊権限を付与するために、ユーザーには*ALLOBJおよび*SECADM特殊権限が必要です。
- CHGUSRPRFコマンドの使用時に、ユーザーに*AUDIT特殊権限を付与するために、ユーザーには*ALLOBJ、*SECADM、および*AUDIT特殊権限が必要です。

単一値

***USRCLS**

ユーザー・クラス (USRCLS)パラメーターに指定された値に基づいて、このユーザーに特殊権限が認可されます。

***NONE**

このユーザーに認可される特殊権限はありません。

その他の値

***ALLOBJ**

全オブジェクト権限がユーザーに付与されます。ユーザーは、私用権限の有無にかかわらず、すべてのシステム資源にアクセスすることができます。

***AUDIT**

このユーザーには監査権限が認可されます。このユーザーには、監査機能を実行する権限が与えられます。監査機能には、システムに対する監査のオンまたはオフとオブジェクトまたはユーザーに対する監査レベルの制御が含まれます。

***JOBCTL**

ジョブ制御権限がユーザーに付与されます。ユーザーには、システム上で実行中のすべてのジョブ、およびOPRCTL (*YES)が指定されているジョブ待ち行列または出力待ち行列上にあるすべてのジョブを変更、表示、保留、保留解除、取り消し、および消去する権限があります。このユーザーはまた、書き出しプログラムを開始したり、活動サブシステムを停止する権限ももっています。

***SAVSYS**

このユーザー・プロファイルにシステム保管権限が与えられます。このユーザーには、オブジェクト管理権限があってもなくても、システム上のすべてのオブジェクトの保管、復元、および記憶域解放を行なう権限があります。

***IOSYSCFG**

入出力(I/O)システム構成権限がユーザーに付与されます。ユーザーはシステムの入出力構成を変更する権限を持ちます。

***SECADM**

機密保護管理者権限がユーザーに付与されます。ユーザーは、ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)、ユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)、およびユーザー・プロファイル削除(DLTUSRPRF)コマンドに対して認可されている場合は、ユーザー・プロファイルを作成、変更、または削除することができます。この権限では、このユーザー・プロファイルが持っていない特殊権限を付与することはできません。別のユーザーに*SECADM特殊権限を付与するためには、ユーザーは*ALLOBJと*SECADMの両方の特殊権限を持っていないければなりません。

***SERVICE**

保守権限がこのユーザーに付与されます。ユーザーはサービス機能を実行することができます。

***SPLCTL**

スプール制御権がユーザーに付与されます。ユーザーはすべてのスプール機能を実行することができます。

[トップ](#)

特殊環境 (SPCENV)

ユーザーがサインオン後に操作を行なう特殊環境を指定します。

***SYSVAL**

システムにサインオンした後のユーザーのシステム環境を決めるために、システム値QSPCENVが使用されます。

***NONE**

ユーザーは、システムにサインオンした後に、OS/400システム環境で操作を行ないます。

***S36**

ユーザーは、システムにサインオンした後に、システム/36環境で操作を行ないます。

[トップ](#)

サインオン情報の表示 (DSPSGNINF)

サインオン情報画面が表示されるかどうかを指定します。

***SYSVAL**

サインオン情報画面が表示されるかどうかを決めるために、システム値QDSPSGNINFが使用されます。

***NO** サインオン情報画面は表示されません。

***YES** サインオン情報画面が表示されます。

トップ

パスワード満了間隔 (PWDEXPITV)

パスワード満了間隔（日数）を指定します。

***SYSVAL**

パスワード満了間隔を決定するためには、システム値QPWDEXPITVが使用されます。

***NOMAX**

パスワードは満了しません。

1-366 パスワードが変更される日付からパスワードが満了する日付までの日数を指定してください。有効な値の範囲は1から366です。

トップ

ローカル・パスワード管理 (LCLPDMGT)

ユーザー・プロファイルのパスワードをローカル側で管理かするかどうかを指定します。

***YES** パスワードはローカル・システム上で管理されます。

***NO** パスワードはローカル・システム上で管理されません。この値を指定すると、ローカルOS/400パスワードが*NONEに設定されることとなります。パスワード・パラメーターに指定されたパスワード値が、パスワード同期を実行する他のIBM 製品（たとえば、WINDOWS SERVERのISERIES統合）に送られます。

ユーザーは、パスワード変更(CHGPWD)コマンドを使用して自分のパスワードを変更できなくなります。また、システムに直接サインオンすることもできなくなります。

この値を指定すると、パスワード同期を実行する他のIBM製品(WINDOWS SERVERのISERIES統合など)に影響が及ぶこととなります。詳細については、製品の資料を参照してください。

この値を使用する必要があるのは、ユーザーが他のどれかのプラットフォームによってシステムにアクセスする必要しかない場合です。

トップ

装置セッション限界 (LMTDEVSSN)

ユーザーに許される装置セッションの数を1に制限するかどうかを指定します。これはSYSREQおよび2番目のサインオンを制限しません。

***SYSVAL**

ユーザーが1装置セッションに制限されるかどうかを決めるために、システム値QLMTDEVSSNが使用されます。

***NO** ユーザーは1装置セッションに制限されません。

***YES** ユーザーは1装置セッションに制限されます。

キーボード・バッファ方式 (KBDBUF)

このユーザー・プロファイルのジョブが初期設定される時に使用されるキーボード・バッファリング値を指定します。先行入力機能が活動状態の場合には、キーボード・キー・ストロークをバッファに入れてすることができます。ATTNキー・バッファリング・オプションが活動状態の場合には、ATTNキーはその他のキーと同じようにバッファに入れられます。ATTNキー・バッファ方式オプションが活動状態でない場合には、ATTNキーはバッファに入れられず、表示装置が入力禁止状態であってもシステムに送られます。また、この値はユーザー・アプリケーションによっても設定することができます。詳細な情報は、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter)で、API解説(英文)にあります。

*SYSVAL

キーボード・バッファリング値を決定するために、システム値QKBDBUFが使用されます。

***NO** 先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションが活動状態になっていません。

*TYPEAHEAD

先行入力機能は活動状態ですが、ATTNキー・バッファリング・オプションはそうではありません。

***YES** 先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションは活動状態になっています。

トップ

最大許容記憶域 (MAXSTG)

このユーザー・プロファイルによって所有される永続オブジェクトを記憶するために割り当てられる補助記憶域の最大容量(キロバイト数)を指定します(1Kバイトは1024バイトと等しくなります)。対話式ユーザーがオブジェクトを作成しようとしているときに最大数を超えると、エラー・メッセージが表示され、そのオブジェクトは作成されません。オブジェクトをバッチ・ジョブで作成時に最大数を超えると、エラー・メッセージが(ジョブのロギング・レベルに応じて)ジョブ・ログに送られ、そのオブジェクトは作成されません。

記憶域は4Kの増分で割り振られます。したがって、MAXSTG(9)を指定した場合には、プロファイルは、12Kの記憶域を割り振られます。

ユーザー・プロファイルのための最大記憶域を計画する時には、以下のシステム処置を考慮してください。

- 復元操作により、記憶域が復元を実行中のユーザーに割り当てられてから、オブジェクトが所有者に転送されます。大容量の復元の場合は、MAXSTG(*NOMAX)を指定してください。
- レシーバー・サイズが増大すると、ジャーナル・レシーバーを作成するユーザー・プロファイルには記憶域が割り当てられます。JRNRCV(*GEN)を使用して新規レシーバーを作成すると、アクティブ・ジャーナル・レシーバーを所有しているユーザー・プロファイルに記憶域が割り当て続けられます。きわめてアクティブなジャーナル・レシーバーを所有している場合は、MAXSTG(*NOMAX)を指定してください。
- 作成したオブジェクトを自分のグループ・プロファイルに転送するユーザー・プロファイルには、そのオブジェクトをグループ・プロファイルに転送する前に、作成済みオブジェクトを入れるために十分な記憶域がユーザー・プロファイルに必要です。

- オブジェクトが別のユーザー・プロファイルによって所有されている場合でも、ライブラリーの所有者には、そのライブラリーに保管されるオブジェクトの記述用の記憶域が割り当てられます。このようなオブジェクトの例は、テキストおよびプログラム参照です。

***NOMAX**

必要なだけの記憶域がこのプロファイルに割り当てられます。

番号 ユーザー用の記憶域の最大容量をキロバイト数（1Kバイトは1024バイトです）で指定してください。

[トップ](#)

最高スケジューリング優先順位 (PTYLMT)

ユーザーがシステムに投入する各ジョブごとに指定できる最高スケジューリング優先順位を指定します。この値は、このユーザー・プロファイルのもとで実行中のすべてのジョブのジョブ処理優先順位および出力優先順位を制御します。つまり、ジョブ・コマンドのJOBPTYおよびOUTPTYパラメーターに指定された値は、ジョブが実行されるユーザー・プロファイルのPTYLMT値を超えることができません。スケジューリング優先順位は0 - 9の範囲の値とすることができます。0は最高の優先順位、9は最低の優先順位です。

3 このプロファイルに指定されたユーザーは、システム上のジョブのスケジューリングに、3より高い優先順位値を使用することはできません。

0-9 ユーザーに許される最高スケジューリング優先順位の値(0-9)を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBDB)

サブシステム・ワークステーション項目を介して開始されるジョブに使用されるジョブ記述を指定します。ユーザー・プロファイルの作成または変更時にジョブ記述がない場合には、ジョブ記述名がユーザー・プロファイルに保持されるので、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません。

修飾子1: ジョブ記述

QDFTJOBDB

ライブラリーQGPLにある省略時のシステム提供のジョブ記述が使用されます。

名前 ジョブ記述パラメーター値でユーザーJOBDB(*USRPRF)が指示されている、ワークステーション項目に使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

グループ・プロファイル (GRPPRF)

特定の権限がユーザーに付与されていない場合に、権限を使用するユーザーのグループ・プロファイル名を指定します。このコマンドの現行ユーザーには、**グループ・プロファイル (GRPPRF)**パラメーターに指定されたプロファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限および変更(*CHANGE)権限が必要です。プログラムの借用操作によって、必要な*OBJMGT権限を認可することはできません。

注：

1. グループ・プロファイルが指定された場合には、そのユーザーは、そのグループ・プロファイルに対して*CHANGEおよび*OBJMGT権限が自動的に認可されます。
2. 以下のIBM提供のオブジェクトはこのパラメーターでは正しくありません。

QAUTPROF, QCLUMGT, QCLUSTER, QCOLSRV, QDBSHR, QDBSHRDO, QDFTOWN, QDIRSRV, QDLFM, QDOC, QDSNX, QEJB, QFNC, QGATE, QIPP, QLPAUTO, QLPINSTALL, QMGTC, QMSF, QNETSPLF, QNFANON, QNTP, QPEX, QPM400, QRJE, QSNADS, QSPL, QSPLJOB, QSRV, QSRVAGT, QSRVBAS, QSYS, QTCM, QTCP, QTFTP, QTSTRQS, QYCMCIMOM, QYPSJSVR

*NONE

このユーザー・プロファイルはグループ・プロファイルではありません。

名前 このユーザー・プロファイルと一緒に使用するグループ・プロファイルの名前を指定してください。

トップ

所有者 (OWNER)

このユーザーが作成したオブジェクトの所有者となるユーザー・プロファイルを指定します。

*USRPRF

ジョブに関連したユーザー・プロファイルがオブジェクトの所有者になります。

*GRPPRF

グループ・プロファイルは新しく作成したオブジェクトの所有者が作成して、そのオブジェクトに対するすべての権限を持ちます。ジョブと関連したユーザー・プロファイルは、オブジェクトに対するどんな特定権限も持っていません。*GRPPRFを指定する場合は、ユーザー・プロファイル名を**グループ・プロファイル (GRPPRF)**パラメーターに指定子なければならず、**グループ権限 (GRPAUT)**パラメーターを指定することはできません。

トップ

グループ権限 (GRPAUT)

新しく作成されたオブジェクトについてのグループ・プロファイルに付与される特定権限。**所有者 (OWNER)**パラメーターに*GRPPRFが指定されている場合には、このパラメーターの指定はできません。

*NONE

グループ権限が付与されません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

トップ

グループ権限タイプ (GRPAUTTYP)

新しく作成されるオブジェクトのグループ・プロファイルに認可する権限のタイプを指定します。グループ権限 (GRPAUT)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターの指定は無視されます。

***PRIVATE**

グループ・プロファイルは、GRPAUTパラメーターで判別される権限値によって、新しく作成されるオブジェクトに対して私用認可が認可されます。GRPAUTパラメーターの権限値が*NONEの場合には、この値は無視されます。

***PGP** グループ・プロファイルは、GRPAUTパラメーターで判別される権限値によって、新しく作成されるオブジェクトの1次グループになります。GRPAUTパラメーターの権限値が*NONEの場合には、この値は無視されます。

トップ

補足グループ (SUPGRPPRF)

ユーザーの補足グループ・プロファイルを指定します。ここに指定されたプロファイルを、グループ・プロファイル (GRPPRF)パラメーターに指定されたグループ・プロファイルと一緒に使用して、そのジョブに特定のユーザー権限が指定されない場合に、どんな権限をユーザーがもつかを判別します。このパラメーターにプロファイルが指定された場合には、このユーザー・プロファイルに対して（このコマンドか前のユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)またはユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドのいずれかで) GRPPRFパラメーターにグループ・プロファイル名を指定しなければなりません。このコマンドの現行ユーザーには、これに指定されたプロファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限および変更(*CHANGE)権限が必要です。プログラムの借用操作によって、必要な*OBJMGT権限を認可することはできません。

注:

1. グループ・プロファイルが指定された場合には、そのユーザーは、そのグループ・プロファイルに対して*CHANGEおよび*OBJMGT権限が自動的に認可されます。

2. 次のIBM提供ユーザー・プロファイルはこのパラメーターでは無効です。

QAUTPROF, QCLUMGT, QCLUSTER, QCOLSRV, QDBSHR, QDBSHRDO, QDFTOWN, QDIRSRV, QDLFM, QDOC, QDSNX, QEJB, QFNC, QGATE, QIPP, QLPAUTO, QLPINSTALL, QMGTC, QMSF, QNETSPLF, QNFANON, QNTP, QPEX, QPM400, QRJE, QSNADS, QSPL, QSPLJOB, QSRV, QSRVAGT, QSRVBAS, QSYS, QTCM, QTCP, QTFTP, QTSTRQS, QYCMCIMOM, QYPSJSVR

***NONE**

補足のグループ・プロファイルは、このユーザー・プロファイルと一緒に使用されません。

名前 既存のオブジェクトにアクセスするためのジョブの適格性および特殊権限を判別するために、このユーザー・プロファイルおよびGRPPRFパラメーターに指定されたグループ・プロファイルと一緒に使用される最大15のグループ・プロファイル名を指定します。

トップ

会計コード (ACGCDE)

このユーザー・プロファイルと対応した会計コードを指定します。

***BLANK**

15個のブランクからなる会計コードが、このユーザー・プロファイルに割り当てられます。

文字値 このユーザー・プロファイルから会計コードを受け取る、ジョブが使用する15文字の会計コードを指定してください。15文字未満が指定されると、ストリングの右側にブランクが埋め込まれます。

トップ

文書パスワード (DOCPWD)

文書交換アーキテクチャー(DIA)文書配布サービス・ユーザーが他のユーザーが個人配布機能の代行するユーザーによる使用から保護できる文書パスワードを指定します。

***NONE**

このユーザーが使用する文書パスワードはありません。

名前 このユーザーに割り当てる文書パスワードを指定してください。パスワードは、1-8文字の範囲の英数字（英字A-Zおよび数字0-9）でなければなりません。文書パスワードの先頭文字は英字でなければなりません。残りの文字は英数字にすることができます。組み込みブランク、先行ブランク、および特殊文字は無効です。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

メッセージの送り先のメッセージ待ち行列の名前を指定します。

注: メッセージ待ち行列は、まだ存在していないと作成されます。**ユーザー・プロファイル (USRPRF)**パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルはそのメッセージ待ち行列の所有者です。

単一値

***USRPRF**

USRPRFパラメーターに指定したのと同じ名前のメッセージ待ち行列がこのユーザーのメッセージ待ち行列として使用されます。このメッセージ待ち行列はQUSRSYSライブラリーにあります。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 このプロファイルで使用するメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

配布 (DLVRY)

このユーザー用のメッセージ待ち行列に送られるメッセージの配信方法を指定します。

***NOTIFY**

メッセージがメッセージ待ち行列に到着すると、メッセージ待ち行列が割り当てられたジョブに通知されます。ワークステーションでの対話式ジョブの場合は、音響アラームが鳴り（アラーム機能が設定されている場合）、メッセージ待機中ライトがオンになります。メッセージ待ち行列が別のジョブによって使用されている場合には、転送モードを*NOTIFYに変更することはできません。

***HOLD**

メッセージは、ユーザーまたはプログラムによって要求されるまでメッセージ待ち行列に保留されます。

***BREAK**

メッセージがメッセージ待ち行列に到着すると、メッセージ待ち行列が割り当てられたジョブが中断されます。ジョブが対話式ジョブの場合には、音響アラームが鳴ります（アラーム機能が設定されている場合）。メッセージ待ち行列が別のジョブによっても使用されている場合には、転送モードを*BREAKに変更することはできません。

***DFT** 照会メッセージに対する省略時の応答が送られます。照会メッセージのメッセージ記述に省略時の応答が指定されていない場合には、システムの省略時の応答の*Nが使用されます。

トップ

重大度コード・フィルター (SEV)

中断または通知モードでユーザーに転送することができる最低のメッセージの重大度コードを指定します。このパラメーターで指定された重大度レベルより低い重大度レベルをもつメッセージがメッセージ待ち行列に到着した場合には、ジョブは中断されず、音響アラームまたはメッセージ待機中ライトはオンになります。このようなメッセージはメッセージ表示(DSPMSG)コマンドを使用することによって要求されるまで、待ち行列に保留されます。*BREAKまたは*NOTIFYが**配布 (DLVRY)**パラメーターに指定されていて、メッ

ページが待ち行列に届いた時に有効な場合には、このメッセージと関連した重大度コードがここで指定した値と等しいかより大きい場合には、メッセージが配信されます。そうでない場合には、メッセージは要求されるまで待ち行列に保留されます。

0 重大度コードが指定されていない場合には、0が使用されます。

0-99 00-99の範囲の重大度コードを指定してください。

[トップ](#)

印刷装置 (PRTDEV)

このユーザーの省略時プリンターを指定します。出力を作成するために使用される印刷装置ファイルでデータをスプールするように指定している場合には、スプール・ファイルが装置の出力待ち行列に入れられます。この出力待ち行列の名前は装置と同じです。

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションの出力待ち行列 (**OUTQ**)パラメーターに指定されると見なされます。

***WRKSTN**

ユーザーのワークステーションに割り当てられた印刷装置が使用されます。

***SYSVAL**

システム値QPRTDEVに指定された値が使用されます。

名前 このユーザー用の出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

このユーザー・プロファイルで使用される出力待ち行列を指定します。このコマンドが実行される時には、この出力待ち行列がすでに存在していなければなりません。

単一値

***WRKSTN**

ユーザーのワークステーションに割り当てられた出力待ち行列が使用されます。

***DEV** **印刷装置 (PRTDEV)**パラメーターに指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。この出力待ち行列は印刷装置と同じ名前をもちます。(印刷装置ファイルのDEVパラメーターはCRTPRTF、CHGPRTF、またはOVRPRTFコマンドによって判別されます。)

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションの出力待ち行列 (**OUTQ**)パラメーターに指定されると見なされます。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 このユーザー・プロファイルによって使用される出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

アテンション・プログラム (ATNPGM)

このユーザーのアテンション(ATTN)キー処理プログラムとして使用するプログラムを指定します。ATTNキー処理プログラムは、対話式ジョブ中にATTNキーを押すと呼び出されます。このプログラムがアクティブになるのは、ユーザーがシステム提供のQCMDコマンド・プロセッサに経路指定されている場合だけです。ATTNキー処理プログラムは、初期プログラム（ある場合）が呼び出され、プログラムとメニューの両方にアクティブになる前に、オンに設定されています。プログラムが ATNPGM を(SETATNPGMコマンドを使用して) 変更すると、新規プログラムがアクティブなままになっているのはそのプログラムの期間だけです。制御が戻され、QCMDがメニューを呼び出すと、元のATTNキー処理プログラムは再びアクティブになります。SETATNPGMコマンドがメニューから実行されるか、アプリケーションがメニューから呼び出されると、指定されている新規ATTNキー処理プログラムがATTNキー処理プログラムを指定変更します。ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドまたはユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドの**制限機能 (LMTCPB)**パラメーターに*YES または*PARTIALを指定した場合には、ATTNキー処理プログラムを変更することはできません。

単一値

***SYSVAL**

システム値QATNPGMが使用されます。

***NONE**

このユーザーによってATTNキー処理プログラムは使用されません。

***ASSIST**

操作援助機能ATTNキー処理プログラム(QEZMAIN)が使用されます。

修飾子1: アテンション・プログラム

名前 このユーザー・プロファイルに使用するATTNキー処理プログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

分類順序 (SRTSEQ)

このプロファイルのストリングの比較に使用される分類順序テーブルを指定します。

単一値

***SYSVAL**

システム値QSRTSEQが使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序の決定には、その文字の16進数値が使用されます。

***LANGIDUNQ**

固有の重み分類テーブルが使用されます。

***LANGIDSHR**

共用の重み分類テーブルが使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 このプロファイルで使用する分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

このユーザーに対して使用される言語識別コードを指定します。

***SYSVAL**

システム値QLANGIDが使用されます。

言語識別コード

使用する言語識別コードを指定してください。有効な言語識別コードの詳細はISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「グローバル化」トピックに記載されています。

[トップ](#)

国別または地域ID (CNTRYID)

このユーザーに使用される国別または地域識別コードを指定します。

***SYSVAL**

システム値QCNTYIDが使用されます。

文字値 国別または地域識別コードを指定してください。このコマンドについてプロンプトを出す時に識別コードの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

このユーザーに使用するコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。

CCSIDは、コード化スキーム識別コードの特定セット、文字セット識別コード、コード・ページ識別コード、および使用されているコード化図形表現を固有に識別する追加のコーディング関連情報を識別する16ビットの数値です。

注: CCSIDの値を変更する場合は、その変更は現在実行中のジョブには影響を及ぼしません。

***SYSVAL**

システム値QCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。

識別コード

このユーザー・プロファイルに使用するCCSIDを指定してください。正しいCCSIDの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」情報を参照してください。

トップ

文字識別コードの制御 (CHRIDCTL)

ジョブの文字識別コード制御(CHRIDCTL)を指定します。この属性は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループについて行われるコード化文字セット識別コード(CCSID)変換のタイプを制御します。この属性が使用される前に、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対する作成、変更、または一時変更コマンドの**文字識別コード (CHRID)**パラメーターに***CHRIDCTL**特殊値を指定しなければなりません。

***SYSVAL**

システム値QCHRIDCTLが使用されます。

***DEV D**

*DEV D特殊値は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対するCHRIDコマンド・パラメーターと同じ機能を実行します。

***JOBCCSID**

*JOBCCSID特殊値は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対するCHRIDコマンド・パラメーターと同じ機能を実行します。

トップ

ロケール・ジョブ属性 (SETJOBATR)

ジョブが開始される時にロケール (LOCALE)パラメーターに指定されたロケールから取られるジョブ属性を指定します。

単一値

***SYSVAL**

ロケールから取られるジョブ属性を決定するためにシステム値QSETJOBATRが使用されます。

***NONE**

ロケールからジョブ属性が取られません。

その他の値

***CCSID**

ロケールのコード化文字セット識別コードが使用されます。ロケールからのCCSID 値はユーザー・プロファイルCCSIDを一時変更します。

***DATFMT**

ロケールから日付の形式が使用されます。

***DATSEP**

ロケールから日付区切り記号が使用されます。

***DECfmt**

ロケールからの10進数形式が使用されます。

***SRTSEQ**

ロケールから分類順序が使用されます。ロケールの分類順序はユーザー・プロファイルの分類順序を一時変更します。

***TIMSEP**

ロケールから時刻区切り記号が使用されます。

[トップ](#)

ロケール (LOCALE)

このユーザーのLANG環境変数に割り当てられたロケールのパス名を指定します。

***SYSVAL**

このユーザーに割り当てられるロケール・パス名を決定するためにシステム値QLOCALEが使用されます。

***NONE**

このユーザーにロケール・パス名は割り当てられません。

***C**

このユーザーにCロケール・パス名が割り当てられます。

***POSIX**

このユーザーにPOSIXロケール・パス名が割り当てられます。

'パス名'

このユーザーに割り当てられるロケールのパス名を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー・オプション (USROPT)

表示するヘルプ情報詳細のレベルおよび省略時の値による前ページまたは次ページ・キーの機能を指定します。システムは、不慣れたユーザーに適切な数画面を表示します。もっと経験のあるユーザーは詳細を表示するために追加の処置を実行しなければなりません。このパラメーターに値を指定すると、システムは経験のあるユーザーによるさらなる処置なしで詳細情報を示します。

単一値

***NONE**

詳細情報は表示されません。

その他の値

***CLKWD**

制御言語(CL)コマンドのプロンプトが表示される時に、指定できるパラメーター値の代わりに、パラメーター・キーワードが表示されます。

***EXPERT**

詳細情報が表示されるのは、ユーザーがシステムを定義または変更するための表示および編集オプション（オブジェクト権限の編集または表示など）を実行中です。

***ROLLKEY**

前ページおよび次ページ・キーの処置を逆にします。

***NOSTMSG**

状況メッセージはユーザーに送るときには表示されません。

***STMSG**

状況メッセージはユーザーに送るときに表示されます。

***HLPFULL**

ヘルプ・テキストはウィンドウではなく全画面に表示されます。

***PRTMSG**

このユーザーのスプール・ファイルを印刷するか、印刷装置書き出しプログラムによって保留されるときは、メッセージはこのユーザーのメッセージ待ち行列に送られます。

[トップ](#)

ユーザーID番号 (UID)

このユーザー・プロファイルのユーザーID番号(UID番号)を指定します。このUID番号は、ユーザーがディレクトリー・ファイル・システムを使用している時に、そのユーザーを識別するために使用されます。ユーザーのUID番号は、そのユーザーの1つ以上の活動ジョブがある場合は、変更することができません。

***GEN** ユーザーのUID番号が生成されます。システムは、他のユーザー・プロファイルにまだ割り当てられていないUID番号を生成します。生成されるUID番号は100より大きくなります。

番号 ユーザー・プロファイルに割り当てるUID番号を指定してください。1 - 4294967294の範囲内の値を入力することができます。割り当てられるUID番号は、他のユーザー・プロファイルにすでに割り当てられたものであってはなりません。

[トップ](#)

グループID番号 (GID)

このユーザー・プロファイルのグループID番号(GID番号)を指定してください。このGID番号は、グループのメンバーがディレクトリー・ファイル・システムを使用している時に、そのグループ・プロファイルを識別するために使用されます。ユーザーのGID番号は次の場合には変更することができません。

- ユーザー・プロファイルがディレクトリー内のオブジェクトの1次グループである。
- ユーザーには1つ以上のアクティブ・ジョブがあります。

*NONE

ユーザーがGID番号を持っていないか、またはGID番号が除去されています。

***GEN** ユーザーのGID番号が生成されます。システムは、他のユーザーにまだ割り当てられていないGID番号を生成します。生成されるGID番号は100より大きくなります。

番号 ユーザー・プロファイルに割り当てるGID番号を指定してください。1 - 4294967294の範囲内の値を入力することができます。割り当てられるGID番号は、他のユーザー・プロファイルにすでに割り当てられたものであってはなりません。

トップ

ホーム・ディレクトリー (HOMEDIR)

このユーザー・プロファイルのホーム・ディレクトリーのパス名を指定します。ホーム・ディレクトリーはユーザーの初期作業用ディレクトリーです。処理に関連付けられた作業用ディレクトリーは、スラッシュ(/)で始まっていないパス名について、ディレクトリー・ファイル・システムでパス名の解決のために使用されます。ユーザーのサインオン時に指定されたホーム・ディレクトリーが存在しない場合には、ユーザーのホーム・ディレクトリーはルート(/)ディレクトリーとなります。

*USRPRF

ユーザーに割り当てられるホーム・ディレクトリーは/HOME/USRPRFで、この場合のUSRPRFはユーザー・プロファイルの名前です。

'パス名'

このユーザーに割り当てるホーム・ディレクトリーのパス名を指定してください。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

EIM関連 (EIMASSOC)

EIM (エンタープライズ識別マッピング) 関連をこのユーザーのEIM識別コードに追加するかどうかを指定します。

注。

1. この情報はユーザー・プロファイルに保管されません。この情報は、ユーザー・プロファイルと一緒に保管または復元されません。
2. このシステムがEIM用に構成されていない場合は、無処理です。EIM操作を実行できないと、コマンドが失敗する原因になります。

単一値

***NOCHG**

EIM関連は追加されません。

要素1: EIM ID

この関連のEIM識別コードを指定します。

***USRPRF**

EIM識別コードの名前はユーザー・プロファイルと同じ名前です。

文字値 EIM識別コードの名前を指定してください。

要素2: 関連タイプ

関連のタイプを指定します。OS/400ユーザーのターゲット関連を追加することをお勧めします。

ターゲット関連は、既存データを保護するために主として使用されます。それらはマッピング・ルックアップ操作（つまり、EIMGETTARGETFROMSOURCE()）の結果として見つかりますが、マッピング・ルックアップ操作のソース識別として使用することはできません。

ソース関連は主として確認の目的のためにあります。それらは、マッピング・ルックアップ操作のソース識別として使用できますが、マッピング・ルックアップ操作のターゲットとしては見つかりません。

管理関連は、識別がEIM識別コードと関連付けられていることを示すために使用されますが、マッピング・ルックアップ操作のソースとして使用することはできず、マッピング・ルックアップ操作のターゲットとしては見つかりません。

***TARGET**

ターゲット関連を処理します。

***SOURCE**

ソース関連を処理します。

***TGTSRC**

ターゲット関連とソース関連を両方とも処理します。

***ADMIN**

管理関連を処理します。

***ALL** すべての関連タイプを処理します。

要素3: 関連アクション

***REPLACE**

指定されたタイプの関連は、このユーザー・プロファイルおよびローカルEIMレジストリーの関連があるすべてのEIM識別コードから除去されます。新規関連は指定されたEIM識別コードに追加されることとなります。

***ADD** 関連を追加します。

***REMOVE**

関連を除去します。

要素4: EIM IDの作成

EIM識別コードがまだ存在していない場合は、それを作成するかどうかを指定します。

***NOCRTEIMID**

EIM識別コードを作成しません。

***CRTEIMID**

EIM識別コードが存在していない場合は作成します。

トップ

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるものを除く、オブジェクトに対するすべての操作を実行します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

トップ

CRTUSRPRFの例

例1:ユーザー・プロファイルの作成

```
CRTUSRPRF  USRPRF(JJADAMS)  PASSWORD(S1CR2T)  SPCAUT(*SAVSYS)
           INLPGM(ARLIB/DSPMENU)
```

このコマンドは、ユーザー名JJADAMSおよびパスワードS1CR2Tをもつユーザー・プロファイルを作成します。サインオン後に、ARLIBライブラリー内のDSPMENUという名前のプログラムが呼び出されます。ユーザーにはシステム保管特殊権限が認可されます。他のパラメーターが指定されていなかったため、(1)プロファイルには、所有永続オブジェクト用に割り当てられた記憶域の容量についての制限はありません。(2)スケジューリング優先順位3は、ユーザーのジョブのすべてがもてる最高の優先順位です。(3)ユーザー定義の記述テキストはブランクです。(4)このユーザー・プロファイルと関連付けられたグループ・プロファイルはありません。さらに、(5)他のユーザーに対するユーザー・プロファイルの権限は何も認可されていません。

例2:同じユーザー名およびパスワードをもつユーザー・プロファイルの作成

```
CRTUSRPRF  USRPRF(TMSMITH)  MAXSTG(12)  INLPGM(PROGMR/CALC)
           TEXT('TED SMITH, DEPT 410, APPLICATION PROGRAMS')
```

このコマンドは、ユーザー名TMSMITHをもつユーザー・プロフィールを作成します。パスワードが指定されていなかったため、パスワードもTMSMITHです。ユーザーが全オブジェクトに使用できる最大永続記憶域スペースは12K（または12,288バイト）です。サインオンの後で呼び出される初期プログラムは、PROGMRという名前のライブラリー内にあるCALCです。テキスト・パラメーターでは、ユーザー名、部門、および部門名を指定します。省略時の値は他のパラメーターに割り当てられます。

トップ

エラー・メッセージ： CRTUSRPRF

*ESCAPE メッセージ

CPF22CE

&1の値&2は別のユーザー・プロフィールで使用されている。

CPF22CF

このユーザー・プロフィールをグループ・プロフィールとすることはできない。

CPF22DB

変更するユーザー・プロフィールにGIDがなければならない。

CPF22DF

ユーザー・プロフィール&1に対する要求を処理することができない。

CPF22EB

ユーザー・プロフィール&1に対する要求を処理することができない。

CPF22E1

USROPTパラメーターに*STSMMSGと*NOSTSMMSGを指定することはできない。

CPF22F1

コード化文字セット識別コード&1は正しくない。

CPF22F3

&1は許されないLMTCPB値を指定しました。

CPF22F5

新規パスワードの値はパスワード・レベル&2の時は使用できません。

CPF2202

ユーザー・プロフィールを作成する権限をもっていない。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2213

ユーザー・プロフィール&1を割り振ることができない。

CPF2214

ユーザー・プロフィール&1はすでに存在している。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF224A

ユーザー・プロフィール&1はGIDをもつことはできず、グループのメンバーでなければならない。

CPF2242

タイプ*&2のオブジェクト&1がライブラリー・リストに見つからなかった。

CPF2244

タイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

CPF225A

USRPRFおよびSUPGRPPRFパラメーターの両方にユーザー・プロファイル名が指定されている。

CPF2259

グループ・プロファイル&1が見つからない。

CPF2260

ユーザー・プロファイル&2は作成または変更されなかった。理由コードは&3です。

CPF2261

OWNERまたはGRPAUTの値は許されない。

CPF2262

GRPAUTの値が正しくない。

CPF2269

*SECADMまたは*AUDITを認可する時には特殊権限*ALLOBJが必要である。

CPF2272

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2291

ユーザー・プロファイルは、認可するすべての特殊権限をもっていない。

CPF2292

ユーザー・プロファイルを作成または変更するためには*SECADMが必要である。

CPF2293

ユーザー・プロファイル&1の記憶域が限界を超えた。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

妥当性検査リストの作成 (CRTVLDL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

妥当性検査リスト作成(CRTVLDL)コマンドは、妥当性検査リストを作成します。妥当性検査リストには、識別コード、記憶時にシステムによって暗号化されるデータ、およびフリー・フォーム・データから構成される項目が入っています。項目を追加、変更、除去、検索し、その妥当性を検査することができます。項目の妥当性は、正しい項目識別コードおよび暗号化されるデータを指定することによって検査されます。妥当性検査リストの使用方法については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説（英文）を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VLDL	妥当性検査リスト	修飾オブジェクト名	必須、定位置 1
	修飾子 1: 妥当性検査リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *EXCLUDE, *USE, *CHANGE, *ALL	オプション

トップ

妥当性検査リスト (VLDL)

これは必須パラメーターです。

作成中の妥当性検査リストの名前およびライブラリー。

妥当性検査リスト名は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

*CURLIB

妥当性検査リストは、現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

妥当性検査リストが作成されるライブラリーの名前。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

作成中の妥当性検査リストを簡単に記述するユーザー定義のテキスト。このテキストは、オブジェクト記述が表示された時に表示されます。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定権限をもっていないくて、権限リスト上に存在せず、そのグループ・プロファイルまたは追加グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザーに付与しようとする権限。

*EXCLUDE

排他権限は、ユーザーがオブジェクトをアクセスできないようにします。

*USE 使用権限によってユーザーは、妥当性検査リストの項目の検索と妥当性検査を実行することができます。

*CHANGE

変更権限によってユーザーは、妥当性検査リストの項目を追加、変更、除去、検索し、その妥当性を検査することができます。

*ALL 全権限によってユーザーは、妥当性検査リストの項目を追加、変更、除去、検索して、その妥当性を検査し、また、妥当性検査リストを削除することができます。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限用に使用する権限リストの名前。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

[トップ](#)

CRTVLDLの例

```
CRTVLDL  VLDL(WEBLIB/WEBUSRS)  AUT(*EXCLUDE)
          TEXT('MY WEB USERS')
```

このコマンドは、WEBLIBライブラリー内で妥当性検査リスト(WEBUSRS)を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

WSCSTの作成 (CRTWSCST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト作成(CRTWSCST)コマンドによって、ユーザーはライブラリーにワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを作成することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, <u>*WSCST</u>	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK, <u>*SRCMBRTXT</u>	オプション
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QXTSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション

[トップ](#)

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

作成するワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは、ジョブの現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトが作成される場所のライブラリーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

オブジェクト名

作成されるオブジェクトの名前を指定します。

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

テーブル属性を含むソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*WSCST

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト名がソース・メンバー名として使用されることを指定します。

ソース・ファイル・メンバー名

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの作成に使用される、SRCFILE パラメーターに指定されたソース・ファイル中のメンバーの名前を指定します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトについて簡単に説明したテキストを指定します。このパラメーターの詳細説明については、AS/400 CL（制御言語）解説書(SC88-5339)の「付録A. パラメーターの詳細説明」に示されています。

考えられる値は、次の通りです。

*SRCMBRTXT

テキストは、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを作成するために使用されたソース・ファイル・メンバーから取り入れられます。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' オブジェクトの記述を指定します。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

カスタマイズ・テーブル属性を含むソース・ファイル・メンバーが存在しているソース・ファイルの名前を指定します。ソース・ファイルが存在していない場合には、エラー・メッセージが表示されます。ソース・ファイルのコード化文字セット識別コードは*HEXでなければなりません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QTXTSRC

IBM提供ソース・ファイルQTXTSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがオブジェクトに対する特定権限をもたないユーザーに与える権限を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトの共通認可はターゲット・ライブラリー（そのオブジェクトを入れるライブラリー）のCRTAUT値から取られます。この値はオブジェクトの作成時に決められます。オブジェクトの作成後にライブラリーのCRTAUT値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定された操作またはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御される操作以外のすべての操作をオブジェクトに対して実行することができます。ユーザーは、オブジェクトに対する基本的な機能を変更および実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される以外のすべての操作を実行することができます。ユーザーは、ファイルの存在を制御し、ファイルの機密保護を指定し、ファイルを変更し、ファイルに対する基本的な機能を実行することができます。ユーザーはファイルの所有権を移すことができます。

***USE** ユーザーはプログラムの実行またはファイルの読み取りなどの基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。*USE権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはオブジェクトにアクセスすることができません。

[トップ](#)

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

既存のオブジェクトを置き換えるかどうかを指示します。

考えられる値は、次の通りです。

***YES** 既存のワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを置き換えます。

***NO** 既存のワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを置き換えません。

[トップ](#)

CRTWSCSTの例

CRTWSCST WSCST(MYLIB/MYWSCOBJ)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに名前MYWSCOBJのワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTWSCST

なし

[トップ](#)

ソースCL変換 (CVTCLSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CLソース仕様変換(CVTCLSRC)コマンドは、制御言語(CL)ソース仕様コードを、システム/38構文からISERIESシステムで使用される構文に変換するために使用されます。次のものが変換されます。

- システム/38のオブジェクト名.ライブラリー名は、
 - ライブラリー名/オブジェクト名に。
- システム/38のジョブ名.ユーザー名.ジョブ番号は、
 - ジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名に。
- 注釈開始文字: (*)から(*)へ
- コマンド名
- キーワードの名前および値
- ISERIESコマンドで脱落している必須パラメーターは、追加の必要があることがあります。

ユーザー定義のコマンドの変換は、修飾名の再編成と、注釈の構文の修正のみに限定されます。

CVTCLSRCコマンドは、ソース・ファイルの変換の成功または失敗を示す報告書を作成します。この報告書は、'CVTCLSRC'という名前の印刷装置ファイルに入れられます。システム/38ソースの正常な変換は、そのメッセージとともに報告書に注記されます。

CPF0786 メンバーが変換されました。

正常に行なわれない変換では、エラー・メッセージが印刷されます。変換できない機能および報告書にエラー・メッセージとして印刷されることがあるいくつかの例は次の通りです。

STMT# CPF0785 コマンドを変換することはできません。

STMT# CPF0789 キーワードを変換することはできません。

変換の成功または失敗に基づいて報告書进行处理するために、スプール・ファイル・コピー(CPYSPLF)コマンドなどを使用して、プログラムを作成することができます。

制約事項: 変換およびサポートされていない機能の検出をサポートするためには、システムにライブラリーQSYS38が存在していなければなりません。サポートされないコマンド名、キーワード名、またはキーワード値のあるコマンドは変換されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	FROMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
TOFILE	TOファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	FROMメンバー	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 3

トップ

FROMファイル (FROMFILE)

構文を変換するシステム/38 CLソース・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

TOファイル (TOFILE)

変換したCLソースを入れるファイルを指定します。これは、FROMFILEパラメーターに指定された名前とは異なるものでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

メンバー (FROMMBR)

FROMファイル (**FROMFILE**)パラメーターに指定されたファイルのメンバーのうち、変換されるメンバーを指定します。

***ALL** 指定されたソース・ファイルのすべてのメンバーが変換されます。

総称名 変換するメンバーの総称名を指定してください。

名前 変換するメンバーの名前を指定してください。最大50個の名前を指定することができます。変換済みソース・メンバーのメンバー名は、**FROMFILE**パラメーターに指定されたファイルの未変換のソース・メンバーのメンバー名と同じであることに注意してください。

トップ

CVTCLSRCの例

```
CVTCLSRC  FROMFILE(OLDLIB/FILEA)  TOFILE(NEWLIB/FILEB)
          FROMMBR(PGM1 PGM2 PGM3)
```

このコマンドは、ライブラリーOLDLIBにあるシステム/38ソース・ファイル(FILEA)の3つのメンバー(PGM1, PGM2, PGM3)を、ISERIESソース・ファイルに変換します。変換されたソース・ファイル・メンバーは、ライブラリーNEWLIB内のFILEBに入れられます。変換されたメンバーは、それぞれ元のメンバー名(PGM1, PGM2,およびPGM3)を保存します。

トップ

エラー・メッセージ： CVTCLSRC

*ESCAPEメッセージ

CPF0781

ライブラリー&2のファイル&1がソース・ファイルでない。

CPF0784

指定した受け取りファイルが取り出しファイルと同じである。

トップ

日付形式変換 (CVTDAT)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

日付形式変換(CVTDAT)コマンドは、日付の値の形式を別の形式に変換します（値自体は変わりません）。このコマンドでは、旧形式の中で使用されている日付区切り記号は無視されますが、変換結果に区切り記号を含める場合には、コマンドで区切り文字を指定することができます。

有効な日付だけを変換することができます。変換前の形式または変換後の形式が年を指定するのに2桁だけを使用する場合（たとえば*MDY, *DMY, *YMD,または*JUL）には、有効な日付は1940年1月1日から2039年12月31日までの範囲です。そうでない場合には、有効な日付は1928年8月24日から2071年5月9日の範囲です。年が2桁だけで指定される場合には、40 - 99の範囲は1940 - 1999と見なされ、00 - 39の年は2000 - 2039と見なされます。このコマンドは、QLEAPADJシステム値と一緒に機能します。

制約事項:このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DATE	変換される日付	文字値	必須, 定位置 1
TOVAR	変換された日付のCL変数	文字値	必須, 定位置 2
FROMFMT	開始日付形式	*SYSVAL, *MDY, *DMY, *YMD, *JUL, *JOB, *MDYY, *DMYY, *YYMD, *CYMD, *ISO, *USA, *EUR, *JIS, *LONGJUL	オプション, 定位置 3
TOFMT	終了日付形式	*SYSVAL, *MDY, *DMY, *YMD, *JUL, *JOB, *MDYY, *DMYY, *YYMD, *CYMD, *ISO, *USA, *EUR, *JIS, *LONGJUL	オプション, 定位置 4
TOSEP	終了日付区切り文字	*SYSVAL, *NONE, *JOB, *BLANK, /, -, ., ,	オプション, 定位置 5

トップ

変換される日付 (DATE)

変換される日付が入っている定数またはCL変数を指定します。区切り文字が入っている定数が指定された時には、それをアポストロフィで囲む必要があります（変換では、区切り文字は無視される）。定数で区切り記号を使用する場合には、日付の各部分の先行ゼロを省略することができます（3/3/88または03/03/88は両方とも有効である）。変数が指定される場合には、日付タイプとその日付区切り記号（使用される場合）を入れることができる長さでなければなりません。有効な日付区切り記号は、スラッシュ(/),ハイフン(-),ピリオド(.),およびコンマ(,)です。すべてブランクを含む変数(X'40')は、長さゼロの日付と見なされ、これは無効です。

これは必須パラメーターです。

トップ

変換された日付のCL変数 (TOVAR)

変換後の日付の値を入れるCL変数の名前を指定します。

年間通算日を除くどの形式でも、変換結果の月と日のサブフィールドはそれぞれ2バイトの長さで、右寄せにされ、2バイトのフィールドとするために必要であれば埋め込み文字として先行ゼロが使用されます。

年間通算日および長年間通算日形式の場合には、日フィールドは3バイトの長さで、必要であればゼロが埋め込まれます。年フィールドの長さは年間通算日の場合は2バイトで、長年間通算日の場合は4バイトです。

以下の表を使用して、変数の必要最小長を決定してください。

フィールドのサイズと変数の最小長

TO FMT	TO SEP	変数の最小長
*JUL	*NONE	5
*JUL	任意	6
*MDY, *DMY, *YMD	*NONE	6
*MDY, *DMY, *YMD	任意	8
*MDYY, *DMYY, *YYMD	*NONE	8
*MDYY, *DMYY, *YYMD	任意	10
*CYMD	*NONE	7
*CYMD	任意	9
*LONGJUL	*NONE	7
*LONGJUL	任意	8
*ISO, *USA, *EUR, *JIS		10
*JOB		ジョブの日付形式によって決まります
*SYSVAL		QDATFMTの値によって決まります

フィールド・サイズ

TO FMT	月	日	年
*JUL	N/A	3	2
*MDY, *DMY, *YMD	2	2	2
*MDYY, *DMYY, *YYMD	2	2	4
*ISO, *USA, *EUR, *JIS	2	2	4
*CYMD	2	2	2 (+1バイトの世紀フィールド)

これは必須パラメーターです。

トップ

開始日付形式 (FROMFMT)

変換する日付の現在の形式を指定します。

***JOB** 日付はジョブ属性DATFMTによって指定された形式となります。

***SYSVAL**

日付はシステム値QDATFMTによって指定された形式となります。

***MDY** 日付は月日年の形式MMDDYYとなります。

***MDYY**

日付は月日年の形式MMDDYYYYとなります。

***DMY** 日付は日月年の形式DDMMYYとなります。

***DMYY**

日付は日月年の形式DDMMYYYYとなります。

***YMD** 日付は年月日の形式YYMMDDとなります。

***YYMD**

日付は年月日の形式YYYYMMDDとなります。

***CYMD**

日付は世紀、年、月、日の形式CYMMDDとなります。ここで、Cは1928-1999年の場合は0、2000-2071年の場合は1です。

***JUL** 日付は年間通算日形式YYDDDとなります。

***ISO** 日付は国際標準化機構(ISO)日付形式YYYY-MM-DDとなります。

***USA** 日付は米国日付形式MM/DD/YYYYとなります。

***EUR** 日付は欧州日付形式DD.MM.YYYYとなります。

***JIS** 日付は日本工業規格日付形式YYYY-MM-DDとなります。

***LONGJUL**

日付は長年間通算日形式YYYYDDDです。

[トップ](#)

終了日付形式 (TOFMT)

変換後の日付の形式を指定します。

***JOB** 日付の形式はジョブ属性DATFMTで指定された形式に変換されます。

***SYSVAL**

日付形式はシステム値QDATFMTによって指定された形式に変換されます。

***MDY** 日付形式は月日年の形式MMDDYYに変換されます。

***MDYY**

日付形式は月日年の形式MMDDYYYYに変換されます。

***DMY** 日付形式は日月年の形式DDMMYYに変換されます。

***DMYY**

日付形式は日月年の形式DDMMYYYYに変換されます。

*YMD 日付形式は年月日の形式YYMMDDに変換されます。

***YYMD**

日付形式は年月日の形式YYYYMMDDに変換されます。

***CYMD**

日付形式は世紀、年、月、日の形式CYMMDDに変換されます。Cは1928-1999年の場合は0、2000-2071年の場合は1です。現行形式の年が2桁のみである場合には、Cは40-99の場合は0、00-39の場合は1にセットされます。

*JUL 日付形式は年間通算日形式YYDDDに変換されます。

*ISO 日付形式は国際標準化機構(ISO)日付形式YYYY-MM-DDに変換されます。

*USA 日付形式は米国日付形式MM/DD/YYYYに変換されます。

*EUR 日付形式は欧州日付形式DD.MM.YYYYに変換されます。

*JIS 日付形式は日本工業規格日付形式YYYY-MM-DDに変換されます。

***LONGJUL**

日付は長年間通算日形式YYYYDDDです。

[トップ](#)

終了日付区切り文字 (TOSEP)

変換日（存在する場合）で使用する日付区切り記号のタイプを指定します。

*JOB 変換後の日付では、ジョブ属性DATSEPによって指定された区切り記号が使用されます。

***SYSVAL**

変換後の日付では、システム値QDATSEPによって指定された区切り記号が使用されます。

***NONE**

変換後の日付では区切り記号は使用されません。

***BLANK**

変換後の日付では、ブランク・スペースが日付区切り記号として使用されます。

区切り記号

変換後の日付の中で日付区切り記号として使用する文字を指定してください。区切り記号として使用できる文字は、スラッシュ（/）、ハイフン（-）、ピリオド（.）、およびコンマ（,）です。

[トップ](#)

CVTDATEの例

例1: DMY形式への変換

```
DCL VAR(&DATE) TYPE(*CHAR) LEN(8)
```

:

```
CVTDATE DATE('12-24-88') TOVAR(&DATE) TOFMT(*DMY)
```

このコマンドは日付12-24-88を変換します。この日付はMDY形式です。FROMFMTパラメーターが指定されていないので、その省略時値*JOBによって、ジョブ属性DATEFMTがMDY形式を含むことが指示されます。

日付はDMY形式に変換され、ジョブ属性DATSEPに指定された区切り文字が挿入されます。DATSEPがスラッシュを含んでいれば、変換結果は24/12/88になります。

例2:ジョブ属性によって指定された形式への変換

```
DCL  &PAYDAY  *CHAR  6
DCL  &NEWPDAY *CHAR  6
:
CVTDAT  DATE(&PAYDAY)  TOVAR(&NEWPDAY)
        FROMFMT(*YMD)  TOSEP(*NONE)
```

このコマンドは、&PAYDAYに入っている日付の形式を、年、月、日からジョブ属性DATFMTによって指定された形式に変換します。たとえば、DATFMTにMDY形式が入っていると、変換された日付の形式は月、日、および年になります。変換された日付は、変数&NEWPDAYに入れられます。&NEWPDAYは6文字の変数として宣言されているので、TOSEP(*NONE)が必要であり、変換結果は区切り文字を含むことができません。

例3: CYMD形式への変換

```
DCL  &NEWDAY1 *CHAR  7
DCL  &NEWDAY2 *CHAR  7
:
CVTDAT  DATE('01/24/1939') TOVAR(&NEWDAY1)
        FROMFMT(*MDYY)  TOFMT(*CYMD)  TOSEP(*NONE)
CVTDAT  DATE('01/24/39')  TOVAR(&NEWDAY2)
        FROMFMT(*MDY)   TOFMT(*CYMD)  TOSEP(*NONE)
```

最初のCVTDATコマンドは、DATEパラメーターに指定された日付を、月、日、4桁の年の形式から世紀、年、月、日の形式に変換します。年は4桁で指定されており、最初の2桁は"19"なので、世紀桁は"0"に設定され、したがって"NEWDAY1の値は"0390124"になります。

2番目のCVTDATコマンドは、DATEパラメーターに指定された日付を、月、日、年の形式から世紀、年、月、日の形式に変換します。年は2桁だけで指定されており、年は40より小さいので、世紀桁は"1"に設定され、したがって"NEWDAY2の値は"1390124"になります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CVTDAT

*ESCAPEメッセージ

CPF0550

指定した形式では日付が短すぎる。

CPF0551

日付の区切り記号が正しくない。

CPF0552

日付に、位置が正しくないかあるいは余分な区切り記号がある。

CPF0553

日付の数字が多すぎるか少なすぎる。

CPF0554

変換した日付形式に指定した変数が短すぎる。

CPF0555

日付が指定形式になっていないか、あるいは日付が正しくない。

CPF0556

日付に2種類以上の区切り記号が入っている。

CPF0557

日付が使用可能な範囲外になっている。

[トップ](#)

ディレクトリー変換 (CVTDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー変換 (CVTDIR)コマンドは、統合ファイル・システムのディレクトリーを*TYPE1形式から*TYPE2形式に変換します。"ルート" (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムは、*TYPE2ディレクトリーをサポートします。

CVTDIRコマンドは、統合ファイル・システムのディレクトリーの*TYPE1形式から*TYPE2形式への変換、変換の実行、またはディレクトリー変換機能の優先順位の変更に関する情報を提供することができます。*TYPE2ディレクトリーは、*TYPE1形式のディレクトリーに比べて、パフォーマンス、サイズ、および信頼性について最適化されています。提供される情報には、変換にかかる概算の時間数、ファイル・システムの現行ディレクトリー形式、および変換に必要なディスク記憶域の量が含まれています。

制約事項:

1. "ルート" (/)およびQOPENSYSファイル・システムのディレクトリー、および基本ユーザーASP内のディレクトリーだけを変換または概算することができます。
2. OPTION(*CONVERT)が使用され、FILESYS(*ROOT)またはFILESYS(*QOPENSYS)が指定されている場合には、システムは制限状態でなければなりません。
3. このコマンドを使用するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
4. OPTION(*CONVERT)が指定されている場合には、ジョブを取り消すことはできません。変換処理時にシステムが異常終了した場合には、その変換は次のIPL時に完了します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	*CHECK, *ESTIMATE, *CONVERT, *CHGPTY	必須, 定位置 1
FILESYS	ファイル・システム	*NONE, *ROOT, *QOPENSYS, *UDFS, *ALL	オプション
FORMAT	形式	*TYPE2, *TYPE1	オプション
DETAIL	詳細	*BASIC, *EXTENDED	オプション
ASP	補助記憶域プールID	1-32	オプション
RUNPTY	実行優先順位	1-99, *SAME, *DFT	オプション

[トップ](#)

オプション (オプション)

実行する機能を指定します。

*CHECK

現在システム上にあるファイル・システムを検査して、それらが変換に適しているかどうか判別します。メッセージCPIA084が、"ルート" (/),およびQOPENSYSファイル・システム, および現行のディレクトリー形式を識別するシステム上のすべての活動補助記憶域プールに送られます。

*ESTIMATE

指定されたファイル・システムを指定されたディレクトリー形式に変換するためにかかる時間の概算が提供されます。変換についてのディスク記憶域考慮事項についての情報も提供されます。この情報はメッセージCPIA087, CPIA090およびCPIA091で戻されます。さらに、システムはオブジェクトを事前作成して、後続の変換を実行するためにかかる時間を削減します。

*CONVERT

指定されたファイル・システムのすべてのディレクトリーが指定されたディレクトリー形式に変換されます。この機能の実行には長時間かかる可能性があります。したがって、最初に*ESTIMATEオプションを使用して、この処理に要する時間を調べて、ディレクトリー変換で使用できる一部のオブジェクトを事前作成することを強くお勧めします。

変換の実行時に、追加のディスク記憶域が必要となります。必要な記憶域の容量は、ディレクトリーの深さおよびASP中のディスク装置の数に比例します。

さらに、このオプションは、UTF-16には無効なオブジェクト名を名前変更します。名前変更された各オブジェクト名に対してメッセージCPIA08Aが送信されます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

注: "ルート" (/)およびQOPENSYSファイル・システムが変換されると、すべてのユーザー定義ファイル・システムがシステムによってアンマウントされます。特定のASPの中のユーザー定義ファイル・システムが変換されると、そのASP中のすべてのユーザー定義ファイル・システムが取り外されます。これらの取り外されたファイル・システムは、変換が完了してもシステムによって再マウントされません。

*CHGPTY

ディレクトリー変換機能の実行優先順位を変更します。

トップ

ファイル・システム (FILESYS)

ディレクトリーを処理するファイル・システムを指定します。

注: FILESYS(*NONE)を指定しなければならず、これが有効なのはOPTION(*CHECK)またはOPTION(*CHGPTY)が指定されている場合だけです。

*NONE

ファイル・システムは処理されません。

*ROOT

"ルート" (/)ファイル・システムのディレクトリーが処理されます。

*QOPENSYS

QOPENSYSファイル・システムの中のディレクトリーが処理されます。

*UDFS

補助記憶域プールID (ASP)パラメーターで指定されたユーザー定義ファイル・システムのディレクトリーが処理されます。

注: FORMAT(*TYPE1)が指定されている場合には、指定されたASPにユーザー定義ファイル・システムがあつてはなりません。

- *ALL 適格ファイル・システムの中のスべてのディレクトリーが処理されます。OPTION(*CONVERT)が指定されている場合には、変換されるファイル・システムをリストした照会メッセージCPAA084が送信され、変換の確認を求めます。

[トップ](#)

形式 (FORMAT)

変換先のディレクトリー形式のタイプを指定します。

*TYPE2

指定されたファイル・システムの中のディレクトリーが*TYPE2に変換されます。既存のディレクトリーはすべて*TYPE2に変換され、この変換の後で指定のファイル・システムに作成された新規のディレクトリーは*TYPE2となります。このディレクトリー形式は、*TYPE1形式をもつディレクトリーと比較して、パフォーマンス、サイズ、および信頼性について最適化されます。

*TYPE1

この変換の後で指定のファイル・システム中に作成されるすべての新規のディレクトリーが*TYPE1となるように、指定されたファイル・システムが変換されます。これは、統合ファイル・システムが最初に導入された時に使用できるようになったオリジナルのディレクトリー形式です。

注: この値が有効なのは、FILESYS(*UDFS)が指定されている場合だけです。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

ディレクトリーの変換中に状況通知メッセージに定期的に表示される情報の量を指定します。

*BASIC

処理されたリンクの数が表示されます。このオプションを選択すると、ディレクトリー変換に要する時間が削減されます。

*EXTENDED

変換処理が完了までの概算の残り時間とともに、処理された合計リンク数のパーセントが表示されます。このオプションを選択すると、ディレクトリー・ツリー全体が2回スキャンされるので、ディレクトリー変換に要する時間が増えます。追加の時間数は、処理しなければならないディレクトリーの数に比例します。

[トップ](#)

補助記憶域プールID (ASP)

処理するユーザー定義ファイル・システムの補助記憶域プール(ASP) 番号を指定します。ASPが指定されていない場合ならず、これが有効なのは、FILESYS(*UDFS)が使用されている場合だけです。

- 1-32 ユーザー定義ファイル・システムが処理されるASPの番号を指定してください。有効な値は、ASPがシステム上で定義されている方法によって異なります。

注: 値 1 はシステムASPであり、その他の値はユーザーASPを示します。システムASPが指定されている場合には、システムASP内のユーザー定義ファイル・システムだけが変換されます。すなわち、"ルート" (ノ)およびQOPENSYSは変換されません。

[トップ](#)

実行優先順位 (RUNPTY)

ディレクトリー変換機能の新しい実行優先順位を指定します。これは、OPTION(*CHGPTY)が使用されている場合に指定しなければなりません。

注: ディレクトリー変換機能の新しい実行優先順位が有効になる前に遅延することがあります。

*SAME

実行優先順位は変更されません。

***DFT** 実行優先順位はシステムの省略時値にリセットされます。

1-99 ディレクトリー変換機能の実行優先順位を指定してください。

[トップ](#)

CVTDIRの例

例1: ディレクトリー形式情報の検査

```
CVTDIR OPTION(*CHECK)
```

このコマンドは、変換できるファイル・システムを検査して、そのファイル・システムの現行ディレクトリーの形式を戻します。

例2: ユーザーASPのディレクトリーの*TYPE2形式への変換

```
CVTDIR OPTION(*CONVERT) FILESYS(*UDFS) ASP(8) FORMAT(*TYPE2)
```

このコマンドは、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 8のユーザー定義ファイル・システムのディレクトリーを*TYPE2形式に変換します。

例3: ディレクトリー変換機能の実行優先順位の変更

```
CVTDIR OPTION(*CHGPTY) RUNPTY(50)
```

このコマンドは、ディレクトリー変換機能の実行優先順位を変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CVTDIR

*ESCAPEメッセージ

CPF9890

機能がサポートされていない。要求は拒否されます。

CPFA099

要求されたディレクトリー変換オプションは実行できません。

CPFA09A

ディレクトリー変換中にエラーが起きました。

CPFA0ED

&1オプションはサポートされていません。

[トップ](#)

DLS名の変換 (CVTDLSNAM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・サービス名変換(CVTDLSNAM)コマンドは、QDLS（文書ライブラリー・サービス・ファイル・システム）によってEBCDICオブジェクト名と見なされたCCSIDの変更の前または後に使用されます。このコマンドは、CCSIDの変更のために異なるものとなったQDLSオブジェクト名の識別を助け、QDLSオブジェクトの名前を変更して元の名前を残すようにすることができます。また、QDLSと別のファイル・システムの間でコピーされた時にその名前が変更されたオブジェクトの名前を訂正することもできます。このコマンドは、選択したオブジェクトとそれらのオブジェクトに行なわれたアクションをリストするジョブのスパール出力によって報告書を印刷します。

EBCDICから（またはEBCDICへ）のオブジェクト名の変換時に、QDLSはジョブの省略時CCSIDを使用します。ただし、データ域QUSRSYS/QODEC500が存在する場合には、QDLSはCCSID 500を使用します（データ域によって、QDLSの前のバージョンの状態に戻すことができます）。したがって、QDLSによって使用されるCCSIDはデータ域を作成または削除し、あるいは（データ域が存在しない場合には）ジョブの省略時CCSIDを変更することによって変更されます。

CCSIDは、QDLSの統合ファイル・システムのクライアントによるQDLSオブジェクト名のビューに影響を与えるので、オブジェクト名をEBCDICから（またはEBCDICに）変換しなければなりません。これらのクライアントに次のものが含まれます。

- DSPLNK, CPY, MOV,およびRNMなどの統合ファイル・システム・コマンド
- 統合ファイル・システムによって提供されるアクセス、オープン、名前変更、およびリンク解除などのUNIXタイプのAPI
- IBM CLIENT ACCESS WINDOWS CLIENT FOR OS/400バージョン3
- IBM CLIENT ACCESS OPTIMIZED OS/2 CLIENT FOR OS/400バージョン3

CCSIDは、直接EBCDICオブジェクト名を処理するQDLSのクライアントには影響を与えません。

- CRTDOC, CPYDOC, WRKDOC, CRTFLR, WRKFLR, DLTDLO,およびRNMDLOなどの文書およびフォルダー・コマンド
- QHFDLTSF, QHFOPNDR, QHFOPNSF,およびQHFRNMSFなどの階層ファイル・システム(HFS)のAPI
- IBM CLIENT ACCESS OS/2 CLIENT FOR OS/400バージョン3
- IBM CLIENT ACCESS DOS CLIENT FOR OS/400バージョン3
- IBM CLIENT ACCESS DOS WITH EXTENDED MEMORY CLIENT FOR OS/400バージョン3

CCSIDは、QDLSの統合ファイル・システムのクライアントの場合であっても問題にしません。ただし、EBCDICのクライアントによっても使用されるオブジェクトを除きます。その場合には、QDLSオブジェクト名は、その名前に可変文字が入っていてクライアントが別のCCSIDを使用している場合には、異なって表れることがあります（統合ファイル・システムのクライアントはすでに述べたようにCCSIDを使用し、EBCDICのクライアントはジョブの省略時CCSIDを使用する傾向があります）。

制約事項:

1. オブジェクト・リンクが入っているディレクトリーに対する*R権限、およびパス内のその他のディレクトリーに対する*X権限が必要です。
2. オブジェクトの名前を変更する場合には、RNMコマンドからの追加の権限の制約が適用されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): パス名	必須, 定位置 1
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*OBJ , *DIR, *ALL	オプション
ACTION	処置	*LIST , *RENAME	オプション
PREVIEW	結果の事前表示	*NO , *YES	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65535, 500 , *JOB, *SYSVAL, *HEX	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65535, *JOB , *SYSVAL, *HEX	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

処理するオブジェクトを指定します。最大300のパス名を指定できますが、すべてのパスが同じファイル・システムに対するものでなければなりません。それぞれのパス名は、単純名かまたはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にはパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の文字数と一致し、疑問符(?)は1文字と一致します。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

CVTDLSNAMコマンドは、QDLSの統合ファイル・システムのクライアントです。すなわち、そのオブジェクト名のビューはEBCDICのクライアントのビューと異なることがあります。したがって、オブジェクト名を指定する際には注意してください。通常は、可変文字の代わりに総称文字を使用すれば安全です（たとえば、オブジェクト名としてX!XでなくX?Xを指定します）。

トップ

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリーのサブツリーを処理するかどうかを指定します。

- *OBJ** 所定のパス名と一致するオブジェクトだけが処理されます。パス名がディレクトリーを指定している場合には、そのディレクトリー内のオブジェクトは処理されません。
- *DIR** 所定のパス名と一致するそれぞれのディレクトリーの最初のレベルのオブジェクトが処理されます。
- *ALL** 所定のパス名と一致するそれぞれのディレクトリーのサブツリー全体が処理されます。

処置 (ACTION)

選択したオブジェクトに実行するアクションを指定します。

***LIST** QDLSの場合には、この値は、QDLSによってEBCDICオブジェクト名と見なされたCCSIDが指定の古い値から指定の新しい値に変更された場合に異なる名前を持つとみられる選択したオブジェクトをリストします。他のファイル・システムの場合には、この値は、QDLSからコピーされた後で、予期しない値を持つ選択したオブジェクトをリストし、この場合には指定したCCSIDは使用されません。

*RENAME

選択したオブジェクトの名前を訂正します。1つのオブジェクトに*RENAMEが複数回使用された場合には、その結果は意味を持たないものとなる可能性があります。

一部のオブジェクトでは、新しい名前がすでに存在するなどの場合に、要求時に名前変更が失敗する場合があります。しかし、コマンドはすぐには失敗となりません。残りのオブジェクトの処理が続行されます。

QDLSの場合には、*RENAMEによってオブジェクト名は、QDLSによってEBCDICオブジェクト名と見なされたCCSIDが指定の古い値から指定の新しい値に変更された後で、QDLSの統合ファイル・システムのクライアントに変更される前と同じに表されます。

他のファイル・システムの場合には、指定したオブジェクトは、指定の古いCCSIDで作成されたと見なされ、QDLSの統合ファイル・システムのクライアントによってQDLSからコピーされると、指定の新しいCCSIDを使用して暗黙に名前変更されます。*RENAMEによって、オブジェクトの名前は元のQDLSオブジェクトの名前と同じになるように変更されます。

注: 名前変更の効果は、別のCCSIDによる名前変更で逆転して取り消すことができます。たとえば、FROMCCSID(500)およびTOCCSID(273)を使用して名前変更を行った場合には、元の名前(1つまたは複数)はFROMCCSID(273)およびTOCCSID(500)を使用した名前変さらによって復元することができます。

トップ

結果の事前表示 (PREVIEW)

選択したアクションの結果を事前表示するかどうかを選択します。

***NO** 選択した処置を実行します。

***YES** 選択したアクションを抑制して、結果がどのようなかを報告します。この値を使用できるのは、ACTION(*RENAME)が指定されている場合だけです。

トップ

変換元CCSID (FROMCCSID)

EBCDICオブジェクト名のコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。ACTIONが*LISTである場合には、QDLS以外のファイル・システムのオブジェクトを処理するときに、この値は無視されます。

500 CCSID 500が使用されます。これはQDLSの前のバージョンで使用されるCCSIDです。

***JOB** 現行ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

***SYSVAL**

システム値QCCSIDに指定されたCCSIDが使用されます。

***HEXまたは65535**

QDLSによって現在想定されているEBCDICオブジェクト名のCCSIDが使用されます。

開始コード化文字セット識別コード

使用するCCSIDを指定してください。有効なCCSIDの詳細はISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「グローバリゼーション」トピックに記載されています。

トップ

変換先CCSID (TOCCSID)

QDLSによって想定されているEBCDICオブジェクト名のコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。ACTIONが*LISTである場合には、QDLS以外のファイル・システムのオブジェクトを処理するときに、この値は無視されます。

***JOB** 現行ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

***SYSVAL**

システム値QCCSIDに指定されたCCSIDが使用されます。

***HEXまたは65535**

別のジョブが別のCCSIDを使用する場合などに、新しいCCSIDが不明です。この値はACTION(*RENAME)と一緒に使用することはできません。

終了コード化文字セット識別コード

使用するCCSIDを指定してください。有効なCCSIDの詳細はISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「グローバリゼーション」トピックに記載されています。

トップ

CVTDLSNAMの例

例1: CCSID変更の影響の及んだQDLSオブジェクトのリスト

OS/400の新規リリースがインストールされていて、現在はQDLSはEBCDICオブジェクト名に対してCCSID 500の代わりにジョブの省略時のCCSIDを想定します。現在、ジョブのCCSIDは37に設定されています。次のコマンドは、QDLSの統合ファイル・システム・クライアントに対する新規名を事実上もっていないオブジェクトを識別するために使用されます。ACTION, FROMCCSID,およびTOCCSIDパラメーターには、この場合は省略時の値が指定されているので、すべてがコマンドから省略済みでもかまわないことに注意してください。

```
CVTDLSNAM OBJ('/QDLS') SUBTREE(*ALL) ACTION(*LIST)
          FROMCCSID(500) TOCCSID(37)
```

以下のような出力が生成されると考えられます。

```
/QDLS/FLRA/X? --> X!
```

```
/QDLS/FLRB/X! --> X|
```

各行には、CCSID 500およびCCSID 37を使用しているクライアントが見える通りにオブジェクトの2つの名前が表示されています（TOCCSIDが*HEXになっている2番目の名前は表示されません）。出力には、2つのオブジェクトには前提したCCSIDの変更による影響が及んでいることが示されています。変更前に統合ファイル・システム・クライアントがX?と認識したオブジェクトは、その後はX!と認識され、X!はX!に名前変更されます。

名前X!はX?またはX!より妥当のように思われるので、X!が両方の場合に正しい名前と想定します。最初の場合には、新規名は妥当です。オブジェクトはCCSID 37を使用しているクライアントによってX!として作成されたと推測されます。2番目の場合には、新規名は望ましくありません。たぶん、このオブジェクトはCCSID 500を使用しているクライアントによって作成されました。

例2: CCSID変更に対して調整するためのQDLSオブジェクトの名前変更

上記の例の2番目のオブジェクト名は次のコマンドを使用して訂正されます。この例の場合は、ジョブCCSIDは500（オブジェクト名X!の正しい認識を保障するために必要）です。総称名(X!の代わりに*またはX?など)は同様の状態で使用され、ジョブCCSIDを調整する必要をなくします。

```
CVTDLSNAM OBJ('/QDLS/FLRB/X!') ACTION(*RENAME)
          FROMCCSID(500) TOCCSID(37)
```

以下のような出力が生成されると考えられます。

```
/QDLS/FLRB/X! --> X?
```

また、各行にはオブジェクトの2つの名前が表示されますが、今回は名前は両方ともCCSID 500クライアントに見える内容です。出力には、X!はX?に名前変更されていることが示されています。新規名はCCSID 500クライアント(X?)には誤って表示されることがありますが、CCSID 37クライアント(X!)には望み通りに発生されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CVTDLSNAM

***STATUS** メッセージ

CPI8A22

&1を処理中。

[トップ](#)

研修の変換 (CVTEDU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

研修変換(CVTEDU)コマンドは、ライブラリーに記憶されているオンライン研修コースをAS/400システムで使用できる形式に変換します。このコマンドにより、モジュールがASCIIからEBCDICに変換されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COURSE	コース I D	名前, *ALLADDED	必須, 定位置 1
LNG	言語識別コード	*SYSVAL, 2922, 2923, 2924, 2925, 2926, 2928, 2929, 2931, 2932, 2933, 2937, 2938, 2939, 2940, 2942, 2950, 2956, 2957, 2958, 2962, 2963, 2961, 2966, 2980, 2981, 2984, 2986, 2987, 2989, 2996	オプション

[トップ](#)

コース I D (COURSE)

変換するコースを指定します。

考えられる値は次の通りです。

コース識別コード

コース・モジュールが記憶されているライブラリーの名前を使用して、変換したい特定のコースを指定してください。

*ALLADDED

以前にシステムに追加されたすべてのコースが変換されます。

[トップ](#)

言語識別コード (LNG)

コースを変換するために使用する言語識別コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SYSVAL

システムの現在の基本言語設定値が使用されます。

言語ID システムの言語識別コードを指定します。この言語識別コードは、特定の各言語に割り当てられた

4桁の数字です。言語のリストおよびその識別番号を表示するためには、言語識別コード・パラメーター・フィールドにカーソルを移動して、コマンド・プロンプト画面が表示された時に、「F4 (プロンプト)」キーを押してください。

[トップ](#)

CVTEDUの例

CVTEDU COURSE(*ALLADDED)

このコマンドは、研修管理システムを介して以前に追加されたすべてのコースをASCIIからEBCDICに変換します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CVTEDU

*ESCAPEメッセージ

CPF1D47

CVTEDUコマンドの使用は認可されていない。

CPF1D49

コマンドの処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

IPアドレスの変換 (CVTIPSIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAインターフェース上のIP変換(CVTIPSIFC)コマンドは、IP（インターネット・プロトコル）アドレスを対応するSNAネットワーク識別コードおよびロケーション名に変換します。SNAロケーション上のIP項目追加(ADDIPSLOC) CLコマンドで定義されたロケーション項目は、入力インターネット・アドレス(INTNETADR)に対応するSNAロケーション名およびSNAネットワーク識別コードを見つけるために検索されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

変換されるローカル・ホストまたはリモート・ホストのインターネット・アドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0-255の範囲の10進数です。インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

制約事項:

- インターネット・アドレスを0で始めることはできません（たとえば、0.NNN.NNN.NNN）。
- インターネット・アドレスを127で始めることはできません（たとえば、127.NNN.NNN.NNN）。このアドレス範囲はTCP/IPループバック・アドレス用に予約されています。
- インターネット・アドレスをクラスDまたはクラスEアドレスとすることはできません。有効なクラスDアドレスは224.NNN.NNN.NNNから239.NNN.NNN.NNNの範囲です。有効なクラスEアドレスは240.NNN.NNN.NNNから255.NNN.NNN.NNNの範囲です。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

結果をどこへ戻すかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

CVTIPSIFCの例

例1:変換されたIPアドレスの印刷

```
CVTIPSIFC INTNETADR('128.1.2.3') OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、IPアドレス128.1.2.3と関連したSNAネットワーク識別コードおよびロケーション名を検索し、その結果をジョブのスパール出力に書き込みます。

例2:変換されたIPアドレスの表示

```
CVTIPSIFC INTNETADR(128.2.3.4)
```

このコマンドは、IPアドレス128.2.3.4と関連したSNAネットワーク識別コードおよびロケーション名を検索し、その結果を対話式ジョブの画面に書き込みます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CVTIPSIFC

*ESCAPE メッセージ

CPFA111

IPアドレスは変換されなかった。

CPFA118

関連したSNAネットワーク識別コードおよびロケーション名が見つからなかった。

[トップ](#)

ネットワーク ID/ロケーションの変換 (CVTIPSLOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAロケーション上のIP項目変換(CVTIPSLOC)コマンドは、指定されたSNAネットワーク識別コードおよびロケーション名を対応する1つまたは複数のIPアドレスに変換するために使用します。SNAロケーション上のIP項目追加(ADDIPSLOC) CLコマンドで定義されたロケーション項目は、入力SNAロケーション名(LOC)およびSNA ネットワーク識別コード(NETID)に対応する1つまたは複数のIPアドレスを見つけるために検索されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NETID	ネットワーク識別コード	通信名, <u>*NETATR</u>	オプション, 位置 1
LOC	ロケーション名	通信名	オプション, 位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT _,	オプション, 位置 3

[トップ](#)

ネットワーク識別コード (NETID)

ローカル・ホストまたはリモート・ホストのSNAネットワーク識別コードを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NETATR

このホストのネットワーク属性のネットワーク識別コードが使用されます。

ネットワーク識別コード

ローカル・ホストまたはリモート・ホストのネットワーク識別コードを指定してください。ネットワーク識別コードの長さは1-8文字とすることができます。最初の文字は大文字または小文字のA-Zか、特殊文字¥, #,または@でなければならず、その後には0-9,大文字または小文字のA-Z, ¥, #,または@が続けられます。

[トップ](#)

ロケーション名 (LOC)

変換されるSNAロケーション名を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

ロケーション名

ローカル・ホストまたはリモート・ホストのSNAロケーション名を指定してください。この名前の長さは1-8文字とすることができます。最初の文字は大文字または小文字のA-Zか、特殊文字¥, #,または@でなければならず、その後0-9,大文字または小文字のA-Z, ¥, #,または@が続けられます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

結果をどこへ戻すかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

CVTIPSLOCの例

CVTIPSLOC LOC(LUNAMEX) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、ロケーション名LUNAMEXをネットワーク属性に指定された省略時のネットワーク識別コードで変換し、その結果をジョブのスパール出力に書き込みます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CVTIPSLOC

*ESCAPE メッセージ

CPFA115

SNAネットワーク識別コードおよびロケーション名は変換されなかった。

CPFA119

関連したIPアドレスが見つからなかった。

[トップ](#)

光ディスク・バックアップ変換 (CVTOPTBKU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・バックアップ変換(CVTOPTBKU)コマンドは、光ディスク・バックアップ・ボリュームを光ディスク基本ボリュームに変換します。そうすると、ユーザー適用業務およびプログラムは変換されたそのボリュームに書き出すことができます。

注: いったん光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームから基本ボリュームに変換された後は、光ディスク・ボリュームを再びバックアップ・ボリュームに変換するためには、その光ディスク・ボリュームを初期設定しなければなりません。光ディスク・ボリュームを初期設定すると、結果的にその光ディスク・ボリューム上のすべての既存の情報が失われることとなります。

制約事項: このコマンドを使用するためには、変換されるボリュームを保護するために権限リストに対する *ALL権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BKUVOL	バックアップ・ボリュームID	文字値	必須, 定位置 1
PRIVOL	1次ボリューム識別コード	文字値, <u>*PRVPRIVOL</u>	オプション, 定位置 2

トップ

バックアップ・ボリュームID (BKUVOL)

基本ボリュームに変換される光ディスク・バックアップ・ボリュームのボリューム識別コードを指定します。

トップ

1次ボリューム識別コード (PRIVOL)

光ディスク・ボリュームが基本ボリュームに変換された後で、そのボリュームの識別コードを指定します。

注: この識別コードは、使用中のシステム内で固有でなければなりません。光ディスク・ボリューム名の詳細については、AS/400オプティカル・サポート(SC88-5465)を参照してください。

*PRVPRIVOL

新しい基本光ディスク・ボリュームの識別コードは、以前このボリュームがバックアップであった基本光ディスク・ボリュームの識別コードと同じです。

光ディスク・バックアップ・ボリュームを最初に使用する時には、システムは基本ボリュームのボリューム識別コードを媒体に記録します。これは、他の基本ボリュームが同じバックアップ・ボリューム識別コードを使用できないようにするためです。また、これによって、光ディスク・バックアップ・ボリュームが変換される時点で基本ボリュームの元の名前が分かるようになります。

基本ボリューム識別コード

新しいボリューム識別コードを指定してください。これは、このコマンドが正常に完了した後のボリュームの識別コードです。

[トップ](#)

CVTOPTBKUの例

```
CVTOPTBKU BKUVOL(VOL01BACKUP) PRIVOL(VOL02)
```

このコマンドは、光ディスク・バックアップ・ボリュームVOL01BACKUPを1次光ディスク・ボリュームに変換します。VOL02は、変換後の光ディスク・ボリュームの識別コードです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CVTOPTBKU

*ESCAPEメッセージ

OPT1305

光ディスク・ボリューム&1は読み取り専用です。

OPT1315

光ディスク・ボリューム&1は書き込み保護されている。

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1330

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1340

光ディスク・ボリューム&1が初期設定されていない。

OPT1342

無効なボリューム識別コードが指定されました。

OPT1345

媒体上に使用可能な空きスペースがありません。

OPT1350

光ディスク・ボリューム&1への書き込み操作が失敗した。

OPT1360

光ディスク・ボリューム&1の媒体ディレクトリが壊れています。

OPT1375

光ディスク・ボリューム&1はすでに存在している。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1462

操作が完了していない。光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームではありません。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1820

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

OPT1825

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

OPT1860

光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。

OPT1861

装置&1に構成された装置記述がない。

OPT1862

資源&1に活動状態の装置記述がない。

OPT1863

光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。

OPT1872

光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。

OPT2030

光ディスク・バックアップの変換でエラー。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

OPT7740

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

トップ

パフォーマンス・データの変換 (CVTPFRDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・データ変換(CVTPFRDTA)コマンドは、前のリリースからのパフォーマンス・データを、現行リリースのパフォーマンス・ツール/400による処理に必要な形式に変換します。

このコマンドは、最初に、データが収集されたリリース・レベルを判別します。次に必要なすべてのファイルのメンバーが変換されます。変換は、現行データが入っている同じライブラリーで実行することができます。コマンドが異常終了した場合に古いデータが破壊される危険性を避けるために、データを別のライブラリー(TOLIB)で変換し、後で古いライブラリー(FROMLIB)からそのデータを削除してください。

変換が別のライブラリーで実行された場合には、古いデータは元のライブラリー(FROMLIB)に残され、新しいデータは新しいライブラリー(TOLIB)に存在します。新しく変換されるデータ用に新しいライブラリーを指定した場合には、変換する必要がないファイルも含めて、すべてのファイルが新しいライブラリーにコピーされます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMLIB	FROMライブラリー	名前	必須, 定位置 1
TOLIB	TOライブラリー	名前	必須, 定位置 2
JOBID	ジョブ記述	単一値: *USRPRF , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

[トップ](#)

FROMライブラリー (FROMLIB)

変換されるファイルが入っているライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 変換されるファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

TOライブラリー (TOLIB)

変換後のファイルを入れるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 変換済みファイルが入るライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBDD)

バッチ処理ジョブの投入に使用するジョブ記述を指定します。

単一値

***USRPRF**

ユーザーのユーザー・プロファイルに指定されたジョブ記述が使用されます。

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。代わりに、ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この間は、ユーザーのワークステーションを他の用途に使用することはできません。これは、長時間を要するジョブについては注意が必要となります。

修飾子1: ジョブ記述

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

CVTPFRDTAの例

例1: バッチ・ジョブを使用したデータの変換

```
CVTPFRDTA FROMLIB(MIKE) TOLIB(TERESA)
```

このコマンドは、ライブラリーMIKE中のパフォーマンス・データを変換し、これをライブラリーTERESAに入れます。この変換は、このコマンドを実行しているユーザーのユーザー・プロファイルと関連したジョブ記述を使用して投入されるバッチ・ジョブによって行なわれます。

例2: パフォーマンス・データの対話式の変換

```
CVTPFRDTA FROMLIB(QPFRDATA) TOLIB(QPFRDATA) JOBDD(*NONE)
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATA中のパフォーマンス・データを変換し、変換が完了した後、同じライブラリーにこれを入れます。この変換は、ユーザーの待機中に対話式に行なわれます。

トップ

エラー・メッセージ： CVTPFRDTA

*ESCAPEメッセージ

CPF0A0B

パフォーマンス・ツール・ファイルは変換されなかった。

CPF22F7

権限数は1-&1でなければならない。

CPF22FA

権限值&1は正しくない。

CPF22FB

唯一の権限值として*EXCLUDEまたは*AUTLを指定しなければならない。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF4102

メンバー&4を含むファイル&2がライブラリー&3に見つからない。

CPF8122

ライブラリー&4に&8の損傷がある。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

PFRスレッド・データの変換 (CVTPFRTHD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・スレッド変換(CVTPFRTHD)コマンドは、ジョブ・パフォーマンス・データ・レコードを変換します。これは、STRPFRMON（パフォーマンス・モニターの開始）コマンドにより収集されたデータ、またはCRTPFRDTA（パフォーマンス・データの作成）コマンドによって生成されたデータをサポートします。

ファイルQAPMJOBSまたはQAPMJOBの指定されたメンバー（MBRパラメーター）に、スレッド・レベル・パフォーマンス・データを含むレコードが入っています。CVTPFRTHDを使用し、このデータを変換して、結果のレコードをファイルQAPMTJOB内の同じ名前のメンバー（MBRパラメーター）に書き込むことができます。出力ファイル・メンバーには、ジョブ内で実行されるすべてのスレッドのパフォーマンス情報の合計である、ジョブ・レベル・パフォーマンス・データを含むレコードが入れられます。

入力ファイル(QAPMJOBSまたはQAPMJOB)は、LIBパラメーターで指定されたライブラリーに存在していなければなりません。ファイルQAPMTJOBが指定されたライブラリー（LIBパラメーター）に存在していない場合には、それが自動的に作成されます。指定された名前のファイル・メンバー（MBRパラメーター）が存在していなければ、それが自動的にファイルQAPMTJOBに追加されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション
REPLACE	置き換え	*YES, *NO	オプション

トップ

メンバー (MBR)

処理されるコレクションが入っている、ファイルQAPMJOBSまたはファイルQAPMJOBのメンバーを指定します。このメンバーは、存在していなければQAPMTJOBファイルに作成され、存在している場合には置き換えられます。

名前 スレッド・レベル・パフォーマンス・データが入っているメンバーの名前を指定してください。

トップ

ライブラリー (LIB)

入力ファイルが存在し、QAPMTJOBファイルが存在するかまたは作成されるライブラリーを指定します。

QPFRDATA

IBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、入力データベース・ファイルを入れるのに使用されます。

名前 入力データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

置き換え (REPLACE)

ファイルQAPMTJOB内の指定されたメンバーが置き換えられるかどうかを指定します。

***YES** まだメンバーが存在していなければ、メンバーが作成されます。メンバーがすでに存在している場合には、そこに入っているデータが置き換えられます。

***NO** まだメンバーが存在していなければ、メンバーが作成されます。メンバーがすでに存在している場合には、そこに入っているデータは置き換えられないで、エラー・メッセージが通知されます。

[トップ](#)

CVTPFRTHDの例

CVTPFRTHD MBR(MYDATA)

このコマンドは、パフォーマンス・データ・レコードを変換します。ライブラリーQPFRDATA中のファイルQAPMJOBまたはファイルQAPMJOBSのメンバーMYDATAには、処理される収集が含まれています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CVTPFRTHD

*ESCAPEメッセージ

CPF0A83

パフォーマンス・スレッド・データが変換されていない。

CPF0A84

このメンバーはすでに存在している。

CPF0A85

ユーザー・プロファイル&1にはライブラリー&2が認可されていない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF5030

メンバー&4で部分的な損傷がある。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

RPCソースの変換 (CVTRPCSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RPCソースの変換 (CVTRPCSRC)コマンドは、リモート・プロシージャ呼び出し(RPC)言語で書かれた入力ファイルからCコードを生成します。生成されたCコードを使用して、RPCプロトコルを実装することができます。

このコマンドは、UNIXシステムで**RPCGEN**ユーティリティーを実行するのと同じです。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- RPCGEN

制約事項:

1. 入力ファイルと出力ファイルの両方のパス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
2. 入力ファイルに対する読み取り(*R)権限が必要です。
3. 出力ファイルのディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX) 権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	FROMファイル	パス名	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*ALL, *XDR, *HDR, *CLTSTUB, *SVRSTUB, *CLTSAMP, *SVRSAMP, *NOSAMP	オプション
PROTOCOL	プロトコル	値 (最大 2 回の繰り返し): *NONE , *TCP, *UDP	オプション
TOFILE	TOファイル	パス名	オプション

トップ

FROMファイル (FROMFILE)

リモート・プロシージャ呼び出し(RPC)言語で書かれた入力ソース・ファイルのパス名を指定します。入力ソース・ファイルは、ルート/またはQOPENSYSファイル・システム内のファイルでなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

オプション (OPTION)

コンパイル・オプションを指定します。

***NOSAMP**

サンプル・ファイル(*CLTSAMPおよび*SVRSAMP)以外のすべてのファイル・タイプが生成されません。

***ALL** すべてのファイル・タイプが生成されます。

***XDR** 入力ファイルは、XDR（外部データ表示形式）ルーチンにコンパイルされます。

***HDR** 入力ファイルは、Cデータ定義（ヘッダー・ファイル）にコンパイルされます。

***CLTSTUB**

入力ファイルは、クライアント側のスタブ・プロシージャにコンパイルされます。

***SVRSTUB**

入力ファイルは、サーバー側のスタブ・プロシージャにコンパイルされます。ただし、「メイン」ルーチンは生成されません。

***CLTSAMP**

リモート・プロシージャ呼び出しを使用するサンプル・クライアントが生成されます。ファイルは適用業務用にカスタマイズすることができます。

***SVRSAMP**

リモート・プロシージャ呼び出しを使用するサンプル・サーバーが生成されます。ファイルは適用業務用にカスタマイズすることができます。

[トップ](#)

プロトコル (PROTOCOL)

指定されるトランスポートのサーバー側スタブ・プロシージャにコンパイルします。指定された値は、サーバー適用業務の実行時に/ETC/NETCONFIGファイルに存在していなければなりません。このパラメーターが有効なのは、OPTION(*SVRSTUB)が指定されている場合だけです。次のオプションの1つまたは複数指定することができます。

***NONE**

/ETC/NETCONFIGファイルにあるすべてのトランスポートのサーバー側スタブ・プロシージャをコンパイルします。

***TCP** TCPトランスポートのサーバー側スタブ・プロシージャをコンパイルします。

***UDP** UDPトランスポートのサーバー側スタブをコンパイルします。

[トップ](#)

TOファイル (TOFILE)

出力ファイルのパス名を指定します。このオプションを使用できるのは、OPTION(*ALL)もOPTION(*NOSAMP)も指定されない場合だけです。OPTION(*ALL)またはOPTION(*NOSAMP)が指定されているか、あるいは別のオプションを使用しているときにTOFILEパラメーターが指定されなかった場合には、次のように **FROMファイル (FROMFILE)**パラメーターを使用してTOFILE名が生成されます。ここで、FILENAMEはFROMFILEパラメーターからの入力ファイル名の名前です。

- FILENAME.H -ヘッダー・ファイルの場合
- FILENAME_XDR.C - XDRファイルの場合
- FILENAME_CLNT.C -クライアント側スタブの場合
- FILENAME_SVC.C -サーバー側スタブの場合
- FILENAME_CLIENT.C -クライアント側サンプル・ファイルの場合
- FILENAME_SERVER.C -サーバー側サンプル・ファイルの場合

サンプル・コードの出力ファイルは存在してはいけません。サンプル出力ファイルのいずれかが存在していると、コマンドは正常に実行されません。その他の出力ファイルは、存在していると上書きされます。

'TOファイル・パス名'

TOFILE名を生成するために使用するパス名を指定してください。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

CVTRPCSRCの例

例1: 省略時のファイルへのRPCソースの変換

```
CVTRPCSRC FROMFILE('/MYRPC') OPTION(*ALL)
```

これは、RPC言語ファイル'/MYRPC'を4つのファイル・タイプ(*XDR, *HDR, *CLTSTUB,および*SVRSTUB)すべてに変換します。サーバー側のスタブ・プログラムの生成には、省略時の値PROTOCOL(*TCP)が使用されます。ファイルは次のファイル名に入れられます。

- ヘッダー・ファイルの場合にはMYRPC.H
- XDRファイルの場合にはMYRPC_XDR.C
- クライアント側スタブの場合にはMYRPC_CLNT.C
- サーバー側スタブの場合にはMYRPC_SVC.C

例2: クライアント・スタブのみへのRPCソースの変換

```
CVTRPCSRC FROMFILE('/MYRPC2') OPTION(*CLTSTUB)
          TOFILE('/MYCLNT.C')
```

このコマンドは、RPC言語ファイル'/MYRPC2'をクライアント側スタブ・プロシージャーに変換します。結果は、指定されているファイル'/MYCLNT.C'に入れられます。

トップ

エラー・メッセージ： CVTRPCSRC

なし

[トップ](#)

TCP/IP CLソースの変換 (CVTTCPCL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP CLソースの変換(CVTTCPCL)コマンドは、TCP/IPコマンドをバージョン3、リリース1、モディフィケーション0 (V3R1M0)より前のリリースから現行リリースのコマンド構文に変換します。ソース物理ファイルの中に、変換される前のV3R1M0 TCP/IP CLコマンドが存在していなければなりません。

次のコマンドが、それらの指定されたパラメーター値に基づいて変換されます。場合によっては、変換後のコマンドを手操作で更新しなければならない場合があります。手操作による更新を必要とするコマンド・ステートメントを識別するのに役立つメッセージが出されます。

- ADDTCPLNK
- CHGTCPLNK
- RMVTCPLNK
- STRTCPLNK
- ENDTCPLNK
- ADDTCP RTE
- CHGTCPRTE
- RMVTCPRTE
- ADDTCP PORT
- RMVTCPPORT
- ADDTCP RSI
- RMVTCPRSI
- CHGTCPA
- ENDTCP CNN
- STRTCP TELN
- CHGVTIMAP
- SETVTIMAP
- DSPVTIMAP
- ENDSBS SBS(QTCP)
- STRSBS SBSD(QTCP/QTCP)

CVTTCPCLコマンドは、名前CVTTCPCLの印刷出力ファイルを作成します。この印刷出力ファイルには、ソース・ファイル変換の成功または失敗を指示する報告書が入っています。

CVTTCPCLコマンドを出した時にジョブのライブラリー・リストに名前CVTTCPCLの印刷装置ファイルが存在している場合には、この印刷装置ファイルを使用して、印刷出力ファイルが作成されます。存在しない場合には、CVTTCPCLコマンドは、印刷装置ファイル一時変更(OVRPRTF)コマンドを使用し、印刷出力ファイルの作成に印刷装置ファイルQSYS/QSYSRPTを使用します。

注: 印刷装置ファイルの作成には、印刷装置ファイル作成(CRTPRTE)コマンドを使用します。

TCP/IPコマンド・ソースの正常な変換は、報告書中に次のメッセージで通知されます。

TCP1E08 メンバーは変換されました。

コマンドの変換が正常に行われなかった場合には、通知メッセージが印刷されます。(通知メッセージは変換時にジョブ・ログにも送られます。また任意の通知メッセージが送信されている場合で、CVTTCPCCLコマンドが完了した時には、1つのエスケープ・メッセージが送られます。) 変換できない機能の例、および通知メッセージとして報告書の中に印刷される機能のいくつかの例は次の通りです。

TCP1E07 コマンド&1は変換できません。

TCP1E10 コマンド&1の中のパラメーター・キーワードは変換できません。

変換の成功または失敗に基づいて報告書进行处理するために、スプール・ファイル・コピー(CPYSPLF)コマンドなどを使用して、プログラムを作成することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	FROMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFILE	TOファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	FROMメンバー	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 3

トップ

FROMファイル (FROMFILE)

TCP/IPコマンドを含む、変換されるCLソース・ファイルを指定します。

修飾子1: FROMファイル

名前 変換するISERIES CLソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

TOファイル (TOFILE)

変換されたソースが入っているファイルを指定します。この名前はFROMFILEパラメーターの名前と異なるものでなければなりません。

修飾子1: TOファイル

名前 変換されたソース・ファイルが入れられる名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

FROMメンバー (FROMMBR)

変換するソース・ファイル・メンバーのメンバーを指定します。

***ALL** 可能な場合には、指定されたソース・ファイルのすべてのメンバーがV3R1M0 TCP/IPコマンド構文に変換されます。

総称名 変換するソース・ファイル・メンバーの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング（たとえば、ABC*）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名が指定されて、複数のライブラリーが検索される場合には、名前に*ALLまたは*ALLUSRライブラリー値を指定できる場合にかぎり、複数のオブジェクトを変換することができます。総称名の基準に適合する最初の50個のメンバーだけが変換されることとなります。

名前 変換するソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。50を超える名前を指定してはいけません。

処理されるソース・メンバーは、メンバー・タイプCL, CLP,またはTXTのメンバー だけ であることにご注意ください。FROMFILE中のメンバーで、メンバー・タイプに他の値をもったメンバーは、CVTTCPCLコマンドでは無視されます。ソース・メンバーが処理されると、TOFILE中の変換されたソース・メンバーの名前は、FROMFILE中のメンバー名と同じです。

トップ

CVTTCPCLの例

```
CVTTCPCL  FROMFILE(OLDLIB/QCLSRC)  TOFILE(NEWLIB/QCLSRC)
          FROMMBR(TCPPGM1 TCPPGM2 TCPPGM3)
```

このコマンドは、ライブラリーOLDLIB内にあるCLソース・ファイル(QCLSRC)の3つのメンバー(TCPPGM1, TCPPGM2, TCPPGM3)中のTCP/IPコマンドをすべて新しいコマンド名および形式に変換します。変換後のソース・ファイル・メンバーはライブラリーNEWLIB内のQCLSRCにあります。変換後のメンバーの元のメンバー名(TCPPGM1, TCPPGM2,およびTCPPGM3)は保持されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CVTTCPCL

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

TCP1E02

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

TCP1E03

ライブラリー&2のファイル&1がソース・ファイルでない。

TCP1E06

指定したTOFILEがFROMFILEと同じである。

[トップ](#)

フォルダーへの変換 (CVTTOFLR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォルダーへの変換(CVTTOFLR)コマンドは仮想ディスクをフォルダーおよびPC 文書に変換します。仮想ディスクのファイルおよびディレクトリーは指定されたフォルダーにコピーされ、これがルート・ディレクトリーになります。

注: この項目が、(画面自身またはヘルプ情報に) アスタリスク付きで示される「特殊値」でない限り、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

エラー・メッセージ: CVTTOFLR

*ESCAPE メッセージ

IWS1613

仮想ディスクが変換された。エラーが起っています。

IWS1614

仮想ディスクをフォルダーに変換することができない。

*STATUS メッセージ

IWS1621

仮想ディスクをフォルダーに変換中。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMVDSK	取り出し仮想ディスク	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 取り出し仮想ディスク	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFLR	受け取りフォルダー	文字値	必須, 定位置 2
REPLACE	文書置き換え	*NO, *YES	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

取り出し仮想ディスク (FROMVDSK)

変換される仮想ディスクの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 仮想ディスクを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

仮想ディスクを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリー項目がライブラリー・リストに存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

仮想ディスクが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

受け取りフォルダー (TOFLR)

仮想ディスクの変換先のフォルダーの名前を指定します。これはすべて修飾されたパス名とすることができます。

仮想ディスクのすべてのファイルおよびディレクトリーが変換されます。パスの最後のフォルダーを除きすべてのフォルダーが存在していなければなりません。最後のフォルダーが存在していない場合にはそれが作成されます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

文書置き換え (REPLACE)

仮想ディスクのファイルが文書と同じ名前の時に、既存の文書を置き換える必要があるかどうかを指定します。

***NO** 置き換えられません。

***YES** 既存の文書が、仮想ディスクからのファイルによって置き換えられます。

警告:

仮想ディスクのファイルと同じ名前のすべての文書が、エラー・メッセージを送ることなく置き換えられます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CVTTOFLR

*ESCAPE メッセージ

IWS1613

仮想ディスクが変換された。エラーが起っています。

IWS1614

仮想ディスクをフォルダーに変換することができない。

*STATUS メッセージ

IWS1621

仮想ディスクをフォルダーに変換中。

[トップ](#)

ユーザー証明書の変換 (CVTUSRCERT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー証明書変換(CVTUSRCERT)コマンドによって、システム上でローカルの保管およびマップから、マップするためにエンタープライズ識別マッピング(EIM)および記憶装置へのLDAP (LIGHTWEIGHT DIRECTORY ACCESS PROTOCOL)の使用へのユーザー証明書を変換することができます。

制約事項:

- 全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。
- このコマンドを実行する前に、デジタル I D 構成設定(QSYSETDIGITALIDCONFIG) APIまたはデジタル証明書マネージャー(DCM) を使用してデジタル I D 構成を設定しておかなければなりません。
- このシステムがEIMドメインに参加するように構成済みでなければなりません。
- EIM接続情報設定(QSYSETEIMCONNECTINFO) APIまたはEIM構成GUIを使用してシステム接続情報を設定しておかなければなりません。
- このコマンドで指定されたユーザー・プロファイルの場合は、EIMドメインに参加するようにシステムを構成する場合に指定されたローカル・レジストリーのEIM識別コードに対するターゲット関連がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*CVTRMV, *RMV, *CVT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

証明書を変換するユーザー・プロファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

単純名 ユーザー・プロファイル名を指定してください。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

ユーザー証明書に対して実行するオプションを指定します。

***CVTRMV**

EIMを使用するマッピング情報を変換し、証明書そのものをLDAPに移動します。既存の証明書およびマッピング情報は、ユーザー・プロファイルから除去されます。

***RMV** マッピング情報および証明書をユーザー・プロファイルから除去します。

***CVT** マッピング情報をEIMにコピーし、証明書をLDAPにコピーします。既存の証明書およびマッピング情報は、ユーザー・プロファイルに残ります。

[トップ](#)

CVTUSRCERTの例

```
CVTUSRCERT USRPRF(JOHNSON) OPTION(*CVTRMV)
```

このコマンドは、情報のマップにEIMを使用し、証明書の保管にLDAPを使用するように、ユーザー・プロファイルJOHNSONのデジタル証明書のすべてを変換します。ユーザー・プロファイルと現在は一緒に保管されている証明書およびマッピング情報が除去されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CVTUSRCERT

***ESCAPE** メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF4AB9

ユーザー証明書機能が失敗しました。

[トップ](#)

データ (DATA)

実行可能場所:

• バッチ・ジョブ (*BATCH)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

データ(DATA)コマンドは、インライン・データ・ファイルの始めを示すために入力ストリーム中で使用しなければなりません。この入力ストリームは、スプール読み取りプログラムによって読み取られます。データ(DATA)コマンドは、データ・ファイルの終わりを示すためにどの区切り文字を使用しなければならないかも指定します。インライン・データ・ファイルはこのジョブの間でのみ存在し、ジョブ終了後は破棄されます。名前のないインライン・ファイルは、ジョブの中で1回だけ使用することができます。

制約事項

1. DATAコマンドはワークステーションから実行できません。
2. DATAコマンドは、データ・レコードの1桁目および2桁目にスラッシュが2つ(//)が必要です。
3. スラッシュとコマンド名(//DATA)をブランクで分離できます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	入力ファイル	名前, <u>QINLINE</u>	オプション, 位置 1
FILETYPE	ファイル・タイプ	* <u>DATA</u> , *SRC	オプション, 位置 2
ENDCHAR	データの終わり文字	文字値, <u>//</u>	オプション, 位置 3
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	* <u>NO</u> , *YES	オプション

[トップ](#)

入力ファイル (FILE)

インライン・データ・ファイルの名前を指定します。この名前は、ファイル処理するプログラム内でも指定されます。

考えられる値は、次の通りです。

QINLINE

インライン・データ・ファイルの名前はQINLINEです。このファイルは、名前のないインライン・ファイルとして処理されます。名前のないファイルは、プログラムがファイル名としてQINLINEを指定した場合、あるいは入力のためにデータのスパールプロンプト(SPOOLパラメーター)に*YESを指定する装置ファイルがオープンされた場合に処理することができます。名前のないインライン・ファイルは、ジョブで1回だけ使用することができます。

インライン・ファイル名

ジョブの1つまたは複数のプログラムによって使用されるインライン・データ・ファイルの名前を指定します。ファイルは、プログラムがファイル名を指定してファイルをオープンした時点で、プログラムに接続されます。名前のあるインライン・データ・ファイルは、ジョブで2回以上アクセスすることができます。

トップ

ファイル・タイプ (FILETYPE)

このコマンドの後に続くインライン・データを、ソース・ファイルの標準形式にするかまたはデータ・ファイル形式にするかを指定します。標準ソース・ファイル形式は、順序番号（6文字のソース番号）の後に6文字のシステム日付が続き、その後にデータが続くものです。

考えられる値は、次の通りです。

***DATA**

インライン・データはソース・ファイルの標準形式ではありません。データ・ファイルはプログラムに渡され、プログラムはそれをデータ形式で使用します。

***SRC** インライン・データは順番に番号付けされます。それは、別のファイルまたはプログラムを作成するために使用できるソース・ファイルです。

トップ

データの終わり文字 (ENDCHAR)

インライン・データ・ファイルの終わりを示すために使用される文字のストリングを指定します。認識されるためには、この文字ストリングはレコードの1桁目から開始しなければなりません。区切り文字として//（省略時の値）以外を使用する文字ストリングを指定した場合には、ファイルの終わりレコードまでのすべてのレコード（1桁目から指定の文字ストリングを持つレコード）がデータとして扱われます。これによって、データ・ストリームに読み取りプログラム・コマンドを組み込むことができます。ENDCHAR値（省略時の値ではない）のファイルの終わりレコードはデータ・ファイルに入れられず、有効な読み取りプログラム・コマンドかどうかは検査されません。これは、データ・ストリームの終わりを判別するためだけに使用され、その後は廃棄されます。

考えられる値は、次の通りです。

// 省略時の値は2個のスラッシュです。2個のスラッシュをパラメーターにコーディングしても、あるいはパラメーターそのものを省略しても、コマンドは同じ働きをします。省略時の値を使用すると、レコードの1桁目および2桁目のスラッシュが（データ・ファイルまたはソース・ファイルのいずれの場合も）ファイルを超えた最初のレコードを識別します。

'終わりの文字ストリング'

ファイル中の最後のレコードを識別するために、文字ストリング（アポストロフィで囲まれた最大25桁の長さ）を入力することができます。この文字ストリングには、英数字と特殊文字の両方を入れることができます。データの終わり文字プロンプト(ENDCHARパラメーター)に//以外の文字の組み合わせが指定されている場合には、読み取りプログラム・コマンドをデータ中に安全に組み込むことができます。読み取りプログラムは、指定されたストリングの検索時には、読み取りプログラム・コマンドを含めて他のすべてのデータを無視します。

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

このコマンドの後に続くインライン・データに、2バイト文字セット(DBCS)データが含まれるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** インライン・ファイルにDBCSデータは含まれていません。

***YES** インライン・ファイルにDBCSデータが含まれる場合があります。

DATAの例

例1:データ・ファイル形式のインライン・データ・ファイル

```
//DATA FILE(FILE1)
```

このコマンドは、インライン・データ条件の終わり(1桁目および2桁目の2つのスラッシュ)が見つかるまで、それに続くデータに名前FILE1を割り当てます。

例2:終わりの文字ストリングの指定

```
//DATA FILE(FILE2) ENDCHAR('STOPIT')
```

このコマンドは、それに続くデータに名前FILE2を割り当て、ファイルは1-6桁目に文字STOPITを含むレコードが見つかるまで続けられます。この区切り記号によって、//BCHJOB、//ENDBCHJOB、および//DATAコマンドとインライン・ファイル中の1桁目および2桁目に//を組み込んだレコードが可能になります。

例3: DBCSデータを含むファイルの指定

```
//DATA FILE(FILE3) IGCDTA(*YES)
```

このコマンドは、それに続くデータに名前FILE3を割り当てます。このファイルにはDBCSデータを含めることができます。

エラー・メッセージ: DATA

*ESCAPE メッセージ

CPF1753

コマンドを実行することができない。

CL変数宣言 (DCL)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

CL変数宣言(DCL)コマンドは、CLプロシージャで使用される制御言語(CL)プログラム変数を定義します。CL変数は、データを記憶して更新し、呼び出しでの別のプログラムからパラメーターを受け取るために使用されます。CL変数は、それを宣言するプログラム内だけで名前によって知られています。これはCLプロシージャの外側で使用することができませんが、プログラムのデバッグのために一部のコマンド (DSPPGMVARコマンドなど) によって参照される場合は例外です。変数が宣言されて、CLプロシージャの別のコマンドによって参照されない場合には、その変数はコンパイルされる時にプログラムに入れられません。変数内の値はパラメーターとして別のプログラムに渡すことができます。各DCLコマンドは1つのCL変数の属性を定義し、それが使用されるプログラム内にその名前を宣言します。

プログラムのCL変数は2つの宣言コマンドの1つによって識別されなければなりません。ファイル宣言(DCLF)コマンドは、表示装置ファイルおよびデータ域のCL変数を宣言します。DCLコマンドはその他のすべてのCL変数を宣言します。

制約事項: DCLコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。すべての宣言コマンド(DCL, COPYRIGHT,およびDCLF)はPGM (プログラム) コマンドの後に続き、プログラム中の他のすべてのコマンドより前になければなりません。宣言コマンドの3つのタイプはどの順序でも混用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VAR	CL変数名	CL 変数名	必須, 定位置 1
TYPE	タイプ	*DEC, *CHAR, *LGL, *INT, *UINT	必須, 定位置 2
LEN	変数の長さ	要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 長さ	整数	
	要素 2: 小数点以下の桁数	整数	
VALUE	初期値	文字値	オプション, 定位置 4

[トップ](#)

CL変数名 (VAR)

CLプロシージャー内で宣言するCL変数を指定します。変数が存在するのは、それが宣言されたプログラム内だけです。これは呼び出しのパラメーターとして別のプログラムに渡すことができ、その場合、呼び出されるプログラムによってこれを処理することができます。この名前はアンパーサンド(&)で始まっていない必要があります。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

タイプ (TYPE)

宣言するCL変数に含まれる値のタイプを指定します。変数の値としては、文字定数、10進定数、論理定数('1'または'0'),または2進整数 (符号付きまたは符号なし) が可能です。このパラメーターの値はCL変数によって指定することができません。

これは必須パラメーターです。

***DEC** パック10進数値を含む10進変数。

***CHAR**

文字ストリング値を含む文字変数。

***LGL** 論理値'1'または'0'のいずれかを含む論理変数。

***INT** 符号付き2進値を含む整数変数。

***UINT** 符号なし2進値を含む整数変数。

[トップ](#)

変数の長さ (LEN)

宣言するCL変数の長さを指定します。変数が10進数値の場合には、小数点の右側の10進の桁数を任意に指定することができます。このLENパラメーターの値はCL変数によって指定することはできません。

要素1: 長さ

長さ このCL変数の値で許される文字数を指定します。この長さは変数のこのタイプの最大値より大きくすることはできません。

要素2: 小数点以下の桁数

小数点以下の桁数

この要素は10進変数の場合にのみ有効です。変数の値の長さには、その値の小数点以下の桁数も含まれます。10進数値の最大長は15桁で、小数点の右側の桁数も含まれます。最大9桁の小数点以下の桁数を指定することができます。9桁の小数点以下の桁数を指定した場合には、15桁のうち6桁だけが整数値に残されているために、小数点の左の値は999,999より大きくすることはできません。

10進数変数の長さ (桁数) が指定され、小数点以下の桁数が指定されない場合には、小数点以下の桁数は0と見なされます。

5つのタイプのそれぞれの最大長は次の通りです。

- 10進数— 15桁（小数点以下の桁数は9桁）
- 文字— 9999バイト

注: CL変数の初期値（VALUEパラメーターに指定される）は、3000桁より大きくすることはできません。

- 論理— 1バイト
- 整数— 4バイト
- 符号なし整数— 4バイト

5つのタイプのそれぞれの省略時の長さは次の通りです。

- 10進数 — 15桁で、小数点以下の桁数は5
- 文字— 32バイト
- 論理— 1バイト
- 整数— 4バイト
- 符号なし整数— 4バイト

注: 10進数および文字タイプでは、VALUEパラメーターに1が指定された場合には、省略時の長さは初期値の長さと同じです。

[トップ](#)

初期値 (VALUE)

初期値をプログラムで宣言する時に、CL変数に割り当てる初期値を指定します。この値は、TYPEパラメーターによって指定されたタイプの値でなければなりません。値を指定しない場合には、文字変数はブランクに設定され、10進変数、整変数、または符号なし整変数は0の値に設定され、さらに、論理変数は'0'に設定されます。VALUEパラメーターの値はCL変数によって設定することはできません。

変数が宣言された同じプログラムのPGMコマンドのPARMパラメーターに、宣言された変数の名前を指定した場合には、その変数の初期値を指定することはできません。その場合には、変数は呼び出し側プログラムからその値を受け取ります。

[トップ](#)

DCLの例

例1: CL変数の長さの指定

```
DCL  &ABLE  *DEC  LEN(5 2)
```

このコマンドは、10進値を含む、&ABLEという名前のCL変数を宣言します。LENは最大5桁を指定し、そのうち2桁は小数点の右側にあるので、999.99より大きい値は不可能です。VALUEパラメーターが指定されておらず、値は数値なので、&ABLEの値はゼロ(000.00)に設定されます。

例2: 論理値の指定

```
DCL  &SWITCH  *LGL
```

このコマンドは、論理値を含む、&SWITCHという名前のCL変数を宣言します。タイプ・パラメーターが論理を指定しているため、変数は1文字の長さで、'0'に設定されます。

例3: CL変数の初期値の指定

```
DCL &FILNAM *CHAR VALUE(FILEA)
```

このコマンドは、値がFILEAである、&FILNAMという名前のCL変数を宣言します。値は5文字で、LENパラメーターが指定されていないので、変数の長さも5文字です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DCL

なし

[トップ](#)

ファイル宣言 (DCLF)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

パラメーター

例

エラー・メッセージ

スレッド・セーフ: はい

ファイル宣言(DCLF)コマンドは、制御言語(CL)プログラムに対して、1つのファイルを名前で宣言します。最大で5つのDCLFコマンドをCLプロシージャ内で使用することができます。各DCLFコマンドは、表示装置ファイルまたはデータベース・ファイルの名前、プログラムで使用するファイル・レコード様式、およびCLプロシージャ内のファイルの宣言されたインスタンスを一意的に識別するために使用される**オープン・ファイル識別コード** (オプション) を指定します。**オープン・ファイル識別コード (OPNID)**パラメーターに指定された値が固有であれば、複数のDCLFコマンドが同じファイルを参照することができます。CLプロシージャは、ファイルに対するDCLFコマンドの後に、データ操作コマンドを含むことができます。表示装置ファイルの場合は、次のコマンドを使用して、ワークステーションにデータを送ったり、ワークステーションからデータを受け取ったりすることができます。ファイル送出し(SNDF)、ファイル受け取り(RCVF)、ファイル送出し/受け取り(SNDRCVF)、受け取り終了(ENDRCV)、および待機(WAIT)コマンド。データベース・ファイルの場合は、RCVFコマンドを使用して、ファイルからレコードを読み取ることができます。

CLプロシージャをコンパイルする時には、CL変数は、プログラムで使用される各レコード様式の各フィールドに対して自動的に宣言されます。ファイルがレコード・レベルのデータベース・ファイルの場合には、レコード様式には、そのレコード様式の名前をもつ1つのフィールドが入っています。OPNIDパラメーターに指定された値が*NONEの場合は、変数名はアンパーサンド(&)を接頭部として持つフィールド名です。OPNIDパラメーター値が*NONEでない場合は、変数名は、アンパーサンド(&),OPNIDパラメーターに指定された値、および下線を接頭部として持つフィールド名です。

たとえば、宣言されたファイルがCUSTNAMEというフィールドを含むレコード様式を持っていて、DCLFコマンドに指定されたオープン・ファイル識別コードがFILE1であったとすると、宣言された変数は次のようになります。

```
&FILE1_CUSTNAME
```

宣言された各フィールドの属性は、ファイル・レコード様式内のフィールドの属性と同じです。レコード様式で数値として定義されたフィールドは、10進数変数として定義されます。参照ファイル・レコード様式で定義された標識は、変数名を持つ論理変数としてINNNの形式（最後の2つの'NN'が標識番号）で宣言されます。

DCLFコマンドによって自動的に宣言された変数は、DCLコマンドで宣言された変数と同じようにプログラム中で使用することができます。たとえば、標識は論理変数として宣言されているので、式およびIFステートメントで使用することができます。

ユーザーは変数名ではなく、変数の内容を表示します。画面には、そのレコード様式の1つのフィールド、一部のフィールド、あるいはすべてのフィールドが表示され、ユーザーはこれに埋め込むことができます。DDSによって表示形式が決定されます。

制約事項:

- ファイルは入力の場合にかぎりオープンされます。
- データベース・ファイル・オープン(OPNDBF)コマンドを使用しなくても、RCVFコマンドが実行されると、ファイルは暗黙的にオープンされます。
- ファイル・クローズ(CLOF)コマンドを使用しなくても、CLプロシージャが終了すると、ファイルは暗黙的にクローズされます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RCDFMT	レコード様式	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 2
OPNID	オープン・ファイル識別コード	単純名, *NONE	オプション
ALWVARLEN	可変長フィールド可能	*NO, *YES	オプション
ALWNULL	ヌルのフィールド値可能	*NO, *YES	オプション
ALWGRAPHIC	グラフィックス使用可能フィールド	*NO, *YES	オプション

トップ

ファイル (FILE)

CLプロシージャが使用するファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

トップ

レコード様式 (RCDFMT)

ファイルに含まれている1つまたは複数のレコード様式を指定します。これらのレコード様式は、CLプロシージャの中で、ファイル送出し(SNDF)、ファイル受け取り(RCVF)、およびファイル送出し/受け取り(SNDRCVF)コマンドにより使用されます。データベース・ファイルを処理できるのは、RCVFによる処理の場合だけです。CL変数名は、RCDFMTに指定することはできません。使用できるのは、レコード様式の名前だけです。RCDFMTに指定された各レコード様式のそれぞれのフィールドおよび標識に対して、1つのCL変数がプログラム中に自動的に宣言されます。

注: 物理ファイルには、1つのレコード様式を含めることができます。論理ファイルが複数の物理ファイル・メンバーについて定義された場合には、複数のレコード様式がDDSに定義済みの論理ファイルを使用することができます。物理ファイルに複数のレコード様式が入っている場合には、エラー・メッセージが送られ、コンパイル手順は正常に実行されません。

単一値

***ALL** ファイル内のすべてのレコード様式（ただし最大99個）のフィールドが、CLプログラムの中で宣言されます。ファイル内に99個を超えるレコード様式がある場合には、最初の99個だけが使用されます。

その他の値（繰り返しは最大50回）

名前 CLプロシージャの中で変数として宣言するフィールドを含むファイル・レコード様式の名前を指定してください。CL変数を使用して名前を指定することはできません。

[トップ](#)

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

ファイル (FILE)パラメーターに指定されたファイルと関連付けるオープン・ファイル識別コードを指定します。この識別コードは、CLプロシージャの中で宣言されるすべてのファイルについて固有でなければなりません。

*NONE

ファイルはオープン・ファイル識別コードを持っていません。オープン・ファイル識別コードとして*NONEを持つファイルはCLプロシージャの中で1つしか宣言できません。

単純名 ファイルのオープン・ファイル識別コードとして使用する名前を指定してください。

[トップ](#)

可変長フィールド可能 (ALWVARLEN)

可変長フィールドをレコード様式で使用できるかどうかを指定します。

***NO** 可変長フィールドをレコード様式で使用することはできません。

***YES** 可変長フィールドをレコード様式で使用することができます。可変長フィールドに宣言されたCL変数は、2バイトに、最大フィールド長をプラスした長さに等しい長さの*CHARタイプとして扱われます。可変長フィールドのRCVFの後の、CL変数の最初の2バイトにはデータの長さが入っています。フィールドから受け取ったデータは、使用可能な最大長（9997バイト）になるまで右側にブランクの埋め込みが行なわれます。

ヌルのフィールド値可能 (ALWNULL)

ヌルのフィールド値を使用できるかどうかを指定します。

- *NO** ヌルの値を使用することはできません。RCVF時にヌル値が入っている各フィールドでは、レコード全体の診断メッセージが単一のエスケープ・メッセージとともに送信されます。CL変数には省略時の値が入れます。
- *YES** ヌルの値を使用することができます。

トップ

グラフィックス使用可能フィールド (ALWGRAPHIC)

図形データ・フィールドをレコード様式で 사용할 ことができるかどうかを指定します。

- *NO** レコード様式に図形データ・フィールドを含めることはできません。図形データ・フィールドがファイル中でサポートされている場合には、コンパイル時に診断メッセージが送られます。
- *YES** レコード様式に図形データ・フィールドを含めることができます。図形データ・フィールドについて宣言されたCL変数は、長さ（バイト数）が図形データ・フィールド長と等しいタイプ*CHARとして処理されます。

トップ

DCLFの例

例1:すべてのレコード様式のフィールドを変数として宣言

```
DCLF  FILE(ABLE)  RCDFMT(*ALL)
```

このコマンドは、CLプログラムがユーザーとプログラム間のデータの受け渡しにABLEという名前のファイルを使用することを指定します。ライブラリーが指定されていないので、ライブラリー・リストを使用してファイルを見つけます。すべてのレコード様式のすべてのフィールドおよび標識が自動的に変数として宣言され、ファイル内のどのレコード様式（最初の99まで）のどのフィールドからのデータも、プログラムとユーザー間で受け渡しが可能です。

例2:複数のレコード様式の使用

```
DCLF  FILE(BAKER)  RCDFMT(REC2 REC6)
```

表示装置ファイルBAKERは、CLプロシージャがユーザーとプログラム間のデータの受け渡しに使用します。省略時の解釈によってFILEのライブラリー修飾子が*LIBLであるとすると、ライブラリー・リストを使用してファイルを見つけます。REC2とREC6の両方のレコード様式が使用されます。

例3:オープン・ファイル識別コードの使用

```
DCLF  FILE(MYLIB/CHARLES)  OPNID(CTLFIL1)
```

ライブラリーMYLIB内のファイルCHARLESは、CLプロシージャがデータベース・ファイルからレコードを読み取るために使用します。CUSTNUMBERという名前のフィールドがレコード様式に入っている場合は、次の変数が宣言されます。

&CTLFIL1_CUSTNUMBER

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DCLF

なし

[トップ](#)

オブジェクトの圧縮解除 (DCPOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト圧縮解除(DCPOBJ)コマンドによって、プログラム、パネル・グループ、メニュー、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、モジュール、およびサービス・プログラムを永続的に圧縮解除することができます。

- 圧縮されたオブジェクトでは圧縮解除されたオブジェクトより使用される記憶域スペースが少なくなります。圧縮されたオブジェクトが使用されるか、あるいは圧縮されたプログラムが呼び出される時には、圧縮解除されたバージョンのオブジェクトが自動的にユーザーに使用可能になります。
- 圧縮解除されたオブジェクトは、それに割り振られたシステム記憶域スペースを使用し、最終的な使用可能状態になります。
- 一時的に圧縮解除したオブジェクトは圧縮済みオブジェクトの一時的な圧縮解除されたコピーです。システムまたはユーザーが一時記憶域スペースを再利用する必要があると判断するまで、システムは一時コピーに記憶域スペースを割り振ります。

次の場合に、一時記憶域は自動的に再利用されます。

- RCLTMPSTGコマンドが実行されます。
- 次の初期プログラム・ロード(IPL)が実行された。
- オブジェクトが頻繁に使用され、システムがそのオブジェクトを永続的に圧縮解除するようになる。

オブジェクトが永続的に圧縮解除された場合には、そのオブジェクトのすべての一時形式の他にオブジェクトの圧縮バージョンも破棄されます。しかし、圧縮済みバージョンは、そのオブジェクトが一時的な圧縮解除である限り元のまま残ります。

制約事項: コマンドで指定されたオブジェクトに対する*USE権限およびオブジェクトが入っているライブラリーに対する実行権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *USRLIBL	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	値 (最大 6 回の繰り返し): *ALL, *FILE, *MENU, *MODULE, *PGM, *PNLGRP, *SRVPGM	必須, 定位置 2
PGMOPT	プログラム・オプション	*ALL, *INS	オプション

[トップ](#)

オブジェクト (OBJ)

圧縮解除するオブジェクトの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定したライブラリー中の、**オブジェクト・タイププロンプト** (OBJTYPE パラメーター) で指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが圧縮解除されます。

総称*オブジェクト名

圧縮解除するオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。

オブジェクト名

圧縮解除するオブジェクトの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

現行ライブラリーだけが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
```


QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

圧縮解除するオブジェクトのタイプを指定します。*ALLを指定することができるし、あるいはその他の1つまたは複数の使用できる値を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

- *ALL** オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) に指定された名前とライブラリー名を持つ圧縮されたすべてのメニュー、パネル・グループ、表示装置および印刷装置ファイル、プログラム、モジュール、およびサービス・プログラムが圧縮解除されます。
- *FILE** オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つ表示装置および印刷装置ファイルが圧縮解除されます。
- *MENU**
オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つメニューが圧縮解除されます。
- *MODULE**
オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) に指定された名前とライブラリー名を持つモジュールが圧縮解除されます。
- *PGM** オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つプログラムが圧縮解除されます。
- *PNLGRP**
オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つパネル・グループが圧縮解除されます。
- *SRVPGM**
オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) に指定された名前とライブラリー名を持つサービス・プログラムが圧縮解除されます。

[トップ](#)

プログラム・オプション (PGMOPT)

プログラムまたはサービス・プログラムの全体を圧縮解除するのか、それとも命令ストリームだけを圧縮解除するのかを指定します。このパラメーターは、**オブジェクト・タイププロンプト** (OBJTYPEパラメーター) に*PGM, *SRVPGM, または*ALLが指定されている場合にのみ有効です。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** プログラムまたはサービス・プログラムの全体 (命令ストリームおよびプログラム識別情報テーブル) が圧縮解除されます。

***INS** プログラムまたはサービス・プログラムの命令ストリームだけが圧縮解除されます。

[トップ](#)

DCPOBJの例

DCPOBJ OBJ(QGPL/*ALL) OBJTYPE(*FILE)

このコマンドは、ライブラリーQGPL中の圧縮されたすべての表示装置および印刷装置ファイルを圧縮解除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DCPOBJ

*ESCAPE メッセージ

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF3B01

&2のオブジェクト&1を圧縮または圧縮解除することはできない。

CPF3B02

&2のファイル&1を圧縮または圧縮解除することはできない。

CPF3B05

圧縮解除されたオブジェクトはない。

CPF3B06

&1個のオブジェクトが圧縮解除された。&3個は圧縮解除されなかった。&8個は含まれなかった。

CPF3B08

&2のオブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF8108

&9の装置ファイルまたは保管ファイル&4に損傷がある。

CPF812E

&9のモジュール&4に損傷がある。

CPF8129

&9のプログラム&4に損傷がある。

CPF813D

&9のサービス・プログラム&4に損傷がある。

CPF8150

&9のパネル・グループ&4に損傷がある。

CPF8151

&9のメニュー&4に損傷がある。

CPF9570

デバッグ・データの作成またはアクセス中にエラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

リンクの除去 (DEL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リンクの除去 (DEL)コマンドは、指定されたオブジェクトへのリンクを除去します。これがオブジェクトへの唯一のハード・リンクであった場合には、それが使用されなくなった時にオブジェクトが除去されます。オブジェクトへのシンボリック・リンクが存在していた場合であっても、オブジェクトは除去することができます。シンボリック・リンクは、それが除去されるまで残されます。

このコマンドはリンクの除去 (RMVLNK)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- ERASE
- RMVLNK

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. "ルート" (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムでは、オブジェクトが入っているディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX) 権限が必要です。ハード・リンクをリンク解除する場合には、オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限も必要です。
2. QDLSファイル・システムでは、オブジェクトに対する全(*ALL) 権限と親ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
3. パス内の各ディレクトリーに対する*X権限が必要です。
4. その他のファイル・システムの権限要件については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。
5. 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクトをリンク解除することはできません。
 - a. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
 - b. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
 - c. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
6. ディレクトリーをリンク解除することはできません。
7. ファイルがSQLテーブルのDATALINK列で、そのSQLテーブルの行がこのファイルを参照している場合には、ファイルへのリンクを除去することはできません。
8. 上にリストされた制約事項は、タイプが*DDIR, *DSTMF, *SOCKET, *STMF,および*SYMLNKのOS/400オブジェクトに対するものです。

QSYS.LIBと独立ASP QSYS.LIBファイル・システムの相違点

1. このコマンドをこれらのファイル・システム内にあるオブジェクトのリンクを除去するために使用する場合には、追加の制約事項が適用される場合があります。それらの制約事項を識別するには、除去する

オブジェクトの削除コマンドを参照してください。一般に、このコマンドの名前はOS/400オブジェクト・タイプの値を使用し、そこから文字*を除去して、先頭に動詞DLTを追加して形成されます。たとえば、オブジェクト・タイプの値が*LRTBLのアラート・テーブルを削除するには、警報テーブルの削除(DLTALRTBL)コマンドの追加の制約事項を参照してください。

ただし、この規則には例外があります。たとえば、オブジェクト・タイプの値が*MODULEのコンパイラ単位を削除するには、モジュールの削除(DLTMOD)コマンドの追加の制約事項を参照してください。

オブジェクト・タイプについては、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックを参照してください。

- これらのファイル・システムでは、リンクの除去(RMVLNKまたは別名DELあるいはERASE)コマンドを使用して、ライブラリーおよびデータベース・ファイルを削除することはできません。しかし、これらのオブジェクトは、ディレクトリーの除去(RMVDIRまたは別名RMDIRあるいはRD)コマンドを使用して削除することができます。
- 次のオブジェクト・タイプは、別のコマンドを使用して削除することはできません。*EXITRG, *IGCSRT, *JOBSCD, *PRDAVL, *QRYDFN, *RCT。

QDLSファイル・システムの相違点

- このコマンドをこのファイル・システム内にあるオブジェクトのリンクを除去するために使用する場合には、追加の制約事項が適用される場合があります。これらの制約事項を識別するには、文書ライブラリー・オブジェクトの削除(DLTDLO)コマンドの説明を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJLNK	オブジェクト・リンク	パス名	必須, 定位置 1

トップ

オブジェクト・リンク (OBJLNK)

リンク解除するオブジェクトのパス名を指定します。名前パターンによって、複数のリンクを除去することができます。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

DELの例

DELの代替コマンド名はRMVLNKです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、DELはそれらのすべてで直接RMVLNKに置き換えることができます。

例1: オブジェクト・リンクの除去

```
RMVLNK OBJLNK('PAY')
```

このコマンドは、PAYという名前のリンクを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DEL

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0BD

&1リンクは除去された。&2リンクは正常に実行されなかった。

[トップ](#)

従属定義 (DEP)

パラメーター
例
エラー・メッセージ

従属(DEP)コマンド定義ステートメントは、チェックしなければならないパラメーターとパラメーター値の間の必要な関係を定義します。この関係は、1つまたは複数のパラメーターに特定の値が必要なことを示すこともあれば、パラメーター自体の存在が必要であることを示すこともあります。

パラメーターに省略時の値があり、パラメーターが指定されていない場合には、DEPステートメントが仕様チェックを実行するのか、関係の検査を実行するのかわによって検査方法が異なります。未指定のパラメーターについて仕様の検査（そのパラメーターに値があるかどうかの検査）が行なわれる場合には、システムは値が指定されていないものと見なし、省略時の値は使用されません。未指定のパラメーターについて関係の検査が行なわれる場合には、その関係の検査でそのパラメーター値として省略時の値が使用されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTL	制御条件	単一値: *ALWAYS その他の値: 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: キーワードまたはキーワード参照	文字値	
	要素 2: 比較演算子	*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, *NG	
	要素 3: 値またはキーワード参照	文字値	
PARM	従属パラメーター	値 (最大 25 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: キーワードまたはキーワード参照	文字値	
	要素 2: 比較演算子	*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, *NG	
	要素 3: 値またはキーワード参照	文字値	
NBRTRUE	真の従属の数	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 比較演算子	*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, *NG	
	要素 2: 真となる番号	0-25	
MSGID	メッセージ識別コード	名前, *NONE	オプション, 定位置 4

[トップ](#)

制御条件 (CTL)

PARMステートメントに定義されたパラメーターの従属関係が真となる前に、真でなければならない制御条件を指定します。最初に指定されたキーワードは、制御パラメーターを示します。制御条件は、キーワード名だけで指定するか、あるいはキーワード名および制御条件に依存するパラメーターの存在が必要であるかどうかを決定するテスト関係で指定することができます。制御パラメーターと指定された値との関係は、指定された条件と一致しているかどうかを調べるために、テストすることができます。その場合には、制御パラメーターが依存するパラメーターは、PARMキーワードおよびNBRTRUEキーワードに指定された要件と一致していなければなりません。

単一値

*ALWAYS

パラメーターの従属関係は、コマンドの形式に関係なく常に検査されます。

その他の値

キーワード名

従属関係を制御するために値を指定しなければならないパラメーターのキーワード名を指定してください。キーワード名は、これを定義するPARMステートメントの**キーワード (KWD)**パラメーターに指定されたパラメーターの名前です。キーワードが指定された場合には、パラメーターの従属関係が検査されます。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*NULLが指定された場合には、キーワードを定義してはなりません。

&キーワード名 比較演算子 値

制御パラメーターのキーワード名を指定し、その後に比較演算子(*LE, *EQなど)とテストする値を指定してください。テスト条件が一致していた場合には、制御パラメーターが依存しているパラメーターは、PARMキーワードに指定された要件と一致していなければなりません。値は32文字を超えてはいけません。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*NULLが指定された場合には、キーワードを定義してはなりません。

比較の対象とする値が、PARMステートメントの**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターまたは**単一値 (SNGVAL)**パラメーターを用いて特殊値または単一値として指定されている場合には、比較値ではなく置き換え値を使用しなければなりません。

比較演算子および値を指定した場合には、キーワードの値がテストされることを示すために、キーワード名の前にアンパーサンド (&) を付けなければなりません。比較演算子および値を指定しない場合には、アンパーサンドを使用してはいけません。

(&キーワード名 比較演算子 &キーワード名)

制御パラメーターのキーワード名を指定し、その後に比較演算子(*EQなど)と、値が制御パラメーターの値と比較される別のパラメーターのキーワード名を指定してください。キーワードの定義中では、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターまたは**指定されない場合に渡される値 (PASSVAL)**パラメーターに*NULLが指定されていない場合は、

トップ

従属パラメーター (PARM)

CTLパラメーターによって定義された制御条件が真である場合にテストしなければならないパラメーターの従属関係を指定します。従属関係には、存在をテストされる1つまたは複数のパラメーターの名前、あるいはキーワード値と他のキーワード値または定数値との1つまたは複数のテスト関係を指定することができます。PARMパラメーターには、最大25個のパラメーターを指定することができます。値のタイプ (TYPE)パラメーターに*NULLが指定された場合には、キーワードを定義してはなりません。

キーワード名

値が指定されていない各パラメーターのキーワード名を指定してください。

&キーワード名 比較演算子 値

各パラメーターのキーワード名を、比較演算子およびテストする値を後に付けて指定してください。キーワードの値がテストされることを示すために、キーワード名の前にアンパーサンドを付けなければなりません。値は32文字を超えてはいけません。

比較の対象とする値が、PARMステートメントの特殊値 (SPCVAL)パラメーターまたは単一値 (SNGVAL)パラメーターを用いて特殊値または単一値として指定されている場合には、比較値ではなく置き換え値を使用しなければなりません。

&キーワード名 比較演算子 &キーワード名

1つのパラメーターのキーワード名の後に、比較演算子と別のパラメーターのキーワード名とを続けて指定してください。最初のパラメーターと2番目のパラメーターの値が比較されます。指定されない場合に渡される値 (PASSVAL)パラメーターに*NULLが指定された場合には、キーワードを定義してはなりません。

[トップ](#)

真の従属の数 (NBRTRUE)

関連したPARMステートメントに定義され、制御条件を満たすために真とななければならないパラメーター従属関係の数を指定します。真である従属関係の数が指定された数より小さい場合は、MSGIDパラメーターによって指定されたメッセージは診断メッセージとして送信され、コマンドは実行されません。

単一値

***ALL** 制御条件を満足するためには、PARMステートメントで定義されているすべてのパラメーター従属関係が真にならなければなりません。この要素には変数をコーディングすることはできません。

要素1: 比較演算子

比較演算子

比較演算子を指定してください。有効な値は*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, および*NGです。この要素には変数をコーディングすることはできません。

要素2: 真となる番号

真の数 指定した関係を満たすために真でなければならないパラメーター従属関係の数を指定してください。この要素には変数をコーディングすることはできません。

[トップ](#)

メッセージ識別コード (MSGID)

メッセージ・ファイル中のエラー・メッセージのメッセージ識別コードを指定してください。指定したすべてのパラメーター従属関係が満たされなかった場合には、ここで指定したメッセージがユーザーに送られません。

*NONE

特殊なメッセージは送られません。その代わりに、システムによって生成されたメッセージがユーザーに送られます。

メッセージ識別コード

このステートメントのすべての従属関係が満たされなかった場合に、ユーザーに送られるエラー・メッセージのメッセージ識別コードを指定してください。識別コードが3文字の接頭部CPFまたはCPDで始まるメッセージは、弊社提供のメッセージ・ファイルQCPFMSGから検索されます。ここに指定された他のすべてのメッセージは、これらの従属関係によって定義中のコマンドを作成するために使用されるCRTCMDコマンドのMSGFパラメーターによって識別されるメッセージ・ファイルから検索されます。このパラメーターには変数をコーディングすることはできません。

トップ

DEPの例

例1:パラメーターの存在の検査

```
DEP CTL(&TYPE *EQ LIST) PARM(ELEMLIST)
```

TYPE(LIST)を指定する場合は、ELEMLISTパラメーターを指定する必要があります。

例2:複数パラメーターの存在の検査

```
DEP CTL(FILE) PARM(VOL LABEL) NBRTRUE(*EQ 2)
```

FILEパラメーターを指定する場合は、VOLパラメーターおよびLABELパラメーターを両方とも指定する必要があります。

例3:一緒には指定できないパラメーターの検査

```
DEP CTL(GLOOP) PARM(J1 D J2) NBRTRUE(*EQ 1)
```

GLOOPパラメーターを指定する場合は、値をJ1、D、およびJ 2パラメーターのいずれか（そして1つだけ）に指定する必要があります。

例4: 1つ以上の条件が真であるかどうかの検査

```
DEP CTL(&LIB *EQ MYLIB) +  
    PARM((&PASSWORD *EQ XYZ5) (&USRPRF *EQ BOBJ)) +  
    NBRTRUE(*GE 1) MSGID(MSG1001)
```

LIBパラメーターがMYLIBと等しい場合は、PASSWORDパラメーターがXYZ5と等しくなっている必要があるか、あるいはUSRPRFパラメーターがBOBJと等しくなっている必要があります。LIB(MYLIB)と指定された条件のどちらも真でない場合は、メッセージMSG1001が送信されます。

トップ

エラー・メッセージ: DEP

なし

[トップ](#)

オブジェクト割り振り解除 (DLCOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト割り振り解除 (DLCOBJ)コマンドは、指定されたオブジェクトの割り振りを解放します。1つ以上のオブジェクト割り振り (ALCOBJ)コマンドによって前に割り振られたオブジェクトは、他のジョブまたはスレッドによる使用のために解放されます。ロックが存在していない時にDLCOBJコマンドを使用しても、エラーは起こりません。

DLCOBJコマンドを使用しない場合には、オブジェクトは自動的に割り振り解除される可能性があります。割り振られたジョブ有効範囲のロックはジョブの終了時に自動的に解放されます。割り振られたスレッド有効範囲のロックはスレッドの終了時に自動的に解放されます。スレッドがジョブ有効範囲のロックを受け取った場合には、ジョブは、要求側のスレッドが終了した後もそのロックを維持し続けます。ロック・スペース有効範囲のロックは自動的に解放されることはありません。

DLCOBJコマンドは、ALCOBJコマンドで明示的に割り振られていないオブジェクトには出さないでください。DLCOBJをこのように使用すると、オブジェクトの内部ロックが解除されてオブジェクトを削除可能になります。

1つのDLCOBJコマンドでオブジェクトについての複数のロックを解放するためには、解放したい各ロックごとに、オブジェクト名、タイプ、およびロック状態をリスト中で反復して指定しなければなりません。

注:

- 分散データ管理機能(DDM)ファイルおよび分散ファイルを割り振り解除する時には、通信の確立およびリモート・システム上のファイルの割り振り解除に時間が必要であるために、コマンドを完了するには追加の時間が必要です。
- オブジェクトのライブラリーに対して*LIBLを指定することによってオブジェクトを割り振り、スレッドのライブラリー・リストを変更し、次にオブジェクトのライブラリーに対して*LIBLを指定することによってそのオブジェクトを割り振り解除しようとする時、間違ったオブジェクトに対して割り振り解除を出す結果となる可能性があります。これが内部ロックを解除してしまう場合があります。

制約事項:

- このコマンドは、拡張プログラム間通信(APPC)装置またはシステム内(INTRA)装置の装置記述*DEVVDを割り振り解除するためには使用できません。
- このコマンドは、次のデータベース*FILEタイプだけを割り振り解除するために使用できます。
 - 物理ファイル
 - 論理ファイル
 - 分散ファイル

これは、ノード・グループで各ノード上のファイルの部分を割り振り解除します。

- DDMファイル

これは、ローカル・システム上のDDMファイルおよびDDMファイルで識別されるリモート・システム上のファイルの両方を割り振り解除します。

3. マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではありません。このコマンドは、また、タイプ*SNAの分散データ管理機能(DDM)ファイルに対してもスレッド・セーフではありません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクトの仕様	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*AUTL, *BNDDIR, *CLD, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *IMGCLG, *IPXD, *LIB, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGQ, *NODL, *NTBD, *NWS, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *SBSD, *SCHIDX, *SQLPKG, *SRVPGM, *SSND, *S36, *TIMZON, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	
	要素 3: ロック状態	*SHRRD, *SHRNUP, *SHRUPD, *EXCLRD, *EXCL	
要素 4: データベース・ファイルの場合にメンバー	名前, *FIRST		
SCOPE	ロック有効範囲	*JOB, *THREAD, *LCKSPC	オプション

トップ

オブジェクトの仕様 (OBJ)

ジョブ、スレッドまたはロック・スペースから割り振り解除される1つまたは複数のオブジェクトの修飾名、指定された各オブジェクトのタイプ、各オブジェクトのロック状態、およびメンバー名（オブジェクトがデータベース・ファイルまたはDDMファイルの場合）を指定します。

オブジェクト割り振り解除 (DLCOBJ)コマンドには、一部のオブジェクト・タイプだけを指定することができます。もちろん、一部のオブジェクト・タイプでは、すべてのロック状態を使用できるわけではありません。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには50個の値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

名前 オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプ

割り振り解除するオブジェクトのタイプを指定します。詳細については、「オブジェクト・タイプ別の有効なロック状態」の図を参照してください。

要素3: ロック状態

*SHRRD

ロック状態は読み取り共用です。

*SHRNUP

ロック状態は更新なし共用です。

*SHRUPD

ロック状態は更新共用です。

*EXCLRD

ロック状態は読み取り許可排他です。

*EXCL

ロック状態は読み取りなし排他です。

要素4: データベース・ファイルの場合にメンバー

注: 次の値を指定できるのは、オブジェクト・タイプがデータベース・ファイルの場合だけです。

*FIRST

データベース・ファイルの最初のメンバーが割り振り解除されます。

名前 割り振り解除するメンバーの名前を指定します。指定されたファイルが論理ファイルの場合には、論理ファイルのメンバーに対応する物理ファイル・メンバーも割り振り解除されます。

オブジェクトについて複数のロックを指定する方法、装置記述のロックを指定する方法、または割り振ることができるOS/400オブジェクトのタイプを指定する方法についての説明は、CLプログラミング(SD88-5038)に示されています。

データベース・ファイル・メンバーが割り振り解除される場合には、ライブラリー・リスト中で最初にファイルが見つかったら、そのファイルから指定したメンバーが検索されます。ライブラリー・リスト中でその後に同じ名前のファイルにメンバーがあっても、最初のファイルに見つからない場合には、そのメンバーは見

つきりません。データベース・ファイルにメンバー名が指定されていない場合には、メンバー名は、省略時の値として*FIRSTが使用され、ファイル中に最初に作成されたメンバーが割り振り解除されます。

表 5. 図: オブジェクト・タイプ別の有効なロック状態

オブジェクト・タイプ	オブジェクト・タイプの定義	ロック状態				
		*EXCL	*EXCLRD	*SHRUPD	*SHRNUP	*SHRRD
*AUTL	権限リスト	X	X	X	X	X
*BNDDIR	結合ディレクトリー	X	X			X
*CLD	Cロケール記述	X	X	X	X	X
*CRQD	変更要求記述	X	X	X	X	X
*CSI	通信サイド情報	X	X	X	X	X
*DEVD	装置記述		X	X		
*DTAARA	データ域	X	X	X	X	X
*DTADCT	データ・ディクショナリー	X	X	X	X	X
*DTAQ	データ待ち行列	X	X	X	X	X
*FCT	用紙制御テーブル	X	X	X	X	X
*FILE	ファイル	X	X	X	X	X
*FNTRSC	フォント資源	X	X	X	X	X
*FNNTBL	フォント・マッピングテーブル	X	X	X	X	X
*FORMDF	書式定義	X	X	X	X	X
*IMGCLG	イメージ・カタログ	X	X	X	X	X
*IPXD	INTERNET PACKET EXCHANGE記述	X	X	X	X	X
*LIB	ライブラリー	X	X	X	X	
*LOCALE	ロケール・スペース・オブジェクト	X	X	X	X	X
*MEDDFN	媒体定義	X	X	X	X	X
*MENU	メニュー	X	X	X	X	X
*MGTCOL	管理収集	X	X	X	X	X
*MODULE	モジュール	X	X			X
*MSGQ	メッセージ待ち行列	X				X
*NODL	ノード・リスト	X	X	X	X	X
*NTBD	NETBIOS記述	X	X	X	X	X
*NWS	ネットワーク・サーバー記述	X	X	X	X	X
*OVL	オーバーレイ	X	X	X	X	X
*PAGDFN	ページ定義	X	X	X	X	X
*PAGSEG	ページ・セグメント	X	X	X	X	X
*PDFMAP	PDFマップ	X	X	X	X	X
*PDG	印刷記述子グループ	X	X	X	X	X
*PGM	プログラム	X	X			X
*PNLGRP	パネル・グループ	X	X	X	X	X
*PSFCFG	印刷サービス機能構成	X	X	X	X	X
*QMFORM	QUERY管理機能書式	X	X	X	X	X
*QMQR	QUERY管理機能プログラム	X	X	X	X	X
*QRYDFN	QUERY定義	X	X	X	X	X
*S36	S/36マシン記述	X	X	X	X	X
*SBSD	サブシステム記述	X				
*SCHIDX	検索索引	X	X	X	X	X
*SQLPKG	構造化照会言語パッケージ	X	X	X	X	X
*SRVPGM	サービス・プログラム	X	X	X	X	X
*SSND	セッション記述	X	X	X	X	X
*TIMZON	時間帯記述	X	X	X	X	X
*USRIDX	ユーザー索引	X	X	X	X	X
*USRQ	ユーザー待ち行列	X	X	X	X	X
*USRSPC	ユーザー空間	X	X	X	X	X
*VLDL	妥当性検査リスト・オブジェクト	X	X	XL	X	X
*WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	X	X	X	X	X

'X'はオブジェクト・タイプにロック状態が許されることを示します。

トップ

ロック有効範囲 (SCOPE)

このロック要求の有効範囲を指定します。

***JOB** ロックの有効範囲はジョブとなります。

*LCKSPC

ロックの有効範囲は、現行のスレッドに付加されたロック・スペースとなります。ロック・スペースが付加されない場合は、そのロックの有効範囲はジョブとなります。

*THREAD

ロックの有効範囲はスレッドとなります。

OBJパラメーターによってサポートされるすべてのオブジェクト・タイプは、ジョブ有効範囲のロックをサポートします。OBJパラメーターによってサポートされるすべてのオブジェクト・タイプは、ロック・スペース有効範囲のロックをサポートします。ロック・スペース有効範囲とともにDDMオブジェクトを割り振る場合には、リモート・システムのロックの有効範囲はジョブとなります。オブジェクトがスレッド有効範囲のロックをサポートするかどうかを判別するには、「スレッド有効範囲のロックをサポートするオブジェクト・タイプ」の図を参照してください。

ロックの有効範囲は、ジョブまたはスレッドに現在割り振られているロックの有効範囲と一致しなければなりません。

表 6. 図: スレッド有効範囲のロックをサポートするオブジェクト・タイプ

オブジェクト ・タイプ	オブジェクト・タイプの定義	スレッド 有効範囲
*AUTL	権限リスト	
*BNDDIR	結合ディレクトリー	
*CLD	Cロケール記述	
*CRQD	変更要求記述	
*CSI	通信サイド情報	
*DEVD	装置記述	X
*DTAARA	データ域	X
*DTADCT	データ・ディクショナリー	X
*DTAQ	データ待ち行列	X
*FCT	用紙制御テーブル	
*FILE	ファイル	X
*FNTRSC	フォント資源	
*FNITBL	フォント・マッピング・テーブル	
*FORMDF	書式定義	
*IMGCLG	イメージ・カタログ	X
*IPXD	INTERNET PACKET EXCHANGE記述	X
*LIB	ライブラリー	X
*LOCALE	ロケール・スペース・オブジェクト	X
*MEDDFN	媒体定義	
*MENU	メニュー	
*MGTCOL	管理収集	X
*MODULE	モジュール	
*MSGQ	メッセージ待ち行列	X
*NODL	ノード・リスト	
*NTBD	NETBIOS記述	X
*NWS	ネットワーク・サーバー記述	X
*OVL	オーバーレイ	
*PAGDFN	ページ定義	
*PAGSEG	ページ・セグメント	
*PDFMAP	PDFマップ	X
*PDG	印刷記述子グループ	
*PGM	プログラム	X
*PNLGRP	パネル・グループ	
*PSFCFG	印刷サービス機能構成	
*QMFORM	QUERY管理機能書式	
*QMQR	QUERY管理機能プログラム	
*QRYDFN	QUERY定義	
*S36	S/36マシン記述	
*SBSD	サブシステム記述	X
*SCHIDX	検索索引	
*SQLPKG	構造化照会言語パッケージ	
*SRVPGM	サービス・プログラム	X
*SSND	セッション記述	
*TIMZON	時間帯記述	X
*USRIDX	ユーザー索引	X
*USRQ	ユーザー待ち行列	X
*USRSPC	ユーザー空間	X
*VLDL	妥当性検査リスト・オブジェクト	X
*WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・ オブジェクト	

'X'はオブジェクト・タイプにスレッド有効範囲のロックが許されることを示します。

トップ

例

例1:ジョブのファイルの割り振り解除

```
DLCOBJ OBJ((LIBB/FILEA *FILE *SHRRD))
```

このコマンドは、ジョブによって保留されているライブラリーLIBBのファイルFILEAの最初のメンバーの読み取り共用割り振りを解放します。

例2:スレッドのデータ域の割り振り解除

516 iSeries: OS/400 コマンド CRTMODD (モード記述作成) ~

```
DLCOBJ OBJ((LIBY/DATAAREAX *DTAARA *SHRRD )) SCOPE(*THREAD)
```

このコマンドは、スレッドによって保留されているライブラリーLIBYのデータ域DATAAREAXの読み取り共用割り振りを解放します。

例3:ロック・スペースのファイルの割り振り解除

```
DLCOBJ OBJ((LIBB/FILEA *FILE *EXCL MEMBERA))  
SCOPE(*LCKSPC)
```

このコマンドは、ライブラリーLIBBのファイルFILEAのメンバーMEMBERAを、現行スレッドに接続されているロック・スペースから割り振り解除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1005

オブジェクトは割り振り解除されなかった。

[トップ](#)

警報の削除 (DLTALR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報削除(DLTALR)コマンドによって、警報データベースから1つまたは複数の警報を削除することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLTOPT	削除オプション	*ALL , *RCV, *LOCAL, *HELD	オプション、位置 1
DAYS	日数	0-999, 30	オプション、位置 2
ALRTYPE	警報タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 文字値, *TEMP, *PERM, *PERF, *IMPEND, *UNKNOWN	オプション
ALRRSC	資源警報	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
ALRRSCTYPE	警報資源タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
ASNUSER	ユーザー割り当て	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, *NONE	オプション
GROUP	グループ	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *NONE, *DEFAULT	オプション

[トップ](#)

削除オプション (DLTOPT)

どの警報が削除されるかを指定します。

***ALL** 残りのキーワードの選択基準を満たすすべての警報が削除されます。残りのキーワードに省略時の値を使用した場合には、30日を越えている警報のすべてが削除されます。

***RCV** 他のシステムから受け取った警報だけが削除されます。受け取った警報の選択基準を残りのキーワードでさらに指定することができます。残りのキーワードに省略時の値を使用した場合には、受け取った警報のうち30日を越えているものがすべて削除されます。

***LOCAL**

ローカルで作成された警報だけが削除されます。ローカル警報の選択基準を残りのキーワードでさらに指定することができます。残りのキーワードに省略時の値を使用した場合には、ローカルで作成された警報のうち30日を越えているものがすべて削除されます。

*HELD

システムのフォーカル・ポイントに送ることができず、「保留」とマークされているすべての警報が削除されます。保留中の警報の選択基準を残りのキーワードでさらに指定することができます。残りのキーワードに省略時の値を使用した場合には、保留中の警報のうち30日を越えているものがすべて削除されます。

注: このシステムが送信または転送する保留中の警報と別のシステムが受信する保留中の警報との間には区別があります。DLTOPT(*HELD)の場合には、このシステムが送信または転送できなかった保留中の警報（あるいはALRHLCNTネットワーク属性に基づいて現在保留されている警報）だけが削除されます。

[トップ](#)

日数 (DAYS)

この値より古い警報が削除されることを指定します。この値より新しい警報は削除されません。この値は0または任意の日数とすることができます。残りのキーワードでさらに選択基準を指定することができます。

30 30日より前のすべての警報が削除されます。

0-999 日数を指定してください。

[トップ](#)

警報タイプ (ALRTYPE)

どのタイプの警報が削除されるかを指定します。警報タイプは、警報の重大度を示します。

単一値

***ALL** すべてのタイプの警報が削除されます。

その他の値（最大5回の反復）

*TEMP

一時的な問題を報告しているすべての警報が削除されます。

*PERM

永続的な問題を報告しているすべての警報が削除されます。

*PERF

パフォーマンスの問題を報告しているすべての警報が削除されます。

*IMPEND

切迫した問題を報告しているすべての警報が削除されます。

*UNKNOWN

重大度が不明の問題を報告しているすべての警報が削除されます。

文字値 警報タイプのコード点を指定してください。コード点は2桁の16進数によって指定されます。

[トップ](#)

資源警報 (ALRRSC)

問題を報告している資源の名前を指定します。最大50個の警報資源名を指定することができます。

単一値

***ALL** 障害のあるすべての資源についての警報です。

その他の値 (最大50回の反復)

名前 問題を報告している資源の名前を指定してください。

[トップ](#)

警報資源タイプ (ALRRSCTYPE)

問題を報告している資源のタイプを指定します。最大50個の資源タイプを指定することができます。各資源名にはその資源と関連した資源タイプがあります。たとえば、ディスクット(DKT)やテープ(TAP)などの資源タイプがあります。

単一値

***ALL** すべての資源タイプの警報です。

その他の値 (最大50回の反復)

文字値 割り当てられた資源タイプと関連した問題を報告している警報の資源タイプを指定してください。

[トップ](#)

ユーザー割り当て (ASNUSER)

削除されている警報が割り当てられたユーザーを指定します。この値は、警報処置項目追加 (ADDALRACNE)コマンドのASNUSERパラメーターの値からとられます。

単一値

***ALL** すべての警報が削除されます。

その他の値 (最大50回の反復)

***NONE**

ユーザーに割り当てられていない警報が削除されます。

文字値 削除されている警報が割り当てられたユーザーの名前を指定してください。

[トップ](#)

グループ (GROUP)

削除されている警報が割り当てられたグループを指定します。この値は、警報選択項目追加 (ADDALRSLTE)コマンドのGROUPパラメーターの値からとられます。

単一値

***ALL** すべての警報が削除されます。

その他の値（最大50回の反復）

***DEFAULT**

省略時のグループに割り当てられていない警報が削除されます。

***NONE**

グループに割り当てられていない警報が削除されます。

名前 削除されている警報が割り当てられたグループの名前を指定してください。

[トップ](#)

DLTALRの例

例1:一時および永続警報タイプの削除

```
DLTALR DLTOPT(*LOCAL) DAYS(10) ALRSTYPE(*TEMP *PERM)
        ALRRSCTYPE(DKT)
```

このコマンドは、警報データベース中にローカル側で作成された一時および永続警報を削除します。削除される警報が、ディスクットに関して問題を報告中です。これらの基準と一致している10日より古い警報が削除されます。

例2:ディスクット資源と関連付けられた警報の削除

```
DLTALR DLTOPT(*RCV) DAYS(0) ALRRSCTYPE(DKT)
```

このコマンドは、ディスクット資源と関連付けられた受け取った警報を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTALR

*ESCAPEメッセージ

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

警報テーブルの削除 (DLTALRTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報テーブル削除(DLTALRTBL)コマンドは、警報テーブルを指定したライブラリーから削除します。警報テーブル削除の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)を参照してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 警報テーブル	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

警報テーブル (ALRTBL)

削除する警報テーブルの修飾名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

警報テーブル名

削除する警報テーブルの名前を指定してください。

総称警報テーブル名*

削除する警報テーブルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。ALRTBLパラメーターに総称名を指定した場合には、総称警報テーブル名と同じ接頭部の付いた名前をもつ、すべての警報テーブルが削除されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

警報テーブルを見つけるために現行ライブラリー・リストが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSCR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

警報テーブルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

DLTALRTBLの例

```
DLTALRTBL  ALRTBL(ALRTBLLIB/ALRTBLNBR1)
```

このコマンドは、ライブラリーALRTBLLIBから警報テーブルALRTBLNBR1を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTALRTBL

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

APARデータの削除 (DLTAPARDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APARデータ削除(DLTAPARDTA)コマンドは、正式問題分析報告書(APAR)ライブラリーおよびAPARデータ復元(RSTAPARDTA)コマンドによって作成されたデータを削除します。このコマンドはまた、新しい情報で問題ログ項目を更新し、APARライブラリーに対する参照を除去します。

制約事項:

- このコマンドに対する権限は次のユーザー・プロファイルにあります。
 - QPGMR
 - QSYSOPR
 - QSRVBAS
 - QSRV

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRBID	問題識別コード	文字値	必須, 定位置 1
ORIGIN	起点	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, <u>*NETATR</u>	
	要素 2: 制御点名	通信名, <u>*NETATR</u>	

[トップ](#)

問題識別コード (PRBID)

APARデータが削除されることになる問題の識別コード(ID) を指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 使用する問題IDを指定します。

[トップ](#)

起点 (ORIGIN)

問題が起こったネットワークIDおよび制御点を指定します。

要素1: ネットワーク識別コード

***NETATR**

このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じローカル・ネットワークIDをもつシステムで起こった問題。

通信名 問題が起こったシステムのネットワークIDを指定してください。

要素2: 制御点名

***NETATR**

このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じ制御点名もつシステムで起こった問題。

通信名 問題が起こったシステムの制御点を指定してください。

[トップ](#)

DLTAPARDTAの例

DLTAPARDTA PRBID(9202448748)

このコマンドは、問題ID 9202448748のAPARライブラリーとAPARデータを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTAPARDTA

***ESCAPE** メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF39FA

問題&1 &2 &3が見つからない。

CPF39FE

APARデータが問題&1と対応していない。

CPF39F2

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF39F5

問題&1の照会が正常に実行されなかった。

CPF39F9

問題&1 &2 &3は使用中。

[トップ](#)

権限ホルダー削除 (DLTAUTHLR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限ホルダー削除(DLTAUTHLR)コマンドによって、タイプ*FILEのオブジェクトを保護するための権限ホルダーを削除できます。

制約事項:権限ホルダーを削除できるのは、その権限ホルダーが保護するオブジェクトに対する全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限またはすべて(*ALL) の権限を持っているユーザーです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	

[トップ](#)

オブジェクト (OBJ)

これは必須パラメーターです。

オブジェクト名

削除される権限ホルダーの名前。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前。

[トップ](#)

DLTAUTHLRの例

DLTAUTHLR OBJ(QGPL/FIL1)

このコマンドは、QGPLライブラリー内のFIL1の権限所有者を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DLTAUTHLR

*ESCAPE メッセージ

CPC2213

権限ホルダーが削除された。

CPF22B1

権限ホルダーが存在していない。

CPF22B2

権限ホルダーの作成または削除は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

[トップ](#)

権限リスト削除 (DLTAUTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト削除(DLTAUTL)コマンドによって、ユーザーは権限リストを削除することができます。オブジェクトの保護のために権限リストが使用中である場合には、権限リストを削除することはできません。権限リストを削除するユーザーは、その権限リストに対して全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っているか、あるいはその権限リストの所有者でなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	総称名, 名前	必須, 定位置 1

トップ

権限リスト (AUTL)

これは必須パラメーターです。

削除する権限リストの名前または総称名。

権限リスト名

権限リストの特定の名前。

総称*権限リスト名

権限リストの総称名。総称権限リスト名を指定した場合には、総称権限リスト名と同じ接頭部を持ち、ユーザーに正当な権限のある権限リストはすべて削除されます。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。たとえば、ABC*など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter))の総称オブジェクト名トピックを参照してください。

トップ

DLTAUTLの例

例1:権限リストの削除

```
DLTAUTL  AUTL(PROGMR)
```

このコマンドは、PROGMR権限リストを削除します。

例2:総称権限リストの削除

```
DLTAUTL  AUTL(FR*)
```

このコマンドは、文字FRで始まっている権限リストをすべて削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTAUTL

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2116

DATA (*YES)が指定されたが、*ALLまたは*FILEがOBJTYPEリストにない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF2279

権限リスト&1を削除することはできない。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

[トップ](#)

バインド・ディレクトリーの削除 (DLTBNDDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインド・ディレクトリーの削除(DLTBNDDIR)コマンドは、バインド・ディレクトリーを削除します。

制約事項

- ・ バインディング・ディレクトリーの削除元のライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限およびそのバインディング・ディレクトリーに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

削除するバインド・ディレクトリーまたはバインド・ディレクトリーのグループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

総称名 削除するバインド・ディレクトリーの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。総称名が指定された場合には、その総称名で始まる名前のバインド・ディレクトリーで、それに対してユーザーが権限をもっているすべてのバインド・ディレクトリーが削除されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 削除されるバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGGL      QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

トップ

DLTBNDDIRの例

```
DLTBNDDIR  BNDDIR(DISPLAYS)
```

このコマンドは、バインド・ディレクトリーを見つけるために、ジョブ・ライブラリーを使用してDISPLAYSという名前のバインド・ディレクトリーを削除します。

トップ

エラー・メッセージ： DLTBNDDIR

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFE007

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

[トップ](#)

構成リスト削除 (DLTCFGL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト削除(DLTCFGL)コマンドは、指定された構成リストを削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGL	構成リスト	総称名, 名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

構成リスト (CFGL)

削除する1つまたは複数の構成リストの名前を指定します。特定の構成リストまたは総称の構成リストを指定することができます。

構成リスト名

削除したい構成リストの名前を指定してください。

総称*構成リスト名

削除したい構成リストの総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

DLTCFGLの例

DLTCFGL CFGL(CONFIG01)

このコマンドは、構成リストCONFIG01をシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTCFGL

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

[トップ](#)

C ロケール記述の削除 (DLTCLD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

C ロケール記述削除コマンドは、CLDパラメーターに指定したC/400*ロケール記述を削除します。ロケール名として総称名を指定することによって、複数のロケールを削除することができます。C ロケール記述に特定の名前を指定した場合には、DLTCLD の処理時に最初のロケールだけが削除されます。システムは、指定されたライブラリーに基づいてロケールを検索します。そのロケールが存在していないか、あるいは指定したライブラリーに見つからなかった場合には、そのロケールは削除されません。

エラー・メッセージ: DLTCLD

なし

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLD	ロケール名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ロケール名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

ロケール名 (CLD)

削除したいCロケール記述の名前を指定します。特定のロケール名または総称ロケール名を入力しなければなりません。

ロケール名

削除したいCロケール記述の名前を指定します。

総称*Cロケール記述名

削除したいCロケール記述の総称名を指定します。総称名には1つまたは複数のアスタリスク(*)をつけた文字ストリングを含めることができます。CLDパラメーターに総称名を指定した場合には、同じ接頭部がついた名前をもつすべてのCロケール記述が削除されます。たとえば、ロケール名MY*を入力すると、指定したライブラリーでMYで始まるすべてのロケールが削除されます。総称機能の使用については、AS/400 CL (制御言語) 解説書(SC88-5339)を参照してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 指定されたロケールを見つけるために、ライブラリー・リストのユーザー部分およびシステム部分の両方が検索されます。特定のCロケール記述名(総称名ではなく)を指定した場合には、その名前で見つかった最初のロケールだけが削除されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、システムは、指定されたロケールを見つけるためにQGPLを検索します。

*USRLIBL

指定されたロケールを見つけるために、ライブラリー・リストのユーザー部分が検索されます。特定のCロケール記述名（総称名ではなく）を指定した場合には、その名前で見つかった最初のロケールだけが削除されます。

***ALL** 指定されたロケールを見つけるために、QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーが検索されます。特定のCロケール記述名（総称名ではなく）を指定した場合には、その名前で見つかった最初のロケールだけが削除されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー定義ライブラリーおよびQGPLを含むすべての非システム・ライブラリーが検索されます。これには、ライブラリー・リスト中のライブラリーと、リスト中に指定されていないライブラリーの両方が含まれます。QGPL以外の、Qで始まるすべてのライブラリーはシステム・ライブラリーであるので検索されません。

ライブラリー名

指定したロケールを検索したいライブラリーの名前を入力してください。これは、DLTCLDコマンドの処理時に検索される唯一のライブラリーです。指定したライブラリーに対する*USE権限がなければなりません。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTCLD

なし

[トップ](#)

クラス削除 (DLTCLS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラス削除 (DLTCLS)コマンドは、1つのクラス・オブジェクトまたは1グループのクラス・オブジェクトをシステムから削除します。クラスを使用して実行中の経路指定ステップは、クラスの削除の影響を受けません。しかし、このクラスを使用する追加の経路指定ステップは開始することはできません。削除されるクラスが既存の経路指定項目で参照されている場合には、その経路指定項目を（別のクラスを参照するように）変更するか、あるいは同じ名前で作成しなければなりません。サブシステムの経路指定項目が削除されたクラスを指定している場合には、そのサブシステムは、その経路指定項目を使用するどのジョブも開始することはできません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、クラスに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、およびライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLS	クラス	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: クラス	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

クラス (CLS)

削除するクラス名およびライブラリーを指定します。特定のクラスまたは総称クラスを指定することができます。どちらも、必要に応じてライブラリー名により修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: クラス

総称名 削除するクラスの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称クラスと同じ接頭部を持つ名前のすべてのクラスが削除されます。

名前 クラスの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ライブラリー・リストのユーザー一部分にリストされたライブラリーだけが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

***ALL** 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっている補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。これには、システムASP (ASP 1), すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。ユーザーの固有のQTEMPライブラリーだけが検索されます。スレッドの名前スペースのすべてのライブラリーの、指定された名前およびオブジェクト・タイプと一致したすべてのオブジェクトが削除されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXX QUSRIJS QUSRVXRXMX
QGPL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGPL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMQMDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMQMPROC QUSRBRM QUSRDRARS
QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 クラスが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

DLTCLSの例

DLTCLS CLS(CLASS1)

このコマンドは、CLASS1という名前のクラスをシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTCLS

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

[トップ](#)

クラスターの削除 (DLTCLU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター削除(DLTCLU)コマンドは、クラスターのメンバーシップ・リスト中に現在含まれている全ノード上のクラスターを削除します。クラスター資源グループ・オブジェクトおよびそのクラスターと関連付けられた装置ドメインのすべても削除されます。クラスター資源サービスはクラスター・メンバーシップ・リスト中の各ノードで終了し、そのクラスターが削除されます。

このコマンドが「活動状態」の状況でクラスター・ノードから開始されると、すべての活動クラスター・ノードがクラスターから除去されて、そのクラスターと関連付けられたクラスター資源グループが削除されます。状況が「非活動状態」または「障害」になっているノード上のクラスター資源グループ・オブジェクトは削除されません。このコマンドが「障害」または「非活動状態」の状況のクラスター・ノードから開始されると、そのノードだけがクラスターから除去されて、そのノード上のクラスター資源グループ・オブジェクトが削除されます。

クラスター資源グループ出口プログラムはアクション・コード「削除」を使用して呼び出されます（クラスター資源グループはコマンドが起動されるノードで活動状態になっていない場合は削除コマンド）。

このコマンドは、クラスターが区画に分割された状態になっていると呼び出すことができます。この場合は、削除操作はこのコマンドを実行中の区画内でしか実行されません。

装置ドメインのメンバーであったノードには、ディスク装置番号または仮想記憶アドレスなどの補助記憶域プールと関連した内部情報があります。クラスターの削除後に、この内部情報はノードがIPLされるまで持続します。このクラスターを削除する場合は、このノードが別の装置ドメインのメンバーになる前に、このノードはIPLしなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループの出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. このコマンドは、クラスター・メンバーシップ・リスト中で定義されているノードから呼び出さなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

削除しているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 削除するクラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

DLTCLUの例

DLTCLU CLUSTER(MYCLUSTER)

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERを削除します。MYCLUSTERのメンバーシップ・リスト中にあったノードはすべて、もう、どのクラスターのメンバーでもありません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTCLU

*ESCAPEメッセージ

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

コマンド削除 (DLTCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド削除(DLTCMD)コマンドは、ユーザー定義コマンド（またはコマンドのグループ）が入っているライブラリーからそれを削除します。コマンド定義オブジェクトだけが除去されます。すなわち、コマンド定義ソース、コマンド処理プログラム、および妥当性検査プログラムは影響を受けません。

制約事項:

- 削除するコマンドに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

コマンド (CMD)

削除するコマンドを指定します。特定のコマンド名または一般のコマンド名を指定することができ、ライブラリー名によってオプションで修飾することができます。

修飾子1: コマンド

名前 削除するコマンドの名前を指定してください。

総称名 削除するコマンドの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称名と同じ接頭部で始まる名前をもつすべてのコマンドが削除されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

(総称名ではなく) 特定のコマンド名が指定された場合には、最初に見つかったその名前のコマンドだけが削除されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

DLTCMDの例

```
DLTCMD  CMD(LIB01/PAYROLL)
```

このコマンドは、PAYROLLという名前のコマンドをライブラリーLIB01から削除します。コマンドに対する任意の専用認可が、すべての許可ユーザーのユーザー・プロファイルから除去されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTCMD

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

通信追跡の削除 (DLTCMNTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信追跡削除(DLTCMNTRC)コマンドは、指定された回線、ネットワーク・インターフェース記述、またはネットワーク・サーバー記述の通信追跡を削除します。通信追跡は、追跡の終了後に削除することができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してOS/400のサービス追跡機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- このコマンドに対する権限は次のユーザー・プロファイルにあります。
 - QSECOFR
 - QSRV

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGOBJ	構成オブジェクト	名前	必須, 定位置 1
CFGTYPE	タイプ	*LIN, *NWI, *NWS	必須, 定位置 2

[トップ](#)

構成オブジェクト (CFGOBJ)

収集した追跡情報を削除する、その構成オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 追跡情報を削除する、その構成オブジェクトの名前を指定します。

[トップ](#)

タイプ (CFGTYPE)

追跡された構成記述のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

- ***LIN** 構成オブジェクトのタイプは回線記述です。
- ***NWI** 構成オブジェクトのタイプはネットワーク・インターフェース記述です。
- ***NWS** 構成オブジェクトのタイプはネットワーク・サーバー記述です。

[トップ](#)

DLTCMNTRCの例

DLTCMNTRC CFGOBJ(*QESLINE) CFGTYPE(*NWI)

このコマンドは、回線記述QESLINEの通信追跡データを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTCMNTRC

***ESCAPE** メッセージ

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF39A7

通信プロセッサの追跡記憶域が使用できない。

CPF39A8

通信追跡保守ツールに対して認可されていない。

CPF39A9

通信追跡機能の実行中にエラーが起こった。

CPF39B0

通信追跡が存在していない。

CPF39B1

追跡&1タイプ&2が存在していない。

CPF39B2

&1のタイプ&2の追跡データを削除できない。

CPF39B6

通信追跡機能は実行できない。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

[トップ](#)

接続リストの削除 (DLTCNNL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

接続リスト削除(DLTCNNL)コマンドは接続リストを削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CNNL	接続リスト	総称名, 名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

接続リスト (CNNL)

接続リストの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 削除する接続リストの名前を指定してください。

総称名 削除する接続リストの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。このパラメーターで総称名を指定した場合には、総称接続リスト名と同じ接頭部で始まる名前をもつすべての接続リストが削除されます。

[トップ](#)

DLTCNNLの例

例1:指定した接続リストの削除

```
DLTCNNL CNNL(CHICAGO)
```

このコマンドは、CHICAGOという名前の接続リストを削除します。接続リストCHICAGO中のすべての項目も削除されます。

例2:複数の接続リストの削除

```
DLTCNNL CNNL(CHI*)
```

このコマンドは、名前がCHIで始まるすべての接続リストを削除します。接続リストにリストされていたすべての項目も削除されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTCNNL

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF266C

接続リスト&1が見つからない。

CPF267D

接続リスト&1は削除されなかった。

CPF268F

接続リスト&1は削除されなかった。

[トップ](#)

サービス・クラス記述削除 (DLTCOSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・クラス記述削除(DLTCOSD)コマンドは、指定されたサービス・クラス記述を削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COSD	サービス・クラス記述	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サービス・クラス記述	総称名, 名前	

[トップ](#)

サービス・クラス記述 (COSD)

削除する1つまたは複数のサービス・クラス記述の名前を指定します。特定のサービス・クラス記述または総称のサービス・クラス記述を指定することができます。

サービス・クラス記述名

削除したいサービス・クラス記述の名前を指定してください。

総称*サービス・クラス記述

削除したいサービス・クラス記述の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

[トップ](#)

DLTCOSDの例

DLTCOSD COSD(COS01)

このコマンドは、COS01という名前のサービス・クラス記述をシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTCOSD

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

[トップ](#)

クラスター・リソース・グループの削除 (DLTCRG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター資源グループ削除(DLTCRG)コマンドは、ローカル・システム上のクラスター資源グループ (CRG)だけを削除します。ローカル・クラスター資源グループを削除するには、クラスター資源サービスを非活動状態にする必要があります。

このコマンドにより、クラスター資源グループの出口プログラムは、ローカル・システム上のみでの削除コマンドのアクション・コードを使用して起動されます。

クラスターの他のノードでCRGオブジェクトが存在する場合には、そのノード上のCRGからローカル・システムのノードIDを除去することは所有者の責任です。これは、クラスター資源グループからのノード除去(RMVCRCGNODE)コマンドを使用して実行することができます。

クラスター資源グループ・オブジェクト出口プログラムは、クラスター資源グループに指定されたユーザー・プロファイルの下で実行されます。出口プログラムが存在しない場合には、メッセージがログされて、CRGオブジェクトの削除が続行されます。このコマンドは、クラスター資源グループ出口プログラムをアクション・コード「やり直し」を使用して呼び出すことはありません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- 削除しているクラスター資源グループに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限および使用(*USE) 権限がユーザーに必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CRG	クラスター資源グループ	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

クラスター資源グループ (CRG)

削除するクラスター資源グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 削除するクラスター資源グループの名前を指定してください。

[トップ](#)

DLTCRGの例

DLTCRG CRG(CRGTEST)

このコマンドは、CRGTESTの名前のクラスター資源グループをローカル・システムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTCRG

*ESCAPEメッセージ

CPFBB39

現行ユーザーはIOSYSCFG特殊権限をもっていない。

CPFBB41

クラスター資源グループ&1の出口プログラムが異常終了した。

CPFBB46

クラスター資源サービスの内部エラー。

CPFBB53

クラスター資源サービスが活動状態である。要求を処理することはできません。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9872

ライブラリー&2のプログラムまたはサービス・プログラム&1が終了した。理由コードは&3です。

[トップ](#)

CRGクラスタの削除 (DLTCRGCLU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスタからのクラスタ資源グループ削除(DLTCRGCLU)コマンドは、クラスタ資源グループを回復ドメイン内の全クラスタ・ノードから削除します。このコマンドを使用するには、クラスタ資源サービスは活動状態でなければなりません。クラスタ資源グループ・オブジェクトは、削除のためにマークされ、各活動クラスタ・ノードで削除されます。クラスタ資源グループ・オブジェクトは、活動状態になるときに、クラスタ内の他のノードで削除されます。

装置クラスタ資源グループを削除しても、装置の所有権は変更されません。ノードが削除の時点で所有しているものは何でもそのままになっています。

クラスタ資源サービスが引き継ぎIPアドレスを適用業務クラスタ資源グループ用に構成し、IPインターフェースが活動状態でない場合は、その引き継ぎIPアドレスは除去されます。クラスタ資源サービスが引き継ぎIPアドレスは活動状態であることを検出すると、このコマンドは失敗します。

出口プログラムがクラスタ資源グループ用に指定されている場合は、そのクラスタ資源グループの出口プログラムが、回復ドメイン内の各活動ノードで、アクション・コード「検査フェーズ」およびアクション・コード依存データ「削除」を使用して呼び出されます。クラスタ資源グループの状況は「削除保留」に設定されます。検査フェーズが成功すると、クラスタ資源グループの出口プログラムは、アクション・コード「削除」を使用して呼び出されます。検査フェーズが失敗すると、クラスタ資源グループは削除されません。検査フェーズが失敗すると、このコマンドはクラスタ資源グループ出口プログラムをアクション・コード「やり直し」を使用して呼び出すことはありません。

クラスタ資源グループ削除(DLTCRG)コマンドは、クラスタ資源サービスが活動状態になっていないシステム上のクラスタ資源グループ・オブジェクトを削除するために使用することができます。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. クラスタ資源サービスは、要求を処理中のノードで活動状態になっていなければなりません。
3. 削除しようとするクラスタ資源グループの状況が「活動状態」になってはなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスタ	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスタ資源グループ	名前	必須, 定位置 2

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

クラスター資源グループが含まれているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

クラスター資源グループ (CRG)

削除するクラスター資源グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 削除するクラスター資源グループの名前を指定してください。

[トップ](#)

DLTCRGCLUの例

```
DLTCRGCLU CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(MYCRG)
```

このコマンドは、MYCLUSTERの名前のクラスターから、MYCRGの名前のクラスター資源グループを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTCRGCLU

*ESCAPEメッセージ

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

CRQ記述の削除 (DLTCRQD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更要求記述削除(DLTCRQD)コマンドは、1つまたは複数の変更要求記述を削除します。

制約事項: 変更要求記述を削除するためには、オブジェクト存在権限を持っていないなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CRQD	要求記述の変更	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 要求記述の変更	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

要求記述の変更 (CRQD)

削除する変更要求記述の名前およびライブラリーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB

#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXMX
QGGL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGGL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMQMATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMQMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

変更要求記述名

削除する変更要求記述の名前を指定してください。

変更要求記述の総称名*

変更要求記述の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前が一致するか、または指定したストリングで始まるすべての変更要求記述が削除されます。

トップ

DLTCRQDの例

例1:固有のライブラリーからの変更要求記述の削除

```
DLTCRQD CRQD(MYLIB/CHG001)
```

このMYLIBは、名前がCHG001のMYLIBにある変更要求記述を削除します。

例2:総称名を使用した変更要求記述の削除

```
DLTCRQD CRQD(*LIBL/CHG*)
```

このコマンドは、ライブラリー・リスト中の名前がCHGで始まるすべての変更要求記述を削除します。

例3:現行ライブラリーからの変更要求記述の削除

```
DLTCRQD CRQD(*CURLIB/CHG456)
```


このコマンドは、現行ライブラリーにあるCHG456という名前の変更要求記述を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DLTCRQD

なし

[トップ](#)

通信サイド情報の削除 (DLTCSI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信サイド情報削除(DLTCSI)コマンドは、指定された1つまたは複数のライブラリーからサイド情報オブジェクトを削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CSI	サイド情報	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サイド情報	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

サイド情報 (CSI)

削除するサイド情報オブジェクトの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

(総称名ではなく) 特定の記号宛先名を指定した場合には、その名前で最初に見つかった記号宛先名が削除されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB

#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXXM
QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSCR	
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

ライブラリー名

サイド情報オブジェクトを削除するライブラリーの名前を指定してください。

サイド情報名

所要のサイド情報オブジェクトが入っているオブジェクトの名前を指定してください。

総称*サイド情報名

所要のサイド情報オブジェクトが入っているオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。

[トップ](#)

DLTCSIの例

DLTCSI CSI(QGPL/SIDEOBJ)

このコマンドは、SIDEOBJという名前の通信サイド情報オブジェクトをライブラリーQGPLから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTCSI

なし

[トップ](#)

制御装置記述の削除 (DLTCTLD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御装置記述の削除(DLTCTLD)コマンドは、指定された制御装置記述を削除します。制御装置記述は、これを削除するためにこのコマンドが出される前に、オフラインに構成変更されなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	総称名, 名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

制御装置記述の名前を指定します。

制御装置記述名

削除したい制御装置記述の名前を指定してください。

総称*制御装置記述名

削除したい制御装置記述の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

[トップ](#)

DLTCTLDの例

DLTCTLD CTLD(CONTROL01)

このコマンドは、CONTROL01という名前の制御装置記述をシステムから削除します。削除される制御装置記述に関連の装置記述がある場合には、それらが切り離され、その名前を示すメッセージがシステム操作員に送られます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTCTLD

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2615

この操作のためには制御装置&1をオフに構成変更しなければならない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2636

コマンドは処理されなかった。制御装置&1は使用中です。

CPF2697

割り当てられた時間内に要求が完了しなかった。

CPF2717

制御装置記述&1は削除されなかった。

CPF2782

メッセージ&1は監視されていない。

[トップ](#)

装置記述の削除 (DLTDEVD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の削除(DLTDEVD)コマンドは、指定された装置記述を削除します。装置記述は、これを削除するためにこのコマンドが出される前に、オフラインに構成変更されなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	総称名, 名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

装置記述 (DEVD)

削除する1つまたは複数の装置記述の名前を指定します。特定の装置記述または総称の装置記述を指定することができます。

装置記述名

削除したい装置記述の名前を指定してください。

総称*装置記述名

削除したい装置記述の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

[トップ](#)

DLTDEVDの例

DLTDEVD DEVD(DSPC01)

このコマンドは、DSPC01という名前の装置の装置記述をシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DLTDEVD

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF2605

&1を割り振ることができなかった。

CPF2615

この操作のためには制御装置&1をオフに構成変更しなければならない。

CPF2616

装置記述&1は削除されなかった。装置は使用中です。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2646

削除要求は正常に実行されなかった。

CPF2648

装置&1に削除要求は認められない。

CPF2668

オブジェクト記述は削除されなかった。

CPF268E

装置記述&1を削除または名前変更することはできない。

CPF2697

割り当てられた時間内に要求が完了しなかった。

CPF2782

メッセージ&1は監視されていない。

[トップ](#)

装置媒体ライブラリーの削除 (DLTDEVMLB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
エラー・メッセージ

装置媒体ライブラリー削除(DLTDEVMLB)コマンドは、システムから装置媒体ライブラリー作成 (CRTDEVMLB)コマンドによって前に作成されているライブラリー装置名を削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

装置記述 (DEV D)

システムから削除されるライブラリー装置の名前を指定します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DLTDEVMLB

なし

[トップ](#)

DFUプログラムの削除 (DLTDFUPGM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DFUプログラムの削除(DLTDFUPGM)コマンドは、DFUプログラムをライブラリーから削除します。

エラー・メッセージ: DLTDFUPGM

なし

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DFUPGM	DFUプログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DFUプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

DFUプログラム (DFUPGM)

削除するDFUプログラムの修飾名を指定します。

***LIBL** DFUはライブラリー・リストを使用して、指定されたプログラムを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーを使用するためには、*CURLIBを入力してください。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。ライブラリー名を指定しない場合には、*LIBLが使用されます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DLTDFUPGM

なし

[トップ](#)

ディスクレット・ラベル削除 (DLTDKTLBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスクレット・ラベル削除(DLTDKTLBL)コマンドは、名前を指定されたデータ・ファイルのラベル（すなわち、データ・ファイル識別コード）をディスクレットから削除します。ファイル中のデータは、任意選択で2進ゼロによって上書きすることができます。ファイルが活動状態（ファイル終了日がシステム日付より後になっている）の場合には、メッセージがシステム操作員に送信されます。この場合、操作員はファイルの削除を続行したり、コマンドを終了したりすることができます。

注: IBM標準ラベルをもたないディスクレットを処理すると、予測できない結果になることがあります。ディスクレットを初期設定するためには、CHECK(*NO)を指定して、ディスクレット初期設定(INZDKT)コマンドを使用してください。

制約事項:ディスクレットに拡張ラベル域（&SYS.システムによってサポートされていない）がある場合には、拡張ラベル域から、削除するファイルのラベルは検索されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ディスクレット装置	名前	必須, 定位置 1
LABEL	ディスクレット・ラベル	文字値	必須, 定位置 2
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプション, 定位置 3
CHECK	活動ファイルの検査	*YES, *NO	オプション
CRTDATE	作成日	日付, *NONE	オプション
OPTION	オプション	*SCRATCH, *RMV, *ERASE	オプション

[トップ](#)

ディスクレット装置 (DEV)

検査されるディスクレットが入っている装置名を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ディスクット・ラベル (LABEL)

削除されるファイルのデータ・ファイル識別コードを指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

指定されたファイルが削除される前に、ディスクット上のボリューム識別コードの検査を行なうかどうかを指定します。検査する場合には、検査されるボリュームの識別コードを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***MOUNTED**

ボリューム識別コードの検査は行なわれません。指定したファイルが、**ディスクット装置**プロンプト (DEVパラメーター) に指定したディスクット上にある場合には、該当のファイルは、検査されずに削除されます。**作成日**プロンプト (CRTDATEパラメーター) を指定した場合には、検査を行なわなければなりません。

ボリューム識別コード

削除されるファイル・ラベルを含むディスクットのボリューム識別コードとして、最大6文字を指定します。英字および数字の任意の組み合わせを使用することができます。ボリューム識別コードが一致しない場合には、システム操作員にメッセージが送られます。操作員は、正しいディスクットを挿入してやり直すか、あるいはコマンドを停止させることができます。

[トップ](#)

活動ファイルの検査 (CHECK)

活動ファイル (システム日付より後の満了日をもつもの) の検査を行なうかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** ファイルが活動状態の場合には、操作員メッセージが送られます。操作員は、続行するか、あるいはファイルの削除を停止させることができます。

***NO** ファイルは、活動ファイルの検査を受けずに削除されます。

[トップ](#)

作成日 (CRTDATE)

削除するファイルの作成された日付を指定します。ここで指定した日付が削除するファイルの日付と一致しない場合には、ファイルは削除されず、メッセージがシステム操作員に送られます。操作員は、操作をやり直すか、あるいはコマンドを停止させることができます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ファイルの作成された日付のテストは行なわれません。

作成日 ファイルを削除する前に、削除するファイルの作成日と一致する必要がある日付を指定してください。この日付は、ジョブの日付形式で入力しなければなりません。

トップ

オプション (OPTION)

ディスクからファイルを削除する方法を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SCRATCH

ファイルの満了日が現行システム日付に変更されます。このファイルをまだ入力データ用に参照することができます。しかし、新しいファイルがディスク上にシステムによって書き出される時には、すべての満了したファイルは、新しいファイル用にスペースを解放するために削除されます。

***RMV** データ・ファイル識別コードがシリンダー 0 から除去されます。ファイル識別コードがなくなった時には、ファイルを入力データ用に参照することはできません。

*ERASE

データ・ファイル識別コードがシリンダー 0 から削除され、ファイル中のデータは 2 進ゼロ数で重ね書きされます。

トップ

DLTDKTLBLの例

例1:活動ファイル検査なしでのファイルの削除

```
DLTDKTLBL LABEL(FILEA) DEV(DKT1) CHECK(*NO)
```

このコマンドは、活動ファイルの検査なく、装置DKT1中のディスク上でFILEAをスクラッチ（システムによって想定済み）します。

例2:ファイル識別コードの削除およびデータの一時変更

```
DLTDKTLBL LABEL(MONDAY) DEV(DKT2) OPTION(*ERASE)
```

このコマンドは、装置DKT2内のディスクからファイル識別コードMONDAYを削除し、ファイルMONDAYが活動状態でない(CHECK(*YES)が前提である) 場合に、データを2進ゼロで一時変更します。

トップ

エラー・メッセージ: DLTDKTLBL

*ESCAPEメッセージ

CPF6155

装置&2のラベル&1のファイルが見つからない。

CPF6156

メッセージ&6に対して取り消し応答を受け取った。

CPF6158

ディスクット・ラベルの削除は終了したが、前にエラーが起こっている。

CPF6716

装置&1がディスクット装置でない。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト削除 (DLTDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト削除(DLTDLO)コマンドによって、文書またはフォルダーを削除することができます。

このコマンドを使用して、不要となった文書およびフォルダーをシステムから削除し、使用しないオブジェクトがシステム記憶域を使用しないようにします。

注: 文書を削除する時には、テキスト索引からその項目（ある場合）を除去する要求が生成されます。

制約事項:

1. 文書またはフォルダーを削除するためには、その文書またはフォルダーに対する* ALL権限か、*ALLOBJ特殊権限または*SECADM特殊権限が必要です。
2. すべての文書またはフォルダーを削除するか、あるいは自分以外の所有者を指定するためには、*ALLOBJまたは*SECADM特殊権限が必要です。
3. 実行キーを押すと、指定された文書またはフォルダーが削除されます。文書またはフォルダーが削除される前にプロンプトの表示はありません。
4. 文書またはフォルダーが使用中である場合には、文書またはフォルダーは削除されません。
5. 複数の文書またはフォルダーが削除用に指定されたが、そのうちの1つが使用中であるか認可されていないために削除できない時には、メッセージが送られ、リストに残っている文書またはフォルダーについては削除が続行されます。
6. フォルダーとその中のすべての文書およびフォルダーが削除される場合には、そのフォルダーから削除できない文書またはフォルダーは残りますが、それ以外のものはすべて削除されます。削除できない文書およびフォルダーについてはメッセージが送られます。
7. このコマンドの使用中に、内部オブジェクトはロックされていることを示すエラー・メッセージが見つかることがありますDLTDLOコマンドと同時に実行できない文書ライブラリー機能を別のユーザーが使用しているので、数分待ってこのコマンドをやり直してください。
8. *ANYのASP値を指定できるのは、DLO(*ALL) FLR(*ANY)またはDLO(*SEARCH) FLR(*ANY)が指定された時だけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	単一値: *SEARCH, *ALL, *SYSOBJNAM その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー中	文字値, *ANY, *NONE	オプション, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	注
CRTDATE	作成期	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日付	日付, *CURRENT , *BEGIN	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 終了日付	日付, *END	
CHKEXP	満了日	日付, *NO , *CURRENT	オプション
DOCCLS	文書クラス	文字値, *ANY	オプション
OWNER	所有者プロファイル	名前, *CURRENT , *ALL	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL , *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
ASP	補助記憶域プールID	1-32, *ANY	オプション

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

削除される文書またはフォルダーを指定します。DLO(*SEARCH)が指定されていない場合には、CRTDATE、CHKEXP、DOCCLS、CMDCHRID、およびOWNERは指定できません。

これは必須パラメーターです。

***ALL** フォルダー中 (**FLR**)パラメーターに指定されたフォルダーに現在ファイルされているすべての文書またはフォルダーが削除されます。

*SEARCH

指定された検索値と一致するすべての文書およびフォルダーが削除されます。検索値は次のパラメーターを使用して指定されます。複数のパラメーターを指定する場合には、これらを結合するために"AND"関係が使用されます。

- フォルダー中 (**FLR**)パラメーター
- 作成期 (**CRTDATE**)パラメーター
- 満了日 (**CHKEXP**)パラメーター
- 文書クラス (**DOCCLS**)パラメーター
- 所有者プロファイル (**OWNER**)パラメーター

*SEARCHが指定された場合には、検索は文書明細を調べて実行されます。

*SYSOBJNAM

システム・オブジェクト名 (**SYSOBJNAM**)パラメーターに指定された文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名が使用されます。

文書ライブラリー・オブジェクト名

削除される特定の文書またはフォルダーの1つまたは複数の文書またはフォルダー名を指定します。最大300の文書またはフォルダーを指定することができます。

注: フォルダーおよびフォルダー内のすべての文書およびフォルダーを削除するためには、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*ALLを、および**フォルダー中 (FLR)**パラメーターを使用してフォルダー名を指定してください。そうでない場合、フォルダー名を**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定する場合には、削除するフォルダーは空でなければなりません。

トップ

フォルダー中 (FLR)

文書またはフォルダーが入っているフォルダーを指定します。文書またはフォルダーがフォルダー内に存在しない場合には、*NONEが指定されます。

*NONE

文書またはフォルダーはフォルダー中に入っていません。**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーター*SEARCHおよび*ALL値は、フォルダー内に入っていない文書およびフォルダーに対してだけ適用されます。

***ANY** システム全体の検索が行なわれます。**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターの*SEARCHおよび*ALLの値は、フォルダー内に入っていないものも含めて、すべての文書およびフォルダーに適用されます。

フォルダー名

文書またはフォルダーが入っているフォルダー名を指定してください。

トップ

作成期 (CRTDATE)

指定された期間中に作成された文書およびフォルダーが削除されます。このパラメーターが指定された場合には、*SEARCHは**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定しなければなりません。

開始時刻に使用できる値は次の通りです。

*AVAIL

任意の時刻に作成された文書およびフォルダーが削除されます。

開始時刻

時刻を指定します。開始日に指定された時刻以降に作成された文書およびフォルダーだけが削除されます。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたは HHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

開始時刻が検索値として使用される場合には、開始時刻は*BEGINであってはいけません。

開始日に使用できる値は次の通りです。

***CURRENT**

このコマンドを入力する日付で、開始時刻（指定された場合）以降に作成された文書およびフォルダーだけが削除されます。

***BEGIN**

指定された日付に作成された文書およびフォルダーが削除されます。（開始日および時刻は無視されます。）

開始日 日付を指定します。指定された日付以降に作成された文書およびフォルダーだけが削除されます。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

終了時刻に使用できる値は次の通りです。

***AVAIL**

任意の時刻に作成された文書およびフォルダーが削除されます。

終了時刻

時刻を指定します。終了日の指定された時刻以前に作成された文書およびフォルダーだけが削除されます。時刻の指定の詳細については、このパラメーターの**開始時刻**を参照してください。終了時刻を検索値として使用する場合には、終了日が*ENDであってはいけません。

終了日に指定できる値は、次の通りです。

***END** 任意の日付に作成された文書およびフォルダーが削除されます。*ENDが指定された場合には、終了時刻は無視されます。

終了日 日付を指定します。この日付以前に作成された文書およびフォルダーだけが削除されます。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

満了日 (CHKEXP)

削除される文書の満了日を指定します。満了日は、その文書が不要となる時を指定するために割り当てられます。指定された日付以前に満了日のある文書（文書明細変更画面にユーザーによって指定される）が削除されます。このパラメーターを指定した場合には、*SEARCHも**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定しなければなりません。

***NO** 文書の満了日は無視されます。

***CURRENT**

今日の日付より前に満了日がある文書だけが削除されます。

満了日 日付を指定します。指定された日付より前に満了日がある文書だけが削除されます。

[トップ](#)

文書クラス (DOCCLS)

削除される文書のクラスを指定します。このパラメーターを指定した場合には、*SEARCHも**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定しなければなりません。

***ANY** 削除される文書を選択するために、このパラメーターは使用されません。

文書クラス

1-16桁の長さの範囲で文字ストリングを指定します。指定されたクラスの文書だけが削除されます。比較では、指定された文書クラスおよびすべての文書の文書クラスが大文字に変換されます。

[トップ](#)

所有者プロフィール (OWNER)

削除される文書およびフォルダーの所有者を指定します。このパラメーターを指定した場合には、***SEARCH**も**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定しなければなりません。

***CURRENT**

ユーザーによって所有されている文書またはフォルダーだけが削除されます。

ALL** 削除される文書またはフォルダーの選択のために、このパラメーターは使用されません。ALL**所有者を指定するためには、***ALLOBJ**または***SECADM**特殊権限が必要です。

ユーザー・プロフィール名

ユーザーの名前を指定してください。指定したユーザーによって所有される文書またはフォルダーだけが削除されます。ユーザー以外の所有者を指定するためには、***ALLOBJ**または***SECADM**の特殊権限が必要です。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

削除される文書ライブラリー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。最大300のシステム・オブジェクトを指定することができます。システム・オブジェクト名を指定できるのは、***SYSOBJNAM**が**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定された場合だけです。

システム・オブジェクト名

削除される1つまたは複数のシステム・オブジェクト名を指定します。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値 (**文書クラス (DOCCLS)**パラメーターに適用される) として入力中のデータの文字識別コード (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。文字識別コードは、コマンドの入力に使用された表示装置と関連しています。

***SYSVAL**

システムは、**QCHRID**システム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドを入力した表示装置記述からコマンド・パラメーターの図形文字セット

およびコード・ページの値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから指定された時にだけ有効です。この値が対話式CLプログラムまたはバッチ・ジョブで指定されると、エラー・メッセージが送られます。

図形文字セット・コード・ページ

コマンド・パラメーターを作成するために使用される図形文字セットおよびコード・ページ値を指定してください。各値の長さは最大3桁とすることができます。

トップ

補助記憶域プールID (ASP)

削除される文書ライブラリー・オブジェクトの補助記憶域プール(ASP)の識別コード(ID)を指定します。

*ANY以外の値を指定できるのは、DLOパラメーターに*ALL または*SEARCHが指定され、しかもFLRパラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

***ANY** 削除されるオブジェクトはどのASPにも存在しています。DLOパラメーターに* ALLが指定されると、システム上のすべての文書ライブラリー・オブジェクトが削除されます。

ASP-ID

指定されたASPに存在する文書ライブラリー・オブジェクトのみが削除されます。他のASPに存在する文書ライブラリー・オブジェクトはすべて無視されます。有効な値は1 - 32であって、文書ライブラリー・オブジェクトを含む既存のASPを指定するものでなければなりません。ASP 1はシステムASPです。

注: このオプションは、ユーザーASP（特にオーバーフローしたASP）の損傷からの回復を援助するために用意されています。文書ライブラリー・オブジェクトとその明細が損傷ASPから削除され（そのASPに対して必要なデータ回復処置が取られた後で）、その結果として、バックアップ媒体からの復元の前にその損傷ASPからオーバーフローしたオブジェクトと損傷した可能性のあるオブジェクトが除去されます。ASP内の文書ライブラリー・オブジェクトの詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)に記載されています。

トップ

DLTDLOの例

例1:フォルダーの削除

```
DLTDLO DLO(ABC)
```

このコマンドはフォルダーABCに文書もフォルダーも入っていないと、フォルダーABCを削除します、

例2:フォルダー内の文書およびフォルダーのすべての削除

```
DLTDLO DLO(*ALL) FLR(ABC)
```

このコマンドは、ユーザーがフォルダーABCから削除することを許可されている文書およびフォルダーのすべてを削除します。フォルダーABCは、空になるように消されると、そのフォルダーも削除されます。

例3: *SECADM特殊権限を使用した文書クラス内の文書のすべての削除

```
DLTDLO DLO(*SEARCH)
        CRTDATE((*AVAIL 080187) (*AVAIL 083187))
        DOCCLS(LETTERS) OWNER(*ALL)
```


このコマンドは、1987年8月中にシステムにファイルされた文書クラスLETTERS内の文書のすべてを削除します。OWNER(*ALL)を指定することができるのは、機密保護担当者または*SECADM特殊権限をもつユーザーだけです。

例4:現行ユーザーの文書の削除

```
DLTDLO DLO(*SEARCH) CRTDATE((*AVAIL *BEGIN) (*AVAIL *END))
      DOCCLS(*ANY) OWNER(*CURRENT)
```

このコマンドは、現行ユーザーに属している文書のすべてを削除します。

例5:当日ファイルしたユーザーの文書の削除

```
DLTDLO DLO(*SEARCH)
```

このコマンドは、指定のユーザーに属している当日ファイルされた文書のすべてを削除します。

例6:文書記述子を持つ文書およびフォルダーの削除

```
DLTDLO DLO(*SEARCH) CRTDATE((*AVAIL *BEGIN) (*AVAIL *END))
      DOCCLS(*ANY) OWNER(*ALL)
```

このコマンドは、文書記述子をもつ文書およびフォルダーのすべてをシステムから削除します。文書記述子が文書およびフォルダー・オブジェクトと同期していない場合は、DLO(*ALL)と同じになります。INFORMATION CENTERのバックアップ、リカバリー、およびアベイラビリティのトピックには、文書記述子の同期に関する情報が記載されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ：DLTDLO

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF8A16

文書ライブラリー・オブジェクトは削除されなかった。&1個のオブジェクトが削除されました。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9012

&1の文書交換セッションの開始が正常に行なわれなかった。

CPF9029

所有者プロファイル&1を指定することはできない。

CPF903A

文書またはフォルダーの活動が停止していないので、要求された操作を実行することができない。

CPF9031

DLO(*ALL)を指定する権限がない。

CPF9032

文書交換セッションが開始されなかった。

CPF9046

フォルダー&1に検索仕様を満たす文書は見つからなかった。

CPF9062

時間が*AVAILでない時には、日付を指定しなければならない。

CPF9063

開始および終了CRTDATEが逆の順序で指定された。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

文書リスト削除 (DLTDOCL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書リスト削除(DLTDOCL)コマンドにより、文書リストをシステムから削除することができます。すべての文書リストはライブラリーQUSRSYSに記憶されています。

制約事項: (1)文書リストを削除するためには、文書リストに対するオブジェクト存在権をもっているか、あるいは*ALLOBJまたは*SECADM特殊権限が必要です。(2)他のユーザーの文書リストを削除するためには、*ALLOBJまたは*SECADM特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DOCL	文書リスト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
OWNER	文書リスト所有者	要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ユーザー・プロフィール	名前, *CURRENT, *ALL	

[トップ](#)

文書リスト (DOCL)

システムから削除する文書リストを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 指定された所有者のすべての文書リスト・オブジェクトが削除されます。

文書リスト・オブジェクト名

削除する文書リスト・オブジェクトの名前を指定してください。最大300個の文書リスト・オブジェクトを指定することができます。

[トップ](#)

文書リスト所有者 (OWNER)

削除する文書リストの所有者を指定します。文書リストプロンプト (DOCLパラメーター) に文書リスト名のリストを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

所有しているすべての文書リストが削除されます。

***ALL** すべての所有者のすべての文書リストが削除されます。

ユーザー・プロフィール名

削除する文書リストを所有しているユーザーの名前を指定してください。このユーザーの所有しているすべての文書リストが削除されます。

[トップ](#)

DLTDOCLの例

例1: 現行ユーザーの文書リストの削除

```
DLTDOCL DOCL(*ALL) OWNER(*CURRENT)
```

このコマンドは、現行ユーザーが所有している文書リストのすべてを削除します。

例2: すべてのユーザーの文書リストの削除

```
DLTDOCL DOCL(*ALL) OWNER(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのユーザーが所有している文書リストのすべてを削除します。

例3: 指定されたユーザーが所有している文書リストの削除

```
DLTDOCL DOCL(*ALL) OWNER(ANN)
```

このコマンドは、ANNが所有している文書リストのすべてを削除します。

例4: ユーザーが所有する特定文書リストの削除

```
DLTDOCL DOCL(AN8T475237)
```

このコマンドは、このコマンドを実行中のユーザーが所有している文書リストAN8T475237を削除します。ユーザーの所有オブジェクトを表示すると、特定文書リストのシステム・オブジェクト名が表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DLTDOCL

***ESCAPEメッセージ**

CPF9002

指定された文書リストを削除することができない。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9012

&1の文書交換セッションの開始が正常に行なわれなかった。

CPF9032

文書交換セッションが開始されなかった。

CPF9051

&1文書リストが削除された。&2文書リストは削除されませんでした。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

配布削除 (DLTDST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布削除(DLTDST)コマンドによって、ユーザー自身の配布を削除するか、あるいは別のユーザーの配布を削除することができます。またこのコマンドによって、システム操作員は損傷のある配布オブジェクトおよび留保中の配布オブジェクト（配布追跡オブジェクトによって制御されていない配布オブジェクト）を削除することができます。

制約事項:

1. 別のユーザーの代行処理をする場合には、*ALLOBJ特殊権限をもっているか、あるいはユーザー認可 (GRTUSRPMN)コマンドによって他のユーザーの代行処理を認可されていなければなりません。
2. コマンドの要求元はシステム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。
3. 要求元が他のユーザーに代わって処理を行なう場合には、個人用配布を要求することはできません。
4. 損傷のある配布オブジェクトおよび留保中の配布オブジェクトを削除できるのは、サインオンしていて *ALLOBJ権限をもっているユーザーだけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSTID	配布識別コード	単一値: *ERROBJ その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 1
OPTION	着信または発信	*IN, *OUT, *ERR	オプション
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
DSTIDEXN	配布IDエクステンション	値 (最大 50 回の繰り返し): 0-99, *NONE	オプション
OBJ	オブジェクト	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

トップ

配布識別コード (DSTID)

配布の固有の識別コードを指定します。この識別コードは、この配布を開始したシステムによって配布に割り当てられたものです。配布識別コードは配布QUERY(QRYDST) コマンドを使用して見つけることができます。識別コードは配布送信(SNDDST)コマンドからも戻されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

これは必須パラメーターです。

*ERROBJ

削除される配布は損傷があるか、あるいは留保中の配布オブジェクトです。

注: 損傷のある配布または留保中の配布を削除するためには、OBJパラメーターにも値を指定しなければなりません。

配布ID 配布識別コードを指定してください。次のものを指定することができます。

- 最大50個までの識別コード
- 送信元のアドレス（右側に空白を挿入して合計8文字にする）
- 送信元ユーザーID（右側に空白を挿入して合計8文字にする）
- ゾーン順序番号（先行ゼロを含めて4桁）

注:

- 配布識別コードに空白または特殊文字がある場合には、アポストロフィが必要です。
- 指定する配布は損傷があったり留保されていてはいけません。

[トップ](#)

着信または発信 (OPTION)

配布識別コードプロンプト (DSTIDパラメーター) で指定された配布が着信配布、発信配布、またはエラー配布のいずれであるかを指定します。

***IN** ユーザーに送られた着信配布は削除されます。

***OUT** ユーザーからの発信配布は削除されます。発信配布は、要求された配布確認と一緒に1人または複数のユーザーに送られる配布についての、システムが保管する状況です。

***ERR** エラー状況配布は削除されます。これは、配布の経路指定時にエラーが起こったために戻された状況です。

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザーIDおよびユーザーIDアドレスを要求と関連づけるかどうかを指定します。

*CURRENT

自分自身で要求を実行します。

ユーザーID

別のユーザーのユーザーIDまたは自身のユーザーIDを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

ユーザーIDアドレス

別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

配布IDエクステンション (DSTIDEXN)

配布識別コードプロンプト (DSTIDパラメーター) で指定された配布識別コードのエクステンション (ある場合) を指定します。このエクステンションは重複した配布を固有に識別します。このエクステンションは00-99の範囲の2桁のエクステンションです。

*NONE

重複した配布はありません。*NONEは着信配布の01のエクステンションと同等です。発信および配布されない状況配布の場合には、これは00と同等です。

配布IDエクステンション

配布と関連したエクステンションを指定してください。これは重複した配布を固有に識別するために使用されます。

[トップ](#)

オブジェクト (OBJ)

削除される損傷または留保中の配布オブジェクトを指定します。

*NONE

損傷または留保中の配布オブジェクトは削除されません。

***ALL** 損傷のある留保中の配布オブジェクトはすべて削除されます。

オブジェクト名

削除する損傷または留保中の配布オブジェクトを指定してください。

指定するオブジェクトはローカル・オブジェクトでもリモート・オブジェクトでも構いません。

- ローカル・オブジェクト名は、送信元のアドレス (右側に空白が埋め込まれて最大8文字まで)、送信元ユーザーID (右側に空白が埋め込まれて最大8文字まで)、および先行ゼロを含めて四桁のゾーン順序番号から構成されています。たとえば、次の通りです。

```
'NEWYORK SMITH 0204' または  
UADDRESSUSERIDID0099
```

配布識別コードの中に空白または特殊文字が入っている場合には、アポストロフィが必要です。ユーザーIDまたはアドレスの中では空白文字が有効なので、配布識別コードはこのような方法で指定されます。

- リモート・オブジェクト名は、リモート・システム名とシステム日付および時刻から構成されています。たとえば、次の通りです。

```
'QOSRDIST091112509152355'
```

ここで、QOSRDISTはリモート・システム名、0911125はシステム日付(1991年11月25日)、09152355はシステム時刻(9:15:23:55)です。

損傷または留保中の配布の配布識別コードは文書ライブラリー・オブジェクト保管(SAVDLO)コマンドの実行時に判別することができ、損傷または留保配布オブジェクトが識別されます。

最大50個のオブジェクトを削除のために指定することができます。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字識別コードはコマンドの入力に使用される表示装置に関連づけられています。

配布識別コードプロンプト（DSTIDパラメーター）およびユーザー識別コードプロンプト（USRIDパラメーター）に指定された値が、配布QUERY(QRYDST)コマンドによって作成された出力ファイルから読み取られている場合には、このパラメーターに'930 500'を指定してください。

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1-32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1-32767

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

DLTDSTの例

例1:ユーザーに送信済みの着信配布の削除

```
DLTDST  DSTID(('RCH38P  BAKER  0019'))  USRID(*CURRENT)
        DSTIDEXN(02)
```

このコマンドは、ユーザーに送信済みの着信配布を削除します。

例2:配布発信の状況の削除

```
DLTDST  DSTID(('SYSTEM20  BRUCE  1361'))
        USRID(*CURRENT)  DSTIDEXN(00)
        OPTION(*OUT)  CMDCHRID(101 37)
```

このコマンドは、発信配布と関連した状況を削除します。DSTIDパラメーターは、コード・ページが37であり、文字セットが101である文字IDでエンコードされます。システムは、配布宛先索引で配布先を見付けようとする前にDSTIDパラメーター値に対する変換を実行します。

例3:サインオン・ユーザーへの着信配布の削除

```
DLTDST DSTID(('CHICAGO JONES 0013'))
```

このコマンドは、サインオンしているユーザーに送信済みの着信配布を削除します。着信配布の場合は、配布拡張の省略時の値として'01'が使用されます。重複する配布が送信された場合は、このコマンドは最初のを削除するだけです。

例4:損傷した配布のすべての削除

```
DLTDST DSTID(*ERROBJ) OBJ(*ALL)
```

このコマンドは、システム上の損傷した配布およびダングリング配布のすべてを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DLT DST

*ESCAPEメッセージ

CPF89BD

DSTID(*ERROBJ)でオブジェクトを指定しなければならない。

CPF900A

&2配布は削除されたが、&1配布は削除できなかった。

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF9016

&1の配布&2-&3-&4の取り消し要求が正常に実行されなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF906C

配布は削除されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVD)、DOCCHRID(*DEVD)を使用することはできない。

[トップ](#)

配布リスト削除 (DLTDSTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト削除(DLTDSTL)コマンドは、システム配布ディレクトリーから既存の配布リストを削除します。

制約事項:他のユーザーの所有している配布リストを削除するためには、機密保護管理者権限が必要です。自分が所有している配布リストを削除するには特殊権限は不要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LSTID	リスト識別コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL , *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

リスト識別コード (LSTID)

削除される配布リストの2つの部分から成るリスト識別コードを指定します。最大300個のリスト識別コード（両方の部分）を指定することができます。各リスト識別コードの各部分に、最大8文字まで指定することができます。

指定できるリスト識別コードの値は次の通りです。

リストID

配布リストのリスト識別コード(ID)を指定してください。

指定できるリスト修飾子の値は次の通りです。

リストID修飾子

配布リストのリストID修飾子を指定してください。

注: 配布リスト識別コードはIDと修飾子の2つの部分から成り、両者の間は少なくとも1つのスペースで区切られます。小文字を指定した場合には、システムが大文字に変換します。

2部分から成るリストIDの命名規則はユーザーIDおよびアドレスの規則と同じです。規則の完全な説明については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字識別コード (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

配布識別コード (DSTID)パラメーターおよび**ユーザー識別コード (USRID)**パラメーターの値が、配布QUERY (QRYDST)コマンドによって作成された出力ファイルから読み取られる場合には、このパラメーターの値として'930 500'を使用してください。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セット識別コード(GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1-32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1-32767

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

DLTDSTLの例

DLTDSTL LSTID((DEPT48K DLIST) (ISMGRS DSTLIST))

このコマンドは、2つの配布リスト(DEPT48K DLISTおよびISMGRS DSTLIST)が存在していると、それを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ：DLTDSTL

*ESCAPEメッセージ

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9094

&1個の配布リストが削除された。&2個のリストは削除されません。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

データ域削除 (DLTDTAARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ域削除 (DLTDTAARA)コマンドは、指定されたデータ域をライブラリーから削除します。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、データ域に対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、およびライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
2. ローカル・データ域、グループ・データ域、およびプログラム初期設定パラメーター・データ域を削除することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAARA	データ域	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ域	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

データ域 (DTAARA)

削除するデータ域の名前およびライブラリーを指定します。特定のデータ域または総称データ域を指定することができます。どちらのタイプの名前も、必要に応じてライブラリー名で修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データ域

総称名 削除するデータ域の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称データ域と同じ接頭部を持つ名前のすべてのデータ域が削除されます。

名前 データ域の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

***ALL** 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっている補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。これには、システムASP (ASP 1), すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。ユーザーの固有のQTEMPライブラリーだけが検索されます。スレッドの名前スペースのすべてのライブラリーの、指定された名前およびオブジェクト・タイプと一致したすべてのオブジェクトが削除されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRRDATA  QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 データ域があるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

DLTDTAARAの例

DLTDTAARA DTAARA(MYLIB/MYDATA)

610 iSeries: OS/400 コマンド CRTMODD (モード記述作成) ~

このコマンドは、ユーザーがデータ域およびライブラリーに対する適切な権限を持っている場合に、MYDATAという名前のデータ域をライブラリーMYLIBから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ：DLTDTAARA

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

データ・ディクショナリー削除 (DLTDTADCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ・ディクショナリー削除(DLTDTADCT)コマンドはデータ・ディクショナリーを削除します。ディクショナリーを削除する前に、ディクショナリー内の定義に連係するすべてのプログラム記述ファイルの連係を解除しなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTADCT	データ・ディクショナリー	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

データ・ディクショナリー (DTADCT)

削除するデータ・ディクショナリーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

DLTDTADCTの例

```
DLTDTADCT DTADCT(DEPT547)
```

このコマンドは、DEPT547データ・ディクショナリーを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DLTDTADCT

*ESCAPEメッセージ

CPF2FE2

ディクショナリー&1は現在使用中である。

CPF2FE3

システム相互参照ファイルにエラーがある。

CPF2FE4

システム相互参照ファイルを使用することはできない。

CPF2F0B

データ・ディクショナリー&1を削除することはできない。

CPF2F0C

SQLデータ・ディクショナリー&1の削除は認められない。

CPF2F0D

データ・ディクショナリー&1が部分的に削除された。

CPF2F0F

データ・ディクショナリー&1は削除されなかった。

CPF2F05

ディクショナリー&1の削除は認可されていない。

CPF2F08

辞書&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

データ待ち行列削除 (DLTDTAQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ待ち行列削除(DLTDTAQ)コマンドは、指定されたデータ待ち行列（1つまたは複数）をシステムから削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAQ	データ待ち行列名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ待ち行列名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

データ待ち行列名 (DTAQ)

削除する1つ以上のデータ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: データ待ち行列名

名前 削除するデータ待ち行列の名前を指定してください。

総称*名

削除するデータ待ち行列の総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称データ待ち行列名と同じ接頭部の付いた名前を持つすべてのデータ待ち行列が削除されます。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーがライブラリー・リストに存在しない場合は、QGPLを使用して、削除するデータ待ち行列を見つけます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

DLTDTAQの例

```
DLTDTAQ  DTAQ(DEPTADTAQ)
```

このコマンドは、DEPTADTAQという名前のデータ待ち行列をシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTDTAQ

***ESCAPE**メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF9503

&2のデータ待ち行列&1をロックすることはできない。

[トップ](#)

編集記述削除 (DLTEDTD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

編集記述削除(DLTEDTD)コマンドは、指定されたユーザー定義の編集記述を削除します。

注: すでに作成されているデータ記述仕様(DDS), または高水準言語プログラムは、影響を受けません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EDTD	編集記述	単一値: 5, 6, 7, 8, 9 その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 編集記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, QSYS	

[トップ](#)

編集記述 (EDTD)

削除される 1 桁の数字コード(5, 6, 7, 8,または9)あるいはユーザー定義の編集記述の名前を指定します。1 桁の数字コードを入力した場合には、その数字と対応するIBM提供編集記述名とみなされます。たとえば、数字 5 を入力した場合には、IBM 提供編集記述名QEDIT5とみなされます。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

1 桁の数字コード

削除する編集記述の数字コード(5, 6, 7, 8,または9)を指定します。

編集記述名

削除する編集記述の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

QSYS 指定された編集記述がQSYSライブラリーの中でのみ検索されます。

ライブラリー名

指定した編集記述を検索するライブラリーを指定します。

[トップ](#)

DLTEDTDの例

DLTEDTD EDTD(5)

このコマンドは、システムからユーザー定義の編集記述5を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTEDTD

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

[トップ](#)

ファイル削除 (DLTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル削除(DLTF)コマンドは、システムから1つまたは複数のファイルを削除します。

データベース（物理または論理ファイル）が削除される場合には、ファイルに入っているすべてのメンバーも削除されます。物理ファイルを削除できるのは、論理ファイルがそれに対応していない場合だけです。システム間通信機能(ICF)ファイルが削除される場合には、そのファイルに含まれるすべてのプログラム装置項目も削除されます。削除中のファイルがプログラムによって使用されている（ファイルがオープンされている）場合には、そのファイルは削除されません。

総称名による削除操作は、削除に適格でその総称名をもつすべてのファイルを削除します。削除できないファイルについては、診断メッセージが送信されます。次の理由により、ファイルが削除に不適格となる場合があります。

- 論理ファイルは、その基礎となっている物理ファイルを削除する前に削除しなければなりません。
- SQLビューは、それらの基礎となっている物理ファイル、SQLテーブル、またはSQLビューを削除する前に削除しなければなりません。

制約事項:

- ファイルのオブジェクト存在(*OBJEXIST)およびオブジェクト操作(*OBJOPR)権限が必要です。また、ファイルが入っているライブラリーの読み取り(*READ)権限も必要です。
- 物理ファイルを削除する場合で、論理ファイルがその物理ファイル中のデータを使用している場合には、最初に論理ファイルを削除しなければなりません。
- SQL具体化照会テーブルの選択リストに物理ファイルまたはSQLビューが参照されている場合には、DLTFは許可されません。最初に具体化照会テーブルが削除されなければなりません。
- デバッグ中にDLTFコマンドを入力する場合に、デバッグ開始(STRDBG)コマンドまたはデバッグ変更(CHGDBG)コマンドにUPDPROD(*NO)が指定されている場合には、データを含んでいてプロダクション・ライブラリーの中にある物理ファイルは削除することはできません。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。またこのコマンドは、タイプ*SNAの分散データ管理機能(DDM)ファイルにスレッド・セーフでもなく、SYSTEM(*RMT)またはSYSTEM(*FILETYPE)を指定すると正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *FILETYPE	オプション
RMVCST	制約の除去	*RESTRICT, *REMOVE, *KEEP	オプション

トップ

ファイル (FILE)

これは必須パラメーターです。

削除する1つ以上のファイルを指定します。特定のファイル名または総称ファイル名を指定することができます。

参照制約の親または従属ファイルとして定義済みまたは確立済みのファイルが削除される可能性があります。削除されるファイルが従属ファイルの場合には、次の項目も除去されます。

- 従属ファイルについてのすべての制約関係
- 従属ファイルのすべての外部キーのアクセス・パスおよび外部キー

削除されるファイルが親ファイルの場合には、除去される制約関係を指定するために**制約の除去 (RMVCST)**パラメーターが使用されます。

修飾子1: ファイル

総称名 削除するファイルの総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字とそれに続くアスタリスク(*)からなる文字ストリングとして指定することができます。

名前 削除するファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、ライブラリーQGPLが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。オブジェクト名が指定されている（総称名ではなく）場合には、その名前で見つかった最初のオブジェクトが削除されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGGL      QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

[トップ](#)

システム (SYSTEM)

ファイルをローカル・システムから削除するかあるいはリモート・システムから削除するか、そのいずれかを指定します。

***LCL** ファイルはローカル・システムから削除されます。

***RMT** ファイルはリモート・システムから削除されます。ファイル (FILE)パラメーターにDDMファイルを指定しなければなりません。DDMファイルは、削除されるファイルを識別し、リモート・システムも識別します。

*FILETYPE

FILEパラメーターにDDMファイルが指定されていない場合には、ローカル・システムからファイルが削除されます。FILEパラメーターにDDMファイルが指定されている場合には、リモート・システムからDDMファイルのリモート・ファイル識別コードが削除されます。

[トップ](#)

制約の除去 (RMVCST)

参照制約の親ファイルを削除する時に、従属ファイルの関連セット中で除去される制約関係の数を指定します。

*RESTRICT

制約関係が親ファイルと従属ファイルの間で定義済みまたは確立済みの場合には、親ファイルは削除されず、制約関係は除去されません。従属ファイルの外部キーのアクセス・パスも外部キーも除去されません。

*REMOVE

親ファイルと従属ファイルの間の制約関係は除去されます。従属ファイルの対応する外部キーのアクセス・パス（存在し、共有されていない場合）および外部キーは除去されます。

*KEEP

制約関係はもう確立されていませんが、制約定義は除去されません。従属ファイルの外部キーのアクセス・パスも外部キーも除去されません。

[トップ](#)

DLTFの例

例1: 特定のファイルの削除

```
DLTF FILE(BILLING/ORDERS)
```

このコマンドは、ライブラリーBILLINGのORDERSという名前のファイルを削除します。このファイルは、BILLINGライブラリーで検索されるだけです。

例2: 参照制約の親ファイルの削除

```
DLTF FILE(BILLING/QUERIES) RMVCST(*KEEP)
```

このコマンドは、ライブラリーBILLINGのQUERIESという名前のファイルを削除します。QUERIESファイルは参照制約の親ファイルであるために、設定された参照制約は除去されますが、制約の定義は除去されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DLTF

*ESCAPEメッセージ

CPF0601

&2のファイル&1に対する操作は許可されていない。

CPF0605

&2の装置ファイル&1は、記憶域を解放して保管された。

CPF0607

ファイルが別のジョブによって削除された。

CPF0610

&2のファイル&1が使用可能でない。

CPF0675

&2の装置ファイル&1が使用中である。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF2190

リモート削除または名前変更要求を行うことはできない。

CPF320B

データベース・ファイル&1に対して操作が正しくない。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3219

&2のファイル&1のファイルまたはメンバーを削除することができない。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF323C

QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。

CPF324B

ファイル&1にディクショナリーを割り振ることができない。

CPF3252

マシン・ロックの最大数を超えた。

CPF326A

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF327F

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF3273

ファイルまたはメンバーは、作成、削除または変更されなかった。

トップ

フォント資源の削除 (DLTFNTRSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント資源削除(DLTFNTRSC)コマンドは、指定したライブラリーからフォント資源を削除します。フォント資源が見つかった場合には、それが削除されます。フォント資源が見つからなかった場合には、フォント資源を見つけることができなかったということを示すメッセージがユーザーに送られます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNTRSC	フォント資源	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント資源	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

フォント資源 (FNTRSC)

削除するフォント資源の名前およびライブラリーを指定します。特定のフォント資源または総称フォント資源を指定することができます。いずれのタイプもライブラリー名によって任意に修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フォント資源を削除するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXX QUSRIJS QUSRVXRXMX
QGGL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGGL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMQMDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMQMPROC QUSRBRM QUSRDRARS
QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

考えられる値は次の通りです。

フォント資源名

削除するフォント資源の名前を指定してください。

総称*フォント資源名

削除するフォント資源の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称フォント資源名と同じ接頭部の名前をもつすべてのフォント資源が削除されます。

[トップ](#)

DLTFNTRSCの例

例1:現行ライブラリーのフォント資源の削除

```
DLTFNTRSC    FNTRSC(*CURLIB/FNTRSC1)
```

このコマンドは、フォント資源FNTRSC1が現行ライブラリーに入っている場合は、これを削除します。

例2:すべてのライブラリーのフォント資源の削除

```
DLTFNTRSC    FNTRSC(*ALLUSR/FNTRSC1)
```

このコマンドは、すべてのユーザー・ライブラリーのFNTRSC1という名前のすべてのフォント資源を削除します。Qから始まるライブラリー(QPGLを除く)は検索されません。

例3: FDから始まるフォント資源の削除

DLTFNTRSC FNTRSC(*LIBL/FD*)

このコマンドは、ジョブのライブラリー・リストでFDから始まるすべてのフォント資源を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTFNTRSC

なし

[トップ](#)

フォント・テーブルの削除 (DLTFNTTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント・テーブル削除(DLTFNTTBL)コマンドは、指定されたフォント・テーブルを削除します。

フォント・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、印刷サービス機能(PSF)機能が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNTTBL	フォント・テーブル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: フォント・テーブル	名前, *PHFCS, *HPFCS, *PHCP, *HPCP	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

フォント・テーブル (FNTTBL)

削除するフォント・テーブルを指定します。

単一値

*PHFCS

印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのテーブルが削除されます。

*PHCP

印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが削除されます。

*HPFCS

ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのテーブルが削除されます。

*HPCP

ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが削除されます。

修飾子1: フォント・テーブル

名前 印刷装置常駐から印刷装置常駐へのマッピング・テーブルが削除されます。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを削除する時には、フォント・テーブルの名前を指定しなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

フォント・テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント・テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

DLTFNTTBLの例

DLTFNTTBL FNTTBL(MYLIB/MYFNTTBL)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBからMYFNTTBLという名前の印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント・マッピング・テーブルを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DLTFNTTBL

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries

LPDA

OfficeVision

OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan